

和泉寺跡・府中遺跡

—都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会

和泉寺跡・府中遺跡

—都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会



1 調査地遠景（南から）



2 調査地遠景（北西から）



1 08019-4区自然流路南西部(垂直)



2 08019-4区自然流路南東部(垂直)



3 10001-3区中世上層遺構検出面全景(垂直)



1 08019-4 区
自然流路 031
土器溜まり(東から)



2 08019-4 区
自然流路 031
土器溜まり北西部
(東から)



3 08019-4 区
自然流路 031
土器溜まり南部
(東から)



1 08019-4区自然流路031土器溜まり出土土器



2 08019-4区出土滑石製品

序 文

本書で報告いたします和泉寺跡、府中遺跡は、和泉市の北西部に位置しています。和泉寺跡は、古くから古代寺院跡と想定されてきた遺跡ですし、府中遺跡は、縄文時代から近世に至るまで連綿と人々が生活を営んできた場所です。

このたび、都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業に伴って発掘調査を実施し、弥生時代から古墳時代の多数の土器が出土する自然流路、中世の建物跡や耕作の痕跡など、重要な発見をすることができました。これまでのところ、調査地周辺では弥生時代から古墳時代の集落は見つかっていませんが、多数の土器の出土は、周辺に人々が住んでいたことを示してくれます。中世には、時期によって、同じ場所に住居が作られたり、続いて水田が作られたりするなど、当時の人々が環境にあわせて生活の場所を変える様子がわかる、興味深い成果となりました。

また、今回の調査では、古代寺院に関係する建物などの発見はありませんでしたが、瓦が出土したことによって、寺院の存在を裏付けることができました。今後の調査によって、この地に生きた人々の歴史がよりいっそう明らかにされていくこと、それに伴い、今回の調査成果がより活用されていくことを願っております。

調査にあたりましては、周辺にお住まいの方々をはじめとして、関係各位から多大なご指導、ご協力を賜り、心から感謝しております。今後とも文化財保護行政へのいっそうのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 野口 雅昭

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府都市整備部より依頼を受け、平成 20 年度から平成 23 年度まで実施した、都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業に伴う和泉市府中町四丁目所在和泉寺跡・府中遺跡の発掘調査のうち、平成 20 年度調査および平成 22 年度調査の一部についての報告書である。
2. 発掘調査の期間と担当者は以下のとおりである。

平成 20 年度（調査番号 08019）
平成 20 年 11 月 17 日から平成 21 年 3 月 10 日
大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ 副主査 土屋みづほ

平成 22 年度（調査番号 10001）
平成 22 年 4 月 1 日から 9 月 6 日
大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ 副主査 土屋みづほ

また、遺物整理事業については、平成 20 年度から平成 23 年度にかけて、調査管理グループ主査三宅正浩、副主査藤田道子を担当として実施した。
3. 本調査の写真測量は、平成 20 年度は株式会社フオックス、平成 22 年度は大阪測量株式会社に委託した。撮影フィルムは各社で保管している。
4. 本書で掲載した遺物写真の撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
5. 花粉・植物珪酸体分析は株式会社古環境研究所、堆積物微細堆積相分析および土器胎土分析はパリノ・サーヴェイ株式会社、鉄製品保存処理は JFE テクノリサーチ株式会社に委託した。
6. 出土遺物および記録資料は、大阪府教育委員会で所蔵している。
7. 本書の編集・執筆は土屋が行った。ただし、第 8 章第 2～4 節は、株式会社古環境研究所およびパリノ・サーヴェイ株式会社の報告を、土屋が編集のうえ掲載した。
8. 発掘調査、遺物整理および本書の作成に要した経費は、全額を大阪府都市整備部が負担した。
9. 現地での発掘調査および遺物整理事業にあたっては、下記の機関からご協力を得た。記して感謝します。（順不同）

和泉市教育委員会、淡路市教育委員会、洲本市教育委員会
10. 本報告書は 300 部作成し、一部あたりの単価は 2,468 円である。

凡 例

1. 基準高は、T.P.（東京湾平均海水位）を基準とし、プラス値を使用している。
2. 座標系は、世界測地系により、第 VI 系に準拠している。単位はメートルである。
3. 方位は座標北を示す。調査地点においては、座標北は、磁北より東へ $6^{\circ} 39'$ 、真北より西へ $0^{\circ} 19'$ 振れる。
4. 土層断面図の土色および土器・土製品・瓦の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2001 年版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
5. 遺構平面図の縮尺は、全体図 250 分の 1、部分図 40 分の 1 を基準としているが、一部 150 分の 1、100 分の 1、80 分の 1、20 分の 1 がある。遺物図の縮尺は、土器・瓦が 4 分の 1、石器・石製品・金属製品が 1 分の 1 または 2 分の 1 である。

本文目次

序文

例言

凡例

第1章 調査の経緯・経過と方法

| | |
|--------------|---|
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 発掘作業の経過 | 3 |
| 第3節 整理等作業の経過 | 4 |
| 第4節 調査方法 | 4 |
| 第5節 既往の調査成果 | 6 |

第2章 地理的・歴史的環境

| | |
|-----------|---|
| 第1節 地理的環境 | 8 |
| 第2節 歴史的環境 | 9 |

第3章 08019-1 区の調査成果

| | |
|----------------|----|
| 第1節 基本層序 | 13 |
| 第2節 耕作溝検出面の調査 | 14 |
| 第3節 中世遺構検出面の調査 | 19 |
| 第4節 古代遺構検出面の調査 | 22 |
| 第5節 自然流路の調査 | 24 |
| 第6節 出土遺物 | |
| 第1項 土器 | 26 |
| 第2項 瓦 | 32 |
| 第3項 金属製品 | 33 |

第4章 08019-2 区の調査成果

| | |
|----------|----|
| 第1節 基本層序 | 34 |
| 第2節 出土遺物 | 36 |

第5章 08019-3 区の調査成果

| | |
|----------|----|
| 第1節 基本層序 | 37 |
| 第2節 出土遺物 | |
| 第1項 土器 | 39 |
| 第2項 瓦 | 39 |
| 第3項 金属製品 | 39 |

第6章 08019-4 区の調査成果

| | |
|----------------|----|
| 第1節 基本層序 | 41 |
| 第2節 耕作溝検出面の調査 | 45 |
| 第3節 中世遺構検出面の調査 | 47 |
| 第4節 自然流路の調査 | 59 |

| | |
|-------------------------------|-----|
| 第5節 出土遺物 | |
| 第1項 土器 | 68 |
| 第2項 瓦 | 110 |
| 第3項 石製品 | 111 |
| 第4項 金属製品 | 112 |
| 第7章 10001-3区の調査成果 | |
| 第1節 基本層序 | 114 |
| 第2節 耕作溝検出面の調査 | 118 |
| 第3節 中世上層遺構検出面の調査 | 120 |
| 第4節 中世下層遺構検出面の調査 | 134 |
| 第5節 自然流路の調査 | 139 |
| 第6節 出土遺物 | |
| 第1項 土器 | 142 |
| 第2項 瓦 | 160 |
| 第3項 石器・石製品 | 162 |
| 第4項 金属製品 | 162 |
| 第8章 自然科学分析の成果 | |
| 第1節 分析の目的 | 163 |
| 第2節 花粉・植物珪酸体分析（株式会社古環境研究所） | |
| 第1項 分析の概要 | 165 |
| 第2項 植物珪酸体分析 | 165 |
| 第3項 花粉分析 | 171 |
| 第3節 堆積物微細堆積相分析（パリノ・サーヴェイ株式会社） | 176 |
| 第4節 土器胎土分析（パリノ・サーヴェイ株式会社） | 186 |
| 第9章 総括 | |
| 第1節 遺構の変遷 | 203 |
| 第2節 弥生時代から古墳時代遺物の様相 | 209 |
| 参考文献 | 217 |
| 土器観察表 | 219 |
| 瓦観察表 | 260 |
| 石器・石製品観察表 | 261 |
| 金属製品観察表 | 261 |

挿図目次

| | | | | | |
|-----|--|-------|-----|---|-------|
| 図1 | 調査区配置図（平成5年度大阪府作成 1:2,500地形図に加筆）…………… | 2 | 図33 | 08019-4区建物1平面図・断面図 …………… | 50～51 |
| 図2 | 遺跡範囲の変遷…………… | 3 | 図34 | 08019-4区建物2平面図・断面図 …… | 52 |
| 図3 | 地区割り図…………… | 5 | 図35 | 08019-4区建物3平面図・断面図 …… | 52 |
| 図4 | 調査地位置図（国土地理院1:25,000地形 図「岸和田東部」平成19年6月1日発行に 加筆）…………… | 8 | 図36 | 08019-4区柵1平面図・断面図 …… | 53 |
| 図5 | 和泉寺跡・府中遺跡周辺の主要遺跡 …………… | 11 | 図37 | 08019-4区土坑100平面図・断面図… | 54 |
| 図6 | 08019-1区土層図…………… | 15～16 | 図38 | 08019-4区土坑020～022・24、溝023 平面図・断面図 …… | 55 |
| 図7 | 08019-1区耕作溝検出面全体図…………… | 17 | 図39 | 08019-4区溝007・027・079・099平面 図・断面図 …… | 56 |
| 図8 | 08019-1区溝001・002・060・068 断面図…………… | 18 | 図40 | 08019-4区遺構主軸方向分布図 …… | 58 |
| 図9 | 08019-1区中世遺構検出面全体図…………… | 19 | 図41 | 08019-4区自然流路全体図 …… | 61 |
| 図10 | 08019-1区建物1平面図・断面図 …… | 20 | 図42 | 08019-4区自然流路031土層図 …… | 62 |
| 図11 | 08019-1区柵1平面図・断面図 …… | 21 | 図43 | 08019-4区自然流路031土器出土状況図 (1) …… | 63 |
| 図12 | 08019-1区古代遺構検出面全体図 …… | 22 | 図44 | 08019-4区自然流路031土器出土状況図 (2) …… | 64 |
| 図13 | 08019-1区土坑033平面図・断面図 …………… | 23 | 図45 | 08019-4区自然流路031土器出土状況図 (3) …… | 64 |
| 図14 | 08019-1区溝034平面図・断面図 …… | 23 | 図46 | 08019-4区自然流路031土器溜まり土器 出土状況図 …… | 65～66 |
| 図15 | 08019-1区遺構主軸方向分布図 …… | 23 | 図47 | 08019-4区中世遺構検出面建物・柱穴・ 土坑出土土器 …… | 69 |
| 図16 | 08019-1区自然流路全体図 …… | 25 | 図48 | 08019-4区溝007出土土器 …… | 71 |
| 図17 | 08019-1区耕作溝検出面の土器 …… | 27 | 図49 | 08019-4区溝027出土土器(1) …… | 72 |
| 図18 | 08019-1区中世遺構検出面の土器 …… | 27 | 図50 | 08019-4区溝027出土土器(2) …… | 73 |
| 図19 | 08019-1区試掘調査・包含層出土土器 …………… | 28 | 図51 | 08019-4区溝079・099出土土器…………… | 73 |
| 図20 | 08019-1区自然流路出土土器(1) …… | 30 | 図52 | 08019-4区試掘調査・包含層出土土器 (1) …… | 75 |
| 図21 | 08019-1区自然流路出土土器(2) …… | 31 | 図53 | 08019-4区包含層出土土器(2) …… | 76 |
| 図22 | 08019-1区出土瓦 …… | 32 | 図54 | 08019-4区包含層出土土器(3) …… | 77 |
| 図23 | 08019-1区出土金属製品 …… | 33 | 図55 | 08019-4区自然流路出土土器(1) …… | 78 |
| 図24 | 08019-2区平面図・土層図 …… | 35 | 図56 | 08019-4区自然流路出土土器(2) …… | 79 |
| 図25 | 08019-3区平面図・土層図 …… | 38 | 図57 | 08019-4区自然流路出土土器(3) …… | 81 |
| 図26 | 08019-3区出土土器 …… | 39 | 図58 | 08019-4区自然流路出土土器(4) …… | 82 |
| 図27 | 08019-3区出土瓦 …… | 40 | 図59 | 08019-4区自然流路出土土器(5) …… | 83 |
| 図28 | 08019-3区出土金属製品 …… | 40 | 図60 | 08019-4区自然流路出土土器(6) …… | 84 |
| 図29 | 08019-4区土層図 …… | 43～44 | 図61 | 08019-4区自然流路出土土器(7) …… | 85 |
| 図30 | 08019-4区耕作溝検出面全体図 …… | 46 | 図62 | 08019-4区自然流路出土土器(8) …… | 87 |
| 図31 | 08019-4区溝070・076断面図…………… | 47 | | | |
| 図32 | 08019-4区中世遺構検出面全体図 …… | 49 | | | |

| | | | | | |
|-----|--|---------|------|---|-----|
| 図63 | 08019-4区自然流路出土土器(9) … | 88 | 図87 | 10001-3区中世上層遺構検出面遺構番号 図(1) …………… | 122 |
| 図64 | 08019-4区自然流路出土土器(10) … | 89 | 図88 | 10001-3区中世上層遺構検出面遺構番号 図(2) …………… | 123 |
| 図65 | 08019-4区自然流路出土土器(11) … | 91 | 図89 | 10001-3区建物1平面図・断面図 … | 124 |
| 図66 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(1) …………… | 93 | 図90 | 10001-3区建物2平面図・断面図 … | 125 |
| 図67 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(2) …………… | 94 | 図91 | 10001-3区建物3平面図・断面図 … | 126 |
| 図68 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(3) …………… | 96 | 図92 | 10001-3区建物4平面図・断面図 … | 126 |
| 図69 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(4) …………… | 97 | 図93 | 10001-3区建物5平面図・断面図 … | 127 |
| 図70 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(5) …………… | 98 | 図94 | 10001-3区建物6平面図・断面図 … | 128 |
| 図71 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(6) …………… | 100 | 図95 | 10001-3区建物7、柱穴232平面図・断 面図 …………… | 129 |
| 図72 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(7) …………… | 101 | 図96 | 10001-3区建物8平面図・断面図 … | 129 |
| 図73 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(8) …………… | 103 | 図97 | 10001-3区建物9、土坑271・280平面 図・断面図 …………… | 130 |
| 図74 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(9) …………… | 104 | 図98 | 10001-3区建物10平面図・断面図 …………… | 131 |
| 図75 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(10) …………… | 105 | 図99 | 10001-3区建物11平面図・断面図 …………… | 132 |
| 図76 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(11) …………… | 106 | 図100 | 10001-3区柱穴097～099断面図 …………… | 132 |
| 図77 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(12) …………… | 107 | 図101 | 10001-3区土坑178平面図・断面図 …………… | 133 |
| 図78 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(13) …………… | 108 | 図102 | 10001-3区溝333・334・345、柱穴 346断面図 …………… | 133 |
| 図79 | 08019-4区自然流路031土器溜まり出土 土器(14) …………… | 110 | 図103 | 10001-3区中世下層遺構検出面全体図 …………… | 135 |
| 図80 | 08019-4区出土瓦 …………… | 111 | 図104 | 10001-3区土坑400・410平面図・断面 図 …………… | 136 |
| 図81 | 08019-4区出土石製品 …………… | 111 | 図105 | 10001-3区土坑402平面図・断面図 …………… | 137 |
| 図82 | 08019-4区出土金属製品 …………… | 112 | 図106 | 10001-3区土坑406平面図・断面図 …………… | 137 |
| 図83 | 10001-3区土層図 …………… | 115～116 | 図107 | 10001-3区溝399平面図・断面図 … | 138 |
| 図84 | 10001-3区耕作溝検出面全体図 …………… | 119 | 図108 | 10001-3区遺構主軸方向分布図 … | 138 |
| 図85 | 10001-3区溝026・040・046、ピット 041～045断面図 …………… | 120 | 図109 | 10001-3区自然流路全体図 …………… | 140 |
| 図86 | 10001-3区中世上層遺構検出面全体図 …………… | 121 | 図110 | 10001-3区自然流路土器出土状況図 …………… | 141 |
| | | | 図111 | 10001-3区耕作溝検出面の土器 … | 142 |
| | | | 図112 | 10001-3区中世上層遺構検出面の土器 …………… | 145 |

| | | | | | |
|------|---------------------------------------|-----|------|---|-----|
| 図113 | 10001-3区中世下層遺構検出面の土器 | 147 | 図132 | 08019-1区No.1 地点における花粉ダイ アグラム..... | 174 |
| 図114 | 10001-3区攪乱・包含層出土土器(1) | 148 | 図133 | 花粉・孢子顕微鏡写真..... | 175 |
| 図115 | 10001-3区包含層出土土器(2)... | 148 | 図134 | 調査地点の層相および分析層準... | 177 |
| 図116 | 10001-3区包含層出土土器(3)... | 149 | 図135 | No.1地点の試料およびX線写真... | 178 |
| 図117 | 10001-3区南側自然流路出土土器... | 151 | 図136 | No.2地点の試料およびX線写真... | 179 |
| 図118 | 10001-3区北側自然流路出土土器(1) | 152 | 図137 | 土壌薄片写真..... | 181 |
| 図119 | 10001-3区北側自然流路出土土器(2) | 154 | 図138 | 土壌薄片写真(部分拡大)..... | 182 |
| 図120 | 10001-3区北側自然流路出土土器(3) | 155 | 図139 | 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (1)..... | 192 |
| 図121 | 10001-3区北側自然流路出土土器(4) | 156 | 図140 | 胎土中の砂の粒径組成(1)..... | 192 |
| 図122 | 10001-3区北側自然流路出土土器(5) | 157 | 図141 | 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (2)..... | 193 |
| 図123 | 10001-3区北側自然流路出土土器(6) | 158 | 図142 | 胎土中の砂の粒径組成(2)..... | 193 |
| 図124 | 10001-3区北側自然流路出土土器(7) | 159 | 図143 | 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (3)..... | 194 |
| 図125 | 10001-3区出土瓦..... | 161 | 図144 | 胎土中の砂の粒径組成(3)..... | 194 |
| 図126 | 10001-3区出土石器・石製品..... | 162 | 図145 | 碎屑物・基質・孔隙の割合..... | 195 |
| 図127 | 10001-3区出土金属製品..... | 162 | 図146 | 胎土薄片顕微鏡写真(1)..... | 196 |
| 図128 | 胎土分析試料土器..... | 164 | 図147 | 胎土薄片顕微鏡写真(2)..... | 197 |
| 図129 | 08019-1区No.1 地点における植物珪酸 体分析結果..... | 168 | 図148 | 胎土薄片顕微鏡写真(3)..... | 198 |
| 図130 | 08019-4区No.2 地点における植物珪酸 体分析結果..... | 169 | 図149 | 胎土薄片顕微鏡写真(4)..... | 199 |
| 図131 | 植物珪酸体顕微鏡写真..... | 170 | 図150 | 胎土薄片顕微鏡写真(5)..... | 200 |
| | | | 図151 | 層序柱状図・模式図..... | 205 |
| | | | 図152 | 遺構変遷図..... | 207 |
| | | | 図153 | 遺構主軸方向分布比較図..... | 208 |
| | | | 図154 | 和泉寺跡推定寺域・和泉国府推定域 (昭和36年度大阪府撮影空中写真に加 筆)..... | 208 |
| | | | 図155 | 池上曾根遺跡出土器台..... | 215 |

表目次

| | | | | | |
|----|----------------|-----|-----|---------------------|-----|
| 表1 | 調査区名対応表..... | 3 | 表9 | 胎土分類結果..... | 201 |
| 表2 | 土層名対応表..... | 163 | 表10 | 自然流路出土土器種別組成..... | 211 |
| 表3 | 植物珪酸体分析結果..... | 167 | 表11 | 自然流路出土須恵器器種組成..... | 211 |
| 表4 | 花粉分析結果..... | 172 | 表12 | 自然流路出土土師器器種組成..... | 211 |
| 表5 | 試料一覧..... | 187 | 表13 | 自然流路出土弥生土器器種組成..... | 211 |
| 表6 | 薄片観察結果(1)..... | 189 | 表14 | 自然流路出土土師器高杯の接合技法... | 211 |
| 表7 | 薄片観察結果(2)..... | 190 | 表15 | 自然流路出土弥生形甕の口縁部形態... | 212 |
| 表8 | 薄片観察結果(3)..... | 191 | 表16 | 自然流路出土弥生形甕の外周タタキ... | 212 |

写真目次

| | | | | | |
|-----|-----------------|----|------|-----------------|-----|
| 写真1 | 甕453口縁端部…………… | 86 | 写真8 | 鉢655口縁端部…………… | 109 |
| 写真2 | 器台496口縁部外面…………… | 90 | 写真9 | 器台661口縁部外面…………… | 109 |
| 写真3 | 壺518底部付近…………… | 92 | 写真10 | 器台662口縁部外面…………… | 109 |
| 写真4 | 甕561口縁端部…………… | 98 | 写真11 | 器台662口縁部内面…………… | 109 |
| 写真5 | 甕563口縁端部…………… | 98 | 写真12 | 高杯820脚部内面…………… | 153 |
| 写真6 | 甕572口縁端部…………… | 99 | 写真13 | 甕848口縁端部…………… | 155 |
| 写真7 | 甕572口縁部外面…………… | 99 | 写真14 | 甕855口縁端部…………… | 156 |

図版目次

| | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 巻頭図版1 調査地遠景 | 1 古代遺構検出面南西部（東から） |
| 1 調査地遠景（南から） | 2 古代遺構検出面南部（北西から） |
| 2 調査地遠景（北西から） | 図版4 08019-1区遺構 |
| 巻頭図版2 遺構 | 1 自然流路南西部（垂直） |
| 1 08019-4区自然流路南西部（垂直） | 2 自然流路南東部（垂直） |
| 2 08019-4区自然流路南東部（垂直） | 3 自然流路南東部（北東から） |
| 3 10001-3区中世上層遺構検出面全景（垂直） | 4 自然流路南西部（北東から） |
| 巻頭図版3 遺構 | 5 調査区壁面土層断面（南から） |
| 1 08019-4区自然流路031土器溜まり（東から） | 6 調査区壁面土層断面（北から） |
| 2 08019-4区自然流路031土器溜まり北西部（東から） | 図版5 08019-2区・08019-3区 |
| 3 08019-4区自然流路031土器溜まり南部（東から） | 1 08019-2区完掘状況（北区 南東から） |
| 巻頭図版4 遺物 | 2 08019-2区完掘状況（南区 東から） |
| 1 08019-4区自然流路031土器溜まり出土土器 | 3 08019-2区調査区壁面土層断面（北から） |
| 2 08019-4区出土滑石製品 | 4 08019-3区完掘状況（北区 北西から） |
| 図版1 空中写真・08019-1区遺構 | 5 08019-3区完掘状況（南区 北西から） |
| 1 和泉寺跡・府中遺跡空中写真（昭和36年度大阪府撮影） | 6 08019-3区調査区壁面土層断面（北西から） |
| 2 耕作溝検出面南東部（北から） | 図版6 08019-4区遺構 |
| 3 溝001土層断面（南東から） | 1 耕作溝検出面南東部（北東から） |
| 4 溝068土層断面（北東から） | 2 溝075・076（北東から） |
| 図版2 08019-1区遺構 | 3 溝070土層断面（北東から） |
| 1 中世遺構検出面北西部（南東から） | 4 溝076土層断面（北東から） |
| 2 中世遺構検出面北東部（北西から） | 図版7 08019-4区遺構 |
| 図版3 08019-1区遺構 | 1 中世遺構検出面北西部（南東から） |
| | 2 中世遺構検出面東部（北から） |
| | 図版8 08019-4区遺構 |
| | 1 建物1南西部（南東から） |
| | 2 建物1東部（西から） |
| | 3 建物1柱穴008土層断面（南西から） |

- 4 建物1 柱穴010土層断面（南西から）
 5 建物1 柱穴094土層断面（南東から）
- 図版9 08019-4区遺構
- 1 建物2（北東から）
 2 建物2 柱穴130土層断面（南東から）
 3 建物3（西から）
 4 柵1（南西から）
 5 土坑020～022・024、溝023（南東から）
- 図版10 08019-4区遺構
- 1 自然流路南西部（北東から）
 2 自然流路南東部（北東から）
 3 自然流路031北部土器出土状況
 （北西から）
 4 自然流路031中央部土器出土状況
 （北から）
 5 自然流路031西部土器出土状況
 （西から）
- 図版11 08019-4区遺構
- 1 自然流路031土器溜まり（北東から）
 2 自然流路031土器溜まり中央部
 （北東から）
 3 自然流路031土器溜まり北東部（西から）
 4 調査区壁面土層断面（北東から）
 5 調査区壁面土層断面（北西から）
- 図版12 10001-3区遺構
- 1 耕作溝検出面南部（北東から）
 2 中世上層遺構検出面南部（北東から）
- 図版13 10001-3区遺構
- 1 中世上層遺構検出面東部（北から）
 2 中世上層遺構検出面北西部（北東から）
- 図版14 10001-3区遺構
- 1 中世上層遺構検出面南西部（南西から）
 2 建物1（北東から）
 3 建物2（南から）
 4 建物4（南東から）
 5 建物4 柱穴203土層断面（南から）
- 図版15 10001-3区遺構
- 1 建物5（西から）
 2 建物5 柱穴249土層断面（南から）
 3 建物6（南西から）
 4 建物8（西から）
- 5 建物9～11（北西から）
 6 建物9（北西から）
 7 建物11（南西から）
 8 建物11柱穴309土層断面（東から）
- 図版16 10001-3区遺構
- 1 中世下層遺構検出面北部（北東から）
 2 中世下層遺構検出面南部（北東から）
 3 土坑400・410土層断面（東から）
 4 溝399土層断面
 （上：北東から 下：東から）
- 図版17 10001-3区遺構
- 1 北側自然流路（北東から）
 2 北側自然流路土器出土状況（南から）
 3 北側自然流路土器出土状況（北から）
 4 調査区壁面土層断面（北東から）
 5 調査区壁面土層断面（南西から）
- 図版18 08019-1区出土土器
- 1 ピット040出土土器
 2 包含層・自然流路出土土器
 3 ピット040・包含層・自然流路出土土器
- 図版19 08019-4区出土土器
- 1 建物1・2出土土器
 2 建物1・柱穴106出土土器
- 図版20 08019-4区出土土器
- 1 溝007・027・079・099出土土器
 2 溝007・027出土土器
- 図版21 08019-4区出土土器
- 1 溝007・027・099出土土器
 2 溝007・027出土土器
- 図版22 08019-4区出土土器
- 1 包含層出土土器
 2 包含層・自然流路出土土器
- 図版23 08019-4区出土土器
 自然流路出土土器
- 図版24 08019-4区出土土器
 自然流路出土土器
- 図版25 08019-4区出土土器
 自然流路出土土器
- 図版26 08019-4区出土土器
 自然流路出土土器
- 図版27 08019-4区出土土器

自然流路出土土器
図版28 08019-4区出土土器
自然流路出土土器
図版29 08019-4区出土土器
自然流路出土土器
図版30 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版31 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版32 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版33 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版34 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版35 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版36 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版37 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版38 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版39 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版40 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版41 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器

図版42 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版43 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版44 08019-4区出土土器
自然流路031土器溜まり出土土器
図版45 10001-3区出土土器
1 中世上層遺構検出面遺構出土土器
2 中世下層遺構検出面遺構出土土器
図版46 10001-3区出土土器
1 包含層・南側自然流路出土土器
2 南側自然流路出土土器
図版47 10001-3区出土土器
北側自然流路出土土器
図版48 10001-3区出土土器
北側自然流路出土土器
図版49 10001-3区出土土器
北側自然流路出土土器
図版50 10001-3区出土土器
1 北側自然流路出土土器
2 北側自然流路出土土器
図版51 瓦
08019-1区・08019-3区・10001-3区出土瓦
図版52 石器・石製品・金属製品
1 10001-3区出土石器・石製品
2 08019-3区出土古銭
3 08019-4区出土鉄鋌
4 08019-4区出土鉄鋌X線透過写真

第1章 調査の経緯・経過と方法

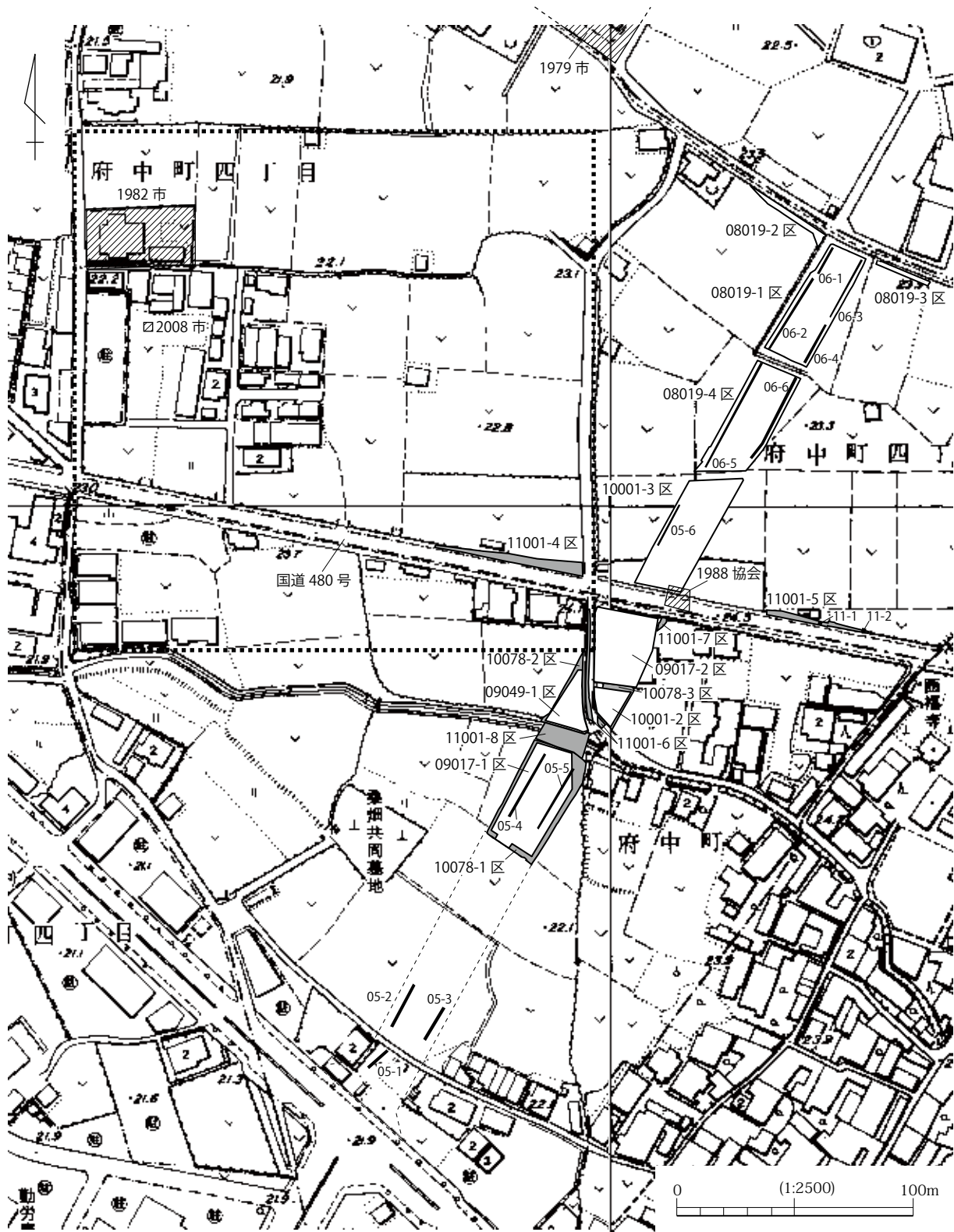
第1節 調査に至る経緯

都市計画道路大阪岸和田南海線は、和泉市を南北に貫く幹線道路であり、主要地方道大阪和泉南線のバイパス道路として整備が進められている。このうち和泉市府中町他に位置する延長978mの府中工区については、府中町四丁目および府中町に位置する市道和泉中央線から国道480号を横断する南側の範囲の整備事業計画が先行して進められることとなった。事業予定地の一部が、古代寺院跡である和泉寺跡および縄文時代から中世の複合遺跡である府中遺跡の範囲に含まれていることから、平成17年度、平成18年度に、事業予定地全域にわたって試掘・確認調査を実施した。平成17年10月12日から10月22日に事業予定地南側に6箇所（05-1～05-6トレンチ）、平成19年1月9日から2月16日に事業予定地北側に6箇所（06-1～06-6トレンチ）のトレンチを設定して調査を実施した（図1）。

試掘・確認調査の結果、平成17年度は、05-1トレンチを除くすべてのトレンチで土師器、須恵器、瓦器等の遺物が出土した。また、05-5・05-6トレンチで包含層を確認し、05-5トレンチでピット、05-6トレンチで溝、土坑等の遺構を検出した。平成18年度は、すべてのトレンチで遺物が出土し、06-5トレンチでピット、溝、土器溜まり等の遺構を検出した。土器溜まりからは弥生時代後期から庄内式併行期の土器が多量に出土した。このうち05-1～05-3トレンチは遺物が出土しないか極わずかであり、地形的には、05-4・05-5トレンチから約10m南西の地点で1mほど下がることから、約200m南方を西流する槇尾川に由来する洪水堆積物と判断した。この地形変換点を境として北側の道路予定地については本調査が必要と判断し、従来遺跡外としていた部分を和泉寺跡および府中遺跡の範囲拡大によって新たに遺跡範囲内とした。範囲拡大にあたっては、和泉市教育委員会と協議のうえ、地形、地割を考慮するとともに、古代の遺物が比較的多く出土した05-4・05-5区周辺については和泉寺跡、弥生時代および中世の遺物が多く出土した国道480号以北については府中遺跡として範囲拡大を行った（図2）。

上記範囲における本調査開始後の平成23年3月には、道路整備にあたって国道480号北側の拡幅が新たに必要となった。その一部が遺跡範囲外であったため試掘調査を実施した（11-1・11-2トレンチ）。その結果両トレンチで弥生土器、土師器が出土し、包含層を確認した。これより本調査が必要と判断し、和泉市教育委員会と協議のうえ、府中遺跡の範囲拡大を行った（図2）。

本調査は平成20年度に開始し、調査方法、道路整備事業の内容変更への対応等について都市整備部と協議を行いながら、平成23年度にかけて実施した。平成20年11月から平成21年3月に4箇所（08019-1～08019-4区）、平成21年9月から平成22年3月に2箇所（09017-1・09017-2区）、平成22年3月から9月に3箇所（09049-1・10001-2・10001-3区）、平成23年2月から7月に8箇所（10078-1～10078-3・11001-4～11001-8区）の調査区について実施した。本書ではこのうち平成20年度実施の08019-1～08019-4区、平成22年度実施の10001-3区について報告する。



- ▨ 既往調査区 (数字は調査年度)
- 試掘・確認トレンチ
- 08019・09017・09049・10001 調査区
- ▣ 10078・11001 調査区
- 道路予定地
- 推定寺域

図1 調査区配置図 (平成5年度大阪府作成 1:2,500 地形図に加筆)

その他の調査区は、平成 24 年度に報告予定である。

なお、平成 20 年度から平成 22 年度の調査区名については、現地調査時と調査翌年度の年報報告時とで異なる名称を用いたものがあるため、報告書作成にあたっては調査番号を付した新たな名称を設定した（表 1）。平成 21 年度、平成 22 年度については、年度内に終了する調査（09017・10001）の開始後に新たな調査の開始が決定しており、これについては新たな調査番号（09049・10078）を設定して調査を実施した。また、いずれも 2 年度にわたって実施することとなったため、一連の調査であっても年度開始時に新たに新年度の調査番号（10001・11001）を設定しているが、調査区名は調査番号を付した通し番号とした。

第 2 節 発掘作業の経過

平成 20 年度は、平成 20 年 11 月 17 日から平成 21 年 3 月 10 日にかけて実施した。調査面積は 2200m²である。掘削作業に伴う排土の置き場確保のため、08019-1・08019-4 区は北西側・南東側に、08019-2・08019-3 区は北東側・南西側に、調査区長軸方向に 2 分して調査を行った。

調査は 08019-1・08019-4 区の北西側から開始した。11 月 17 日に 08019-1 区、11 月 19 日に 08019-4 区の機械掘削を開始し、11 月 20 日に 08019-1 区、11 月 26 日に 08019-4 区の人形掘削を開始した。12 月 15 日に、08019-2・08019-3 区のいずれも南西側の人形掘削を開始し、全調査区について 12 月 19 日にヘリコプターによる空中写真測量を実施した。その後、08019-1・08019-4 区については、下層の包含層の有無等を確認するためトレンチ調査を行い、12 月 20 日に 08019-2・08019-3 区の南西側、12 月 26 日に 08019-1・08019-4 区の北西側の埋め戻しを行った。ただし、08019-4 区については、調査区南西部で検出した庄内式併行期の土器溜まりが調査区外まで続くことを確認したため、道路予定地境界に設置されていた安全柵際まで調査範囲を拡大して土器溜まりの広がりを確認することとし、この周囲のみ埋め戻しを延期した。平成 21 年 1 月 5 日に 08019-1 区南東側、1 月 6 日に 08019-4 区南東側の機械掘削を開始し、1 月 6 日に 08019-1 区、1 月 8 日に 08019-4 区の人形掘削を開始した。また、1 月 7 日に 08019-4 区南西側の土器溜まり部分について、安全柵の倒壊を防止する措置を施した上で、調査範囲の拡張を行い、機械掘削、人形掘削を開始した。この拡張部分については、1 月 28 日に調査を完了した。2 月 17 日に 08019-2 区、2 月 18 日に 08019-3 区のいずれも北東側の人形掘削を開始し、全調査区について 2 月 26 日にヘリコプターによる空中写真測量を実施した。3 月 10 日に現地での全調査を終了した。

表 1 調査区名対応表

| 本報告 | 年報 | 調査時 |
|-----------|---------|---------|
| 08019-1 区 | 北東区 | 北西区・北東区 |
| 08019-2 区 | | 西区 |
| 08019-3 区 | | 東区 |
| 08019-4 区 | 南西区 | 南西区・南東区 |
| 09017-1 区 | 09-01 区 | 南区 |
| 09017-2 区 | 09-02 区 | 北区 |
| 09049-1 区 | | B 区 |
| 10001-2 区 | | C 区 |
| 10001-3 区 | | A 区 |

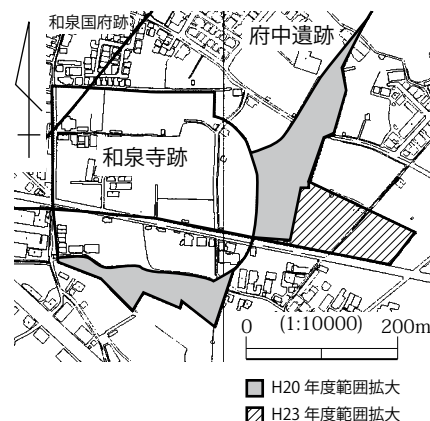


図 2 遺跡範囲の変遷

平成 22 年度は、前年度から引き続き調査番号 10001 の調査を平成 22 年 4 月 1 日から 9 月 6 日にかけて実施した。本書で報告する 10001-3 区の調査面積は 1040m²である。10001-3 区は平成 22 年 5 月 10 日に機械掘削を開始し、5 月 18 日に人力掘削を開始した。7 月 20 日にヘリコプターによる空中写真測量を実施した。後述するように、中世の建物群を多数検出したため、7 月 24 日に現地公開を開催し、あわせて発掘体験も実施した。厳しい暑さの中、約 60 人の方々に参加いただいた。その後、下層遺構検出面の調査、包含層の有無等を確認するための下層トレンチ調査を行い、9 月 6 日に現地での全調査を終了した。

第 3 節 整理等作業の経過

現地での調査と併行し、出土遺物の洗浄等を行った。平成 20 年度、22 年度とも、現地調査終了後に本格的な整理作業を開始し、出土遺物の注記、接合、実測、復元を進めた。遺物写真の撮影は、平成 20 年度出土遺物の一部を平成 22 年度に、その他は平成 23 年度に行った。遺構、遺物の版組、トレースは平成 22 年度から平成 23 年度に、文章の作成は平成 23 年度に行った。

本書で掲載する調査区では、コンテナ 88 箱の遺物が出土している。掲載遺物の選択に際しては、図化の可能なものから、遺構出土のものを優先した。遺構出土遺物、包含層出土遺物とも遺構の時期や包含層の形成時期を示す遺物に重点をおき、他の時期に所属する遺物は特徴的なものを掲載した。また、包含層出土の遺物については、その上面または下面で検出した遺構の時期に関わる場合で、特に、遺構出土遺物からは遺構の時期を限定しにくい場合等に、重点的に掲載した。

08019-1 区、08019-4 区については、自然流路内堆積物の形成過程と土地利用状況を明らかにするために、花粉・植物珪酸体分析および堆積物微細堆積相分析を行うこととし、平成 21 年度に委託した。また、08019-4 区、10001-3 区自然流路から多量に出土した弥生時代後期から庄内式併行期の土器の中に、淡路島周辺に特有とされる特徴をもつものがみとめられたことから、その産地を明らかにするために、土器胎土分析を行うこととした。淡路市教育委員会、洲本市教育委員会に依頼し比較資料を提供いただいたうえで、平成 23 年度に委託した。

第 4 節 調査方法

地区割り 本書で報告する調査区は、大阪府作成の 10,000 分の 1 地形図を基準とすると、以下のように示される。10,000 分の 1 地形図の南西端、X=-192000 m、Y=-88000 m を基点に南北を A～O の 15 分割、東西を 0～8 の 9 分割する南北 6 km、東西 8 km の「第 I 区画」では、「D4」に位置する。第 I 区画を南北、東西とも 4 分割し、南西端を 1、東方向へ順に番号をつけ北東端を 16 とする南北 1.5km、東西 2 km の「第 II 区画」では、「14」に位置する。第 II 区画の北東端を基点に南北を A～O の 15 分割、東西を 1～20 の 20 分割する南北、東西とも 100m の「第 III 区画」では「2A・2B・3A・3B」に位置する。第 III 区画の北東端を基点に a～j の 10 分割、東西を 1～10 の 10 分割する南北、東西とも 10 m の「第 IV 区画」では、「第 III 区画 3A の 1b」を北端、

「第三区画 3B の 4i」を南端、「第三区画 2A の 3f」を東端、「第三区画 3B の 6i」を西端とする範囲におさまる。

遺物の取り上げは、本来、第四区画を基本とするが、調査区の長軸が座標軸に斜交すること、08019-1・08019-4区は長軸方向にそれぞれ2分割して調査を行ったことから、調査区の長軸方向を基準に約10m四方の区画を設定して取り上げを行った。08019-1・08019-4区は、調査区の長軸方向に2分割し、これと直交して北東側から南西側へ向かって10mごとに分割した。08019-1区は、NW1～NW6区、NE1～NE6区の12区画を設定した。08019-4区は、SW1～SW6区、SE1～SE6区を設定し、土器溜まりを検出した拡張部分をSW5拡張区として

計13区画を設定した。10001-3区は、調査区の長軸方向に2分割し、これと直交して南西側から北東側へ向かって10mごとに分割し、E0～E5区、W-1～W4区の計12区画を設定した。また、人力掘削の出土遺物は、これをさらに5m四方に4分割したI～IV区の区画で取り上げた。08019-2区、08019-3区については、北東側・南西側にそれぞれ2分割して調査を行ったため調査範囲が狭小であり、また出土遺物も少量であったため、それぞれ北区、南区に2分割して遺物を取り上げた(図3)。

掘削・記録 現代の盛土、近世以降の作土は機械掘削によって除去し、中世の包含層以下の層は人力で掘削した。ただし、08019-2・08019-3区は重機の搬入が不可能であったため、すべて人力で掘削した。包含層は層ごとに掘削し、前述の区画ごとに遺物の取り上げを行った。層名は、現地調査時は色調や碎屑物等により呼称したが、本書では基本層序の上層から順に層序番号を付して層名とした。なお、調査当初に個別に名称を付した層位についてその後の検討により一連の堆積層と判断した場合は、同一の層序番号に枝番号を付して層名とした。遺構掘削は、半裁または土層観察用の畦を残すことによって土層断面の観察、写真撮影、断面図の作成を行った。ただし、10001-3区中世上層遺構検出面では非常に多くの柱穴を検出したことから、建物を構成する柱穴の詳細な記録作成を優先し、その他については文章や略図による記録にとどめたものもある。遺構出土の遺物は土層観察用畦等を基準に区分けをして層ごとに取り上げ、柱穴に関しては、平面検出中、柱掘方、柱痕跡の出土遺物を分けて取り上げた。ただし、狭小である等の理由により一括して取り上げたものもある。必要に応じて遺物出土状況の撮影、作図を行った。

図化は、08019-1区の中世遺構検出面と自然流路掘削状況、08019-4区の中世遺構検出面一部

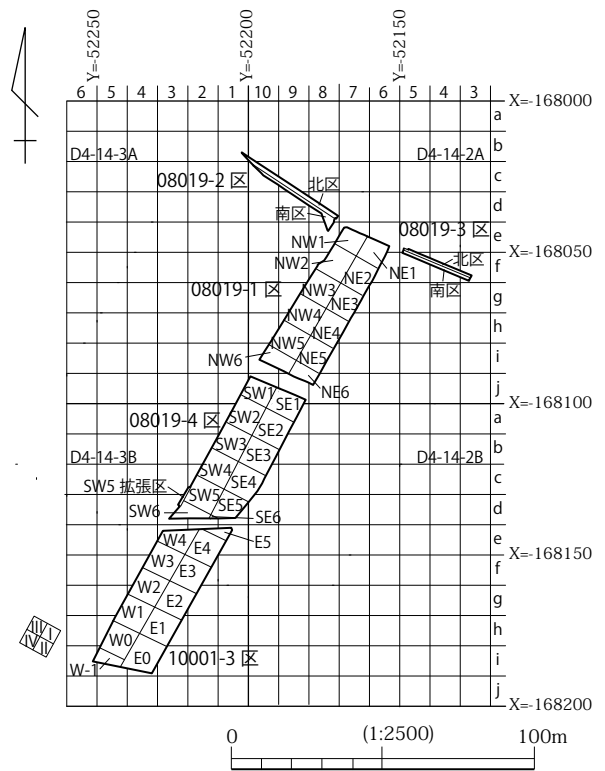


図3 地区割り図

と自然流路掘削状況、08019-2・08019-3 区の完掘状況、10001-3 区の中世上層遺構検出面は、委託により空中写真測量を実施し、20 分の 1 および 100 分の 1 の縮尺で行った。その他の遺構検出面は、調査区内外の 4 級基準点やこれを基に調査区内に設置した基準点を用い、平板または実測基線の設定により縮尺 100 分の 1、50 分の 1 等で図面を作成した。また、遺物出土状況等個別の遺構実測図は縮尺 10 分の 1 で作成し、土層断面図は縮尺 20 分の 1 で作成した。

撮影には、6×7 cm 版および 35mm 版のフィルムカメラを用い、6×7 cm 版は白黒フィルムで、35mm 版は白黒フィルムとカラーリバーサルフィルムで撮影した。6×7 cm 版は遺構検出面の全景や重要な遺構の撮影の際に使用した。

遺構番号 調査番号ごとに、調査区、遺構の検出面、種類に関わらず 3 桁の通し番号を与えた。報告にあたっては、遺構の種類を付して、溝 001 等と表記する。遺構種類のうち柱穴とピットについては、柱痕跡を確認したものを柱穴、確認できなかったものをピットと呼称する。複数の柱穴から構成される掘立柱建物については、柱穴にそれぞれ個別の遺構番号を与え、報告にあたっては、調査区ごとに建物 1、建物 2 と建物にも連番を付した。また、調査時に人為的な遺構と考えて遺構番号を付したもので、後の検討により自然の落ち込み等人為的な遺構ではないと判断したものがあがるが、その遺構番号は欠番とし、他の遺構に与えることはしていない。したがって、遺構番号数と実際の遺構数は一致しない。

自然化学分析 08019-1・08019-4 区の自然流路調査中に、花粉・植物珪酸体分析および堆積物微細堆積相分析を目的として、調査担当者が試料採取を行った。

整理等作業 遺構図、遺物図等のトレースは、10001-3 区出土土器はロットリングにより、その他はすべて Adobe 社の IllustratorCS2 または CS4 を用いた。08019-4 区の自然流路から出土した弥生時代後期から布留式期の土器については、平成 21 年 9 月 4 日・5 日に大阪府教育委員会文化財調査事務所で第 6 回古墳出現期土器研究会を開催し、土器の所属時期や他地域との関連についての検討を行い、多くの教示を得た。

第 5 節 既往の調査成果

和泉寺跡は、白鳳時代から奈良時代の瓦が多く採集されてきたことから古代寺院跡として認識され、周辺の地割から 2 町（約 220 m）四方のほぼ正方位の寺域をもつと推定されてきた。和泉国府跡推定域に隣接するという立地やその規模より、一時は国分寺の役割を担ったとの説、郡領氏族である珍県主の氏寺との説がある等、和泉国における重要な寺院として位置づけられてきた。しかし、和泉寺跡周辺の発掘調査事例は少なく、また、かつては基壇上の高まりが残っていたと伝えられるものの、現在ではその痕跡はみとめられず位置も不明である。そのため、建立時期、伽藍配置、推定寺域の妥当性とも明らかでない。一方、府中遺跡は、5 町または 6 町四方と推定されている和泉国府跡を囲み、南北約 1 km、東西約 1.2km にわたる広大な範囲をもち、発掘調査事例も多い。ここでは、本書で報告する調査地周辺を中心に既往調査成果についてまとめ、平

成 24 年度に報告を予定している調査区の成果についても簡単に触れる。

調査地周辺で実施された発掘調査としては、昭和 54 年度の和泉市教育委員会による推定寺域外北側の調査（図 1—1979 市）、昭和 57 年度の和泉市教育委員会による推定寺域内北西部の調査（1982 市）、昭和 63 年度の財団法人大阪府文化財協会による推定寺域外南東側の調査（1988 協会）、平成 20 年度の和泉市教育委員会による推定寺域内西部の調査（2008 市）がある。

昭和 54 年度の調査では、古墳時代の土坑、落ち込み、奈良時代から中世の掘立柱建物 4 棟、土坑が検出され、包含層から古墳時代から近世にわたる遺物が出土した。包含層からは古代の瓦も出土しており、文字瓦 1 点が見つかったのが注目される。

昭和 57 年度の調査では、遺構は検出されなかったが、包含層から奈良時代の土器、瓦、中世の土器が出土した。

昭和 63 年度の調査では、弥生時代の流路、近世の耕作溝等が検出され、弥生時代中期から近世にわたる遺物が出土した。本書で報告する 10001-3 区の調査では、この昭和 63 年度調査区の北西部を確認し、両調査区の遺構の関係を確認することができた。

平成 20 年度の調査では、奈良時代の溝状遺構 2 条が検出された。溝状遺構 2 条は東西方向にのび、整地層から掘り込まれている。溝状遺構と包含層から、奈良時代の土器、瓦が出土している。この調査成果が、推定寺域内で奈良時代の遺構が確認された唯一の事例である。

以上のように、調査地周辺の既往調査では、弥生時代から近世にわたる遺物の出土がみとめられるものの、調査事例が少なく、遺構の分布状況は明らかでない。和泉国府跡も含めた府中遺跡の全範囲の既往調査をみると、縄文時代中期末から晩期の土坑、弥生時代中期から後期の竪穴住居や方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居、奈良時代の掘立柱建物、中近世の溝等、縄文時代から近世にわたる各時期の遺構が確認されている。こうした府中遺跡全体の調査成果との関連を検討するに足る調査成果の蓄積がないのがこれまでの調査地周辺の状況であることから、今回の一連の調査成果は、重要な成果となると予想された。

本書で報告する以外の調査区の概要は以下の通りである。09017-1・10078-1 区では、奈良時代の土坑、溝、中世の柱穴、耕作溝を検出した。奈良時代の土坑から土師器、須恵器、瓦等が出土し、土坑および包含層から文字瓦 4 点を含む多数の瓦が出土した。09017-2・11001-7 区では、弥生時代後期から古墳時代のピット、弥生時代から古代の自然流路、中世のピット、土坑、近世の溝を検出した。09017-2 区でも奈良時代の文字瓦 1 点が出土している。09049-1・10001-2・10078-2・10078-3・11001-6・11001-8 区では、弥生時代後期から古代の自然流路、古墳時代の柱穴、中世の柱穴、溝、土坑、ピット、自然流路を検出した。11001-4・11001-5 区では、古墳時代頃の柱穴、弥生時代後期から古代の自然流路、中世の柱穴、耕作溝を検出した。以上の調査概要は、各調査年度の翌年度に、大阪府教育委員会発行『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』で報告している。また、計 5 点出土した文字瓦については、和泉寺跡に関わる重要な成果として、平成 22 年 3 月に報道提供を行い、『年報 14』で資料紹介を行った。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

和泉寺跡、府中遺跡の所在する和泉地域は、和歌山県との境となる和泉山脈と、その西方の丘陵地帯、それに連続する洪積段丘、海岸線までの沖積平野から成る。和泉山脈は、標高 800 m 前後と比較的なだらかで、領家花崗岩類、泉南酸性火砕岩類を基盤層に、礫岩、砂岩、泥岩が堆積している。丘陵地帯は、礫岩、砂岩、泥岩が互層を成す大阪層群によって形成される。和泉山脈を水源とするいくつかの河川がこの丘陵地帯を西流して大阪湾へと注いでおり、和泉地域はこれらの河川によって分断されている。丘陵地帯の縁辺には、この中小河川に沿って河岸段丘が広がっており、高位段丘、中位段丘、低位段丘に分かれる。和泉地域で主に発達しているのは中位段丘で、高位段丘、低位段丘は部分的にしかみとめられない。沖積平野は大阪湾沿岸および河川沿いにみとめられるが、分布範囲は狭い。

和泉寺跡、府中遺跡は、和泉市北西部、南東から北西へ蛇行しながら流れる槇尾川の右岸に位置し、中位～低位段丘上に広がっている（図4）。槇尾川も丘陵地帯を西流する河川のひとつであり、南側を流れる松尾川、牛滝川と合流し、大津川となって大阪湾へ注ぐ。調査地の標高は 23 m 前後である。調査地周辺の地形はほぼ平坦であるが、約 500 m 南方を流れる槇尾川周辺では、槇尾川へ向かって北から南へ緩やかに下降する地形となっている。槇尾川は現在では流路が固定

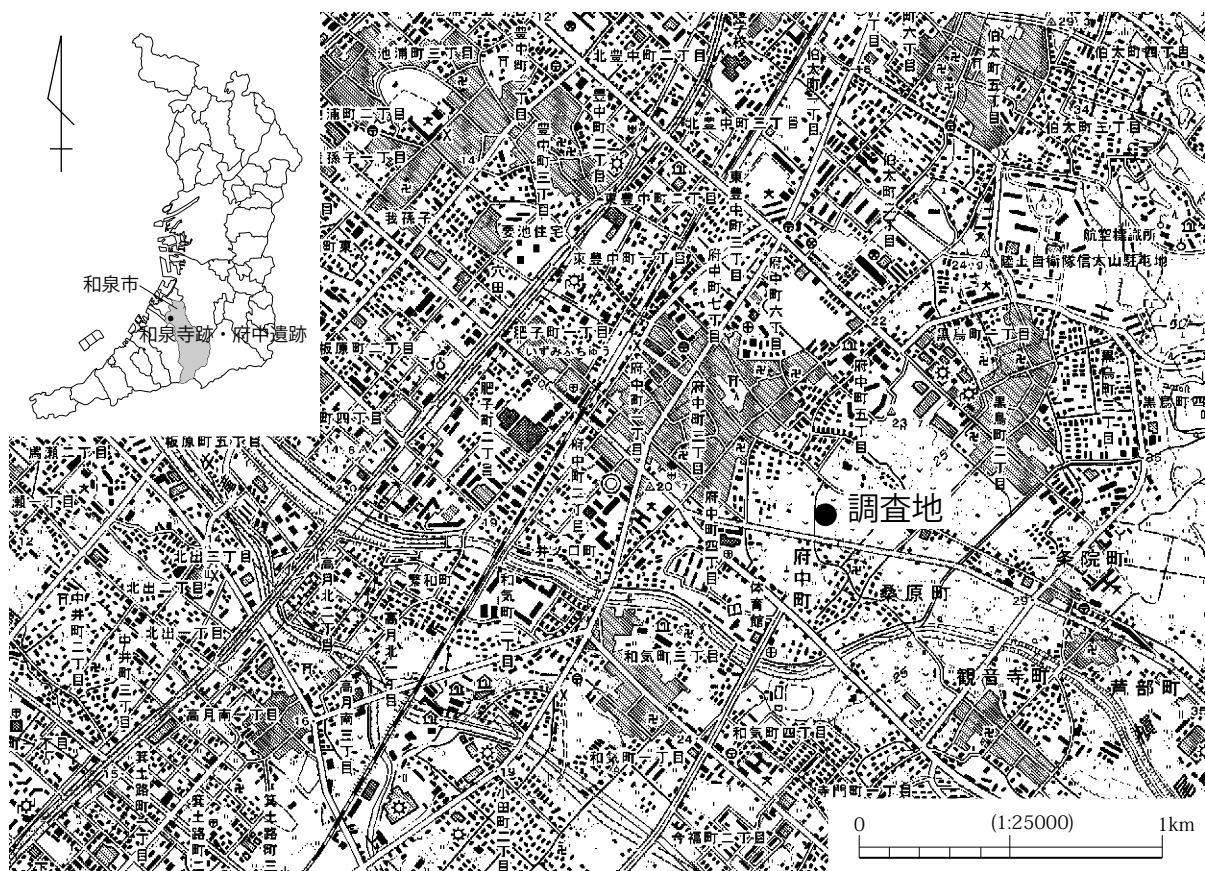


図4 調査地位置図（国土地理院 1:25,000 地形図「岸和田東部」平成 19 年 6 月 1 日発行に加筆）

されているが、近年までしばしば氾濫をおこしていたと伝えられている。今回の調査でも旧河川に由来すると考えられる洪水堆積層を、部分的にはあるが確認している。

第2節 歴史的環境

和泉寺跡、府中遺跡の歴史的環境について、周辺市域も含め、大津川流域を中心に概観する。本書で報告する調査で遺物、遺構が顕著である弥生時代以降を中心にみていく。以下、本文中の遺跡名に付した番号は図5に対応する。

旧石器時代 和気遺跡(25)で翼状剥片が、大床遺跡、伯太北遺跡(6)、万町北遺跡、観音寺山遺跡(29)、上フジ遺跡、西山遺跡等で国府型ナイフ形石器が見つまっている。遺構は確認されておらず、遺物も後世の攪乱を受けた状況で出土するものが多いが、遺物の分布より丘陵上や高位段丘上、中位段丘上等比較的高域に遺跡が立地しているものと推定できる。

縄文時代 草創期では、伯太北遺跡、万町北遺跡、三田遺跡等では有舌尖頭器が出土しているが、遺構は確認されていない。早期も詳細な様相は明らかでなく、仏並遺跡で土器が出土しているのが数少ない例である。前期では、仏並遺跡、池田寺遺跡(46)、小田遺跡(35)で土器が出土しているが、遺構については明らかでない。

中期になると、仏並遺跡では後期前半まで存続する竪穴住居や土器棺墓が、府中遺跡(2)では中期末の土坑が検出されている。また、小田遺跡、万町北遺跡等でも土器が出土している。特に中期末には、遺跡数の増加と低域への展開が顕著であり、土器の散発的な出土にとどまる前期以前と比べると、遺構の様相が明瞭となる。

後期には、仏並遺跡で中期から遺構が存続する。府中遺跡、池田寺遺跡、池上曾根遺跡(3)万町北遺跡、軽部池西遺跡(37)、山ノ内遺跡(38)、高位段丘上に立地する山直中遺跡等で土器が出土しており、遺跡数のさらなる増加と生活域の拡大がみとめられる。

晩期には、仏並遺跡、府中遺跡、池上曾根遺跡、万町北遺跡、山ノ内遺跡、山直中遺跡で引き続き土器が出土する。小田遺跡でも土器の出土がみとめられる。後期と比べると遺跡数が減少し、遺構の様相もやや不明瞭となるが、立地の多様性は引き継がれている。

弥生時代 大津川流域で最古の弥生時代集落遺跡は、下流域右岸に位置する池浦遺跡で、前期中葉の溝が確認されている。前期後葉には、同じく下流域右岸に、環濠をもつ大集落である池上曾根遺跡が現れ、竪穴住居や方形周溝墓が検出されている。また、虫取遺跡でも前期後葉から中期前葉の溝、土坑等が検出されており、田治米宮内遺跡でも前期後葉の土器が出土している。これまで確認されている前期の遺跡は少数ではあるが、低位段丘や沖積平野等低域に立地する傾向がみとめられる。

中期前葉には、池浦遺跡、虫取遺跡は廃絶するが、池上曾根遺跡では集落域の拡大がみとめられる。府中遺跡でも中期前葉の土器が出土しているが、遺構の様相は明らかでない。中期中葉には、池上曾根遺跡においてさらなる集落域の拡大がみとめられ、中期後葉には最盛期を迎える。また、

中期後葉には、府中遺跡、槇尾川中流域の万町北遺跡、池田下遺跡（44）で竪穴住居や方形周溝墓が検出されており、松尾川右岸の寺田遺跡（30）、左岸の軽部池遺跡（34）でも竪穴住居が確認されている。また、槇尾川と松尾川に挟まれた和気遺跡でも土坑等が検出されており、小田遺跡、山ノ内遺跡、田治米宮内遺跡等でも中期の土器が出土している。以上のように、中期の特に後葉には遺跡の増加が顕著で、集落の立地も、主として低域に立地する前期と比較すると、多様な立地に展開する様相がみとめられる。

後期になると、池上曾根遺跡では、環濠の機能が失われて居住域が分散化し、中期に営まれていた他の集落遺跡も、その多くが縮小、廃絶に至る。その中で、府中遺跡、万町北遺跡、小田遺跡等では引き続き遺構が検出されており、特に府中遺跡では、大規模な方形周溝墓が確認されるようになる。一方、丘陵上には、観音寺山遺跡、惣ヶ池遺跡（12）が現れ、竪穴住居が検出されている。いずれも広義の高地性集落で、観音寺山遺跡では、117基もの竪穴住居が確認されている。後期後葉には、今木遺跡、軽部池西遺跡、山ノ内遺跡、西大路遺跡で竪穴住居が検出されており、再び低域への集落の展開がみとめられる。

以上のように、大津川流域における弥生時代の集落の様相は、前期には低域に集落が営まれ、中期の特に後葉に広域にわたる集落の展開と増加がみとめられる。後期には、池上曾根遺跡等中期の大集落が規模を縮小する一方、丘陵上に高地性集落が現れ、後期後葉には再び低域にも中小集落が形成される、という展開を示す。

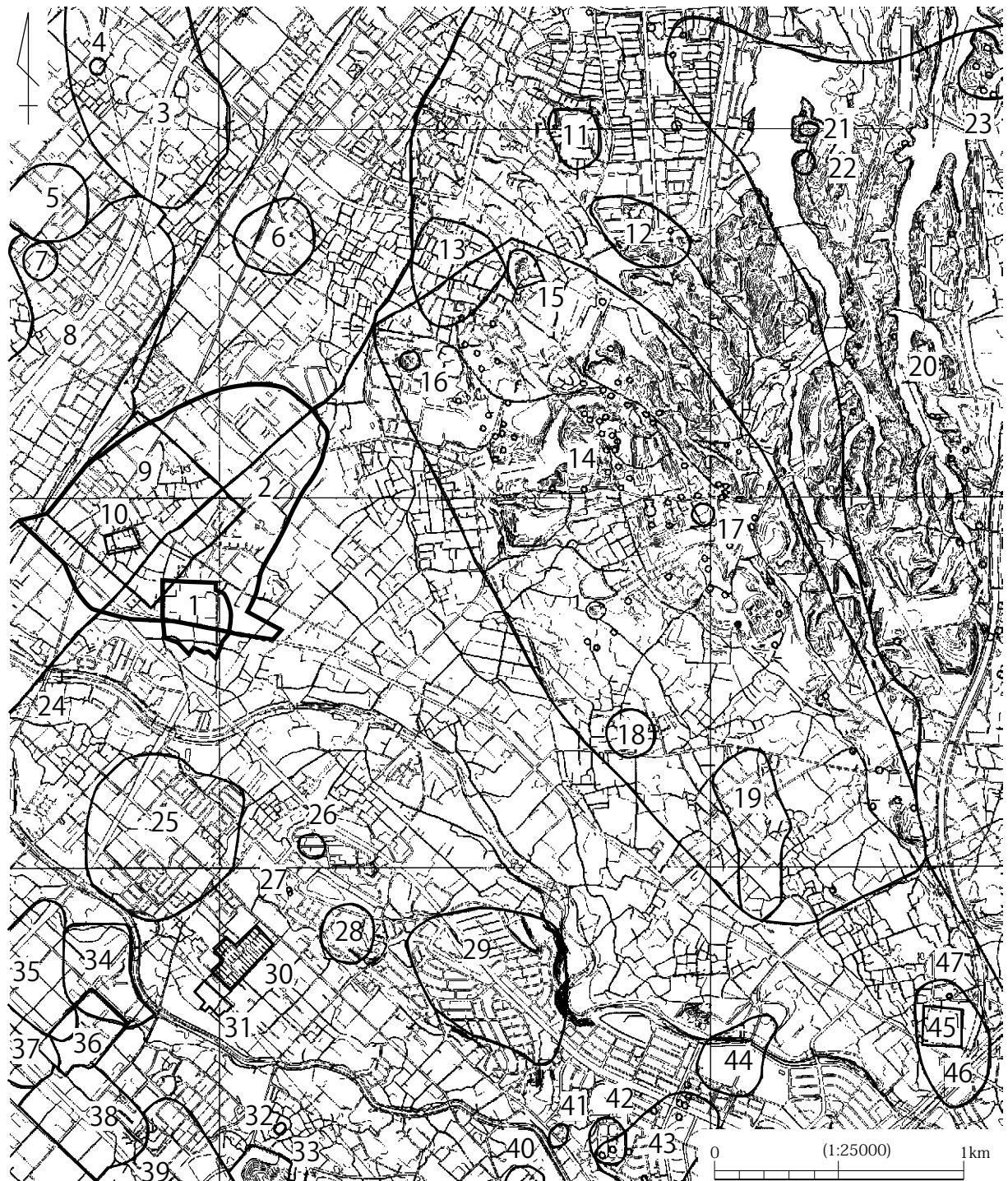
古墳時代 庄内式併行期には、高地性集落が廃絶する一方、府中遺跡や隣接する豊中遺跡（8）では引き続き集落が営まれる。また、和気遺跡、上町遺跡、七ノ坪遺跡（5）でも竪穴住居等が検出されており、寺田遺跡でも、庄内式併行期から古墳時代前期頃の掘立柱建物が確認されている。

前期には、府中遺跡、和気遺跡、豊中遺跡、七ノ坪遺跡、寺田遺跡、小田遺跡、田治米宮内遺跡、西大路遺跡等が庄内式併行期から存続する。また、三田遺跡では多数の土壙墓が確認されている。前期後葉には、松尾川左岸の丘陵端に位置する摩湯山古墳（33）、和泉丘陵北端の和泉黄金塚古墳、久米田の貝吹山古墳と、前方後円墳が築造される。

中期には、府中遺跡、和気遺跡、寺田遺跡、小田遺跡、田治米宮内遺跡、西大路遺跡等で引き続き集落が営まれ、寺田遺跡、田治米宮内遺跡は後期にかけて盛行期となる。中期後半には、山直北遺跡で竪穴住居が検出されている。久米田古墳群では風吹山古墳等が築造される。また、陶邑窯跡群で須恵器生産が開始され、集落遺跡でも出土土器の多くを須恵器が占めるようになっていく。

後期には、寺田遺跡等が中期から存続する。後期後半には、万町北遺跡、二俣池北遺跡、上フジ遺跡等で竪穴住居が検出されており、新たな集落遺跡が現れる。また、群集墳が多く築かれるようになる。

飛鳥時代～奈良時代 飛鳥時代には、万町北遺跡、二俣池北遺跡が存続する。池田寺遺跡、水込



- | | | | | | | |
|------------------|---------------|-------------|-----------|----------|---------------|-----------------|
| 1 和泉寺跡 | 2 府中遺跡 | 3 池上曾根遺跡 | 4 曾根城跡 | 5 七ノ坪遺跡 | 6 伯太北遺跡 | 7 大福寺跡 |
| 8 豊中遺跡 | 9 和泉国府跡 | 10 国府城跡 | 11 聖神社遺跡 | 12 惣ヶ池遺跡 | 13 伯太藩陣屋跡 | 14 信太千塚古墳群 |
| 15 丸笠山古墳 | 16 王塚古墳 | 17 黒鳥山莊遺跡 | 18 坂本寺跡 | 19 願成遺跡 | 20 陶邑窯跡群大野池地区 | |
| 21 大野池遺跡(北地区) | 22 大野池遺跡(南地区) | 23 山田古墳群 | 24 熊野街道 | 25 和気遺跡 | 26 観音寺城跡 | |
| 27 狐塚古墳 | 28 寺門古墳群 | 29 観音寺山遺跡 | 30 寺田遺跡 | 31 摩湯北遺跡 | 32 イナリ古墳 | 33 摩湯山古墳 |
| 34 軽部池遺跡 | 35 小田遺跡 | 36 軽部池 | 37 軽部池西遺跡 | 38 山ノ内遺跡 | 39 山県北遺跡 | 40 和泉丘陵 A1 地点遺跡 |
| 41 和泉丘陵 A87 地点遺跡 | 42 池田山遺跡 | 43 唐国池田山古墳群 | 44 池田下遺跡 | 45 池田寺跡 | 46 池田寺遺跡 | 47 池田寺瓦窯 |

図5 和泉寺跡・府中遺跡周辺の主要遺跡

遺跡でも集落が形成されるが、古墳時代後期と比較すると希薄となる。奈良時代には、7世紀から存続する集落遺跡に加え、府中遺跡、板原遺跡、小田遺跡、山直北遺跡、三田遺跡、上フジ遺跡等でも集落が形成され、遺跡の増加がみとめられる。万町北遺跡では、竪穴住居や掘立柱建物が検出されており、硯、墨書土器等特徴的な遺物の出土が注目される。

この時期に建立されたとみられる古代寺院には、信太寺跡、和泉寺跡（1）、坂本寺跡（18）、池田寺跡（45）、和泉国分寺跡等がある。信太寺跡は信太山丘陵の北端部に位置し、磚積基壇が検出されている。7世紀後半に建立された信太首の氏寺と考えられている。和泉寺跡、坂本寺跡、池田寺跡、和泉国分寺跡は、槇尾川流域に位置しており、前3者はいずれも右岸に約2kmの間隔をおいて位置している。和泉寺跡西方には南北方向の熊野街道（24）が、槇尾川流域には河内国南部へ続く東西方向の街道があり、寺院建立にあたり、街道との位置関係が選地の重要な要素であったことがうかがえる。和泉寺跡は、出土瓦から7世紀後半頃の建立と推定されているものの、伽藍配置等詳細が明らかでない。坂本寺跡は、塔、講堂等が調査されており、法起寺式伽藍配置であることが明らかとなっている。7世紀中葉に建立された坂本臣の氏寺と考えられている。池田寺跡は、伽藍配置は明らかでないが、8世紀頃の瓦窯や7～9世紀の掘立柱建物が検出されており、7世紀後半に建立された池田首の氏寺と考えられている。和泉国分寺跡は調査がほとんどなされておらず詳細は明らかでない。『続日本後紀』に承和6年（839）に和泉郡の安楽寺が和泉国分寺とされたと記されており、これ以前には和泉寺跡が国分寺の役割を担ったとの説もある。

また、当初は河内国に含まれていた和泉地方であるが、霊龜2年（716）、大鳥、和泉、日根の3郡を割いて「和泉鑑」が設けられる。天平12年（740）に再び河内国に併合されるが、天平宝字元年（757）には、河内国から大鳥、和泉、日根の3郡が分かれて和泉国が設置される。和泉国府跡（9）は和泉国の国衙と考えられているが、既往の調査では、国衙に関係する明確な遺構は見つかっていない。

平安時代 池田寺遺跡、万町北遺跡、二俣池北遺跡、水込遺跡、山直北遺跡、三田遺跡、上フジ遺跡等が奈良時代から存続し、和気遺跡、山直中遺跡でも集落が現れる。万町北遺跡では、「大同5年」（810）と記された木簡が出土しているのが注目される。

中世 和気遺跡、二俣池北遺跡、水込遺跡、山直中遺跡等で引き続き集落が営まれ、池田寺遺跡でも集落跡が見つかっている。また、万町遺跡では、14世紀前半の土坑墓や15～16世紀の火葬墓、土坑墓が検出されている。本書で報告する調査でも、府中遺跡の東端で中世の集落跡が検出された。

また、軽部池西遺跡、二俣池北遺跡では水田が、和気遺跡等では条里制に則った区画溝が確認されており、生産関連遺構もみとめられる。和泉郡域の条里制は、海岸線に平行する方向、N-46°-Eの傾きをもっており、中世以降、この条里制に則る畦畔や溝の検出例が顕著となる。本書で報告する調査でも、府中遺跡の東端で水田耕作に関わる遺構を検出した。

第3章 08019-1 区の調査成果

第1節 基本層序（図6、図版4—5・6）

層序は、上層から順に現代の作土である黒灰～灰色土（第1層、層厚0.1～0.4 m）、現代の床土である黄褐～明褐色土（第2層、層厚0.05～0.15 m）、中世以降の包含層である褐灰色または黄褐色砂シルト（第3A～3D層、層厚3A：0.1～0.2 m、3B：0.1～0.25 m、3C：0.05～0.2 m、3D：0.05～0.15 m）、中世以降の包含層である黄褐色砂シルト（第4層、層厚0.05～0.1 m）、中世の包含層である暗褐色粘シルト（第5層、層厚0.05～0.15 m）、古代～中世の包含層である黄灰色または黄褐色または褐灰色粘シルト（第6A～6C層、層厚6A：0.05～0.6 m、6B：0.05 m、6C：0.05～0.3 m）、弥生時代後期～古墳時代の包含層であるにぶい黄褐色粘シルト（第7層、層厚0.1～0.45 m）、弥生時代後期～古墳時代の包含層である灰黄褐色中～粗砂（第8層、層厚0.1～0.5 m）、極少量の遺物を含む礫混じり褐色粗砂（第9層、層厚1 m以上）である。

第1層、第2層は、道路整備予定地となる以前の作土および床土で、層厚の差はあるが、調査区のほぼ全域に分布する。第1層上面の高さは22.9～23.0 mで、調査区内における高低差は少ない。第1層下面の高さは北部のみ22.6～22.7 mと低く、その他は22.8～22.9 mである。第2層下面の高さは第1層と同様北部のみ22.5～22.7 mと低く、その他は22.7～22.8 mである。北部は、調査区北西壁面の土層観察により、第1層、第2層下面が大きく落ち込む箇所が確認でき、この部分のみ下層の第3層がみとめられないことから、現代の耕作により削られたものと判断できる。

第3層は、色調により4層に細別したが、碎屑物等その他の特徴は類似し、出土遺物の時期差もみられない。層厚の差はあるが、調査区北西部を除く範囲に広く分布する。第3層下面の高さは最も高い北東部では22.6 m、層厚0.15 mで、南側へ向かって下がるとともに層厚が厚くなる。最も低い南西部で22.3 m、層厚0.6 mで、そこから南へ向かってやや上がり、南端部で22.7 m、層厚0.1 mである。第4層は、分布範囲は第3層とほぼ一致するが、層厚が薄いため明瞭に確認できない箇所も多く、断続的にみとめられる。第4層下面の高さは、最も高い北東部では22.6 mで、南側へ向かって下がり、最も低い南西部で22.3 m、そこから南側へ向かってやや上がり、南端部で22.5 mとなって途絶える。第4層上面では、中世以降の耕作に伴う溝群を検出しており、第3層は水田作土、第4層はこれに伴う床土と考えられる。第3層、第4層は弥生時代から中世の遺物を含み、中世を主体とする。下層出土遺物等より形成時期は13世紀以降と推定できるが、下限は明らかにし得ず、近世まで下る可能性がある。

第5層は、調査区北部のみに分布する。第5層下面の高さは最も高い北部で22.6 m、南側へ向かって下がり、最も低い箇所で22.4 mである。第5層上面では、12～13世紀頃と考えられる建物、柵、柱穴、ピットを検出した。第5層は弥生時代から中世の遺物を含み、中世を主体とする。形成時期は12世紀中葉～後葉頃と考えられる。

第6層は、色調により3層に細別したが、碎屑物等その他の特徴は類似し、出土遺物の時期差もみられない。層厚の差はあるが、調査区北部および南端部を除く範囲に広く分布する。第6層下面の高さは最も高い北東部では22.5 m、層厚0.05～0.1 mで、南側へ向かって下がり、22.1 m、層厚0.3 mになる。その南側で22.3～22.4 m程度に上がってやや途切れた後、再び南側へ向かって下がるとともに層厚が厚くなり、最も低い南部で21.8 m、層厚0.6 mで、そこから南へ向かって急激に上がり、南端部で22.4 m、層厚0.1 mとなって途絶える。第6層は、流入した洪水堆積物を母材とした水田作土と考えられる。第6層は弥生時代から中世の遺物を含み、古墳時代から古代の遺物が多い。下層出土遺物等より形成時期および水田耕作の時期は古代～中世と推定できる。

第7層は、調査区南部にのみ分布する。第7層下面の高さは分布範囲の北端および南端でそれぞれ21.9～22.1 m、22.0 mと高く、中央部では21.5 mと低く層厚0.4 mと厚い。第7層は流入した洪水堆積物と考えられ、上面では古代と考えられる土坑、溝、ピットを検出した。第7層は弥生時代から古墳時代の遺物を含み、形成時期は弥生時代後期～古墳時代と推定できる。

第8層は、調査区北西部および南部に分布する。第8層下面の高さは、北西部では、最も高い北部で22.5 m、層厚0.1 mで、南側へ向かって下がり、22.2 m、層厚0.3 mになった後、22.4 m程度に上がって途切れる。南部では、22.1 m、層厚0.05 mから南側へ向かって下がるとともに層厚が厚くなり、21.8 m、層厚0.5 mとなる。そこから南では断続的に分布し、調査区南端部では、下面の高さが22.3 mとやや上がる。第8層は、洪水堆積物と考えられる。第8層は弥生時代から古墳時代の遺物を含み、形成時期は弥生時代後期～古墳時代と推定できる。

第9層は、調査区全域に分布する。中～大礫混じり褐色粗砂層を主体とし、褐色シルト層を部分的に含む。下層確認調査により層厚1 m以上であることを確認したが、下面を確認することはできなかった。第9層は、活発な堆積作用による洪水堆積物と考えられる。第9層上面では自然流路の痕跡を検出した。第9層は弥生時代の遺物を極少量含む。第8層の推定形成時期を考慮し、第9層の形成時期は弥生時代後期以前と推定できるが、形成に要した時期幅は明らかでない。

以上のように、08019-1区では、3面の遺構検出面を確認した。第3層を除去した第4層上面では、中世以降の耕作に伴う溝群を検出した。第4層を除去した第5層上面では、12～13世紀と考えられる建物、柵、柱穴、ピットを検出した。第6層を除去した第7層上面では、古代と考えられる土坑、溝、ピットを検出した。以下ではこれらの遺構検出面を、順に「耕作溝検出面」「中世遺構検出面」「古代遺構検出面」と呼称する。また、遺構として確認はできなかったものの、「古代遺構検出面」直上に堆積する第6層は水田作土と推定され、人為的遺構ではないが、第9層上面では自然流路の痕跡を検出した。

第2節 耕作溝検出面の調査(図7・8、図版1—2～4)

基本層序第4層上面で検出した。遺構は溝のみで、調査区の北西部および南東部で確認してい

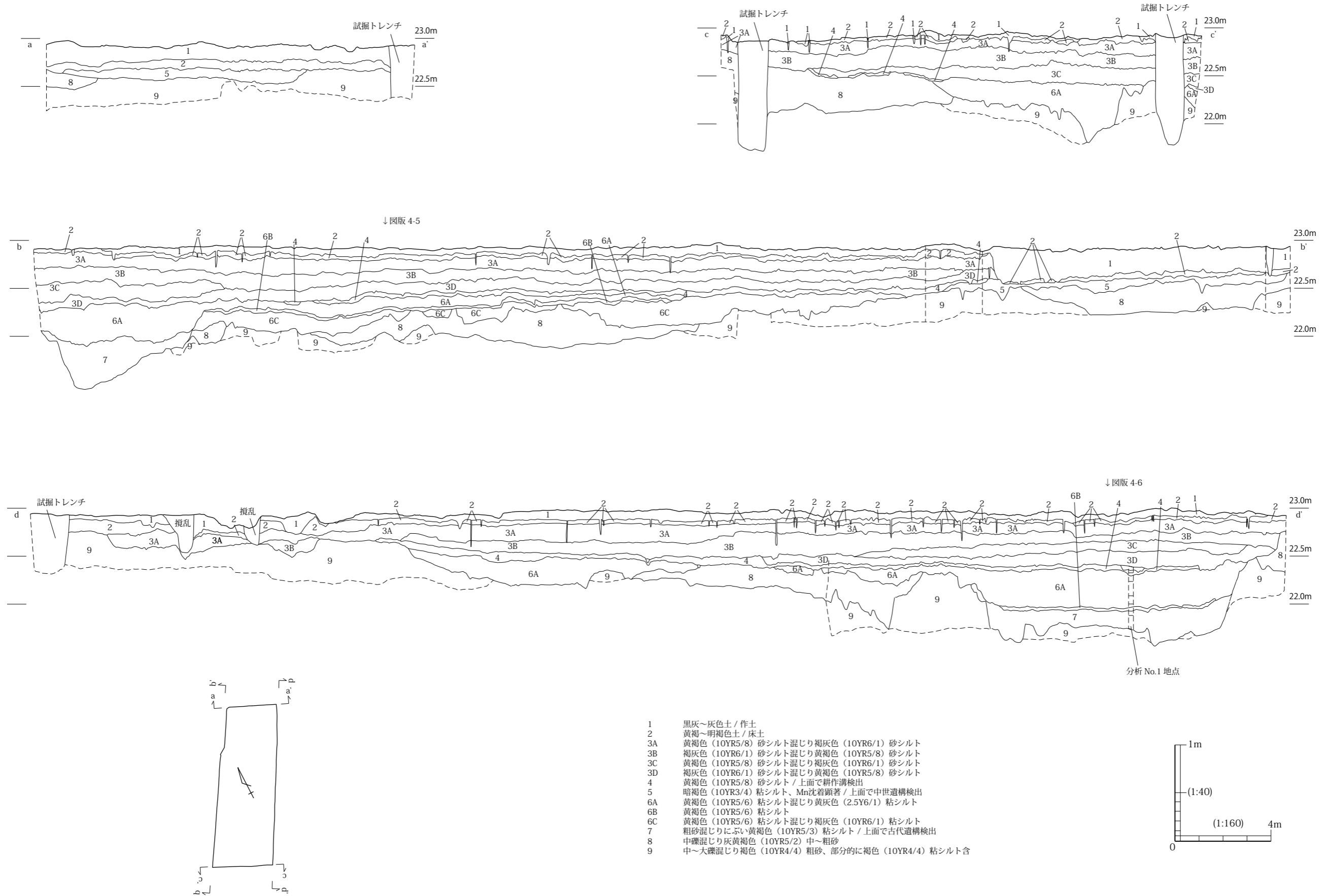


図6 08019-1 区土層図

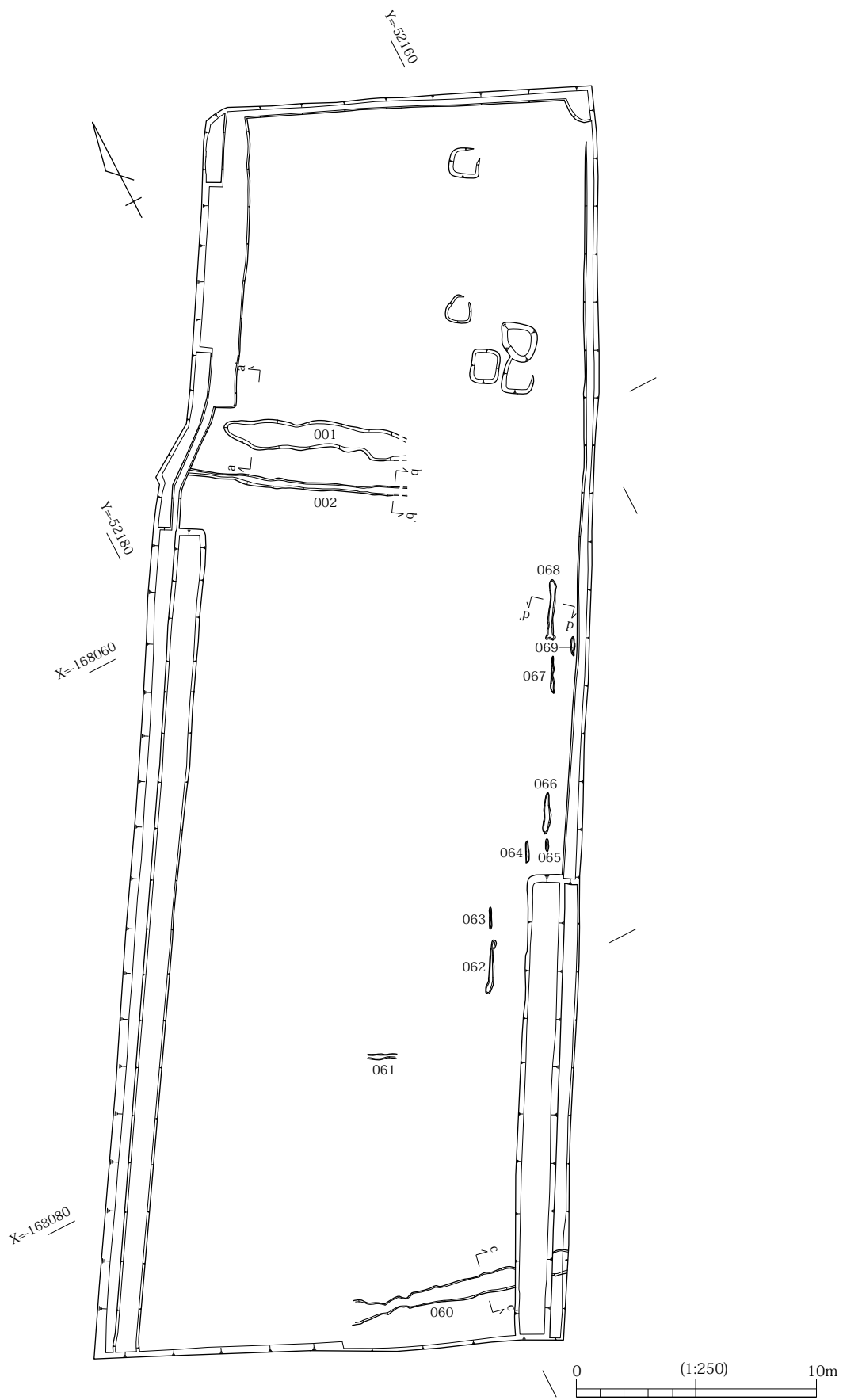


图7 08019-1区耕作沟检出面全体图

る。

溝は12条検出した。北西—南東方向の溝001・002・060・061、北東—南西方向の062～069に大きく分かれる。前者の主軸方向は、溝001・002がN—58°—W、溝060がN—76°—W、溝061がN—65°—Wである。後者の主軸方向は、溝062がN—30°—E、溝063～065がN—26°—E、溝066・068がN—31°—E、溝067・069がN—28°—Eである。前者の分布範囲はN—58～76°—W、後者の分布範囲はN—26～31°—Eで、特に北東—南西方向の溝群にまとまりが強い。

溝の最大幅は、溝001が1.2m、溝002が0.5m、溝060が1.0mとやや広く、他の溝061～069は0.15～0.3mである。深さは溝001・002が0.1m、溝060～069は0.02～0.05mである。

埋土は、溝001が褐灰色砂シルト、溝002が黄褐色粘シルト、溝060～069が黄灰色砂シルトで、いずれも遺構検出面直上層の基本層序第3層に類似する。

遺物は溝001から瓦器、須恵器、土師器、瓦が、溝002・066から瓦器、須恵器、土師器が、溝060・062～065・068から瓦器、土師器が出土した。いずれも小片で、図化できたものは3点である(遺物番号1～3に該当、以下同様に表示)。出土遺物は、12～13世紀頃に位置づけられる。

これらの溝は、いずれも耕作に伴う溝と考えられ、幅の狭い溝061～069は鋤溝の可能性が高い。溝060の約2m北側では、調査区壁面でこの面に伴う溝状遺構を確認しており、遺構埋土の植物珪酸体分析によりイネが多量に検出されている。また、この面の溝群の埋土は、遺構検出面直上層の基本層序第3層に類似している。この第3層は、堆積物微細堆積層分析および植物珪酸体分析により水田作土と判断された08019-4区の基本層序第3層に類似する。以上より、第3層は水田作土、第4層はこれに伴う床土と考えられ、これらの溝は水田耕作に伴うものと判断できる。作土層である第3層、検出面ベース層である第4層が13～16世紀の遺物を含むことから、遺構検出面の時期は13世紀以降と推定できるが、第3層直上層は現代作土であるため下限は明らかにし得ず、近世まで下る可能性がある。

なお、調査区北東部および南西部では遺構を確認していないが、基本層序第3層、第4層は調査区のほぼ全域に分布する。したがって、遺構の空白域があるのは耕作の継続により削平を受けたためか、深さの浅いものが多く、平面的に検出できていないためと考えられ、水田耕作は調査区全域で行われていたものと推定できる。

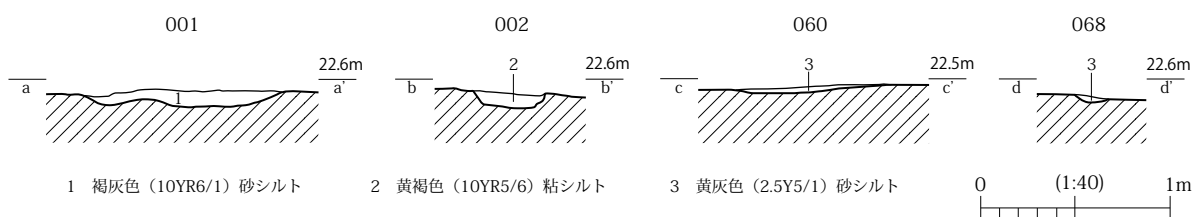


図8 08019-1区溝001・002・060・068断面図

第3節 中世遺構検出面の調査（図9、図版2）

基本層序第5層上面で検出した。遺構は掘立柱建物1棟、柵1基、柱穴22基、ピット33基である。第1節で述べたように、第5層は調査区北部のみに分布しており、遺構検出範囲も北部のみである。第5層の層厚は非常に薄い部分もあり、直下層の第8層または第9層上面まで掘削して検出した遺構もある。

建物1（図10） 調査区北部中央で検出した。柱穴042～044・152・155・156の6基から成る、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。桁行の長さは北西側柱で3.9m、南東側柱で3.8m、梁行の長さは北東側柱で3.0m、南西側柱で3.1mと、ややいびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北西側柱で1.9mと2.0mで、南東側柱は対応する位置にないが、柱筋が通ることから建物と判断した。床面積は14.8㎡、主軸方向はN-29°-Eである。柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は直径0.35～0.5m、深さ0.1～0.35m、柱痕跡の平面規模は直径0.15～0.25mである。柱掘方の深さにばらつきがあるが、平面規模との相関はみとめられない。柱掘方底面は礫混じりの基本層序第8・9層に達しており、埋土に含まれる礫は、これらの層に由来するものと考えられる。建物1は、柱穴042～044を調査区北西部調査時に、柱穴152・155・156を調査区南東部調査時に検出しており、現地調査中は同一建物を構成す

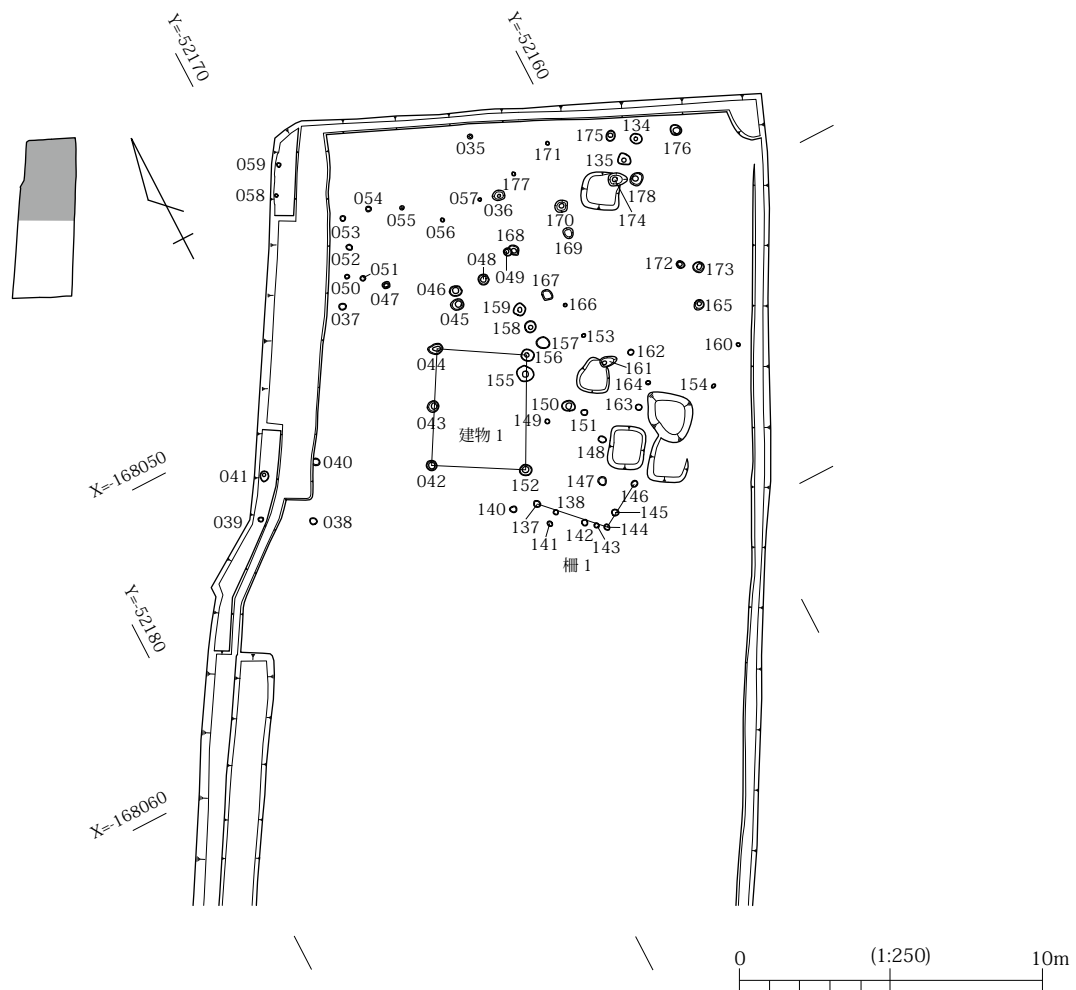


図9 08019-1区中世遺構検出面全体図

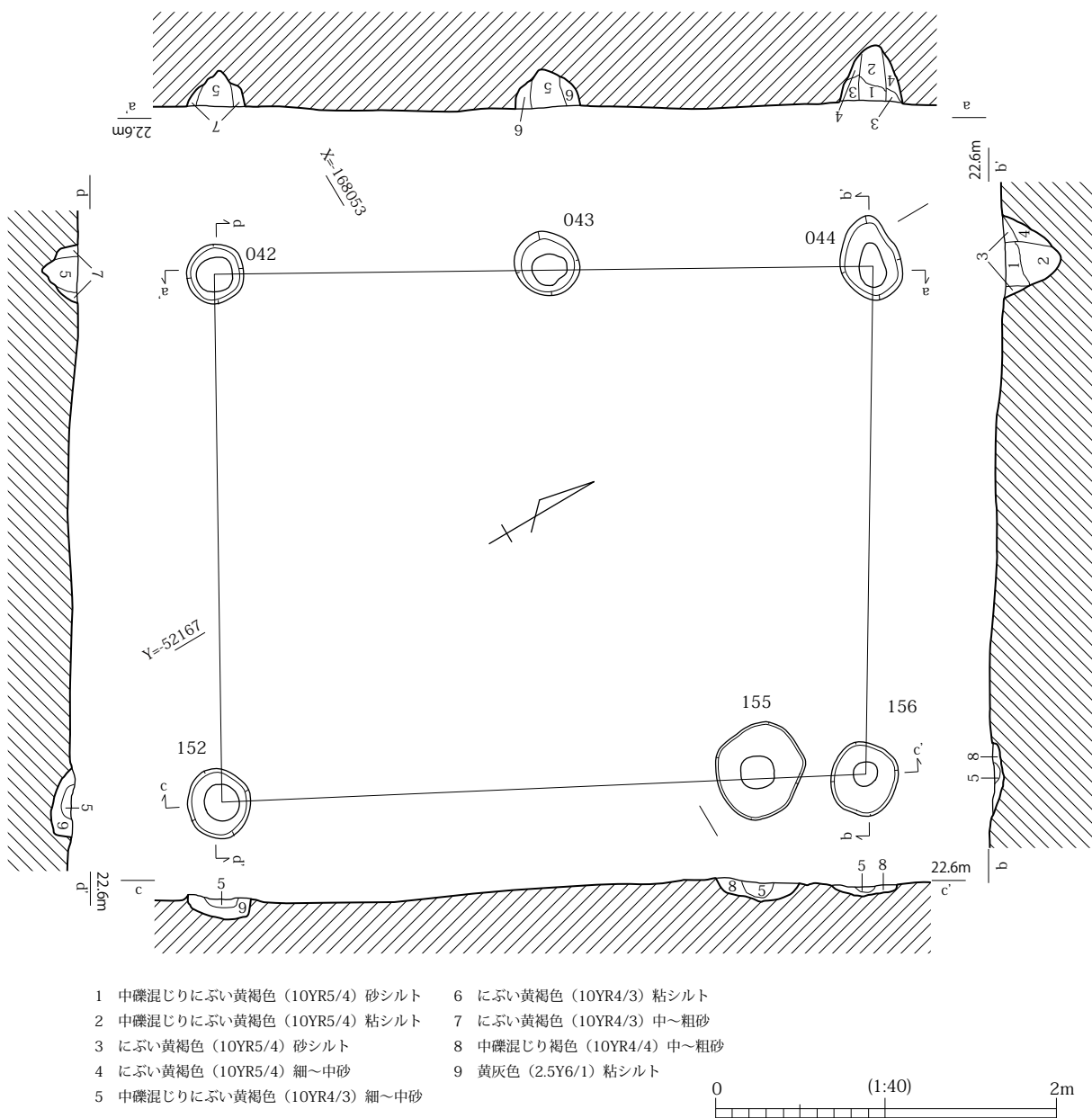


図 10 08019-1 区建物 1 平面図・断面図

るという認識がなかった。このために南東側柱を検出できなかった可能性もある。

遺物は、柱穴 042・155・156 から土師器が、柱穴 043 から瓦器、須恵器、土師器が、柱穴 044 から瓦器、土師器が出土したが、いずれも小片で、図化できるものはなかった。

柵 1 (図 11) 調査区北部、建物 1 の南東側で検出した。ピット 137・138・142～146 の 7 基から成る。ピット 137・138・142～144 が北西—南東方向に並び、ピット 144 のところで北東方向に折れる。いずれも柱痕跡を確認できなかったが、平面規模および深さの類似したピットが並ぶことから柵と判断した。主軸方向は N—45°—W および N—60°—E で、建物 1 の主軸方向とは一致しない。ピットの平面形は円形で、平面規模は直径 0.15～0.25 m、深さは 0.05～0.1 m である。ピット底面は礫混じりの基本層序第 8・9 層に達しており、埋土に含まれる礫は、これらの層に由来するものと考えられる。

遺物は出土しなかった。

柱穴・ピット 構成する建物や柵を明らかにし得なかった柱穴、ピットはそれぞれ 22 基、33 基検出した。柱穴に該当するものは 036・041・045～049・134・135・150・158・159・161・165・168・170・172～176・178、ピットに該当するものは 035・037～040・050～059・140・141・147～149・151・153・154・157・160・162～164・166・167・169・171・177 である。柱穴は建物 1 より北東部側に多く分布し、ピットは建物 1 の北部、西部、南東部側に多く分布する。

柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は直径 0.3～0.5 m、深

さ 0.1～0.25 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.1～0.2 m である。柱掘方の比較的深いものは、柱穴 174・178 で、それぞれ 0.25 m、0.2 m である。これらは柱掘方の平面規模が 0.5 m、0.4 m と比較的大きいが、この規模のものでも柱掘方の深さは 0.1 m 前後のものが多く、平面規模と深さとは比例しない。また、検出位置との相関もみとめられない。

ピットの平面形は円形である。平面規模は直径 0.1～0.4 m、深さ 0.03～0.1 m で、深さにはばらつきがあるが、平面規模や検出位置との相関はみとめられない。

柱穴、ピットの埋土は、それぞれ建物 1 および柵 1 の埋土に類似しており、礫の混じるものも多い。建物 1、柵 1 と同様、基本層序第 8・9 層に由来するものと考えられる。なお、柱穴 049 は柱穴 168 の埋土を掘削しており、先後関係がみとめられる。

遺物は、柱穴 036 から須恵器、土師器が、柱穴 046・047・049・150・161・172 から土師器が、柱穴 134・135・174・178 から瓦器、土師器が、柱穴 158・165 から瓦器が出土した。また、ピット 035 から須恵器、土師器が、ピット 037・040 から瓦器、土師器が、ピット 038 から土師質羽釜、瓦器が、ピット 039・147 から土師器が出土した。小片が多く、図化できたものはピット 040 から出土した 2 点である（4・5）。

小結 中世遺構検出面の遺構出土遺物は小片が大半で、12～13 世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。上層の耕作溝検出面が 13 世紀以降、検出面ベース層である基本層序第 5

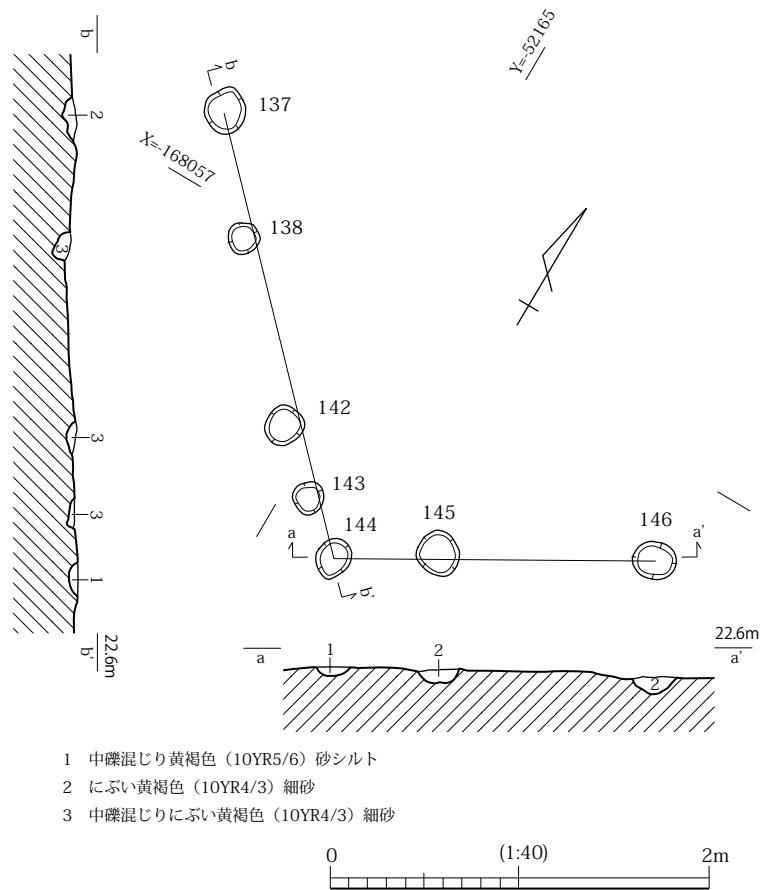


図 11 08019-1 区柵 1 平面図・断面図

層の形成時期が12世紀中葉～後葉頃と考えられることから、中世遺構検出面の時期は、12～13世紀頃と推定できる。建物1と柵1は主軸方向からは同時期に機能していたものとは考えにくい。建物等の構成を明らかにし得なかった柱穴に、先後関係のみとめられるものや隣接して位置するものがあることから、時期幅があるものと推定できる。

深さ0.1mの柱穴があることから、本来の地表面から0.4mほどは削平されているものと推定できる。また、調査区南部には、基本層序第5層が分布せず、基本層序第4層直下に第6層が堆積しているが、第6層上面では遺構は検出されなかった。第6層は、堆積物微細堆積層分析によって不明瞭ながら水平方向の葉理状の構造が確認され、流入した洪水堆積物由来であると判断された。また、下層の7層の状況等より第6層が水田作土である可能性が指摘されており、植物珪酸体分析でもイネが多量または比較的多量に検出されたことから、洪水堆積物を母材とした水田作土と考えられる。第6層の形成時期および水田耕作の時期は古代～中世と考えられるものの時期の限定は困難であるが、第5層上面で検出した中世遺構検出面の遺構と同時期に水田耕作が行われていた可能性がある。

第4節 古代遺構検出面の調査（図12、図版3）

第7層上面で検出した。遺構は土坑2基、溝1条、ピット1基を検出した。第1節で述べたよ

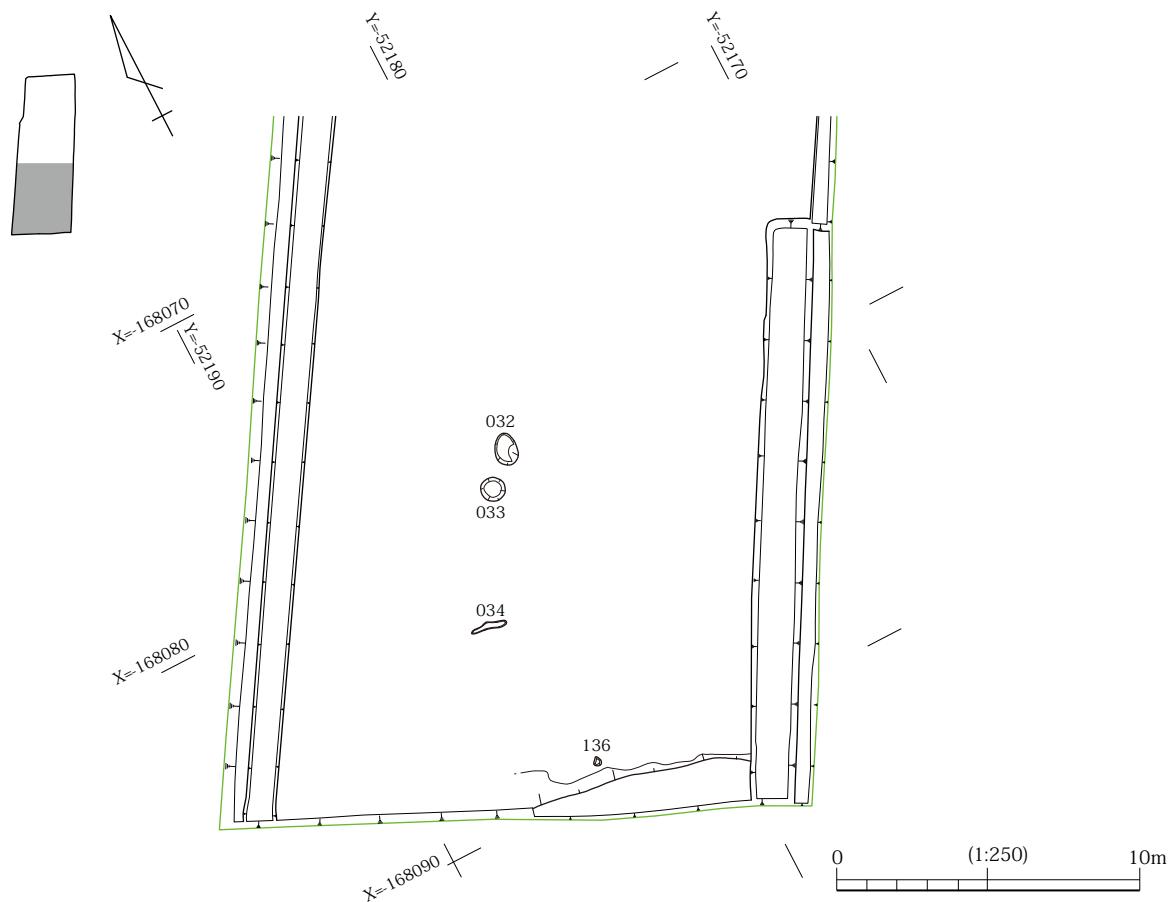


図12 08019-1区古代遺構検出面全体図

うに、第7層は調査区南部のみに分布しており、遺構検出範囲も南部のみである。第7層上面は南端から北側に向かって下っており、調査区南端部に自然の落ち込みが確認できる。

土坑 033 (図 13) 調査区南部中央で検出した。平面形は円形で、直径 0.8 m、深さ 0.15 m である。遺物は土師器が出土した。

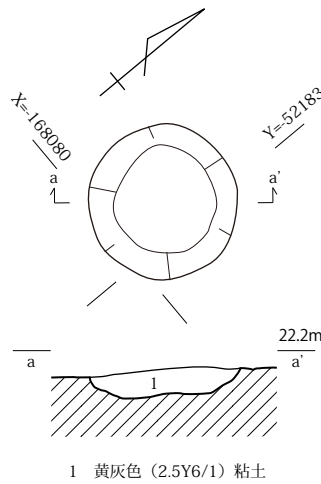


図 13 08019-1 区土坑 033 平面図・断面図

土坑 032 調査区南部中央、土坑 033 の東側で検出した。平面形は楕円形で、長軸 1.1 m、短軸 0.75 m、深さ 0.05 ~ 0.1 m である。埋土は土坑 033 に類似する。遺物は土師器が出土した。

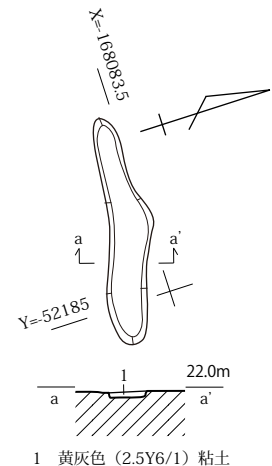


図 14 08019-1 区溝 034 平面図・断面図

溝 034 (図 14) 調査区南部中央で検出した。長さ 1.2 m、幅 0.2 m、深さ 0.02 m である。主軸方向は、N-80°-W である。遺物は土師器が出土した。

ピット 136 調査区南端部で検出した。平面形は不整円形で、長軸 0.3 m、短軸 0.25 m、深さ 0.05 ~ 0.15 m である。埋土は溝 034 に類似する。遺物は出土しなかった。

小結 古代遺構検出面の遺構出土遺物はいずれも小片で図化できず、所属時期を限定できる遺物もない。直上層である第 6 層の形成時期が古代 ~ 12 世紀頃で、遺物の大半が古代以前のものであること、検出面ベース層である第 7 層の形成時期が弥生時代後期 ~ 古墳時代であることから、古代の遺構検出面と推定できる。

検出遺構のうち、溝 034 は形状より耕作に伴う溝と考えられるが、土坑の性格は不明である。

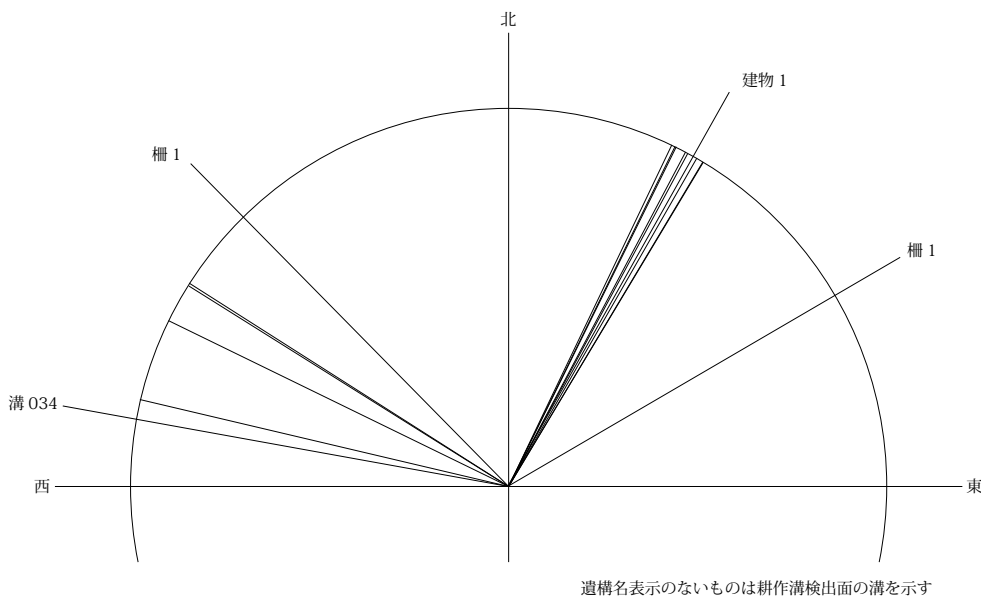


図 15 08019-1 区遺構主軸方向分布図

前述のように、直上の第6層が水田作土と考えられることから、土坑、ピットについても耕作に関わる遺構である可能性が考えられる。

ここで、以上3面の遺構検出面で検出された遺構の主軸方向について検討する(図15)。耕作溝検出面の溝、中世遺構検出面の建物1および柵1、古代遺構検出面の溝034の主軸方向を比較すると、建物1は耕作溝検出面の北東—南西方向の溝群の分布範囲に入り、溝034は北西—南東方向の溝060に近い方向を示す。柵1の方向はややずれるが、これら3面の遺構は、概ね一定の方向性を意識しているものと考えられる。この点については、他の調査区の成果や現在に残る地割とあわせて第9章第1節で述べる。

第5節 自然流路の調査(図6・16、図版4)

基本層序第6～8層は、流入した洪水堆積物と判断され、第9層上面では、自然流路の痕跡を検出した。第6層は調査区北部および南端部を除く範囲に、第7層は調査区南部に、第8層は調査区北西部および南部に分布する。第9層上面は、調査区北部から、起伏を繰り返しながら南部に向かって下がり、南端部で上がる。調査区北西部の壁面では第8層の分布範囲に落ち込みが確認できるが、平面では検出できず、調査区外に広がる起伏部と考えられる。

第6層は、上述のように、流入した洪水堆積物を母材とした水田作土と考えられるもので、堆積と水田耕作の時期は古代～中世と推定できる。なお、花粉分析より、調査区の第6層堆積時の植生は日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと判断されている。

第7層は、堆積物微細堆積層分析によって不明瞭ながら水平方向の葉理状の構造が確認され、流入した洪水堆積物由来であると判断された。また、上位の水田耕作に伴う土壌化がみとめられたが、植物珪酸体分析によるイネの検出量は低いことから、この層自体は作土ではないと考えられる。第7層は弥生時代から古墳時代の遺物を含み、弥生時代後期～古墳時代に堆積したものと推定できる。

第8層は、自然化学分析は行っていないが、堆積状況等より洪水堆積物であると考えられる。弥生時代後期～古墳時代に堆積したものと推定できる。

以上より、第6～8層は、弥生時代後期から中世にかけて流入した洪水堆積物である。現在は調査区の南方約500mを槇尾川が西流していることから、当時の河川活動によって流入したものと考えられる。ただし、第8層は、第6・7層とは分布範囲、粒度が異なっており、異なる河川堆積作用によるものと考えられる。

自然流路の痕跡を上面で確認した第9層は、試掘調査の結果および土層観察用トレンチ掘削の際の観察により、遺物はほとんど含まれないと予想された。そのため、第9層上面の記録終了後に、下層の堆積状況と遺物の有無を確認するため、長さ25m、幅1mのトレンチを北東—南西方向に設定して、下層確認調査を行った。その結果、第9層が中～大礫混じり褐色粗砂層を主体とし、褐色シルト層を部分的に含むこと、層厚1m以上であること、遺物を極少量含むことを確

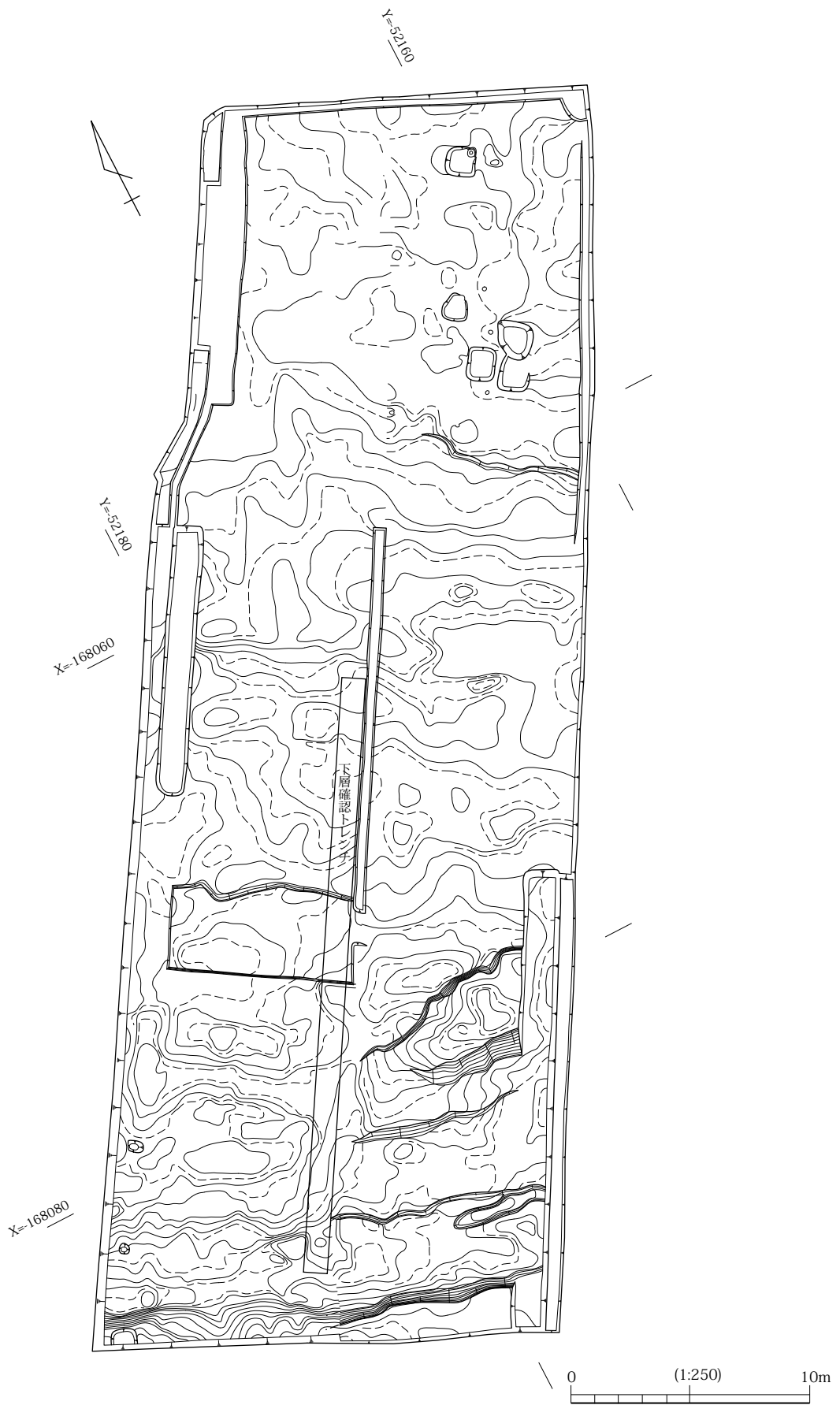


图 16 08019-1 区自然流路全体图

認したが、第9層下面を確認することはできなかった。第9層は、中～大礫混じりの粗砂層を主体とすることから、活発な堆積作用による洪水堆積物と考えられる。また、調査区全域に分布することから、第6～8層とは異なる河川堆積作用によるものと推定できる。出土遺物は弥生時代のものであるが、詳細な所属時期は不明である。第7・8層と第9層で、堆積時期に大きな差異がない可能性もある。

第6節 出土遺物

第1項 土器

はじめに、各地区に共通する遺物の掲載方法について示す。報告は、土器、瓦、石器・石製品、金属製品の順に、出土遺構検出面または包含層ごとに報告する。遺物番号は実測図掲載順の連番とする。法量、調整、色調、胎土等については観察表で示し、文章中では特徴的なものを中心に記載する。

今回報告する調査区では、弥生時代後期から古墳時代の土器と中世の土器が特に多く出土しているが、その大半は良好な一括遺物と言えないことから、土器編年については、既存の編年を使用する。各時期の編年や形式名は、弥生時代中期については地村（1999）を参考とし、地村の設定する第Ⅲ様式、第Ⅳ様式をそれぞれ中期中葉、中期後葉と呼称する。樋口（1990）も参考としている。弥生時代後期については、若林（1999）を参考に前葉、中葉、後葉に3区分し、これと一部重複するが、弥生時代後期後半から庄内式併行期の編年については西村・池峯（2006）を、形式名については西村（1996）を参考とする。下田Ⅰ-1式を後期中葉、下田Ⅰ-2～4式を後期後葉、下田Ⅱ-1～Ⅱ-2式古相を庄内式前半、下田Ⅱ-2式新相～Ⅱ-3式を庄内式後半とする。ただし、製塩土器については宮地（2000）および積山（2004）を参考とする。なお、庄内式併行期の土器は甕等に弥生時代後期との判別が困難なものが多いため、庄内式併行期の土器についても便宜的に弥生土器と呼称する。布留式期については西村・池峯（2006）を参考とし、下田Ⅲ式および布留1式～2式古段階を布留式前半、布留2式新段階～4式を布留式後半と呼称する。ただし、形式名称については、市村（2009a）を参考に、壺Aを大形直口壺、壺Bを複合口縁壺、壺Dを小形直口壺、甕Dを布留形甕、甕Eを小形甕、高杯Cを直口高杯、高杯Dを外反高杯、高杯Eを有稜高杯と呼称する。また、古墳時代中～後期の土師器については、辻（1999）、中野（2010）も参考とし、特に高杯の接合技法については中野（2010）の分類を参照する。古墳時代の須恵器については田辺（1966）を、古代の土器については古代の土器研究会編（1992）、中世の土器については中世土器研究会編（1995）を主に参考とする。また、中世の土師器皿については、12cmを境に大皿、小皿と分類する。

（1）耕作溝検出面の土器（図17）

耕作溝検出面の遺構からは、瓦器、須恵器、土師器が出土した。いずれも小片で、図化できるものはわずかである。ここでは中世以降に所属するものを報告する。

1、2は土師器小皿である。1は溝001から出土した。「て」の字状口縁をもち、12世紀頃に位置づけられる。2は溝060から出土した。12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。3は土師器大皿である。溝001から出土した。不明瞭であるが口縁部外面に2段ナデを施すようであることから、12世紀頃と考えられる。

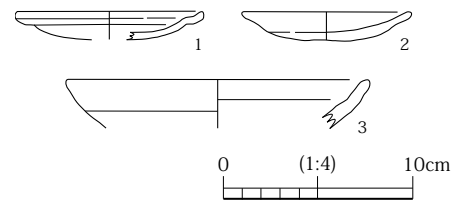


図17 08019-1区耕作溝検出面の土器

以上のように、耕作溝検出面の遺構からは、12～13世紀の遺物が出土している。この面の遺構は耕作に伴う溝のみで、遺構検出面の直上層、基本層序第3層が作土層と考えられる。後述のように、作土層である第3層、床土であり検出面ベース層である第4層が13～16世紀の遺物を含むことから、遺構検出面の時期は13世紀以降と推定できるが、下限は明らかにし得ず、近世まで下る可能性がある。

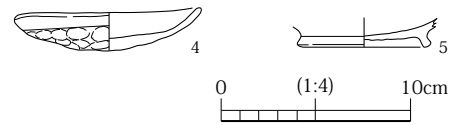


図18 08019-1区中世遺構検出面の土器

(2) 中世遺構検出面の土器 (図18、図版18—1・3)

中世遺構検出面の遺構からは、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器が出土した。遺構の時期を示す中世のものを報告する。

4はほぼ完形の土師器小皿である。ピット040から出土した。12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。5は瓦器碗である。ピット040から出土した。焼成はあまい。底部外面に粘土紐巻き上げ痕がみとめられる。12世紀後半頃に位置づけられる。

このように、遺構出土遺物は少量であるが、検出面ベース層である第5層の形成時期が12世紀中葉～後葉頃と考えられることから、中世遺構検出面の時期は、12～13世紀頃と推定できる。

(3) 古代遺構検出面の土器

古代遺構検出面からは、土師器が出土している。いずれも小片で図化できず、所属時期を限定できる遺物もないが、直上層である第6層の形成時期が古代以降、検出面ベース層である第7層の形成時期が弥生時代～古墳時代であることから、古代の遺構検出面と推定できる。

(4) 試掘調査および包含層出土土器

試掘調査出土の遺物は特徴的なものを報告する。包含層の遺物は、その形成時期を示すものを中心とし、それ以前の時期の遺物については特徴的なものを報告する。

試掘調査出土土器 (図19) 試掘調査では瓦器、須恵器、土師器等が出土した。ここでは残存度の高いもののみ報告する。

6は土製品である。側面にナデを施す。平瓦の破損品を再加工した可能性がある。中世以降に所属するが、詳細な時期比定は困難である。7は土師器高杯である。杯部底部に棒状工具による刺突痕跡が残り、接合法Cである。杯部上半を欠損するが、外反高杯の可能性がある。布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

基本層序第3～5層出土土器（図19、図版18—3） 基本層序第3～5層については、複数層を一体で掘削した箇所が多いためあわせて報告を行い、そのうえで、時期や出土層位を限定できる遺物から、それぞれの層の形成時期を推定する。一部第6層以下の遺物を含む可能性があるが、第3～5層を含む層位の遺物はここで報告する。基本層序第3～5層からは、磁器、瓦質播鉢、土師質羽釜、瓦器、黒色土器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。

8は瓦質播鉢である。15～16世紀に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

9～11は土師器小皿である。11は「て」の字状口縁をもつ。12、13は土師器大皿である。11は12世紀頃に位置づけられる。その他は12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

14は黒色土器B類の椀である。摩滅が著しいが、外面にミガキがみとめられる。11世紀に位置づけられる。

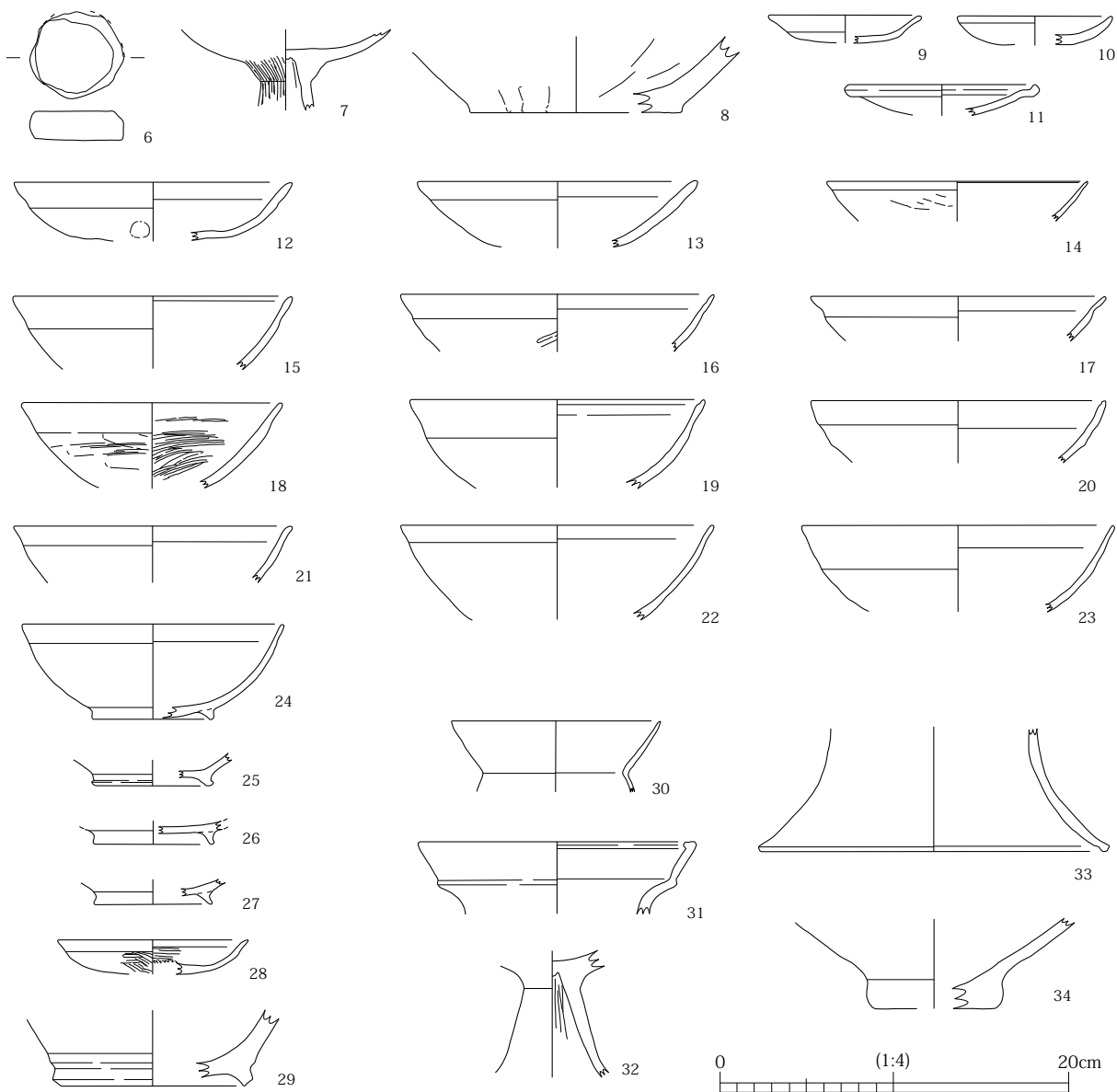


図19 08019-1区試掘調査・包含層出土土器

15～27は瓦器碗である。15～18、21～24は和泉型である。19は口縁内端部に段をもち、20も不明瞭ながら口縁内端部に段状の痕跡がみとめられる。いずれも胎土からは和泉産と考えられ、大和型の模倣品の可能性がある。摩滅の著しいものが多いが、16、18、24は外面にミガキがみとめられる。18は外面にヘラケズリ状の痕跡がみとめられる。24は焼成があまい。28は瓦器小皿である。内外面に密にミガキを施す。瓦器碗は、外面にミガキがみとめられるものがあること、高台形状、法量より、12世紀中葉～後葉頃に位置づけられ、残存度の低い碗や瓦器皿についても同時期と考えられる。

29は須恵器壺底部で、貼り付け高台である。奈良時代に位置づけられる。

30～32は土師器である。30は小型丸底壺である。口縁部の開きは体部最大径より大きい。摩滅により外面調整は不明瞭である。31は複合口縁壺で、口縁部形状は山陰系である。32は高杯脚部である。内面にケズリを施す。杯部側から粘土を充填しており、接合法はD1である。30は布留式前半に位置づけられる。31、32は布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

33、34は弥生土器である。33は器台裾部である。後期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。34は底部で、詳細な時期比定は困難である。

以上、基本層序第3～5層からは、弥生時代から中世にわたる遺物が出土している。出土層位をみると、13世紀以降の遺物は第3層または第4層を含む層位からの出土である。一方、第5層以下に限定できる遺物は12世紀以前で、特に12世紀中葉～後葉頃を主体とする。したがって、第3・4層の形成時期は13世紀以降、第5層の形成時期は12世紀中葉～後葉頃と推定できる。

(5) 自然流路出土土器

自然流路内堆積物である基本層序第6～8層出土遺物について報告する。形成時期を示すものを中心とし、それ以前の時期の遺物については特徴的なものを報告する。

基本層序第6層出土土器 (図20、図版18—2・3) 基本層序第6層からは、土師質羽釜、瓦器、黒色土器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。なお、一部第7層と一体で掘削した際の出土遺物を含む。

35、36は瓦器碗である。35は口縁内端部にわずかに段をもつ。胎土からは和泉産と考えられ、大和型の模倣品の可能性がある。35、36は12世紀中葉～後葉頃に位置づけられる。

37、38は黒色土器A類の碗である。いずれも内面にミガキがみとめられる。37は割高台で、切り込みを施す。2箇所が残存しており、3方向であったと考えられる。37、38は10世紀頃に位置づけられる。

39～42は土師器杯である。39は平底で、口縁端部を外側へつまみ出すものである。41も同形状と考えられる。40、42は丸底で口縁部は内湾しながら外上方へのびる。43、44は土師器甕である。43、44とも口縁端部を内側へ曲げ込むが、43は口縁部の立ち上がりが低い。39～44はいずれも奈良時代に位置づけられる。

45～54は須恵器である。45は杯身である。46は壺Hで、47と同一固体である可能性が高い。

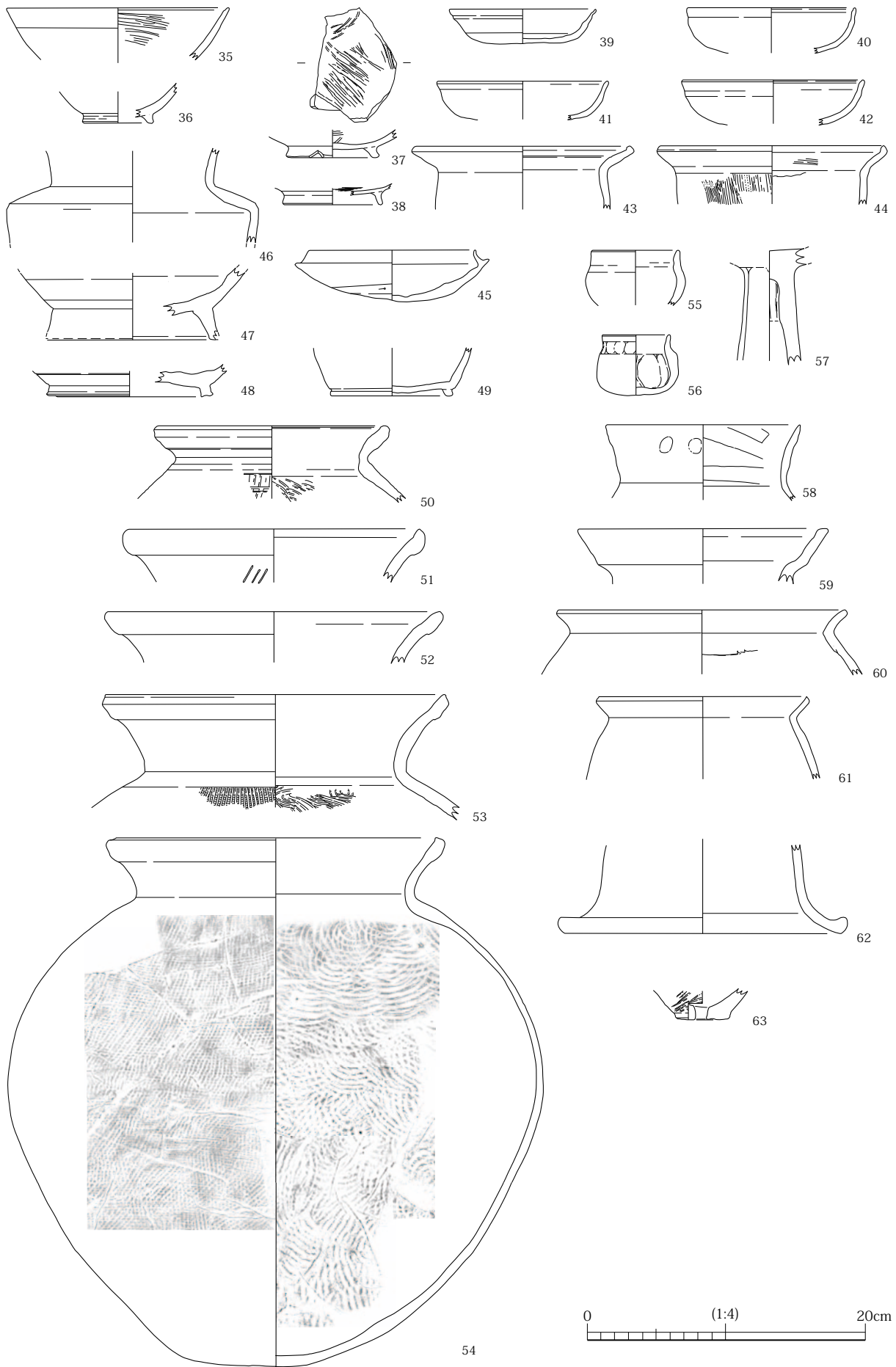


图 20 08019-1 区自然流路出土土器 (1)

48は壺で、貼り付け高台である。49は杯Bである。50～54は甕である。いずれも口縁端部が丸みをおび、頸部が短い。51は口縁部外面にヘラ記号がみとめられる。54は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。体部外面は、平行タタキの後、上半にカキメを施す。45はTK209に、46～54は奈良時代に位置づけられる。

55～59は土師器である。55、56は小形壺で、体部内外面に指頭圧痕がみとめられる。57は高杯脚部である。内面にシボリ目がみとめられ、外面は8面に面取りされる。58は壺である。口縁部外面に指頭圧痕がみとめられる。59は複合口縁壺で、口縁部形状は山陰系である。55～59はいずれも布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

60～63は弥生土器である。60、61は甕である。60は摩滅が著しいが、体部外面にわずかにタタキ状の痕跡がみとめられる。口縁端部は鈍い端面をもつ。61は口縁端部が上方にやや肥厚する。62は器台裾部である。63は平底で1孔をもち、有孔鉢の可能性もある。体部外面に右上がりのタタキを施す。61は中期中葉に位置づけられる。62は後期に、60、63は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

以上、基本層序第6層からは、弥生時代中期から12世紀にわたる遺物が出土している。12世紀の遺物は少量であり、第6層は水田作土であることから、堆積時期を示すものではなく、耕作に伴い混入した可能性がある。後述のように下層の7層形成時期が古墳時代以前であることから、第6層の堆積および水田耕作の時期は古代～12世紀頃と推定できる。

基本層序第7層出土土器（図21） 基本層序第7層からは、須恵器、土師器、弥生土器が出土しているが、出土遺物は少量である。須恵器はいずれも小片で図化できるものはないが、古墳時代のものである。なお、一部第8層と一体で掘削した際の出土遺物を含む。

64～67は土師器である。64は小型丸底壺である。口縁部は体部より開かない。65は布留形甕である。口縁部は直立気味である。66、67は高杯で、66は外反高杯である。杯部底部に棒状工具による刺突痕跡が残り、接合法Ciである。67は内面にシボリ目がみとめられる。杯部底部に不明瞭であるが棒状工具による刺突痕跡が残るようであり、接合法Ciの可能性もある。64、65は布留式後半に位置づけられる。66、67は布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

基本層序第7層からは、弥生時代から古墳時代にわたる遺物が出土しており、布留式後半の遺物が多い。下層の第8層から弥生時代後期の土器が出土していることから、形

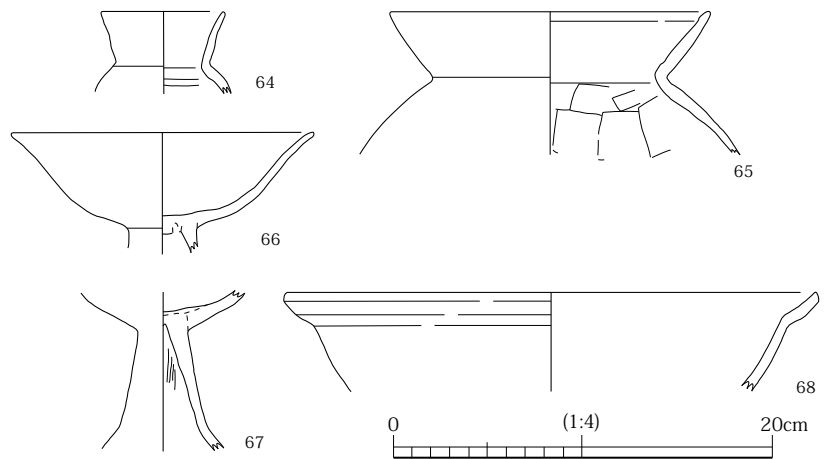


図21 08019-1区自然流路出土土器（2）

成時期は弥生時代後期～古墳時代と推定できる。

基本層序第8層出土土器 (図21) 基本層序第8層からは、土師器、弥生土器が出土しているが、出土遺物は少量である。土師器は高杯等が出土し、布留式期のものである。

68は弥生土器で中形鉢である。後期後葉に位置づけられる。

基本層序第8層からは、弥生時代から古墳時代にわたる遺物が出土しており、形成時期は弥生時代後期～古墳時代と推定できる。

基本層序第9層出土土器 下層確認トレンチ出土のものである。図化できるものはないが、弥生土器が1点出土している。第8層の形成時期より、第9層の形成時期は弥生時代後期以前と推定できる。

第2項 瓦 (図22、図版51)

瓦については、丸瓦は大脇 (1991)、平瓦は佐原 (1972)、中世の瓦については市本 (1993)、中世土器研究会編 (1995) を主に参考とする。丸瓦は凸面を上、狭端部を上方に向けて提示、平瓦は凹面を上、広端部を上方に向けて提示することを基本とする。縄叩きを施すものについては、3cmあたりの縄目粒数と縄本数を計測し、布目圧痕は図縦方向を縦糸、横方向を横糸と

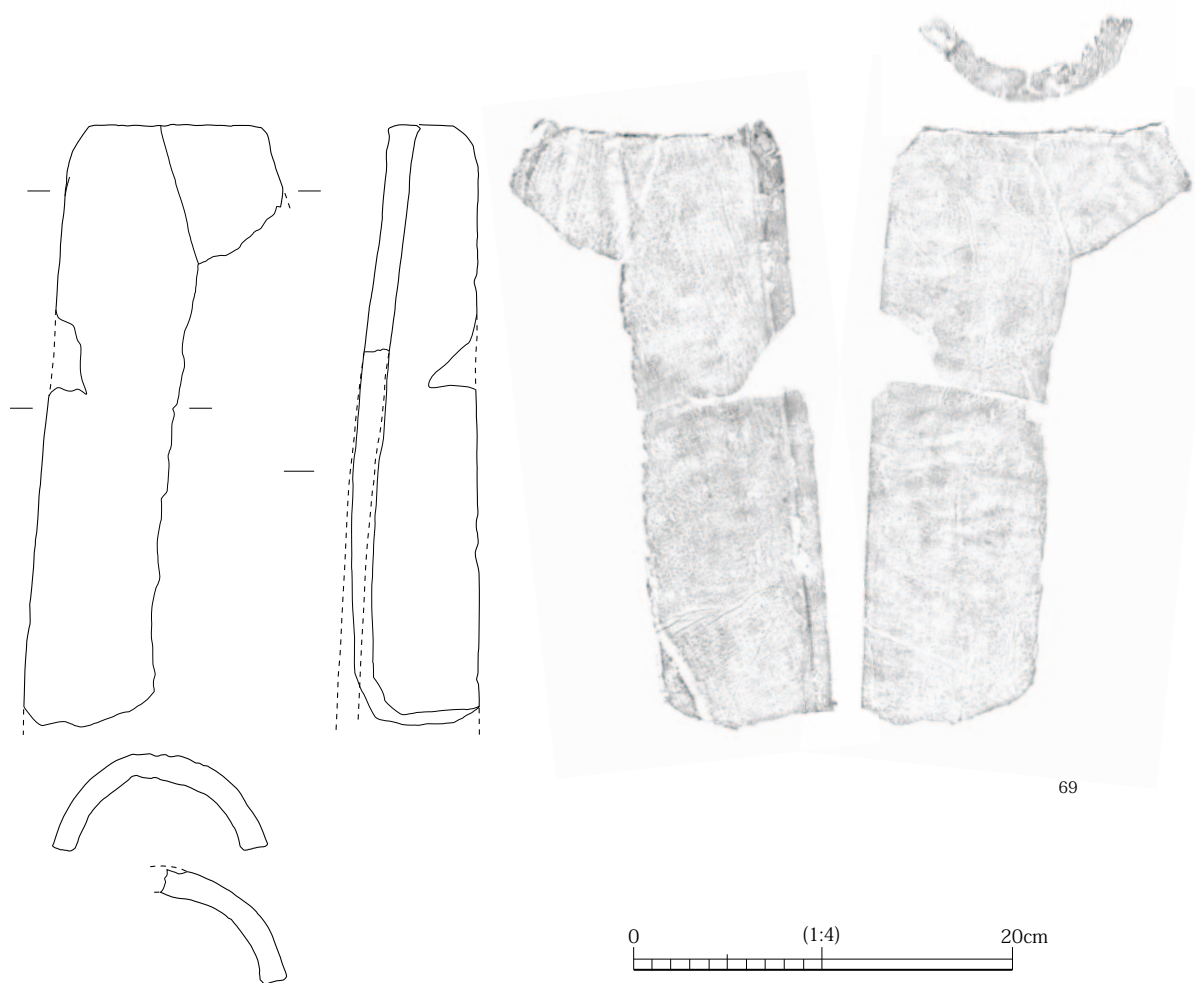


図22 08019-1区出土瓦

呼称して、3 cm あたりの布目数を計測した。いずれも摩滅や調整により計測不能なものも多い。

08019-1 区から出土した瓦は、丸瓦が3点で計1310g、平瓦が2点で計168g、計5点で1478gである。小片が多く、弥生時代から中世の遺物を含む包含層から出土しているため、詳細な時期比定は困難であるが、古代～中世のものが出土している。ここでは、残存度の高い1点を報告する。

69 は行基式丸瓦である。基本層序第6層から出土した。広端側を欠損し全長は不明であるが、出土瓦の中では残存度の高いものである。狭端幅は9.3cmである。凸面は縄叩き後にナデを施す。凹面は布目残り、縦糸21本/3cm、横糸21本/3cmである。狭端側に布の重ね目がみとめられる。狭端面には乾燥時のものと考えられる粘土のはみ出し痕跡がみとめられ、調整を施していないと考えられる。両側面はケズリを施し、凹面側に面取りを施す。平安時代末～鎌倉時代初頭に位置づけられる。

第3項 金属製品 (図23)

70 は銅製品である。基本層序第6層から出土した。両端は折損している可能性がある。湾曲する棒状で、断面形は隅丸方形を呈する。用途は不明である。基本層序第6層は弥生時代から中世の遺物を含んでおり、時期比定は困難である。

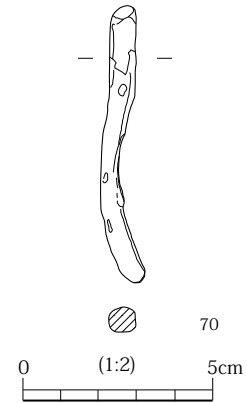


図23 08019-1区出土金属製品

第4章 08019-2 区の調査成果

第1節 基本層序（図24、図版5—1～3）

層序は、上層から順に現代の作土である黒灰～灰色土（第1層、層厚0.15～0.35 m）、現代の床土である明黄褐色土（第2層、層厚0.03～0.05 m）、褐灰色砂シルト（第3層、層厚0.05～0.2 m）、黄褐色砂シルト（第4層、層厚0.03～0.05 m）、黄灰色中～粗砂（第5層、層厚0.05～0.1 m）、褐色粘シルト（第6層、層厚0.05～0.2 m）、黄褐色粘土（第7層、層厚0.1～0.15 m）、褐色粗砂（第8層、層厚0.05～0.15 m）、礫混じり褐色粗砂（第9層、層厚0.25 m以上）である。

第1層、第2層は、現代の作土および床土で、層厚の差はあるが、調査区全域に分布する。第1層上面の高さは22.7～22.9 mで、やや起伏がある。第1層下面の高さは22.6 m前後で、北西部から南東側へ向かってやや上がり、高低差は約0.05 mである。第2層下面の高さは最も低い北西部で22.5 m、第1層と同様南東側へ向かって上がり、最も高い南東部で22.6 mである。隣接する08019-1区層序との比較より、第1層、第2層はそれぞれ08019-1区の基本層序第1層、第2層に対応するものと判断できる。

第3層は、層厚の差はあるが、調査区全域に分布する。第3層下面の高さは最も低い北西部では22.4 m、層厚0.2 mで、南東側へ向かって上がるとともに層厚が薄くなる。最も高い南東部で22.5 m、層厚0.05 mである。第4層は、調査区南東部のみに分布する。第4層下面の高さは、22.5 m前後で、0.05 m未満の起伏がある。第3層は中世の遺物を少量含む。遺物は小片のみで、層の形成時期の限定は困難であるが、隣接する08019-1区層序との比較より、第3層、第4層はそれぞれ08019-1区の基本層序第3層、第4層に対応するものと考えられる。したがって、08019-2区第3層は水田作土、第4層はこれに伴う床土と考えられ、形成時期は13世紀以降と推定できる。

第5層は、調査区南東部の一部のみに分布する。第5層下面の高さは22.4～22.5 mで、分布範囲の中央部で最も低く、層厚も厚い。遺物は出土しなかった。

第6層は、第5層と同様、調査区南東部の一部のみに分布する。第6層下面の高さは22.3～22.5 mで、分布範囲の北西側で最も低く、層厚も厚い。第6層は、古墳時代から中世の遺物を含むが、遺物は小片のみで、層の形成時期の限定は困難である。08019-1区の基本層序第5層に類似しており、対応する層である可能性がある。

第7層は、調査区南東端部のみに分布する。第7層下面の高さは22.4 m前後で、南東側へ下がって調査区外へ続く。第7層の出土遺物は小片のみで、形成時期の限定は困難である。08019-1区の基本層序第6層に類似するが、この第6層は08019-2区に近接する調査区北部には分布しておらず、対応する層であるかは明らかでない。

第8層は、調査区南東部の一部のみに分布する。第8層下面の高さは22.4～22.5 mで、分布範囲の中央部で最も高く層厚は厚い。08019-1区の基本層序第8層に類似しており、対応する層

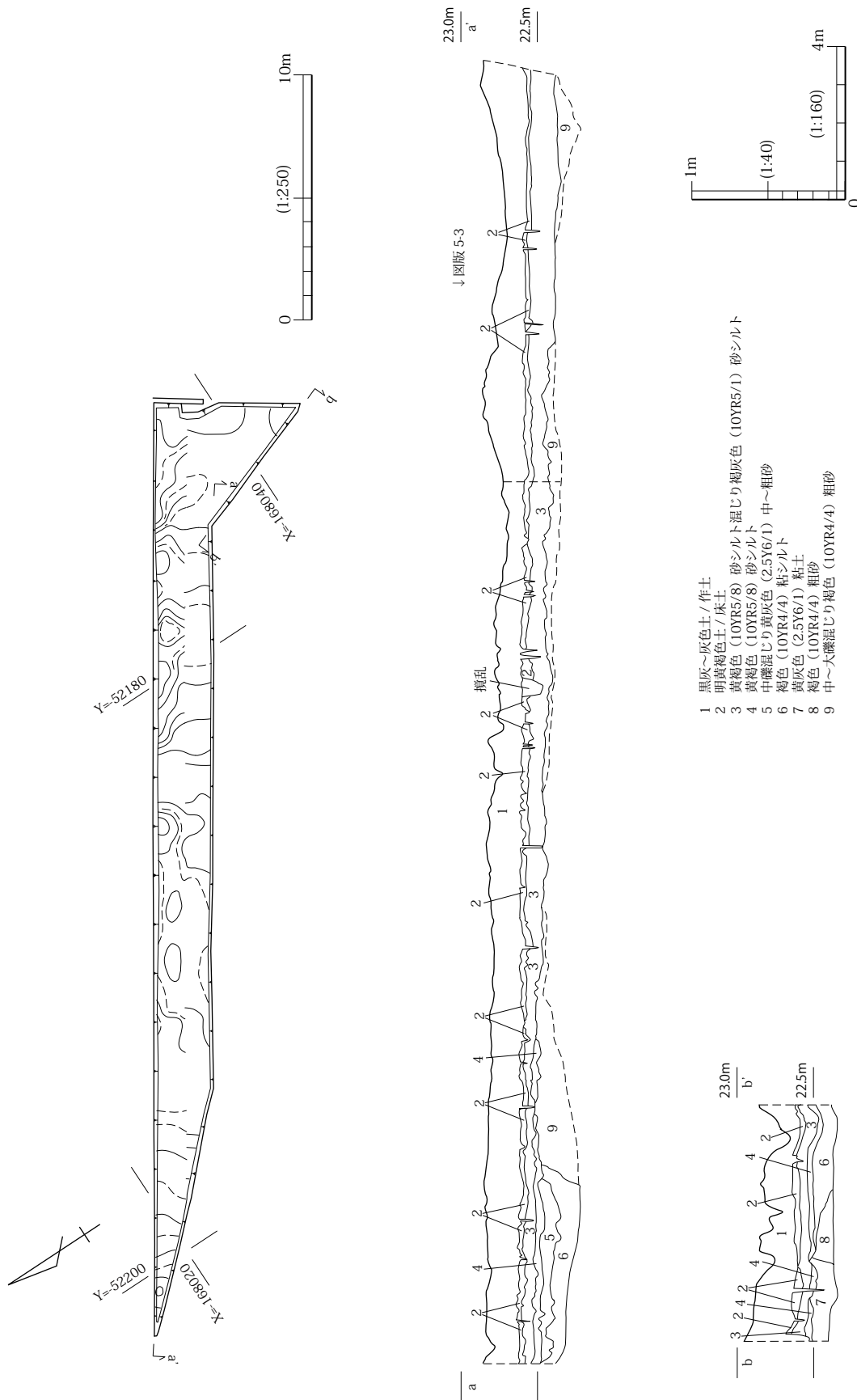


図 24 08019-2 区平面図・土層図

である可能性がある。

第9層は、調査区全域に分布する。下面を確認することはできなかった。また、遺物は出土しなかった。第9層は、08019-1区の基本層序第9層に対応するものと考えられ、形成時期は弥生時代後期以前と推定できる。また、第9層上面では、調査区南東部で深さ約0.2mの落ち込みが確認された。調査区が狭小のため判断し難いが、第9層上面の起伏は自然流路の痕跡である可能性も考えられる。

以上のように、08019-2区では遺構は検出できなかった。遺物包含層を確認したものの、出土遺物は少なく、各層の形成時期の限定は困難である。先述のように、隣接する08019-1区層序との比較より、両地区の第1～4・9層が各々対応すると考えられる。また、08019-2区第6・7・8層は、それぞれ08019-1区第5・6・8層に対応する可能性がある。また、人為的遺構ではないが、第9層上面は自然流路の痕跡である可能性がある。

第2節 出土遺物

08019-2区出土遺物は土器のみである。基本層序第1層から、青磁口縁部、瓦質羽釜、土師質羽釜、瓦器、古墳時代の須恵器杯蓋が出土した。基本層序第3層から、瓦器、須恵器、土師器が出土した。基本層序第6層から、須恵器、布留式期の土師器高杯脚部が出土した。基本層序第7層から、須恵器、土師器が出土した。いずれも小片で、図化できるものはなかった。

第5章 08019-3 区の調査成果

第1節 基本層序（図25、図版5—4～6）

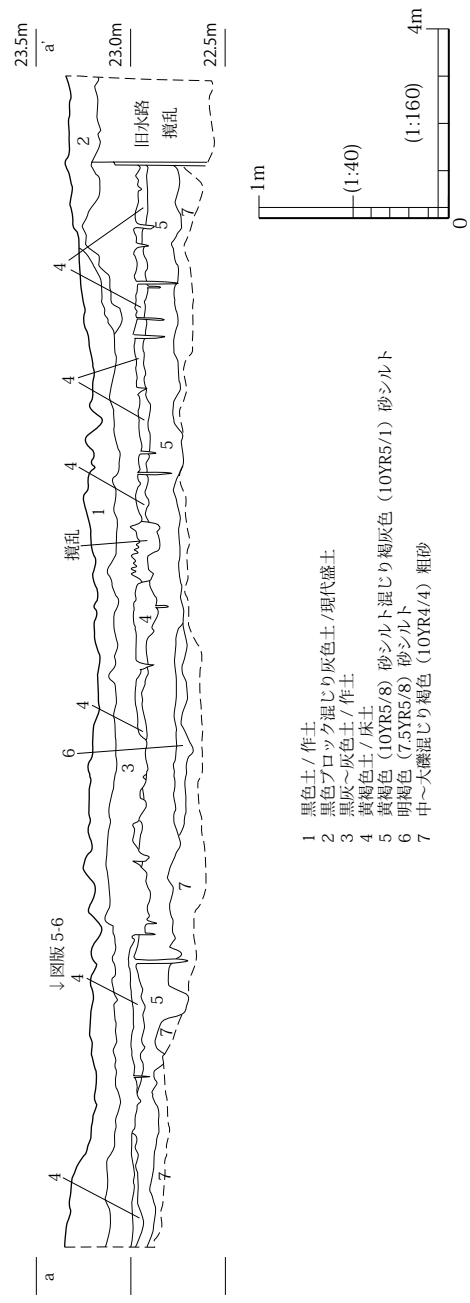
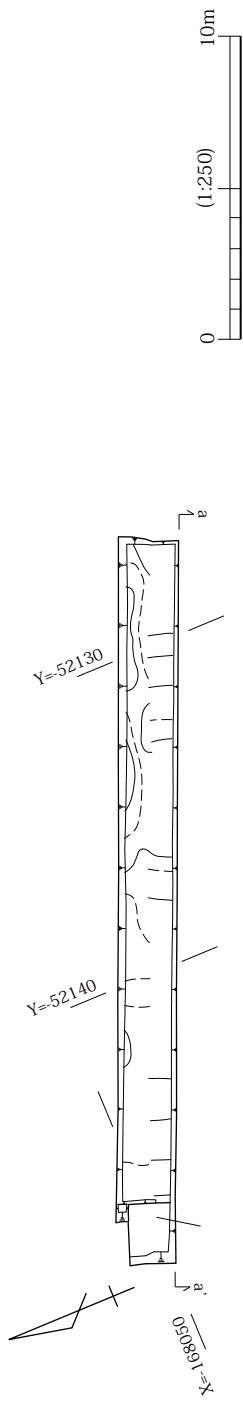
層序は、上層から順に現代の作土である黒色土（第1層、層厚0.05～0.2m）、調査区北西部に位置する旧水路埋没後の現代の盛土である黒色ブロック混じり灰色土（第2層、層厚0.05～0.15m）、旧水路設置以前の現代の作土である黒灰～灰色土（第3層、層厚0.1～0.3m）、現代の床土である黄褐色土（第4層、層厚0.03～0.1m）、褐灰色砂シルト（第5層、層厚0.1～0.2m）、明褐色砂シルト（第6層、層厚0.05～0.1m）、礫混じり褐色粗砂（第7層、層厚0.2m以上）である。

第1層は、現代の作土で、層厚の差はあるが、調査区北西部を除く範囲に広く分布する。第1層上面の高さは23.2～23.3mで、調査区両端でやや高い。第1層下面の高さは23.1～23.2mで、北西側から南東側へ向かってやや上がり、高低差は約0.05mである。第2層は、旧水路埋没後の現代の盛土で、調査区北西部の旧水路周辺のみ分布する。第2層下面の高さは23.1～23.2mで、南東側で下がる。第3層、第4層は、旧水路設置以前の現代の作土および床土で、旧水路部を除く範囲に広く分布する。第3層下面の高さは22.9～23.0mで、調査区中央部で低くなるが、全体としては北西側から南東側へ向かってやや上がっており、調査区両端での高低差は約0.05mである。第4層下面の高さは、最も低い北西部で22.9m、南東側へ向かって上がり、最も高い南東部で23.0mである。隣接する08019-1区層序との比較より、第3層、第4層はそれぞれ08019-1区の基本層序第1層、第2層に対応するものと判断できる。

第5層は、層厚の差はあるが、旧水路部を除く範囲に広く分布する。第5層下面の高さは北西部では22.8m、層厚0.2mで、中央部で22.7mと低くなり、南東部で上がり、22.9m、層厚0.1mとなる。第6層は、調査区中央部のみ分布する。下面の高さは22.7m前後である。第5層、第6層は、須恵器、土師器、弥生土器を含むが、遺物は小片のみで、層の形成時期の限定は困難である。隣接する08019-1区層序との比較より、第5層、第6層はそれぞれ08019-1区の基本層序第3層、第4層に対応するものと考えられる。したがって、08019-3区第5層は水田作土、第6層はこれに伴う床土と考えられ、形成時期は13世紀以降と推定できる。

第7層は、調査区全域に分布する。下面を確認することはできなかった。また、遺物は出土しなかった。第7層は、08019-1区の基本層序第9層に対応するものと考えられ、形成時期は弥生時代後期以前と推定できる。

以上のように、08019-3区では遺構は検出できなかった。遺物包含層を確認したものの、出土遺物は少なく、各層の形成時期の決定は困難である。先述のように、隣接する08019-1区層序との比較より、08019-3区の第3～7層が08019-1区の第1～4・9層に各々対応すると考えられる。また、08019-2区の調査成果もあわせると、13世紀以降の作土の下面は、北西側から南東側に向かって上がっていることが確認できる。



- 1 黒色土 / 作土
- 2 黒色ブロック混じり灰色土 / 現代盛土
- 3 黒灰～灰色土 / 作土
- 4 黄褐色土 / 床土
- 5 黄褐色 (10YR5/8) 砂シルト混じり褐灰色 (10YR5/1) 砂シルト
- 6 明褐色 (7.5YR5/8) 砂シルト
- 7 中～大礫混じり褐色 (10YR4/4) 粗砂

図 25 08019-3 区平面図・土層図

第2節 出土遺物

第1項 土器 (図26)

調査区西端の旧水路による攪乱から、瓦質羽釜、須恵器、土師器が出土した。基本層序第1～4層から、磁器、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。基本層序第5～6層から、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。いずれも小片で、図化できるものは1点のみである。

71は基本層序第1～4層から出土した。緑釉陶器碗である。削り出しによる輪高台で、見込みは施釉しない。硬質で、釉調は濃緑色系である。10世紀後半頃に位置づけられる。

出土土器のみからの包含層の時期決定は困難であるが、先述のように、隣接する08019-1区層序との比較より、08019-3区第5・6層は08019-1区第3・4層に対応するものと推定できる。

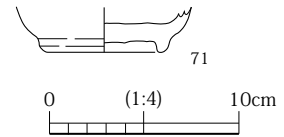


図26 08019-3区出土土器

第2項 瓦 (図27、図版51)

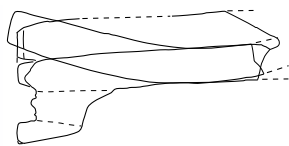
08019-3区から出土した瓦は、軒平瓦が1点で884g、丸瓦が1点で1107g、平瓦が3点で計652g、計5点で2643gである。小片が多く、攪乱や現代の作土から出土しているため詳細な時期比定は困難であるが、いずれも中世頃のものである。ここでは、軒平瓦および残存度の高い丸瓦各1点を報告する。

72は軒平瓦である。2片が旧水路設置に伴う攪乱から出土しており、接合位置は明瞭でないが、同一固体と考えられる。瓦当文様は連珠文で、圏線を施す。内区幅は1.1cm、珠文の直径は0.7cmである。平瓦広端部は瓦当部に達し、顎部分に粘土を付着させる顎貼り付け式で、平瓦接合部に格子状の刻みを施す。顎裏面、凸面にナデを施し、凹面には一部に離れ砂が残る。側面の調整は摩滅により不明である。鎌倉時代に位置づけられる。

73は行基式丸瓦である。旧水路設置に伴う攪乱から出土した。広端側を欠損し全長は不明であるが、出土瓦の中では残存度の高いものである。凸面は縄叩き後にナデを施す。縄目粒数6粒／3cm、縄本数9本／3cmである。凹面は布目が残り、縦糸18本／3cm、横糸14本／3cmである。狭端面から約14cm広端側に布の重ね目がみとめられる。狭端部は凹面側に面取りを施す。両側面はケズリを施し、凹面側に幅広の面取りを施す。平安時代末～鎌倉時代初頭に位置づけられる。

第3項 金属製品 (図28、図版52-2)

74は完形の銅銭である。基本層序第1～5層から出土した。北宋の元祐通寶(初鑄1086年)である。直径2.4cm、重量2.1gで、銭銘は篆書で表される。



72



74

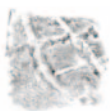
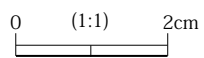
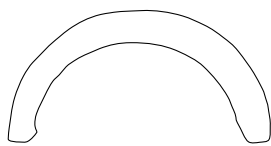
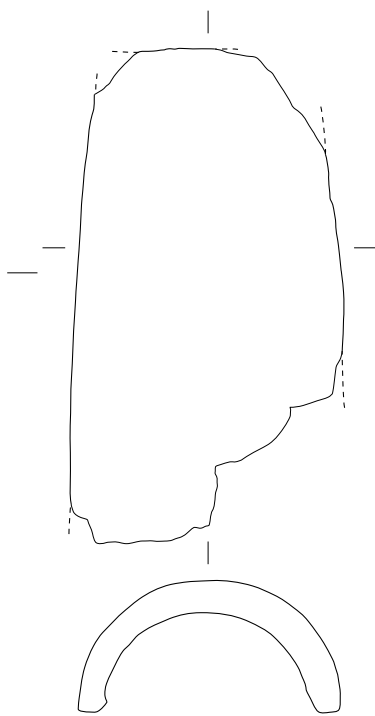
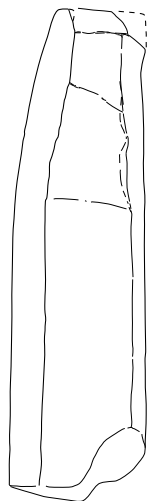


图 28 08019-3 区出土
金属製品



73

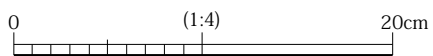


图 27 08019-3 区出土瓦

第6章 08019-4 区の調査成果

第1節 基本層序 (図 29、図版 11—4・5)

層序は、上層から順に現代の作土である灰色土 (第1層、層厚 0.1 ~ 0.35 m)、現代の床土である明褐色土 (第2層、層厚 0.05 ~ 0.1 m)、中世以降の包含層である黄褐色または褐灰色砂シルト (第3A ~ 3C層、層厚 3A : 0.1 ~ 0.25 m、3B : 0.1 ~ 0.2 m、3C : 0.05 ~ 0.25 m)、中世以降の包含層である黄褐色粘シルト (第4層、層厚 0.05 ~ 0.1 m)、中世の包含層である褐灰色砂シルト (第5層、層厚 0.05 ~ 0.1 m)、中世の包含層である暗褐色粘シルト (第6層、層厚 0.02 ~ 0.05 m)、中世の包含層である褐色または褐灰色または黄褐色粘シルト (第7A ~ 7D層、層厚 7A : 0.05 ~ 0.25 m、7B : 0.05 ~ 0.25 m、7C : 0.05 ~ 0.15 m、7D : 0.05 ~ 0.15 m)、古墳時代の包含層である礫混じり褐色粗砂 (第8層、層厚 0.1 ~ 0.5 m)、古墳時代の包含層である黄灰色砂シルト (第9層、層厚 0.1 ~ 0.5 m)、古墳時代の包含層である褐色砂シルト (第10層、層厚 0.1 ~ 0.7 m)、弥生時代~古墳時代の包含層である褐色砂シルトまたは黄褐色の粘シルトまたは細~粗砂 (第11A ~ 11D層、層厚 11A : 0.1 ~ 0.15 m、11B : 0.1 ~ 0.2 m、11C : 0.1 ~ 0.3 m、11D : 0.15 ~ 0.25 m)、極少量の遺物を含む礫混じり褐色細~粗砂 (第12層、層厚 0.1 ~ 0.3 m)、極少量の遺物を含む礫混じり褐色粗砂 (第13層、層厚 1 m以上) である。

第1層、第2層は、道路整備予定地となる以前の作土および床土で、層厚の差はあるが、第1層は調査区の全域に、第2層も断続的であるがほぼ全域に分布する。第1層上面の高さは調査区南西部のみ 22.9 m と低く、その他は 23.0 ~ 23.2 m である。第1層下面の高さも調査区南西部のみ 22.7 m と低く、その他は 22.9 ~ 23.0 m である。第2層下面の高さは第1層と同様調査区南西部のみ 22.7 m と低く、その他は 22.8 ~ 22.9 m である。調査区南西部は下層の第3層が層厚 0.05 ~ 0.1 m と他の大部分と比べて薄いことから、現代の耕作により削られたものと判断できる。

第3層は、色調により3層に細別したが、碎屑物等その他の特徴は類似し、出土遺物の時期差もみられない。層厚の差はあるが、調査区の全域に分布する。第3層下面の高さは最も高い北東部では 22.8 m、層厚 0.1 m で、西側へ向かって下がるとともに層厚が厚くなり、最も低い西部で 22.5 m、層厚 0.4 m である。第4層は、層厚が薄いため明瞭に確認できない箇所も多く、断続的にみとめられる。第4層下面の高さは、東部では 22.6 ~ 22.7 m で、西側へ向かって下がり、最も低い西部で 22.5 m である。第4層上面では、中世以降の耕作に伴う溝群を検出しており、第3層は水田作土、第4層はこれに伴う床土と考えられる。第3層、第4層は弥生時代から中世の遺物を含み、中世を主体とする。形成時期は、下層出土遺物より 13 世紀以降と推定できるが、下限は明らかにし得ず、近世まで下る可能性がある。

第5層は、調査区東部のみに分布する。第5層下面の高さは最も高い北東部で 22.7 m、南西側へ向かってやや下がり最も低い箇所で 22.5 m、そこから南西側へ向かってやや上がり、22.7 m 前後となってほぼ水平となる。第5層は、堆積物微細堆積層分析および植物珪酸体分析から水

田作土と考えられる。第5層は弥生時代から中世の遺物を含み、中世を主体とする。形成時期は、下層出土遺物より13世紀以降と推定できる。

第6層は、調査区北部のみに分布する。第6層下面の高さは22.5m前後である。第6層上面では、12世紀頃と考えられる建物、柵、土坑、溝、柱穴、ピットを検出した。第6層は弥生時代から中世の遺物を含み、中世を主体とする。形成時期は12世紀頃と考えられる。

第7層は、色調や副たる碎屑物により4層に細別したが、主たる碎屑物等は類似し層界が不明瞭であること、出土遺物に時期差もみられないことから一連の層と判断した。層厚の差があり、一部断続的であるが、調査区北部を除く範囲に広く分布する。第7層下面の高さは最も高い北東部では22.5m、層厚0.05～0.1mで、南側へ向かってやや下がり、調査区中央部で22.4m、層厚0.1～0.2mとなる。中央部以南でさらに下がり、22.3m、層厚0.3mになり、南端部でやや上がって22.5m、層厚0.1～0.2mになる。第7層は、第6層の分布範囲外では第5層直下に堆積しており、上面では、第6層上面検出遺構に続く12世紀頃と考えられる建物等を検出した。第7層は弥生時代から中世の遺物を含み、中世を主体とする。形成時期は12世紀以前と考えられる。

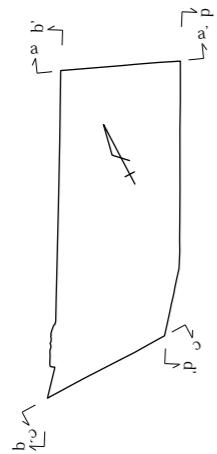
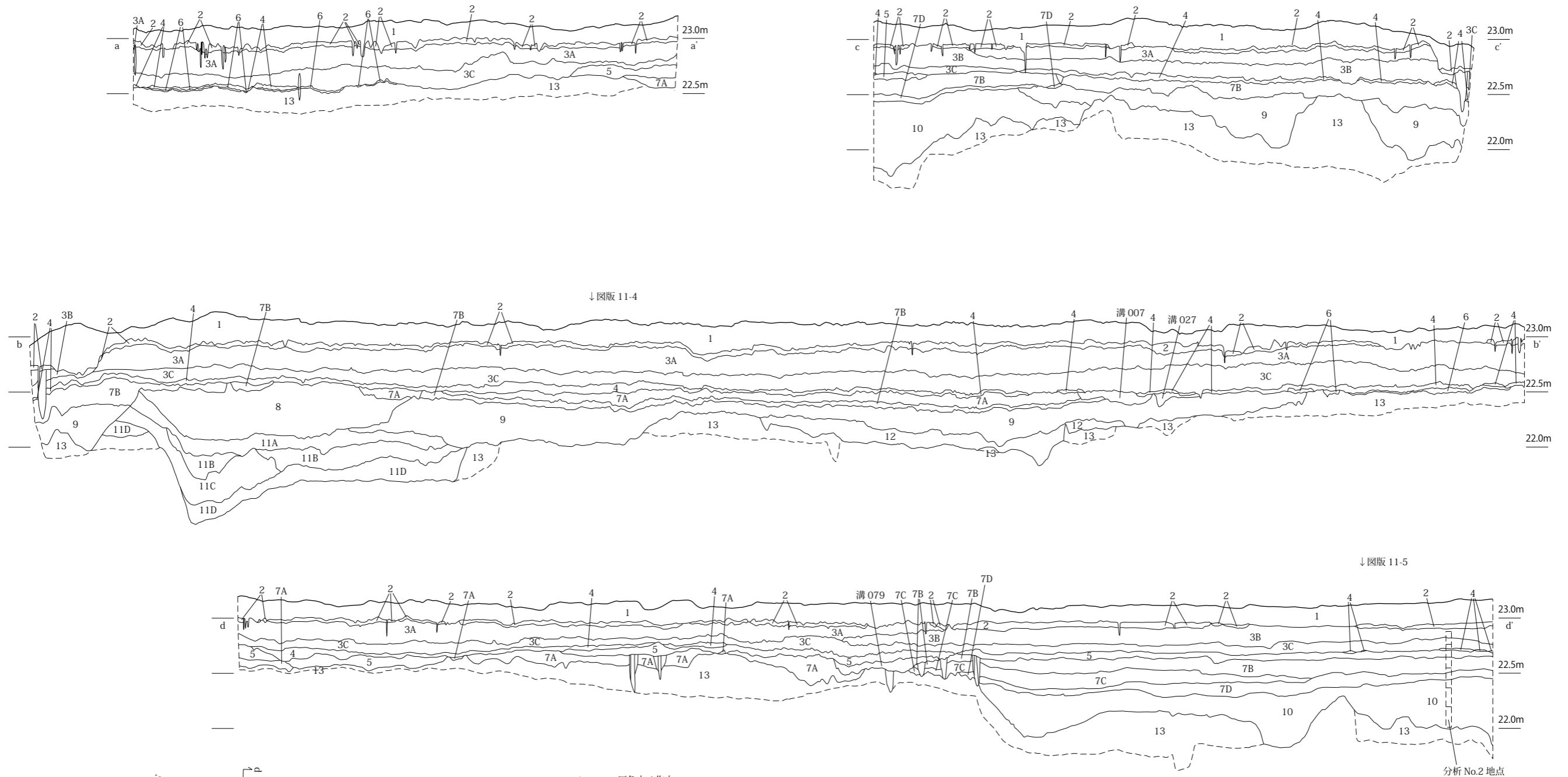
第8層は、調査区南西部にのみ分布する。第8層下面の高さは分布範囲の北端および南端で22.4mと高く層厚0.1m、中央部では22.1mと低く、層厚0.4～0.5mと厚い。活発な堆積作用による洪水堆積物と考えられる。第8層は弥生時代から古墳時代の遺物を少量含み、形成時期は、上層および下層出土遺物等より布留式後半～古墳時代後期頃と推定できる。

第9層は、調査区北西部から南西部に分布する。第9層下面の高さは、北西部で22.4m、層厚0.1mで、南側に向かって下がり、22.0m、層厚0.4mとなる。そこから南側でやや上がり22.3m、層厚0.1mとなり、再び下がり22.0m、層厚0.4mとなって、8A層に切られる形状で途切れる。南西部端では下面の高さが21.9～22.4m、層厚0.1～0.5mで断続的に分布する。第9層は洪水堆積物と考えられる。第9層は弥生時代から古墳時代の遺物を含み、形成時期は布留式後半～古墳時代後期と推定できる。

第10層は、調査区南部のみに分布する。第10層下面の高さは分布範囲の東端、西端で最も高く22.3m、層厚0.1mで、起伏が大きい。調査区南端部で最も低く21.8m、層厚0.7mである。第10層は、流入した洪水堆積物と考えられる。第10層は弥生時代から古墳時代の遺物を含み、形成時期は布留式後半～古墳時代後期と推定できる。

第11層は、色調や碎屑物により4層に細別したが、層界が不明瞭で出土遺物に時期差もみられないことから一連の層と判断した。調査区西部のみに分布する。第11層下面の高さは分布範囲の北東側で21.9m、層厚0.1mで、南西側に向かって下がり21.3m、層厚0.8mとなり、南西側で22.1m、層厚0.1mとなる。第11層は洪水堆積物と考えられる。第11層は弥生時代から古墳時代の遺物を含み、形成時期は弥生時代後期後葉～布留式後半と推定できる。

第12層は、調査区北西部のみに分布する。第12層下面の高さは分布範囲の北東側で最も高く22.2m、層厚0.1mで、南西側に向かって下がり21.9m、層厚0.3mとなった後、南西側に向かっ



- 1 灰色土 / 作土
- 2 明褐色土 / 床土
- 3A 褐灰色 (10YR6/1) 砂シルト混じり黄褐色 (10YR5/8) 砂シルト
- 3B 黄褐色 (10YR5/8) 砂シルト混じり褐灰色 (10YR6/1) 砂シルト
- 3C 黄褐色 (10YR5/8) 砂シルト混じり褐灰色 (10YR6/1) 砂シルト、3B層より酸化強
- 4 黄褐色 (10YR5/6) 粘シルト / 上面で耕作溝検出
- 5 中～粗砂混じり褐灰色 (10YR5/1) 砂シルト
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 粘シルト、Mn沈着顕著 / 上面で中世遺構検出
- 7A 黄灰色 (2.5Y6/1) 細砂混じり褐色 (10YR4/4) 粘シルト
- 7B 黄褐色 (10YR5/8) 粘シルト混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘シルト
- 7C 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト混じり黄褐色 (10YR5/8) 粘シルト
- 7D 黄褐色 (10YR5/8) 粘シルト
- 8 中～大礫混じり褐色 (10YR4/6) 粗砂
- 9 褐色 (10YR4/4) 砂シルト混じり黄褐色 (2.5Y6/1) 砂シルト
- 10 中礫混じり褐色 (10YR4/4) 砂シルト
- 11A 黄褐色 (10YR5/6) 粘シルト混じり褐色 (10YR4/4) 砂シルト
- 11B 褐色 (10YR4/4) 砂シルト混じりにふい黄褐色 (10YR5/4) 粘シルト
- 11C 中礫混じりにふい黄褐色 (10YR5/4) 細～粗砂
- 11D 中～粗砂混じり黄褐色 (10YR5/8) 粘シルト
- 12 中礫混じり褐色 (10YR4/4) 細～粗砂
- 13 中～大礫混じり褐色 (10YR4/4) 粗砂、部分的に褐色 (10YR4/4) 粘シルト含

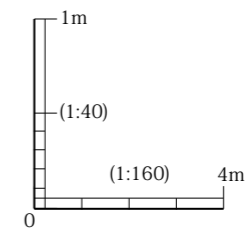


図 29 08019-4 区土層図

て上がり 22.2 m、層厚 0.1 m となる。第 12 層は洪水堆積物と考えられる。少量の弥生土器を含み、形成時期は弥生時代と推定できる。

第 13 層は、調査区全域に分布する。中～大礫混じり褐色粗砂層を主体とし、褐色シルト層を部分的に含む。下層確認調査により層厚 1 m 以上であることを確認したが、下面を確認することはできなかった。第 13 層は、活発な堆積作用による洪水堆積物と考えられる。第 13 層上面では自然流路の痕跡を検出した。第 13 層は土器を極少量含む。第 11・12 層の推定形成時期を考慮し、形成時期は弥生時代後期以前と推定できるが、形成に要した時期幅は明らかでない。

以上のように、08019-4 区では、2 面の遺構検出面を確認した。第 3 層を除去した第 4 層上面では、中世以降の耕作に伴う溝群を検出した。第 5 層を除去した第 6・7 層上面では、12 世紀頃と考えられる建物、柵、土坑、溝、柱穴、ピットを検出した。以下ではこれらの遺構検出面を、順に「耕作溝検出面」「中世遺構検出面」と呼称する。また、「中世遺構検出面」直上に堆積する第 5 層は水田作土と推定され、人為的遺構ではないが、第 13 層上面では自然流路の痕跡を検出し、自然流路内では庄内式併行期の土器溜まりを検出した。

第 2 節 耕作溝検出面の調査（図 30・31、図版 6）

基本層序第 4 層上面で検出した。遺構は溝のみで、調査区の南東部で確認している。

溝は 7 条検出した。いずれも北東—南西方向で、主軸方向は、溝 070 が N—41°—E、溝 071 が N—43°—E、溝 072 が N—46°—E、溝 073 が N—29°—E、溝 074・076 が N—40°—E、溝 075 が N—42°—E である。分布範囲は N—29°—46°—E で、溝 073 がやや外れるものの、比較的まとまりが強い。

溝の最大幅は、溝 070 が 0.8 m、他の溝 071～076 は 0.15～0.3 m である。溝 070 は南西部で 2 条に分かれ、それぞれ最大幅は 0.3 m、0.45 m となっており、溝 2 条が一体として検出されたものと考えられる。深さは 0.02～0.05 m である。

埋土は、いずれも黄灰色砂シルトで、直上層の基本層序第 3 層に類似する。

遺物は溝 070 から瓦器、須恵器、土師器が、溝 071 から瓦器、須恵器が、溝 072・073・076 から瓦器、土師器が、溝 074・075 から土師器が出土した。いずれも小片で図化できるものはないが、古墳時代および中世に位置づけられる。

これらの溝は、いずれも耕作に伴う溝と考えられ、鋤溝の可能性が高い。遺構検出面直上層の基本層序第 3 層は、堆積物微細堆積層分析により水田作土と判断され、植物珪酸体分析でもイネが多量に検出されている。したがって、第 3 層は水田作土、第 4 層はこれに伴う床土と考えられ、これらの耕作溝は水田耕作によるものと判断できる。作土層である第 3 層が 15 世紀の遺物を含むこと、下層出土遺物等より、遺構検出面の時期は 13 世紀以降と推定できるが、第 3 層直上層は現代作土であることから下限は明らかにし得ず、近世まで下る可能性がある。

なお、調査区北部および南西部では遺構を確認していないが、基本層序第 3 層は調査区のほか

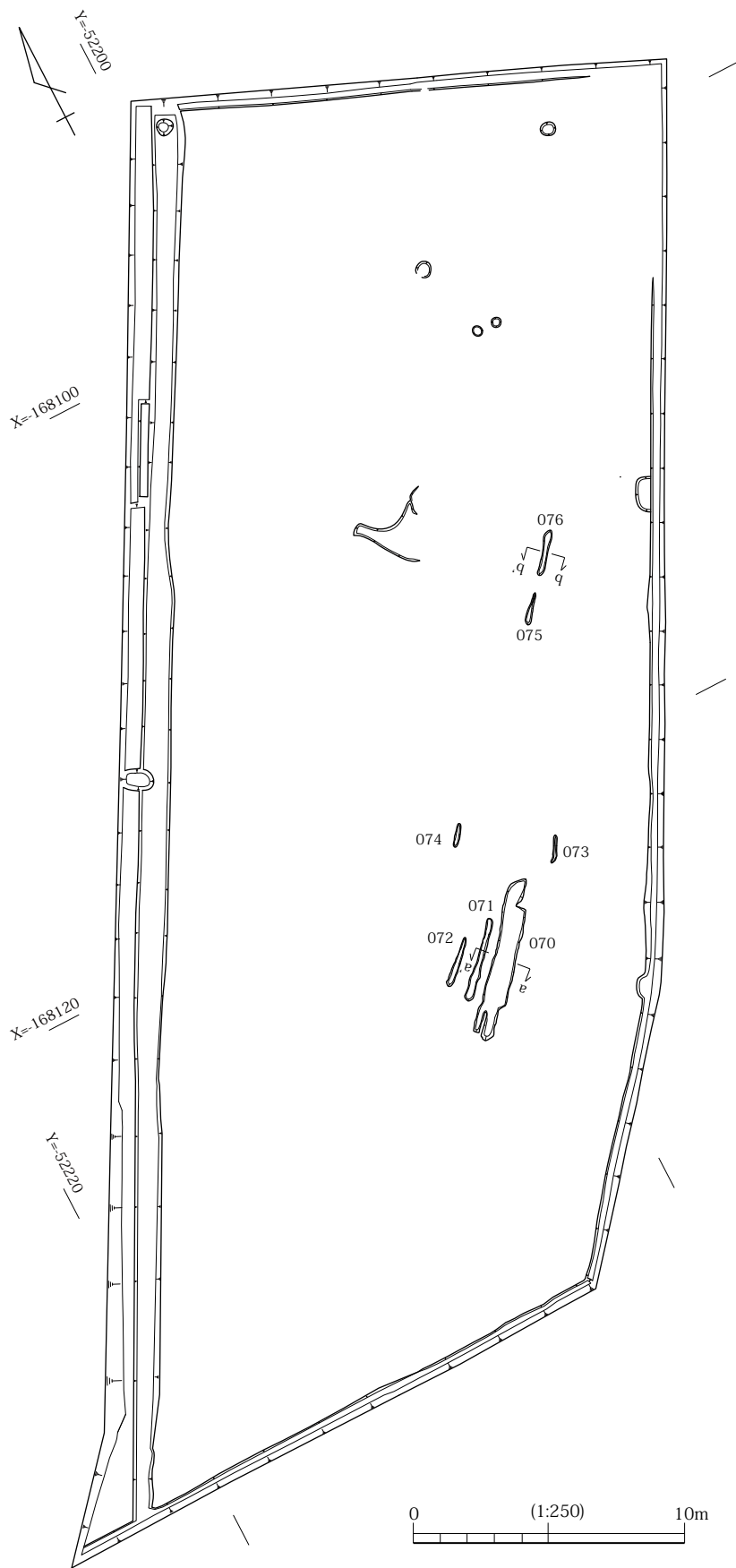


图 30 08019-4 区耕作溝検出面全体図

全域に分布し、第4層も断続的ながら広範囲に分布する。したがって、遺構の空白域があるのは耕作の継続により削平を受けたためか、深さが浅く平面的に検出できていないためと考えられ、水田耕作は調査区全域で行われていたものと推定できる。

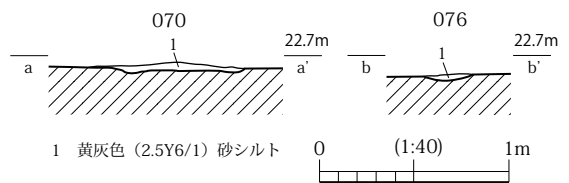


図 31 08019-4 区溝 070・076 断面図

第3節 中世遺構検出面の調査（図 32、図版 7）

基本層序第6・7層上面で検出した。遺構は掘立柱建物3棟、柵1基、土坑10基、溝6条、柱穴9基、ピット7基である。遺構は北東部に密であるが、調査区のほぼ全域で検出した。第1節で述べたように、第6層は調査区北部のみに分布しており、層厚0.02～0.05mと薄い。第6層の分布範囲外では第7層上面で遺構を検出しており、第6層の層厚が非常に薄い部分では直下層の第13層上面まで掘削して検出した遺構もある。

建物 1（図 33、図版 8） 調査区北部で検出した。柱穴 006・008～019・085～089・091・093・094・097・098・117・118・120・121・132 の 28 基から成り、後述のように柱穴 028・077・092・119 も関連する可能性がある。柱穴 094・098・093・118・120・121 から成る南東側柱の柱筋の通りがよいことから、北東—南西方向 5 間、北西—南東方向 5 間の掘立柱建物と想定したが、南東側柱の柱穴 093 と柱穴 118 の間で 2 棟に分かれる可能性もある。南隅部の柱穴は溝 099 の掘削により削平されたものと考えられる。

5 間、5 間の建物との想定では、北東—南西方向の長さが南東側柱で推定 9.7 m、北西—南東方向の長さが南西側柱で推定 9.9 m と、ほぼ正方形を呈する。柱間寸法は、北東—南西方向が 1.8～2.1 m、北西—南東方向が 1.5～2.2 m である。床面積は、本来は北隅部に側柱が存在したとすれば 96.0㎡、北隅部に柱がなく L 字状であったとすると、63.1㎡である。主軸方向は、N—44°—E および N—46°—W である。

柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は、直径 0.35～0.55 m のものが大半であるが、柱穴 028 は直径 0.3 m、柱穴 085 は直径 0.2 m と小さい。柱掘方の深さは 0.1～0.45 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.1～0.35 m である。柱掘方の深さにばらつきがあるが、平面規模との相関はみとめられない。柱掘方が 0.1 m 以下と浅い柱穴は、柱穴 016・018・077・085・089 等柱掘方直径が 0.35 m 以下のものが多いが、柱穴 094・097 等直径 0.4～0.5 m のものもあり、これらは北部に偏って分布する。したがって、深さの差異は後世の削平の影響である可能性が高い。柱掘方底面は礫混じりの基本層序第 13 層に達しているものが多く、埋土に含まれる礫は、この層に由来するものと考えられる。柱穴 077・119 は、柱筋から外れるが、それぞれ北東側柱、南東側柱を構成した可能性がある。柱穴 092 についても柱筋から外れるが、北側の柱穴 089・018 間に柱穴を検出していないため、建物 1 を構成する可能性がある。柱穴 028 は規模が小さく、柵、塀等付属施設を構成していた可能性がある。

なお、建物1は、柱穴006・008～019・028を調査区北西部調査時に、柱穴077・085～089・091～094・097・098・117～121・132を調査区南東部調査時に検出しており、北西部調査時は南東部への展開状況を把握できていなかった。このために北隅部の側柱を検出できなかった可能性もある。

また、先述のように建物1が2棟に分かれると想定すると、北東側の2間、2間の総柱建物と、南西側の桁行5間、梁行2間の総柱建物となる。北東側の建物は、北東—南西方向の長さが南東側柱で3.7m、北西—南東方向の長さが北東側柱で推定3.9mと、ほぼ正方形を呈する。柱間寸法は、北東—南西方向が1.8～2.0m、北西—南東方向が1.5～2.0mである。南西側の建物は、桁行の長さは北東側柱で9.8m、南西側柱で推定9.9m、梁行の長さは北西側柱で4.0m、南東側柱で推定4.0mと、長方形を呈する。柱間寸法は、桁行1.9～2.2m、梁行1.8～2.1mである。

遺物は、柱穴006・010・015・017・085～087・091・092・097・098・117・118・132から瓦器、土師器が、柱穴008・018・028・094・120・121から土師器が、柱穴009・011・012・014・019・088・089・119から瓦器、須恵器、土師器が、柱穴013から磁器、瓦器、土師器、鉄器が、柱穴093から磁器、瓦器、須恵器、土師器が出土し、このうち47点を図化した(75～120・679)。出土遺物より、建物1は12世紀頃に位置づけられる。

建物2(図34、図版9—1・2) 調査区北部で検出した。柱穴078・080～084・090・130・133の9基から成る、北東—南西方向2間、北西—南東方向2間の総柱建物である。北東—南西方向の長さが北西側柱で3.6m、南東側柱で3.7m、北西—南東方向の長さが北東側柱、南西側柱とも3.7mと、ほぼ正方形を呈する。柱間寸法は、北東—南西方向が1.7～1.9m、北西—南東方向が1.8～1.9mである。床面積は13.5㎡、主軸方向は、N—42°—EおよびN—46°—Wである。

柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は直径0.35～0.5m、深さ0.1～0.3m、柱痕跡の平面規模は直径0.1～0.2mである。柱掘方の深さと平面規模との相関はみとめられない。柱掘方が0.3m程度と深い柱穴は、南東側柱の柱穴081～083で、その他は0.1～0.2m程度であることから、建物1と同様、深さの差異は後世の削平の影響である可能性が高い。柱掘方底面は礫混じりの基本層序第13層に達しているものが多く、埋土に含まれる礫は、これらの層に由来するものと考えられる。

遺物は、柱穴078・080・082・130・133から土師器が、柱穴081・083・084・090から瓦器、土師器が出土し、このうち3点を図化した(121～123)。

建物3(図35、図版9—3) 調査区北東部で検出した。柱穴124～129の6基から成る、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。桁行の長さは北東側柱で1.8m、南西側柱で2.0m、梁行の長さは北西側柱で1.3m、南東側柱で1.5mと、いびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北東側柱で1.0mと0.8m、南西側柱で1.0mである。床面積は2.7㎡、主軸方向はN—48°—Wである。

柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は直径0.3～0.45m、深さ0.1～0.15m、柱痕跡の平面規模は直径0.05～0.15mである。柱掘方底面は礫混じりの基本

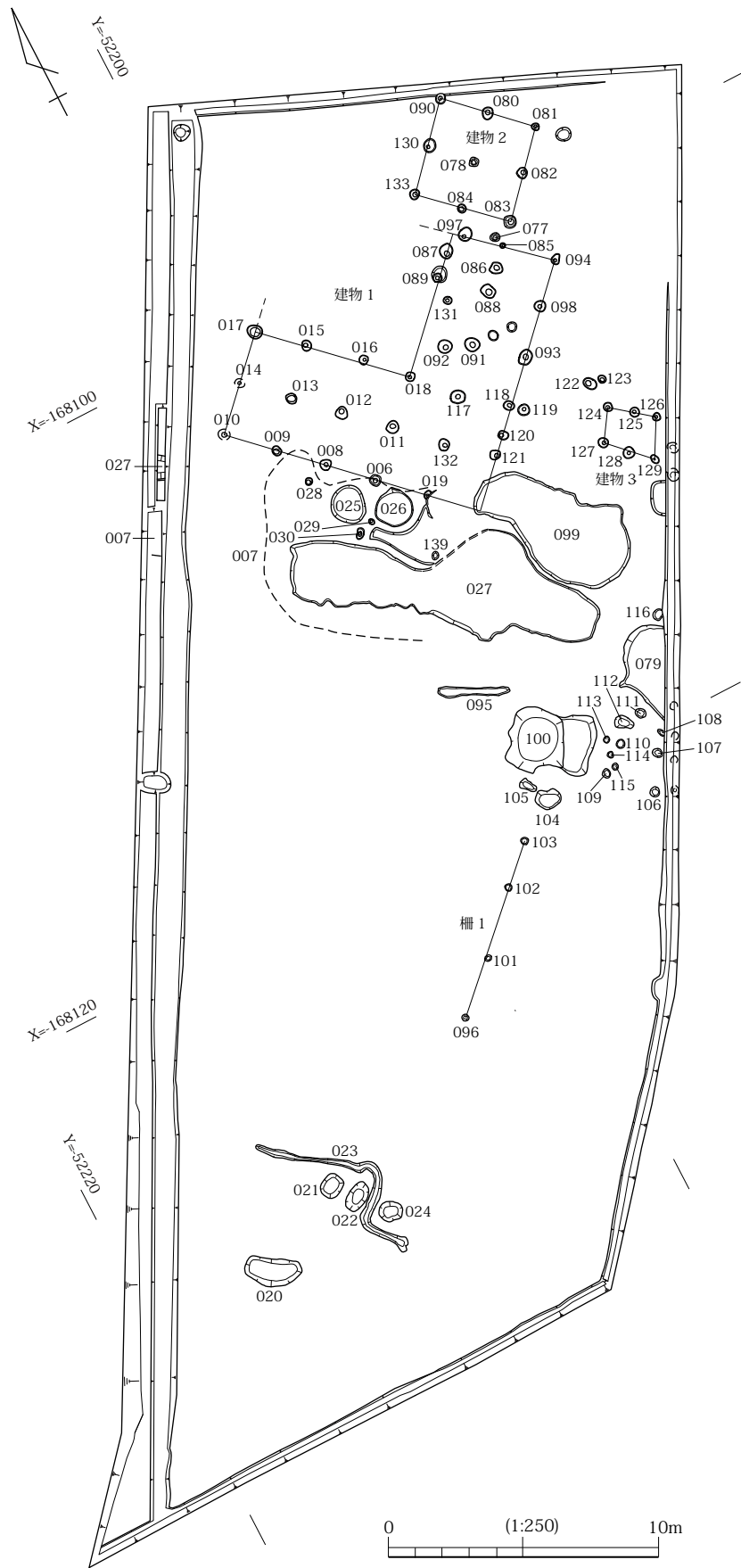


図 32 08019-4 区中世遺構検出面全体図

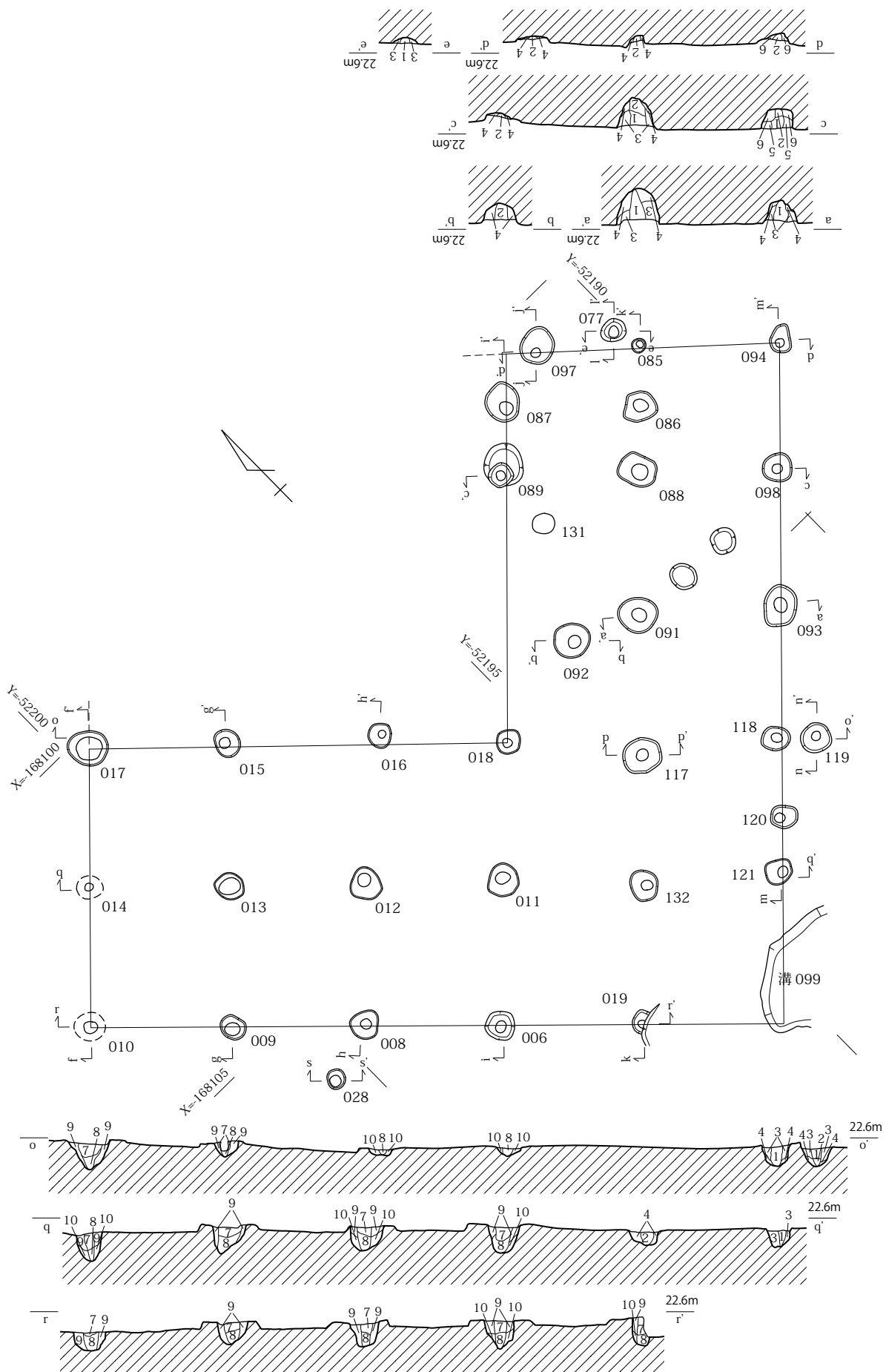
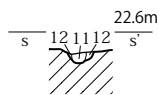
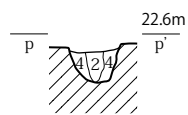
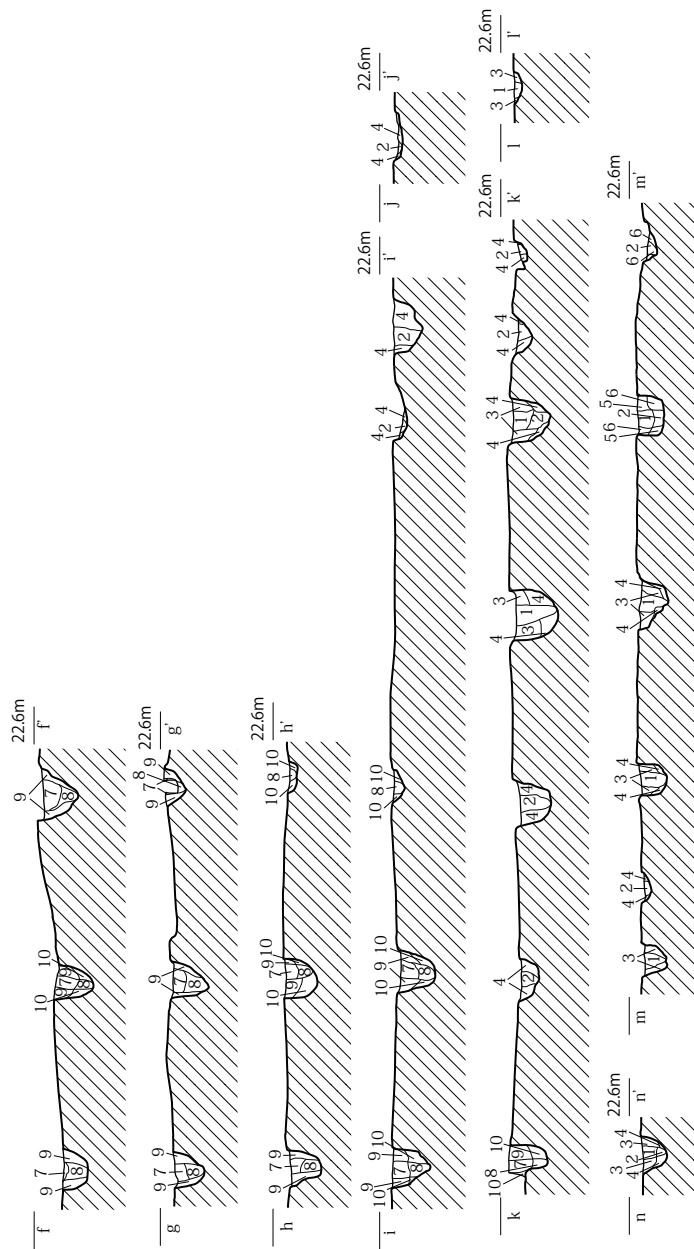
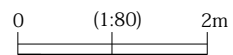


图 33 08019-4 区建物 1 平面图·断面图



- 1 中礫・にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘土混じり
褐色 (10YR4/4) 中～粗砂
- 2 中礫混じり褐色 (10YR4/4) 砂シルト
- 3 中礫・1層より少量のにぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘土混じり
褐色 (10YR4/4) 中～粗砂
- 4 中礫混じり褐色 (10YR4/4) 中～粗砂
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中～粗砂
- 7 中礫・黄灰色 (2.5Y5/1) 粘シルト混じり褐色 (10YR4/4) 粘シルト
- 8 中礫・黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト混じり褐色 (10YR4/4) 砂シルト
- 9 中礫混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂シルト
- 10 中礫混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂
- 11 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘シルト
- 12 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト



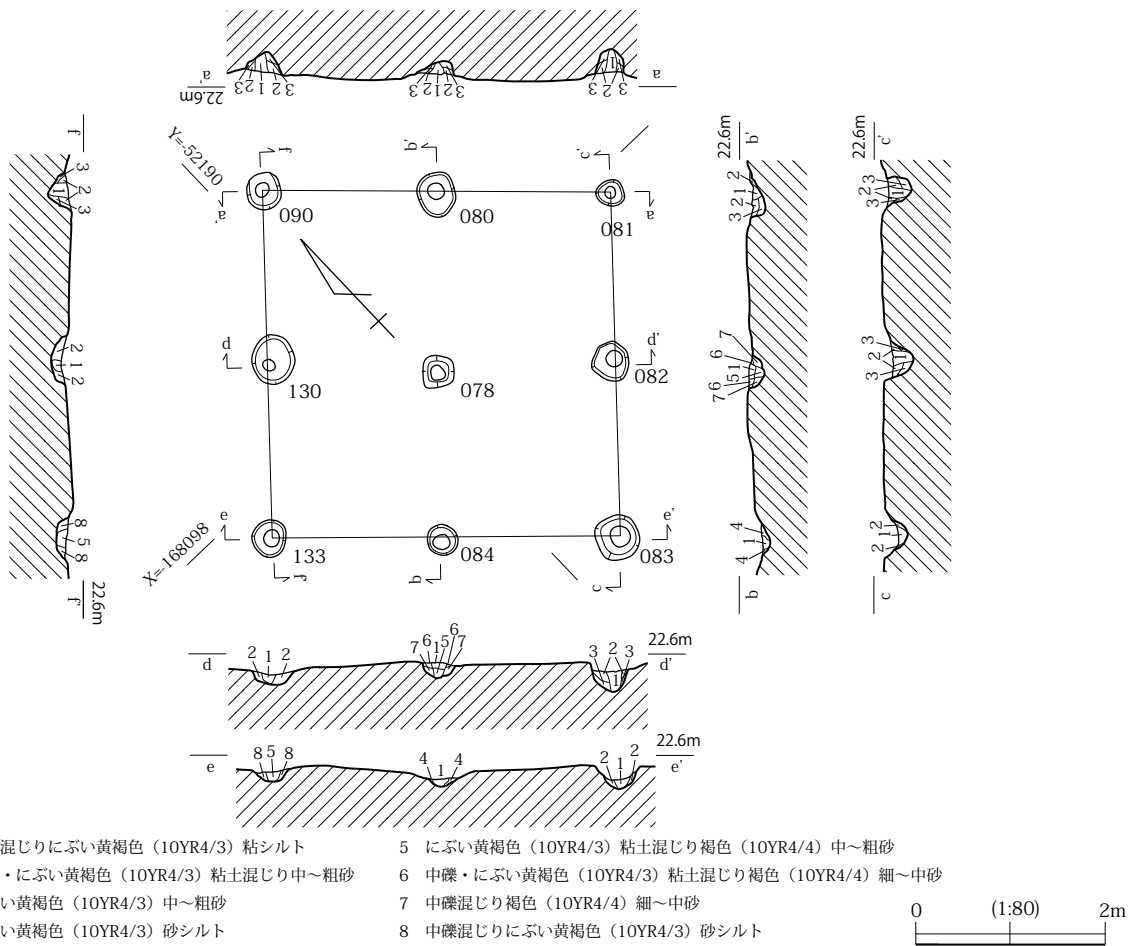


図 34 08019-4 区建物 2 平面図・断面図

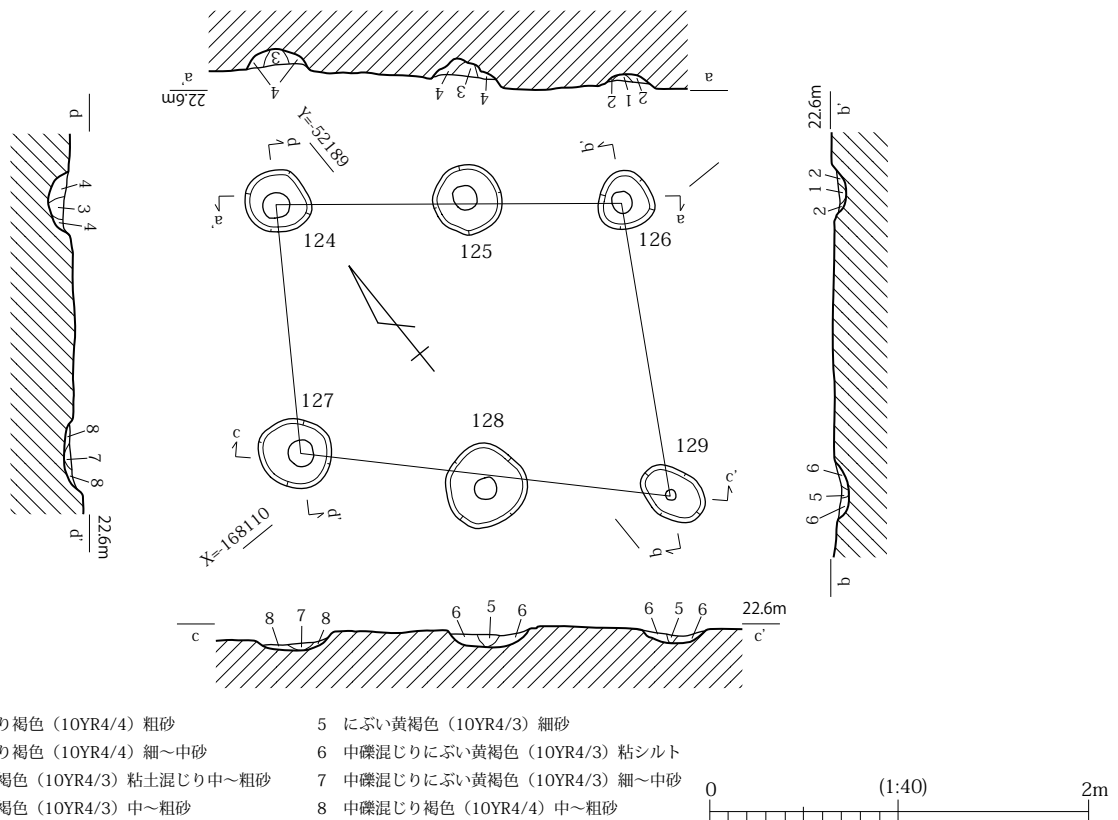


図 35 08019-4 区建物 3 平面図・断面図

層序第13層に達しており、埋土に含まれる礫は、この層に由来するものと考えられる。

遺物は、柱穴124・125・127から土師器が、柱穴128から瓦器、土師器が出土したが、いずれも小片で、図化できるものはなかった。

柵1（図36、図版9—4） 調査区中央部のやや南東寄りで検出した。ピット096・101～103の4基から成る、北東—南西方向の柵である。いずれも柱痕跡を確認できなかったが、平面規模および深さの類似したピットが並ぶことから柵と判断した。北東—南西方向の長さは6.9mで、主軸方向はN—46°—Eである。

ピットの平面形は円形で、平面規模は直径0.25m前後、深さ0.05～0.1mである。

遺物は、ピット101から土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

土坑025・026 調査区北部、建物1の南西側で検出した。平面形はややいびつな円形で、土坑025は直径1.3m、深さ0.1m、土坑026は直径1.4m、深さ0.03mである。

埋土は土坑025の上層が暗褐色粘シルト、下層が褐灰色砂シルト、土坑026は暗褐色粘シルトである。

遺物は、土坑025から瓦器、須恵器、土師器が、土坑026から瓦器、土師器が出土した。図化できたものは各土坑1点である（127・128）。

土坑100（図37） 調査区中央部のやや南東寄り、柵1の北東側で検出した。平面形はいびつな隅丸方形で、長軸3.2m、短軸1.8～2.4mである。深さは、南東部では0.1mと浅く、北西側に向かって深くなり、深さ0.3～0.4mから急激に落ち込んで、最深部は1.2mとなる。底面は現在の湧水層に達することから井戸の可能性はあるが、井戸枠の痕跡は確認できず、断定できない。

遺物は土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

土坑020～022・24、溝023（図38、図版9—5） 調査区南西部で検出した。土坑020の平面形は楕円形で、長軸2.1m、

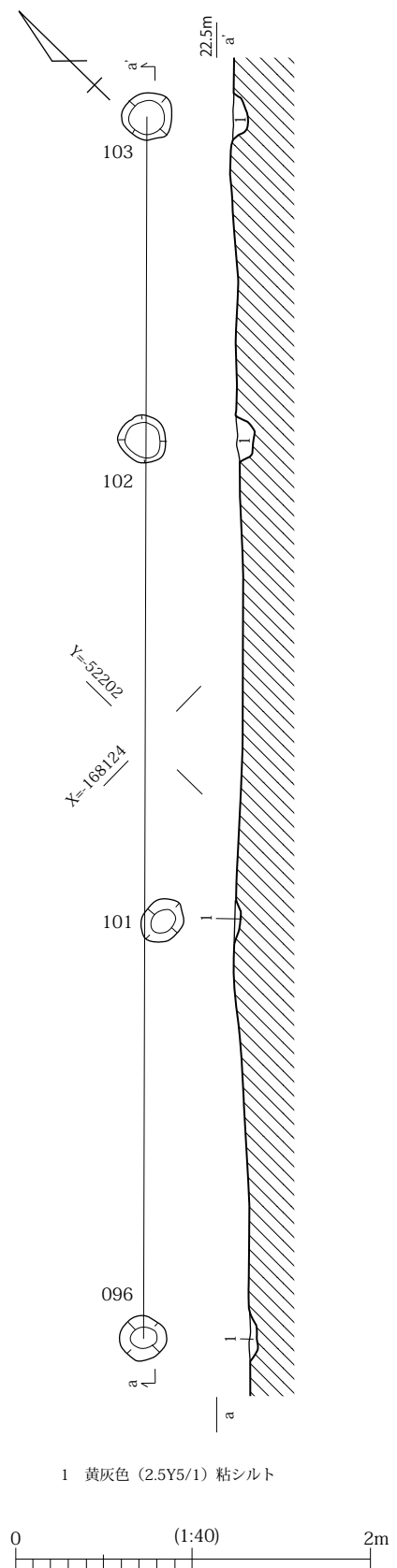
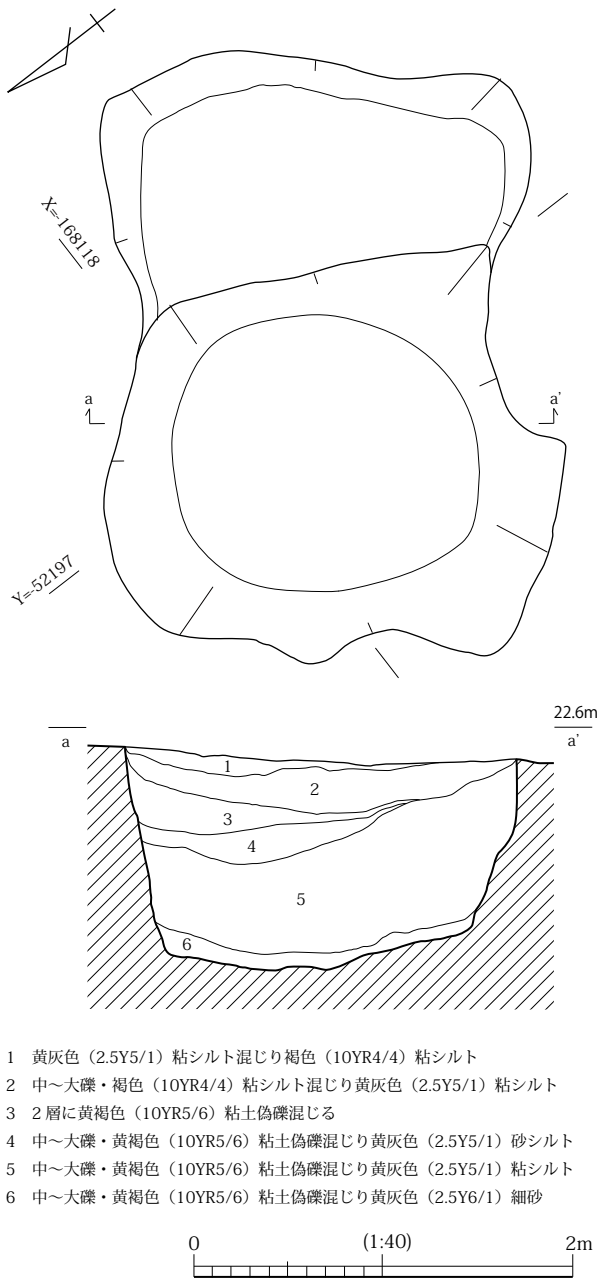


図36 08019-4区柵1
平面図・断面図



- 1 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘シルト混じり褐色 (10YR4/4) 粘シルト
- 2 中～大礫・褐色 (10YR4/4) 粘シルト混じり黄灰色 (2.5Y5/1) 粘シルト
- 3 2層に黄褐色 (10YR5/6) 粘土偽礫混じる
- 4 中～大礫・黄褐色 (10YR5/6) 粘土偽礫混じり黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト
- 5 中～大礫・黄褐色 (10YR5/6) 粘土偽礫混じり黄灰色 (2.5Y5/1) 粘シルト
- 6 中～大礫・黄褐色 (10YR5/6) 粘土偽礫混じり黄灰色 (2.5Y6/1) 細砂

図37 08019-4区土坑100平面図・断面図

坑112が黄灰色粘シルトである。

遺物はいずれも瓦器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

溝007・027・079・099(図39) 調査区中央部で検出した。溝007は、掘削時には自然の落ち込みと考えており、調査区壁面の土層断面の精査等により溝と判断したため、破線で表示した。調査区中央部で全長6.0m、幅5.5～6.4mの範囲で検出し、調査区北西部壁面でも類似した埋土をもつ溝状遺構を幅2.8mにわたって確認した。深さ0.05～0.1mである。確認できた深さが浅いことから、後世の削平により断裂したもので、本来は調査区外へのびる一連の溝であったと考えられる。全長10.5m以上であったと推定でき、主軸方向は、N-53°-Wである。溝007の掘削後に柱穴006・019・028～030、土坑025・026、溝027を検出した。遺物は土師質羽釜、瓦

短軸1.0m、深さ0.15mである。

土坑021の平面形は不整形で、直径0.8m前後、深さ0.1mである。

土坑022の平面形は楕円形で、長軸1.1m、短軸0.7m、深さ0.15mである。

土坑024の平面形は不整形で、直径0.7m前後、深さ0.15mである。

埋土はいずれも褐灰色砂シルトである。

遺物は土坑020・022から須恵器、土師器が、土坑021から土師器が、土坑024から瓦器、須恵器、土師器、瓦、石製品が出土した。土坑024出土の瓦1点(669)、石製品1点(674)を図化した。

溝023は、北西-南東方向から屈曲して土坑022・024間を北東-南西方向に通り、再び屈曲して北西-南東方向となる。総延長は8.2m、幅0.15～0.4m、深さ0.05mである。北西部の最も長く北西-南東方向にのびる箇所の主軸方向は、N-55°-Wである。

遺物は須恵器、土師器、石製品が出土し、石製品1点を図化した(675)。

その他の土坑 土坑104・105・112がある。平面形は、いずれも不整形である。埋土は、土坑104・105が黄褐色砂シルト、土

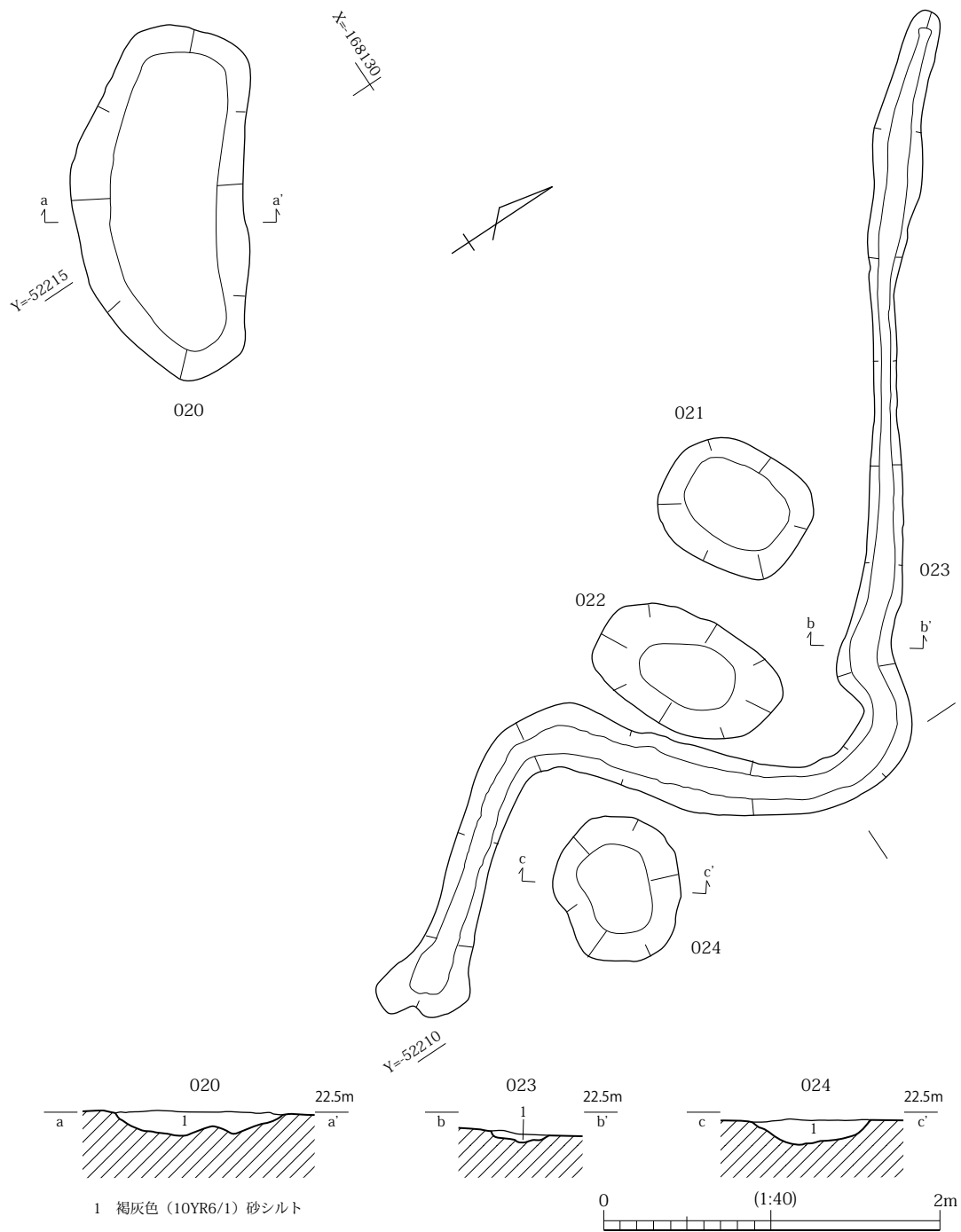


図 38 08019-4 区土坑 020～022・24、溝 023 平面図・断面図

器、須恵器、土師器が出土し、このうち 35 点を図化した (129～163)。溝 007 の出土遺物は 12 世紀中葉～後葉頃に位置づけられるが、後述のように溝 007 埋土は溝 027 埋土上にも堆積すること、溝 027 埋土は 13 世紀の遺物を含むことより、埋没時期は 13 世紀に下るものと考えられる。

溝 027 は、調査区中央部で全長 11.5 m、幅 1.7～4.2 m の範囲で検出し、調査区北西部壁面でも類似した埋土をもつ溝状遺構を幅 0.9 m にわたって確認した。深さ 0.05～0.25 m である。確認できた深さが浅いことから、後世の削平により断裂したもので、本来は調査区外へのびる一連の溝であったと考えられる。溝 079 は、調査区外へのびるが、確認できる範囲では、全長 1.5

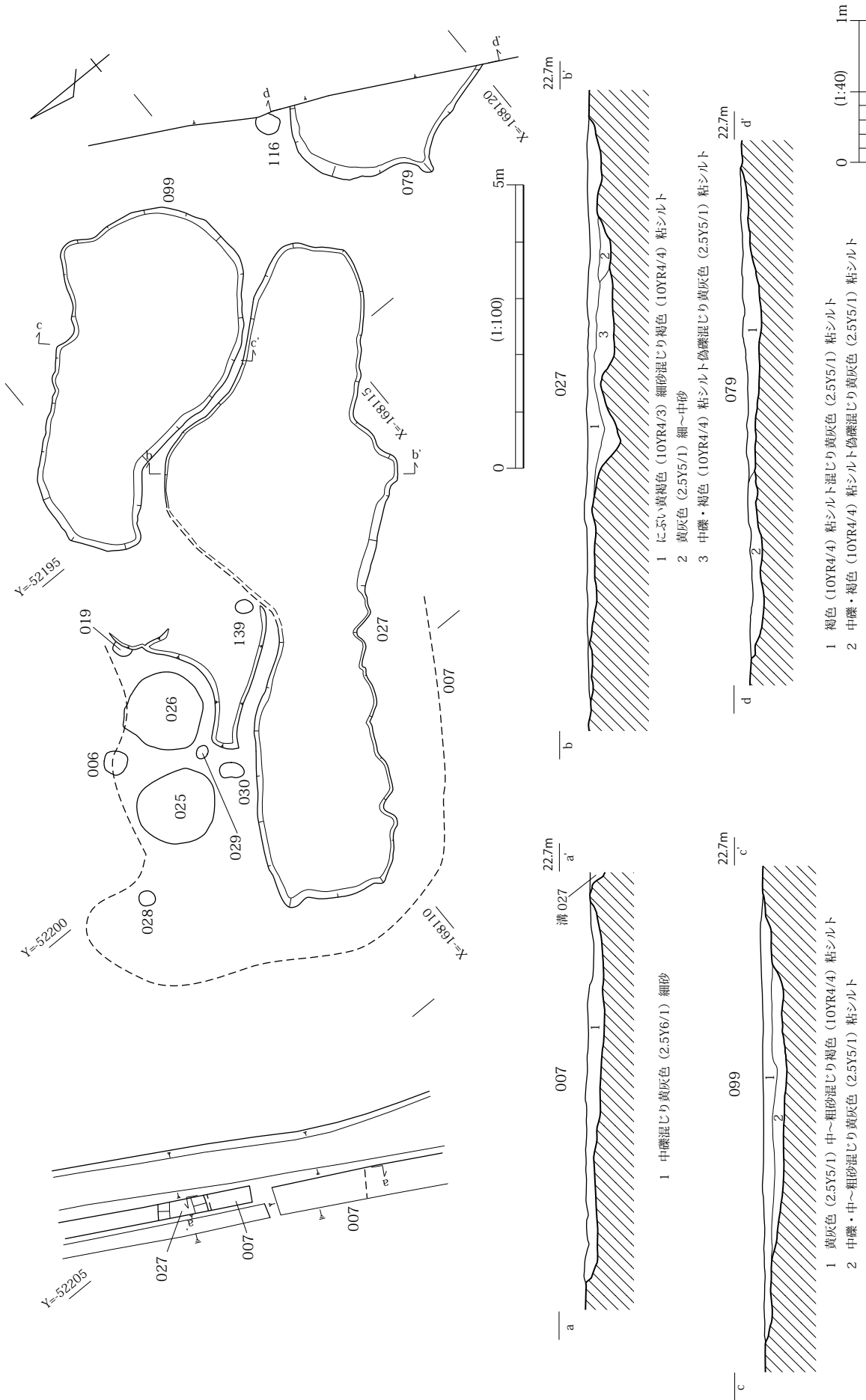


図 39 08019-4 区溝 007・027・079・099 平面図・断面図

m以上、幅 3.5 m以上、深さ 0.05 ~ 0.15 mである。溝 099 は、全長 6.1 m、幅 1.9 ~ 3.4 m、深さ 0.05 ~ 0.2 mである。溝 027 の埋土 1 層および 3 層はそれぞれ溝 079・099 埋土 1 層および 2 層に類似する。また、この 3 条の溝の検出範囲端部では深さがいずれも 0.05 mと浅い。以上より、本来は調査区を横断する全長 20.0 m以上、最大幅 6.3 mの一連の溝であった可能性が考えられ、主軸方向は、N-45°-W である。遺物は、溝 027 から土師質羽釜、須恵器、土師器が出土し、このうち 69 点を図化した (164 ~ 232)。溝 079 からは瓦器、須恵器、土師器が出土し、このうち 2 点を図化した (233・234)。溝 099 からは、土師質羽釜、瓦器、土師器が出土し、このうち 12 点を図化した (235 ~ 246)。出土遺物より、溝 027・079・099 は 12 ~ 13 世紀に位置づけられる。

溝 095 調査区中央部、土坑 100 の北側で検出した。長さ 2.7 m、幅 0.3 ~ 0.4 m、深さ 0.05 mである。主軸方向は、N-64°-W である。埋土は黄褐色粘シルトである。遺物は瓦器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

柱穴・ピット 構成する建物や柵を明らかにし得なかった柱穴、ピットはそれぞれ 9 基、7 基検出した。柱穴に該当するものは 029・030・106 ~ 108・122・123・131・139、ピットに該当するものは 109 ~ 111・113 ~ 116 である。また、これら以外に、調査区東壁断面の精査により、この面に伴うと考えられる柱穴 3 基、ピット 3 基を確認した。溝 007・027・079・099 を境として、柱穴は北東側に、ピットは南西側に多く分布する。

柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は直径 0.2 ~ 0.45 m、深さ 0.05 ~ 0.4 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.1 ~ 0.2 mである。柱掘方の深さは柱穴 029 が 0.05 m、柱穴 139 が 0.1 mと浅く、柱穴 122 が 0.4 mと深い。その他 6 基はいずれも 0.2 m前後である。

ピットの平面形は円形で、平面規模は直径 0.25 ~ 0.35 m、深さ 0.05 ~ 0.1 mである。

埋土は、溝 007・027・079・099 より北東側の柱穴は建物 1 ~ 3 に類似し、第 13 層に由来すると考えられる礫の混じるものが多い。溝 007・027・079・099 より南西側の柱穴およびピットの埋土は柵 1 の埋土に類似し、礫はほとんど混じらない。北東側では遺構検出面ベース層の基本層序第 6 層および第 7 層の層厚が薄く掘方底面が礫混じりの基本層序第 13 層に達するのに対し、南西側では遺構検出面ベース層の第 7 層が厚く、掘方底面が基本層序第 13 層まで達しないためと考えられる。

遺物は、柱穴 029・139 から瓦器が、柱穴 030・107・122 から瓦器、須恵器、土師器が、柱穴 106 から瓦器、須恵器、土師器、平瓦が、柱穴 108・123・131 から瓦器、土師器が出土した。また、ピット 109 から瓦器、土師器が、ピット 110 から土師質羽釜、瓦器が、ピット 113 から瓦器が出土した。小片が多く、図化できたものは柱穴 106・122・123 から出土した計 3 点である (124 ~ 126)。

小結 以上、中世遺構検出面の遺構は、出土遺物からは、建物 1 および溝 007 が 12 世紀、溝 027・079・099 が 12 ~ 13 世紀に位置づけられる。その他の遺構からの出土遺物は、小片が多く

出土量も少ないことから詳細な時期比定の困難なものが多いが、石製品等の混入を除けばいずれも12世紀頃に位置づけられる。溝出土遺物に13世紀頃のやや新しい時期の遺物が含まれるが、機能時と埋没時の時期差を想定できることから、中世遺構検出面の遺構は12世紀に位置づけられよう。

主軸方向をみると、建物1～3、柵1、溝007および溝027・079・099はN-42～46°-EおよびN-45～53°-Wで、一定の方向性を意識したものと考えられる。ただし、溝099は建物1の埋没後に掘削されたものと考えられることから、溝027・079・099が一連の溝であるならば、これらの溝は建物1の廃棄後に掘削されたか、幅を拡張したものとなる。また、溝007埋土は、建物1を構成する柱穴の埋土上に堆積しており、先後関係がみとめられる。溝007埋土は溝027埋土上にも堆積するが、溝007の主軸方向は溝027とも近いため、掘削の先後関係ではなく同一の溝の上層部である可能性も考えられる。また、建物1～3はいずれも溝007・027・079・099より北東側に位置し、先述のように、柱穴は北東側に、ピットは南西側に多く分布するという傾向もみとめられる。こうした分布状況より、これらの溝が居住域を画するものであった可能性が高いことから、建物1と溝007・027・079・099は一時期は共存しており、建物1の廃棄後に拡張されたものと推定できる。なお、深さ0.05mの柱穴があることから、本来の地表面より0.45mほどは削平されているものと推定できる。

一方、溝023はN-55°-W、溝095はN-64°-Wと主軸方向が建物等とはやや異なっている。また、溝095は形状より耕作に伴う溝と考えられる。溝023・095、土坑020～022・024はいずれも溝007・027・079・099より南西側に位置し、埋土が類似していることから、同様の性格をもつ可能性がある。また、これらの埋土は、直上に堆積する基本層序第5層に類似している。第5層は、堆積物微細堆積層分析によって水田作土と判断され、植物珪酸体分析でもイネが多量に

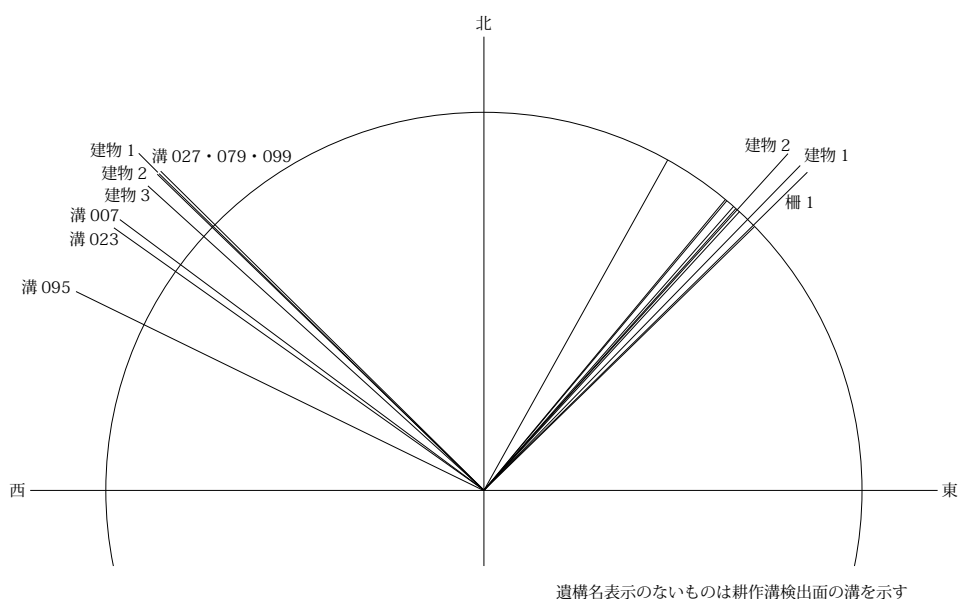


図40 08019-4区遺構主軸方向分布図

検出されたことから、水田作土と考えられる。したがって、溝 023・095、土坑 020～022・024 は、第 5 層を作土とする水田耕作に伴う遺構である可能性がある。そうであるとするなら、建物や溝の廃絶後に営まれた水田ということになる。また、基本層序第 7 層については、堆積物微細堆積層分析によって、第 7B 層は水田作土の可能性が、第 7D 層は盛土の可能性が指摘されているが、植物珪酸体分析では第 7B・7D 層ともイネの検出量は比較的低かった。第 7 層が水田作土であれば、調査区北東部の建物や溝と同時期に水田耕作が行われていた可能性があるが、植物珪酸体分析結果からは断定できない。

ここで、以上 2 面の遺構検出面で検出された遺構の主軸方向について検討する（図 40）。耕作溝検出面の溝、中世遺構検出面の建物 1・2 の北東—南西方向、柵 1 の主軸方向を比較すると、いずれも耕作溝検出面の溝群の分布範囲に入り、これら 2 面の遺構は、概ね一定の方向性を意識しているものと考えられる。この点については、他の調査区の成果や現在に残る地割とあわせて第 9 章第 1 節で述べる。

第 4 節 自然流路の調査（図 41、巻頭図版 2—1・2、図版 10）

基本層序第 8～11 層は、流入した洪水堆積物と判断され、第 13 層上面では、自然流路の痕跡を検出した。第 8 層は調査区南西部に、第 9 層は調査区北西部から南西部に、第 10 層は調査区南部に、第 11 層は調査区西部に分布する。第 13 層上面は、調査区北東部から、起伏を繰り返しながら南西部に向かって緩やかに下がり、調査区南西隅から約 22 m 北東で急激に下がった後、南西端でやや上がる。この急激に下がる部分より南西側では、第 10・11 層から多量の土器が出土した。この箇所を特に自然流路 031 と呼称する。

第 8 層は、自然化学分析は行っていないが、堆積状況等より洪水堆積物であると考えられる。大礫が多く混じっており、活発な堆積作用によるものであろう。弥生時代から古墳時代の遺物を少量含み、形成時期は、上層および下層出土遺物等より布留式後半～古墳時代後期頃と推定できる。

第 9 層は、自然化学分析は行っていないが、堆積状況等より洪水堆積物であると考えられる。弥生時代から古墳時代の遺物を含み、形成時期は布留式後半～古墳時代後期と推定できる。

第 10 層は、堆積物微細堆積層分析によって不明瞭ながら水平方向の葉理状の構造が確認され、流入した洪水堆積物であると判断された。また、上位の水田耕作に伴う土壌化が上層ほど顕著にみとめられたが、植物珪酸体分析によるイネの検出量は低いことから、この層自体は作土ではないと考えられる。弥生時代から古墳時代の遺物、特に布留式後半の遺物を多く含み、形成時期は布留式後半～古墳時代後期と推定できる。

第 11 層は、自然化学分析は行っていないが、堆積状況等より洪水堆積物であると考えられる。弥生時代から古墳時代の遺物を多く含み、形成時期は弥生時代後期後葉～布留式後半と推定できる。

以上より、第8～11層は、弥生時代後期から古墳時代後期にかけて流入した洪水堆積物である。現在は調査区の南方約500mを槇尾川が西流しており、当時の河川活動によって流入したものと考えられる。

自然流路の痕跡を上面で確認した第13層は、試掘・確認調査の結果および土層観察用トレンチ掘削の際の観察により、遺物はほとんど含まれないと予想された。そのため、第13層上面の記録終了後に、下層の堆積状況と遺物の有無を確認するため、長さ25m、幅1mのトレンチを北東—南西方向に設定して、下層確認調査を行った。その結果、第13層が中～大礫混じり褐色粗砂層を主体とし、褐色シルト層を部分的に含むこと、層厚1m以上であること、遺物を極少量含むことを確認したが、第13層下面を確認することはできなかった。第13層は、中～大礫混じりの粗砂層を主体とすることから、活発な堆積作用による洪水堆積物と考えられる。また、調査区全域に分布し、08019-1～3区でも確認できることから、第8～11層とは異なる河川堆積作用によるものと推定できる。出土遺物は土器の小片のみで、所属時期は明らかにできない。調査区北西部で直上に分布する基本層序第12層が少量の弥生土器を含み、形成時期は弥生時代と推定できること、第13層は08019-1区の基本層序第9層と同一層と考えられることから、形成時期は弥生時代後期以前と考えられる。なお、第12層も洪水堆積物と考えられるが、第8～11層とは分布範囲、粒度が異なっており、一連の堆積であるかは明らかでない。

自然流路031（図42～46、巻頭図版3、図版10・11）先述のように、基本層序第13層上面は、調査区南西隅から約22m北東で急激に下がった後、南西部南端でやや上がる。この範囲の、特に第10・11層から多量の土器が出土し、残存度の高いものも多い。以下ではこの範囲を自然流路031と呼称する。この自然流路031の南西部では特に集中して土器が出土しており、以下ではこれを自然流路031土器溜まりと呼称する。第1章第2節で述べたように、土器溜まり周辺のみ、道路予定地境界に設置されていた安全柵際まで調査範囲を拡大して調査を行った。その結果、土器溜まりが道路予定地外まで続くことを確認した。以下では自然流路031の土層堆積状況と土器出土状況について詳述する。なお、平成18年度試掘・確認調査（06-5トレンチ）で自然流路031土器溜まりの東部を掘削しており、多量の土器が出土している。本調査出土土器と接合したのもも多く、出土層位の対応も確認できることから、土器溜まり周辺出土土器については、試掘・確認調査出土土器もあわせて報告する。試掘・確認調査における土器出土状況は、写真等から復元を行った（図46点線内）。

自然流路031東部では、流れに対して平行方向（a—a'）および直交方向（b—b'）の畦を設定し、土層堆積状況の確認を行った（図42上）。基本層序との対応は、1層が基本層序第7B層、2層が基本層序第7C層、3層が基本層序第7D層、4層が基本層序第9層、5～13層が基本層序第10層、14層が基本層序第11層、18層が基本層序第13層と考えられる。

土層図（a—a'）北西部および南東部の両端で基本層序第10層に相当する5～11層が落ちこんでおり、北西部では基本層序第11層に相当する14層上に堆積するのが確認できる。また、基

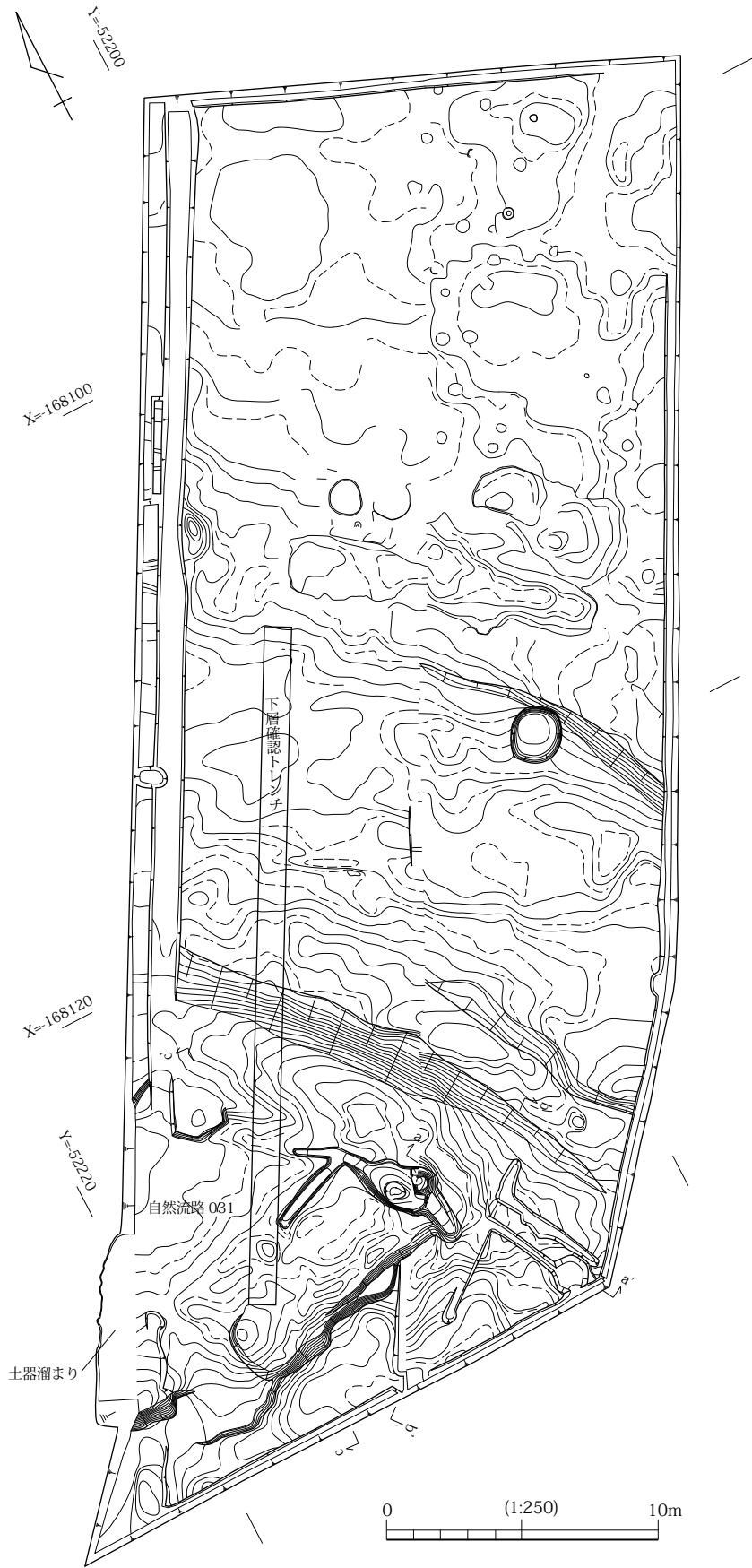
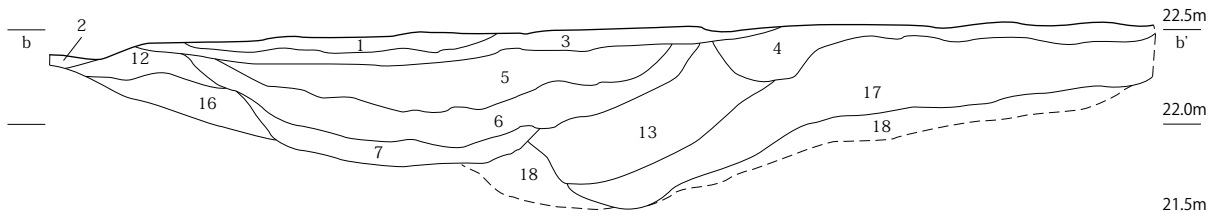
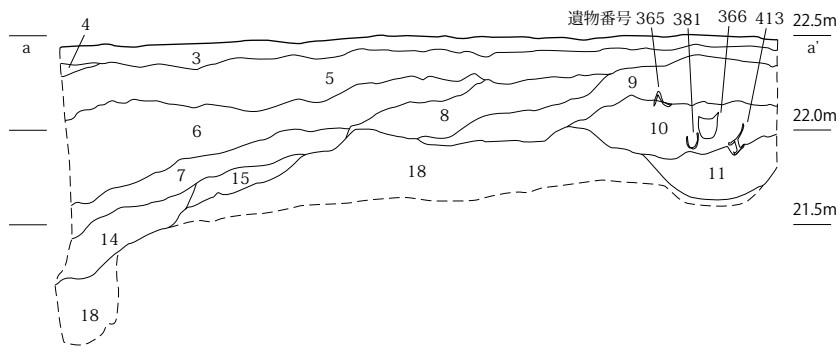
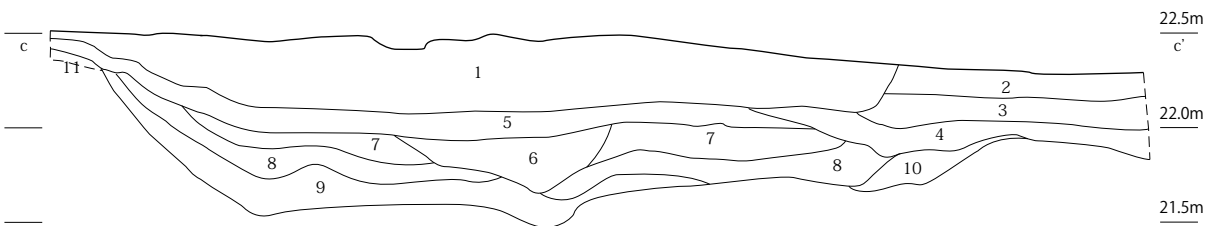


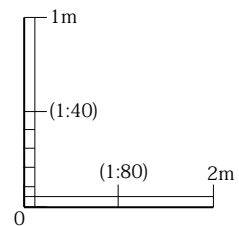
图 41 08019-4 区自然流路全体图



- 1 黄褐色 (10YR5/6) 砂シルト混じり褐灰色 (10YR6/1) 砂シルト / 基本層序第7B層に相当
- 2 褐色 (10YR4/6) 粘シルト / 基本層序第7C層に相当
- 3 黄褐色 (10YR5/8) 粘シルト / 基本層序第7D層に相当
- 4 褐色 (10YR4/6) 砂シルト混じり黄褐色 (10YR5/8) 砂シルト / 基本層序第9層に相当
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 6 褐色 (10YR4/4) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 7 粗砂混じり褐色 (10YR4/6) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 8 中礫混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 9 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘シルト / 基本層序第10層に相当
- 10 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 11 中礫混じり褐色 (10YR4/4) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 12 中礫混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 13 中礫混じり褐色 (10YR4/4) 砂シルト / 基本層序第10層に相当
- 14 粗砂混じり黄褐色 (10YR5/6) 細砂 / 基本層序第11層に相当
- 15 粗砂混じり褐色 (10YR4/4) 粘シルト
- 16 中礫混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂
- 17 中礫混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細～粗砂
- 18 中～大礫混じり褐色 (10YR4/4) 粗砂 / 基本層序第13層に相当



- 1 中～大礫混じり褐色 (10YR4/6) 粗砂 / 基本層序第8層に相当
- 2 褐灰色 (10YR5/1) 砂シルト混じり褐色 (10YR4/6) 砂シルト / 基本層序第9層に相当
- 3 褐灰色 (10YR5/1) 砂シルト混じり黄褐色 (10YR5/8) 砂シルト / 基本層序第9層に相当
- 4 黄褐色 (10YR5/8) 砂シルト / 基本層序第9層に相当
- 5 褐色 (10YR4/4) 粘シルト / 基本層序第11A層に相当
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂シルト
- 7 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘シルト混じり褐色 (10YR4/4) 粘シルト / 基本層序第11B層に相当
- 8 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘シルト / 基本層序第11D層に相当
- 9 黄褐色 (10YR5/6) 粘シルト / 基本層序第11D層に相当
- 10 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘シルト / 基本層序第11D層に相当
- 11 中～大礫混じり褐色 (10YR4/4) 粗砂 / 基本層序第13層に相当



断面位置は図41に対応

図 42 08019-4 区自然流路 031 土層図

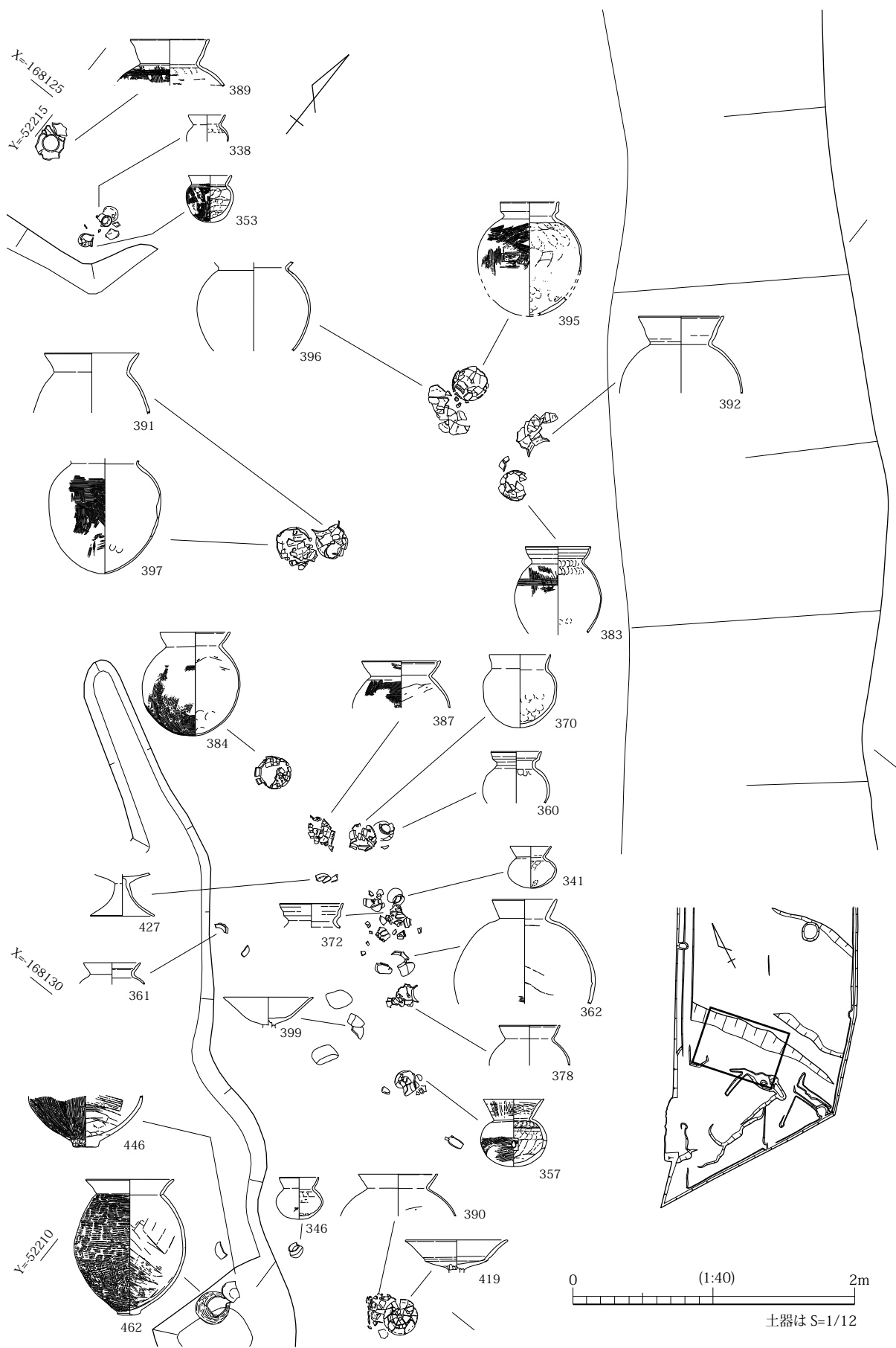


图 43 08019-4 区自然流路 031 土器出土状况图 (1)

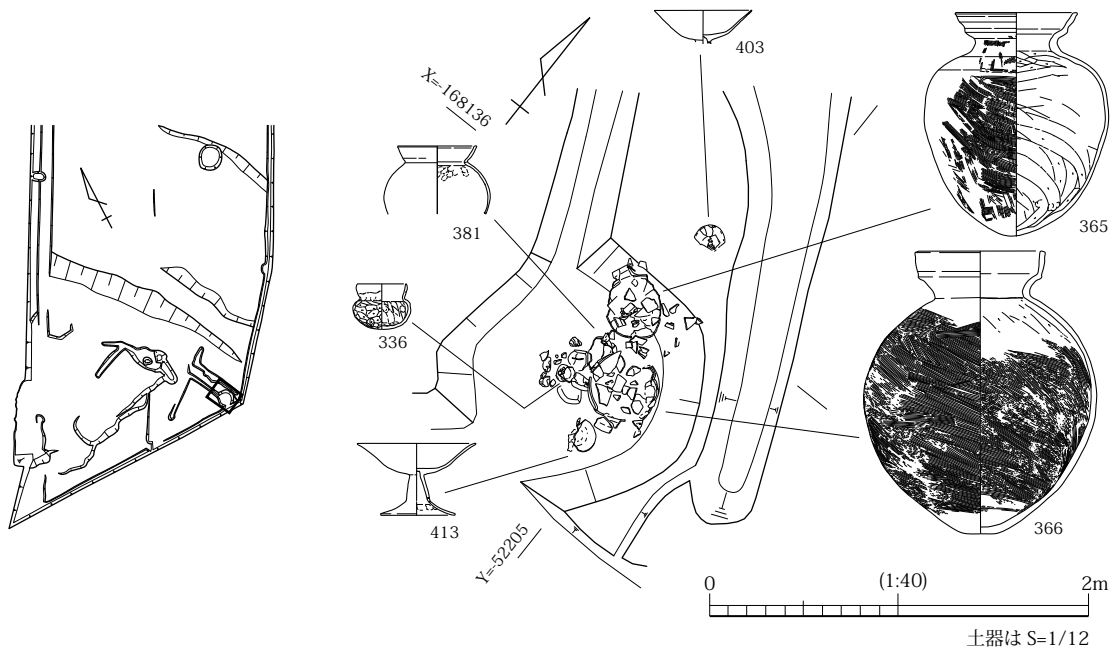


图 44 08019-4 区自然流路 031 土器出土状况图 (2)

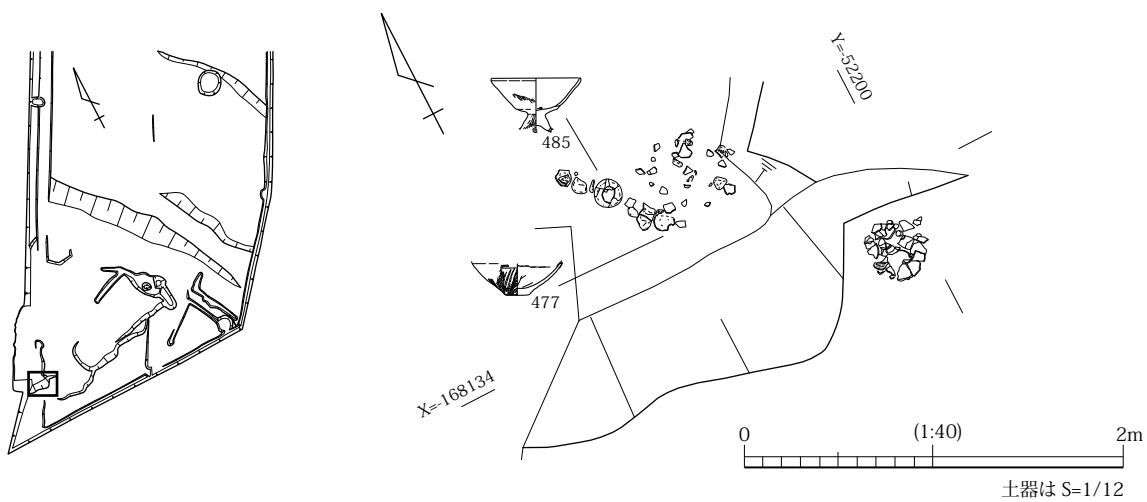


图 45 08019-4 区自然流路 031 土器出土状况图 (3)

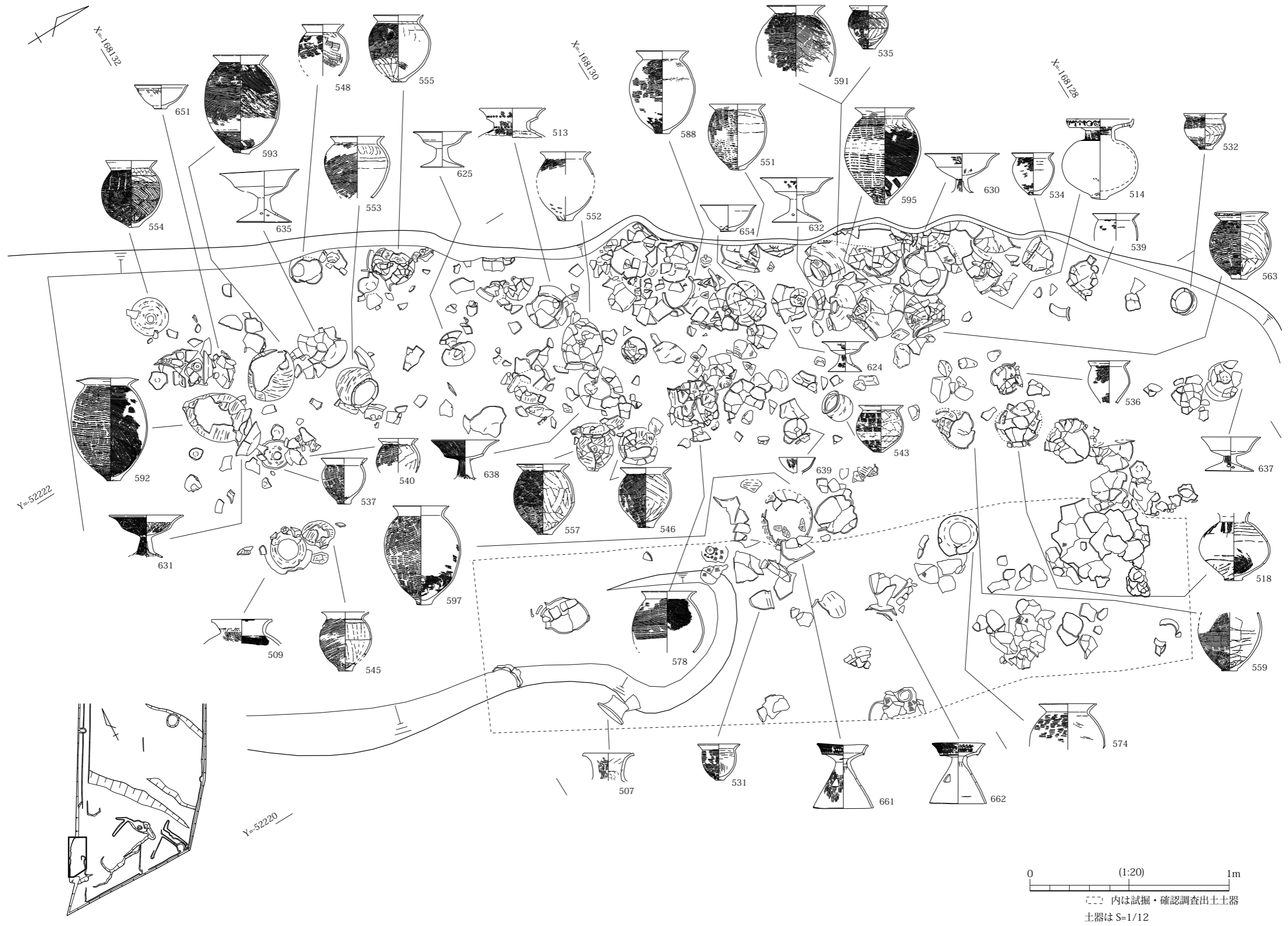


図 46 08019-4区自然流路031 土器溜まり土器出土状況図

本層序第10層の中でも土層図(a—a'・b—b')6・10層から特に多くの土器が出土し、残存度の高いものが多い(図43-390・419、図44-336・365・366・381・403・413)。したがって、土器が最も多くまた残存度も高いのが自然流路の最下層ではないことが確認できる。

自然流路031西部では、流れに対して直交方向(c—c')の畦を設定し、土層堆積状況の確認を行った(図42下)。基本層序との対応は、1層が基本層序第8層、2～4層が基本層序第9層、5層が基本層序第11A層、7層が基本層序第11B層、8～10層が基本層序第11D層、11層が基本層序第13層と考えられる。基本層序第11層は、土層図(c—c')の位置より西側、調査区南西部で急激に落ちこんでおり、この落ち込み内で土器溜まりを検出した。残存度の高い土器は、基本層序第9層からも出土しているが(図43-338・353・389)、基本層序第11層、中でも土層図(c—c')7層から特に多くの土器が出土し、完形のものも多い(図43-341・346・357・360～362・370・372・378・383・384・387・391・392・395～397・399・427・446・462、図45-477・485)。したがって、土器が最も多くまた残存度も高いのが自然流路の最下層ではないことが確認できる。また、第9章第2節で詳しく検討するが、自然流路031出土土器は、土器溜まり出土のものを除くと土師器が弥生土器より多く、特に小型丸底壺および高杯の出土が目立つ。

土器溜まりでは、自然流路031内の他の箇所と比較して非常に多くの土器が密集して出土し、完形または完形に近いものが多い。いずれも基本層序第11層出土であるが、特に第11B層出土のものも多く、やはり、土器が最も多くまた残存度も高いのが自然流路の最下層ではないことが確認できる。また、自然流路031の基本層序第8～11層では弥生時代後期後半～古墳時代後期の土器を含むが、この土器溜まり出土土器は、いずれも庄内式前半に位置づけられ、時期的なまとまりがみとめられる。こうした時期的なまとまりと密集した出土状況から、一括性のある土器群と考えられる。土器溜まり西部では完形に近い甕が集中して出土しており、大形甕(591)の中に小形甕(535)が入れられた状態でも出土している。また、土器溜まり南部では甕(592)と高杯(631)が口縁部を合わせた状態で出土しており、調査区東部では2点の淡路型器台(661・662)が近接した位置で出土している。第9章第2節で詳しく検討するが、淡路型器台自体が類例が少なく特殊な用途を想定されるものであることから、この土器溜まりは単なる廃棄ではなく、意図的に置かれたものと推定できる。

なお、基本層序第11層からは布留式後半の土器も多く出土しているが、布留式期の土器は第11B層以上で出土しており、第11C・11D層からは庄内式併行期以前の土器のみが出土している傾向がみとめられる。各層を明確に分けて遺物を取り上げられたわけではないが、こうした傾向から、第11C・11D層の流入中から流入後の庄内式前半に土器が設置された後、布留式後半にかけて、シルトを主体とする第11B層以上が流入したものと推定できる。

第5節 出土遺物

第1項 土器

(1) 耕作溝検出面の土器

耕作溝検出面の遺構からは、瓦器、須恵器杯蓋、土師器が出土した。いずれも小片で、図化できるものはない。この面の遺構は耕作に伴う溝のみで、遺構検出面の直上層、基本層序第3層が作土層と考えられる。後述のように、下層の第5層の形成時期が13世紀以降と考えられることから、遺構検出面の時期は13世紀以降と推定できる。作土層である第3層は15世紀頃の遺物を含むが、下限は明らかにし得ず、近世まで下る可能性がある。

(2) 中世遺構検出面の土器

中世遺構検出面の遺構からは、磁器、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器が出土した。このうち遺構の時期を示す中世のものを報告する。

建物1出土土器 (図47、図版19) 75～120は建物1を構成する柱穴から出土した。個々の出土位置については観察表で示す。

75～83は土師器小皿である。78、79は「て」の字状口縁をもつ。84～88は土師器大皿である。89は土師器鉢である。内面にミガキがみとめられる。85、89は11世紀以前に所属する可能性がある。78、79は12世紀頃に位置づけられる。その他は12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

90～116は瓦器碗である。口縁部の残存するもののうち、110は不明瞭ながら口縁内端部に段状の痕跡がみとめられる。胎土からは和泉産と考えられ、大和型の模倣品の可能性がある。その他は和泉型である。摩滅の著しいものが多いが、93、95、101、104、111、113～116の外表面にはミガキがみとめられ、93、111は密にミガキを施す。90～92は焼成があまい。残存度の低いものを除くと、口径14.4～17.0cm、高台径5.4～6.6cm、器高5.5～5.8cmである。117は瓦器小皿である。摩滅により不明瞭であるが、内面にミガキがみとめられる。瓦器碗は、外表面にミガキがみとめられるものがあること、高台形状、法量より、12世紀に位置づけられ、特に93、104、111は、外面体部下半にミガキを施すことや内外面ともミガキが密であることから12世紀前葉～中葉に位置づけられる。残存度の低い碗や瓦器皿についても12世紀におさまるものと考えられる。

118は閩南沿海窯系の白磁碗である。高台は細く高く直立しており、碗V類である。高台一部まで施釉する。12世紀後半～13世紀初頭に位置づけられる。

119、120は土師質羽釜である。119は口縁部の小片であるが、内外面にススが付着することより煮炊具と考えられる。120は口縁部形状より12世紀末～13世紀初頭に位置づけられる。119の詳細な時期比定は困難である。

これら以外に須恵器が出土しているが、小片のため図化できず、時期も不明である。

以上より、建物1出土遺物は11世紀～13世紀にわたるが、詳細な時期を比定しやすい瓦器碗、

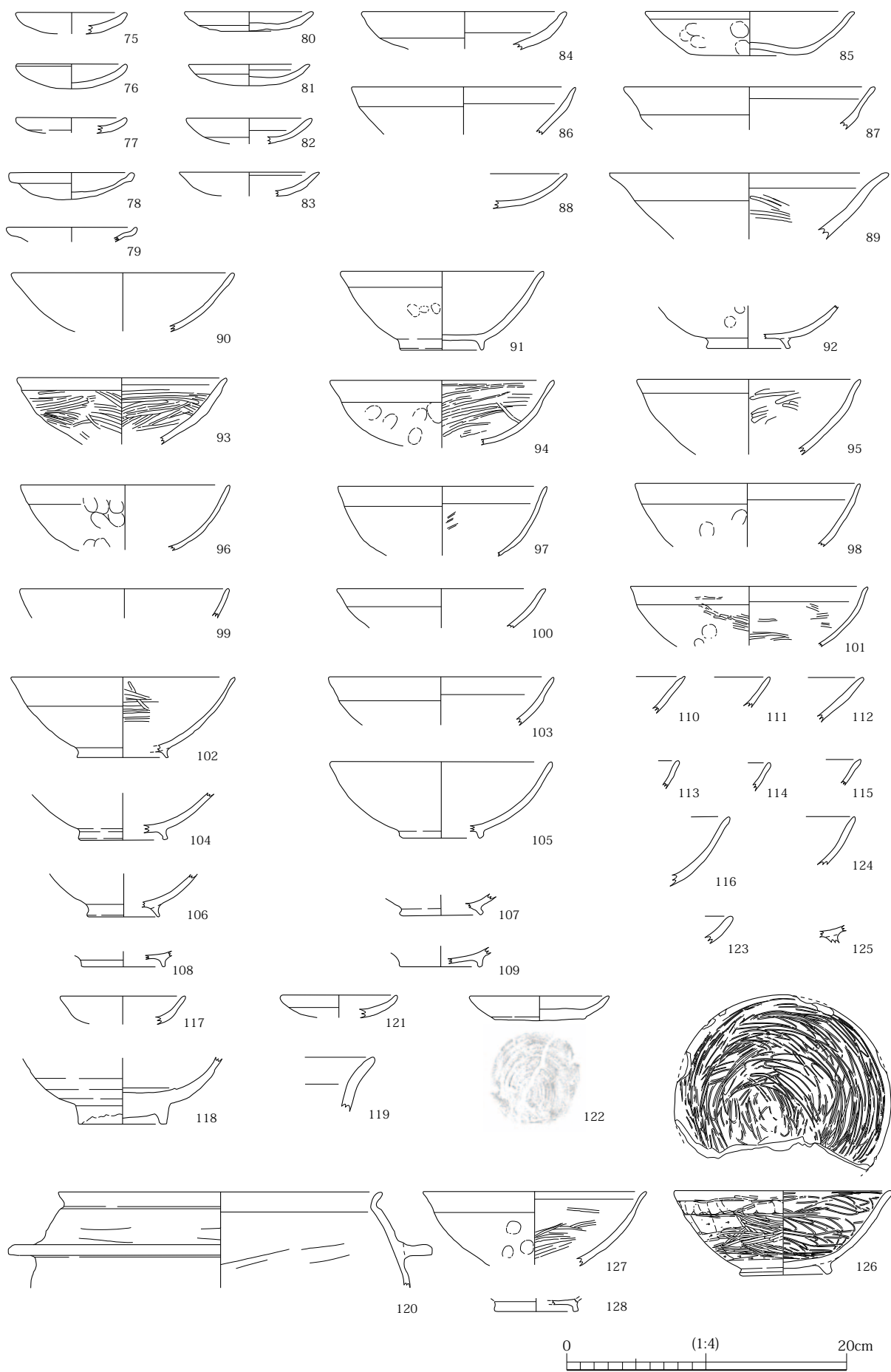


图 47 08019-4 区中世遺構検出面建物・柱穴・土坑出土土器

土師質羽釜に着目すると、瓦器碗は 12 世紀におさまり、13 世紀初頭に下る可能性がある土師質羽釜は柱痕跡からの出土である。したがって、建物 1 の時期は 12 世紀頃と推定できる。

建物 2 出土土器 (図 47、図版 19—1) 121～123 は建物 2 を構成する柱穴から出土した土師器小皿である。121、122 は柱穴 083 掘方から、123 は柱穴 080 検出中の出土である。122 は底部外面に糸切り痕がみとめられ、轆轤成形である。122 は 12 世紀に位置づけられる。121、123 は 12～13 世紀に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

これら以外に瓦器口縁部が出土しているが、小片のため図化できない。建物 2 出土遺物は少量であり、詳細な時期比定は困難である。

柱穴出土土器 (図 47、図版 19—2) 構成する建物や柵を明らかにし得なかった柱穴から出土したものを報告する。124～126 は瓦器碗である。124 は柱穴 122 柱痕跡から、125 は柱穴 123 掘方から、126 は柱穴 106 掘方から出土した。124、126 は和泉型である。126 は外面にヘラケズリの痕跡がみとめられる。内外面のミガキは密で、外面のミガキは 3 分割の分割性がみとめられる。見込みのミガキは乱方向である。126 は 12 世紀前葉に位置づけられる。124、125 の詳細な時期比定は困難である。

土坑出土土器(図 47) 127、128 は瓦器碗である。127 は土坑 025 から、128 は土坑 026 から出土した。127 は和泉型である。127、128 とも 12 世紀中葉～後葉に位置づけられる。

溝 007 出土土器 (図 48、図版 20・21) 129～143 は土師器小皿である。134、135 は口縁端部を面取りする。135、138、139、143 は「て」の字状口縁をもつ。144 は土師器大皿である。135、138、139、143 は 12 世紀に位置づけられる。その他は 12～13 世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

145、146 は高台付の瓦器小皿で、密教の金銅製仏具の形態を写した六器である。145 は焼成があまい。147～158 は瓦器碗である。口縁部の残存するものはいずれも和泉型である。摩滅の著しいものが多いが、150 の外面にミガキがみとめられる。147 は焼成があまい。残存度の低いものが多いが、口径 14.0～16.0cm、高台径 6.2～7.2cm、器高 6.0cm である。159～163 は瓦器小皿である。160、163 の内面、161 の内外面にミガキがみとめられる。残存度の低い 159 を除くと、口径 10.0～10.4cm、器高 1.9～2.2cm である。瓦器碗は、外面にミガキがみとめられるものがあること、高台形状、法量より、12 世紀中葉～後葉に位置づけられ、残存度の低い碗や瓦器皿についても同時期と考えられる。

これら以外に土師質羽釜、須恵器が出土しているが、小片のため図化できない。以上より、溝 007 出土遺物は 12～13 世紀にわたるが、詳細な時期を比定しやすい瓦器碗に着目すると、12 世紀中葉～後葉におさまる。ただし、溝 007 埋土は溝 027 埋土上にも堆積すること、溝 027 埋土は後述のように 13 世紀の遺物を含むことより、溝 007 の埋没時期は 13 世紀に下るものと考えられる。

溝 027 出土土器 (図 49・50、図版 20・21) 164～187 は土師器小皿である。170、171、173 は

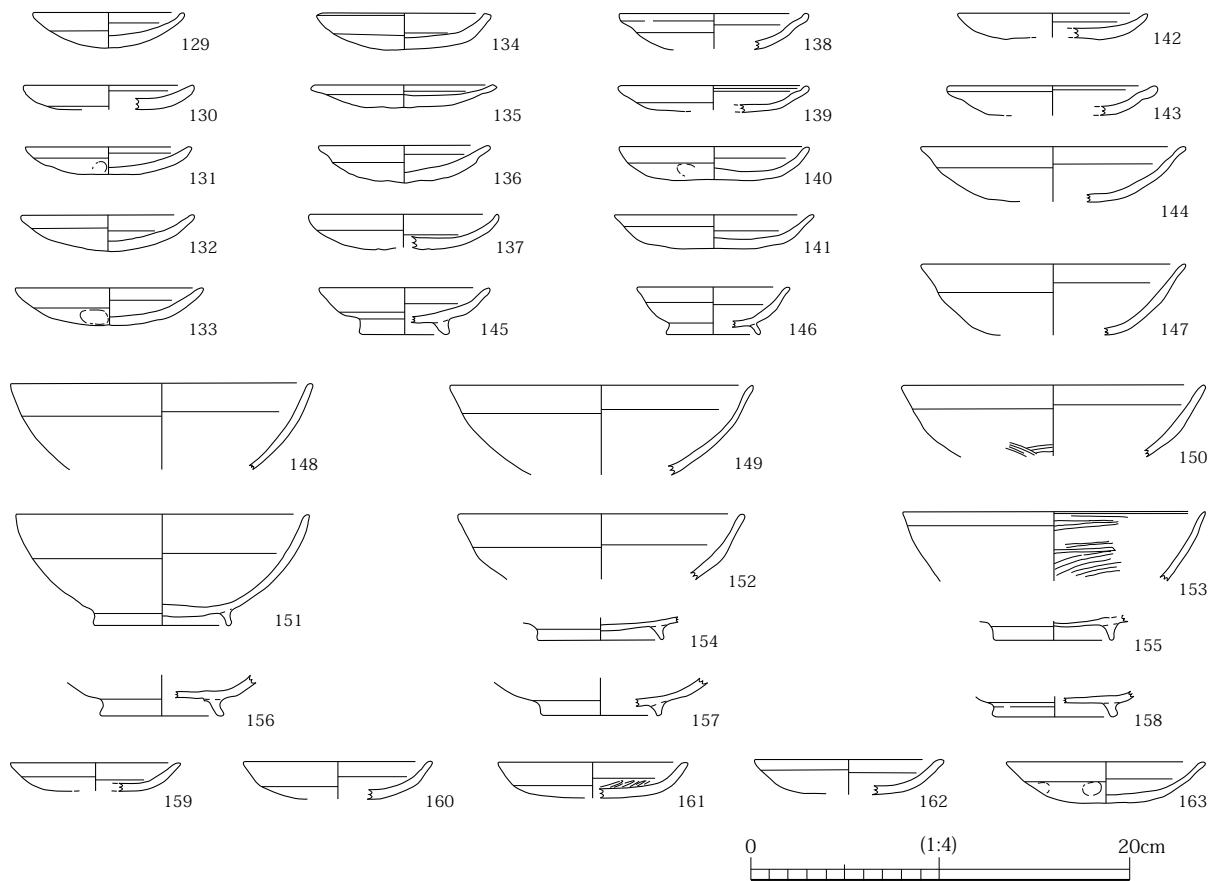


図 48 08019-4 区溝 007 出土土器

外面に粘土紐巻き上げ痕がみとめられる。176、180、181、187は「て」の字状口縁をもち、180は薄手で丁寧な作りである。188～193は土師器大皿である。190は外面に粘土紐巻き上げ痕がみとめられる。191～193は深めの皿である。180は11世紀末、176、181、187、191～193は12世紀に位置づけられる。その他は12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

194は、焼成のあまい瓦器椀と考えられるが、土師器皿の可能性もある。195～225は瓦器椀である。口縁部の残存するものは、いずれも和泉型である。摩滅の著しいものが多いが、198、204、207～209、212の外面にミガキがみとめられ、207は内外面とも密にミガキを施す。225は焼成があまい。残存度の低いもの、口縁部のひずみの大きいものを除くと、口径13.8～17.8cm、高台径5.4～7.2cm、器高6.6cmで、口径、高台径ともばらつきが大きい。226～229は瓦器小皿である。227、229は内外面にミガキがみとめられる。口径8.8～9.8cm、器高2.2～2.3cmである。瓦器椀は、207は11世紀末に遡る可能性がある。その他は、外面にミガキがみとめられるものがあること、高台形状、法量より、12世紀に位置づけられ、特に208、209、212は、外面体部下半にミガキを施すことから12世紀前葉～中葉に位置づけられる。残存度の低い椀や瓦器皿についても12世紀におさまるものと考えられる。

230～232は土師質羽釜である。口縁部形状より、13世紀後半頃に位置づけられる。

これら以外に古墳時代の土師器、奈良時代の須恵器が出土しているが、混入品である。以上より、溝027出土遺物は11世紀末～13世紀にわたるが、詳細な時期を比定しやすい瓦器椀、土師質羽

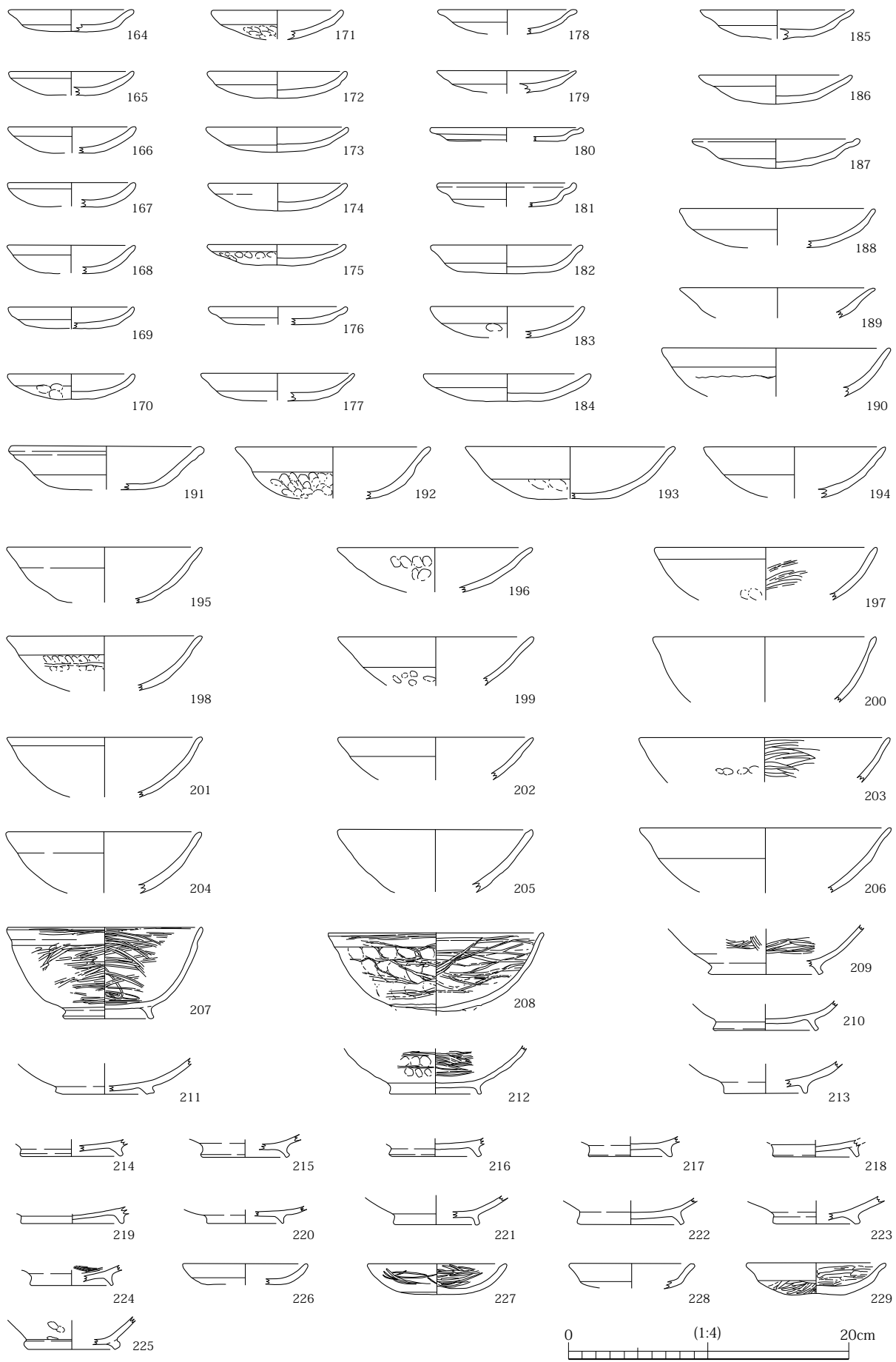


图 49 08019-4 区沟 027 出土土器 (1)

釜に着目すると、12世紀～13世紀におさまることから、これを溝027の時期と推定できる。

溝079 出土土器 (図51、図版20—1)

233は土師器小皿である。12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。234は和泉型の瓦器碗である。残存度が低く、口径は不確定であるが、12世紀に位置づけられる。

これら以外に、須恵器が出土しているが、小片のため図化できず、時期も不明である。

溝099 出土土器 (図51、図版20—1・21—1) 235～237は土師器小皿である。236は底部外面に糸切り痕が、237は底部外面に糸切り痕またはヘラ切り痕がみとめられ、両者とも轆轤成形である。236、237は12世紀頃に位置づけられる。235は12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

238～245は瓦器碗である。口縁部の残存する238～241はいずれも和泉型である。摩滅の著しいものが多いが、240、242は外面にミガキが、243は見込みに平行線状ミガキがみとめられる。238、241は焼成があまい。口径14.6～15.8cm、高台径5.2～7.0cm、器高5.2～5.3cmである。246は瓦器小皿である。内外面にミガキがみとめられる。瓦器碗は、外面にミガキがみとめられるものがあること、高台形状、法量より、12世紀に位置づけられ、残存度の低い碗や瓦器皿についても12世紀におさまるものと考えられる。

これら以外に、土師質羽釜が出土しているが、小片のため図化できない。以上より、溝099出土遺物は12世紀～13世紀にわたるが、詳細な時期を比定しやすい瓦器碗に着目すると、12世紀におさまることから、これを溝099の時期と推定できる。

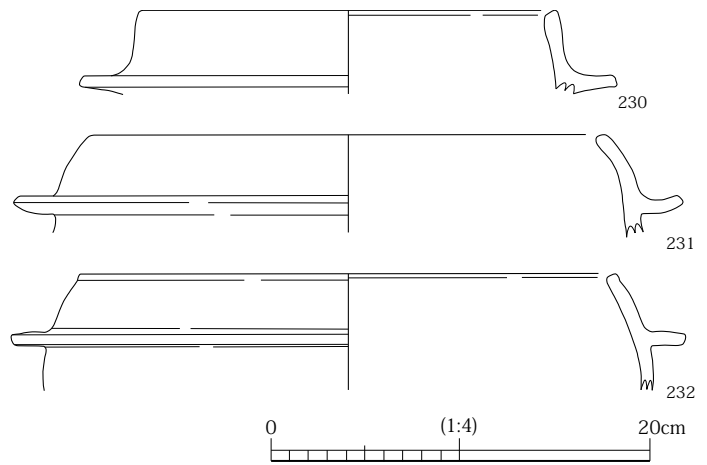


図50 08019-4区溝027出土土器(2)

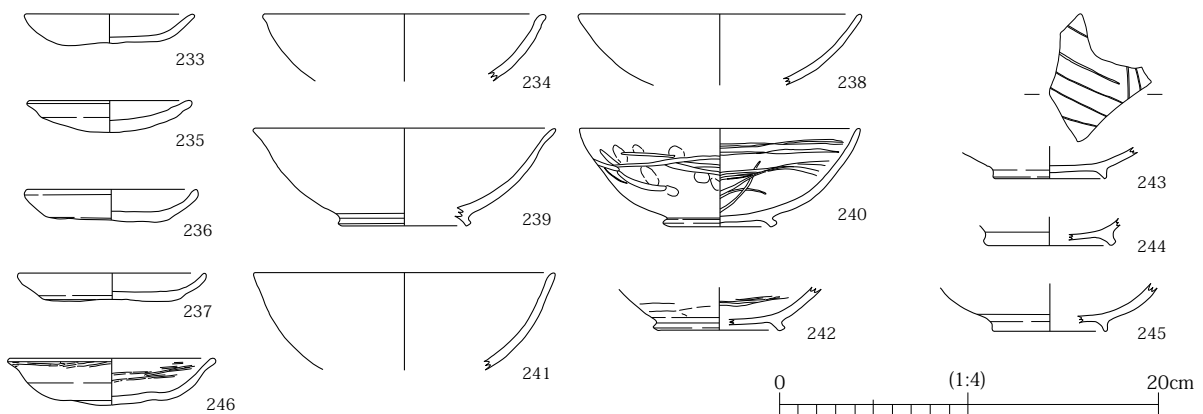


図51 08019-4区溝079・099出土土器

小結 以上のように、中世遺構検出面の遺構からは、11世紀～13世紀にわたる遺物が出土しているが、12世紀のものが中心である。また、建物1が12世紀に位置づけられるのに対し、溝027からは13世紀後半に下る遺物が出土している。建物と溝が同時期に機能していた可能性はあるが、溝の埋没時期がやや遅れるものと考えられる。

(3) 試掘調査・包含層出土土器

試掘調査出土の遺物は特徴的なものを報告する。包含層の遺物は、その形成時期を示すものを中心とし、それ以前の時期の遺物については特徴的なものを報告する。

試掘調査出土土器 (図 52) 試掘調査では、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器等が出土した。ここでは残存度の高いもののみ報告する。

247 は土師器小皿である。12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

基本層序第3～5層出土土器 (図 52) 基本層序第3～5層については、複数層を一体で掘削した箇所が多いためあわせて報告を行い、そのうえで、時期や出土層位を限定できる遺物から、それぞれの層の形成時期を推定する。一部第6層以下の遺物を含む可能性があるが、第3～5層を含む層位の遺物はここで報告する。

基本層序第3～5層からは、磁器、瓦質羽釜、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。248、249 は土師器小皿である。250 は土師器大皿である。248～250 は12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

251～253 は瓦器小皿である。252 は内面にミガキがみとめられるが、残存度が低く口径は不確定である。254～263 は瓦器椀である。口縁部の残存するものは、いずれも和泉型である。摩滅の著しいものが多いが、260 は内外面に密にミガキを施す。254 は焼成があまい。256 は残存度が低く口径、傾きとも不確定である。瓦器椀は、外面にミガキがみとめられるものがあること、高台形状、法量より、12世紀に位置づけられ、特に260は、外面体部下半まで密にミガキを施すことから12世紀前葉～中葉に位置づけられる。残存度の低い椀や瓦器皿についても12世紀におさまるものと考えられる。

264 は瓦質羽釜である。口縁部形状より15世紀後半頃に位置づけられる。265 は土師質羽釜である。口縁部が欠損しており詳細な時期比定は困難である。

266 は須恵器杯 B 蓋である。267 は土師器皿である。266、267 とも奈良時代に位置づけられる。

268 は土師器小型丸底壺である。口縁部の開きは体部最大径より大きい。外面調整は不明である。布留1式新段階に位置づけられる。

以上、基本層序第3～5層からは、弥生時代から15世紀にわたる遺物が出土している。出土層位をみると、15世紀以降の遺物は第3層を含む層からの出土である。第3層は水田作土、第4層はこれに伴う床土と考えられ、第3層が作土として利用された時期は15世紀以降まで下るものと推定できる。また、下層の中世遺構検出面の遺構が12世紀頃であることから、第3～5層の形成時期は13世紀以降と推定できる。

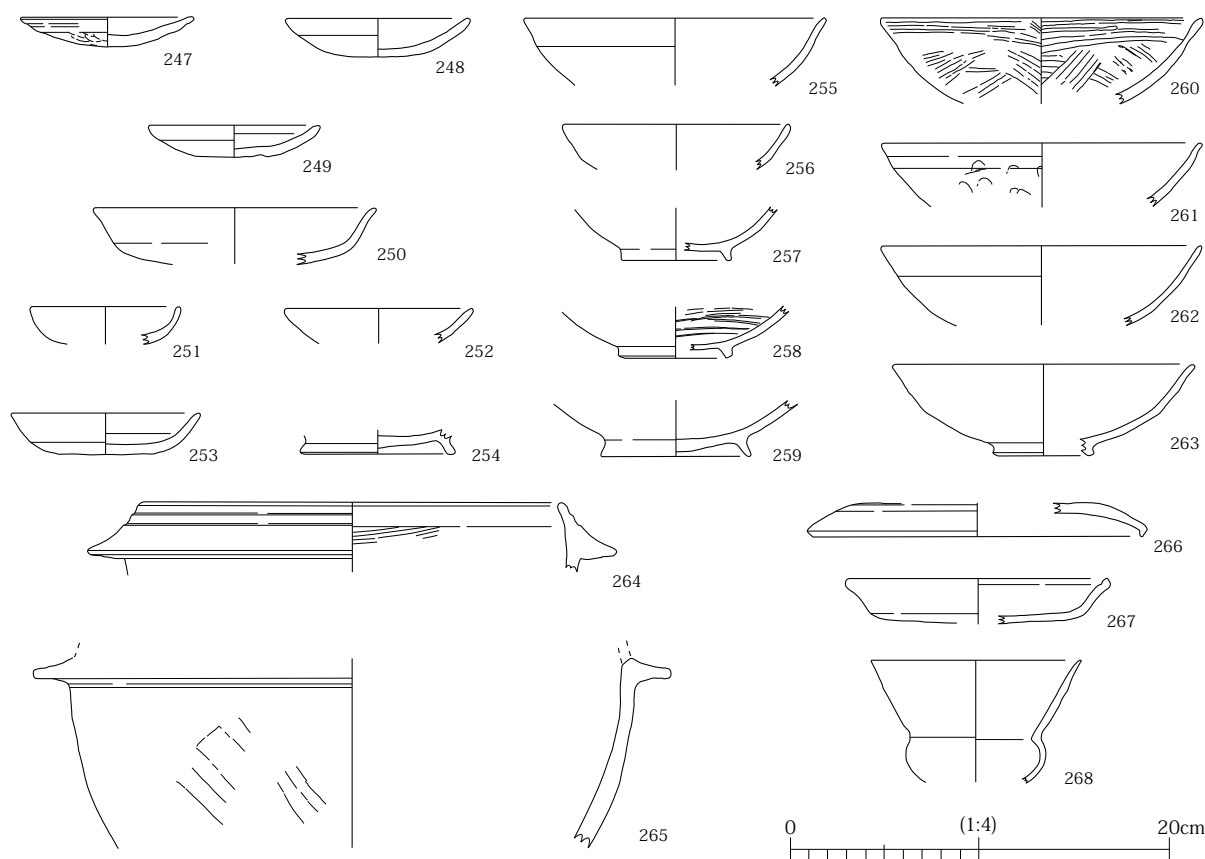


図 52 08019-4 区試掘調査・包含層出土土器（1）

基本層序第6層出土土器（図 53、図版 22—1）磁器、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。269～280 は土師器小皿である。270、271 は「て」の字状口縁をもつ。274、275 はほぼ完形で、底部外面に粘土接合痕がみとめられる。281、282 は土師器大皿である。281 は深めの皿である。282 は口縁部外面に 2 段ナデを施す。270、271、281、282 は 12 世紀に位置づけられる。その他は 12～13 世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

283～308 は瓦器椀である。口縁部の残存するもののうち、283 は不明瞭ながら口縁下部内外面に沈線状の痕跡がみとめられるが、全周しない。284 は口縁部内面端部付近に沈線がみとめられ、300 は口縁内端部が段状となるが、いずれも胎土からは和泉産と考えられ、樟葉型および大和型の模倣品の可能性がある。その他は和泉型である。摩滅の著しいものが多いが、285、287、289、290、292、296、298～300、302、303、306 は外面にミガキがみとめられる。また、292、293、297、299、305 の外面にはヘラケズリを施す。285、295、304 は焼成があまい。302、304 は口縁部と高台部が直接接合せず図上復元である。口径 14.0～17.0cm、高台径 5.4～7.6cm、器高 5.0～6.0cm である。309 は瓦器小皿である。内外面にミガキがみとめられる。瓦器椀は、外面にミガキがみとめられるものがあること、高台形状、法量より、12 世紀に位置づけられ、特に、外面にヘラケズリや体部下半までのミガキがみとめられる 285、287、290、292、293、296～300、302、303、305、306 は、12 世紀前葉～中葉に位置づけられる。残存度の低い椀や瓦器皿についても 12 世紀におさまるものと考えられる。

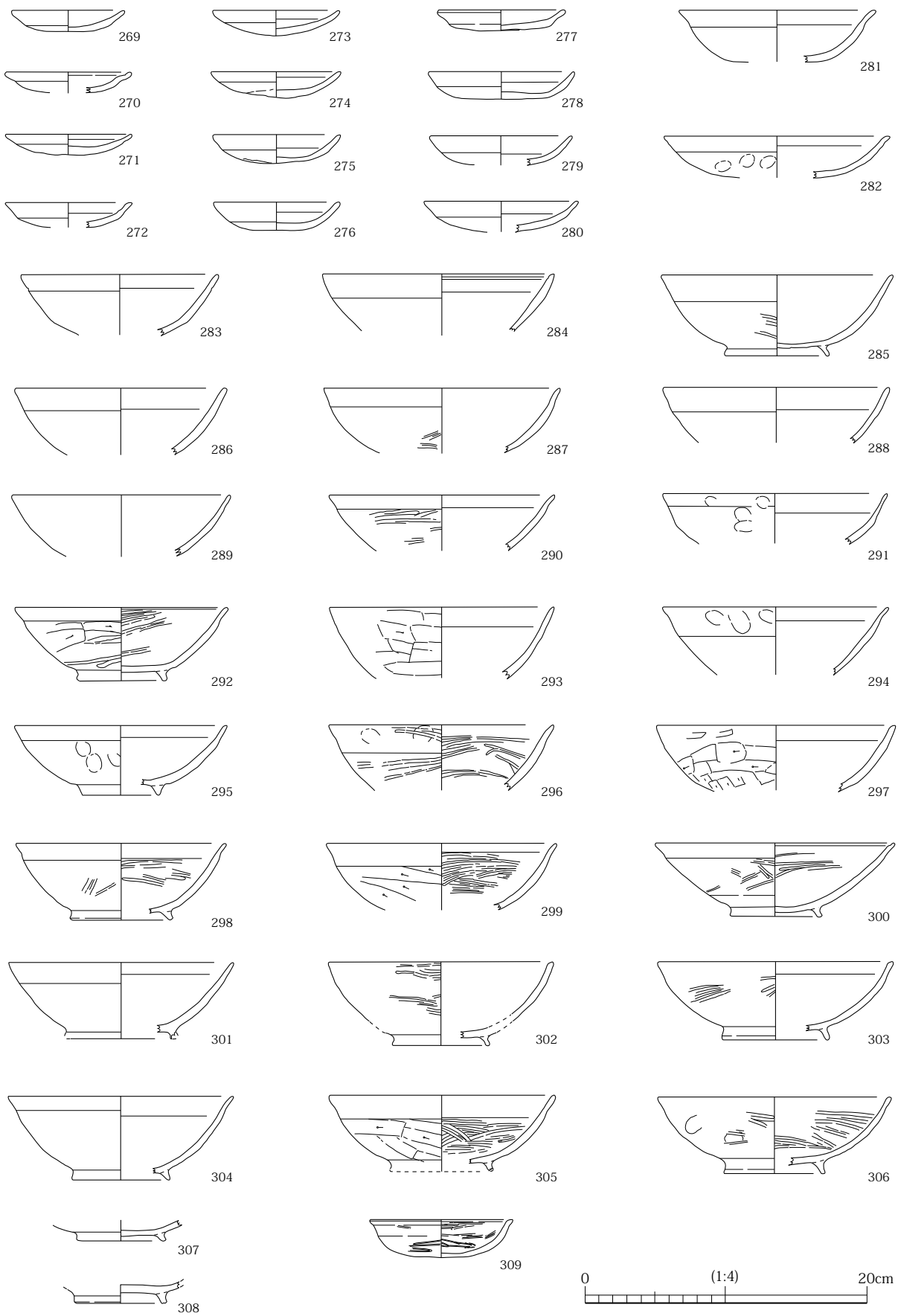


图 53 08019-4 区包含层出土土器 (2)

以上より、基本層序第6層出土遺物は弥生時代から中世にわたるが、12～13世紀のものが中心である。特に、詳細な時期を比定しやすい瓦器碗に着目すると、12世紀におさまり、第6層の形成時期は12世紀頃と考えられる。したがって、第6層の形成直後に上面に建物1等が設けられたと推定できる。

基本層序第7層出土土器（図54、図版22） 土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。310～312は土師器小皿である。310は底部外面に粘土紐巻き上げ痕がみとめられる。313は土師器大皿である。口縁部外面に2段ナデを施す。313は12世紀頃に位置づけられる。310～312は12～13世紀に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

314～318は瓦器小皿である。314、318の内面、315、316の内外面にミガキがみとめられる。口径9.0～10.4cm、器高2.2～2.7cmである。319～326は瓦器碗である。口縁部の残存するものは、いずれも和泉型である。残存度の低いものを除くと、口径14.7～15.8cm、高台径4.6～6.8cmである。瓦器碗は、高台形状、法量より、12世紀に位置づけられ、残存度の低い碗や瓦器皿についても12世紀におさまるものと考えられる。

327は須恵器底部である。中世の播鉢と考えられるが、詳細な時期比定は困難である。

328は須恵器杯Bである。奈良時代に位置づけられる。

329、330は弥生土器である。329は手焙で、鉢部～覆部の破片である。覆い部下端に刻目を施す。後期後葉～庄内式併行期に位置づけられる。330は底部である。側面にユビオサエがみとめられ、上げ底状になる。後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

以上より、基本層序第7層出土遺物は弥生時代から中世にわたるが、中世のものは12～13世紀のものが中心で、特に、詳細な時期を比定しやすい瓦器碗に着目すると、12世紀におさまる。

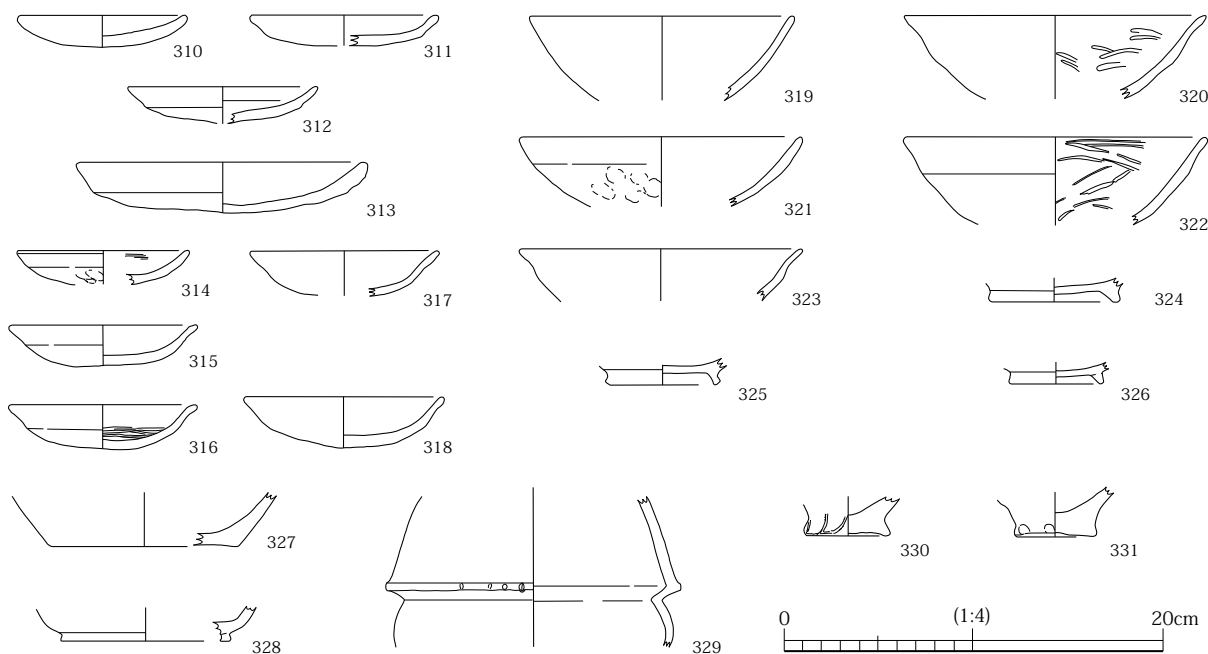


図54 08019-4区包含層出土土器（3）

したがって、第7層の形成時期は12世紀以前と考えられ、第7層の形成直後に上面に建物1等が設けられたと推定できる。また、基本層序第7層が堆積物微細堆積層分析による指摘の通り水田作土であれば、水田耕作に伴い混入した遺物が含まれている可能性もあり、堆積時期は12世紀より遡ることも考えられる。

基本層序第12層出土土器（図54） 少量の弥生土器が出土した。331は弥生土器底部である。側面にユビオサエがみとめられ、中央部付近がやや窪む平底である。後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

（4）自然流路出土土器

自然流路内堆積物である基本層序第8～11層出土遺物について報告する。形成時期を示すものを中心とし、それ以前の時期の遺物については特徴的なものを報告する。

自然流路（基本層序第8～11層）出土土器（図55～65、図版22～29） 基本層序第8～11層については一体で掘削した箇所が多いためあわせて報告を行い、そのうえで、時期や出土層位を限定できる遺物から、それぞれの層の形成時期を推定する。なお、一部、第7層の遺物を含む可能性もある。また、試掘・確認調査出土遺物についても、調査記録から第8～11層出土と判断できるものについてはここで報告する。出土遺物の大半が自然流路031とした部分からの出土であるが、判別のできないものもある。そのため、明確に分けて取り上げることのできた自然流路031土器溜まりのものを除き、自然流路出土遺物をまとめて報告する。

第8～11層からは、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器が出土した。332～335は須恵器である。332は杯蓋、333は杯身で、いずれもTK47に位置づけられる。334、335は甕である。334は体部にカキメを施す。334、335はMT15頃に位置づけられる。

336～432は土師器である。磨滅により調整の不明なものが多い。

336～355は小型丸底壺である。347、352は、口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。口縁部の開きは、340、352が体部最大径よりやや大きく、354が不明である。その他はいずれも体部最大径より開かない。339、340、348、353は外面に黒斑がみとめられる。342は、胎土に微量の角閃石を含んでおり、生駒西麓産の可能性がある。355は複合口縁である。体部外面調整は、336がケズリ、337、342、345～349、351、353がハケ、338、343、352、354がナデである。形状は多様であるが、頸部屈曲が強く体部高の小さい336～338、341～343、346と、頸部屈曲が弱い344、352、口縁部の比較的長い347、348の3種を抽出できる。336～355はいずれも形状

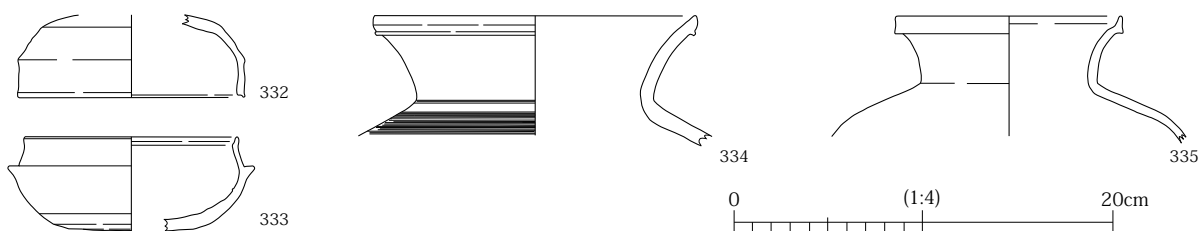


図55 08019-4区自然流路出土土器（1）

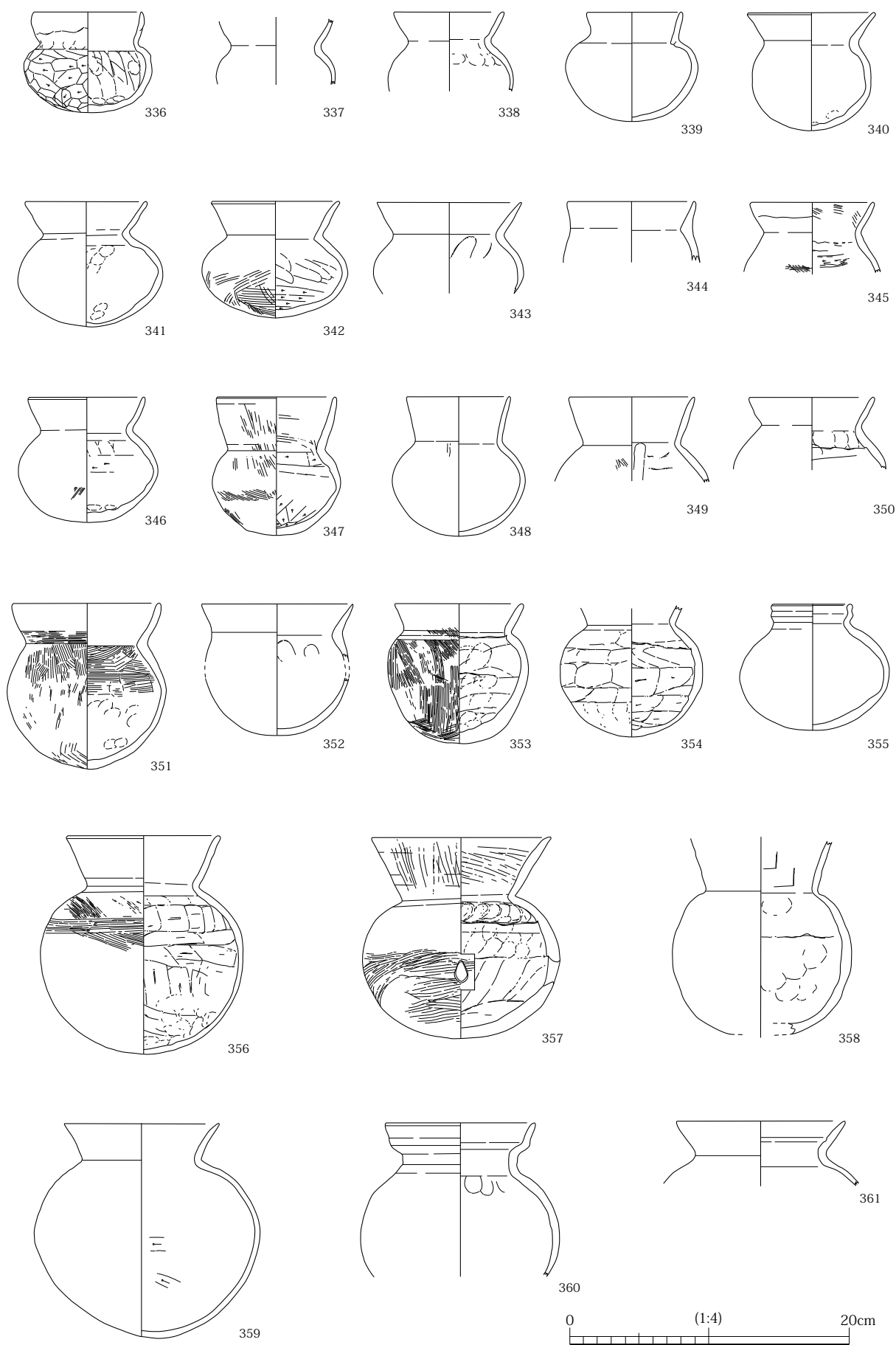


图 56 08019-4 区自然流路出土土器 (2)

より布留3～4式に位置づけられる。

356～358は小形直口壺である。356は体部外面にススが付着する。357は体部中央に1孔を施す。焼成後に外側から穿孔されたものである。356、357の体部外面はハケ調整である。358は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。外面に黒斑がみとめられる。356～358は外面調整より布留2式以降に位置づけられる。

359～361は小形の壺である。360は山陰系の複合口縁をもつ。いずれも布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

362、363は大形直口壺である。362は口縁～肩部外面に黒斑がみとめられる。362、363とも体部外面はハケ調整である。

364～368は複合口縁壺である。364～366は体部外面に黒斑がみとめられる。口縁部形状は、365、368が山陰系、366が安房系である。

362～368のうち、366、368は口縁部が直立気味にのびることから布留式後半に位置づけられる。その他は布留式期に所属するが詳細な時期比定は困難である。

369～397は甕である。369、370は小形甕である。369は体部下半外面にススが付着する。371～373は山陰系の口縁部をもつ。369～373はいずれも布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

374～394は布留形甕である。391は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。374～378、381～383、385～390、392は、口縁端部が肥厚する。379は口縁部が直線的に開き、端部に内傾する面をもつ。380は口縁部が内湾し、端部を丸くおさめる。384は口縁部が内湾し、端部に内傾する面をもつ。391、393は口縁部が外反し、端部を丸くおさめる。394は口縁部が直線的に開き、端部を丸くおさめる。382は体部上半外面に不定方向のハケを施す。382、383、391、392は胴の張る形状である。379、385、388、394は外面に黒斑がみとめられる。383、384、386、390は体部外面にススが付着する。395は吉備系の口縁部をもつ。396、397は口縁部を欠損し、体部外面にススが付着する。374～397のうち、374、376～378、380～389、391～395は、口縁部が直立気味であることや口縁端部の形状、外面調整から布留式後半に位置づけられ、特に380、391、393、394は布留4式に位置づけられる。その他は布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

398～430は高杯である。398～411、413、414、416、417は外反高杯である。412、415、418は口縁部を欠損するが、杯部形状より外反高杯と推定できる。398、401、404、416の口縁部はひずんでおり、特に398はひずみ大きい。414、417は脚部に3方向の円形透かしを施し、414は配置が不均等である。400、417は杯部外面にハケを施し、411、413、414、417は脚柱部内面にケズリを施す。417は杯部内面に黒斑がみとめられる。399、401～404、406～408、410～418は、杯部底部に棒状工具による刺突痕跡が残り、接合法Cである。特に402、406、410、411はCiの可能性がある。419、420は有稜高杯である。419、420とも杯部底部に棒状工具によ

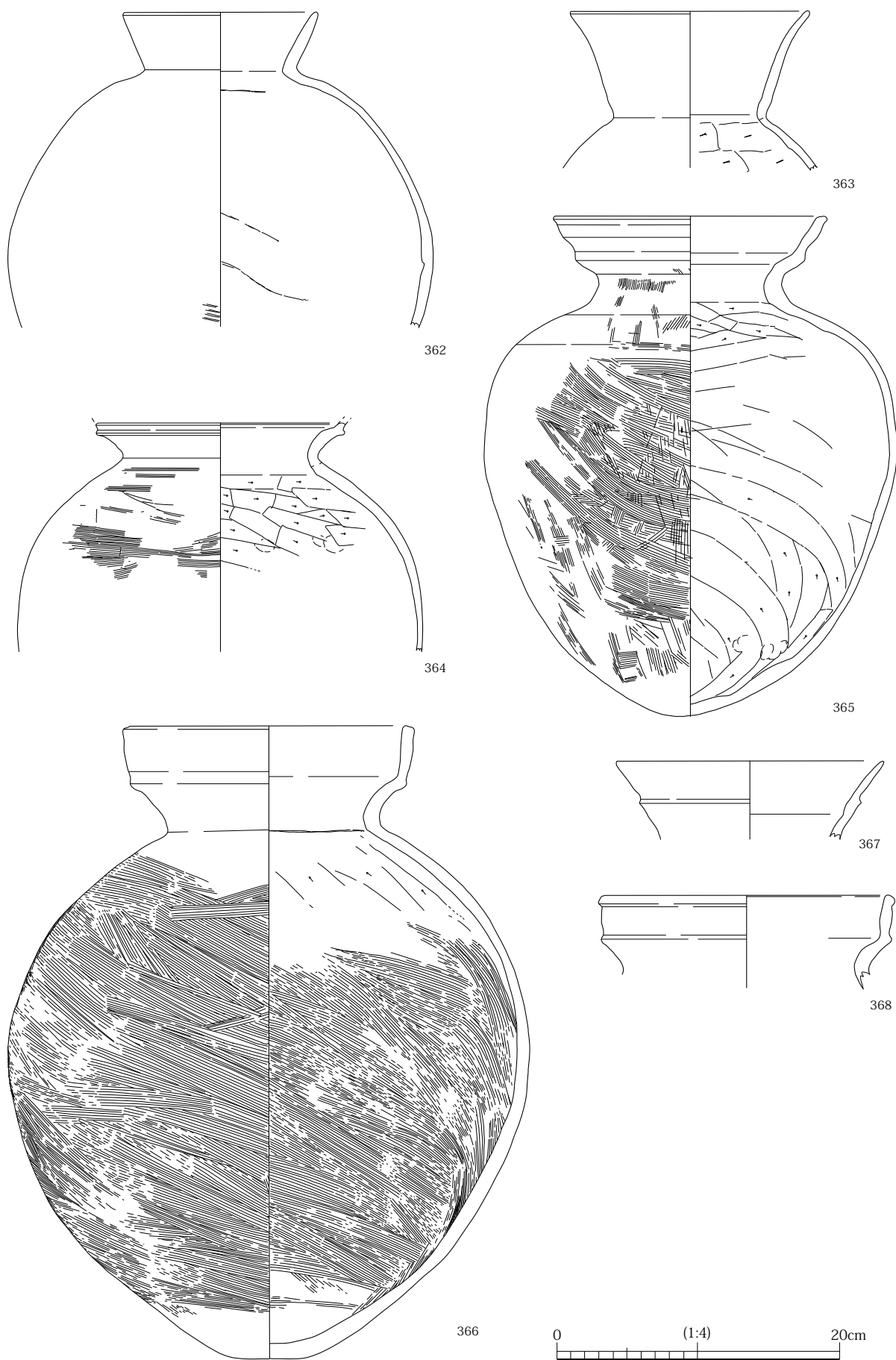


图 57 08019-4 区自然流路出土土器 (3)

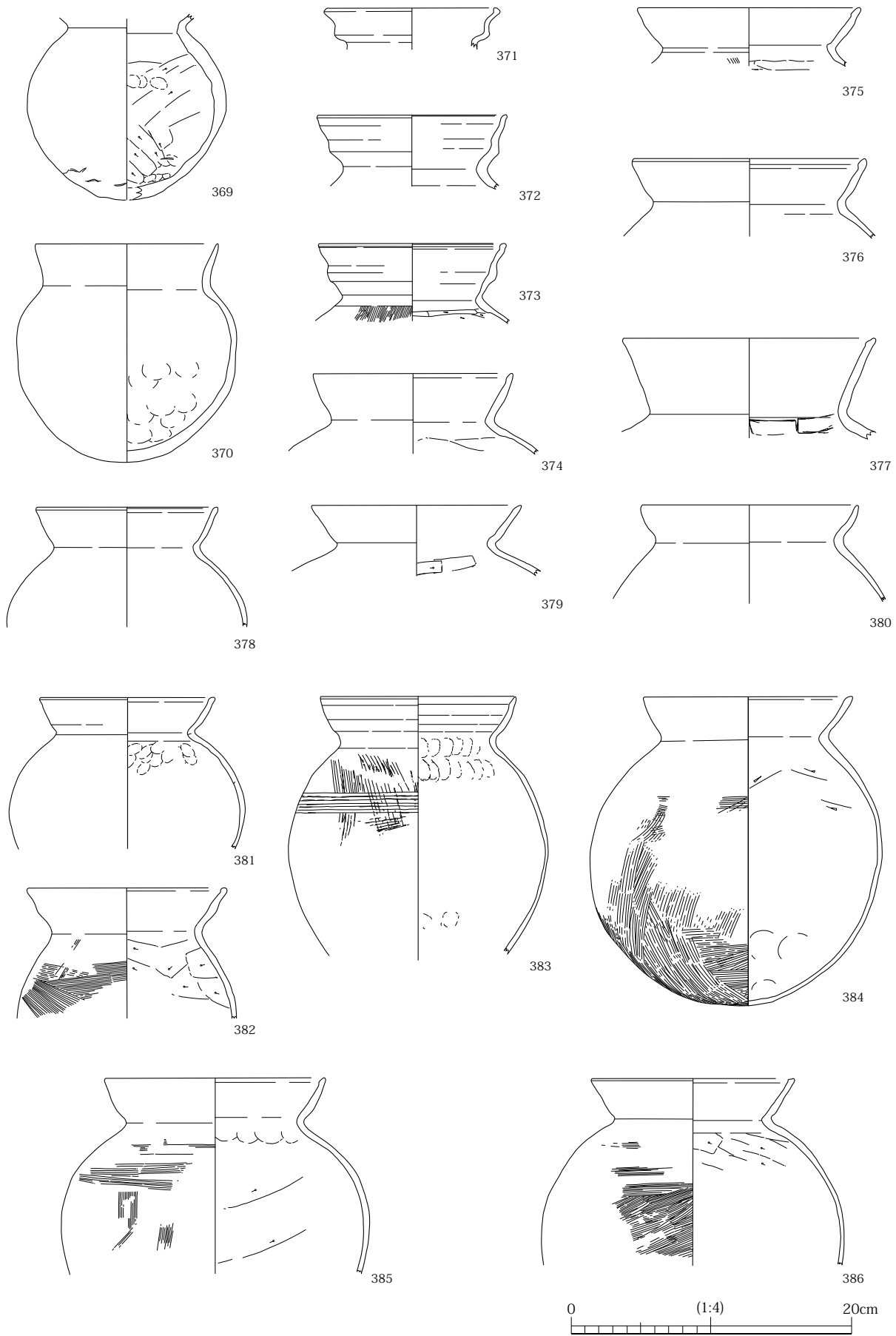


图 58 08019-4 区自然流路出土土器 (4)

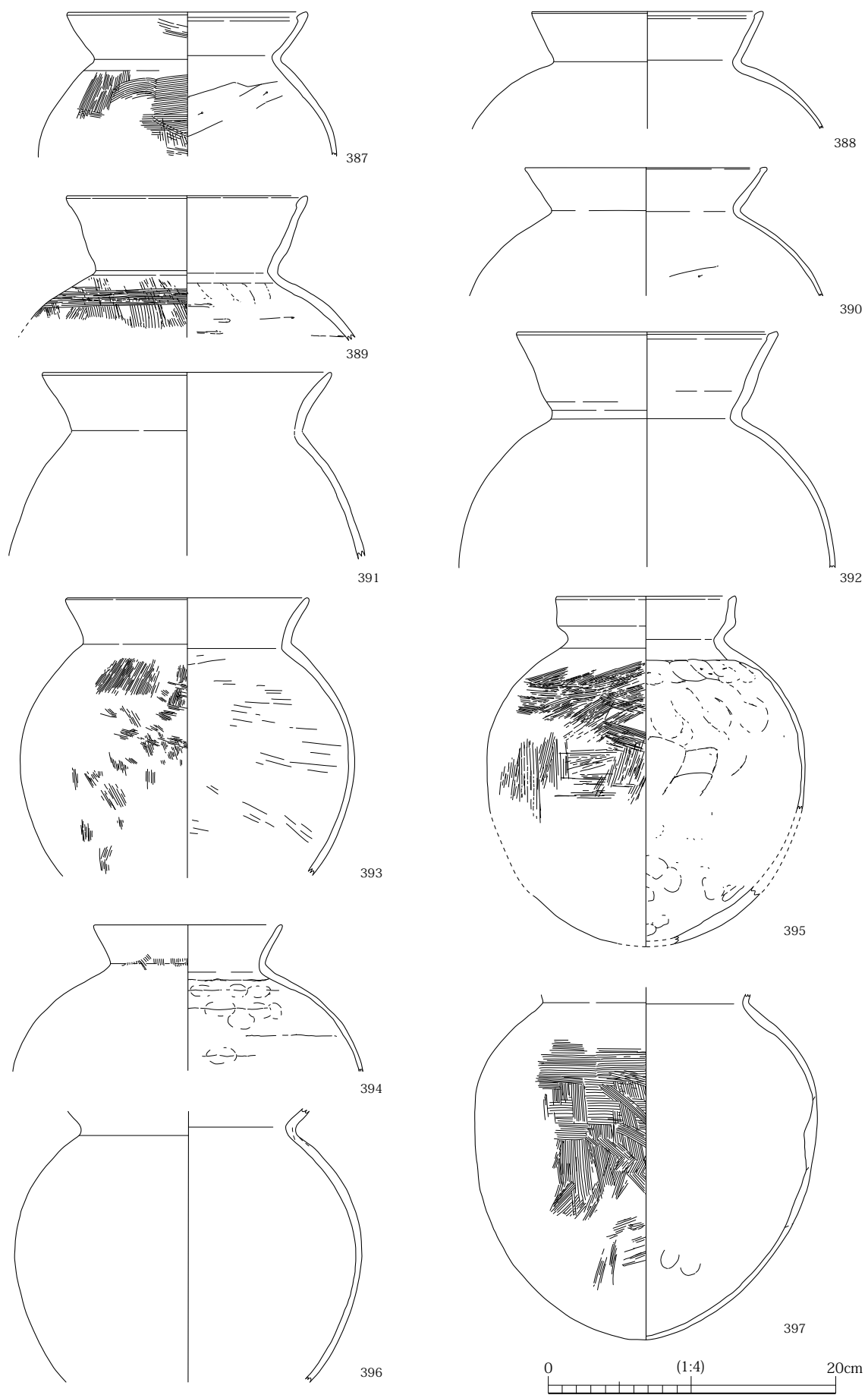


图 59 08019-4 区自然流路出土土器 (5)

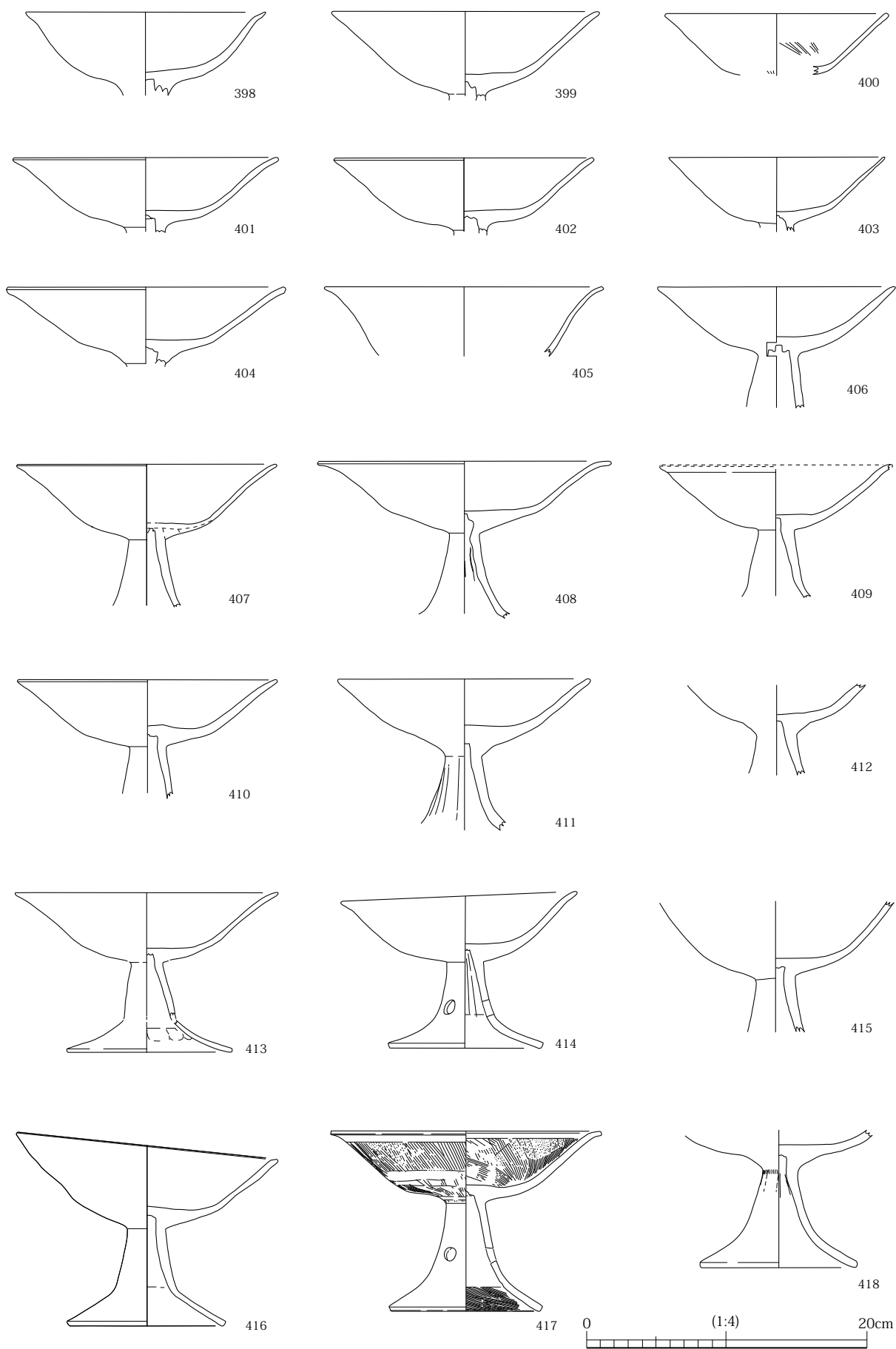


图 60 08019-4 区自然流路出土土器 (6)

る刺突痕跡が残る接合法 C で、Ci の可能性がある。420 は口縁部内外面に黒斑がみとめられる。422 は脚柱部がやや内湾する。425 は杯部と脚部が直接接合せず図上復元である。423、425 は杯部形状より外反高杯の可能性はある。422、423、428 は脚柱部内面にケズリを施し、429 は裾部内面にハケを施す。423、425、427、428 は杯部底部に棒状工具による刺突痕跡が残る接合法 C で、特に 428 は Ci である。398 ～ 430 のうち 419、420 は布留式後半に位置づけられる。その後は布留式期に所属するが詳細な時期比定は困難である。

431、432 は平底の鉢である。431 は外面に指頭圧痕がみとめられ、432 は底部外面にケズリを施す。431 は外面に黒斑がみとめられる。431、432 とも布留式後半に位置づけられる

433 ～ 504 は弥生土器である。磨滅により調整の不明なものが多い。

433 ～ 447 は壺である。433 ～ 435 は広口壺である。433 は口縁部に刻目がみとめられる。434 は口縁部が頸部から垂直に立ち上がって外反し、435 は口縁部が単純に外反する。435 は内外面にミガキを施す。

436 ～ 440 は垂下口縁広口壺である。436 は口縁部外面に簾状文と竹管円形浮文を、頸部外面に波状文を施す。437、438、440 は口縁部外面に沈線を施し、438 は磨滅により不明瞭であるが円形浮文が剥離した可能性がある。439 は口縁部外面に沈線と竹管円形浮文を施す。

441 は直口壺である。口縁部内面に黒斑がみとめられる。胎土に角閃石を含みチョコレート色を呈しており、生駒西麓産である。

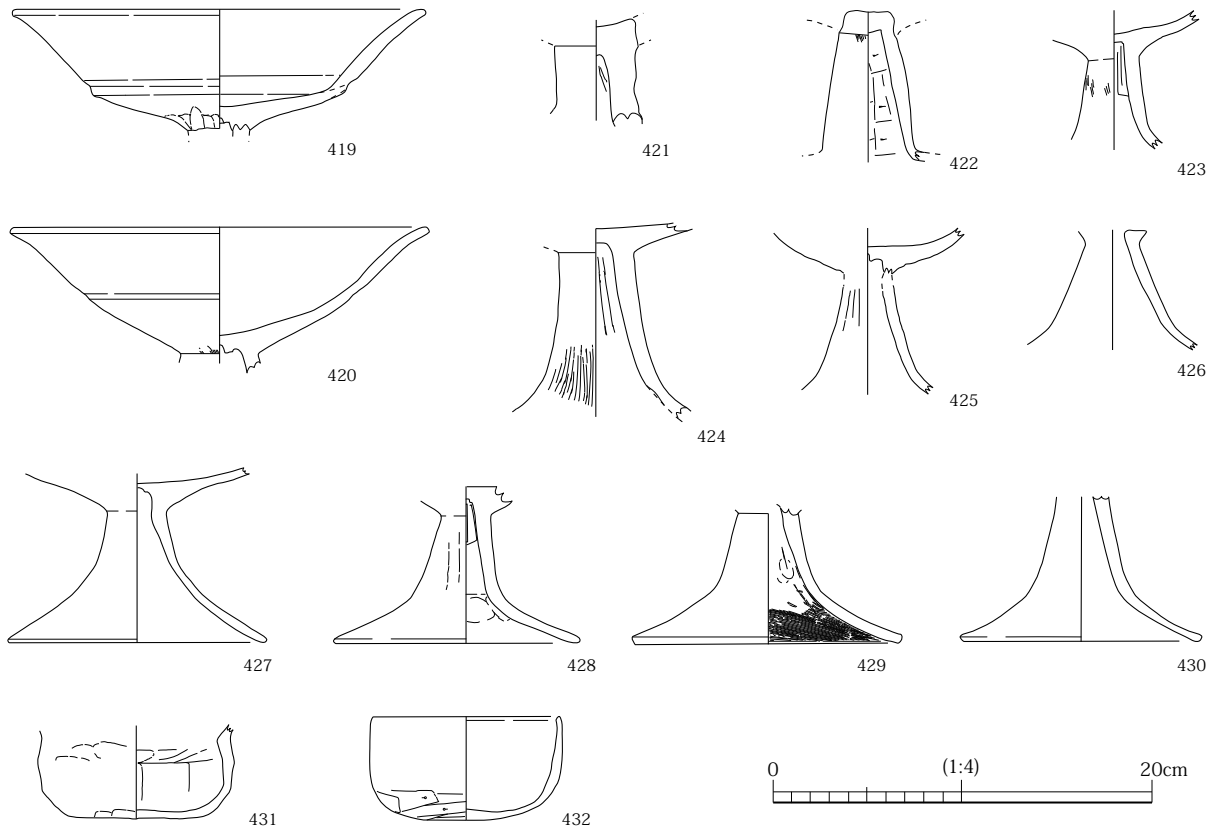


図 61 08019-4 区自然流路出土土器 (7)

442、443は複合口縁壺である。443は頸部から口縁部にかけて緩やかに屈曲する。口縁部外面には、442は竹管文、443は波状文と竹管円形浮文を施す。

444は体部外面に黒斑がみとめられる。445は体部と底部が直接接合せず、図上復元である。446は外面にミガキを施す。

以上433～447のうち、直口壺441、加飾性複合口縁壺442、443は、庄内式併行期に位置づけられる。433～440は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

448は器種不明である。内外面にハケを施す。壺または大形器台の口縁部の可能性がある。

449は鉢または壺、450は小形の壺の可能性がある。449、450とも外面に黒斑がみとめられる。448～450の詳細な時期比定は困難である。

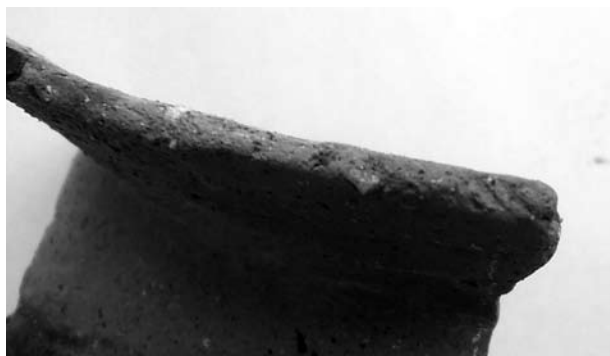


写真1 甕453口縁端部

451～462は甕である。451、453、455～462は弥生形甕で、458、459は器高17cm以上24cm未満の中形、462は器高24cm以上30cm未満の大形である。

451、455は頸部までタタキが及ぶ。452は口縁部が内湾し、外面に沈線を施す。453は口縁端部に不明瞭であるがタタキによる刻目状の痕跡がみとめられ、鈍い端面をもつ（写真1）。

口縁部途中には粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。454は胎土に角閃石を含みチョコレート色を呈しており、生駒西麓産である。456は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。胎土に角閃石を含みチョコレート色を呈しており、生駒西麓産である。口縁部は外反し、端部はわずかに上方に拡張する。459は口縁部がひずむ。口縁部途中には粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。460は口縁部までタタキが及ぶ。461は口縁部と底部が直接接合せず、図上復元である。451、454、455、459～462は口縁端部を丸くおさめる。457、458は口縁部が外反し、鈍い端面をもつ。体部外面には、451、453、455～458は右上がりの、460は横位のタタキを施す。459は体部外面に右上がりのタタキの後に下半にナデを施す。461は、体部外面の上半には右上がりの、下半には横位のタタキを施した後、下半には縦方向のナデを施す。462は、体部外面に横位のタタキの後に体部下半に工具により縦方向のナデを施す。456、458、461、462は体部外面にススが付着する。459は体部外面にリング状にススが付着し、体部内面にはコゲが付着する。462は外面に黒斑がみとめられる。459、462は、中央部付近が窪む平底、461はやや外側に突出する平底である。451～462のうち、体部が丸みをおびた形状である455～458は庄内式併行期に位置づけられる。その他は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

463～480は底部である。463は中央部が外側に突出する丸底で、壺の可能性がある。464、465は中央部付近がやや外側に突出する平底である。466～478は外面にタタキを施す。466、

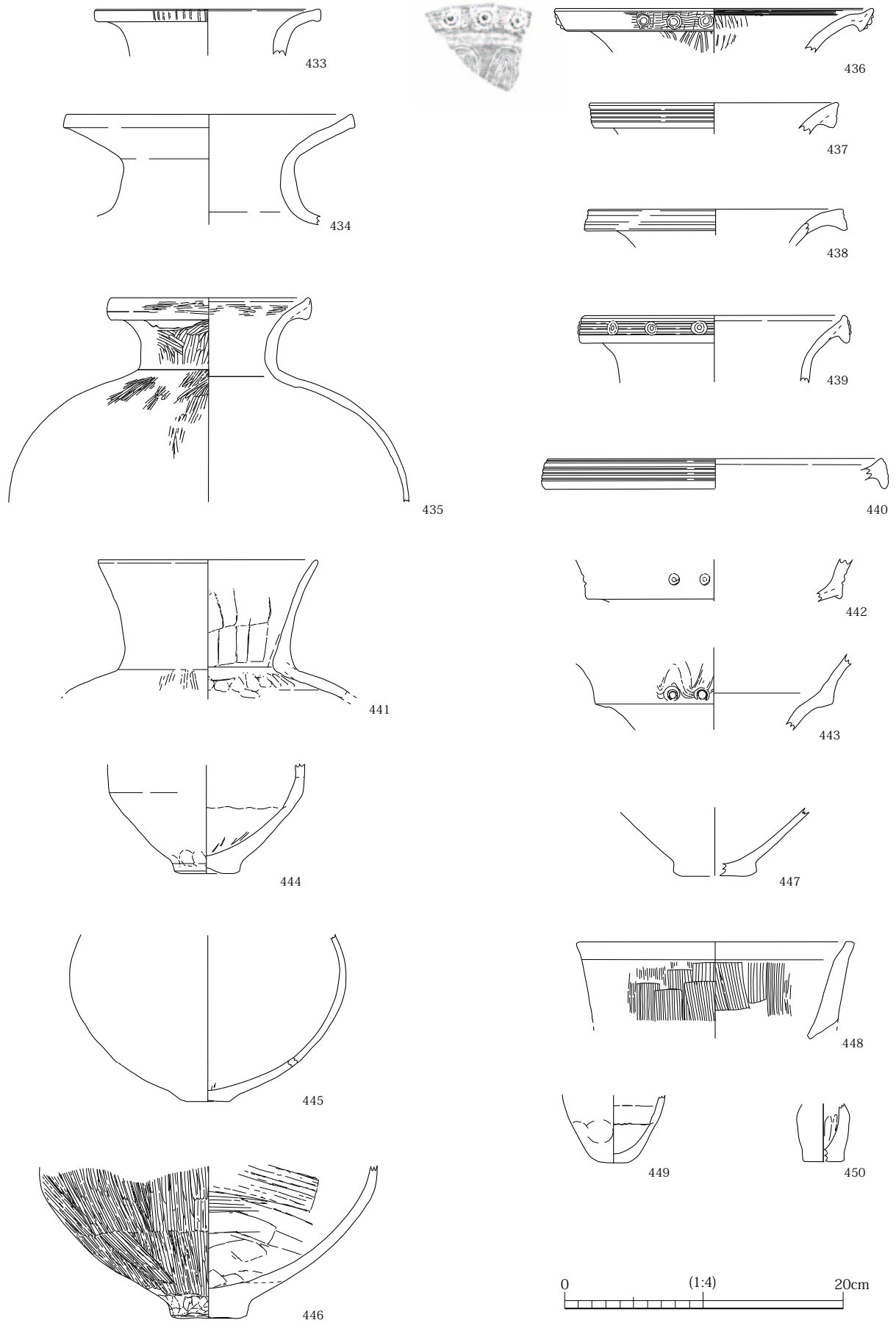


图 62 08019-4 区自然流路出土土器 (8)

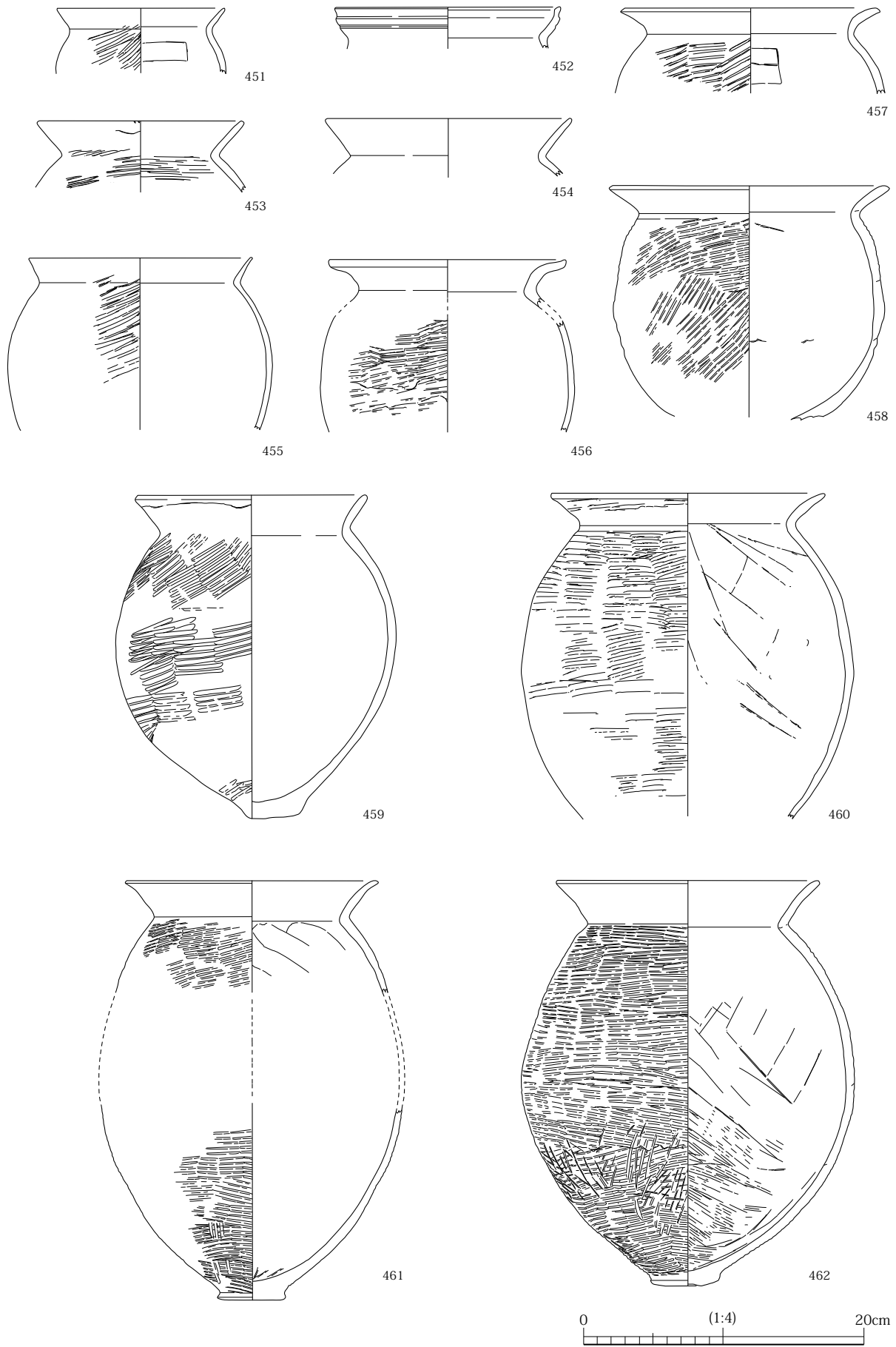


图 63 08019-4 区自然流路出土土器 (9)

467、469～471、473、475、477、478は右上がり、468は横位、472、474は左上がりのタタキを施す。476は不明瞭であるが右上がりの可能性がある。475、476はタタキ後にナデを施す。467、477は外面にススが、469、477は内面にコゲが付着する。475は外面に黒斑がみとめられる。466～473、475、478は中央部付近が窪む平底、474はやや外側に突出する平底、476、477は平底である。スス、コゲの付着および形状から、467～469、477、478は甕、466、470～472、474、476は甕か鉢、475は壺と考えられる。473は1孔をもち、有孔鉢の可能性もある。底部外面に木の葉文がみとめられる。479は底部の大半を欠損する。480は中央部付近が外側に突出する平底である。463、466～478は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

481～491は高杯である。

481～483は有稜高杯である。483は杯部と脚部が直接接合せず、図上復元である。脚柱部は半中実で、円形透かしを3方向に施す。杯部底部に棒状工具による刺突痕跡が残る。

484、485は椀形高杯である。484は脚柱部が短く中実で、円形透かしが1箇所残存する。本来の透かしの数は不明である。杯部内面、脚部外面にミガキを施す。485は脚柱部中実で、円形透かしを4方向に施す。杯部外面、脚部外面にミガキを施す。口縁部が内湾する点、杯部に稜をもつ点が特徴的で、東海または播磨の影響を受けたものと考えられる。

486、487は脚柱部中実で、円形透かしが3箇所残存する。486は配置がやや不均等であることから、4方向であった可能性もある。脚部外面にケズリを施す。488は脚柱部中実で、円形透かしが2箇所残存し、4方向であったと考えられる。脚部外面にミガキを施す。489は脚柱部半中実で、円形透かしを3方向に施す。490は脚柱部中空で、円形透かしを2段に施す。上段の透かしは径の大きなもので2方向、下段は径の小さなもので、2箇所残存し、3方向であったと考えられる。脚部内面にシボリ目とケズリがみとめられ、脚部外面にミガキを施す。接合方法は付加法である。491は脚柱部半中実である。

杯部および脚部の形状より、482、490は後期後葉に、481、483～489、491は庄内式併行期に

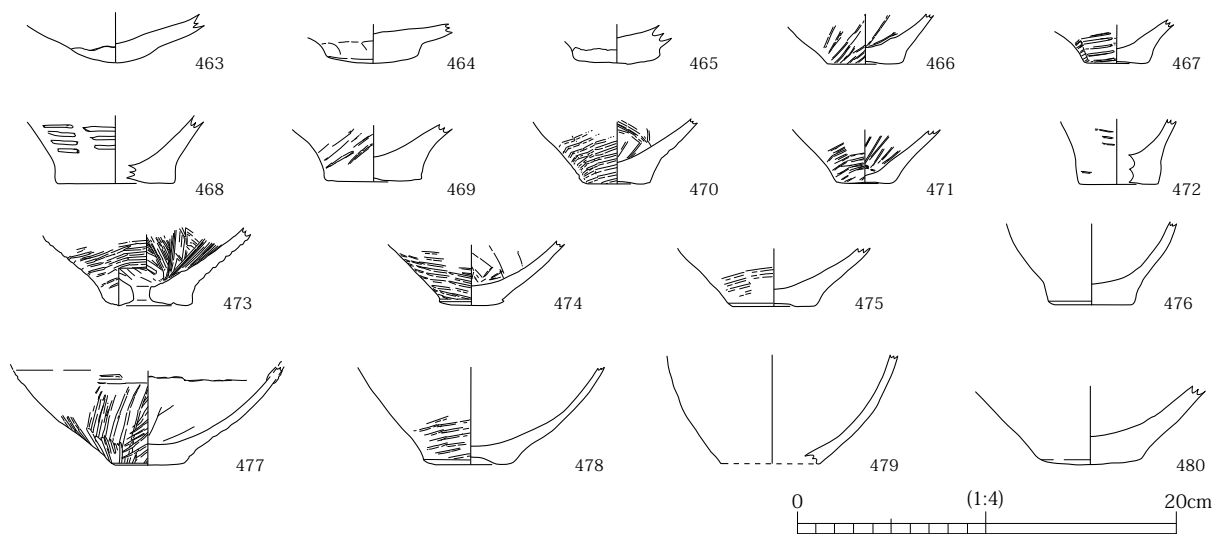


図 64 08019-4 区自然流路出土土器 (10)



写真2 器台 496 口縁部外面

位置づけられる。

492～495は鉢である。492、493は小形鉢である。492は口縁部が屈曲して上方にのび、平底をもつ。体部内面にミガキを施す。493は口縁部が屈曲して短くのびる。体部内面にケズリを施す。494、495は片口をもつ鉢である。口縁部の残存度が低く、口径は不確定である。493、494は庄内式併行期に位置づけられる。492、495は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

496は複合口縁状の精製の淡路型器台である。口縁端部と受部に刻目、口縁部外面の上下に沈線、中央部に2段の波状文と竹管円形浮文を施す(写真2)。淡路型であることから庄内式併行期に位置づけられる。

497～504は製塩土器脚台である。外面に497、500、503、504は横位、498、502は左上がり、499、501は右上がりのタタキを施す。497～500の裾部には折り返しがみとめられる。502は摩滅が著しく不明であるが、497～501、503、504は二次焼成により一部が赤色または黒色に変色する。498～503はI b式、497、504はII a式と考えられることから、後期後葉～庄内式併行期に位置づけられる。

505、506は縄文土器である。505は深鉢体部の小片である。外傾する粘土接合痕の上下に凹線状のへこみがみとめられ、接合に伴う痕跡と考えられる。晩期に位置づけられる。506は底部である。中央部が窪み、胎土は密である。滋賀里式で、浅鉢の可能性はある。

以上、自然流路内堆積である基本層序第8～11層からは縄文時代晩期から古墳時代後期にわたる遺物が出土している。出土層位をみると、須恵器は第10層以上を含む層から出土しており、弥生土器は第10層以上に限定できる層位からの出土は少量で、第11層からの出土が大半である。また、須恵器の出土は少量であり、土師器は布留式後半に限定できるものは出土しているが、前半に限定できるものはない。弥生土器は後期後葉～庄内式併行期に限定できるものは出土しているが、後期中葉以前に限定できる遺物はない。したがって、第9・10層は布留式後半～古墳時代後期、第11層は弥生時代後期後葉～布留式後半という形成時期が推定でき、特に後者は弥生時代後期後葉～庄内式併行期と布留式後半の土器を多く含むと言える。なお、第8層の出土遺物は少量で、第8層出土に限定できる遺物は土師器の小片と弥生土器のみであったが、下層の第9層と同様布留式後半～古墳時代後期頃と推定しておく。

自然流路031土器溜まり(基本層序第11層)出土土器(図66～79、巻頭図版4—1、図版22・30～44) 自然流路出土土器のうち、調査区南西部の土器溜まりで出土したものである。なお、試掘・確認調査出土遺物についても、調査記録や接合関係から一連の土器溜まり出土と判断でき

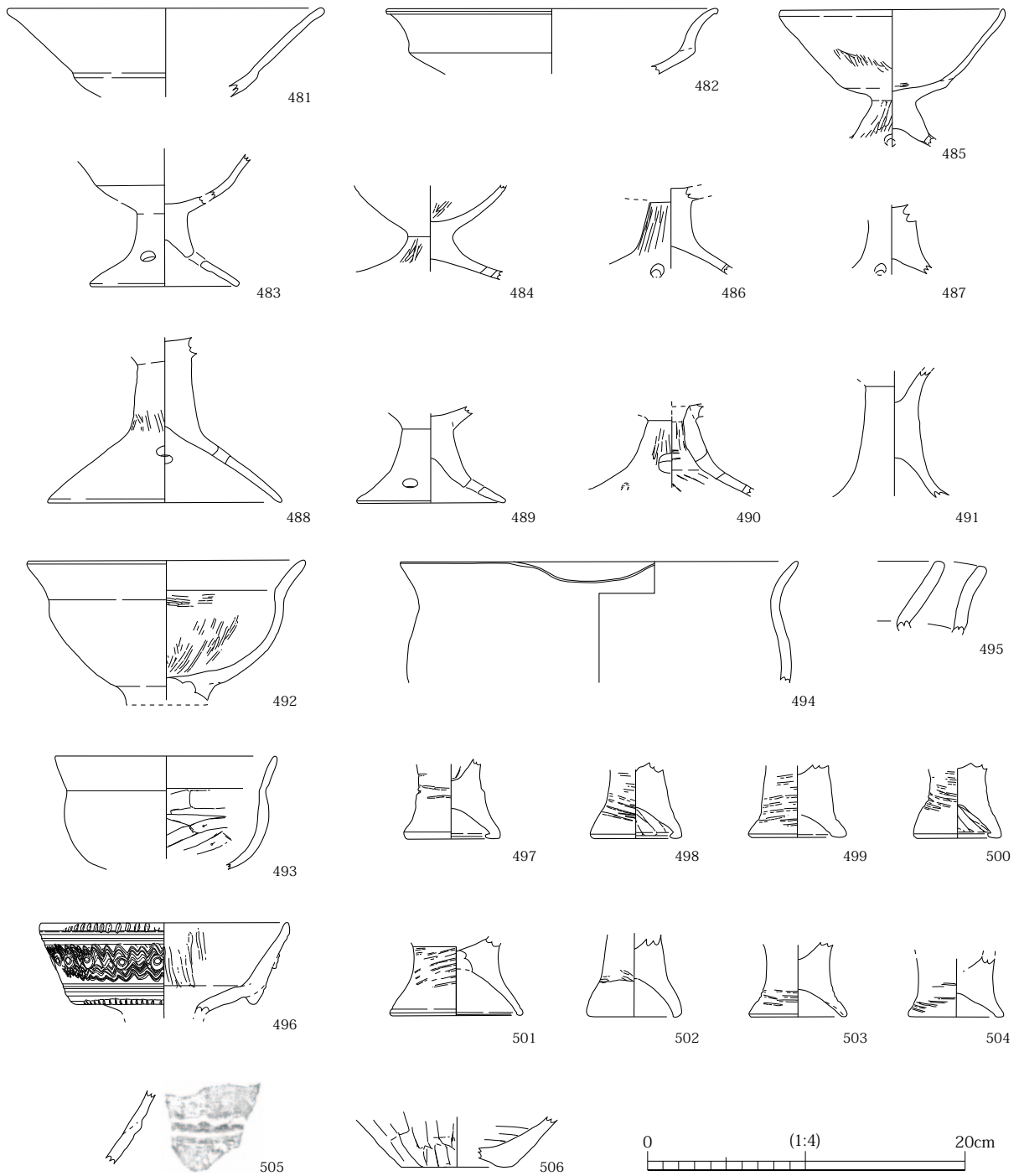


図 65 08019-4 区自然流路出土土器 (11)

るものについてはここで報告する。層位は基本層序第 11 層にあたるが、土師器を含まず、弥生土器のみが出土している。磨滅により調整の不明なものが多い。

507～530 は壺である。507～510 は広口壺である。いずれも口縁部が単純に外反する形状である。507 は頸部外面にミガキがみとめられる。508 は口縁部外面にミガキがみとめられ、体部外面は、右上がりタタキの後にミガキを施す。509 は頸部外面に刺突文を施す。体部は内面にハケ、外面にミガキがみとめられる。510 は、接合しないが同一固体と考えられる体部片より、体部外面に右上がりタタキの後にミガキを施すと推定できる。

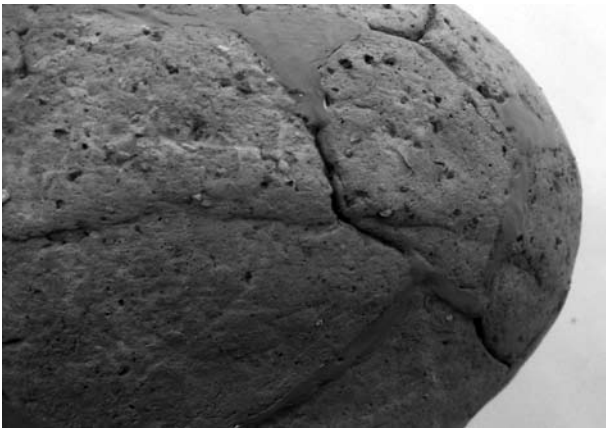


写真3 壺518底部付近

511は垂下口縁広口壺である。口縁部外面に沈線と竹管円形浮文を施し、端部、受部には刻目がみとめられる。口縁部内外面、体部外面にミガキを施す。

512～514は複合口縁壺である。頸部から口縁部の形状は、512は緩やかに屈曲し、513、514は直線的である。512は口縁部外面に波状文と竹管円形浮文を施す。513は口縁部、体部の外面にミガキを施す。口縁部、頸部の外面に

は竹管文がみとめられる。514は長い受部と短い口縁部をもつ。受部、頸部の内面と体部外面にミガキ、頸部外面にハケを施す。口縁部外面には波状文と竹管円形浮文、端部には刻目がみとめられる。受部内面、肩部外面に簾状文を施す。体部外面には黒斑がみとめられ、下半にはススが付着する。受部に2孔をもつ。同様の形態のものは奈良県桜井市ホケノ山古墳等で出土している。

515は口縁部が直線的にのび、体部下半が張る形状である。口縁部内外面と体部外面にミガキを施す。体部内面はハケを施し、肩部のみ粗いミガキがみとめられる。体部外面には黒斑がみとめられる。底部は、欠損により断定できないが、焼成前穿孔の可能性はある。岐阜県大垣市荒尾南遺跡に類似した形態のものがみられるが、これまでのところ類例資料は少なく、他地域の影響を受けたものかは明らかでない。

516は複合口縁壺と考えられる。頸部から口縁部の形状は、直線的である。体部外面にミガキを施す。517は頸部くびれ部分に刻目をもつ突帯を貼り付け、その上下に各2列の刺突文を施す。体部外面にススが付着する。胎土に角閃石を含み、讃岐産の可能性はある。肩部のみであるが、複合口縁壺の可能性はある。518は体部内外面にハケを施す。底部外面に黒斑がみとめられる。底部側の胎土は密であるが、粘土接合痕を境に上部は砂粒を多く含む(写真3)。広口壺の可能性はある。519は肩部に波状文を施す。体部外面に黒斑がみとめられる。520は体部内面にハケ、外面にミガキを施す。521は体部外面にミガキを施す。底部付近外面に黒斑がみとめられる。522は体部外面にミガキを施す。523は体部外面に横位タタキの後、中央部にミガキ、下部にハケを施す。524は外面にミガキを施す。

525～528は底部である。525は外面にミガキを施す。526は外面にケズリ状の痕跡がみとめられるが、不明瞭である。外面に黒斑がみとめられる。527は内面にハケ、外面にミガキがみとめられる。529、530は小形壺である。529は体部外面にミガキを施す。外面に黒斑がみとめられる。530は頸部に刺突文を施す。外面に黒斑がみとめられる。底部形状は、514、518、524が外側に突出する平底、520、521、526、529、530が平底、523、527、528は中央部付近がやや窪む平底である。522、525は底部が体部から突出せず、小さく窪んでいることから、細頸直口壺の可能性はある。

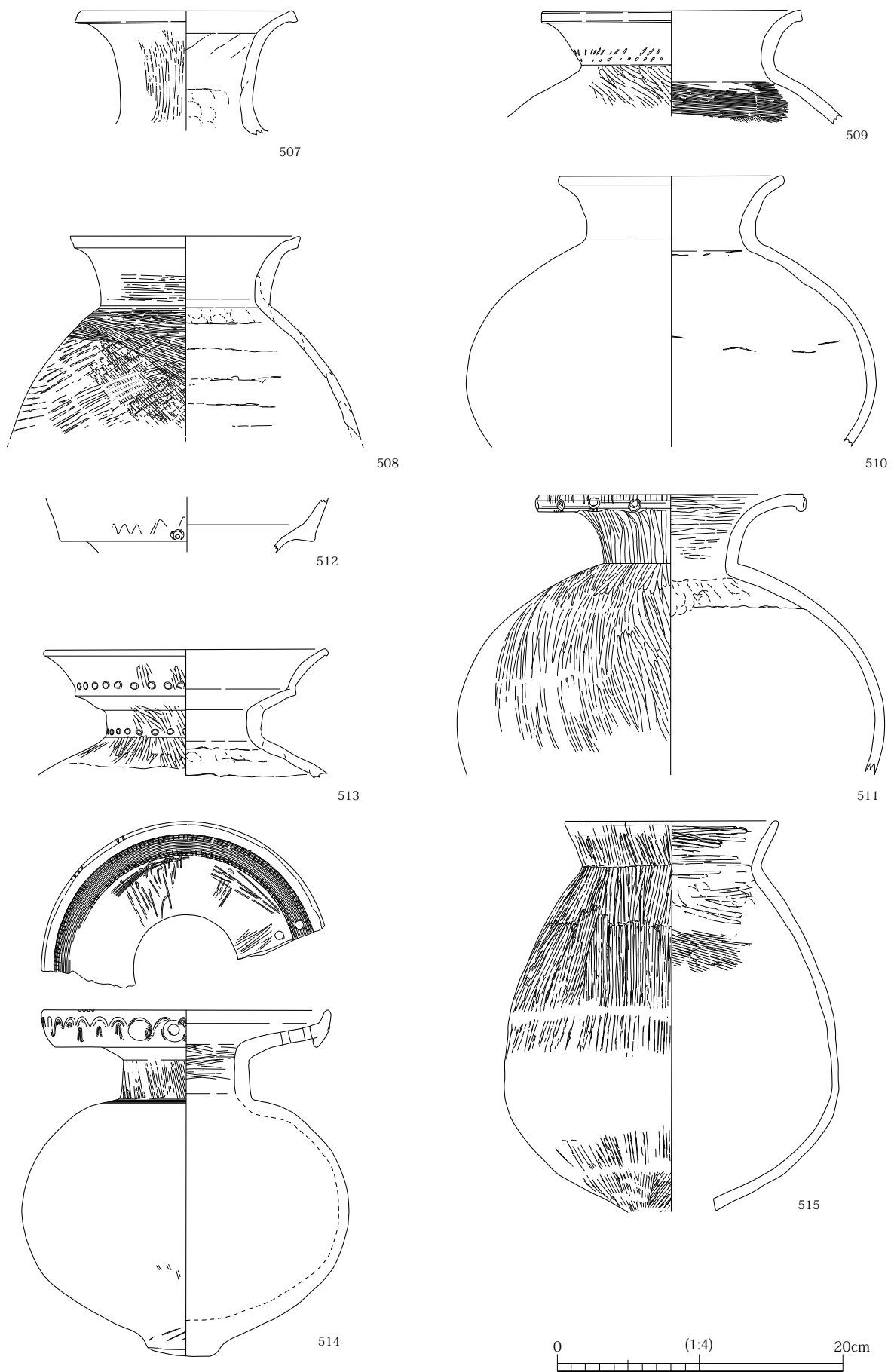


图 66 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (1)

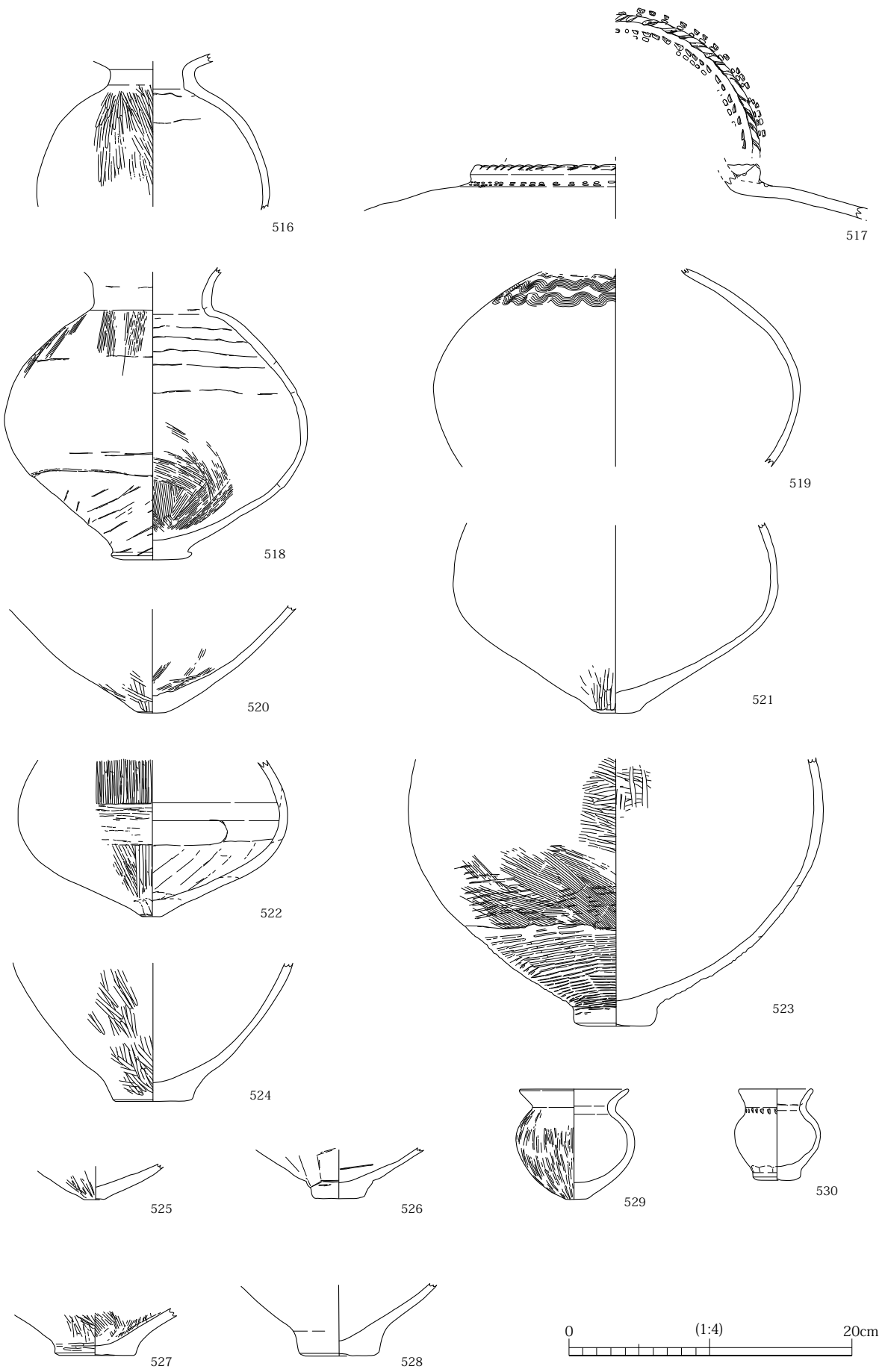


図 67 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (2)

以上のうち、512～514は加飾性複合口縁壺であることから庄内式併行期に位置づけられる。522、525は、細頸直口壺であるとする、庄内式併行期に位置づけられる。その他は後期～庄内式併行期に位置づけられるが、詳細な時期比定は困難である。

531～599は甕で、いずれも弥生形甕である。

531～535は器高14cm未満の超小形で、形態は多様である。531は口縁部の屈曲が大きく、端部外面に鈍い稜線をもつ。533は体部と底部が直接接合せず、図上復元である。口縁部の残存度が低く、復元口径の値、口縁部の傾きとも不確定である。534は口縁部がひずむ。535は底部外面に木の葉文がみとめられる。532～535は端部を丸くおさめる。体部外面は、531は横位、533～535は右上がり、532は左上がりのタタキを施す。534のタタキは4条/1cmで、2.5～3条前後のものが多い中では細いものである。532、534、535は口縁部途中で粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。タタキ後に、532は中央部にナデを、535は中央部から下半に工具による縦方向のナデを施す。535の体部外面には黒斑がみとめられ、532、534、535は体部外面にススが付着する。底部形状は、531、533、534は中央部付近がやや窪む平底、532、535は平底である。

536～544は、器高14cm以上17cm未満の小形である。537は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。544は体部が丸みをおびた形状である。体部外面は、536、537、539、540、542は右上がりのタタキを施す。538は右上がりのタタキを施すが、中央部は左上がりのタタキと重複する。541は上半には右上がりの、中央部には横位のタタキを施す。543は横位のタタキの後、中央部付近にナデを施す。544は上部、下部には右上がりの、中央部には横位のタタキの後、一部にナデを施す。536、540、541、543は口縁部途中で粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。536、537、539～541、543は口縁部端部を丸くおさめ、538は鈍い端面をもつ。538、539、542は体部外面に黒斑がみとめられる。536～539、543、544の体部外面にはススが付着し、543は体部内面にコゲが付着する。底部形状は、537、544は中央部付近がやや窪む平底、542、543は平底である。

545～565は、器高17cm以上24cm未満の中形である。550は複合口縁と比較的小さな底部をもつ。体部外面には右上がりのタタキの後にハケを施す。北近畿系で、胎土からも搬入品の可能性がある。552は口縁部と底部が直接接合せず、図上復元である。554は口縁部がひずむ。555は胎土に角閃石を含み、生駒西麓産である。口縁部はやや内湾し、端部外面に鈍い稜線をもつ。体部外面に右上がりのタタキの後、下半全体に縦方向のナデを施す。タタキは4～4.5条/1cmと細い。556は頸部付近外面に縦方向のミガキ状の調整痕がみとめられる。557は底部に木の葉文がみとめられる。561は口縁部端部にタタキによる刻目状の痕跡がみとめられ、ややいびつな形状である(写真4)。鈍い端面をもつ。口縁部内面には工具によるナデの痕跡がみとめられる。体部外面上半には右上がりの、中央部には横位のタタキの後、一部にナデを施す。口縁部途中で粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。562は口縁部がひずむ。563は口縁部端部に

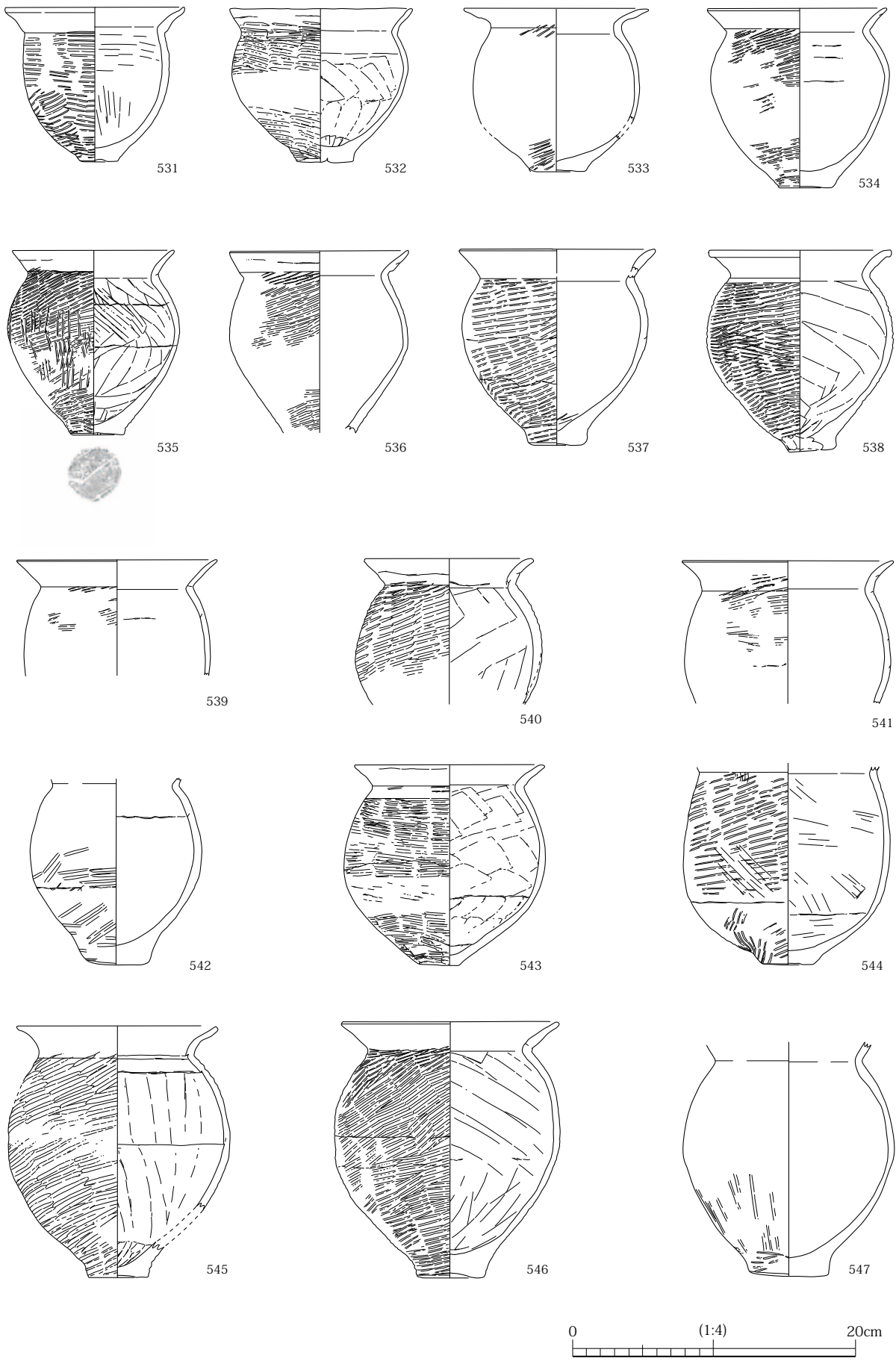


図 68 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (3)

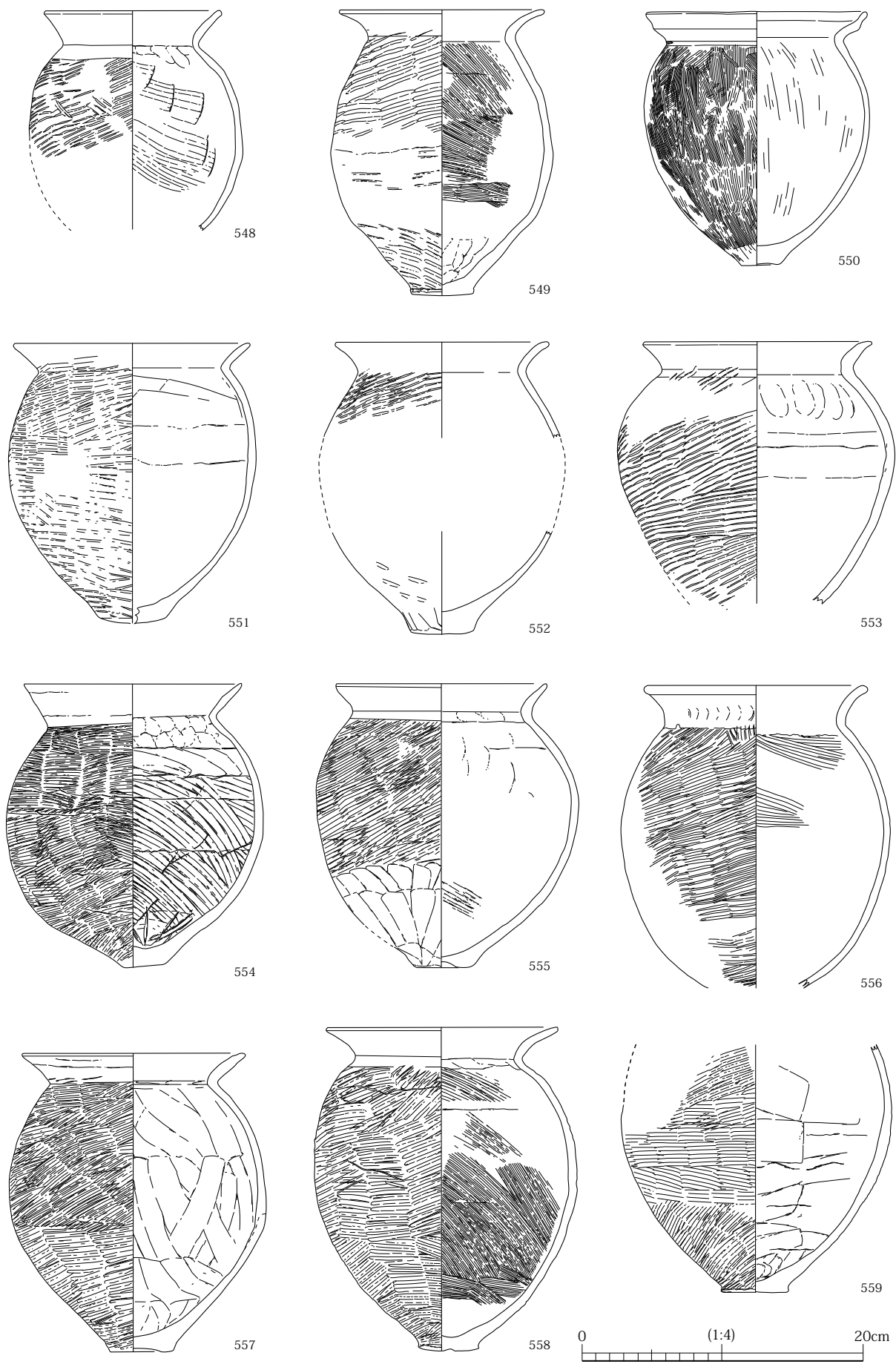


図 69 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (4)

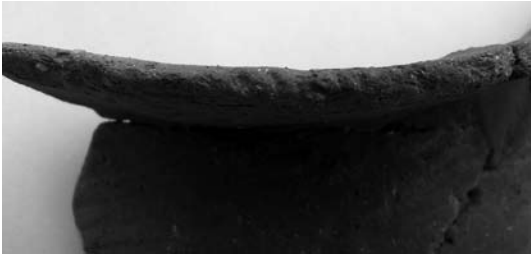


写真4 甕 561 口縁端部



写真5 甕 563 口縁端部

タタキによる刻目状の痕跡がみとめられ、いびつな形状である（写真5）。鈍い端面をもつ。口縁部内面には、不明瞭であるが工具によるナデの痕跡がみとめられる。体部外面には横位のタタキを施す。口縁部途中に粘土接合痕がみとめられる。545、546、548、549、551～554、557、558、562、564は口縁端部を丸くおさめ、556、560、565は鈍い端面をもつ。554、555、560～564は、体部が丸みをおびた形状である。体部外面は、545～548、553、557、558、560、565は右上がりのタタキを施す。549、551は上半には右上がりの、中央部には横位の、下半には左上がりのタタキを施す。552は上半には右上がりの、底部付近には左上がりのタタキを施す。554は

右上がりのタタキを施すが、中央部は左上がりのタタキと重複する。556、559は上部、下部には右上がりの、中央部には横位のタタキを施す。562、564は、上半には右上がりの、中央部には横位のタタキを施す。548、554のタタキは4条/1cmで、3条前後のものが多い中で細いものである。タタキ後に、545は中央部一部にナデを、547は下半に工具により縦方向のナデを、548は中央部に工具により斜め方向のナデを、560、565は一部にナデを施す。554、557、560、562は口縁部途中に粘土接合痕がみとめられる。545、546、549、551、553、557、562は頸部ま

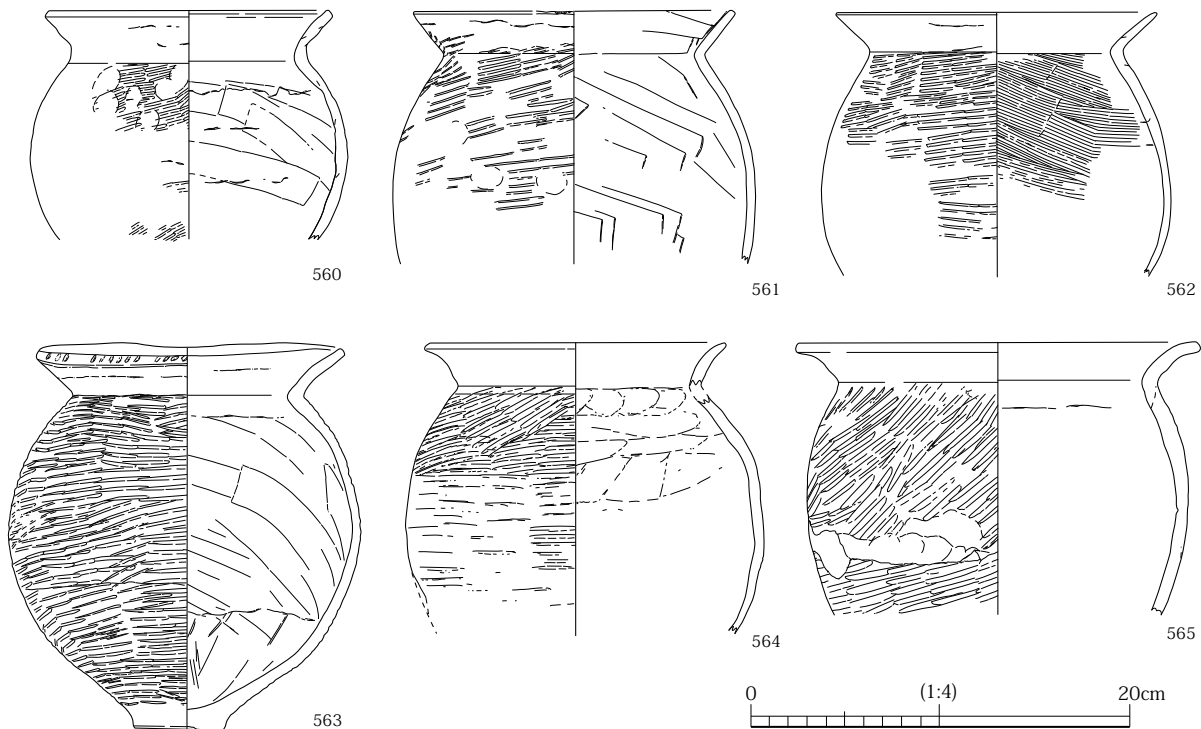


図70 08019-4区自然流路031 土器溜まり出土土器（5）

でタタキが及ぶ。546、548、549、552、553、563は体部外面に、557は体部内面に黒斑がみとめられる。545、548、550、551、553～555、557～561、563～565は体部外面にススが付着する。545、554は体部内面にコゲが付着する。底部形状は、545、546、550、555、557、563は中央部付近が窪む平底、547、551、558はやや外側に突出する平底、549、552、554、559は平底である。



写真6 甕572口縁端部

566～572は、欠損により器高による分類の不能なものである。566は口縁部がひずむ。567～569は体部に右上がりのタタキを施す。568、569は口縁部途中に粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。570は口縁部内外面にススが付着する。571は体部外面に横位のタタキを施す。566～571はいずれも口縁端部を丸くおさめる。572は口縁端部にタタキによる刻目状の痕跡がみとめられる(写真6)。



写真7 甕572口縁部外面

口縁部がいびつな形状であるため、復元口径の値は不確定である。口縁部内外面にはハケ状の痕跡がみとめられる(写真7)。体部外面には右上がりのタタキの後、一部にナデを施す。

573～578は、欠損により器高による分類の不能なものの中で、中形または大形と推定できるものである。573は口縁部がひずむ。573～578はいずれも口縁端部を丸くおさめるが、575のみ頸部がやや立ち上がる形状である。578は体部が丸みをおびた形状である。体部外面は、573、575は上半には横位の、中央部には左上がりのタタキを施す。574、576は横位の、577、578は右上がりのタタキを施す。573、578はタタキ後に一部にナデを施す。576は口縁部途中に粘土接合痕がみとめられる。578は頸部までタタキが及ぶ。576、578は体部外面にススが付着する。

579～584は、器高24cm以上の大形で、体部が球形のものである。579は頸部がやや立ち上がる形状である。口縁部に強いヨコナデを施し、端部は鈍い端面をもつ。580は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。580、582、584は口縁端部を丸くおさめ、581は鈍い端面をもつ。583の口縁部はいびつな形状で、にぶい端面をもつ。体部外面は、579、581、583、584は右上がりの、580は横位のタタキを施す。582は上半には右上がりの、中央部には横位のタタキを施す。タタキ後に、579、580、583、584は一部にナデを施しており、特に中央部以下に顕著である。581～583は口縁部途中に粘土接合痕がみとめられる。579、581、582は頸部までタタキが及ぶ。581は体部外面に黒斑がみとめられる。580、581、583、584は体部外面にススが付着する。

585～598は器高24cm以上の大形で、体部が球形にならないものである。ただし、588は体部と底部が直接接合せず図上復元しており、器高は推定である。また、592、593、598は超大形

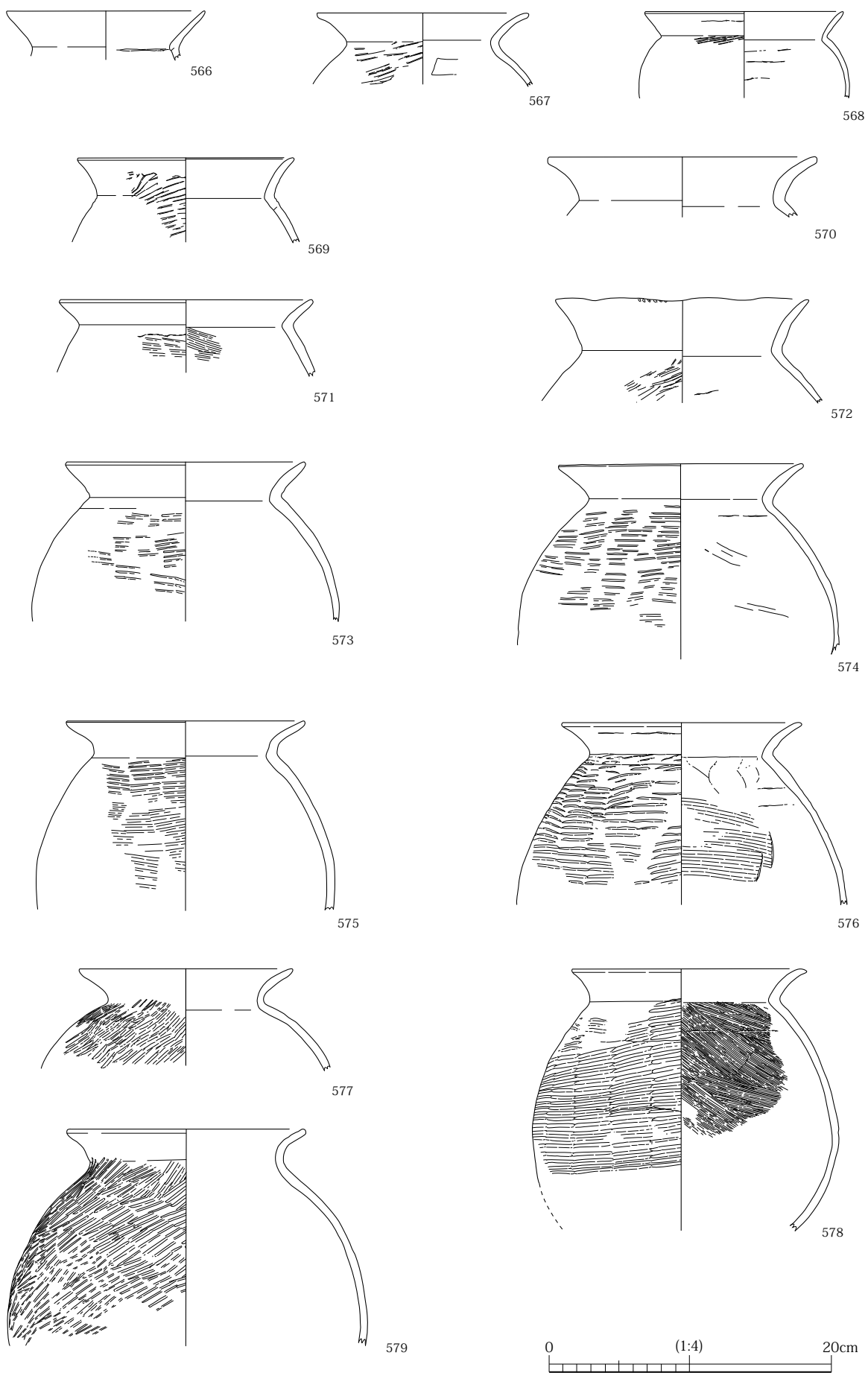
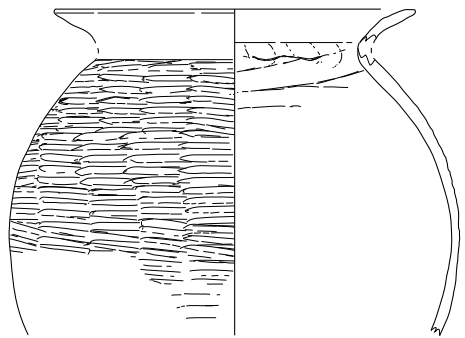
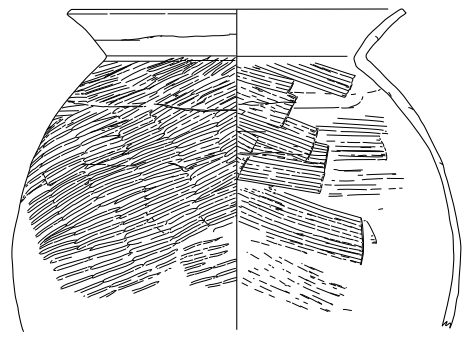


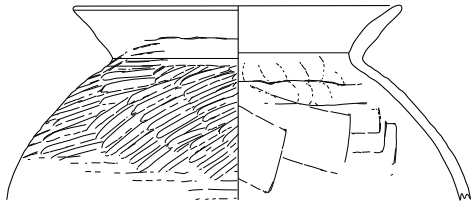
图 71 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (6)



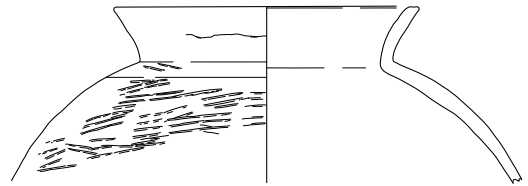
580



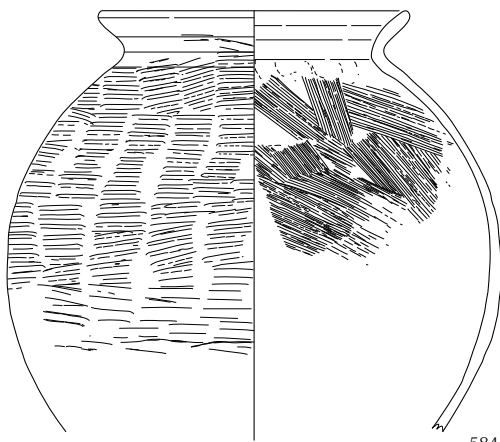
581



582



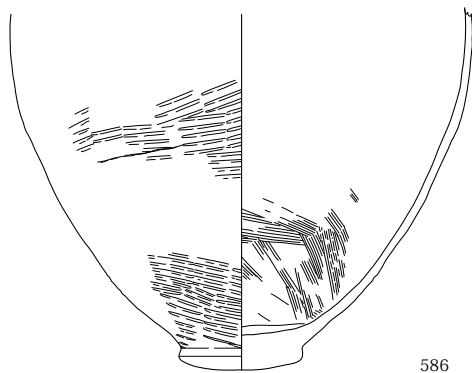
583



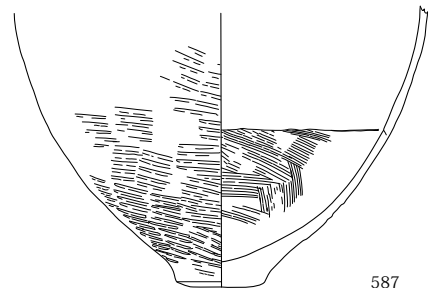
584



585



586



587

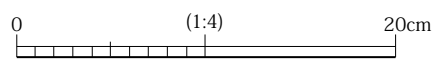


图 72 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (7)

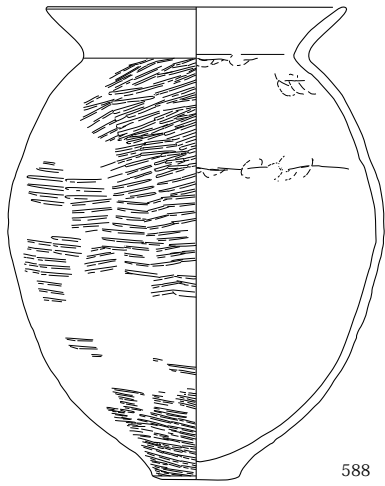
に分類される器高 30cm 以上であり、その他欠損するものにも 30cm 以上のものが含まれる可能性があるが、数が少ないため、ここで一括して扱う。

589 は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元している。592、594 は口縁部がいびつな形状である。588 ～ 590、592 ～ 595、597、598 は口縁端部を丸くおさめ、591、596 は鈍い端面をもつ。体部最大径は、585、588 ～ 593 は中央部にあり、594 ～ 598 はやや肩部寄りにある。体部外面は、585 は中央部には横位の、下半には左上がりのタタキを施す。586 は中央部には右上がりの、下半には左上がりのタタキを施す。587 は左上がりの、590 は右上がりのタタキを施す。588、591、594、598 は上半には右上がりの、中央部には横位の、下半には左上がりのタタキを施す。589 は上半には右上がりの、中央部には横位のタタキを施す。592、593、595 は、上半から中央部には横位の、下半には左上がりのタタキを施す。596、597 は上半から中央部には右上がりの、下半には左上がりのタタキを施す。タタキ後に、590 は中央部一部に板状工具により縦方向のナデを、594 は一部にナデを、598 は上半にナデ、下半に縦方向の板ナデを施す。590、592、594、595、598 は口縁部途中で粘土接合痕がみとめられる。590、593 ～ 595、598 は頸部までタタキが及ぶ。588、590、596 は体部外面に黒斑がみとめられる。585 ～ 588、590 ～ 598 は体部外面にススが付着し、593、598 はリング状の付着である。585 ～ 587、592 ～ 594、597、598 は体部内面にコゲが付着する。底部形状は、585 ～ 587、595 ～ 597 はやや外側に突出する平底、588、592 は中央部付近が窪む平底、593、594、598 は平底である。

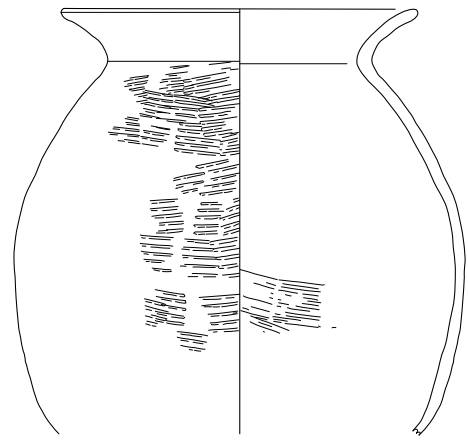
599 は大型で、体部がやや丸みをおびる。口縁端部にタタキによる刻目状の痕跡がみとめられ、いびつな形状である。鈍い端面をもつ。体部外面には横位のタタキの後、上半一部と下半にナデを施す。頸部付近外面に縦方向のミガキ状の調整痕がみとめられる。口縁部途中で粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。体部外面にススが付着する。

以上のうち、小形の 544、中形の 554、555、560 ～ 564、中形または大形の 578、大形の 599 は、体部が丸みをおびた形状のもの、大形の 579 ～ 584 は体部が球形のものである。これらについては庄内式併行期に位置づけられる。その他については、後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

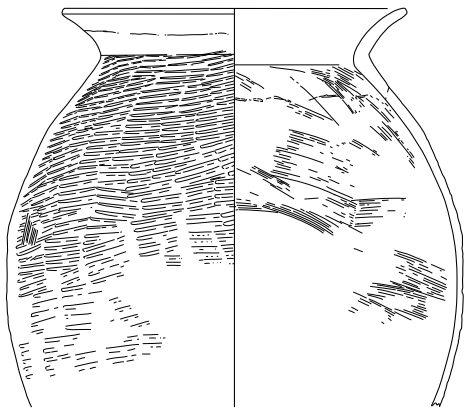
600 ～ 623 は底部である。600、619 は底部外面に木の葉文がみとめられる。600、601、603 ～ 622 は外面にタタキを施しており、600、601、603、605、608、609、615、616、619 ～ 622 は右上がり、604、606、607、610 ～ 613、617、618 は左上がりである。614 は右上がりタタキの後に縦方向のタタキを施す。623 は外面にミガキを施す。600、617、620 は外面に黒斑がみとめられる。604 ～ 606、609 ～ 611、614、616、618、622 の外面にスス、604、607、610、614 の内面にコゲが付着する。619 は外面が二次焼成により赤色または黒色に変色する。底部形状は、600、604、606、616、618、619 は平底、601 ～ 603、605、607、609 ～ 611、613 ～ 615、617、620、621、623 は中央部付近が窪む平底、608、612 はやや外側に突出する平底である。ススの付着および形状から、604 ～ 607、609 ～ 611、613 ～ 616、618、619、621、622 は甕、600 ～ 603、608、612、



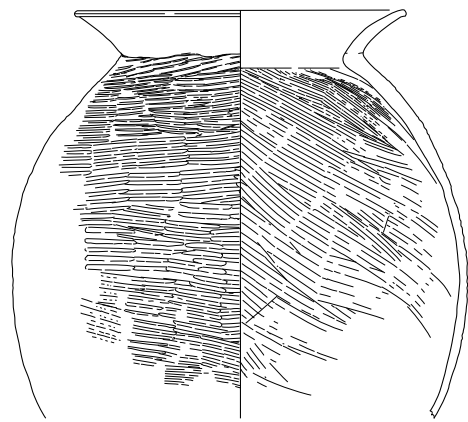
588



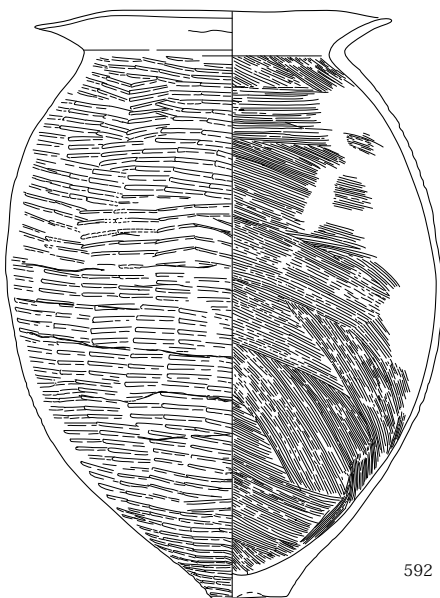
589



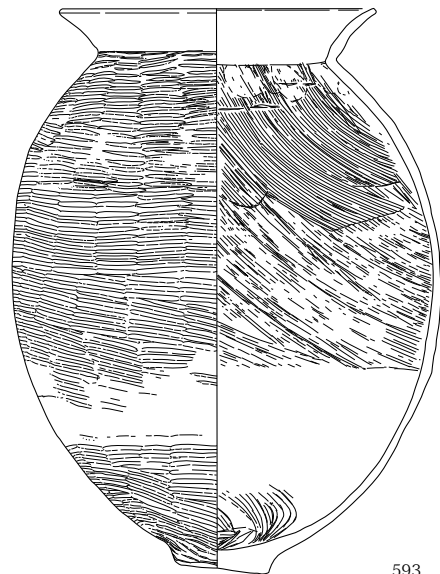
590



591



592



593

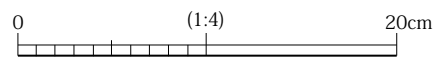


图 73 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (8)

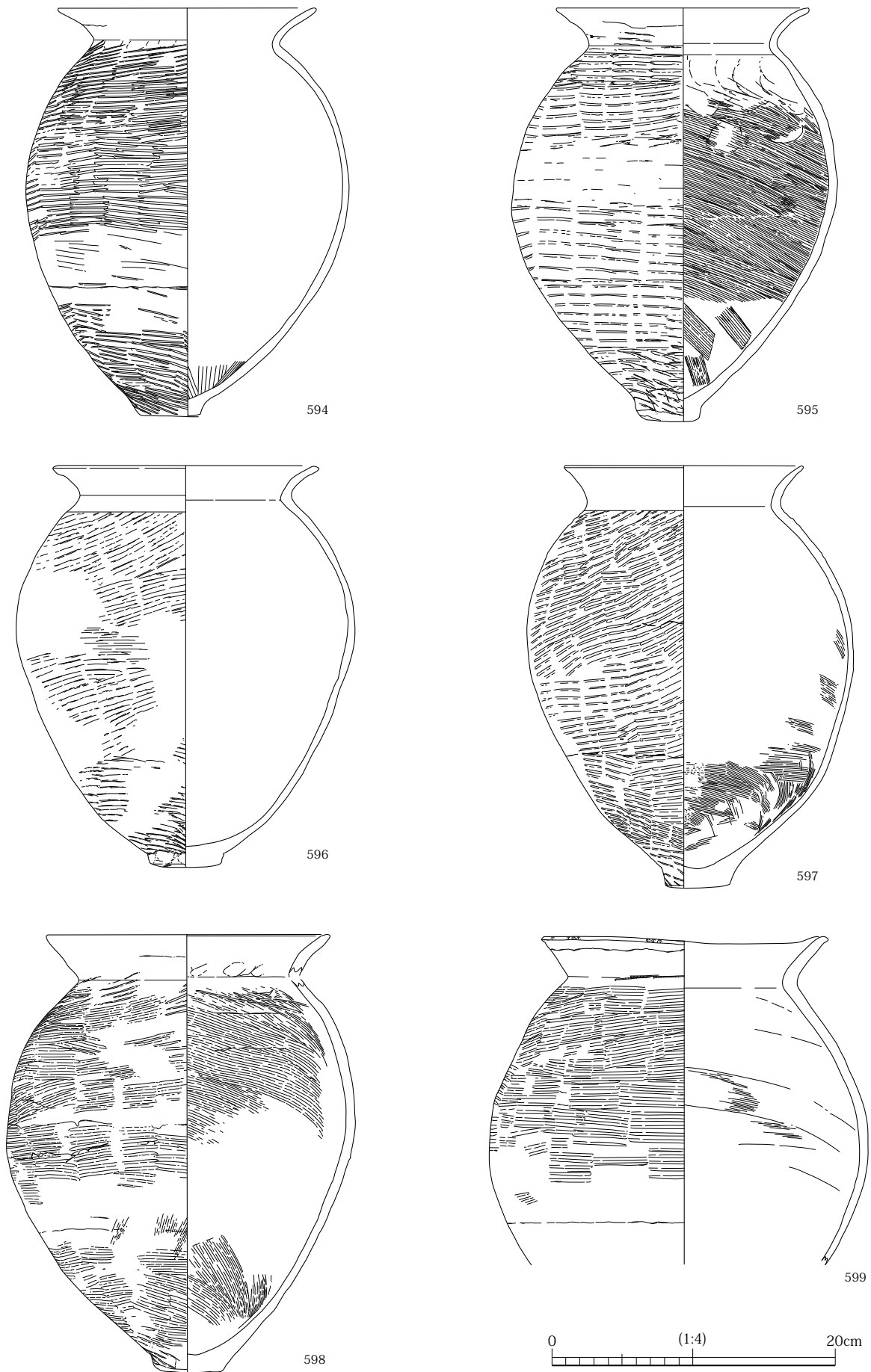


図74 08019-4区自然流路031 土器溜まり出土土器(9)

617、620 は甕か鉢、623 は壺と考えられる。600～622 は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

624～648 は高杯である。624～638 は有稜高杯である。624、625 は小形のものである。624 は脚柱部中空で、円形透かしを3方向に施す。透かしの配置は不均等である。杯部、脚部の外面にミガキがみとめられる。625 は脚柱部中実である。透かしの有無は不明である。628 は杯部外面にミガキがみとめられる。629 は杯部と脚部が直接接合せず、図上復元である。脚柱部中実である。630 は口縁部がひずむ。脚柱部中空である。杯部内外面、脚部外面にミガキがみとめられる。631 は脚柱部中空で、円形透かしを4方向に施す。杯部内外面、脚部外面にミガキを施し、脚部内面にはシボリ目がみとめられる。632 は口縁部がひずむ。脚柱部中実で、円形透かしを4方向に施す。杯部外面にミガキがみとめられる。633 は脚柱部中空で、円形透かしを4方向に施す。杯部、脚部の外面にミガキを施し、脚部内面に工具痕がみとめられる。634 は脚柱部中空で、円形透かしを4方向に施す。635 は口縁部がひずむ。脚柱部中実で、円形透かしを4方向に施す。透かしの配置は不均等である。636 は脚柱部中空で、円形透かしを4方向に施す。杯部内外面、脚部外面にミガキを施し、脚部内面にはシボリ目がみとめられる。杯底部径が大きく、口縁部が長い点、裾部が緩やかに広がる点が特徴的で、大垣市周辺等西美濃で出土するものとの関連がう

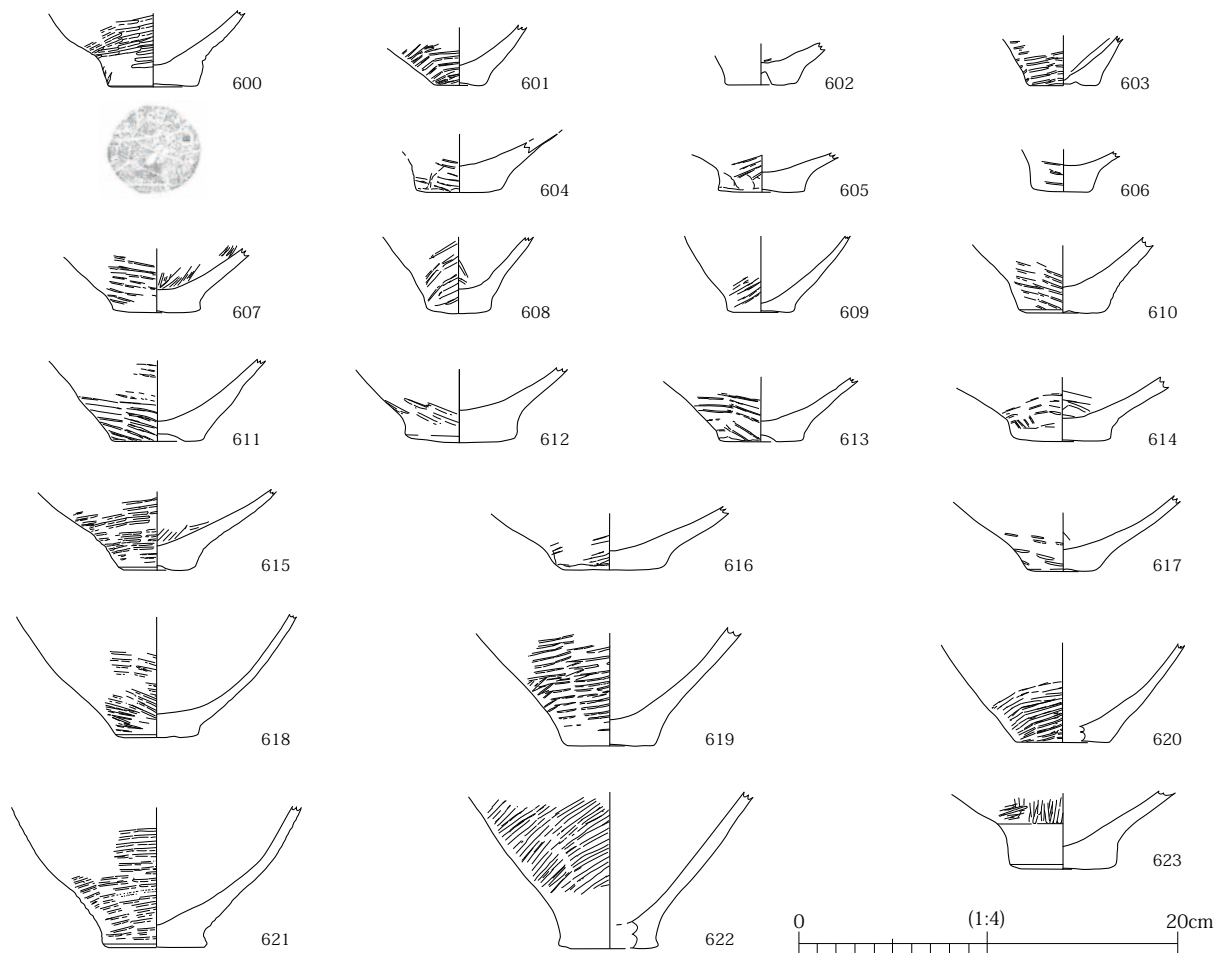


図 75 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (10)

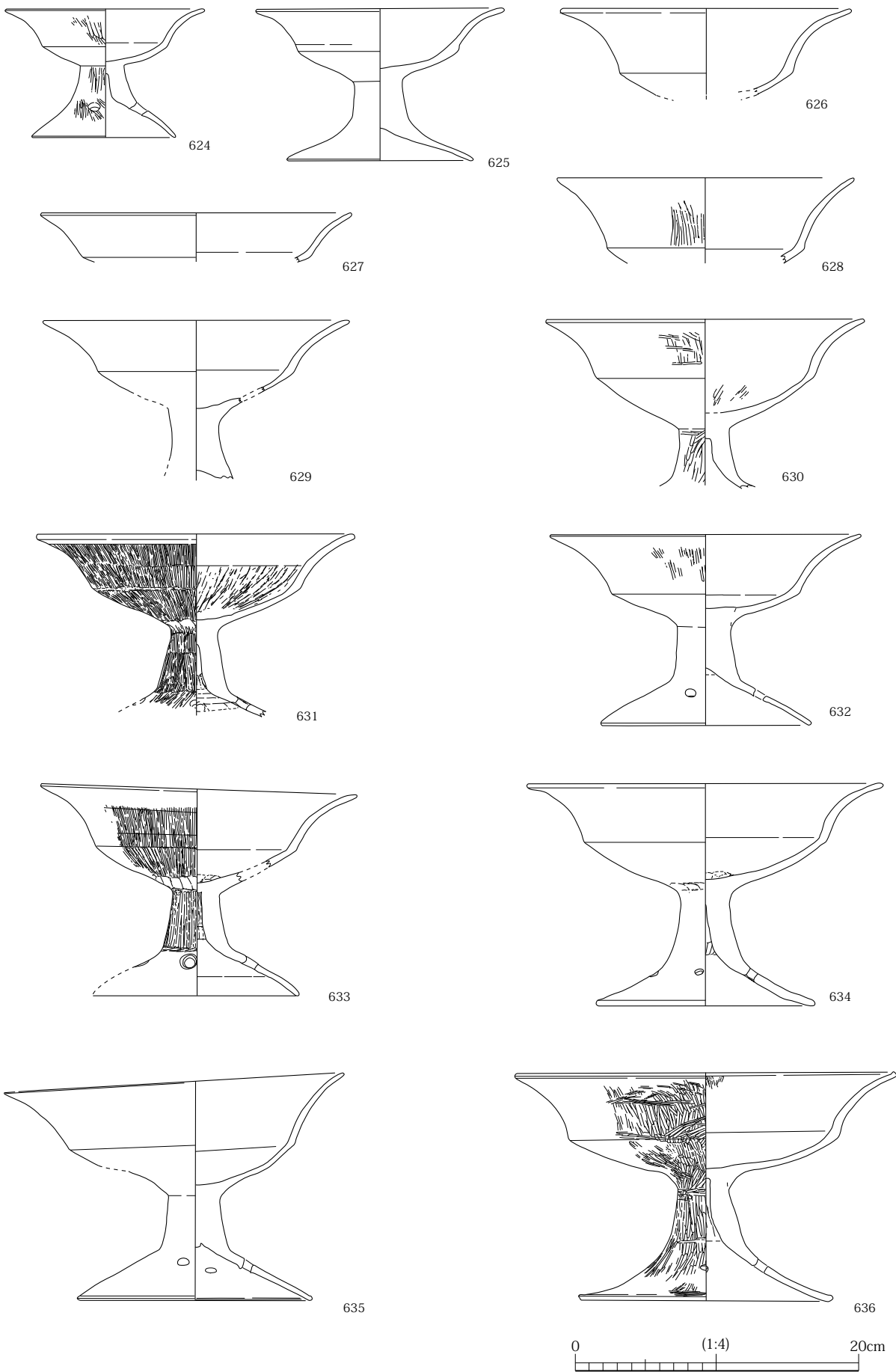


図 76 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (11)

かがえる資料である。胎土は在地のものと考えられる。637は脚柱部中実で、円形透かしを4方向に施す。脚部外面にミガキがみとめられる。上方にのびる口縁部と短い脚部から、吉備の影響を受けたものと考えられる。638は脚柱部中実で、円形透かしが3箇所残存し、4方向であったと考えられる。杯部、脚部の外面にミガキがみとめられる。形態から、美濃で出土するものとの関連がうかがえる資料であるが、搬入品か否かは不明である。

639～642は椀形高杯である。639は杯部外面にミガキがみとめられる。640は杯部内外面にミガキがみとめられる。641は脚柱部中実で、円形透かしを4方向に施す。脚部外面にミガキがみとめられる。640、641は口縁部が内湾する点、杯部に稜をもつ点、脚部がスカート状に緩やかに広がる点が特徴的で、東海または播磨の影響を受けたものと考えられる。642は小形で、口縁部は屈曲する。

643は脚柱部が短く中実で、円形透かしが1箇所残存する。本来の透かしの数は不明である。脚部外面にミガキがみとめられる。形状より椀形高杯と考えられる。644は脚柱部中空で、円形透かしを3方向に施す。脚部外面にミガキがみとめられる。645は脚柱部中空で、円形透かしを4方向に施す。杯部内外面、脚部外面にミガキを施し、脚部内面にはハケがみとめられる。接合方法は充填法である。646は脚柱部中実で、円形透かしが3箇所残存し、配置がやや不均等な4方向であったと考えられる。脚部外面に工具痕がみとめられる。647は脚柱部中空で、円形透かしを3方向に施す。脚部外面にミガキ、脚部内面にシボリ目がみとめられる。接合方法は付加法である。648は脚柱部中実で、円形透かしを4方向に施す。透かしの配置はやや不均等である。

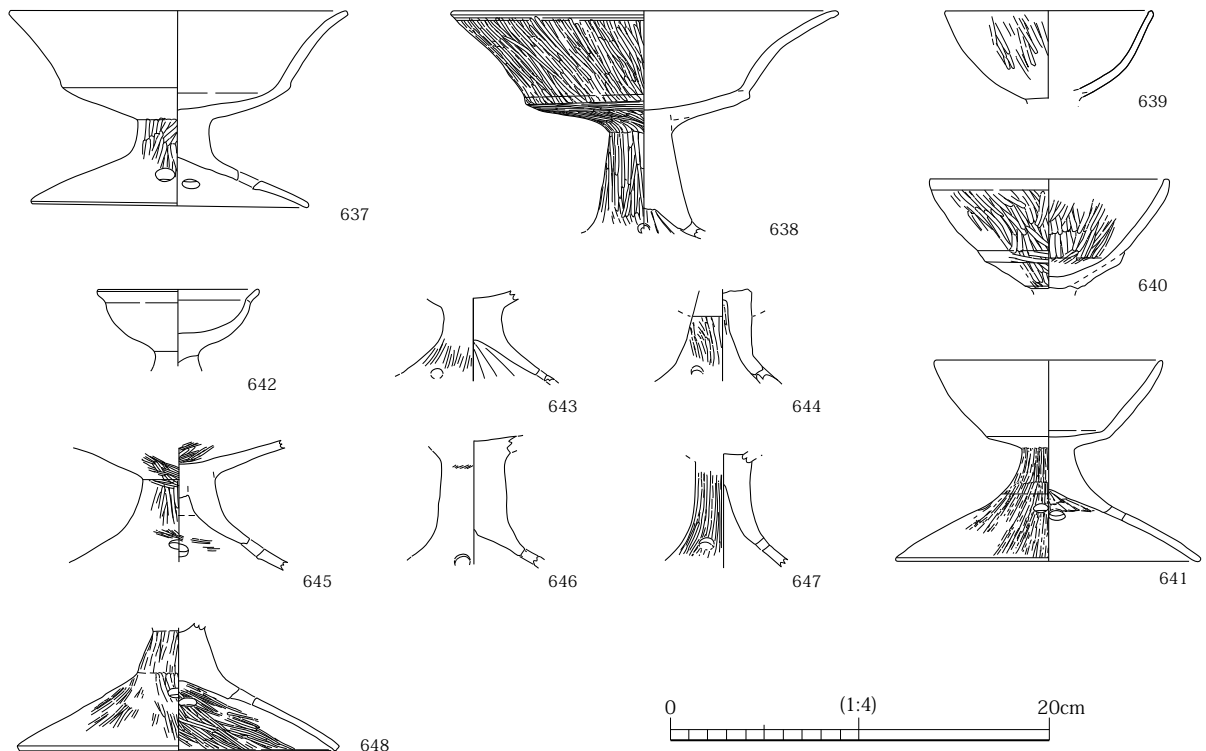


図 77 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (12)

脚部内外面にミガキがみとめられる。

以上のうち、杯部形状等から 624～626、628～636 は庄内式前半に、杯部形状と脚柱部中実であること等から 637～641、643、646、648 は庄内式併行期に、その他は後期後葉～庄内式併行期に位置づけられる。

649～660 は鉢である。649～654 は小形鉢である。649 は椀形の体部に平底をもつ。外面に黒斑がみとめられる。650 は上げ底状の底部で、外面に右上がりのタタキを施す。外面に黒斑がみとめられる。651～654 は口縁部が屈曲して上方にのびるものである。651 は浅めの体部に平底をもつ。体部外面の上半に製作時の粘土皺が残存する。652 は平底をもち、外面に右上がりのタタキの後に下半一部にナデを施す。653 は立ち上がりが強く深めの体部に中央部付近がやや窪

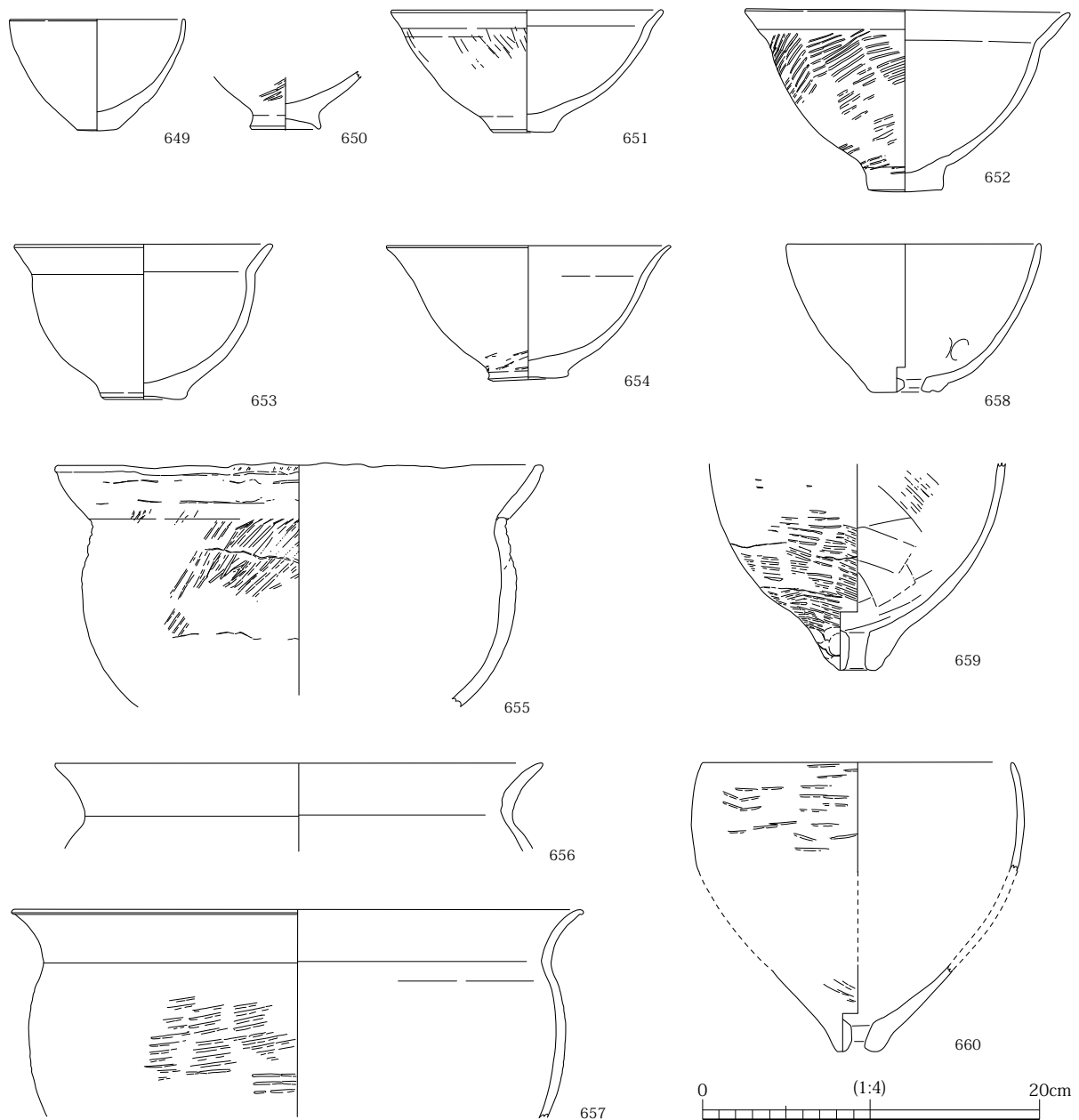


図 78 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (13)

む平底をもつ。体部から底部の外面に黒斑が、底部外面に木の葉文がみとめられる。654 は口縁部の屈曲が弱く、中央部付近がやや窪む平底をもつ。外面に右上がりのタタキを施し、底部外面に木の葉文がみとめられる。655、656 は中形鉢である。655 は口縁部が屈曲してやや内湾しながらのび、半球形の体部をもつ。口縁端部にタタキによる刻目状の痕跡が

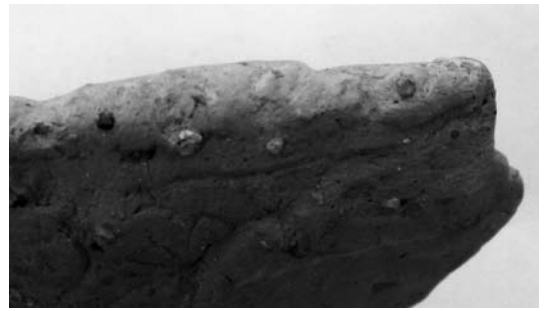


写真8 鉢 655 口縁端部

みとめられ、いびつな形状である (写真8)。鈍い端面をもつ。体部外面に右上がりのタタキを施す。口縁部途中に明瞭な粘土接合痕がみとめられ、頸部までタタキが及ぶ。体部外面に黒斑がみとめられる。656 は口縁部が屈曲する。甕の可能性もある。657 は大形鉢である。口縁部は屈曲する。体部外面に、上部には右上がりの、中央部には横位のタタキを施す。658～660 は有孔鉢である。658 は椀形の体部に平底をもつ。底部孔は中心からややずれる。659、660 は深い体部と突出した底部をもつ。659 は体部外面に左上がりのタタキを、底部外面にユビオサエを施す。660 は口縁部と底部が直接接合せず図上復元である。外面に、上半には横位の、下部には左上がりのタタキを施す。以上のうち、体部が丸みをおびた形状である 655 は庄内式併行期に、659、660 は後期後葉～庄内式併行期に位置づけられる。その他は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

661、662 は複合口縁状の精製の淡路型器台である。661、662 とも脚部はスカート状に開き、三角形透かしを3方に施す。661 は、口縁部外面に2段の波状文を、口縁端部と受部に刻目を施す (写真9)。脚部外面にミガキがみとめられる。662 は口縁部外面に2段の波状文と竹管円形浮文を、口縁端部と受部に刻目を施す (写真10)。口縁部内面には2段の



写真9 器台 661 口縁部外面



写真10 器台 662 口縁部外面



写真11 器台 662 口縁部内面

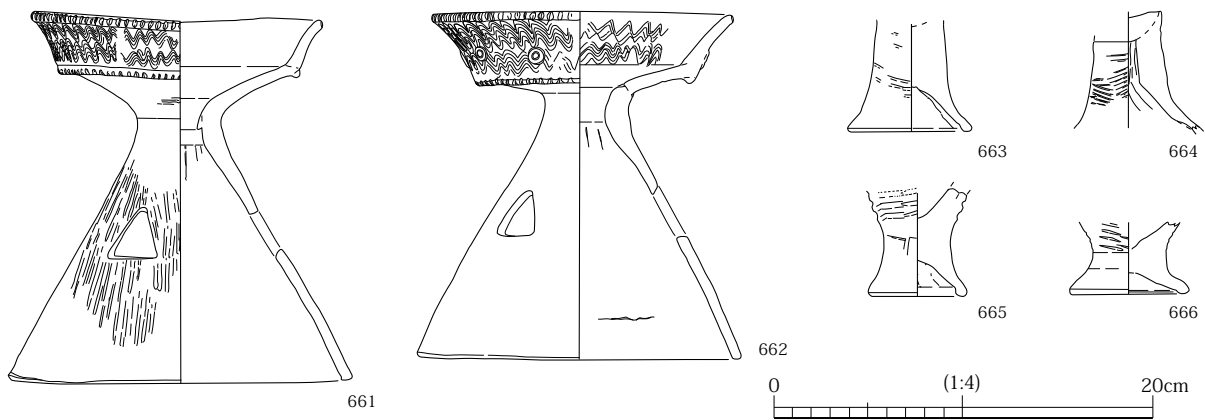


図 79 08019-4 区自然流路 031 土器溜まり出土土器 (14)

波状文がみとめられる (写真 11)。661、662 とも裾部に黒斑がみとめられる。淡路型であることから庄内式併行期に位置づけられる。

663～666 は製塩土器脚台である。663 は脚部外面に左上がりのタタキを施す。664 は脚部外面に右上がりのタタキを施すが、一部左上がりのタタキと重複する。脚部内面にシボリ目がみとめられる。体部と脚部の接合法は付加法である。665 は体部外面に右上がりのタタキを施し、脚部内面にはユビオサエがみとめられる。666 は体部外面に左上がりのタタキを施す。663、665、666 は二次焼成により一部が赤色または黒色に変色する。663 は I b 式、664 は I 式、665、666 は II a 式と考えられることから、後期後葉～庄内式前半に位置づけられる。

以上、自然流路内の土器溜まりからは、後期～庄内式併行期の遺物が出土している。特に詳細な時期を比定しやすい高杯に着目すると、庄内式前半に位置づけられるものが多く、後期あるいは庄内式後半に限定できるものはない。その他の器種についても、やはり後期に限定できるものはない一方、庄内式併行期に限定できるものは多く出土している。以上より、土器溜まりの出土土器は、庄内式併行期、特に庄内式前半の遺物がまとまって出土しているものと考えられる。

第 2 項 瓦 (図 80)

08019-4 区から出土した瓦は、軒平瓦が 1 点で 84g、丸瓦が 7 点で 380g、平瓦が 17 点で計 1333g、計 25 点で 1797g である。小片が多く、弥生時代から中世の遺物を含む包含層から出土しているため、詳細な時期比定は困難であるが、古代～中世のものが出土している。ここでは、軒平瓦、調整の明瞭に残るもの、遺構出土のものを報告する。

667 は軒平瓦である。基本層序第 7 層から出土した。瓦当文様は唐草文である。顎凸面、凹面、側面ともケズリを施す。小片であるが、奈良時代頃に位置づけられる。

668 は平瓦である。基本層序第 7 層から出土した。狭端面が一部残存し、側面に近い部位である。凹面は布目が残り、縦糸 23 本 / 3 cm、横糸 26 本 / 3 cm である。凸面はケズリ後一部にナデを施す。狭端面はケズリを施し、凹面側、凸面側とも幅広の面取りを施す。詳細な所属時期は明らかでない。

669は平瓦である。中世遺構検出面の土坑024から出土した。1側面が残存する。凹面は布目が残り、横糸24本/3cm、縦糸は不明である。凸面は縄叩きを施し、縄目粒数12粒/3cm、縄本数9本/3cmである。摩滅により側面の調整は不明である

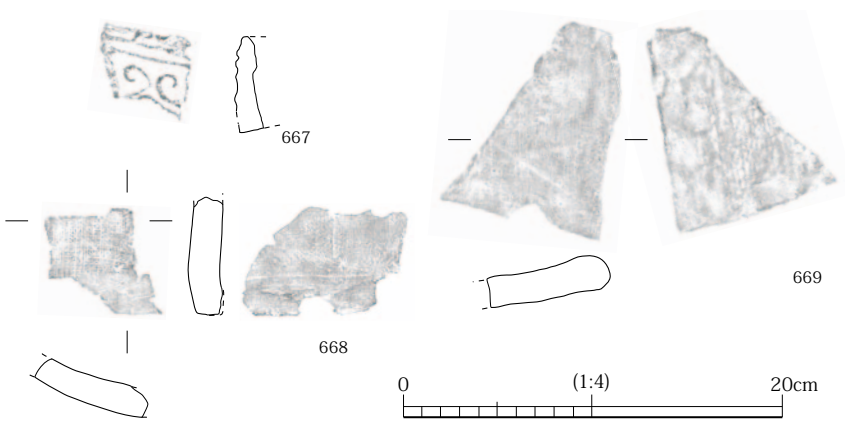


図80 08019-4区出土瓦

が、凹面側に面取りを施す。土坑024からはもう1点平瓦が出土している。1側面が残存するが、669より小片で、摩滅により調整も不明である。2点とも詳細な所属時期は明らかでない。

第3項 石製品 (図81、巻頭図版4-2)

滑石製品6点が出土した。

670、671は白玉である。いずれも自然流路031内の基本層序第10層から出土した。670は完形である。側面形は、稜の鈍い算盤形を呈する。片面穿孔で、全面に研磨を施す。671は、下面の一部を欠損する。側面形は、稜の鈍い算盤形を呈する。片面穿孔である。下面には研磨痕がみとめられず、研磨を部分的に施したものと考えられる。ただし、全体に研磨痕が不明瞭であり、石材の特性により痕跡を確認し難い可能性もある。

672～675は、有孔円盤である。672は、自然流路031内の基本層序第10層から出土した。側

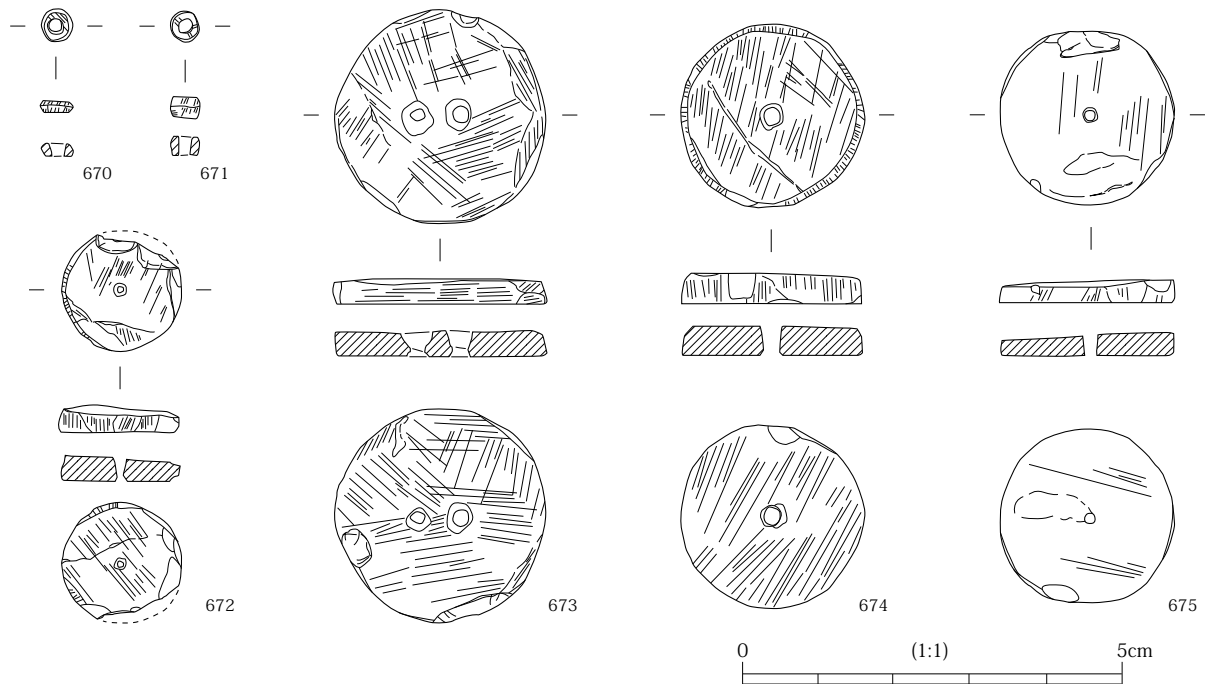


図81 08019-4区出土石製品

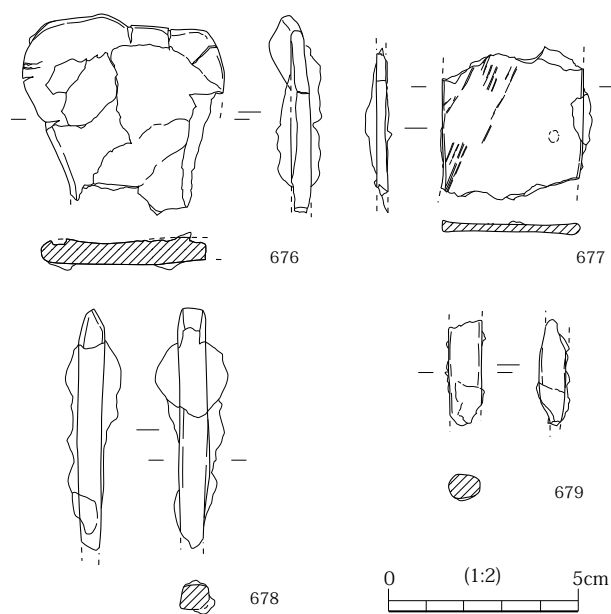
面の一部を欠損する。小形で、単孔である。片面穿孔で、全面に研磨を施すが、側面は一部に稜が残る。673は、自然流路031内の基本層序第10層から出土した。側面の一部をわずかに欠損する。双孔である。片面穿孔で、全面に研磨を施し、側面も滑らかである。674は中世遺構検出面の土坑024から出土した。完形、単孔である。片面穿孔で、全面に研磨を施すが、側面には一部に稜が残る。孔径が大きく、側面形が台形を呈することから、加重器の可能性もある。675は中世遺構検出面の溝023から出土した。側面の一部を欠損する。単孔である。片面穿孔で、凹み部分には研磨を施さない。

以上6点の滑石製品のうち、670～673は自然流路031内の基本層序第10層からの出土であり、出土土器内部の土や、壁面精査により検出した。微細遺物であり、土の洗浄は行っていないことから、本来は相当数の石製品が自然流路031内に含まれていたものと考えられる。674、675の2点は中世の遺構出土である。自然流路031上部に位置する遺構であることから、本来自然流路031内にあったものが混入したのであろう。

これらの滑石製品の石材をみると、白玉671を除くと比較的暗い色調を呈しており、黒色の鉄鉱物の含有が目立つ石材が多く、比較的古い特徴を示している。また、白玉2点はいずれも側面に鈍い稜をもっており、径もやや小さめであることから、やはり古い特徴をもつものと言える。以上よりこれらの石製品は、比較的古い、古墳時代中期前半以前のものと考えられる。また、有孔円板4点のうち3点が単孔であることは、西日本的な特徴を示している。ただし、全体としては色調や製作技法の相違が大きく、製作時点での同時性は考えにくい。

第4項 金属製品 (図82、図版52—3・4)

鉄製品4点が出土した。うち676、677、679の3点については保存処理を行い、処理前にはX線透過写真の撮影および実体顕微鏡による拡大観察を実施した。



676、677は鉄鋌である。676は基本層序第4・6層から出土した。一端を欠損するが、中央部が細く両端が広がる形態と推定できる。端部、側縁部は丸みをおびる。有機物の付着はみとめられない。破断面が層状となっており、鍛造品である。横断面形状の湾曲や端部の両側付近の亀裂は叩きによるものの可能性があるが、叩き痕はX線透過写真では不明瞭である。677は自然流路031内の基本層序第11層から出土した。両端を欠損する。側縁の平面形状は直線的で、端部は丸みをお

図82 08019-4区出土金属製品

びる。一方の面のみに木質痕がみとめられる。破断面が層状となっており、鍛造品である。

678 は基本層序第 6 層から出土した。一端を欠損する。釘または鑿と考えられる。横断面形は隅丸方形である。679 は中世遺構検出面の建物 1 を構成する柱穴 013 の柱痕跡から出土した。両端を欠損する。釘の可能性はある。横断面形は隅丸方形である。

以上のうち鉄鋌 2 点は古墳時代に所属するが、676 は中世の包含層出土であり、混入と考えられる。677 は基本層序第 11 層出土であることから、布留式期、特に出土土器の大半が所属する布留式後半のものと考えられる。これより新しい時期の古墳時代遺物は少量であることから、676 についても同じく布留式後半のものと推定できる。

第7章 10001-3区の調査成果

第1節 基本層序（図83、図版17—4・5）

層序は、上層から順に現代の盛土である黄褐色土（第1層、層厚0.05～2.0 m）、現代の旧作土である黒灰色土（第2層、層厚0.1～0.3 m）、現代の旧床土である明黄褐色土（第3層、層厚0.05～0.2 m）、近世以降の包含層である黄灰色細砂（第4層、層厚0.05～0.1 m）、褐色砂シルト（第5層、層厚0.02～0.05 m）、中世の包含層である褐色細砂（第6層、層厚0.05～0.25 m）、中世の包含層であるにぶい黄褐色細砂または砂シルト（第7層、層厚0.05～0.4 m）、古墳時代の包含層である褐色細～中砂（第8A・8B層、層厚8A：0.05～0.4 m、8B：0.1～0.25 m）、弥生時代から庄内式併行期の包含層である褐色砂シルト（第9A・9B層、層厚9A：0.1～0.4 m、9B：0.1～1.0 m）、極少量の遺物を含む礫混じり褐色粗砂（第10層、層厚2.0 m以上）である。

第1層は、調査区南側の国道480号とほぼ同じ高さとなるよう設置された現代の盛土である。調査開始時点では、調査区北西部では第1層上面の高さが23.0～23.2 m、層厚0.05～0.3 mのみ残存していた。その他の大部分の箇所では上面の高さは24.5～25.1 m、層厚1.5～2.0 mで、国道480号に接する調査区南部では道路面とほぼ同じ高さとなっていた。調査にあたっては、調査区北西部上面の高さまで機械掘削により盛土を除去した後、調査区外との比高差の大きい調査区北西・南西・南東部の周囲に矢板を設置した。そのうえで、基本層序第1～4層を機械掘削により矢板際まで除去した後、基本層序第5層以下は矢板に接して幅0.5～1.0 mの土層観察用畦を残して人力掘削を開始した。そのため、調査区壁面の土層図は、矢板設置部分については第5層以下のみ作成した。矢板設置部分を除く第1層下面の高さは22.9 m前後であり起伏はなく、調査区全域についてほぼ同じ高さであったと推定できる。

第2層、第3層は、第1層の盛土設置以前の旧作土および旧床土で、層厚の差はあるが、第2層は調査区の全域に、第3層も断続的であるがほぼ全域に分布する。矢板設置部分を除く第2層下面の高さは22.8 m前後と起伏は少なく、調査区全域についてほぼ同じ高さであったと推定できる。矢板設置部分を除く第3層下面の高さは、調査区北東隅のみ22.6 m前後、層厚0.2 mで、その他の部分では22.8 m前後、層厚0.05 m前後と起伏は少ない。

第4層は、調査区北部および南部を除く範囲に分布する。第4層下面の高さは、やや起伏があるが、全体としては南西部から北東部にかけて緩やかに下がる。最も高い南西部では22.7 m、最も低い北東部で22.5 mである。第5層は調査区北東部のみに分布する。第5層下面の高さは、やや起伏があるが、22.5 m前後である。第5層上面では、近世以降の耕作に伴う溝、土坑、ピットを検出しており、第4層は水田作土、第5層はこれに伴う床土と考えられる。第4層は弥生時代から近世の遺物を含み、形成時期は近世以降と推定できるが、下限は明らかにし得ず、近代まで下る可能性がある。第5層は層厚が非常に薄く第5層に限定できる遺物の出土はない。形成時期は、上層および下層出土遺物等より近世以降と推定できる。

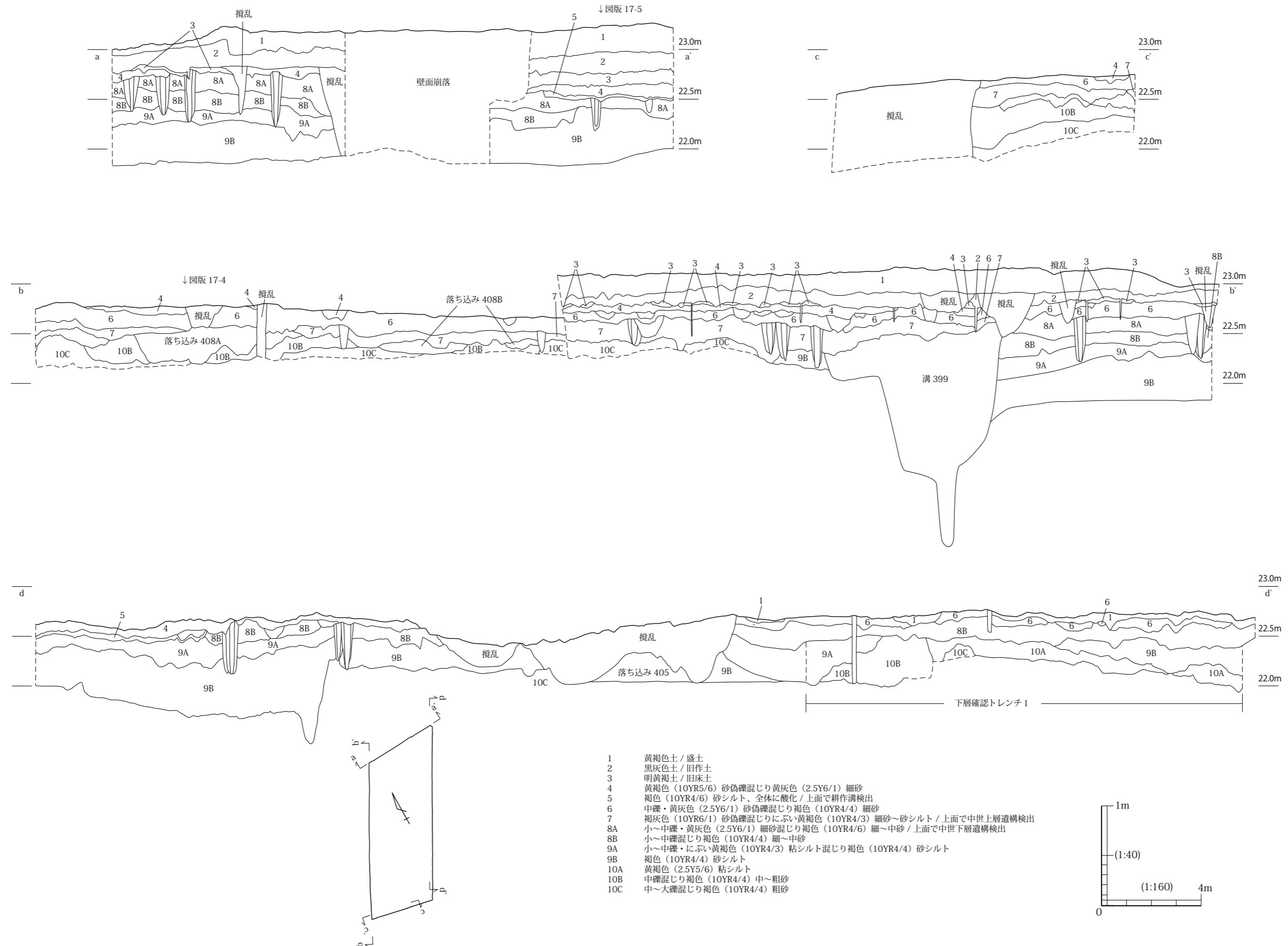


図 83 10001-3 区土層図

第6層は、調査区北東部を除く範囲に分布する。第6層下面の高さは、最も高い調査区北部で22.7 m、層厚0.1 mで、南側に向かって下がるとともに層厚が厚くなり、調査区西部で最も低く22.5 m、層厚0.25 m、そこから南側でやや上がり、調査区南部で22.6 m、層厚0.05～0.1 mになる。第6層は、第5層の分布範囲外では第4層あるいは第1～3層の直下に堆積しており、第6層上面の一部では、第5層上面検出遺構に続く近世以降の溝等を検出した。第6層は弥生時代から近世の遺物を含み、形成時期は、上層および下層出土遺物等より16～18世紀頃と推定できる。

第7層は、調査区北西部から南西部に分布する。第7層下面の高さは、最も高い調査区北西部で22.6 m、層厚0.1 mで、南側に向かって下がるとともに層厚が厚くなり、調査区西部で最も低く22.2 m、層厚0.4 m、そこから南側でやや上がり、調査区南西部で22.5 m、層厚0.1 mになる。第7層上面では、中世の建物、土坑、溝、柱穴を検出した。第7層は弥生時代から中世の遺物を含み、形成時期は、上層および下層出土遺物等より13～14世紀頃と推定できる。

第8層は、副たる碎屑物により2層に細別したが、主たる碎屑物等その他の特徴は類似し、出土遺物の時期差もみられない。調査区北部および南東部に分布する。第8層下面の高さは、やや起伏があるが、調査区北東部で22.3～22.4 m、層厚0.2～0.4 mで、南側に向かってやや上がり、調査区東部で最も高く22.5 m、層厚0.1 m、そこから南側の調査区南東部では22.4～22.5 m、層厚0.1～0.25 mで、やや起伏がある。第8層は洪水堆積物と考えられる。第8層上面では、中世の土坑、柱穴、溝、落ち込みを検出した。また、第8層は、第7層の分布範囲外では第6層あるいは第4・5層の直下に堆積しており、第8層上面の一部では、第7層上面検出遺構に続く中世の建物等も検出した。なお、第8A層上面では遺構検出が困難であったため、調査区北部では第8A層を一部除去して遺構検出を行った。第8層は弥生時代後期から古墳時代後期の遺物を含み、形成時期は、下層出土遺物等より布留式後半～古墳時代後期と推定できる。

第9層は、副たる碎屑物により2層に細別したが、主たる碎屑物等は類似し層界が不明瞭であること、出土遺物に時期差もみられないことから一連の層と判断した。調査区南西部を除く広い範囲に分布する。第9層下面の高さは、調査区北部で21.9～22.0 m、層厚0.4～0.6 mで、南側に向かってやや下がり、急激に落ち込んで21.4～21.6 mとなった後に、急激に上がり、22.2 m、層厚0.2～0.3 mとなる。そこから南側では、調査区南西部では途絶えるが、東部では、緩やかに下がり、調査区南東部で22.1 m、層厚0.3 mとなる。第9層は洪水堆積物と考えられる。第9層は、第8層の分布範囲外では第7層の直下に堆積しており、第9層上面の一部では、第8層上面検出遺構に続く溝等を検出した。第9層は弥生時代後期～庄内式併行期の遺物を含み、上下層出土遺物等より形成時期についても弥生時代後期～庄内式併行期と推定できる。

第10層は、3層に細別したが、平成24年度報告予定の09017-1区等の調査成果により、10A～10C層が互層となる一連の層と判断した。調査区全域に分布する。中～大礫混じり褐色粗砂層を主体とし、褐色シルト層および中礫混じり褐色中～粗砂層と互層となる。下層確認調査によ

り層厚2 m以上であることを確認したが、下面を確認することはできなかった。第10層は、洪水堆積物で、特に第10B・10C層は活発な堆積作用によるものと考えられる。第10層上面では自然流路の痕跡を検出した。また、第10層は、第8・9層の分布範囲外では第7層の直下に堆積しており、第10層上面の一部では、第8層上面検出遺構に続く落ち込み等を検出した。第10層は土器を極少量含む。土器は小片のみで時期比定は困難である。第9層の推定形成時期を考慮し、形成時期は弥生時代後期以前と推定できるが、形成に要した時期幅は明らかでない。

以上のように、10001-3区では、3面の遺構検出面を確認した。第4層を除去した第5・6層上面では、近世以降の耕作に伴う溝、土坑、ピットを検出した。第6層を除去した第7・8層上面では、中世の建物、土坑、溝、柱穴を検出した。第7層を除去した第8～10層上面では、中世の土坑、柱穴、溝、落ち込みを検出した。以下ではこれらの遺構検出面を、順に「耕作溝検出面」「中世上層遺構検出面」「中世下層遺構検出面」と呼称する。また、人為的遺構ではないが、第10層上面では自然流路の痕跡を検出した。

第2節 耕作溝検出面の調査（図84・85、図版12-1）

基本層序第5・6層上面で検出した。遺構は溝52条、土坑2基、ピット8基である。遺構は南西部に密であるが、調査区のほぼ全域で検出した。第1節で述べたように、第5層は調査区北東部のみに分布しており、第5層の分布範囲外では、第6層上面で遺構を検出した。

溝 溝は52条検出した。本来一連のものが後世の削平により断絶したと判断できるものが多く、埋土に共通性がみとめられたため、特徴的なものや遺物が出土したものを中心に遺構番号を付し、その他のものについては番号を付していないものがある。南北方向の溝（022～032・034～036・038・039他）、東西方向の溝（033・040・046他）に大きく分かれる。南北方向の主軸方向分布範囲は、N-17°-E～N-8°-Wであるが、座標北からの振れ幅の大きいものはN-8°-Wの溝050等調査区北部、概ね座標軸X=-168160以北に位置する。座標軸X=-168160以南に位置する溝ではN-5°-E～N-3°-Wと主軸方向のまとまりが強く、座標北方向にほぼ一致する。特に調査区南西部に密集する溝026～032・034は座標北からの振れが1°未満である。東西方向の溝の主軸方向分布範囲は、N-81～89°-E、N-84～87°-Wで、ややばらつきがみられるが、調査区南西部に密集する溝026～034付近では、溝033がN-89°-E等座標軸における東西方向からの振れが2°未満である。

溝の最大幅は、溝026が1.05 m、溝032が0.65 mと部分的に広がる箇所があるが、他の溝は0.15～0.6 mである。深さは溝026最深部が0.1 mである他は0.02～0.05 mである。

埋土はいずれも黄灰色細砂で、直上層の基本層序第4層に類似する。

遺物は、磁器、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器、土錘、丸瓦、平瓦、鉄釘が出土した。弥生時代から近世の遺物が出土しているが、このうち中世から近世に所属する5点を図化した（680～683、925）。

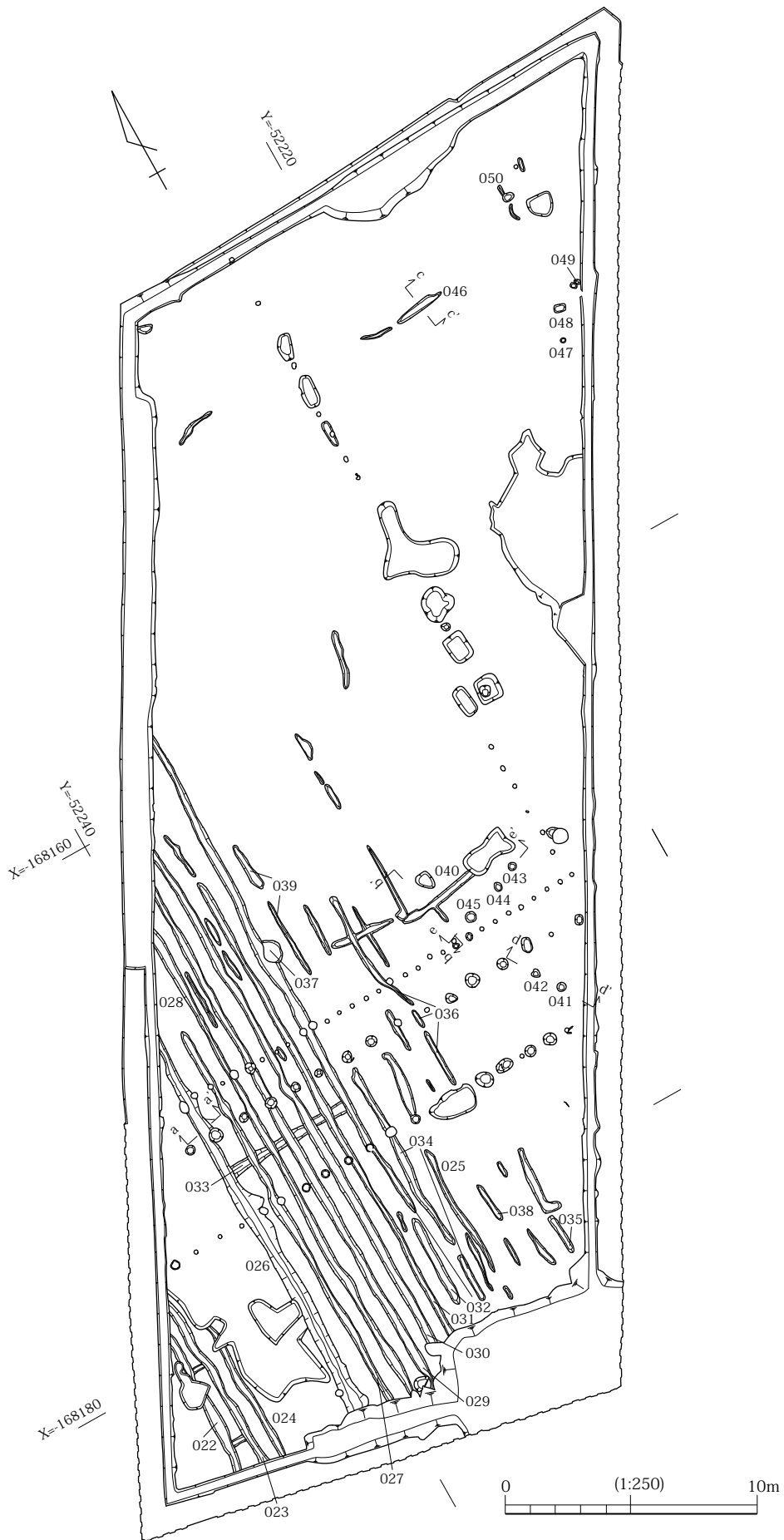


图 84 10001-3 区耕作沟検出面全体图

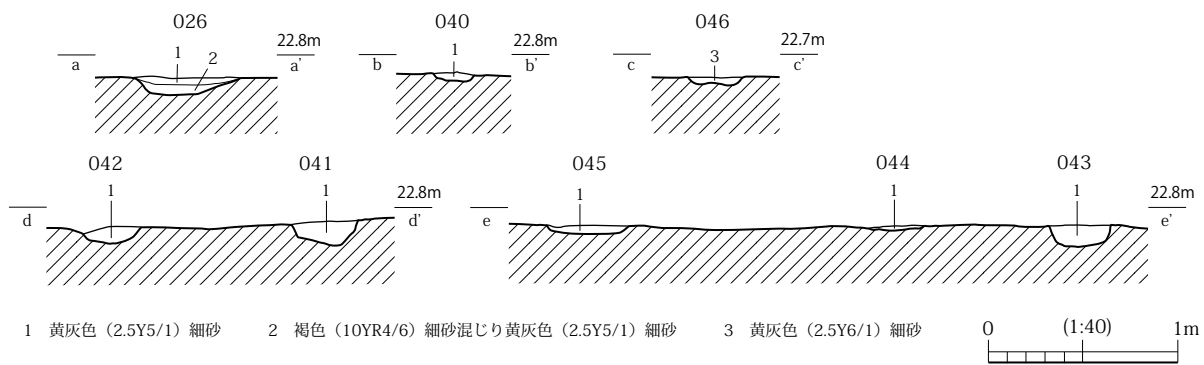


図 85 10001-3 区溝 026・040・046、ピット 041～045 断面図

土坑 土坑は 037・048 の 2 基を検出した。土坑 037 は溝 032 の埋土を掘削しており、先後関係がみとめられる。平面形は、いずれも不整円形である。埋土は、土坑 037 が黄灰色細砂、土坑 048 が褐色細砂である。遺物は磁器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

ピット ピットは 041～045・047・049 を検出した。ピット 049 は 2 基が切りあっており、計 8 基である。ピット 041～045 は柵の可能性もある。ピットの平面形は円形で、平面規模は直径 0.2～0.4 m、深さ 0.05～0.15 m である。埋土はピット 041～045 が黄灰色細砂、ピット 047 が褐色細砂、ピット 049 の 2 基のうち古いものが黄灰色細砂、新しいものが褐色細砂である。遺物は須恵器、土師器、弥生土器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

小結 以上の遺構のうち、溝については、いずれも耕作に伴う溝と考えられ、鋤溝の可能性が高い。溝埋土は、遺構検出面直上層の基本層序第 4 層に類似している。第 4 層は水田作土、第 5 層はこれに伴う床土と考えられる。作土層である第 4 層が 18～19 世紀の遺物を含むこと、下層出土遺物等より、遺構検出面の時期は近世以降と推定できるが、第 4 層直上層は現代作土のため下限は明らかにし得ず、近代まで下る可能性がある。

なお、遺構が疎らとなる調査区北部では基本層序第 4 層を検出しておらず、遺構検出面直上に現代の旧作土や盛土が堆積する。後世に削平を受けたものと考えられ、耕作は調査区全域で行われていたものと推定できる。

第 3 節 中世上層遺構検出面の調査 (図 86～88、図版 12～14)

基本層序第 7・8 層上面で検出した。遺構は掘立柱建物 11 棟、土坑 8 基、溝 22 条、柱穴 705 基である。遺構は調査区の全域で検出した。第 1 節で述べたように、第 7 層は調査区北西部から南西部に分布しており、第 7 層の分布範囲外では、第 8 層上面で遺構を検出した。

柱穴は建物を構成すると判断したものを含めて 789 基を検出したが、このうち規模や柱筋の通りから建物を構成すると判断したものは 11 棟、これを構成する柱穴は計 84 基である。本来は数多くの建物、柵等が設けられていたものと推定できるが、特に北部および東部では柱穴が密集しており、柱穴の関係を明らかにすることは困難であった。

建物 1 (図 89、図版 14—2) 調査区北部で検出した。柱穴 121・361～365 の 6 基から成る掘

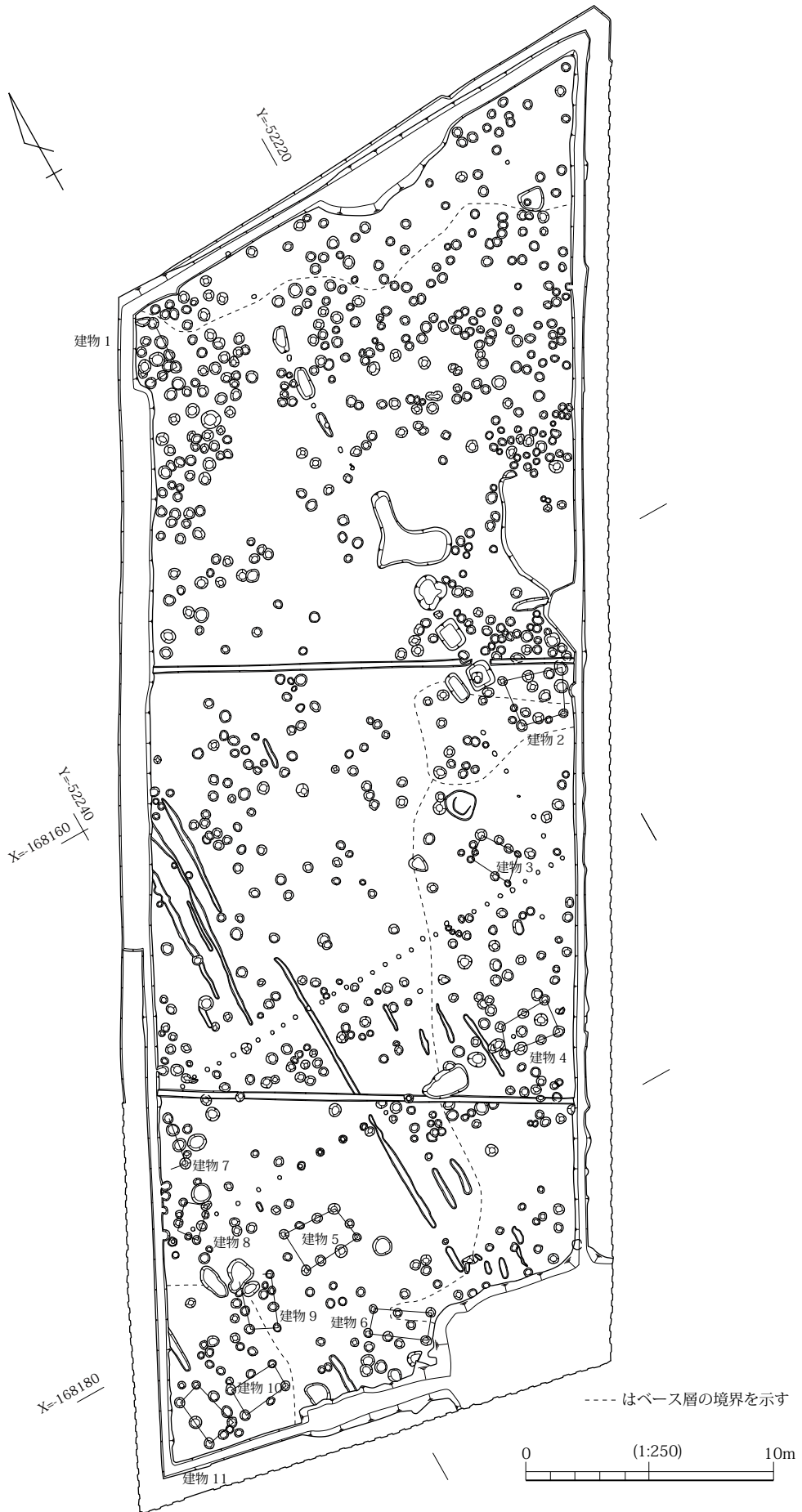


図 86 10001-3 区中世上層遺構検出面全体図

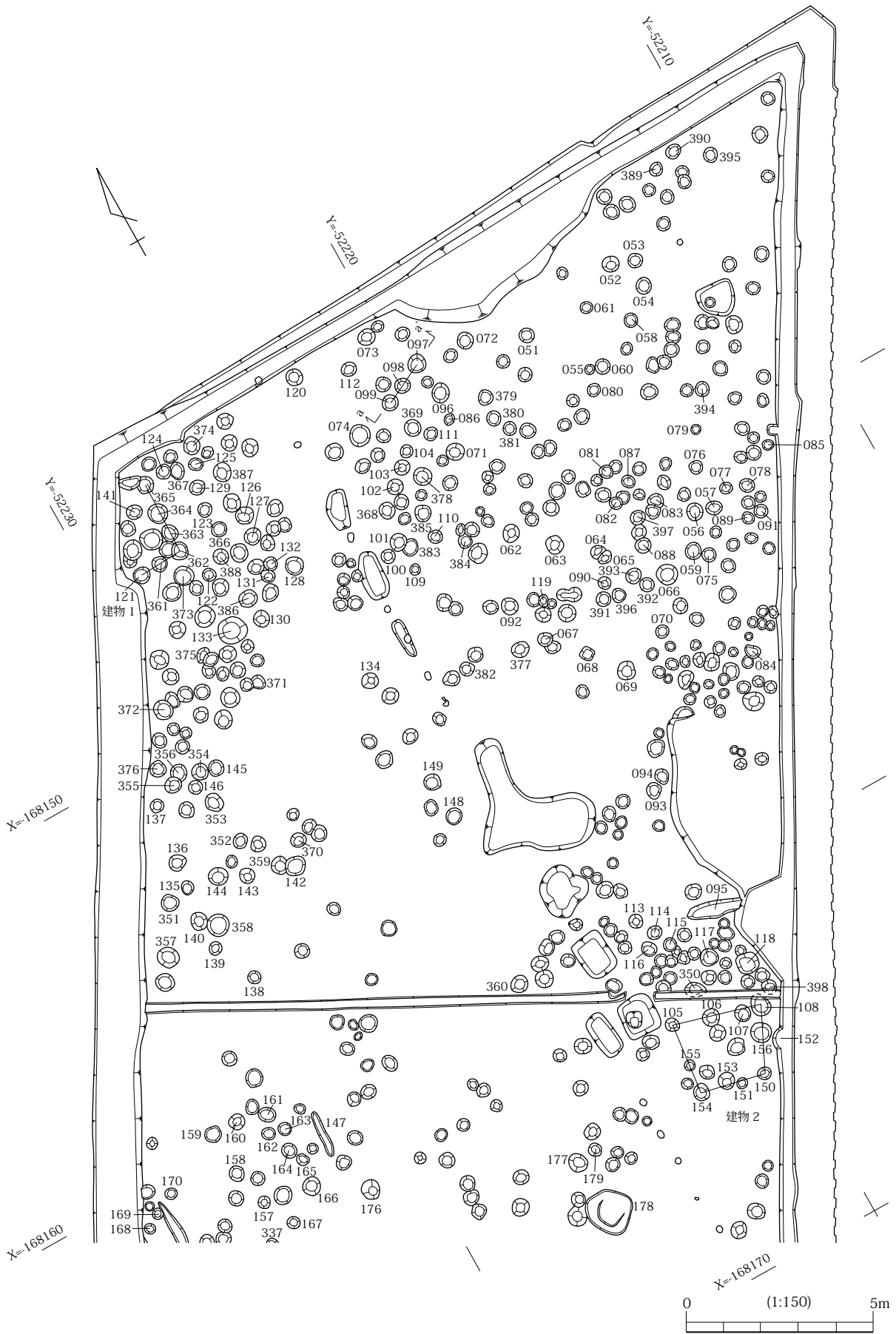


图 87 10001-3 区中世上層遺構検出面遺構番号図 (1)

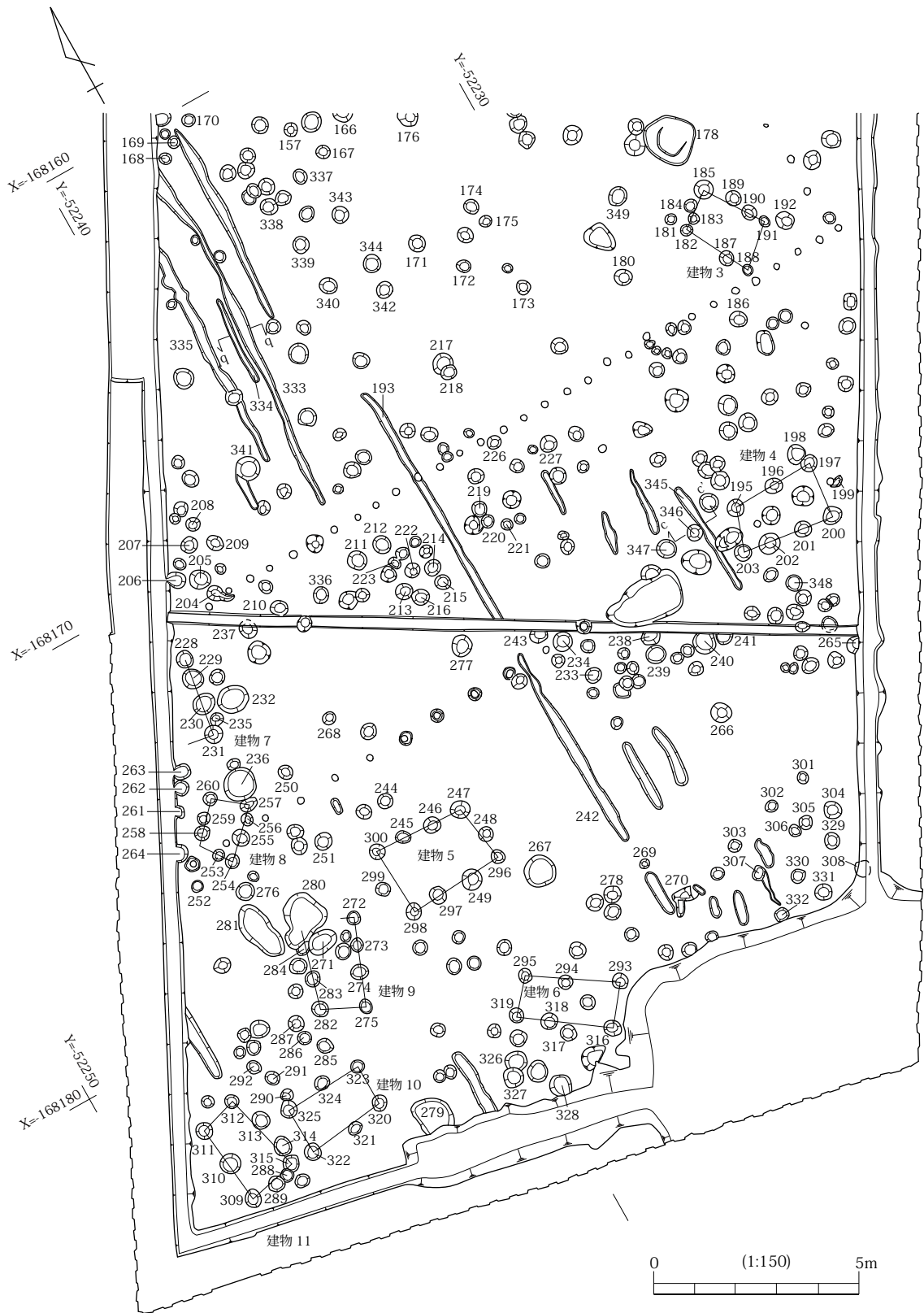


图 88 10001-3 区中世上層遺構検出面遺構番号图 (2)

立柱建物である。建物北西部は調査区外へのびる。南北方向、東西方向とも柱穴中心間の距離が0.6～0.8 mと近接しており同時に使用されたものかは明らかでなく、平面規模の間数は不明である。南北方向の長さは2.0 m以上、東西方向の長さは1.2 m以上と、ややいびつな長方形を呈する。床面積は2.4㎡以上、南北の主軸方向はN-1°-Eである。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は直径0.4～0.5 m、深さ0.15～0.25 m、柱痕跡の平面規模は直径0.2～0.25 mである。

遺物は出土しなかった。

建物2 (図90、図版14-3) 調査区東部で検出した。柱穴105・106・108・150・153～156の8基から成り、柱穴107・151・152も関連する可能性がある。南北方向2間、東西方向2間の掘立柱建物である。南北方向の長さは東側柱で1.8 m、西側柱で2.0 m、東西方向の長さは北側柱で2.4 m、南側柱で1.8 mと、いびつな台形を呈する。南北方向の柱間寸法は0.8～1.2 m、東西方向の柱間寸法は0.7～1.4 mである。柱穴107・108の中心間の距離は0.5 m、柱穴151・153の中心間の距離は0.4 mで、それぞれ建て替えによる可能性がある。また、柱穴152は柱穴156に替えて東側柱を支えるものであった可能性がある。床面積は4.2㎡、東西の主軸方向はN-76°-Wである。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は、柱穴151・155が直径0.3 m、その他が直径0.4～0.55 mで、深さは0.1～0.25 m、柱痕跡の平面規模は直径0.15～0.2 mである。

遺物は柱穴153・156から須恵器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

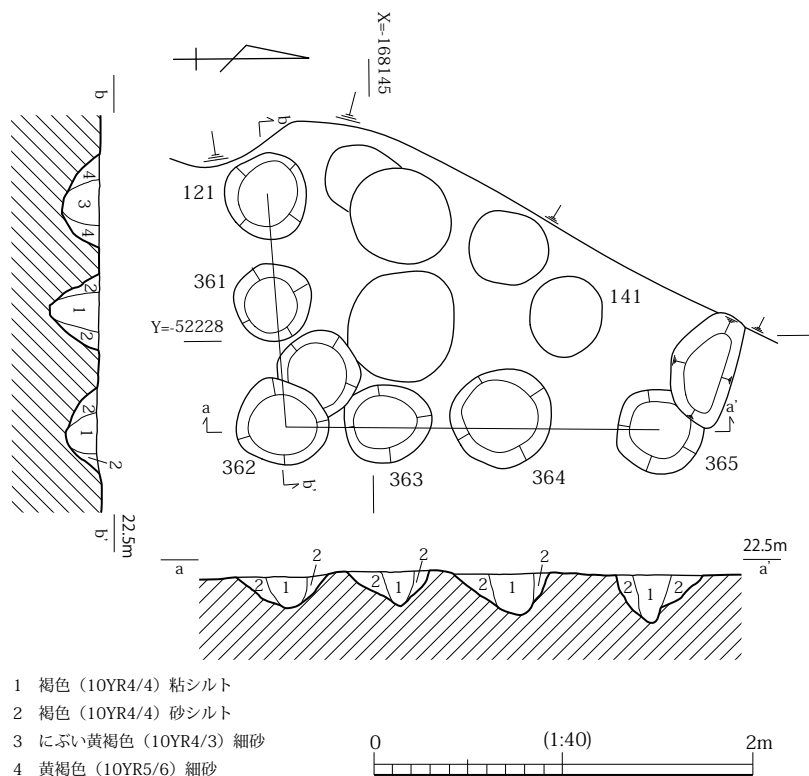


図89 10001-3区建物1平面図・断面図

建物3 (図91) 調査区東部で検出した。柱穴182・185・187～191の7基から成り、柱穴183・184も関連する可能性がある。桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。桁行の長さは北東側柱で1.7 m、南西側柱で1.8 m、梁行の長さは南東側柱で1.3 m、北西側柱で1.1 mと、いびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北東側柱で0.8 mと0.9 m、南西側柱で1.2 mと0.6 mである。柱穴183・184は北西側柱を支えるものであった可能性がある。床面積は2.1㎡、

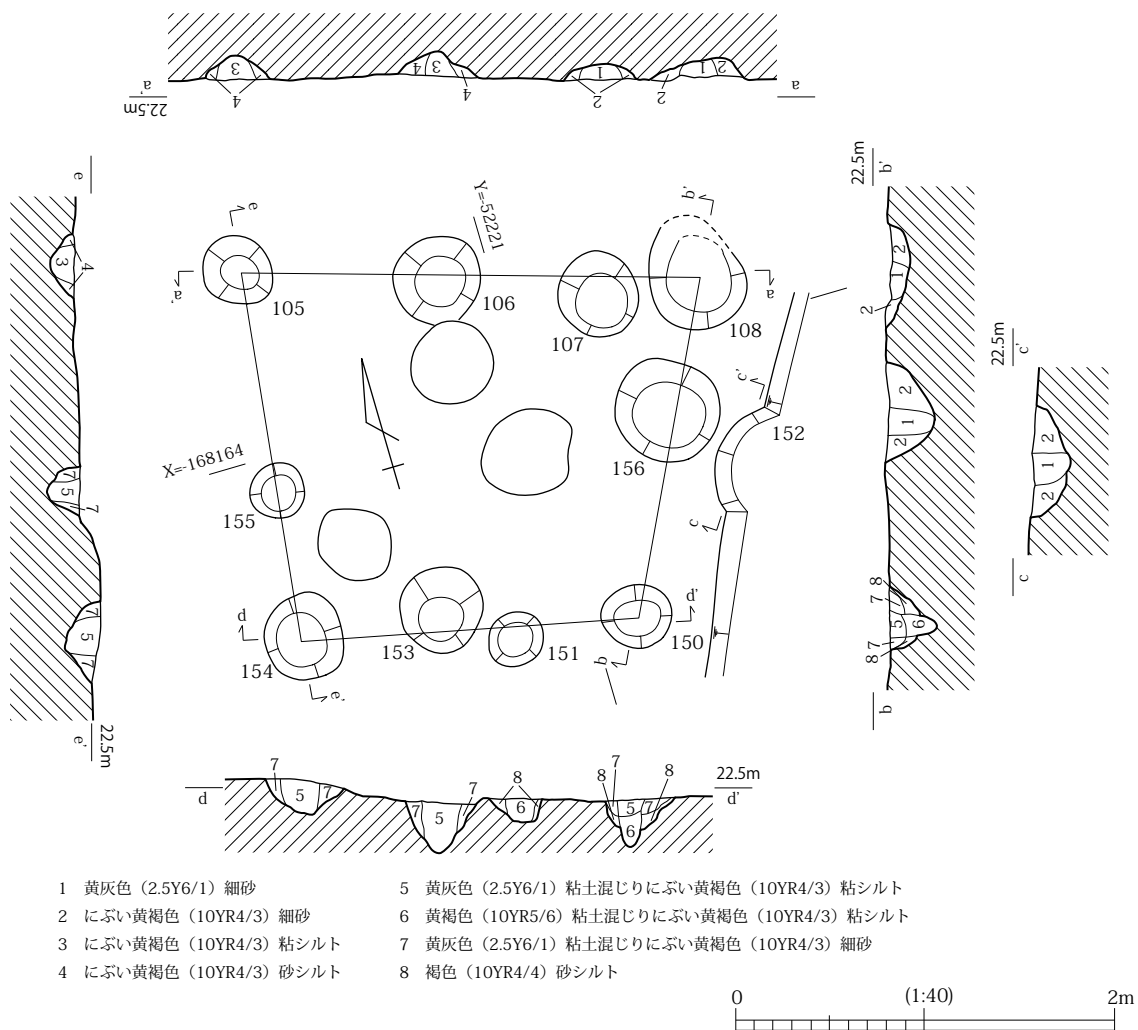


図 90 10001-3 区建物 2 平面図・断面図

主軸方向は N—30°—W である。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は、柱穴 185 が直径 0.5 m、その他が直径 0.3～0.4 m で、深さは 0.15～0.3 m である。柱痕跡の平面規模は、柱穴 185 が直径 0.3 m、その他が直径 0.1～0.2 m である。

遺物は出土しなかった。

建物 4 (図 92、図版 14—4・5) 調査区南東部で検出した。柱穴 195～197・199～203 の 8 基から成る掘立柱建物である。桁行の長さは北側柱で 2.1 m、南側柱で 2.4 m、梁行の長さが東側柱で 1.4 m、西側柱で 1.1 m と、いびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北側柱は 1.1 m と 1.0 m で、2 間と考えられる。南側柱は 0.7～0.9 m となるが、3 基が同時に使用されたものかは明らかでない。また、建物西側を精査したが、柱穴 199 に対応する柱穴は検出できなかった。床面積は 2.8㎡、主軸方向は N—87°—W である。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は、柱穴 199 が推定直径 0.2 m 前後、その他が直径 0.4～0.5 m で、深さは 0.15～0.3 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.15～0.25 m である。

遺物は出土しなかった。

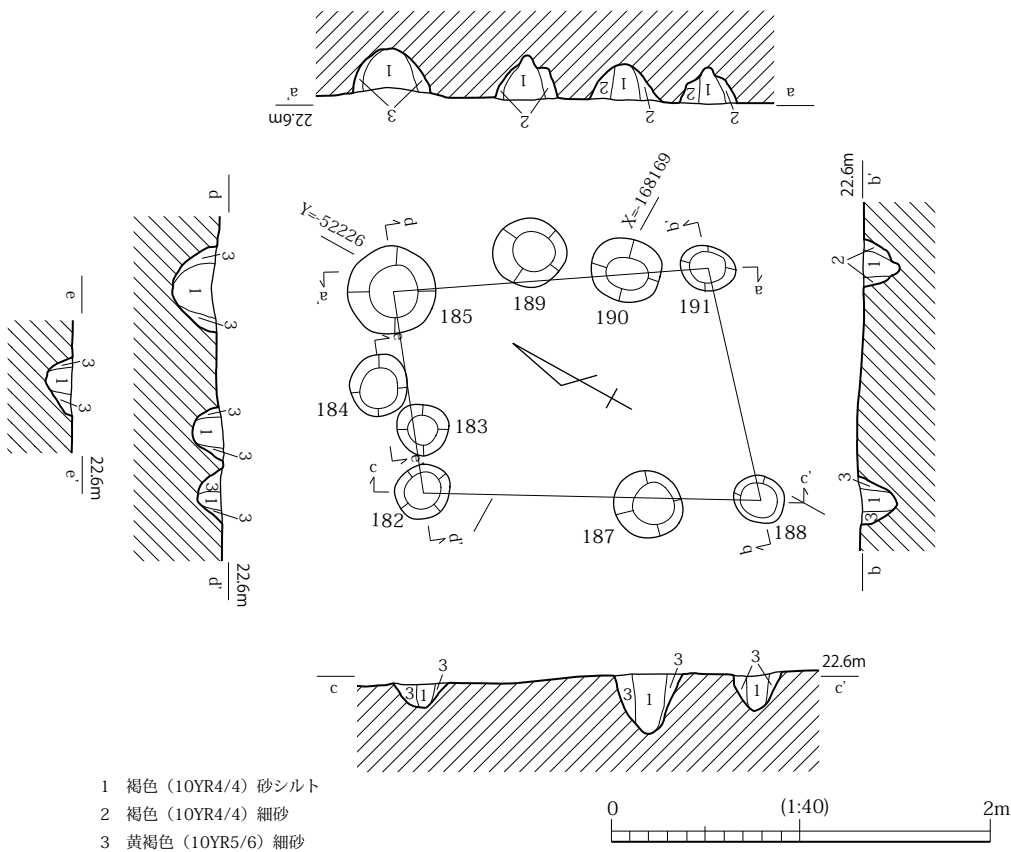


図 91 10001-3 区建物 3 平面図・断面図

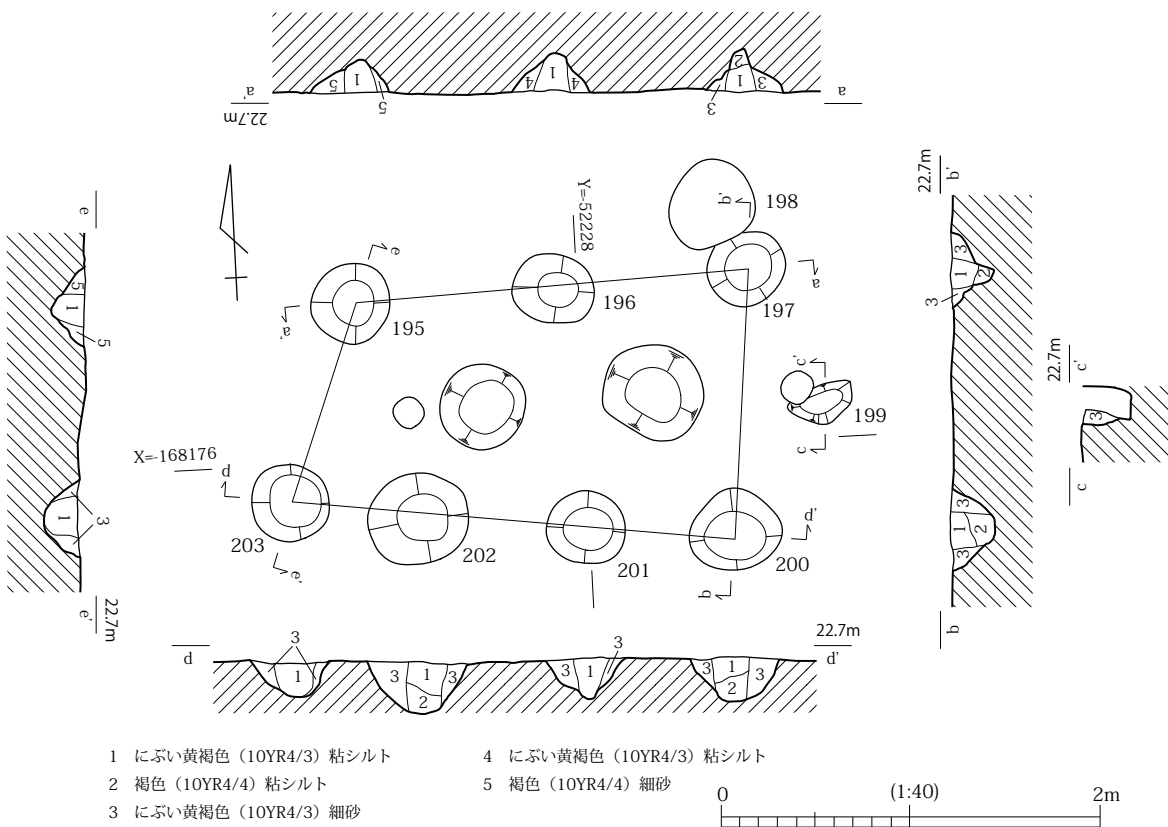


図 92 10001-3 区建物 4 平面図・断面図

建物5 (図93、図版15—1・2) 調査区南西部で検出した。柱穴245～249・296～300の10基から成る、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。桁行の長さは北側柱で2.3m、南側柱で2.5m、梁行の長さは東側柱で1.5m、西側柱で1.7mと、いびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北側柱で0.7～0.8m、南側柱で0.7～1.0mである。床面積は3.8㎡、主軸方向はN—88°—Eである。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は直径0.35～0.5m、深さ0.05～0.2m、柱痕跡の平面規模は直径0.15～0.25mである。

遺物は柱穴247から須恵器が、柱穴249から土師器が出土し、このうち古墳時代の須恵器1点(694)を図化した。

建物6 (図94、図版15—3) 調査区南部で検出した。柱穴293～295・316・318・319の6基から成る、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。桁行の長さは北東側柱、南西側柱とも2.3m、梁行の長さは南東側柱で1.1m、北西側柱で1.0mと、ややいびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北東側柱で1.0mと1.3m、南西側柱で0.8mと1.5mである。床面積は2.4㎡、主軸方向はN—56°—Wである。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は直径0.35～0.4m、深さ0.2～0.25m、柱痕跡の平面規模は直径0.2mである。

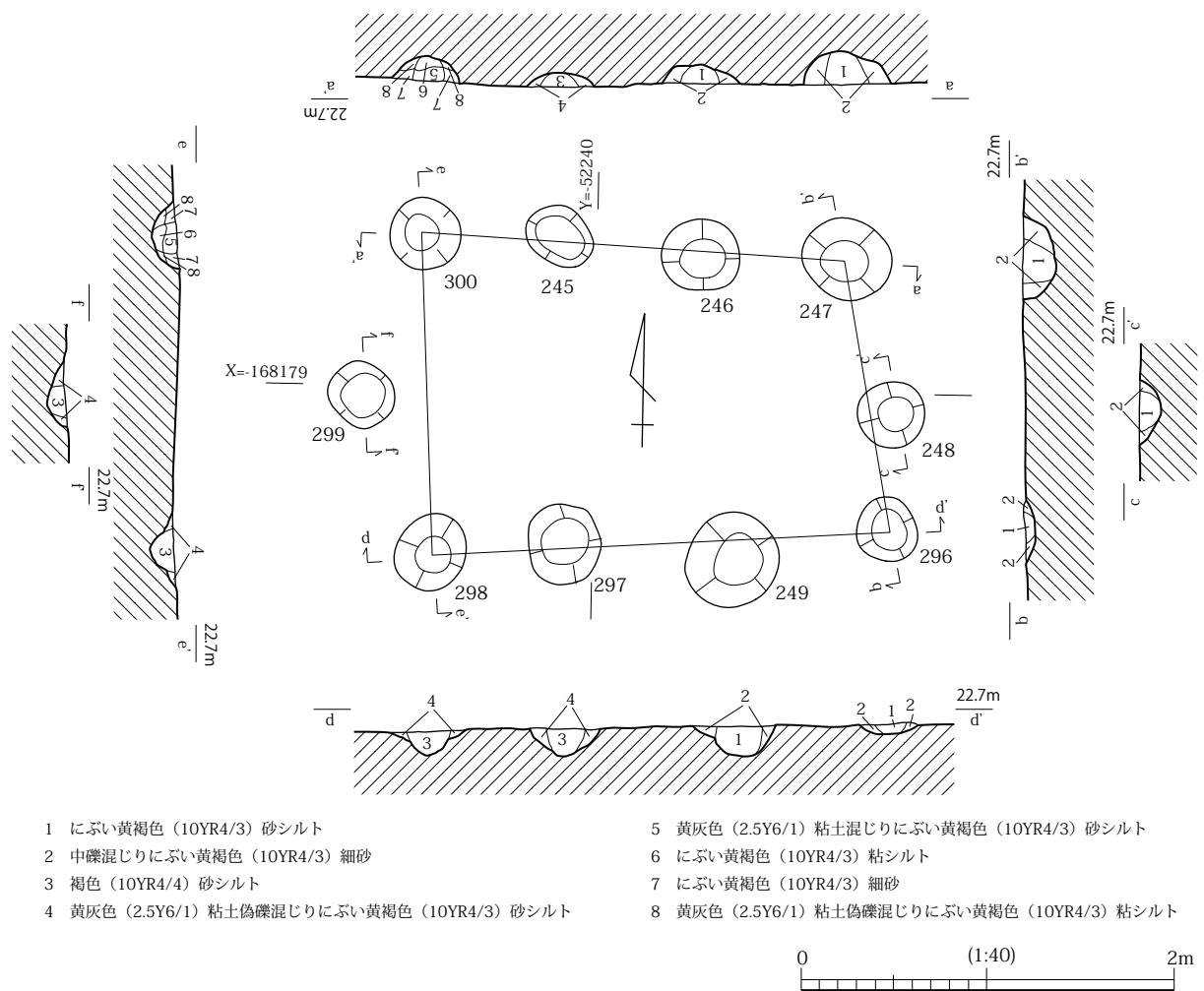


図93 10001-3区建物5平面図・断面図

遺物は柱穴 293・316 から土師器が、柱穴 294 から須恵器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

建物 7 (図 95) 調査区南西部で検出した。柱穴 228～231 の 4 基が南北に並ぶことから、西部が調査区外へのびる掘立柱建物と判断した。柱穴中心間の距離が 0.5～0.8 m と近接しており同時に使用されたものかは明らかでなく、平面規模の間数は不明である。南北方向の長さは柱穴 228・231 が両端と想定して 2.0 m、東西方向の長さは柱穴 228 から西にのびると想定して 1.5 m 以上である。上記想定の場合の床面積は 3.0㎡以上、南北の主軸方向は N-9°-E である。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は直径 0.4～0.55 m、深さ 0.15～0.2 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.25～0.3 m である。

遺物は柱穴 228～230 から須恵器、土師器が、柱穴 231 から瓦質羽釜、瓦器、須恵器、土師器が出土し、このうち柱穴 231 出土の 2 点 (690・693) を図化した。

柱穴 232 (図 95) 調査区南西部、建物 7 の東側で検出した。構成する建物等は不明であるが、最大規模の柱穴である。柱穴の平面形は楕円形で、柱掘方の平面規模は長軸 0.75 m、短軸 0.65 m、深さ 0.2 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.4 m である。

遺物は須恵器、土師器が出土し、このうち須恵器 1 点 (687) を図化した。

建物 8 (図 96、図版 15-4) 調査区南西部で検出した。柱穴 253～260 の 8 基から成る。桁行の長さは南東側柱で 1.5 m、梁行の長さは北東側柱で 1.0 m と、台形を呈する。桁行の柱間寸法は、北西側柱で 0.4 m と 0.6 m、南東側柱で 0.4～0.7 m で近接しており同時に使用されたものかは明

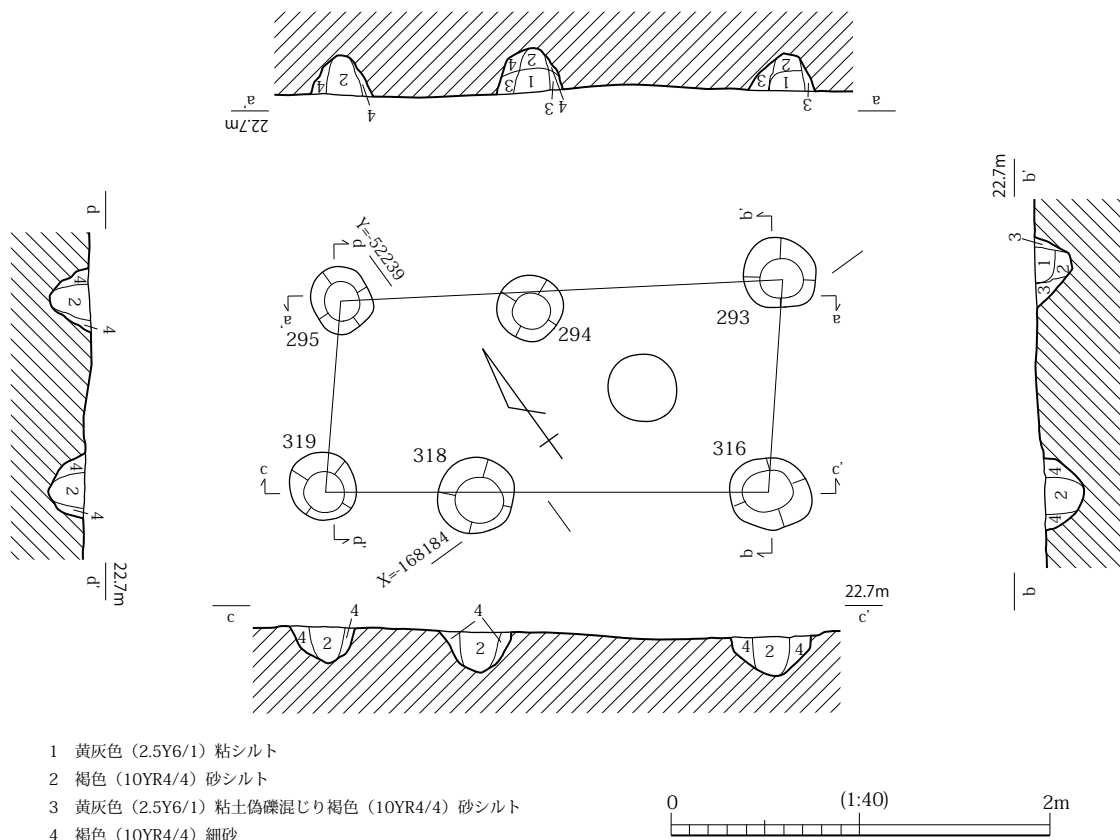


図 94 10001-3 区建物 6 平面図・断面図

らかでなく、平面規模の間数は不明である。柱穴 253・254 の中心間の距離は 0.4 m で、建て替えによる可能性がある。床面積は 1.5m²、東西の主軸方向は N—45°—E である。

柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は、直径 0.3～0.4 m、深さ 0.15～0.25 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.15～0.2 m である。

遺物は柱穴 257 から土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

建物 9 (図 97、図版 15—5・6)

調査区南西部で検出した。柱穴 272～275・282～284 の 7 基から成る、桁行 3 間、梁行 1 間の掘立柱建物である。柱穴 284 の埋土は土坑 280 により掘削されており、建物北西隅の柱穴も土坑 280 の掘削により削平されたものと考えられる。桁行の長さは南東側柱で 2.2 m、梁行の長さは南西側柱で 1.1 m と、ややいびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北西側柱で 0.8 m、南東側柱で 0.7～0.9 m である。床面積は推定 2.8m²、主軸方向は N—19°—E である。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は直径 0.3～0.4 m、深さ 0.1～0.2 m、柱痕

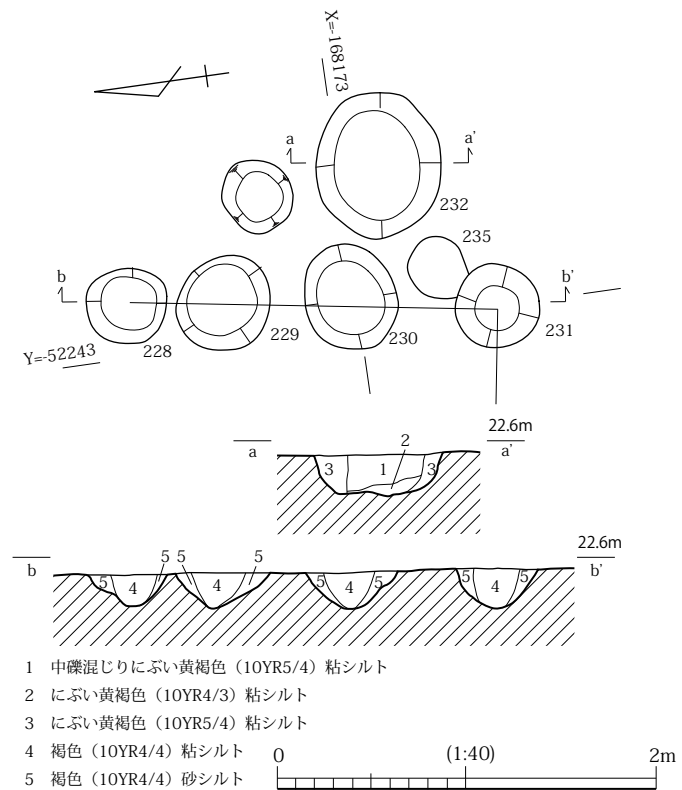
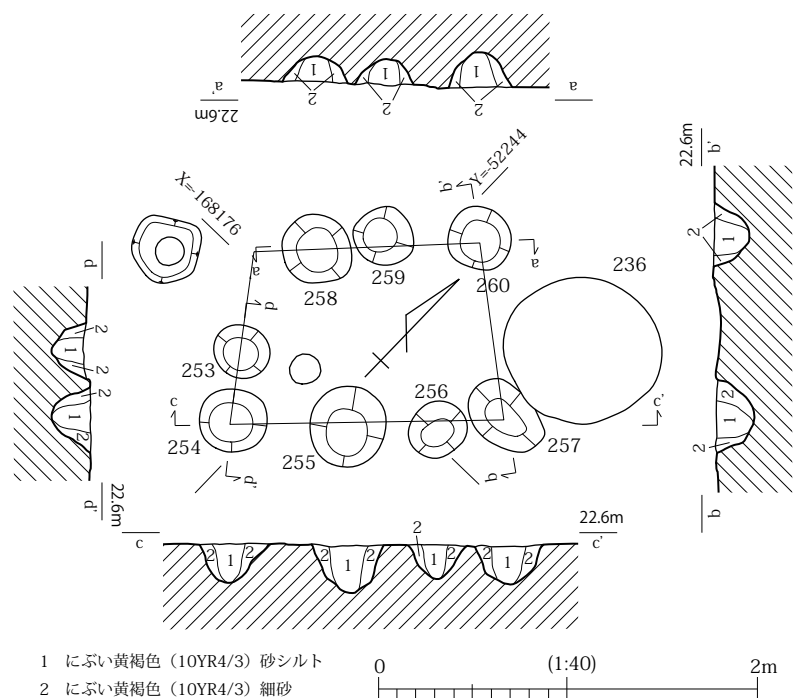


図 95 10001-3 区建物 7、柱穴 232 平面図・断面図



- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂シルト
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂

図 96 10001-3 区建物 8 平面図・断面図

跡の平面規模は直径 0.15 ～ 0.2 m である。

遺物は柱穴 282 から須恵器、土師器が、柱穴 283 から土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

土坑 271(図 97) 調査区南西部、建物 9 の北部で検出した。平面形は楕円形で、長軸 0.8 m、短軸 0.5 m、深さ 0.1 m である。

遺物は出土しなかった。

土坑 280(図 97) 調査区南西部、建物 9 の北部で検出した。先述のように、建物 9 の柱穴 284 の埋土を掘削しており、先後関係がみとめられる。平面形はいびつな楕円形で、長軸 1.3 m、短軸 1.0 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m である。

遺物は須恵器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

建物 10(図 98、図版 15—5) 調査区南西部で検出した。柱穴 320～325 の 6 基から成る、桁行 2 間、梁行 1 間の掘立柱建物である。桁行の長さは北側柱、南側柱とも 2.0 m、梁行の長さは東側柱で 1.1 m、西側柱で 1.2 m と、ややいびつな長方形を呈する。桁行の柱間寸法は、北側柱で 1.0 m、南側柱で 1.1 m と 0.9 m である。床面積は 2.3m²、主軸方向は N—84°—E である。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は、直径 0.35 ～ 0.4 m で、深さは柱穴 321 が 0.3 m、

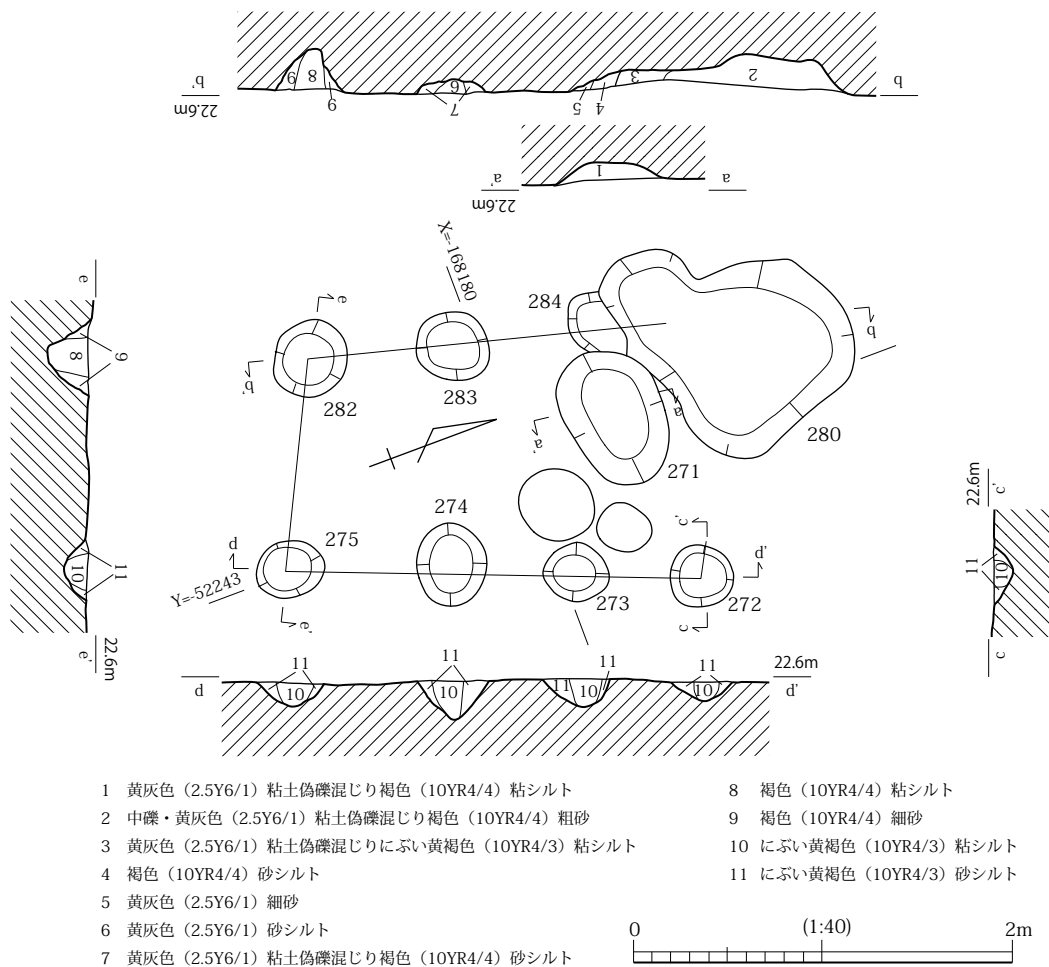


図 97 10001-3 区建物 9、土坑 271・280 平面図・断面図

その他が0.1～0.15 m、柱痕跡の平面規模は直径0.2～0.25 mである。

遺物は柱穴320から須恵器、土師器が、柱穴321から土師器、平瓦が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

建物11 (図99、図版15—5・7・8) 調査区南西部、建物10の西側で検出した。柱穴288・289・309～315の9基から成る、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。桁行の長さは西側柱、東側柱とも2.1 m、梁行の長さは北側柱で1.0 m、南側柱で1.3 mと、いびつな長方形を呈する。

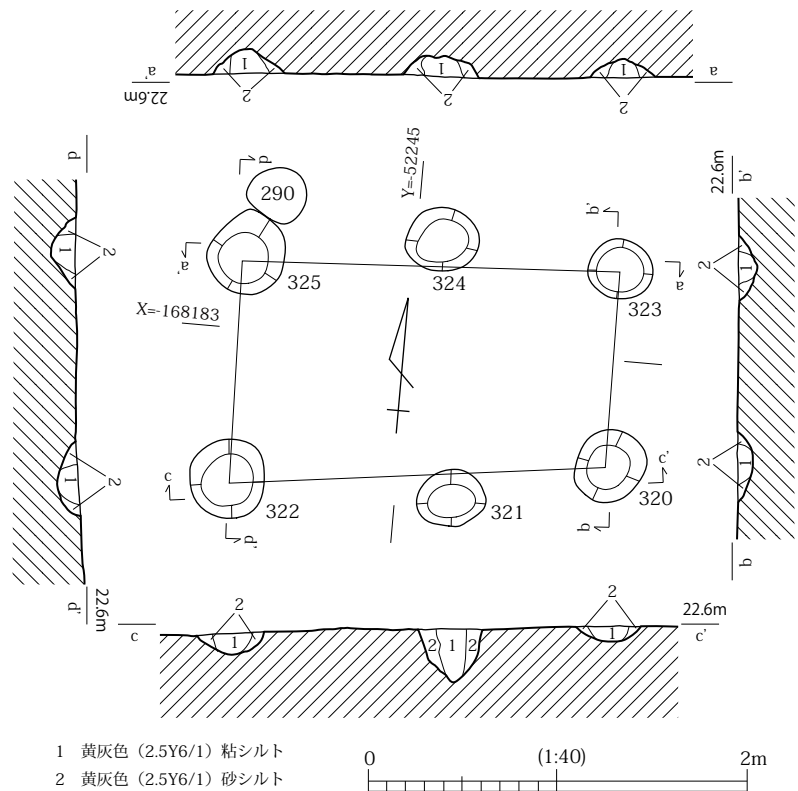


図98 10001-3区建物10平面図・断面図

桁行の柱間寸法は西側柱で1.0 mと1.1 m、東側柱で1.2 mと0.9 mである。柱穴314・315の中心間の距離は0.5 mで、建て替えによる可能性がある。また、柱穴289は柱穴288の埋土を、柱穴288は柱穴315の埋土を掘削しており、建て替えによる可能性がある。位置関係より、柱穴289の機能時には柱穴314が使用されたものと考えられる。床面積は2.4㎡、主軸方向はN-11°-Wである。

柱穴の平面形は円形である。柱掘方の平面規模は直径0.35～0.5 mで、深さは0.1～0.2 m、柱痕跡の平面規模は直径0.15～0.25 mである。

遺物は柱穴288から土師器が、柱穴289から土師器、平瓦が、柱穴311・315から平瓦が、柱穴312から須恵器が、柱穴313から瓦器、須恵器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

柱穴 構成する建物や柵を明らかにし得なかった柱穴は705基検出した。第1章第4節でも述べたように、非常に多くの柱穴を検出したことから、建物を構成する柱穴や、規模が特徴的なもの、遺物が出土したものを中心に遺構番号を付し、その他のものについては番号を付していないものがある。また、これら以外に、調査区壁断面の精査により、この面に伴うと考えられる柱穴14基、ピット5基を確認した。

柱穴の平面形は円形で、いびつな形状ものを含む。柱掘方の平面規模は、先述の柱穴232の他は直径0.25～0.55 mである。柱掘方の深さは0.05～0.3 m、柱痕跡の平面規模は直径0.1～0.3 mである。柱掘方の深さにばらつきがあるが、平面規模との相関はみとめられない。全体として、

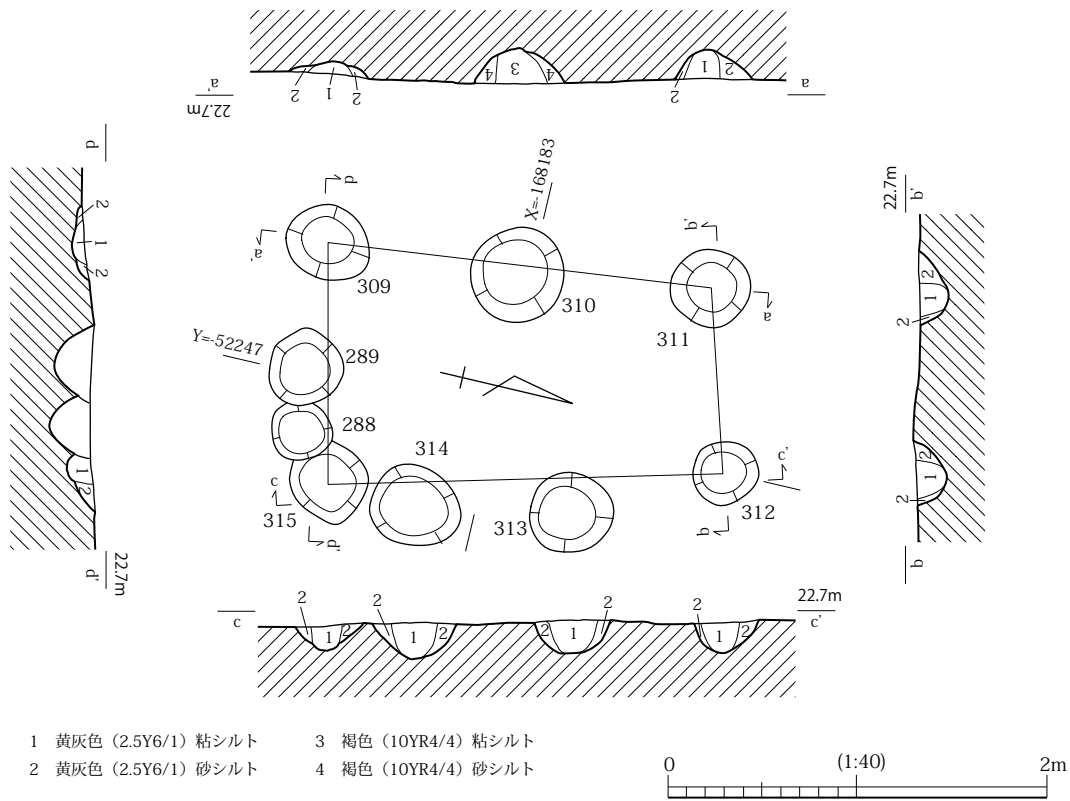


図99 10001-3区建物11平面図・断面図

調査区北部に深い柱穴が多く、南西部に浅いものが多い傾向がみとめられる。遺構検出面直上の第6層下面の高さは、調査区北部で高く、南側に向かって下がり、西部で最も低いことから、後世の削平の影響と考えられる。また、先述のように、調査区北部では第8A層を一部除去して遺構検出を行っており、壁面の精査により確認できた柱穴の中には深さ0.5mに達するものがある。したがって、本来の柱穴の深さは0.5m以上であり、深さ0.05mの柱穴を検出した調査区南西部については、後世に0.45m以上削平されたものと推定できる。

埋土は、検出位置により共通性がみとめられることから、遺構検出面以下の包含層に由来するものと考えられる。これは、柱掘方底面が基本層序第8・9層、特に第9層に達していると弥生土器が多く出土するというように、各遺構の出土遺物が下層包含層に含まれる遺物の時期に対応していることから追認される。各々の位置ごとの埋土の特徴は建物11棟の図示によって概ね提示できるが、調査区北東部では建物を構成する柱穴を判断できなかった。そのため、北東部に位置する柱穴097～099によって埋土の特徴を示す(図100)。

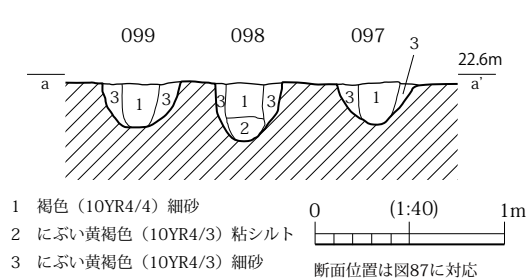


図100 10001-3区柱穴097～099断面図

遺物は瓦質土器、土師質土器、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器、平瓦が出土しており、このうち33点(684・686・688・689・691・692・695～703・706・707・709～724)を図化した。

土坑178(図101) 調査区中央部東寄り、建物3の北側で検出した。平面形はいびつな隅丸方形で、長

軸1.3m、短軸1.1mである。深さは、周縁部では0.1mと浅く、中央部で急激に落ち込み最深部は0.3mとなる。

遺物は土師器が出土し、このうち古墳時代の3点を図化した(704・705・708)。

その他の土坑 土坑133・236・267・279・281がある。また、これら以外に、調査区壁断面の精査により、この面に伴うと考えられる土坑状遺構1基を確認した。

土坑133は調査区北部に、その他は調査区西南部に位置する。土坑279は調査区外にのびる。平面形は、土坑133・236・267が円形、土坑279・281がややいびつな楕円形である。

埋土は、土坑133が明灰黄色粘シルト、土坑236・279が褐色粘シルトで、土坑267は土坑271に、土坑281は土坑280にそれぞれ類似する。

遺物は、土坑236・267・279から須恵器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

溝(図102) 溝は22条を検出した。溝095を除

くと本来一連のものが後世の削平により断絶したと判断できるものが多く、埋土に共通性がみとめられたため、特徴的なものや遺物が出土したものを中心に遺構番号を付し、その他のものについては番号を付していないものがある。溝095のみ東西方向で、その他は南北方向である。

南北方向の溝(147・193・242・270・333～335・345他)は、調査区西部および南部に分布する。主軸方向分布範囲は、N-16°-E～N-3°-Wであるが、座標北からの振幅が5°を超えるものはいずれも溝の長さが1m以下と短いものである。長さ1m以上のものはN-5°-E～N-3°-Wに分布し、主軸方向のまとまりが強く、座標北方向にほぼ一致する。また、溝333～335等調査区西部では、N-2～5°-Eと座標北よりやや東方向にまとまる傾向がある。南北方向の溝の最大幅は、溝333が0.7mと部分的に広がる箇所があるが、他の溝は0.25～0.6mである。深さは0.03～0.05mである。

埋土はいずれも黄灰色細砂またはシルトで、直上層の基本層序第6層に類似する。溝345は柱穴346埋土を掘削しており、先後関係がみとめられる。また、溝333・335等でも柱穴埋土を掘削することが確認できた。

遺物は、瓦器、須恵器、土師器、瓦が出土し、このうち溝335から出土した瓦器1点(685)

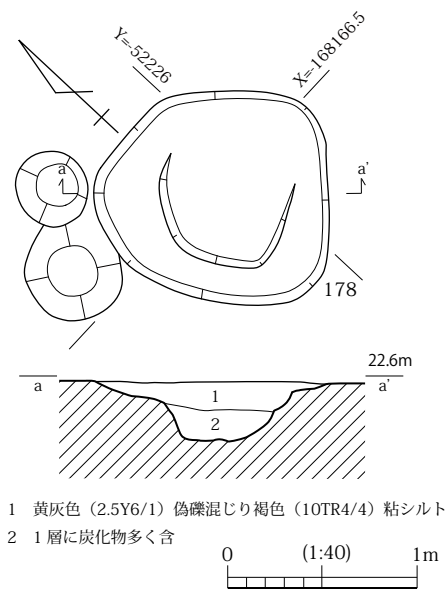


図101 10001-3区土坑178平面図・断面図

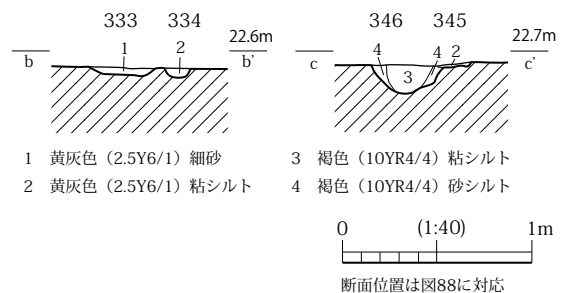


図102 10001-3区溝333・334・345、柱穴346断面図

を図化した。

東西方向の溝 095 は、調査区東部に位置する。主軸方向は N—73°—W で、南北方向の溝が座標北にはほぼ一致するのに対し振れ幅が大きい。最大幅は 0.8 m、深さ 0.05 m である。埋土は黄灰色粘シルトである。遺物は須恵器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

小結 以上の遺構のうち、建物は 11 棟を提示したが、いずれも面積 1.5～4.2㎡と小規模なもので、3.0㎡未満のものが多い。構成する建物等を明らかにできなかった柱穴が 705 基と多く、本来は、小規模な建物のみでなく、居住の可能な規模の建物やそれを囲む柵等が調査区内に密集していたものと推定できる。仮に建て替えを考慮して 10 基で建物 1 棟を構成すると想定すると、約 70 棟が設けられていたことになる。建物ではなく柵等付属施設の柱穴も含む可能性があるが、調査区壁面の精査により検出した柱穴もあることから、80 棟程度の建物が存在していたと推定できる。提示した建物 11 棟の主軸方向に方向性がみとめられないことから、その他構成を明らかにできなかった柱穴から成る建物や柵等についても、一定の方向性を志向する意識はなかったものと考えられる。

溝はいずれも耕作に伴う溝と考えられ、鋤溝の可能性が高い。溝埋土は、遺構検出面直上層の基本層序第 6 層に類似しており、第 6 層が水田作土と考えられる。第 6 層は調査区北東部には分布していないが、この箇所では上層の第 4・5 層下面が低くなっていることより、後世に削平を受けたものと考えられ、耕作は調査区全域で行われていたものと推定できる。溝群と建物の先後関係については、先述のように、溝が柱穴埋土を掘削していることが複数地点で確認できること、溝埋土が遺構検出面直上層に類似することより、建物群の廃絶後に耕作が営まれたものと推定できる。

土坑の機能を明らかにすることはできなかったが、いずれも浅いことから、井戸としての機能は考えにくい。また、溝とは埋土が異なっていることから、耕作に伴うものではなく、建物群と同時期である可能性が高い。

中世上層遺構検出面の遺構の出土遺物は、弥生時代後期から中世にわたる遺物が出土している。古墳時代以前の混入も多いが、中世の遺物についてみると、12 世紀～15 世紀にわたる。検出面ベース層である第 7 層が 15 世紀以前の遺物を含むことから、遺構の時期は 15 世紀以降と考えられる。また、遺構検出面直上層である基本層序第 6 層が少量の近世の遺物を含むことから、遺構の時期は 15～16 世紀頃と考えられ、耕作に伴う溝群については近世まで存続した可能性もある。

第 4 節 中世下層遺構検出面の調査（図 103、図版 16—1・2）

基本層序第 8～10 層上面で検出した。遺構は土坑 5 基、柱穴 29 基、溝 1 条、落ち込み 2 基である。遺構は疎らであるが、調査区のほぼ全域で検出した。第 1 節で述べたように、第 8 層は調査区北部および南東部に分布しており、第 8 層の分布範囲外では、第 9 層または第 10 層上面で遺構を検出した。なお、遺構検出面直上層である基本層序第 7 層の掘削に先立ち、調査区壁面の

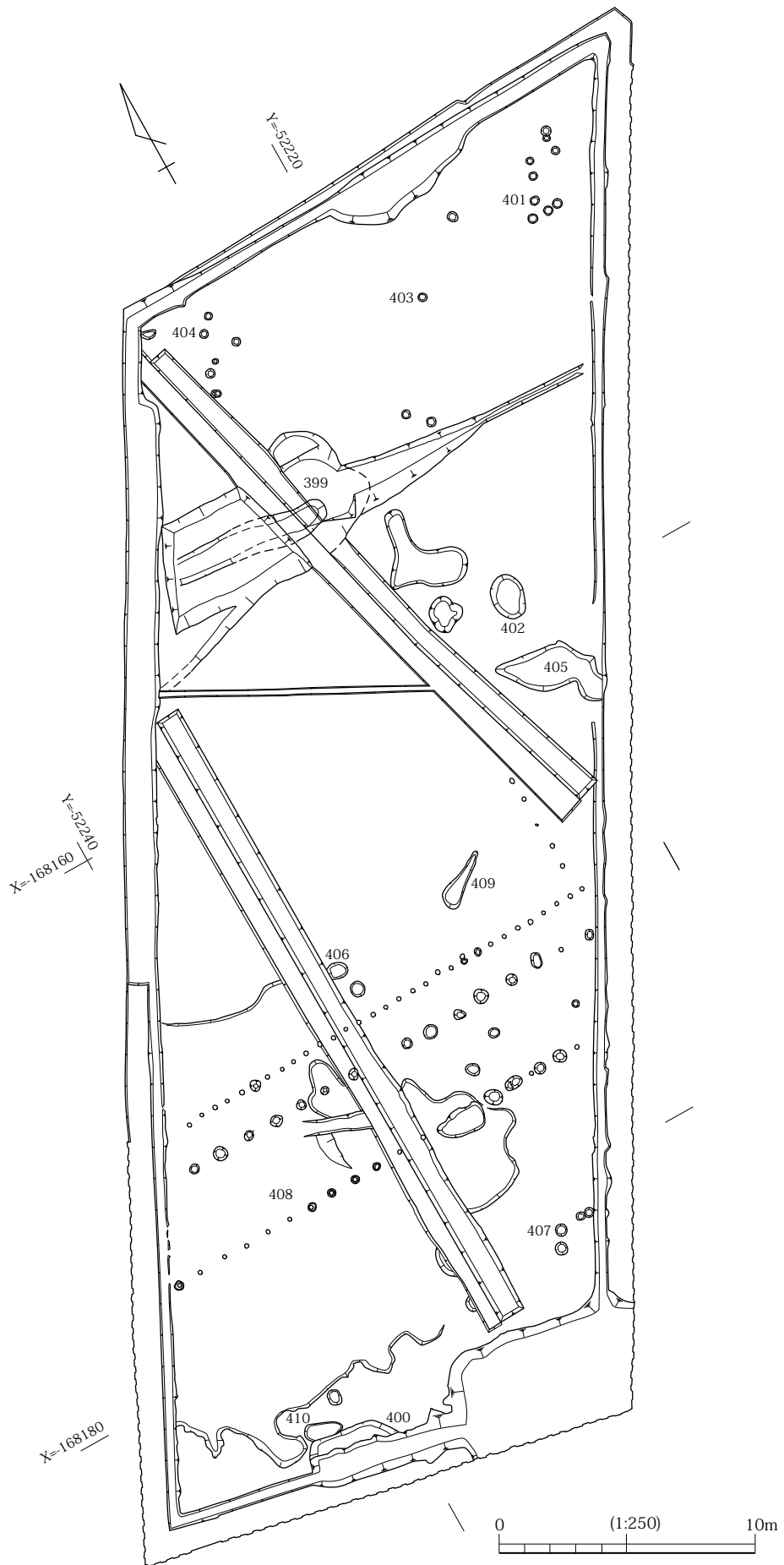


图 103 10001-3 区中世下層遺構検出面全体図

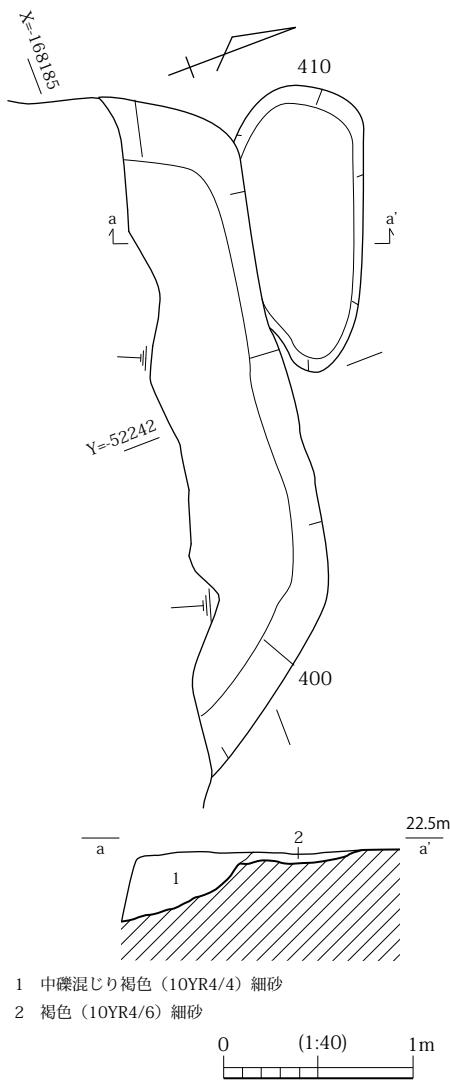


図 104 10001-3 区土坑 400・410
平面図・断面図

精査により確認できていた溝 399 の規模およびベース層である基本層序第 8・9 層の分布状況を明らかにするため、南北方向の土層確認トレンチを 2 箇所を設定した。

土坑 400・410 (図 104、図版 16—3) 調査区南部で検出した。土坑 400 は土坑 410 の埋土を掘削しており、先後関係がみとめられる。土坑 400 は南側が現代の攪乱により削平され、残存部分の平面形はややいびつな楕円形である。長軸 3.7 m 以上、短軸 0.7 m 以上、深さ 0.35 m である。土坑 410 は、平面形はややいびつな楕円形で、長軸 1.5 m、短軸 0.7 m 以上、深さ 0.05 m である。

遺物は土坑 400 から瓦器、須恵器、土師器が出土し、このうち瓦器 1 点を図化した (725)。

土坑 402 (図 105) 調査区東部で検出した。平面形は楕円形である。長軸 1.8 m、短軸 1.2 m、深さ 0.2 m である。遺物は須恵器、土師器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

土坑 406 (図 106) 調査区中央部南寄りで検出した。平面形は楕円形である。西側を下層確認トレンチにより掘削されるが、西端深さが 0.02 m と浅いことより、ほぼ全体を平面で検出しているものと考えられる。長軸 0.8 m 以上、短軸 0.6 m、深さ 0.15 m である。遺物は須恵器が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

土坑 409 調査区中央部東寄りに位置する。平面形は不整形で、長軸 2.4 m、短軸 0.2 ~ 0.8 m、深さ 0.1 m、埋土は褐色粘シルトである。遺物は出土しなかった。

柱穴 29 基を検出した。いずれも埋土が類似していたため、土層図等の詳細な記録を行ったもののみ遺構番号を付し、その他のものについては番号を付していないものがある。調査区北部および南部に分布し、特に北部に多く分布する。29 基のうち、埋土が切り合う柱穴が 3 組、計 6 基ある。いずれも構成する建物等は明らかにできなかった。柱掘方の平面規模は、直径 0.3 ~ 0.6 m、柱掘方の深さは 0.15 ~ 0.2 m、柱痕跡の平面規模は直径 0.1 ~ 0.2 m である。埋土は褐色細砂である。埋土が中世上層遺構検出面で検出した柱穴と類似していることから、中世上層遺構検出面に伴う柱穴を検出できておらず、下層の遺構検出面で検出してしまった可能性も否定できない。遺物は出土しなかった。

溝 399 (図 107、図版 16—4) 調査区北部に位置する東西方向の溝である。西側は調査区外へのびており、全長 11.0 m 以上である。幅は西端で 6.0 m と最大となり、調査区外に向かって広がっ

ている。中央部以東では幅 2.0 m と急激に狭くなり、東端は急激に立ち上がって途絶える形状である。深さは、幅の狭い東端では 0.9 m で、西へ向かってしだいに深くなり、中央部で約 0.8 m 急激に落ち込み、西端の最深部では深さ 2.2 m となる。横断面形は中央部以西では最深部が急激に落ち込み、階段状となる。また、北東部および西部南側では肩部では深さ 0.1 ～ 0.25 m と浅く、中心に向かって緩やかに下がった後に落ち込む。主軸方向は N-88°-W である。なお、調査時には、安全の確保のため、最深部の 12 層上面まで掘削した時点で中世下層遺構検出面の記録を行い、さらに下層の自然流路の掘削後に最深部まで掘削を行った。

埋土は上層から順に礫混じり黄褐～褐色砂（1～3層）、オリーブ褐～暗灰黄色細砂またはシルト（4～8層）、黄灰色砂シルト（9層）が堆積し、最深部に灰色細砂～シルト（12層）が堆積する。最深部は還元状態にあり、最終的には流入土壌（1～9層）により埋没し、機能を失ったものと考えられる。

遺物は土師質羽釜、瓦器椀、須恵器、土師器、弥生土器、軒平瓦、丸瓦、平瓦が出土した。9層以上の出土が大半で、12層からは、外面にタタキを施す弥生土器体部片が出土したのみである。また、9層以上において、層による時期差はみとめられない。遺構の時期を示す中世の遺物はいずれも小片であり、古代以前に所属する 11 点を図化した（726～735・917）。古墳時代以前の遺物は、溝掘削時に混入したベース層以下の基本層序 8・9 層由来のものと考えられる。

溝 399 の機能については、平成 24 年度報告予定である 09017-2 区で検出した近世の溝 042 が参考になる。溝 042 は南北方向の溝で、北端は調査区外へのびるが、南端は急激に立ち上がって途絶える形状である。また、横断面形は階段状で中央部が急激に落ち込む形状であり、平面および断面の形状が溝 399 に類似する。この溝 042 は伝えられている地名から水を貯めておくための貯水溝と考えられる。時期や最終的な埋没状況は異なっているが、形状と最下層が還元状態である点は類似することから、溝 399 についても同様に貯水溝である可能性が考えられる。

落ち込み 405 調査区東部で検出した。人為的な遺構ではなく、自然の落ち込みである。南東側は調査区外にのび、調査区壁面で確認できる。遺物は土師器、瓦が出土したが、小片で、図化できるものはなかった。

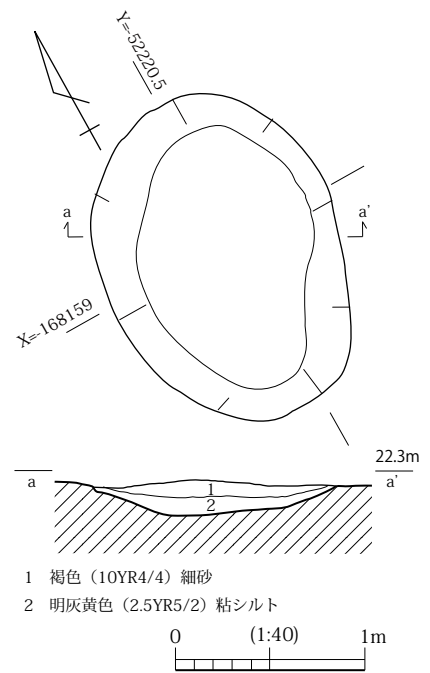


図 105 10001-3 区土坑 402
平面図・断面図

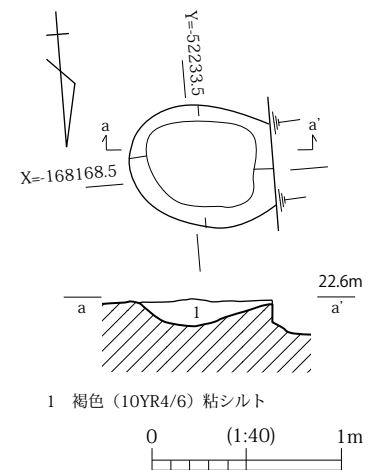


図 106 10001-3 区土坑 406
平面図・断面図

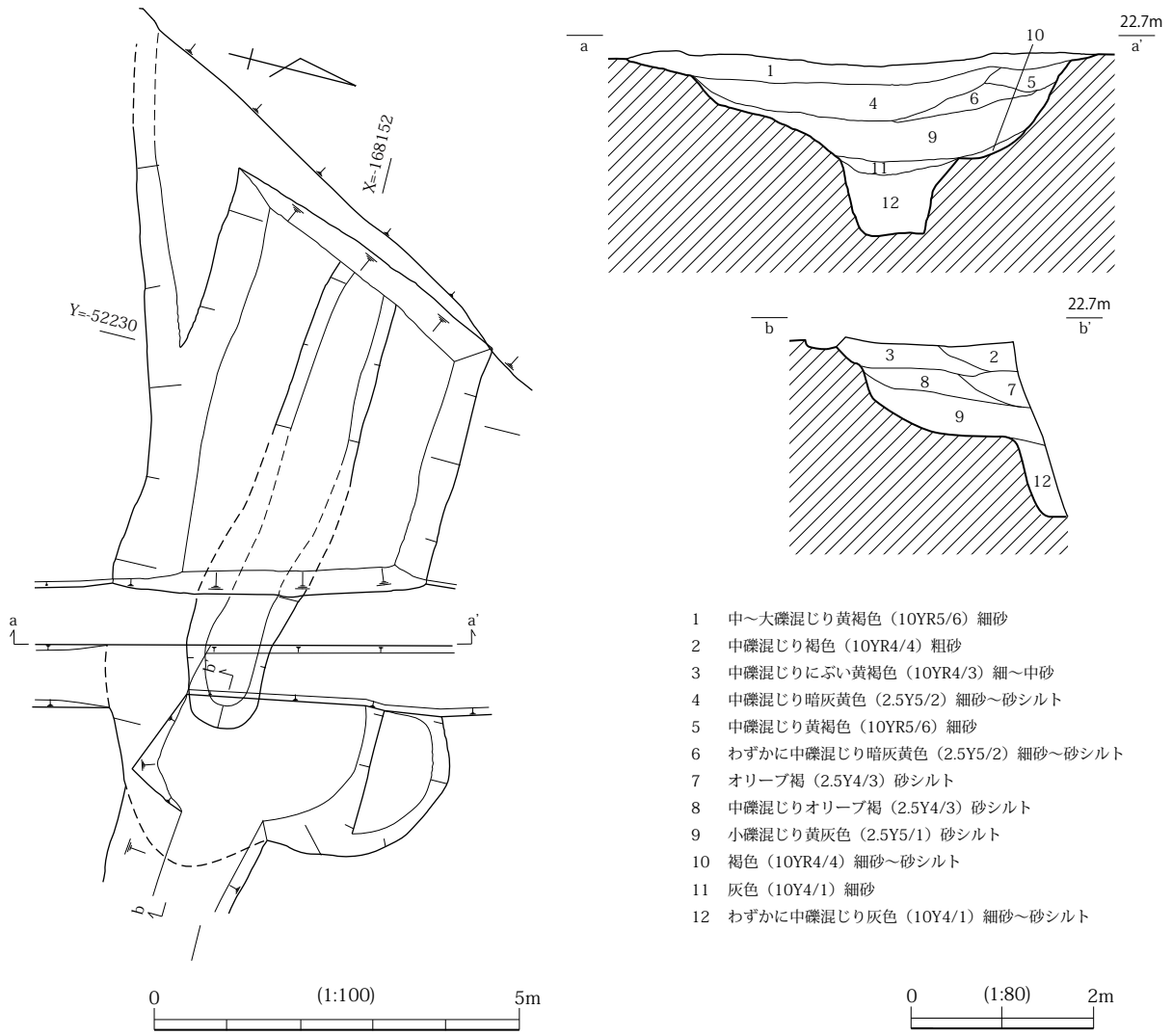


図 107 10001-3 区溝 399 平面図・断面図

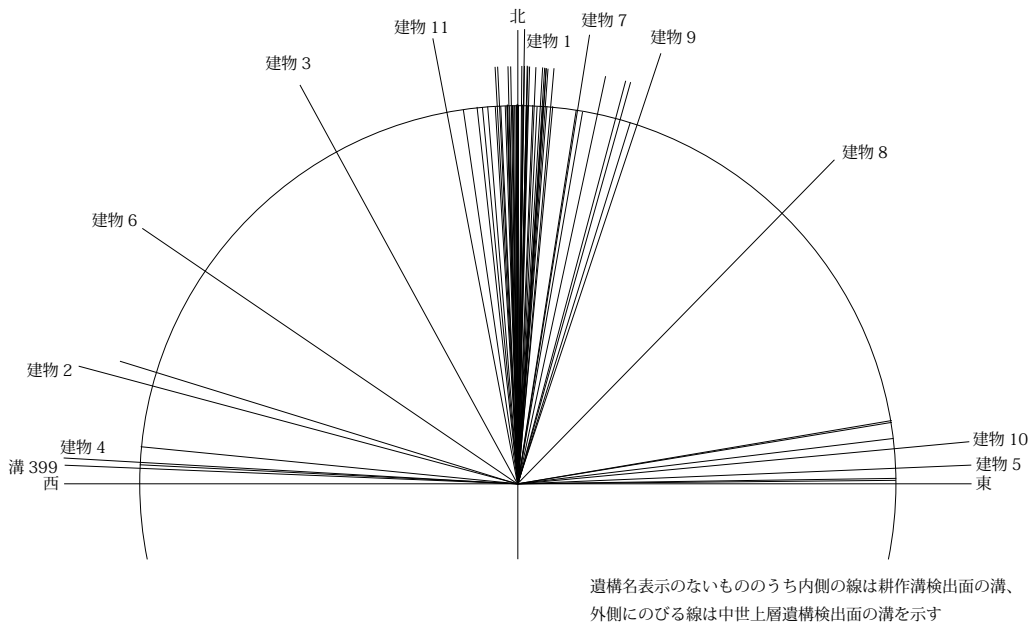


図 108 10001-3 区遺構主軸方向分布図

落ち込み 408 調査区南西部で検出した。人為的な遺構ではなく、自然の落ち込みである。北西側は調査区外にのび、調査区壁面で確認できる。掘削後の平面では一連の落ち込みとして表示しているが、壁面の精査により、褐灰色砂シルトを埋土とする南側と黄褐色砂シルトを埋土とする北側に分けられることから、前者を 408A、後者を 408B とする。

遺物は磁器、瓦質甕、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器、丸瓦、平瓦が出土し、このうち 11 点を図化した (736 ~ 744・920・921)。

小結 以上の遺構のうち、柱穴については、いずれも構成する建物等を明らかにできず、また、本来中世上層遺構検出面に伴う遺構である可能性も否定できない。土坑の機能を明らかにすることはできなかったが、いずれも浅いことから、井戸としての機能は考えにくい。溝 399 は、貯水溝と考えられる。

中世下層遺構検出面の遺構からは、弥生時代から中世にわたる遺物が出土しているが、遺構の時期に近いと考えられる中世の遺物の時期は 12 ~ 13 世紀頃である。また、直上の基本層序第 7 層は 12 ~ 15 世紀の遺物を含む。遺構の機能時と埋没時の時期差を考慮する必要があるが、遺構の時期は 12 ~ 13 世紀頃と考えられる。

ここで、以上 3 面の遺構検出面で検出された遺構の主軸方向について検討する (図 108)。中世上層遺構検出面の建物 1 ~ 11 の主軸方向には方向性がみとめられないが、耕作溝検出面の溝、中世上層遺構検出面の溝の主軸方向を比較すると、ほぼ座標北方向に一致している。また、中世下層遺構検出面の溝 399 についても、比較的東西方向に近い。したがって、中世から近世にわたり座標方向に則る地割が存在したことがわかる。この点については、他の調査区の成果や現在に残る地割とあわせて第 9 章第 1 節で述べる。

第 5 節 自然流路の調査 (図 109、図版 17)

基本層序第 8・9 層は、流入した洪水堆積物と考えられ、第 10 層上面では、自然流路の痕跡を検出した。第 8 層は調査区北部および南東部に、第 9 層は調査区南西部を除く広い範囲に分布する。第 10 層上面は、調査区北部から南側に向かってやや下がり、急激に落ち込んだ後急激に上がる。そこから南側では、起伏を繰り返しながら南側に向かって緩やかに下がる。

第 8 層は、堆積状況等より洪水堆積物であると考えられる。弥生時代後期から古墳時代後期の遺物を含み、形成時期は、下層出土遺物等より布留式後半 ~ 古墳時代後期と推定できる。

第 9 層は、堆積状況等より洪水堆積物であると考えられる。弥生時代後期 ~ 庄内式併行期の遺物を含み、上下層出土遺物等より形成時期についても弥生時代後期 ~ 庄内式併行期と推定できる。

以上より、第 8・9 層は、弥生時代後期から古墳時代後期にかけて流入した洪水堆積物である。現在は調査区の南方約 500 m を榎尾川が西流しており、当時の河川活動によって流入したものと考えられる。第 10 層上面は調査区中央部北寄りで立ち上がることから、これより北を北側自然流路、南側を南側自然流路と呼称する。

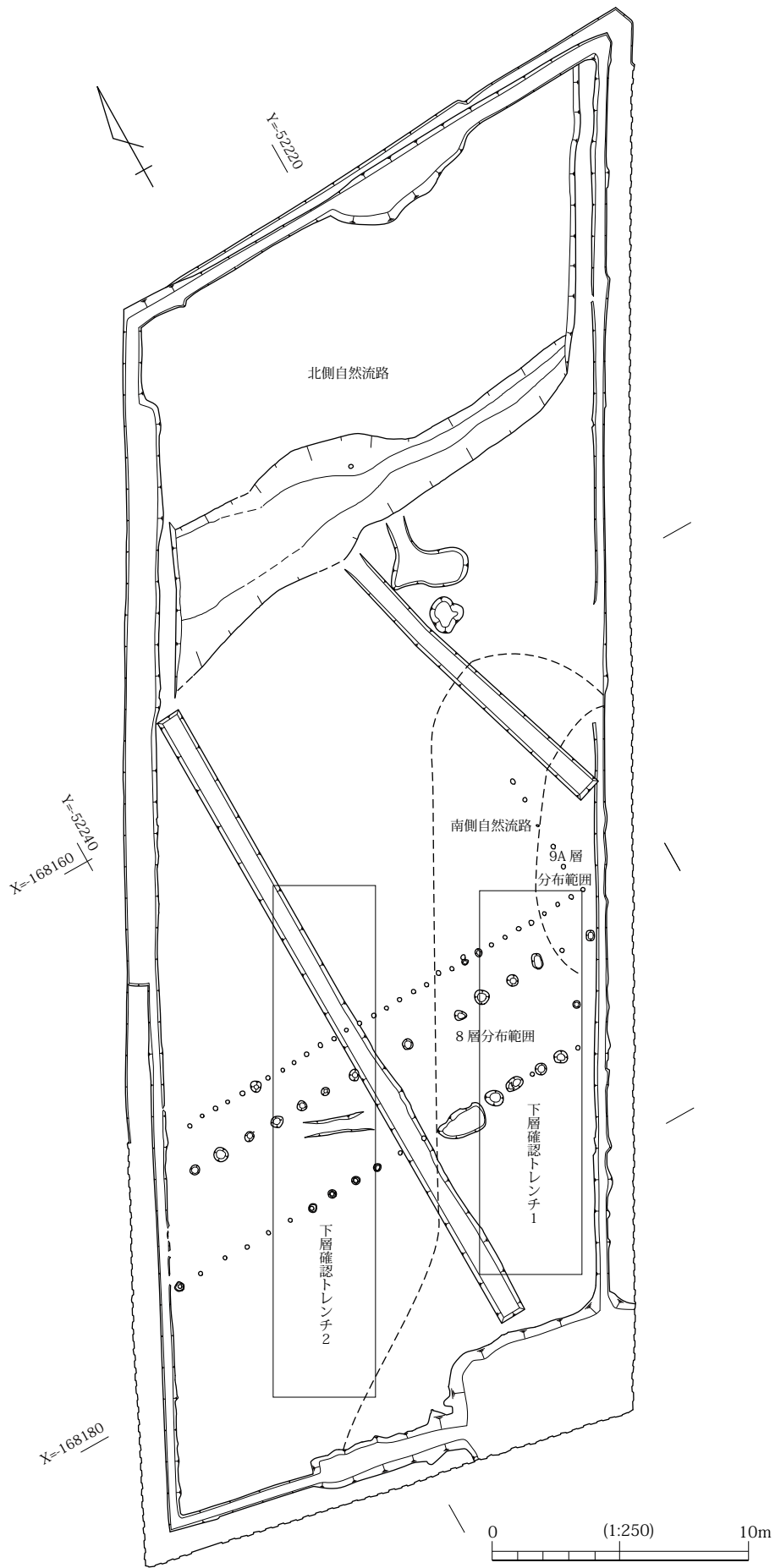


図 109 10001-3 区自然流路全体図

北側自然流路では土層観察用トレンチにより遺物を多く含むことが予想されたため、全面を第10層上面まで掘削した。北側の急激に落ち込む肩部付近では、第9B層よりまとまって土器が出土した（図110、図版17-2・3）。また、北側自然流路の南側肩部は、上層の中世下層遺構検出面の溝399の南側肩部よりやや南に位置するが、ほぼ一致する。溝399の掘削にあたり、礫混じりの第10層の分布範囲を避け、掘削の容易な第8・9層のシルト層分布範囲を選択したものと推定できる。

南側自然流路では、土層観察用トレンチから出土した遺物が少量であったため、遺物の分布状況を把握するためトレンチ（下層確認トレンチ1）を設けた。この結果、基本層序第9A層に比較的多くの遺物を含むものの、第8・9B層は小片を少量含むのみであることが判明したため、基本層序第9A層の分布範囲のみを掘削し、その他の部分についてはトレンチ調査による土層堆積状況の確認にとどめた。

自然流路の痕跡を上面で確認した第10層は、試掘・確認調査の結果および土層観察用トレンチ掘削の際の観察により、遺物はほとんど含まれないと予想された。そのため、第10層上面の自然流路の記録終了後に、下層の堆積状況と遺物の有無を確認するため、長さ20m、幅4mの

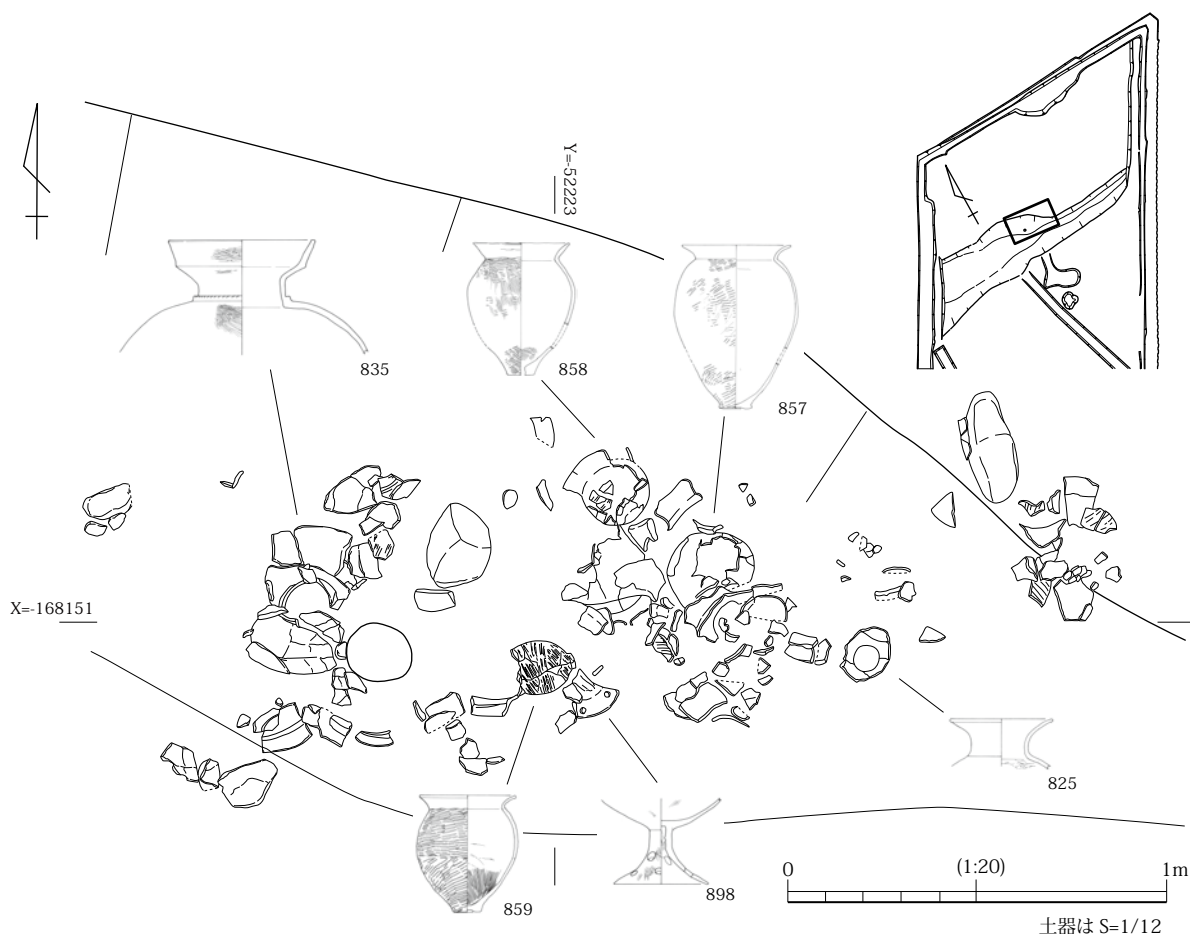


図110 10001-3区自然流路土器出土状況図

トレンチ（下層確認トレンチ2）を北東—南西方向に設定して、下層確認調査を行った。その結果、層厚2m以上であること、遺物を極少量含むことを確認したが、第10層下面を確認することはできなかった。第10層は、洪水堆積物で、特に第10B・10C層は活発な堆積作用によるものと考えられる。第10層は土器小片を極少量含むのみで時期比定は困難であるが、第9層の推定形成時期を考慮し、形成時期は弥生時代後期以前と推定できる。形成に要した時期幅は明らかでない。

第6節 出土遺物

第1項 土器

（1）耕作溝検出面の土器（図111）

耕作溝検出面の遺構からは、磁器、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器、土製品が出土した。ここでは中世以降に所属する可能性のあるものを報告する。

680は瓦器小皿である。溝029から出土した。内面にミガキがみとめられる。12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。681は波佐見窯染付椀である。溝038から出土した。見込みは蛇の目釉剥ぎで、見込みと高台に離れ砂が付着する。18世紀中頃に位置づけられる。682は須恵器播鉢である。溝024から出土した。口縁端部が上下にやや拡張されることから、12世紀末～13世紀初頭に位置づけられる。683は土錘である。溝034から出土した。端部をわず

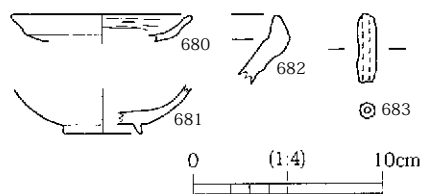


図111 10001-3区耕作溝検出面の土器

かに欠損するが、ほぼ完形である。この面の遺構からは弥生時代から近世までの遺物が出土しており、詳細な時期比定は困難である。

この面の遺構の大半は耕作に伴う溝であり、遺物が比較的多く出土した遺構も耕作に伴う溝である。遺構検出面の直上層、基本層序第4層が作土層と考えられる

ことから、この面の遺構の時期は、第4層に含まれる遺物の所属時期を考慮し、近世と考えられる。

（2）中世上層遺構検出面の土器（図112、図版45—1）

中世上層遺構検出面の遺構からは、瓦質羽釜、土師質土器、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。遺構の時期を示すものは中世の遺物であるが、それ以前の時期、特に弥生時代から古墳時代の遺物が多く出土している。これは、遺構検出面以下の包含層に含まれる遺物の時期に対応していることから、遺構、特に柱穴の掘方を埋め戻した際に混入した包含層由来の遺物と考えられる。また、柱穴の調査にあたっては、半裁し、断面の精査から柱掘方底面を確認した後に完掘を行ったが、多くは半裁の段階で本来の底面以下まで掘削を行っているため、掘削の際に包含層内の遺物が混入した可能性も高い。以上より、中世を遡る時期の遺物についても、下層包含層の時期を示す遺物と考え、特徴的なものについてここで報告を行う。また、遺構の時期を示す遺物が少量であること、包含層由来の遺物が多いことから、遺構順ではなく遺物の所属時期順に

報告を行う。

中世の土器 684～686は瓦器碗である。684は柱穴238から出土した。685は溝335から出土した。和泉型である。686は柱穴327から出土した。686は高台形状より13世紀中頃に位置づけられる。684、685は残存度が低く、詳細な時期比定は困難である。

687、688は須恵器播鉢である。687は柱穴232から出土した。口縁端部が上下にやや拡張することから、12世紀末～13世紀初頭に位置づけられる。688は柱穴250から出土した。口縁端部が上方へ拡張することから、12世紀中葉～後半に位置づけられる。

689は土師質羽釜である。柱穴205から出土した。口縁部形状より13世紀頃に位置づけられる。690は瓦質羽釜である。建物7を構成する柱穴231から出土した。口縁部形状より15世紀頃に位置づけられる。

691は土師質の甑底部である。柱穴177から出土した。中世末以降のもので、近世に所属する可能性もある。

古墳時代の土器 692～702は須恵器である。692～695は杯蓋である。692は柱穴216から出土した。MT15～TK10に位置づけられる。693は建物7を構成する柱穴231から出土した。MT15～TK10に位置づけられる。694は建物5を構成する柱穴247から出土した。口縁部のひずみが大きいため、復元口径の値は不確定である。TK209に位置づけられる。695はE4-I区内の柱穴から出土した。TK209頃に位置づけられる。696～699は杯身である。696は柱穴217または柱穴218から出土した。ヘラ記号が施される。TK47頃に位置づけられる。697は柱穴217または柱穴218から出土した。底部外面に重ね焼きの釉着痕がみとめられる。TK10頃に位置づけられる。698は柱穴227から出土した。口縁部外面に重ね焼きの釉着痕がみとめられる。TK209に位置づけられる。699は柱穴278から出土した。TK209に位置づけられる。700は甕である。柱穴051から出土した。肩部は丸みをもっており、TK10頃に位置づけられる。701、702は甕である。701は柱穴239から出土した。口縁部内外面に自然釉がみとめられる。TK10頃に位置づけられる。702は柱穴060から出土した。TK10頃に位置づけられる。

703～710は土師器である。磨滅により調整の不明なものが多い。703、704は小型丸底壺である。703は柱穴383から、704は土坑178から出土した。いずれも口縁部の開きは体部最大径よりやや大きい。外面調整は不明瞭であるが、703はハケ、704はケズリの可能性がある。703、704とも形状より布留3～4式に位置づけられる。705～707は甕である。705は土坑178から、706は柱穴076から、707は柱穴383から出土した。705、706は、端部が肥厚する布留形甕である。707は口縁部が直線的に開き、端部を丸くおさめる。口縁部が直立気味である705は、布留式後半に位置づけられる。708～710は高杯である。708は土坑178から出土した。外反高杯である。欠損部分が大きく接合技法は確認できない。709は柱穴051から出土した。脚柱部はやや内湾する。710は柱穴086から出土した。裾部は緩やかに広がる。706～710は布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

弥生時代～庄内式併行期の土器 711～724は弥生土器である。磨滅により調整の不明なものが多い。

711～713は複合口縁壺である。711は柱穴075から出土した。頸部から口縁部にかけて緩やかに屈曲し、口縁部外面に竹管円形浮文を施す。頸部外面にはミガキがみとめられる。712はE3-Ⅲ区内の柱穴から出土した。口縁部外面に波状文と竹管円形浮文を施す。713は柱穴060から出土した。口縁部外面に波状文と竹管円形浮文を施し、上下端には不明瞭であるが沈線がみとめられる。複合口縁状の精製の淡路型器台の可能性もある。711～713は、加飾性複合口縁壺あるいは淡路型器台であることから庄内式併行期に位置づけられる。

714は弥生形甕である。柱穴328から出土した。口縁端部は丸くおさめ、体部外面には右上がりのタタキを施す。715～720は底部である。715は柱穴061から、716は柱穴392から、717は柱穴059から、718は柱穴056から、719は柱穴091から、720は柱穴092から出土した。717の外面には右上がり、718、719の外面には左上がりのタタキが施される。715～718は中央部付近がやや窪む平底、719はやや外側に突出する平底である。717～719は甕または鉢と考えられる。720は外面にユビオサエがみとめられ、上げ底状になり、鉢または台付壺と考えられる。

721、722は高杯である。721は柱穴085から出土した。有稜高杯で、外面にミガキがみとめられる。722は柱穴066から出土した。杯部内外面、脚部外面にミガキがみとめられる。脚柱部半中実で、円形透かしが2箇所残存し、4方向であったと考えられる。半中実であることから庄内式併行期に位置づけられる。

723は柱穴374から出土した。複合口縁状の精製の淡路型器台である。口縁部外面に不明瞭な沈線と三角形の線刻文がみとめられる。淡路型であることから庄内式併行期に位置づけられる。

724は柱穴393から出土した。製塩土器脚台である。外面に右上がりのタタキを施す。二次焼成により断面一部が橙色に変色する。I式に分類できることから後期後葉～庄内式前半に位置づけられる。714～721は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

小結 以上のように、中世上層遺構検出面の遺構からは、弥生時代後期から中世にわたる遺物が出土している。まず、遺構の機能時期に近いと考えられる中世の遺物について検討する。遺物の時期は12世紀～15世紀にわたるが、柱穴掘削の際に柱痕跡と掘方の遺物を明確に区別して取り上げられておらず、土坑、溝については廃棄後の堆積層であることから、機能時以前または以後のものが混入している可能性がある。また、溝は耕作に伴う溝と考えられることから、作土層と考えられる遺構検出面の直上層、基本層序第6層に含まれる遺物の所属時期を考慮する必要がある。第6層は中世から近世の遺物を含み、また、検出面ベース層である第7層は15世紀以前の遺物を含むことから、遺構の時期は15～16世紀頃と考えられる。

古墳時代以前の混入遺物も含め、遺構の位置と出土遺物には相関がみとめられる。中世の遺物が出土した遺構は調査区の南側に偏りがみとめられ、具体的には、中世以降の遺物を報告した遺構のうち、柱穴177のみが調査区中央部に位置し、その他は南側に位置する遺構である。南側は、

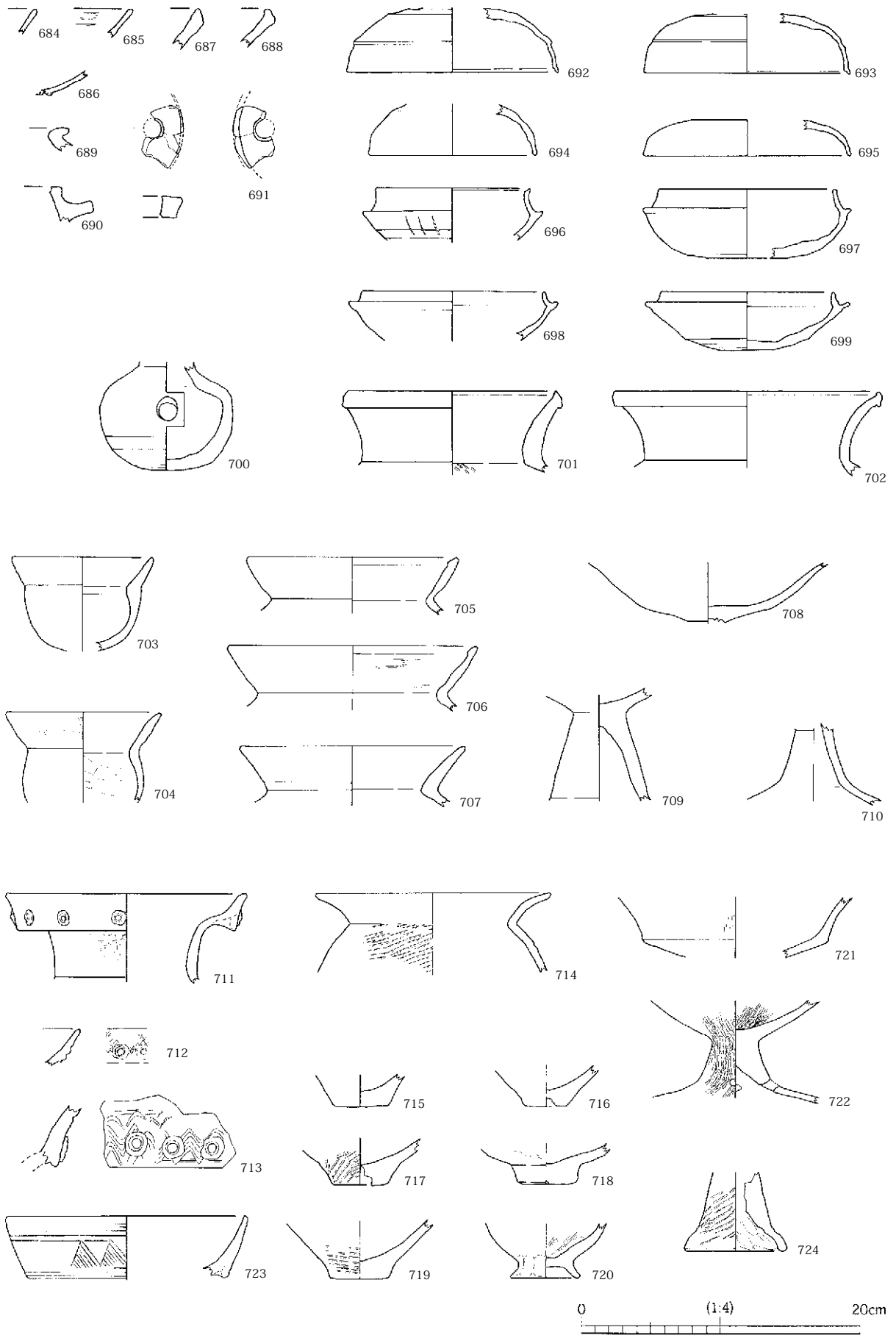


図 112 10001-3 区中世上層遺構検出面の土器

中世下層遺構検出面で検出した落ち込みの埋土や、中世の遺物を包含する第6層をベース層とする部分である。古墳時代についてみると、後期以降を主体とする須恵器は南側の遺構、布留式期以前の土師器、弥生土器は北側の遺構から偏って出土している。こうした傾向は、前述のように、調査時に生じた混入による可能性もあるものの、柱掘方の埋め戻しの際等にベース層に含まれる遺物が遺構埋土に混入したことによるものもあると考えられる。したがって、中世の包含層である第6層が北側でみとめられないことについては、後世の削平のみによるものではなく、本来から南側に厚く堆積していたものと推定できる。

(3) 中世下層遺構検出面の土器 (図113、図版45-2)

中世下層遺構検出面の遺構からは、磁器、瓦質甕、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。遺構の時期を示すものは中世の遺物であるが、それ以前の時期の遺物についても、特徴的なものはここで報告する。

土坑 400 出土土器 725は瓦器椀である。見込みに圈線状ミガキがみとめられる。高台形状より13世紀前半頃に位置づけられる。

溝 399 出土土器 図化できたものは古墳時代以前の遺物のみであるが、瓦器椀高台、土師質羽釜羽部の小片等中世の遺物も出土している。古墳時代以前の遺物については、ベース層以下の基本層序第8～9A層の遺物が混入したものと考えられる。

726、727は須恵器である。726は甕である。MT15～TK10に位置づけられる。727は底部である。壺の可能性はある。詳細な時期比定は困難である。728、729は土師器の高杯脚部である。728は中実、729は中空である。728は布留式前半に位置づけられる。729は布留式期と考えられるが、詳細な時期比定は困難である。730～735は弥生土器である。730は高杯脚部である。後期に位置づけられる。731は複合口縁壺である。頸部くびれ部分の突帯の上部に刻目を施し、突帯下の肩部には刺突文がみとめられる。加飾性複合口縁壺であることから庄内式併行期に位置づけられる。732、735は弥生形甕である。732は同一固体の体部片が多数出土したが、接合することができず、口縁部と底部のみを提示している。口縁端部にヨコナデによる鈍い端面をもち、体部外面には右上がりのタタキを施す。底部は平底である。735は体部外面に右上がりのタタキを施す。底部外面中央部に粘土が付着しており、焼成時の重ね焼き痕跡の可能性はある。底部外面には黒斑がみとめられる。733、734は底部である。733、734とも中央部付近が窪む平底で、734は体部外面に右上がりのタタキを施し、甕または鉢と考えられる。732～735は弥生時代後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

落ち込み 408 出土土器 736、737、742、744は落ち込み408A、738～741、743は落ち込み408Bから出土した。

736は須恵器播鉢である。口縁端部が上下に拡張されることから、12世紀末～13世紀初頭に位置づけられる。737は瓦質甕である。頸部の小片で、詳細な時期比定は困難である。738は龍泉窯系または同安窯系の青磁椀である。内面に花文をもち、高台外面にはケズリを施す。13世

紀頃に位置づけられる。739～743は須恵器である。739は杯蓋である。TK209に位置づけられる。740～743は杯身である。740はTK47に、741～743はTK10頃に位置づけられる。744は土師器で、甕形の製塩土器である。口縁部と体部は直接接合せず、図上復元である。二次焼成により体部内外面が桃色に変色しており、外面にはススが付着する。布留式後半に位置づけられる。

小結 以上のように、中世下層遺構検出面の遺構からは、弥生時代後期から中世にわたる遺物が出土しているが、遺構の時期に近いと考えられる中世の遺物の時期は12～13世紀頃である。

(4) 攪乱・包含層・自然流路出土土器

攪乱出土の遺物は特徴的なものを報告する。包含層の遺物は、その形成時期を示すものを中心とし、それ以前の時期の遺物については特徴的なものを報告する。

攪乱出土土器 (図114) 745はE3区の攪乱から出土した。弥生土器で、製塩土器脚台である。外面に右上がりのタタキを施す。二次焼成により断面一部が赤色に変色する。裾部を欠損するが、I～II a式と考えられることから、後期後葉～庄内式前半に位置づけられる。

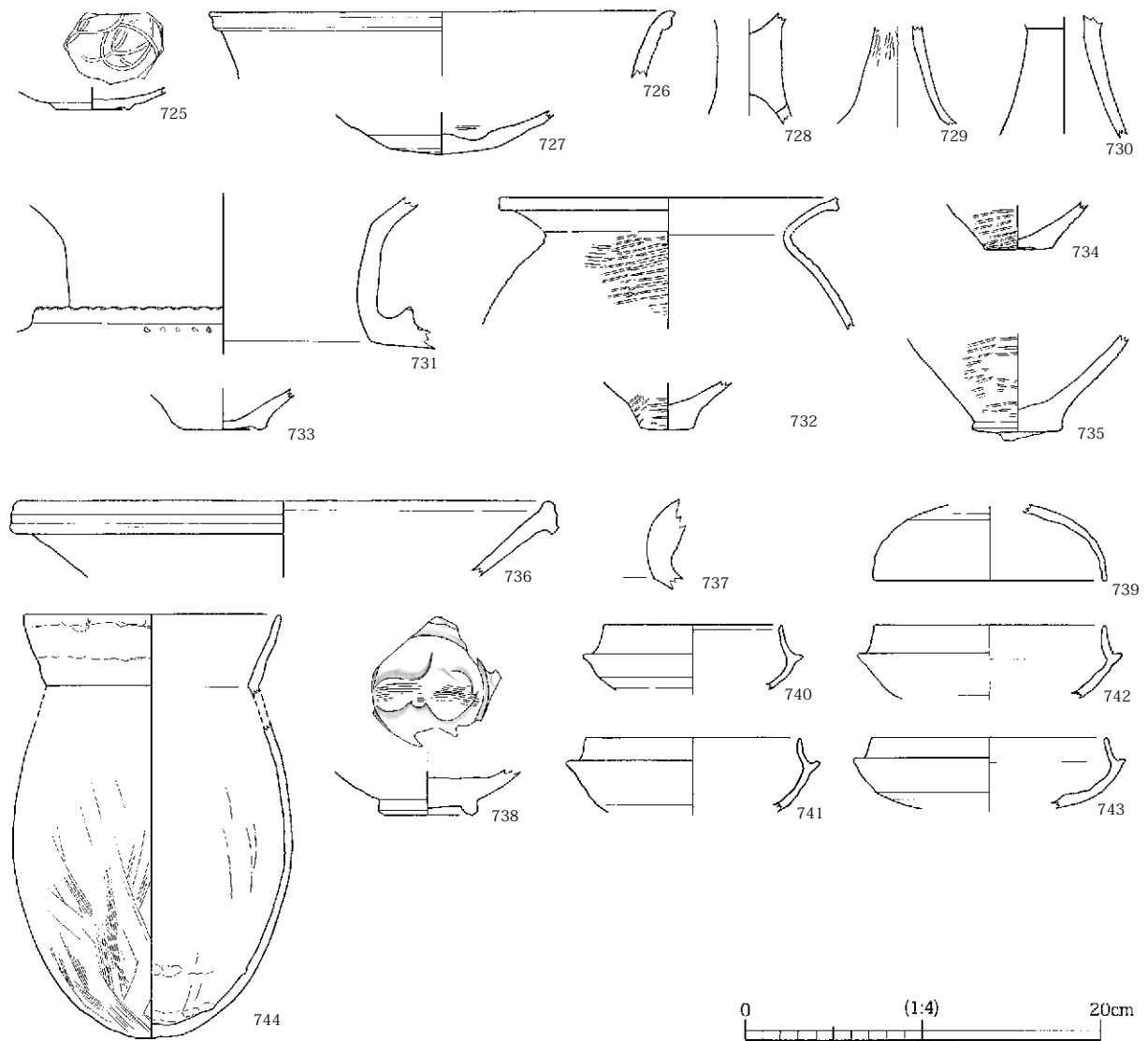


図113 10001-3区中世下層遺構検出面の土器

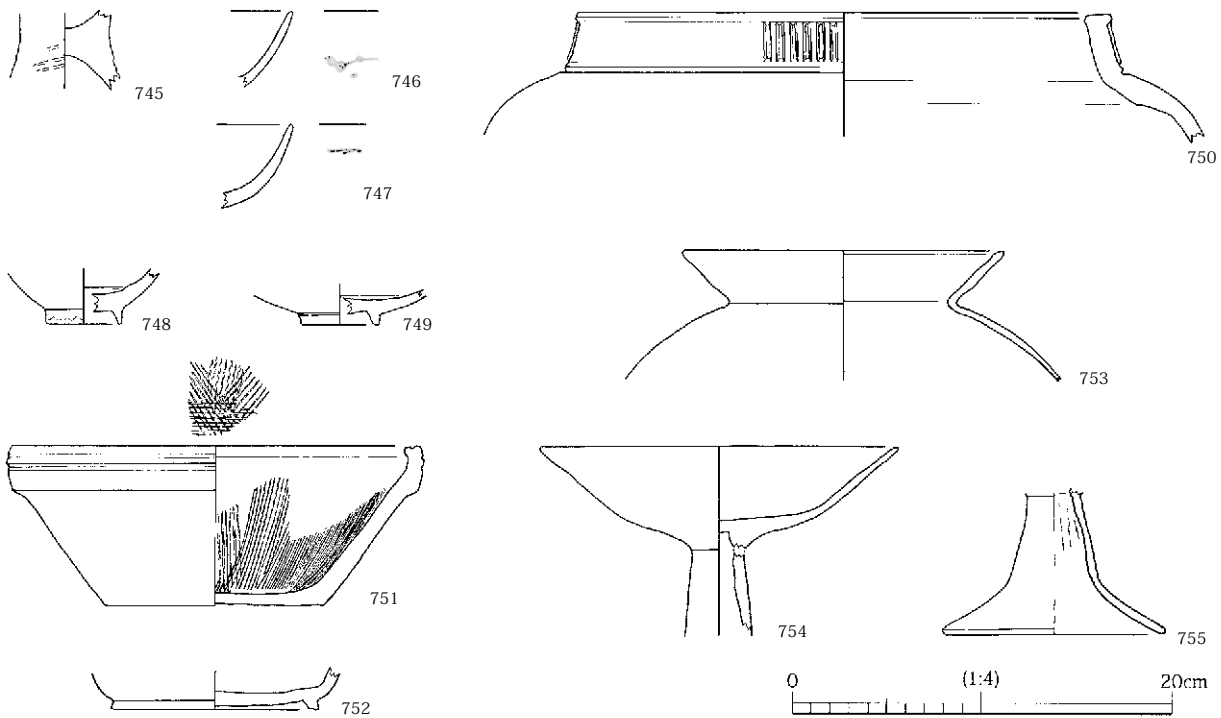


図 114 10001-3 区攪乱・包含層出土土器（1）

基本層序第4層出土土器（図114、図版46—1）磁器、陶器、瓦質播鉢、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。746～749は磁器碗である。746、747は波佐見窯系染付碗で、18世紀中頃に位置づけられる。748は波佐見窯系白磁碗で、見込みは蛇の目釉剥ぎである。18世紀に位置づけられる。749は信楽系緑釉葉碗で、見込みは蛇の目釉剥ぎである。19世紀前半に位置づけられる。750は土師質火舎で、在地産と考えられる。16世紀に位置づけられる。751は陶器で、堺播鉢である。18世紀前半に位置づけられる。752は須恵器杯Bである。奈良時代に位置づけられる。753～755は土師器である。753は布留形甕である。口縁部と体部は直接

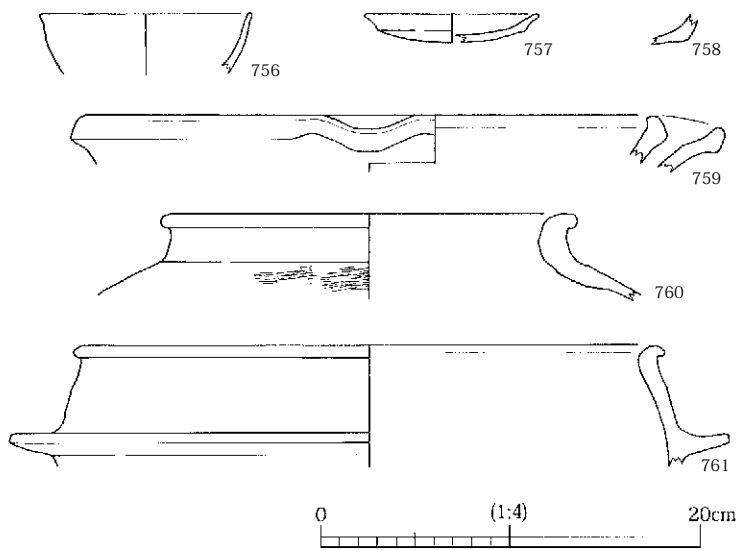


図 115 10001-3 区包含層出土土器（2）

接合せず、図上復元しており、口縁部の傾きは不確定である。754、755は高杯である。754は外反高杯である。杯部と脚部は直接接合せず、図上復元である。裾部片も残存するが、脚柱部と直接接合せず傾きが不明のため図化してない。杯部底部に棒状工具による刺突痕跡がみとめられ、接合法Cである。755は脚部内外面にススが付着する。753～755は布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

以上、基本層序第4層からは弥生時代から近世にわたる遺物が出土しているが、層の形成時期は近世で、19世紀にわたると考えられる。

基本層序第6層出土土器（図115、図版46—1）

1) 磁器、陶器、瓦質甕、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。756は磁器碗である。波佐見窯碗で、18世紀に位置づけられる。757は瓦器小皿である。口縁部はひずむ。法量より12～13世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。758は土師器小皿である。底部はひずんでおり、底径は不確定であるが、7cm程度と推定できる。14～15世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。759は須恵器播鉢で、片口をもつ。口縁端部が上下に拡張されることから、12世紀末～13世紀初頭に位置づけられる。760は瓦質甕である。口縁部形状より15世紀前半頃に位置づけられる。761は土師質羽釜である。口縁部形状より13世紀後葉～末に位置づけられる。

以上、基本層序第6層からは弥生時代から近世にわたる遺物が出土しているが、近世の遺物は少量で、混入の可能性もある。第6層下層で検出した中世上層遺構検出面が15～16世紀と考えられることから、第6層の形成時期は16世紀以降と考えられる。

基本層序第7層出土土器（図116、図版46—1）

磁器、瓦質羽釜、土師質羽釜、瓦器、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。762、763は土師器小皿である。14～15世紀頃に所属するが、詳細な時期比定は困難である。764は瓦器碗で、和泉型である。12世紀後半～13世紀前半頃に位置づけられる。765、766は瓦器小皿である。765は12世紀頃、766は12世紀後半～13世紀前半頃に位置づけられる。767は龍泉窯系青磁で、碗または香炉と考えられる。破損面に黒漆が付着しており、破損後に接合したものと考えられる。15世紀後半に位置づけられる。768は須恵器杯B蓋である。奈良時代に位置づけられる。769は弥生土器底部である。外面に右上がりのタタキを施し、甕または鉢と考えられる。中央部付近が窪む平底である。後期～庄内式併行期に位置づけられる。

以上、基本層序第7層からは弥生時代から中世にわたる遺物が出土しており、層の形成時期に近い中世の遺物は12～15世紀後半のものが出土している。第7層下層で検出した中世下層遺構検出面が12～13世紀と考えられることから、第7層の形成時期は14～15世紀頃と推定できる。

南側自然流路基本層序第8・9層出土土器（図117、図版46） 第8層以下は、調査区の広い範囲で確認しているが、中央部北寄り第10層が立ち上がることから、北側を北側自然流路、南側を南側自然流路と呼称する。遺物を明確に分けて取り上げることができたため、それぞれ報告する。第8層と第9層については一体で掘削した箇所が多いためあわせて報告を行い、そのうえで、時期や出土層位を限定できる遺物から、それぞれの層の形成時期を推定する。なお、一部、

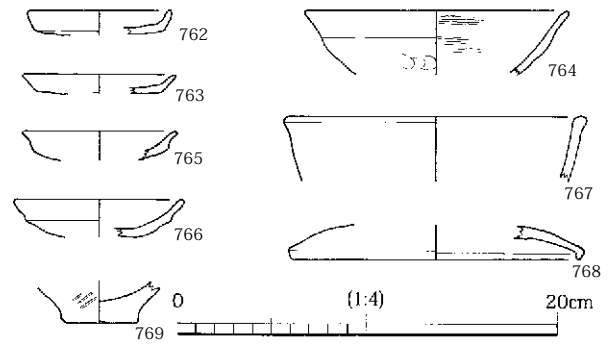


図116 10001-3区包含層出土土器(3)

第7層以上の遺物を含む可能性もある。

南側自然流路第8・9層からは、須恵器、土師器、弥生土器が出土した。770～773は須恵器である。770、771は杯蓋である。770はMT15～TK10頃に、771はTK43～TK209頃に位置づけられる。772は杯身である。TK47に位置づけられる。773は高杯脚部である。透かしは長方形で、長脚2段3方である。TK43～TK209に位置づけられる。

774～782は土師器である。磨滅により調整の不明なものが多い。774は小型丸底壺である。口縁部は体部最大径より開かない。外面調整は不明瞭である。布留3～4式に位置づけられる。775は複合口縁壺で、口縁部形状は山陰系である。776は口縁端部の肥厚する布留形甕である。体部上半外面に、縦方向ハケの後、横方向ハケを施す。口縁部が直立気味であることから、布留式後半に位置づけられる。777～781は高杯である。777、778は外反高杯で、778は杯部外面にハケを施す。779は脚柱部がやや内湾する。780は脚部内面にケズリを施す。781は杯部と脚部が直接接合せず、図上復元である。777、778、781は杯部底部に棒状工具による刺突痕跡が残り、接合法Cである。779は、杯部側から粘土を充填し、脚部側への粘土のはみ出しが大きく、接合法はD2bである。780も杯部側から粘土を充填している可能性がある。775、777～781は布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。782は蛸壺である。頂部に1孔をもつ釣鐘型である。古墳時代以降に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

783～801は弥生土器である。磨滅により調整の不明なものが多い。783～788は壺である。783は広口壺で、不明瞭であるが口縁部外面に沈線を施す。784は垂下口縁広口壺で、口縁部外面に円形浮文を施す。785～787は複合口縁壺である。785は頸部から口縁部にかけて緩やかに屈曲し、口縁部外面に最上段を三角形状とする3段の線刻文と竹管円形浮文を施す。受部に1孔を施す。786は頸部くびれ部分の突帯の上下に刻目を施す。785、786は、加飾性複合口縁壺であることから庄内式併行期に位置づけられる。787は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。無文で、後期後葉～庄内式併行期に位置づけられる。788は口縁部の小片である。口縁部外面に竹管文を施し、広口壺の可能性もある。789は口縁部の小片で、口縁部に刻目を施す。壺または器台と考えられる。790～794は甕である。790は口縁端部にヨコナデによる鈍い端面をもつ。791～794は弥生形甕である。791は磨滅により口縁部形状が不明瞭である。口縁部外面にススが付着する。792は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。口縁端部は丸くおさめ、体部外面に右上がりのタタキを施す。体部外面にススが付着する。793、794は底部で、外面に右上がりのタタキを施す。793、794は外面にススが、794は内面にコゲが付着する。793は中央部付近が窪む平底、794は平底である。795～798は底部である。795は外面に右上がりのタタキを施し、甕か鉢と考えられる。中央部付近が窪む平底である。796は平底である。797は1孔をもち、有孔鉢の可能性もある。798はやや外側に突出する平底で、内面に5孔を施すが、うち1孔は貫通していない。甗の可能性もある。799～801は脚台である。799は製塩土器脚台として図化しているが、被熱による変色はみとめられないことから、上下逆で底部の可能性もある。

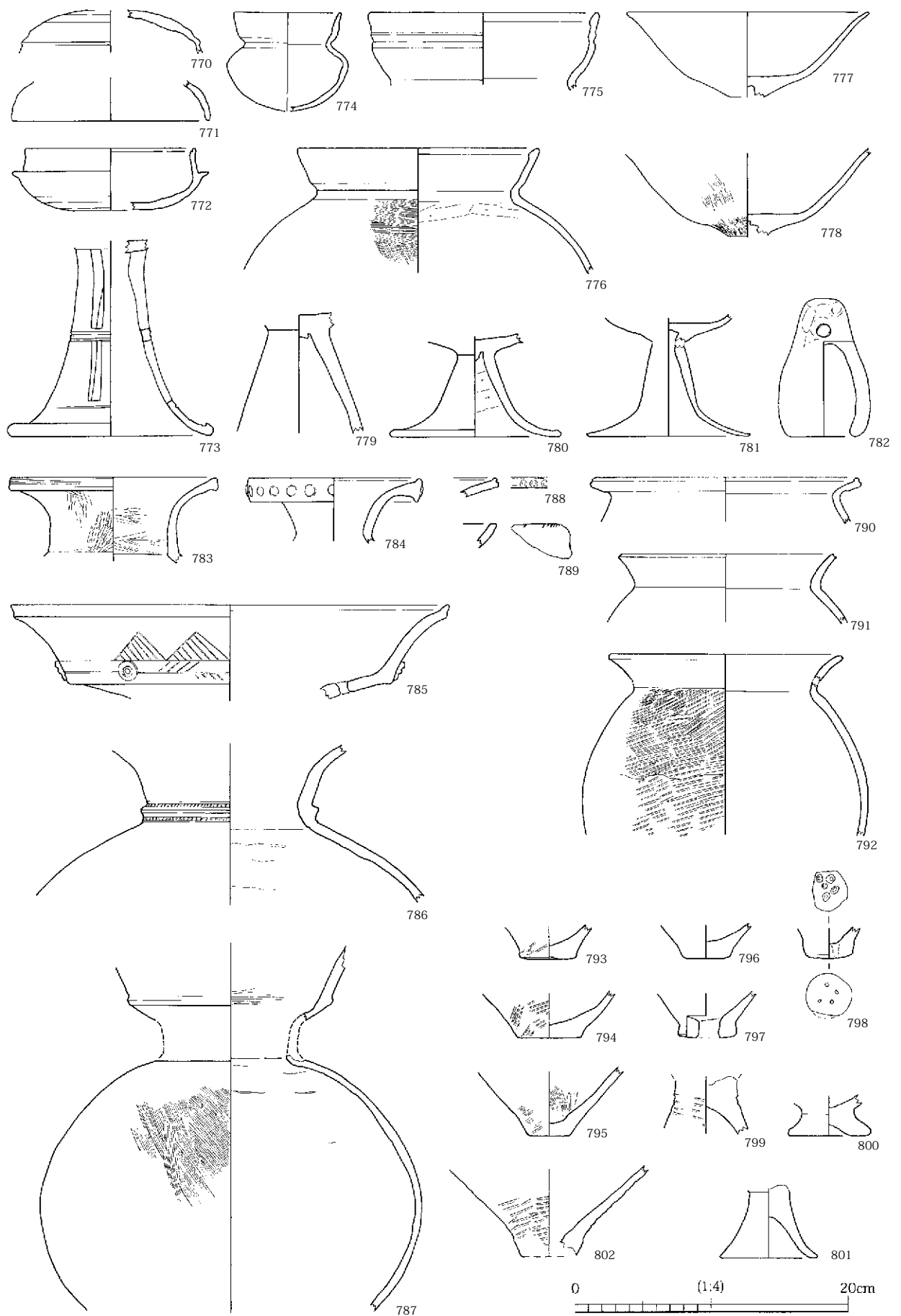


图 117 10001-3 区南侧自然流路出土土器

外面に左上がりのタタキを施す。製塩土器脚台であるとするとI式となり、後期後葉～庄内式前半に位置づけられる。800、801は台付の壺か甕か鉢の可能性が考えられる。783、784、790～795、800、801は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

以上、南側自然流路基本層序第8・9層からは弥生時代から古墳時代後期にわたる遺物が出土している。出土層位をみると、須恵器、土師器はいずれも第8層以上を含む層から出土している。一方、第9層に限定できる遺物は少量であるものの、弥生土器のみである。また、布留式前半に限定できる土師器がないこと、中期以前に限定できる弥生土器がないことから、第8層は布留式後半～古墳時代後期、第9層は弥生時代後期～庄内式併行期に形成されたものと推定できる。

基本層序第10層出土土器 (図117) 802は下層確認トレンチ2から出土した。弥生土器の底部である。外面に右上がりのタタキを施し、甕か鉢と考えられる。弥生時代後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。第10層出土遺物はこの1点のみであるが、第9層の下層であることから、第10層の形成時期は弥生時代後期以前と推定できる。

北側自然流路基本層序第8・9層出土土器 (図118～124、図版47～50) 須恵器、土師器、

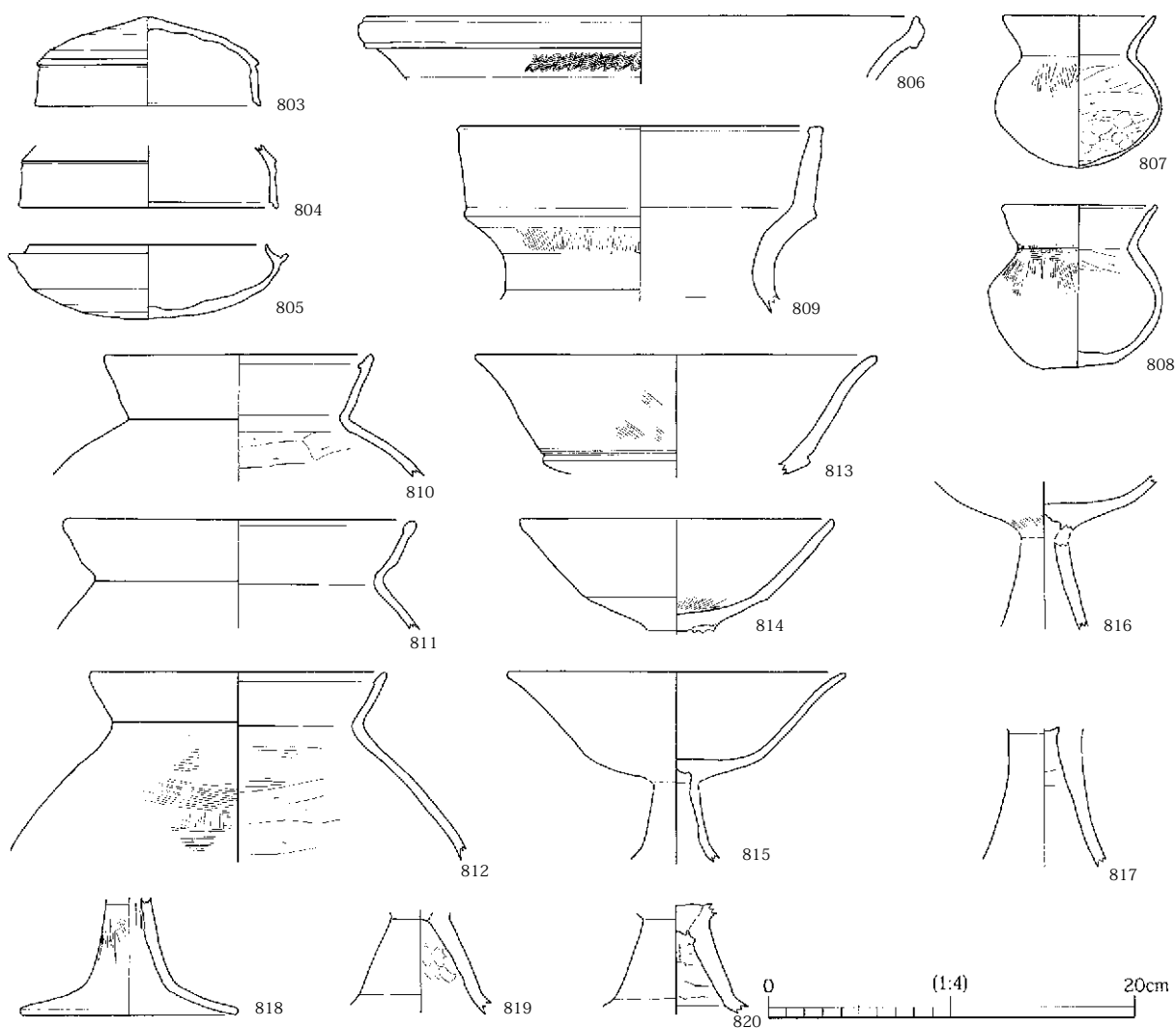


図118 10001-3区北側自然流路出土土器(1)

弥生土器が出土した。803～806は須恵器である。803、804は杯蓋、805は杯身である。803は全体にひずむ。805は口縁部と底部が直接接合せず、図上復元である。803はTK47に、804はMT15に、805はTK209に位置づけられる。806は口縁部で、外面に波状文を施す。壺の可能性があり、TK10頃に位置づけられる。



写真12 高杯820脚部内面

807～820は土師器である。磨滅により調整の不明なものが多い。807、808は小型丸底壺である。いずれも口縁部は体部最大径より開かない。807は体部外面一部に黒斑がみとめられる。808は平底状を呈する。807、808とも外面調整はハケである。形状より布留3～4式に位置づけられる。809は複合口縁壺である。口縁部形状は吉備系で、頸部外面にハケを施す。口縁部が直立気味にのびることから布留式後半に位置づけられる。810～812は布留形甕である。811は外面に黒斑がみとめられる。810～812は口縁部が直立気味であることから布留式後半に位置づけられる。813～820は高杯である。813は有稜高杯である。杯部外面に不明瞭ながらハケがみとめられる。布留式後半に位置づけられる。814は直口高杯である。接合技法は不明である。815は外反高杯である。口縁部はひずむ。816は杯部と脚部が直接接合せず、図上復元である。外反高杯の可能性もある。杯部外面に不明瞭ながらハケがみとめられる。脚部に円形透かし1孔がみとめられるが、本来の数は不明である。815、816は、棒状工具による刺突痕跡が残り、接合法Cである。817、820の脚部内面には粘土巻き上げ痕とシボリ目がみとめられ、特に820は巻き上げ痕が顕著である（写真12）。819は脚柱部がやや内湾し、内面に指頭圧痕がみとめられる。819、820は杯部側から粘土を充填する接合法Dで、特に820はD2aである。817も杯部側から粘土を充填している可能性がある。817、820は、内面調整が粗雑であることから布留式後半に位置づけられる。814～816、818、819は布留式期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

821～915は弥生土器である。磨滅により調整の不明なものが多い。821～845は壺または壺の可能性のあるものである。821は中期前葉に位置づけられる。822は細頸壺である。体部片も出土しているが、口縁部と直接接合せず図化困難のため、写真のみ示している。頸部内面にシボリ目、体部内面にハケがみとめられる。頸部から体部の外面にミガキを施す。色調は灰色系、胎土は密で、橙色系で胎土の粗い他の弥生土器とは異なっている。823～827は、口縁部が単純に外反する形状の広口壺である。826は口縁部外面に綾杉文を施す。828は広口壺または複合口縁壺である。胎土に角閃石を含むかは不明であるが、チョコレート色を呈しており、生駒西麓産の可能性もある。829は広口壺で、口縁部外面に沈線と竹管文を施す。830～833は垂下口縁広口壺である。830は口縁部外面に波状文と竹管円形浮文を施す。口縁下部は浮文部分が凹んで波状を呈しており、浮文貼り付け時の指痕と考えられる。831は、口縁部外面に不明瞭ながら沈線が

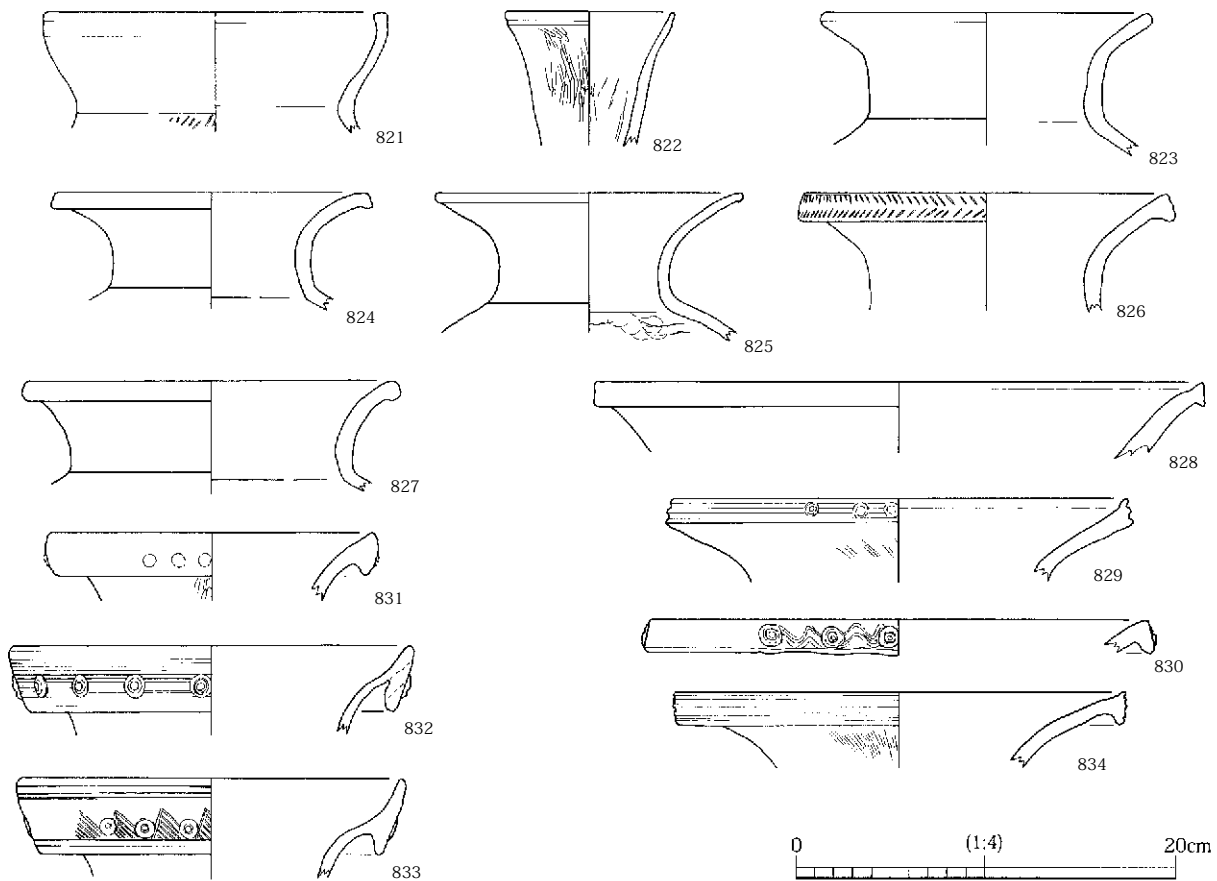


図 119 10001-3 区北側自然流路出土土器 (2)

わずかにみとめられ、円形浮文を施す。浮文に竹管文を施しているかは摩滅により不明である。832 は口縁部外面に沈線と竹管円形浮文を施す。833 は口縁部外面に沈線、三角形状の線刻文、竹管円形浮文を施す。829～833 は、後期～庄内式前半に位置づけられる。834 は壺または器台である。口縁部外面に沈線を施すが、浮文の有無は摩滅により不明である。835～840、842 は複合口縁壺である。頸部から口縁部の形状は、835、842 は直線的で、836～838、840 は緩やかに屈曲する。835 は頸部くびれ部分の突帯の上部に刻目を施す。836 は口縁部外面の中央付近に竹管文、下部に刺突文を施した竹管円形浮文を施し、受部には刻目がみとめられる。837 は口縁部がやや短く、外面には沈線と竹管円形浮文を施す。838 は無飾である。839 は頸部くびれ部分の突帯上部に刻目を施し、突帯上の頸部下端には竹管文がみとめられる。840 は頸部から体部と底部が直接接合せず、図上復元である。頸部くびれ部分の突帯の上下に刻目を施し、突帯下の肩部には刺突文がみとめられる。胎土に角閃石を含みチョコレート色を呈しており、生駒西麓産である。842 は口縁部外面に波状文と竹管円形浮文を施す。835～837、839、840、842 は、加飾性複合口縁壺であることから庄内式併行期に位置づけられる。無飾の838 は後期後葉～庄内式併行期に位置づけられる。841 は壺または器台の口縁部である。口縁部外面に波状文を施す。843 は壺底部である。同一固体体部片が多数出土したが、接合できなかった。844 は小形壺である。長頸壺の系譜を引くものの可能性がある。845 は小形台付壺である。822～828、834、841、843～

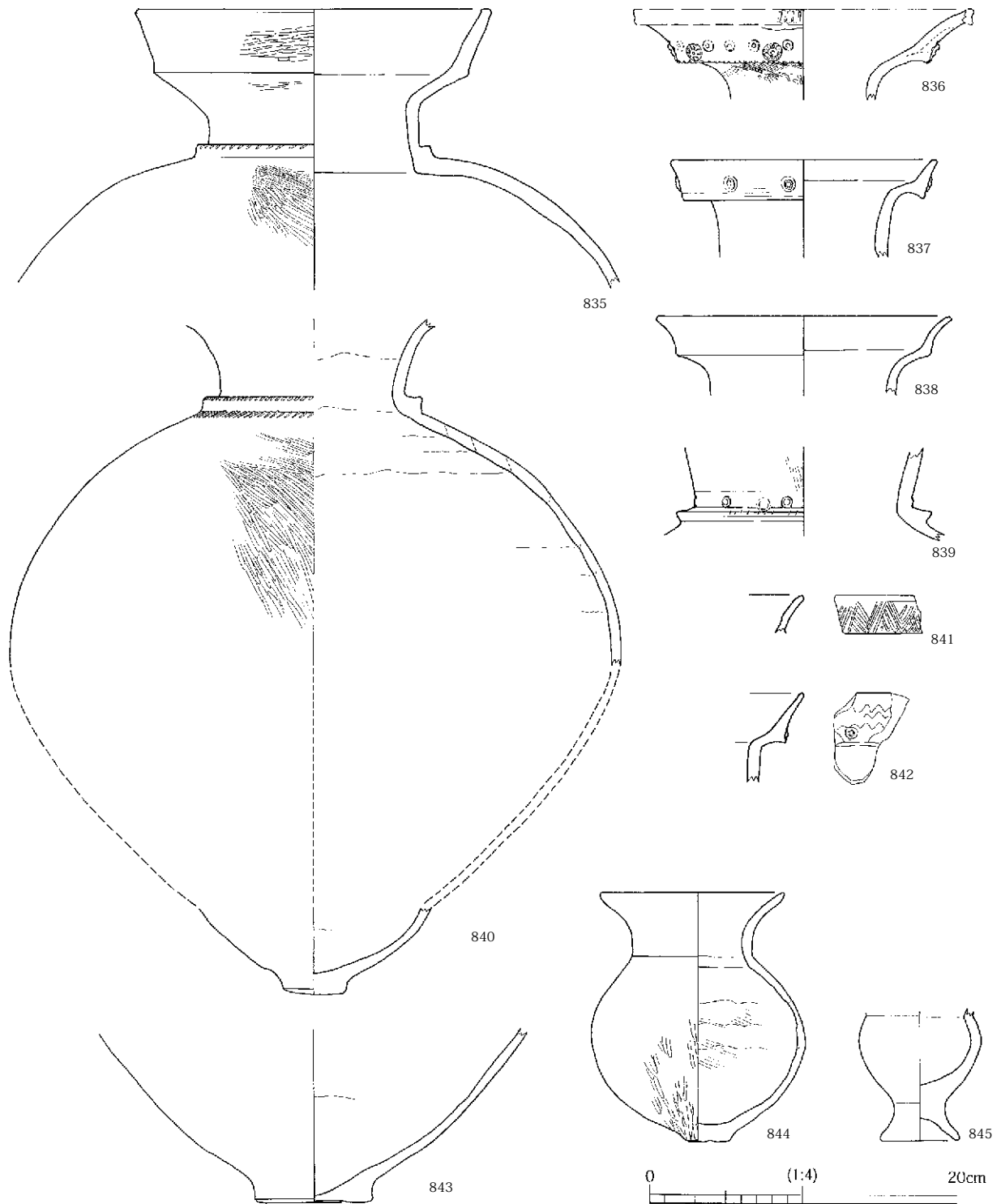


図 120 10001-3 区北側自然流路出土土器 (3)

845 は後期～庄内式併行期に所属するが、詳細な時期比定は困難である。

846～859 は甕である。846 は胎土に角閃石を含みチョコレート色を呈しており、生駒西麓産である。847 は口縁端部にヨコナデによる鈍い端面をもつ。848～859 は弥生形甕である。848 は口縁部が大きく内湾する。口縁端部は



写真 13 甕 848 口縁端部



写真 14 甕 855 口縁端部

タタキによる刻目状の痕跡がみとめられ、鈍い端面をもつ（写真 13）。体部外面には右上がりのタタキを施し、頸部までタタキが及ぶ。タタキは 4 条 / 1 cm で、3 条前後のものが多い中で細いものである。855 は、口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。口縁端部に不明瞭であるがタタキによる刻目状の痕跡がみとめられ、鈍い端面をもつ（写真 14）。

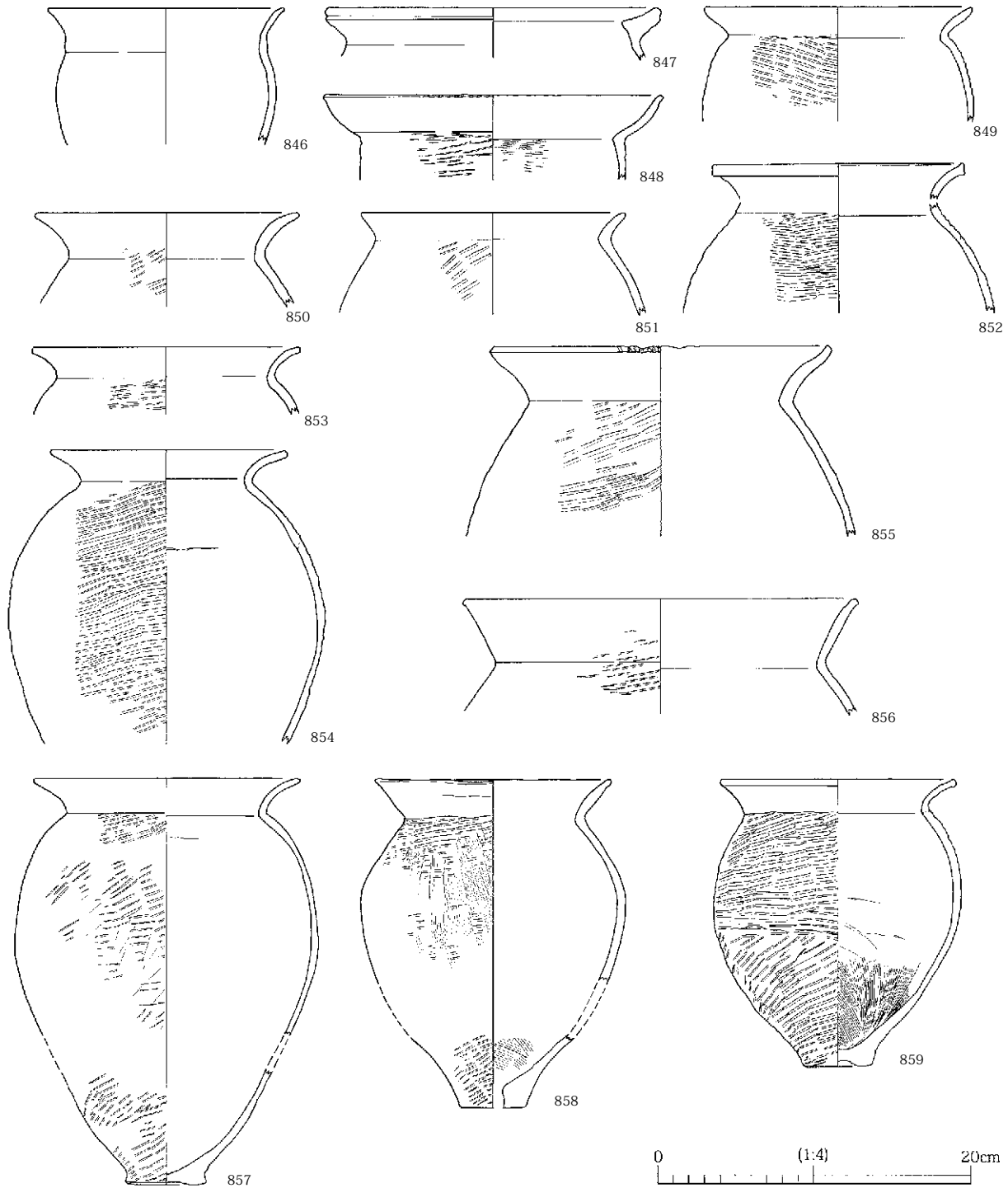


図 121 10001-3 区北側自然流路出土土器（4）

852 は口縁部と体部が直接接合せず、図上復元である。857、858 は体部と底部が直接接合せず、図上復元である。849、856～858 は口縁部がひずむ。856 は中形鉢の可能性もある。849～851、853、857 は口縁端部を丸くおさめ、852、854、856、858、859 は鈍い端面をもつ。体部外面には、849 は左上がりの、850、851、854～856 は右上がりの、852、853 は横位のタタキを施す。857、858 は、体部外面に右上がりのタタキの後に縦方向にナデを施す。859 は、右上がりのタタキを施すが、中央部は横位である。856、858 は口縁部途中で粘土接合痕がみとめられ、850、856 は頸部までタタキが及ぶ。854、857～859 は外面にススが付着し、859 は底部内面にコゲが付着する。857、859 は、中央部付近が窪む平底である。847～859 は後期～庄内式併行期に位置づけられるが、詳細な時期比定は困難である。

860～888 は底部である。860～865 は、外面にタタキを施し、甕か鉢と考えられる。860、861、864、865 は右上がり、862 は横位のタタキで、863 は不明瞭である。861 は外面に黒斑がみとめられる。860～865 は中央部付近が窪む平底で、864 はコビオサエがみとめられる。866～875 は弥生形甕の底部である。866～870、872、874 は右上がり、871、875 は左上がりのタタキを施す。873 は、体部は右上がり、底部付近は横位のタタキを施す。866～871、874、875 は中央部付近がやや窪む平底、872、873 はやや外側に突出する平底である。866、867、869、872～875 は外面にススが、868、870、871 は内面にコゲが付着する。876～881 は底部周辺を外下方に拡張し、上げ底状を呈する。調整の不明瞭な 880 以外は外面にコビオサエがみとめられ、876、881 は右上がりタタキを施す。882～887 は中央部付近が窪む平底、888 は平底である。882 は外面にミガキを施し、壺の可能性もある。860～887 は後期～庄内式併行期に位置づけられるが、

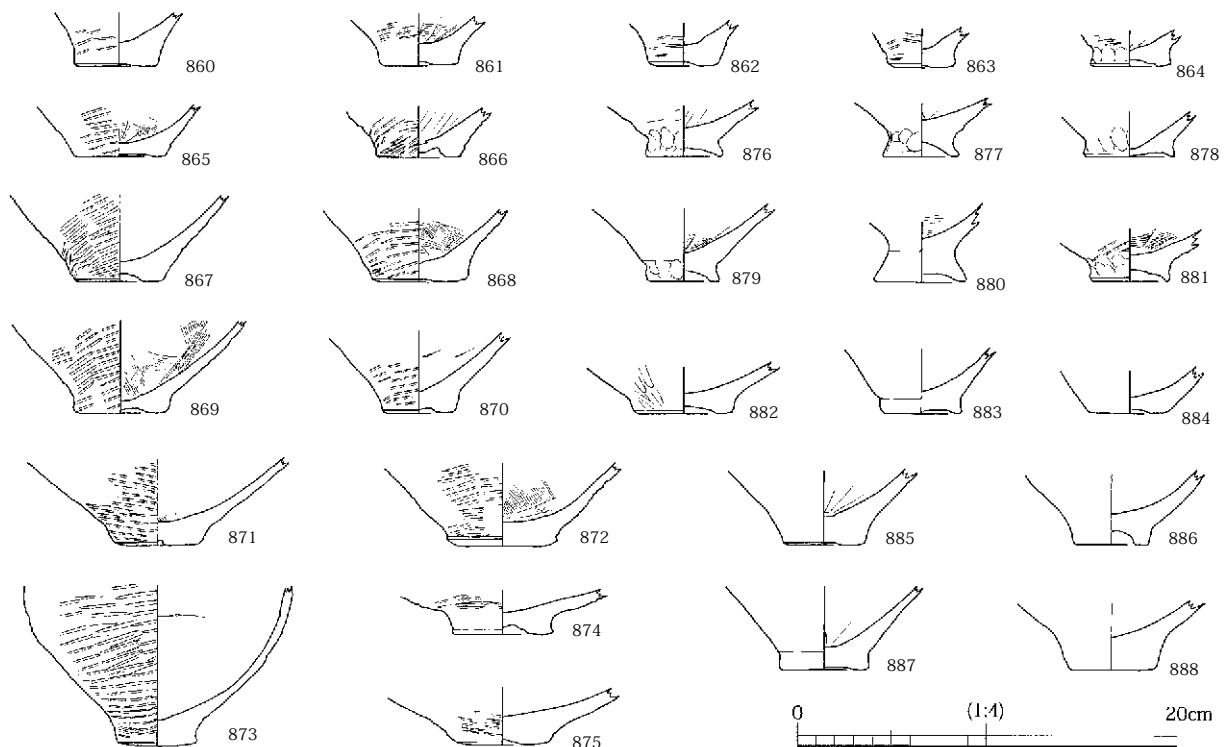


図 122 10001-3 区北側自然流路出土土器 (5)

詳細な時期比定は困難である。

889～903は高杯である。889は椀形高杯である。杯部内外面、脚部外面にミガキを施す。脚柱部中空で、円形透かしを施す。透かしは2箇所残存し、4方向であったと考えられる。890～897は有稜高杯である。890、891は小形である。890は口縁部、体部、脚柱部、裾部がそれぞれ直接接合せず、図上復元である。脚柱部は中空で、円形透かしを2段に施す。上段の透かしは径の大きなもので2方向、下段は径の小さなもので、2箇所残存し、4方向であったと考えられる。891は杯部内面、脚部外面に不明瞭ながらミガキがみとめられる。脚柱部中空で、円形透かしを4方向に施す。892は杯部外面にミガキを施す。893は口縁部の残存度が低く、口径は不確定である。896は脚部外面にミガキがみとめられ、中空である。897は杯部と脚部が直接接合せず、図上復元である。杯部内外面、脚部外面にミガキがみとめられる。口縁部はひずむ。杯部に焼成後のものと思われる1孔があるが、意図的にあけたものかは不明である。脚柱部中空で、円

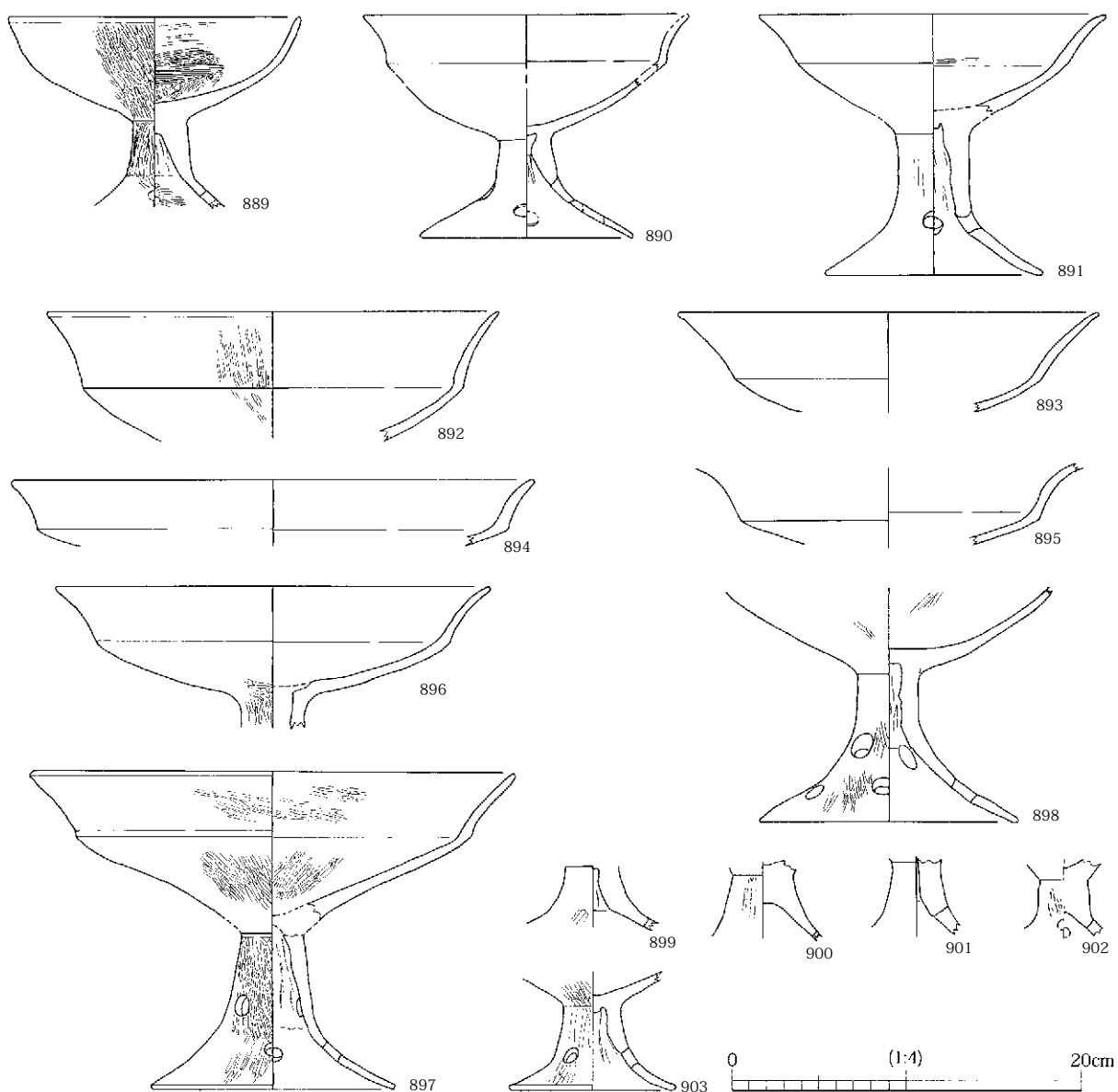


図 123 10001-3 区北側自然流路出土土器 (6)

形透かしを2段に施す。上段の透かしは2方向、下段は2箇所残存し、4方向であったと考えられる。透かしの径は上下段でほぼ同じである。898は口縁部が残存しないが、屈曲部で欠損しているようであり、有稜高杯の可能性ある。杯部内外面、脚部外面にミガキを施す。脚柱部中空で、円形透かしを2段に施す。上段2方向、下段4方向で、透かしの径は上下段でほぼ同じである。899、900は脚柱部中空で、円形透かしが1箇所残存する。本来の透かしの数は不明である。901は脚柱部中空で、円形透かしを2方向に施す。本来は2段に透かしを施しており、上段のみが残存していると推定できる。902は脚柱部中実で、円形透かしを4方向に施す。903は杯部、脚部の外面にミガキを施す。脚柱部中空で、円形透かしを3方向に施す。杯部側から充填した粘土が脚部側へ突出する。杯部または脚部形状より、889～894、896～898、901は後期後葉に、900は後期に、895、899、903は後期後葉～庄内式併行期に、902は庄内式併行期に位置づけられる。904～909は鉢である。904は口縁部を上下に拡張し、体部外面にミガキを施す。体部器厚は約4mmと薄手である。色調は灰白色系で、胎土は密である。類例がみとめられず時期比定が困

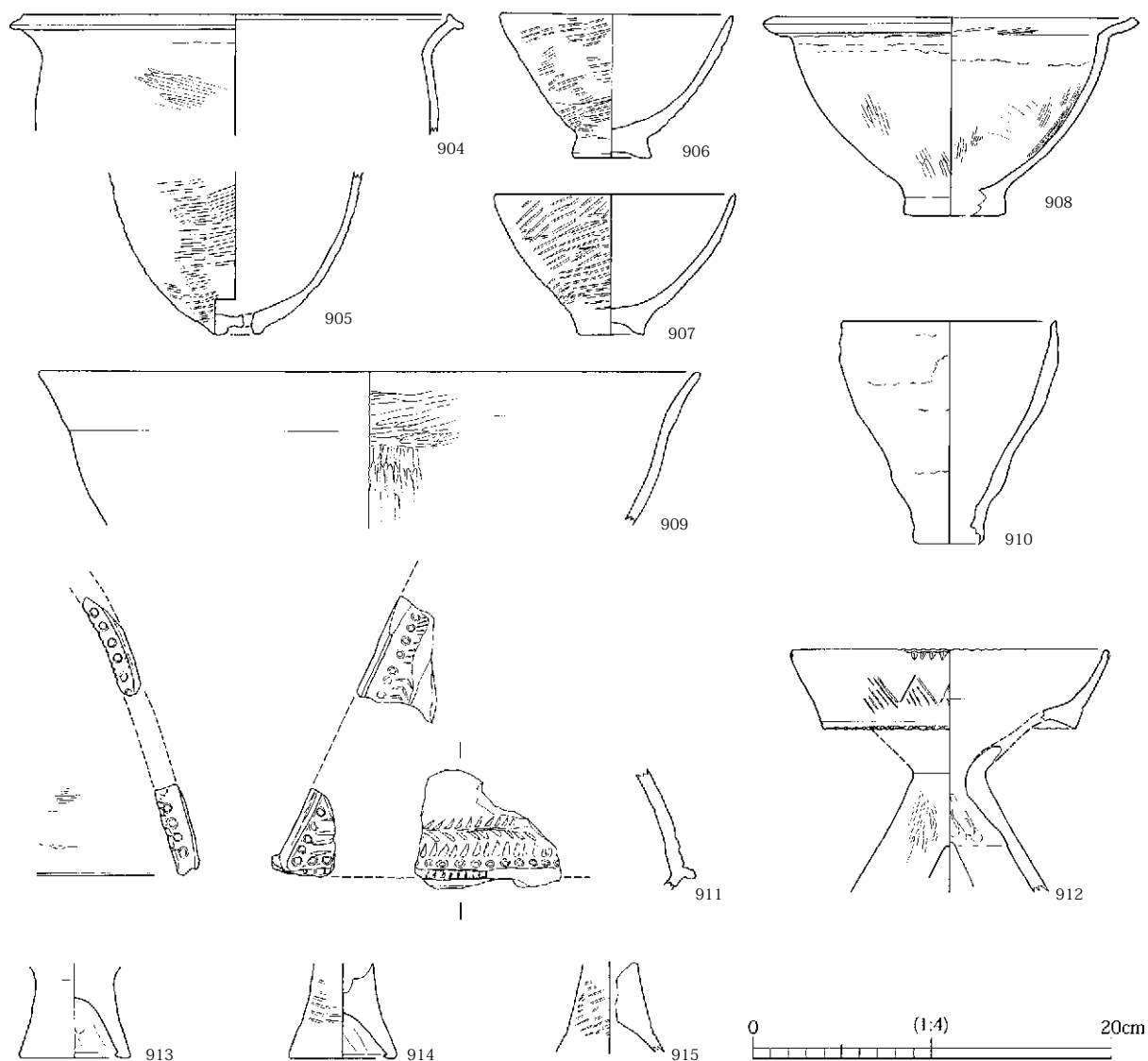


図 124 10001-3 区北側自然流路出土土器 (7)

難であるが、胎土より後期のものと考えられる。905は有孔鉢である。体部形状は丸みをおび、外面に右上がりのタタキを施す。底部孔は内側から穿つ。906～908は小形鉢である。906、907は椀形の体部に上げ底状の底部をもち、体部外面に右上がりのタタキを施す。908は立ち上がりが弱く浅い体部にやや外側に突出する平底をもち、体部外面にハケを施す。口縁部から体部の外面にススが付着する。909は大形鉢である。口縁部の屈曲は弱い。909は後期に、905は庄内式併行期に位置づけられる。906～908は後期～庄内式併行期の所属であるが、詳細な時期比定は困難である。

910は製塩土器の可能性のある鉢である。口縁部と底部が直接接合せず、図上復元である。内面が灰～黒色化していることから、製塩土器の可能性はある。胎土から弥生時代のものと考えられるが、詳細な時期は不明である。

911は手焙である。覆部の破片が3点出土している。いずれも接合しないが、文様から同一固体と考えられる。推定体部最大径は約20cmである。体部最大径部分の突帯に刻目を施し、その上部に刺突文と竹管文がみとめられる。覆部端面にも竹管文と刺突文を施す。覆部隅部の鉢側の破片は橙色を呈し、にぶい橙色の他の2片とは色調が異なっていることから、反対側の隅部である可能性が高い。後期後葉～庄内式併行期に位置づけられる。

912は複合口縁状の精製の淡路型器台である。口縁部と底部が直接接合せず、図上復元である。脚部はスカート状に開き、三角形透かしを4方に施す。口縁端部と受部に刻目が、口縁部に三角形の線刻文がみとめられる。淡路型であることから庄内式併行期に位置づけられる。

913～915は製塩土器脚台である。外面に914は左上がり、915は右上がりのタタキを施す。913、914の裾部には折り返しがみとめられる。913～915とも二次焼成により断面一部が桃色に変色する。913はI b式、914はII a式と考えられることから、後期後葉～庄内式前半に位置づけられる。

以上、北側基本層序第8・9層からは弥生時代中期から古墳時代後期にわたる遺物が出土している。出土層位をみると、須恵器、土師器はいずれも第8層以上を含む層から出土している。一方、第9層に限定できる遺物は弥生土器のみである。また、布留式前半に限定できる土師器がなく、中期以前に限定できる弥生土器はわずかである。したがって、南側出土遺物で推定した第8層は布留式後半～古墳時代後期、第9層は弥生時代後期～庄内式併行期という形成時期を北側でも追認できる。また、第9層出土遺物は後期後葉～庄内式併行期が主体である。

第2項 瓦（図125、図版51）

10001-3区から出土した瓦は、軒丸瓦が3点で計268g、軒平瓦が2点で計837g、道具瓦が1点で151g、丸瓦が41点で計3363g、平瓦が143点で計12999g、計190点で17618gである。小片が多く、弥生時代から近世の遺物を含む包含層から出土しているものが大半であるため、個々についての詳細な時期比定は困難であるが、古代～中世のものが出土している。ここでは、軒瓦、

道具瓦、調整の明瞭に残るものを中心に報告する。

916、917は軒平瓦である。916は基本層序第4層から出土した。瓦当の両側面を欠損する。瓦当文様は四重弧文で、顎凸面にも四重弧文を施す。いずれも型引きである。瓦当幅は2.5cmである。凹面は布目残り、縦糸27本/3cm、横糸32本/3cmである。模骨痕がみとめられることから桶巻き作りである。7世紀後半頃に位置づけられる。917は中世下層遺構検出面の溝399から出土した。瓦当の両側面を欠損する。瓦当文様は均等唐草文で、瓦当幅は推定4.9cmである。奈良時代に位置づけられる。

918は軒丸瓦である。基本層序第4層から出土した。瓦当部の破片である。瓦当文様は巴文で、珠文帯内外の圏線は省略される。瓦当径は推定14.0cmである。瓦当裏面にナデを施す。16世紀頃に位置づけられる。

919は道具瓦である。攪乱から出土した。全周縁を欠損する。長軸方向の一方が厚くなっており、雁振瓦の可能性はある。凹面に布目残り、縦糸30本/3cm、横糸30本/3cmである。凸面にナデを施す。中世に位置づけられる。

920は丸瓦である。中世下層遺構検出面の落ち込み408Bから出土した。狭端面と側面一部の破片である。凹面はケズリを施す。凸面は縄叩きを施し、縄目粒数は6粒/3cm、縄本数は12本/3cmである。狭端面と側面にケズリを施し、側面は凸面側に面取りを施す。須恵質で焼成良好であること、調整から、奈良時代頃に位置づけられる。

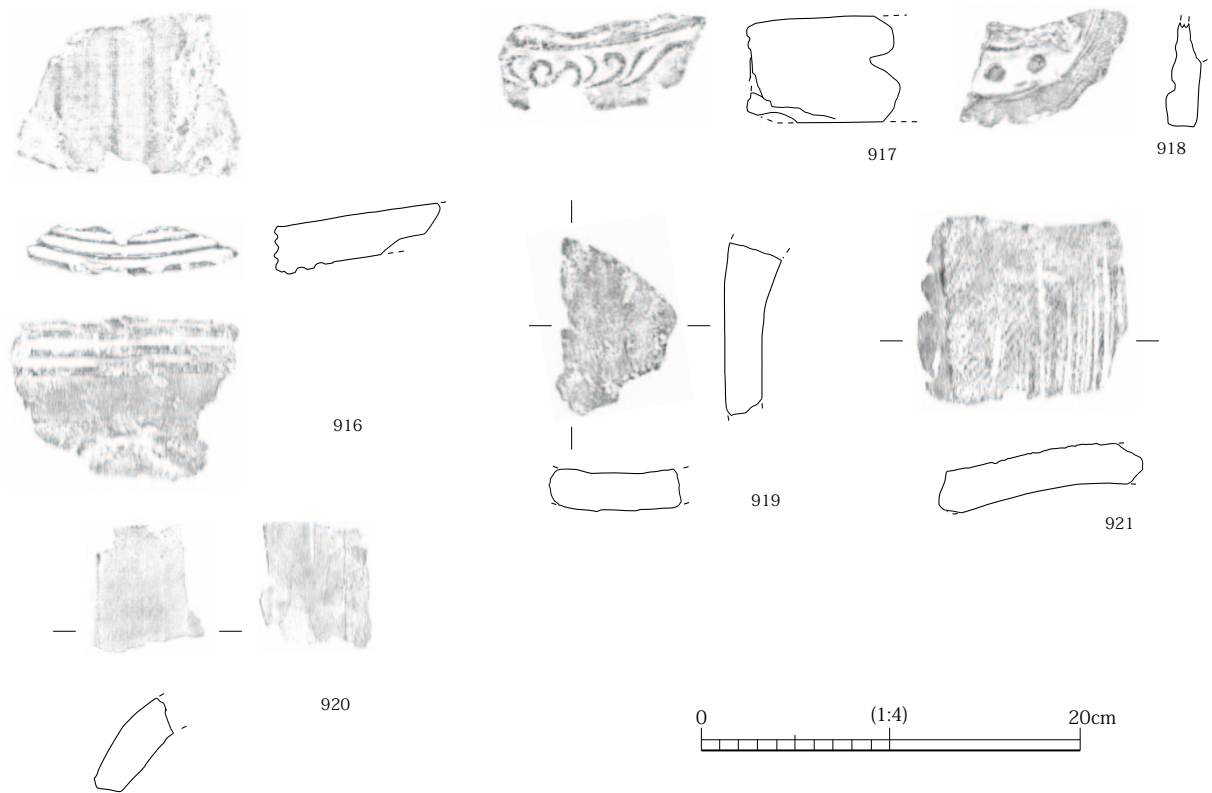


図 125 10001-3 区出土瓦

921は平瓦である。中世下層遺構検出面の落ち込み408Bから出土した。1側面が残存する。凹面は布目が残る。凸面は糸切り痕が残る、縄叩きを施す。摩滅により縄目、布目とも不明瞭である。側面にケズリを施し、面取りはない。平安時代末頃に位置づけられる。

第3項 石器・石製品（図126、図版52—1）

石器は3点が出土した。また、使用、加工の痕跡のみとめられない片岩の剥片2点が出土している。

922は、二側縁加工のナイフ形石器である。基本層序第6層から出土した。両端を欠損する。横長剥片を素材とする。石材は頁岩の可能性はあるが、風化が激しく断定できない。923は完形の叩石である。基本層序第8層から出土した。敲打痕が1箇所のみとめられる。擦痕は確認できないが、全体に滑らかになっており、磨石としても用いた可能性がある。石材は砂岩である。

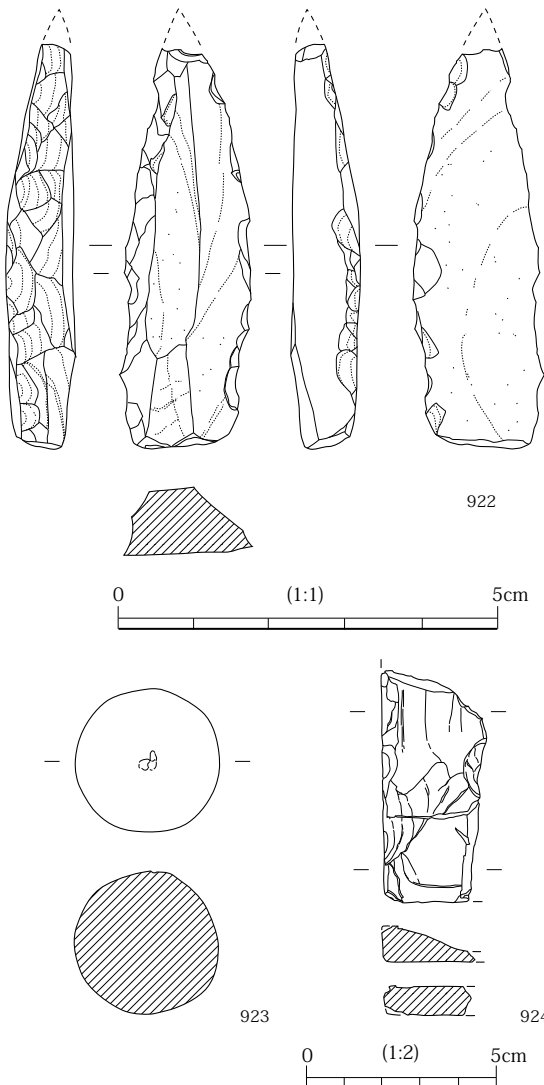


図126 10001-3区出土石器・石製品

924は硯である。基本層序第6層から出土した。折損するが、方形を呈していたものと推定できる。全体を研磨するが、下面の研磨は粗い。上面は使用により中央部にむかって凹み、擦痕がみとめられる。形態より中世以降のものである。

第4項 金属製品（図127）

925、926は釘である。925は耕作溝検出面の溝031から出土した。一端を欠損する。横断面形は台形である。926は基本層序第6層から出土した。両端を欠損する。横断面形は隅丸方形である。

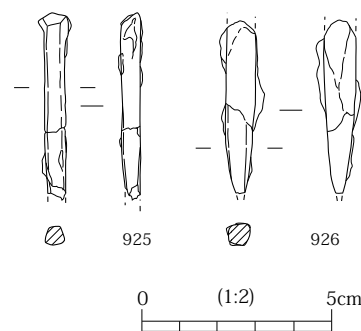


図127 10001-3区出土金属製品

第8章 自然科学分析の成果

第1節 分析の目的

本書で報告する調査区に関わる自然化学分析は、08019-1区、08019-4区の花粉・植物珪酸体分析および堆積物微細堆積相分析、および08019-4区、10001-3区出土土器の胎土分析である。分析の詳細な方法や結果については次節以降の報告文に委ね、また、分析結果は前章までに反映させている。ここでは分析の目的と、前章までの記載との対応を示す。

(1) 花粉・植物珪酸体分析および堆積物微細堆積相分析

08019-1区、08019-4区では、自然流路内堆積物の形成過程と土地利用状況を明らかにするために、花粉・植物珪酸体分析および堆積物微細堆積相分析を行った。両分析は同位置の層位から採取した試料を用いた。試料採取は調査担当者が行った。採取地点は、08019-1区をNo. 1地点、08019-4区をNo. 2地点と呼称し、各地区の土層図に示した(図6・29)。なお、08019-4区No. 2地点については土層観察により花粉の残存度が低いことが予測されたため、花粉分析は08019-1区No. 1地点のみを対象とした。

花粉・植物珪酸体分析は、周囲の植生、環境と土地利用状況を明らかにすること、特に、耕作の有無の検討を主目的とした。具体的には、08019-1区では、耕作溝検出面の溝群が耕作に関わるものであることの検証、中世遺構検出面の遺構空白域が生産域であった可能性の検討、古代遺構検出面の性格不明遺構が耕作に関わるものである可能性の検討である。また、08019-4区では、耕作溝検出面の溝群が耕作に関わるものであることの検証、中世遺構検出面の遺構が疎らな箇所が生産域であった可能性の検討、中世以前における耕作の有無の検討である。

堆積物微細堆積相分析は、自然流路内堆積物の形成過程および堆積後の土地利用状況を明らかにすることを目的とした。特に花粉・植物珪酸体分析と同様、耕作の有無に関する情報を得ることを目的としている。

層名は、調査後の検討により、分析委託時と本書作成時で変更を加えた点がある。第2・3節では現地調査時の層名を基にした分析委託時の番号を用いることとし、前章までの土層図との対応は表で示す(表2)。

表2 土層名対応表

| 08019-1区 | | 08019-4区 | | |
|----------|---------|----------|------------------|----------|
| 調査時 | 土層図(図6) | 調査時 | 自然流路031土層図(図42上) | 土層図(図29) |
| 1 | 1 | 1 | | 1 |
| 2 | 2 | 2 | | 2 |
| 3 | 3A | 3 | | 3B |
| 4 | 3B | 4 | | 3C |
| 5 | 3C | 5 | | 4 |
| 6 | | 6 | | 5 |
| 7 | 3D | 7 | 1 | 7B |
| 8 | | 8 | 3 | 7D |
| 9 | 耕作溝埋土 | 9 | 9 | 10 |
| 10 | 4 | 10 | 10 | |
| 11 | | 11 | 11 | 13 |
| 12 | 6A | 12 | 18 | |
| 13 | | | | |
| 14 | 6B | | | |
| 15 | | | | |
| 16 | 7 | | | |
| 17 | 9 | | | |

(2) 土器胎土分析

08019-4区および10001-3区の自然流路からは、土器が多く出土し、弥生時代後期から庄内式併行期の土器が多く出土した。その中に、口縁部にタタキによる刻目状痕跡をもつ甕7点(453・561・563・572・599・848・855)、口縁部にタタキによる刻目状痕跡をもつ鉢1点(655)、複合口縁状の器台5点(496・661・662・723・912)と、淡路島周辺に特有とされる特徴をもつものがみとめられたことから、その産地を明らかにするために、土器胎土分析を行うこととした。淡路島の当該期土器には北部・中部・南部で地域性がみとめられるが、土器の諸特徴および胎土の肉眼観察から、淡路島北部および中部のものとの類似性があると判断した。そこで、北部に位置する淡路市教育委員会、中部に位置する洲本市教育委員会に依頼し、同時期あるいは同時期に近い土器片を比較試料として提供いただき、胎土分析を行った。また、岸和田市大町遺跡においても大阪府教育委員会の発掘調査により口縁部に刻み状痕跡をもつ甕1点が出土していることから、この土器も比較対象とした。

分析試料は、和泉寺跡・府中遺跡出土土器7点と、淡路市五斗長垣内遺跡出土土器3点、洲本市下内膳遺跡出土土器3点、岸和田市大町遺跡出土土器1点である。和泉寺跡・府中遺跡出土土器は、口縁部に刻み状痕跡をもつ淡路型甕のうち胎土が在地産とは異なると考えられたもの3点(561・563・848)と、複合口縁状の精製の淡路型器台2点(912・図128-1)、胎土や製作技法より在地産と考えられる甕1点(558)、鉢1点(653)である。なお、分析対象とした淡路型器台のうち1点(図128-1)は、平成24年度報告予定の09017-2区出土のものであるが、本書で報告する淡路型器台4点(496・661・662・723)と形態の特徴、肉眼観察での胎土の特徴が類似し、また、これら4点には分析試料に適した破片がなかったため、分析対象に加えた。平成24年度に正式に報告するが、古代以前の遺物を含む自然流路内から出土したものである。複合口縁状の精製の淡路型器台で、口縁部径は15.0cm、口縁部内面に波状文、外面に沈線と波状文、口縁端部と受部に刻目を施す。淡路型であることから庄内式併行期に位置づけられる。

五斗長垣内遺跡出土土器は、弥生時代後期後半に所属するものであるが、この地域において後期後半と庄内式併行期とで胎土に差はみられないため試料として適切と考えられる。

下内膳遺跡出土土器は、1978年の発掘調査により出土したもので、庄内式併行期の土器溜まり下層から出土した。土器溜まり上層から出土した遺物との比較から、上層が庄内式併行期の中でも新しい段階、分析対象とした下層出土遺物が古い段階に位置づけられる可能性がある。

大町遺跡出土土器は、平成21年度調査で出土したもので、庄内式併行期に位置づけられる(図128-2、大阪府教育委員会2012図14-28)。

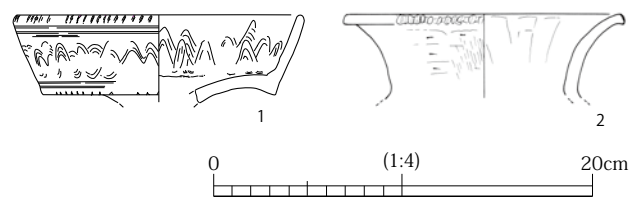


図128 胎土分析試料土器

第2節 花粉・植物珪酸体分析（株式会社古環境研究所）

第1項 分析の概要

和泉寺跡、府中遺跡の発掘調査では、複数層準の中世包含層、古代～中世包含層、弥生～古墳包含層が認められた。そこで、これらの層における土地利用（耕作の有無など）および周囲の植生や環境を把握する目的で、植物珪酸体分析と花粉分析を行った。植物珪酸体分析の試料は、08019-1区No.1地点の9層、11層、12層、13層、15層から採取された5点、および08019-4区No.2地点の4層、6層、7層、8層、9層から採取された5点の計10点であり、花粉分析の試料は08019-1区No.1地点の9層、11層、13層、15層から採取された4点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

第2項 植物珪酸体分析

(1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

(2) 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5}g ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にと

らえることができる(杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率およびメダケ率(メダケ属とササ属の比率)を求めた。

(3) 分析結果

1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表3および図129、図130に示した。主要な分類群について顕微鏡写真(図131)を示す。

[イネ科]

イネ、ヨシ属、シバ属、キビ族型、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

ブナ科(シイ属)、クスノキ科、その他

2) 植物珪酸体の検出状況

08019-1 区No.1 地点(図129) 下位の15層(弥生~古墳包含層)では、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木(その他)などが検出されたが、いずれも少量である。13層(古代~中世包含層)より上位ではイネが検出され、ネザサ節型が増加している。また、部分的に樹木(照葉樹)のブナ科(シイ属)、クスノキ科が認められた。イネの密度は9層(中世包含層)では7,000個/g、12層(古代~中世包含層)では7,500個/gと高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを上回っている。また、11層(古代~中世包含層)と13層(古代~中世包含層)でも4,300個/gおよび3,300個/gと比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、13層(古代~中世包含層)より上位ではおおむねイネが優勢であり、部分的にネザサ節型も多くなっている。

08019-4 区No.2 地点(図130) 下位の9層(弥生~古墳包含層)では、ネザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、メダケ節型、および樹木(照葉樹)のブナ科(シイ属)、クスノキ科なども認められた。8層(中世包含層)より上位では、イネが検出された。イネの密度は4層(中世包含層)では14,400個/gとかなり高い値であり、6層(中世包含層)でも8,400個/gと高い値である。また、7層(中世包含層)と8層(中世包含層)では1,900個/gおよび600個/gと比較的低い値である。おもな分類群の推定生産量によると、6層(中世包含層)より上位ではイネが優勢となっている。

表3 植物珪酸体分析結果

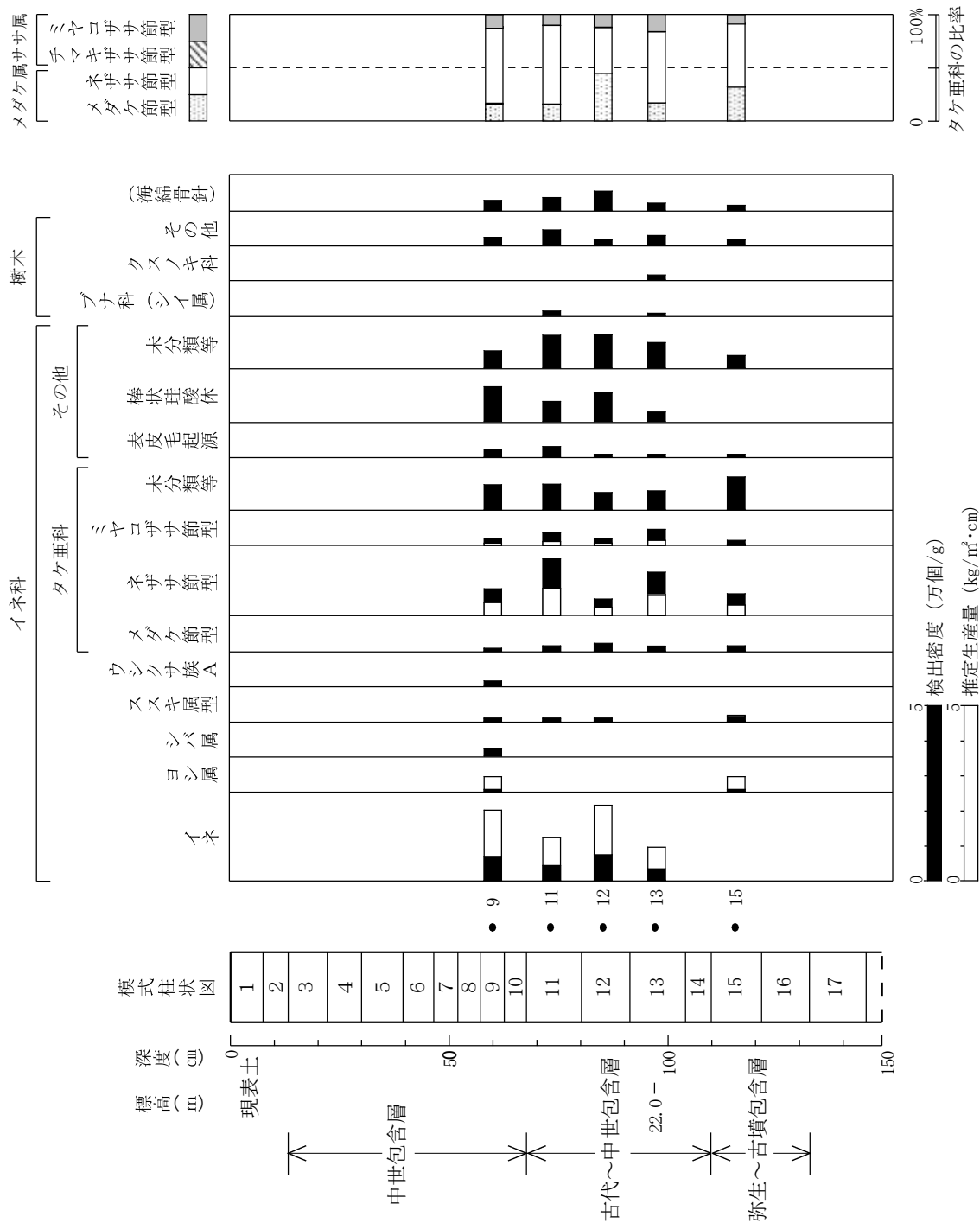
| 検出密度 (単位: × 100 個 / g) | | 地点・試料 | | 08019-1 区No.1 地点 | | | | | 08019-4 区No.2 地点 | | | | |
|---|-----------------------------------|-------|------|------------------|------|------|------|------|------------------|------|------|--|--|
| 分類群 | 学名 | 9 | 11 | 12 | 13 | 15 | 4 | 6 | 7 | 8 | 9 | | |
| イネ科 | Gramineae | | | | | | | | | | | | |
| イネ | Oryza sativa | 70 | 43 | 75 | 33 | | 144 | 84 | 19 | 6 | | | |
| ヨシ属 | Phragmites | 7 | | | | 7 | 14 | 7 | 6 | 6 | 14 | | |
| シバ属 | Zoysia | 21 | | | | | 7 | | | | | | |
| キビ族型 | Panicaceae type | | | | | | | 14 | | | | | |
| ススキ属型 | Miscanthus type | 7 | 7 | 7 | | 14 | 7 | 14 | | | | | |
| ウシクサ族A | Andropogoneae A type | 14 | | | | | 14 | | | 6 | 7 | | |
| タケ亜科 | Bambusoideae | | | | | | | | | | | | |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | 7 | 14 | 20 | 13 | 14 | 14 | 14 | 13 | 13 | 7 | | |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | 78 | 165 | 48 | 126 | 64 | 108 | 98 | 58 | 71 | 152 | | |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | 21 | 36 | 20 | 47 | 14 | 14 | 7 | 19 | 6 | 14 | | |
| 未分類等 | Others | 70 | 72 | 48 | 53 | 92 | 79 | 42 | 32 | 32 | 43 | | |
| その他のイネ科 | Others | | | | | | | | | | | | |
| 表皮毛起源 | Husk hair origin | 21 | 29 | 7 | 7 | 7 | 14 | 42 | 19 | 13 | 22 | | |
| 棒状珪酸体 | Rodshaped | 99 | 57 | 82 | 27 | | 159 | 112 | 19 | 26 | 51 | | |
| 未分類等 | Others | 49 | 93 | 95 | 73 | 35 | 137 | 70 | 58 | 71 | 29 | | |
| 樹木起源 | Arboreal | | | | | | | | | | | | |
| ブナ科 (シイ属) | Castanopsis | | 14 | | 7 | | 7 | 7 | | 13 | 7 | | |
| クスノキ科 | Lauraceae | | | | 13 | | | | | | 7 | | |
| その他 | Others | 21 | 43 | 14 | 27 | 14 | 14 | 21 | 6 | 6 | 14 | | |
| (海綿骨針) | Sponge spicules | 28 | 36 | 54 | 20 | 14 | 51 | 7 | 32 | 19 | 14 | | |
| 植物珪酸体総数 | Total | 486 | 575 | 415 | 425 | 261 | 736 | 532 | 253 | 273 | 369 | | |
| おもな分類群の推定生産量 (単位: kg / m ² · cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出 | | | | | | | | | | | | | |
| イネ | Oryza sativa | 2.07 | 1.27 | 2.20 | 0.98 | | 4.24 | 2.47 | 0.57 | 0.19 | | | |
| ヨシ属 | Phragmites | 0.44 | | | | 0.45 | 0.91 | 0.44 | 0.41 | 0.41 | 0.91 | | |
| ススキ属型 | Miscanthus type | 0.09 | 0.09 | 0.08 | | 0.18 | 0.09 | 0.17 | | | | | |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | 0.08 | 0.17 | 0.24 | 0.15 | 0.16 | 0.17 | 0.16 | 0.15 | 0.15 | 0.08 | | |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | 0.37 | 0.79 | 0.23 | 0.61 | 0.31 | 0.52 | 0.47 | 0.28 | 0.34 | 0.73 | | |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | 0.06 | 0.11 | 0.06 | 0.14 | 0.04 | 0.04 | 0.02 | 0.06 | 0.02 | 0.04 | | |
| タケ亜科の比率 (%) | | | | | | | | | | | | | |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | 16 | 16 | 45 | 17 | 32 | 23 | 25 | 31 | 29 | 10 | | |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | 72 | 74 | 43 | 67 | 60 | 71 | 72 | 57 | 67 | 85 | | |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | 12 | 10 | 12 | 16 | 8 | 6 | 3 | 12 | 4 | 5 | | |
| メダケ率 | Medake ratio | 88 | 90 | 88 | 84 | 92 | 94 | 97 | 88 | 96 | 95 | | |

(4) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

中世包含層のうち、08019-1 区No.1 地点の9層と12層および08019-4 区No.2 地点の4層と6層ではイネが多量に検出され、08019-1 区No.1 地点の11層と13層でもイネが比較的多く検出された。したがって、これらの層準ではおおむね継続して稲作が行われていたと考えられる。なお、調査区周辺は寺跡とされていることから、稲藁が何らかの形で利用されていた可能性も考えられる。稲藁の利用としては、屋根材や壁材、敷物、履物、俵、縄など多様な用途が想定される。

当時の調査区周辺はメダケ属（おもにネザサ節）を主体として、ススキ属やチガヤ属なども見られるイネ科植生であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたと推定される。また、遺跡周辺にはシイ属、クスノキ科などの樹木が分布していたと考えられる。

弥生～古墳包含層でも、中世包含層とおおむね同様の植生や環境であったと考えられるが、稲作の可能性は認められなかった。



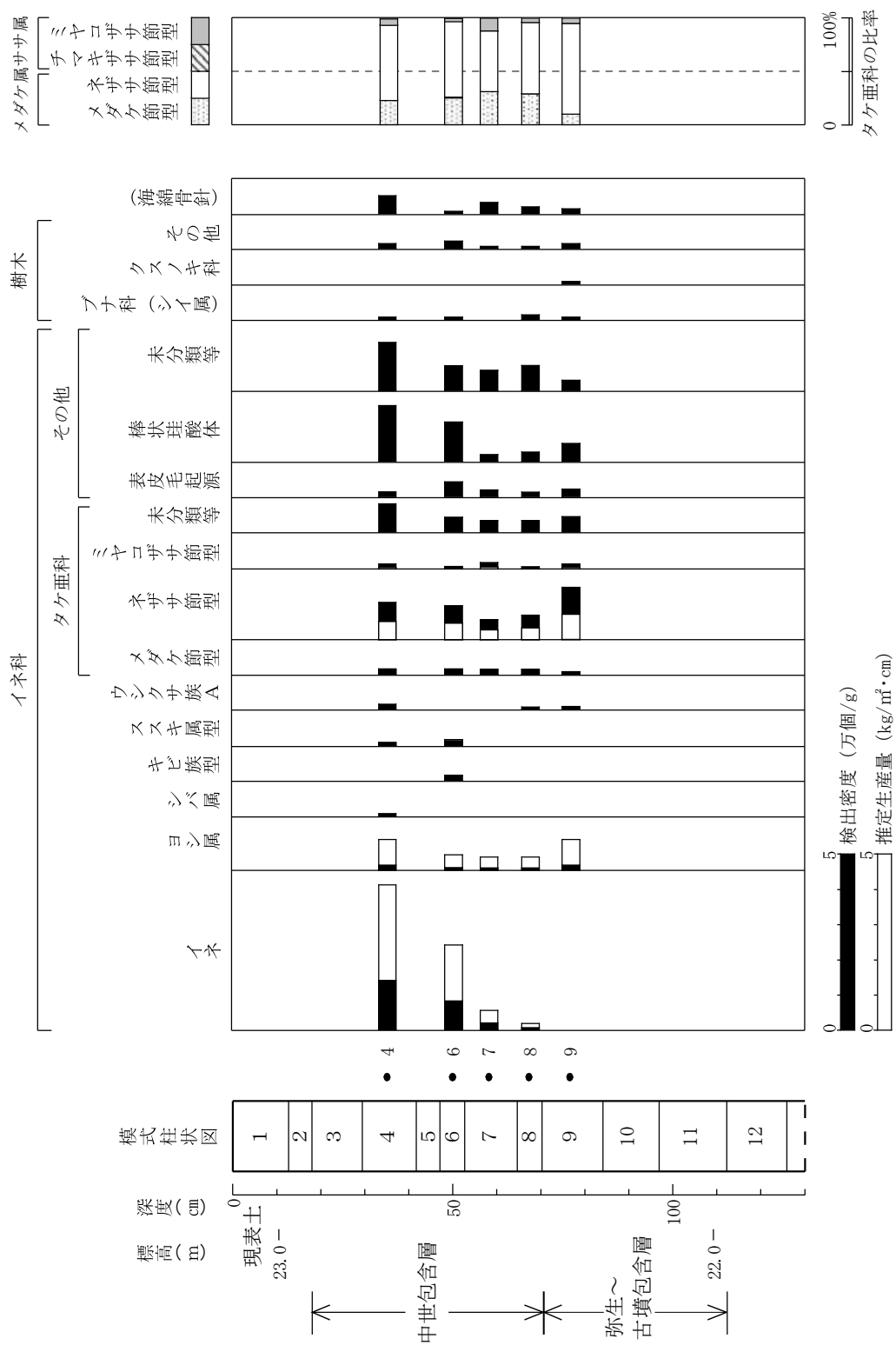
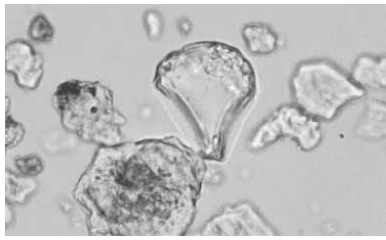


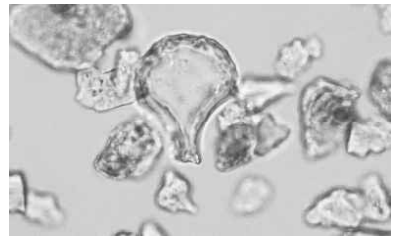
図 130 08019-4 区 No.2 地点における植物珪酸体分析結果



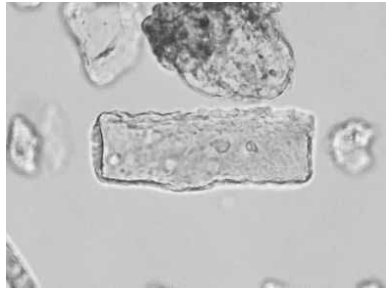
イネ



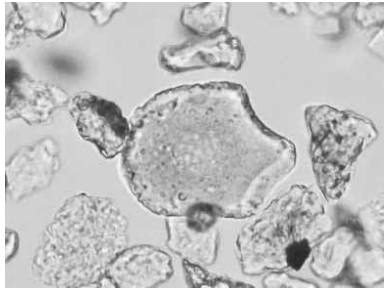
イネ



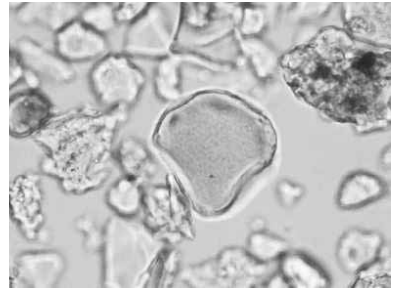
イネ



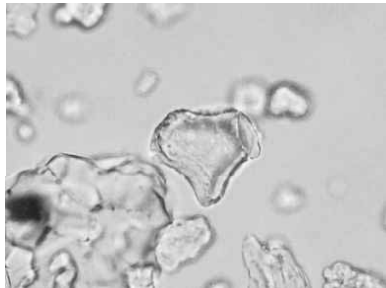
キビ族型



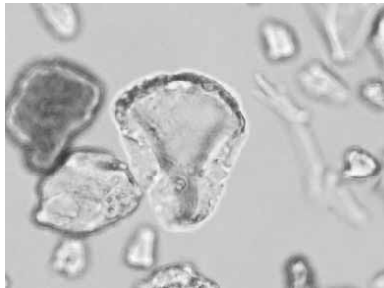
ヨシ属



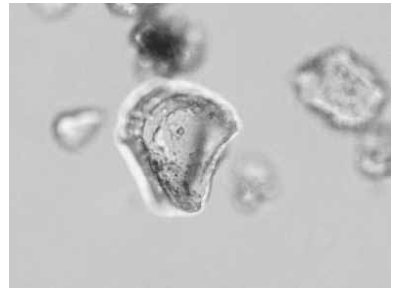
ススキ属型



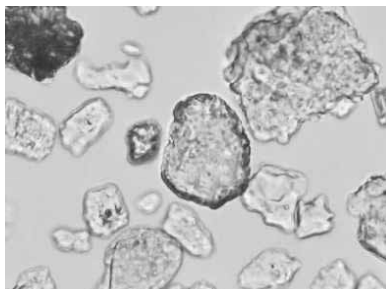
シバ属型



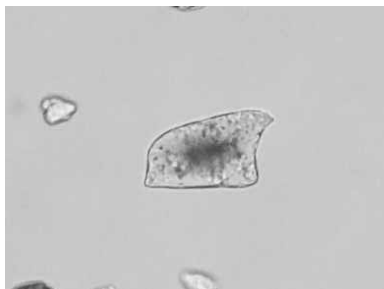
メダケ節型



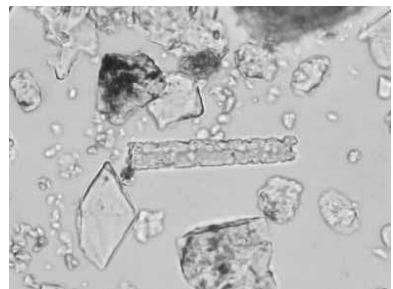
ネザサ節型



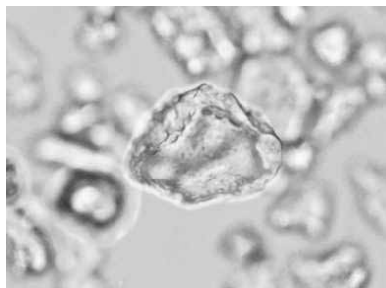
ミヤコザサ節型



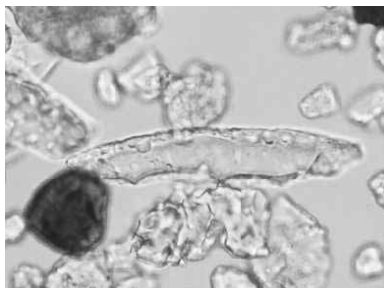
表皮毛起源



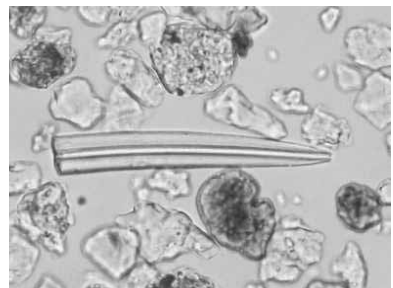
棒状珪酸体



ブナ科 (シイ属)



クスノキ科



海綿骨針

50 μ m

図 131 植物珪酸体顕微鏡写真

第3項 花粉分析

(1) はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

(2) 方法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1 cm³を秤量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。

(3) 結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉11、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉10、シダ植物孢子2形態の計24である。分析結果を表4に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した(図132)。主要な分類群について顕微鏡写真を示す(図133)。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

ツガ属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ハンノキ属、シイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、センダン属、トチノキ

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科

[草本花粉]

イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ

表4 花粉分析結果

| 学名 | 分類群 | 和名 | 08019-1 区No.1 地点 | | | |
|--|-----|----------------------------|------------------|------|------|------|
| | | | 9 層 | 11 層 | 13 層 | 15 層 |
| Arboreal pollen | | 樹木花粉 | | | | |
| Tsuga | | ツガ属 | | | 1 | |
| Cryptomeria japonica | | スギ | | | 2 | |
| Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae | | イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 | | 1 | 1 | |
| Alnus | | ハンノキ属 | | 2 | | 1 |
| Castanopsis | | シイ属 | 1 | 1 | | |
| Quercus subgen. Lepidobalanus | | コナラ属コナラ亜属 | | 4 | 11 | |
| Quercus subgen. Cyclobalanopsis | | コナラ属アカガシ亜属 | | | 1 | |
| Ulmus-Zelkova serrata | | ニレ属-ケヤキ | | | 1 | |
| Celtis-Aphananthe aspera | | エノキ属-ムクノキ | | 1 | 3 | |
| Melia | | センダン属 | | 1 | | |
| Aesculus turbinata | | トチノキ | | | 1 | |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | | 樹木・草本花粉 | | | | |
| Moraceae-Urticaceae | | クワ科-イラクサ科 | | | 1 | |
| Nonarboreal pollen | | 草本花粉 | | | | |
| Gramineae | | イネ科 | 3 | 14 | 43 | 5 |
| Cyperaceae | | カヤツリグサ科 | | 3 | 1 | |
| Chenopodiaceae-Amaranthaceae | | アカザ科-ヒユ科 | | 2 | | |
| Cruciferae | | アブラナ科 | | 1 | | |
| Hydrocotyloideae | | チドメグサ亜科 | | 1 | 3 | |
| Apiioideae | | セリ亜科 | | 1 | 1 | |
| Labiatae | | シソ科 | | | 2 | |
| Lactuoidae | | タンポポ亜科 | | | 2 | |
| Asteroidae | | キク亜科 | | 1 | 6 | |
| Artemisia | | ヨモギ属 | | 6 | 22 | 2 |
| Fern spore | | シダ植物胞子 | | | | |
| Monolate type spore | | 単条溝胞子 | | 6 | 2 | 2 |
| Trilate type spore | | 三条溝胞子 | | 10 | 2 | 1 |
| Arboreal pollen | | 樹木花粉 | 1 | 10 | 21 | 1 |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | | 樹木・草本花粉 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| Nonarboreal pollen | | 草本花粉 | 3 | 29 | 80 | 7 |
| Total pollen | | 花粉総数 | 4 | 39 | 102 | 8 |
| Pollen frequencies of 1cm ³ | | 試料 1cm ³ 中の花粉密度 | 2.8 | 2.8 | 7.8 | 5.4 |
| | | | 10 | 10.2 | 10.2 | 10 |
| Unknown pollen | | 未同定花粉 | 0 | 7 | 9 | 1 |
| Fern spore | | シダ植物胞子 | 0 | 16 | 4 | 3 |
| Helminth eggs | | 寄生虫卵 | (-) | (-) | (-) | (-) |
| Digestion rimeins | | 明らかな消化残渣 | (-) | (-) | (-) | (-) |
| Charcoal fragments | | 微細炭化物 | (+) | (+) | (+) | (+) |

科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

下位の15層(弥生～古墳包含層)では、樹木花粉のハンノキ属、草本花粉のイネ科、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。13層(古代～中世包含層)では、花粉密度は低いものの、草本花粉が約75%を占める。草本花粉ではイネ科、ヨモギ属が優勢で、キク亜科、チドメグサ亜科、タンポポ亜科などが伴われる。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が優勢で、エノキ属-ムクノキ、スギなどが伴われる。11層(古代～中世包含層)でもおおむね同様の分類群が検出されたが、いずれも少量である。9層(中世包含層)では、樹木花粉のシイ属、草本花粉のイネ科が検出されたが、いずれも少量である。

(4) 花粉分析から推定される植生と環境

古代～中世包含層の13層の堆積当時は、イネ科やヨモギ属を主として、キク亜科、チドメグ

サ亜科、タンポポ亜科なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと考えられ、周辺にはコナラ属コナラ亜属、エノキ属ムクノキなどの落葉広葉樹を主として、スギなどの針葉樹も生育していたと推定される。古代～中世包含層の11層でも、13層とおおむね同様の状況であったと考えられる。

弥生～古墳包含層の15層や中世包含層の9層では、花粉がほとんど検出されないことから、植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

文献

- 金原 正明(1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
- 島倉 巳三郎(1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 杉山 真二(1999) 植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史. 第四紀研究. 38(2), p.109-123.
- 杉山 真二・藤原 宏志(1986) 機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—. 考古学と自然科学, 19, p.69-84.
- 杉山 真二(2000) 植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
- 中村 純(1967) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.
- 中村 純(1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 藤原 宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) —数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原 宏志・杉山 真二(1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) —プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

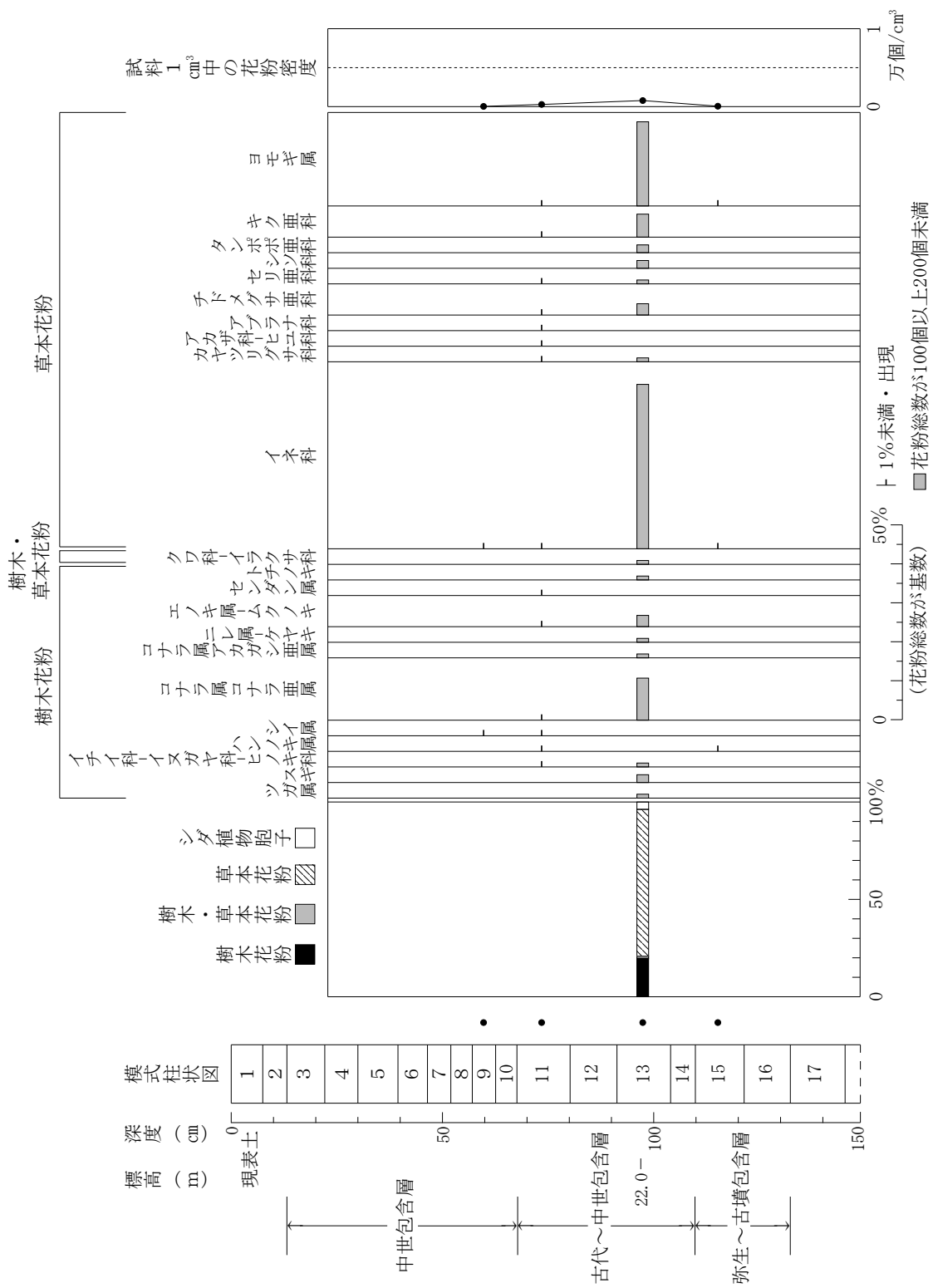


図 132 08019-1 区 No. 1 地点における花粉ダイアグラム

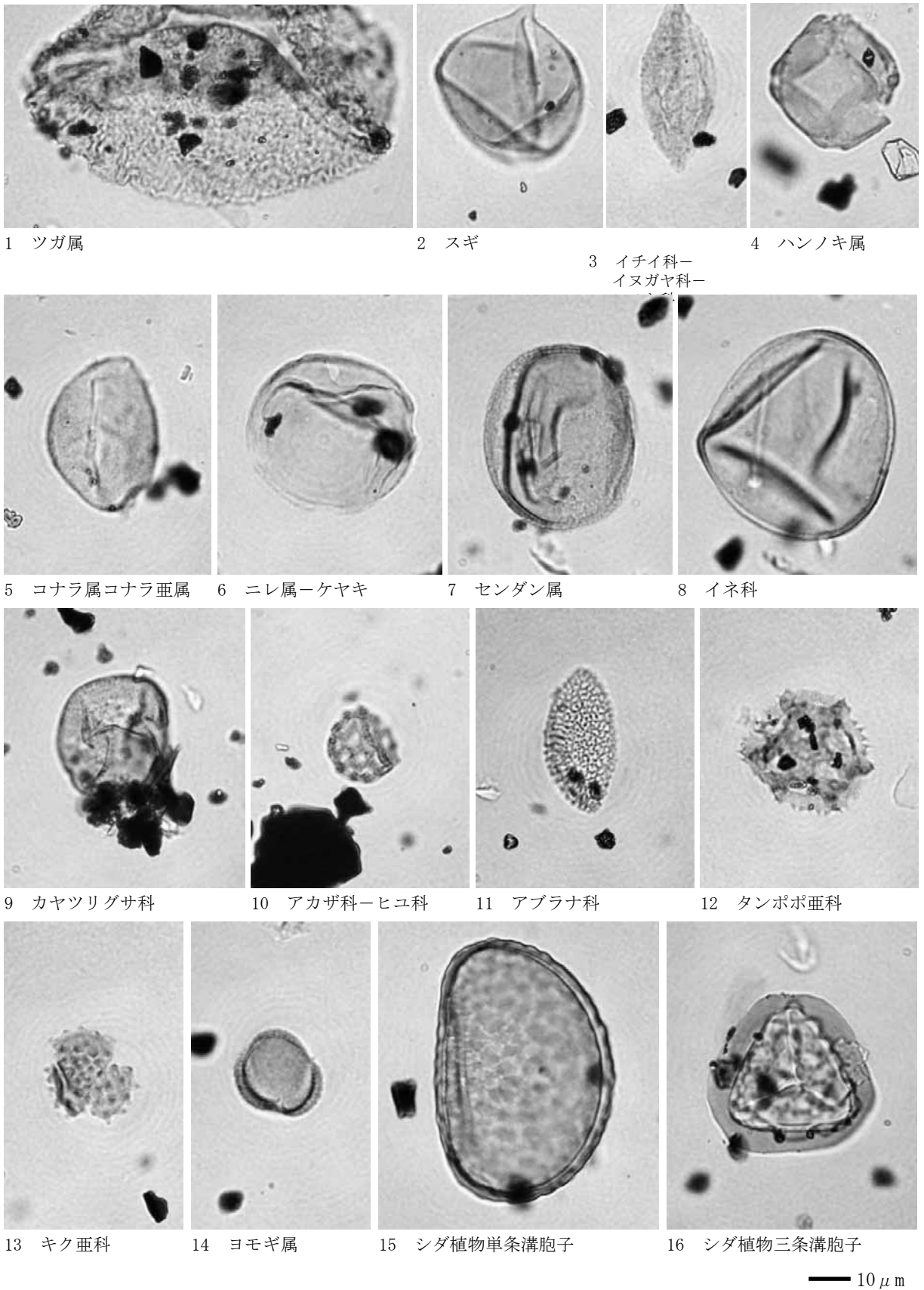


図 133 花粉・孢子顕微鏡写真

第3節 堆積物微細堆積相分析(パリオ・サーヴェイ株式会社)

はじめに

今回の分析調査では、和泉寺跡、府中遺跡調査区における堆積層の形成過程および土地利用状況に関する情報を得ることを目的として、調査区の堆積物を対象として、堆積物微細堆積相分析を実施する。

(1) 試料

調査地点の層序を模式柱状図として図134に示す。分析試料は、調査担当者により不攪乱柱状試料として採取された。採取試料全点について軟X線写真撮影観察、その中から8層準について薄片作製鑑定を実施する。堆積層の層相については、結果と合わせて軟X線写真の稿で述べる。

(2) 方法

1) 軟X線写真撮影観察

不攪乱柱状試料を厚さ1 cmまで板状に成形した試料について、湿潤状態のまま、管電圧50kvp、電流3 mA、照射時間270秒の条件において軟X線写真撮影を実施した。なお、撮影は元興寺文化財研究所の協力を得た。X線写真の記載は、堆積物について宮田ほか(1990)、土壌について佐藤(1990a・b)、森ほか(1992)、成岡(1993)などを参考とした。

2) 土壌薄片作製鑑定

土壌薄片作成試料は、80℃で1日間乾燥した後、樹脂(ペトロポキシおよびシアノボンド)で固化を行い、片面の研磨を実施した。固化および研磨済み試料は、スーパーセメダインにより研磨面をスライドガラスに接着する。その後、反対側の面について厚さ70 μm程度まで研磨を行い、カナダバルサムによりカバーガラスを接着した。なお、土壌薄片による層相や構造記載は、久馬・八木久訳監修(1998)の「土壌薄片記載ハンドブック」を参照した。

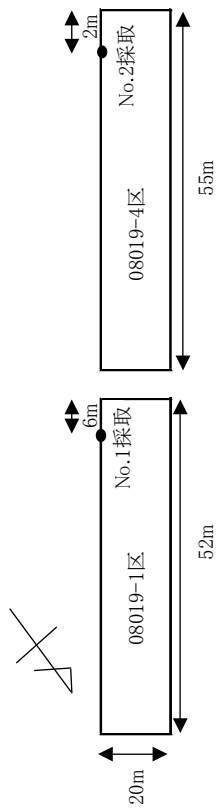
(3) 結果

1) 軟X線写真撮影観察

各地点の試料および軟X線写真を図135・136に示す。X線写真は、明るい部分がより高密度の物質(ここではおもにシルトと砂・礫、酸化鉄や酸化鉄)からなり、暗い部分が低密度の物質(水分の多い粘土、細粒のシルト、植物性の炭片、植物遺体、間隙・孔隙など)からなる。以下に調査地点の主な構造等について記載する。

No.1地点の堆積物は、最下位の16層は砂礫からなるが、その上位の堆積物は全体的に泥質堆積物からなる。層相が急激に変化するの10層より上位層準である。10層・9層は明暗があり、不均質であり、大礫も混じる。人為的に攪拌された堆積物と判断される。

11層～16層は砂質泥ないし泥層からなる。いずれの層準も擾乱されているが、軟X線写真を見ると、層準によって不明瞭ながらも断続的な水平方向の葉理状の構造が確認される。これらの



08019-4区採取試料
No.2 地点

T.P.
23.0m
08019-1区採取試料
No.1 地点
発掘調査時所見

発掘調査時所見

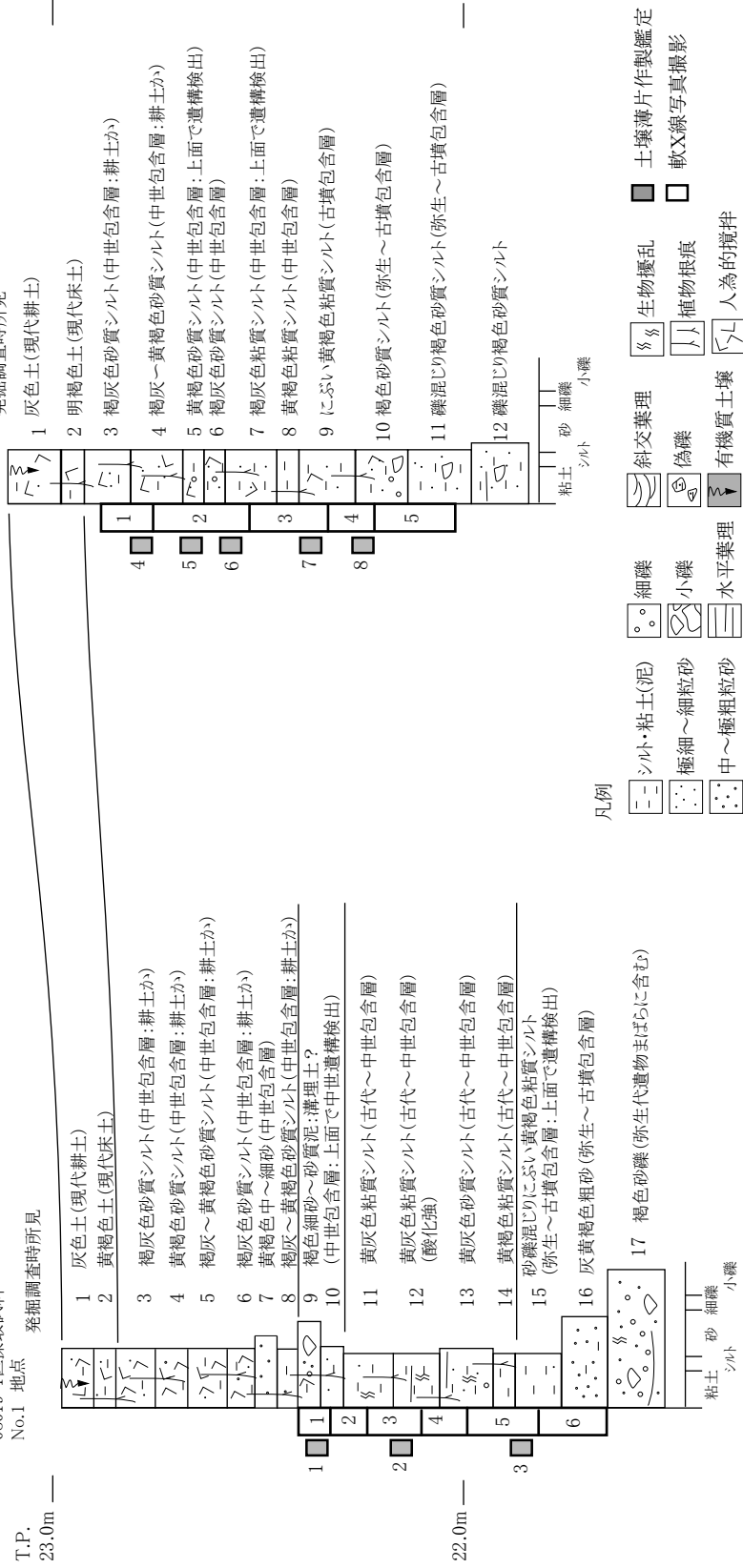


図 134 調査地点の層相および分析層準

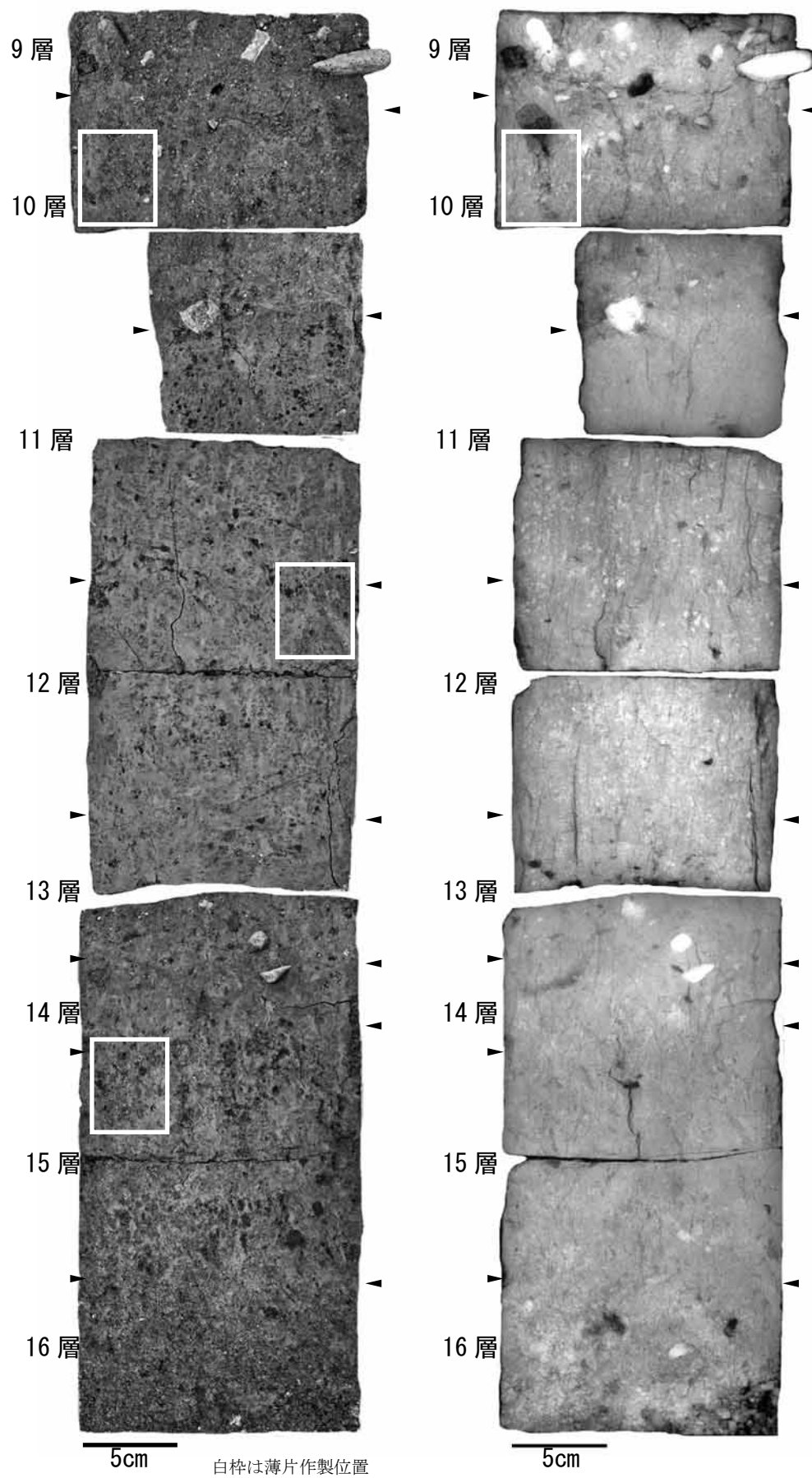


図 135 No.1 地点の試料および X 線写真

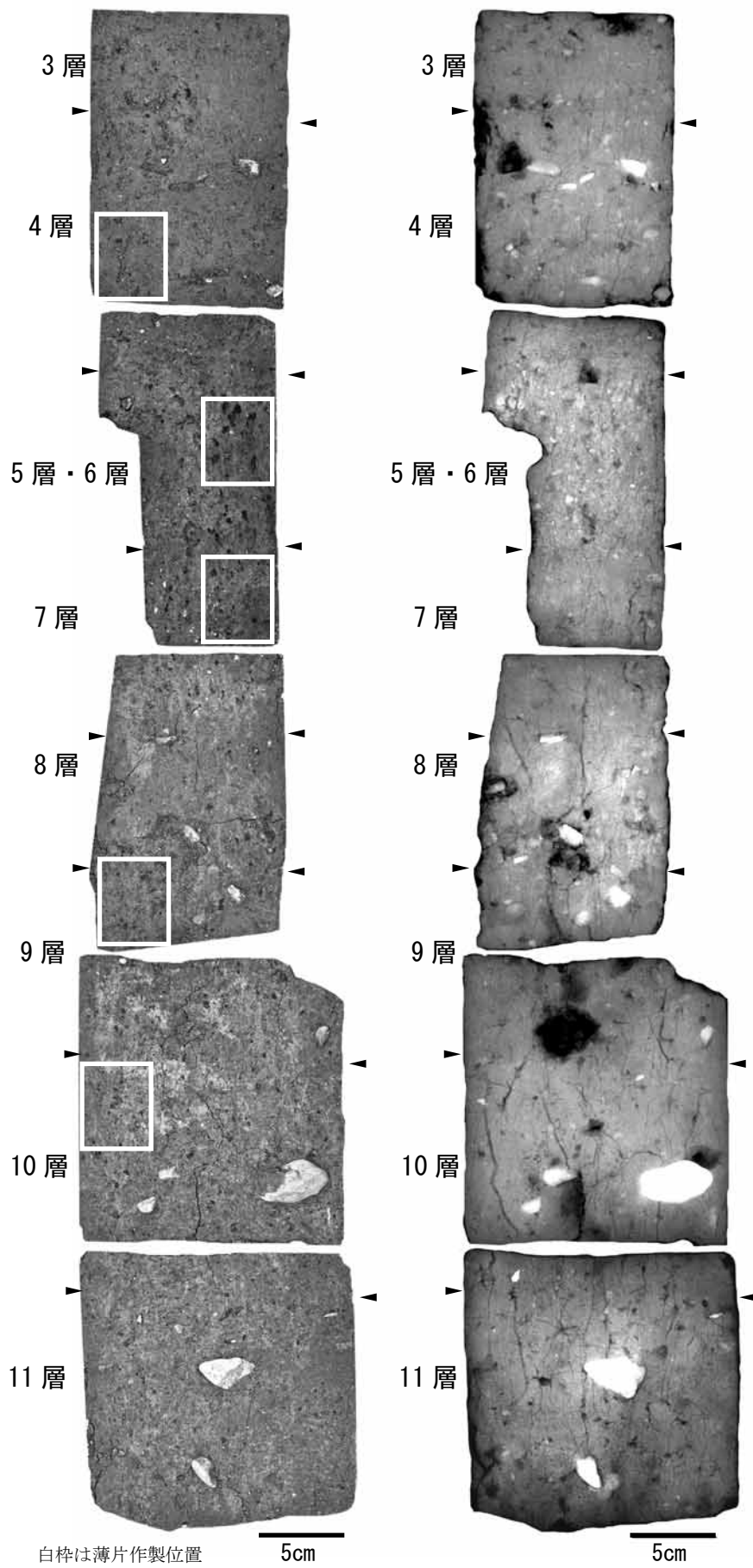


図 136 No.2 地点の試料および X 線写真

堆積物が調査地点に流入した氾濫堆積物に由来することを示唆する。また、細粒化する暗色部分では微細な間隙が多数確認される。これらは植物根に由来する孔隙と思われる。この孔隙は上位層準では垂直方向にのびるものが多いが、14層より下位では横方向・斜方向を示すものも確認されるようになる。

No.2地点の堆積物は、砂質泥ないし泥質砂が主体をなし、人為的な営力により取り込まれたと判断される砂礫が確認される。3層は暗色を呈しており、密度が低いことが窺える。垂直方向にのびる植物根痕が密に確認される。4層は細礫混じり泥質砂からなり、間隙に画された、垂角塊状をなす構造が確認される。また、細礫の長軸の方向性は不規則であり、人為的に攪拌されている可能性がある。5層・6層も4層と基本的に類似するが、明色を呈することから、密度が比較的高いことが窺える。下位の7層との層界は明瞭である。7層は砂・礫混じりの泥からなる。著しい擾乱により、初生の堆積構造は認められなくなっている。本層準でも上位方向からの植物根痕が密に発達する。8層は、泥質砂ないしそのブロック土および礫からなるが、X線写真から判断される偽礫の大きさは本層準の方が大きく、下位の9層に対して下に凸の外形をなしている。人為的盛土の可能性はある。9層は7層と同様の層相を呈しており、著しい擾乱が確認される。10・11層は比較的均質な堆積物からなる。植物根と判断される間隙が確認されるが、その形状は上位層準とは多少異なっている。

2) 土壌薄片観察

各地点の土壌薄片の画像を図137・138に示す。試料では、根痕や土壌動物の活動による生物擾乱が激しい。また、酸化鉄と酸化マンガンの斑紋が多く見られる。粒団については、その発達が極めて不良である。試料にみられる孔隙は、チャンネル孔隙が目立つ(写真13)。この孔隙が発達するのは、試料3、7、8である。チャンネル孔隙が相対的に少ないのは、試料1、2、4、5、6である。ただし、試料1では、他の試料に比べ、やや多くのチャンネル孔隙が分布する(写真1)。これらの試料の微細構造は、基本的に壁状をなす。試料に含まれる砂礫粒については、淘汰が極めて不良である(写真2・6～12)。試料3、8では、上記の試料に比べ、相対的に淘汰が良い(写真17・18)。淘汰が非常に良いのは、試料2である(写真2)。また試料8では、不明瞭ながら平行葉理が観察される(写真17・18)。この他の特徴としては、すべての試料で微粒炭が多く含まれが、試料4、5、6で特に多い印象を受ける。未分解の植物片については、ほとんど含まれない。試料3では、根痕や土壌動物の通路となった管状部分で、酸化鉄の溶脱や上位からの粘土移動が観察される(写真3)。さらにこれらの試料では、孔隙壁に粘土被覆、またその周囲に顕著な細粒質物質の復屈折が存在する(写真4・14・15)。

(4) 考察

今回の薄片観察結果については、Courty(2000)の微細堆積相解析の観点にもとづき、軟X線写真による層相も併せ検討を試みる。薄片試料では、チャンネル孔隙が多く分布する試料(層相I)、孔隙が相対的に少ない試料(層相II)の2つに大別される。層相Iは、淘汰が比較的良好く平行葉

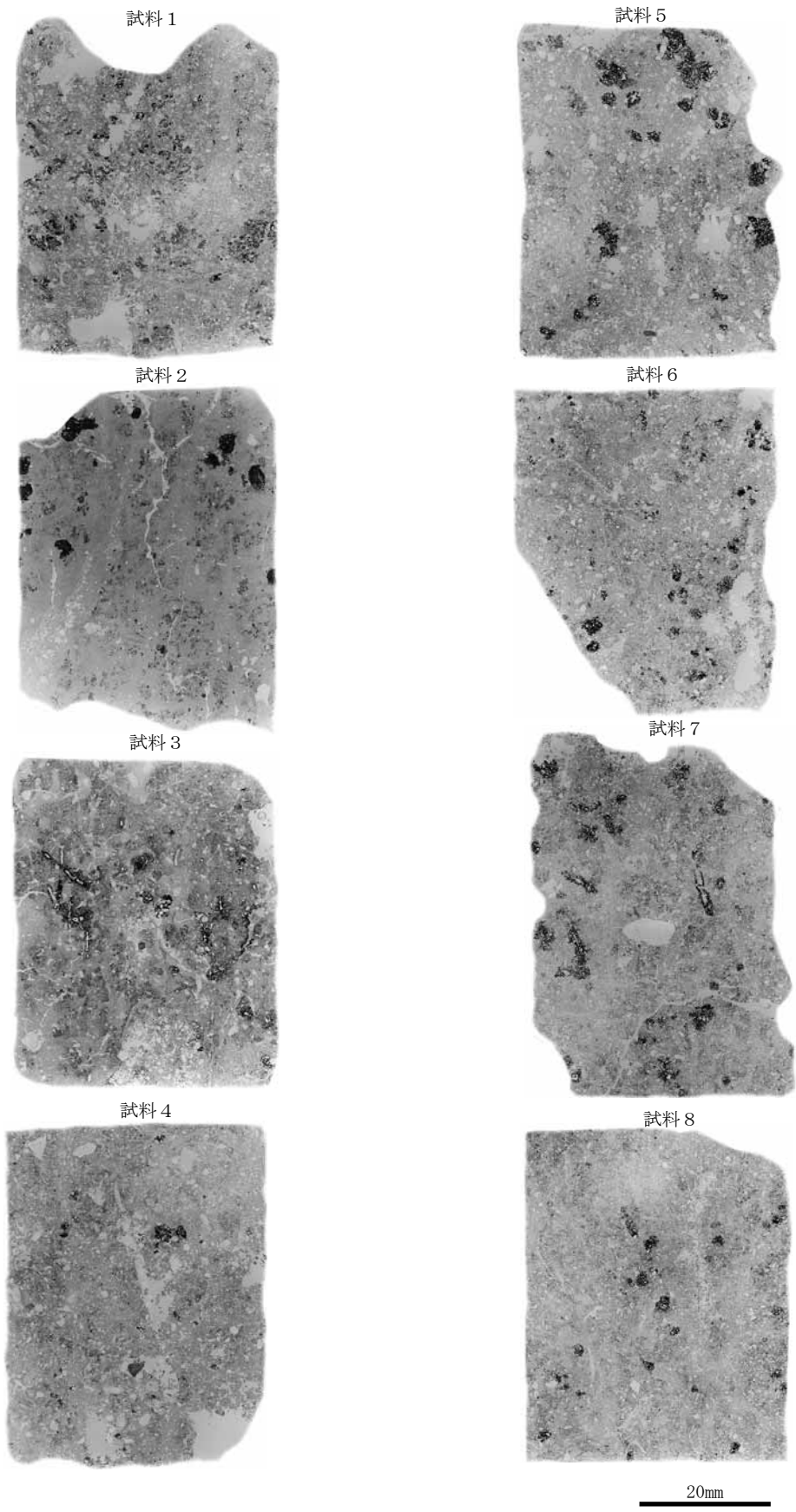


図 137 土壤薄片写真

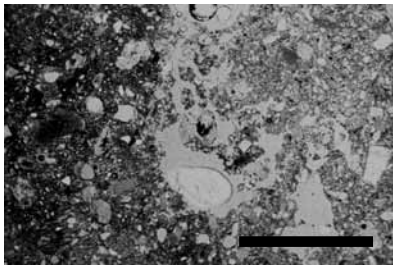


写真1 試料1 (下方ポーラ)

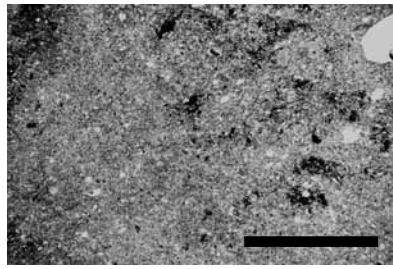


写真2 試料2 (下方ポーラ)

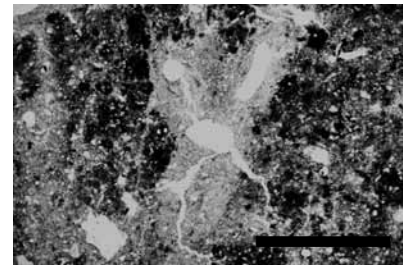


写真3 試料3 上部 (下方ポーラ)

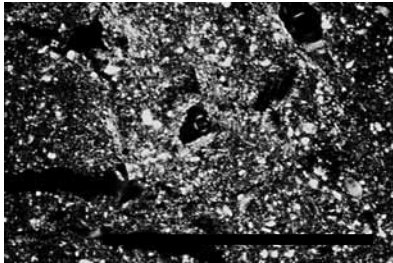


写真4 試料3 上部 (直交ポーラ)

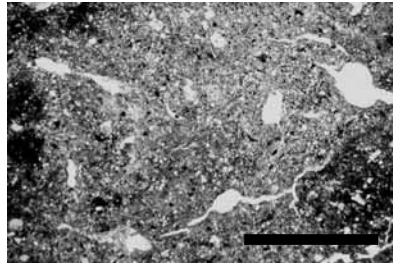


写真5 試料3 下部 (下方ポーラ)

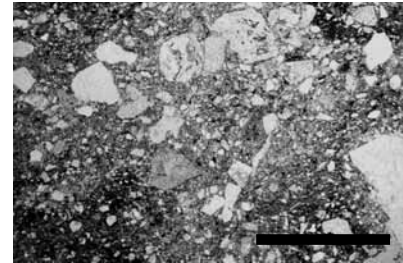


写真6 試料4 (下方ポーラ)

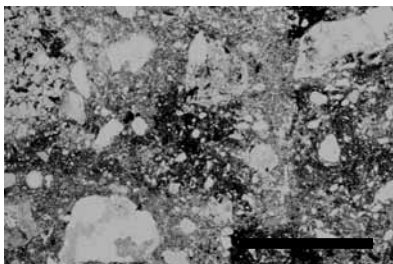


写真7 試料4 (下方ポーラ)

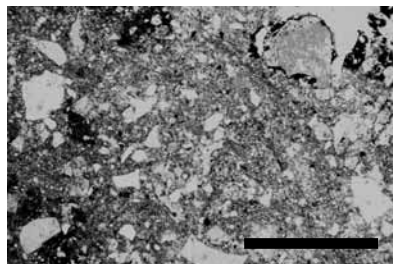


写真8 試料5 (下方ポーラ)

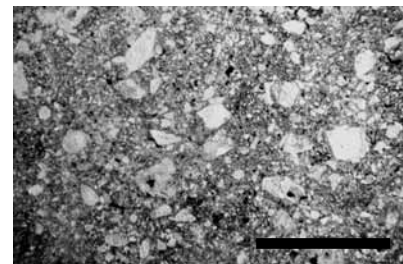


写真9 試料5 (下方ポーラ)

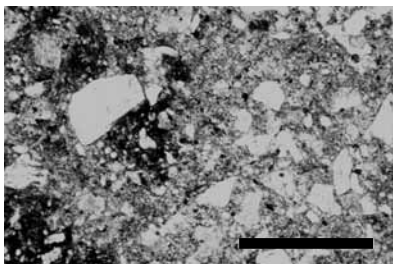


写真10 試料5 (下方ポーラ)

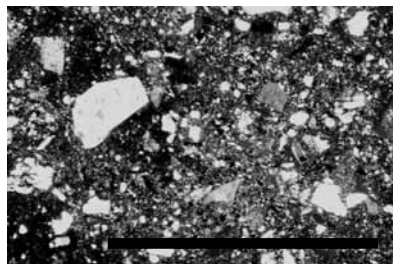


写真11 試料5 (直交ポーラ)

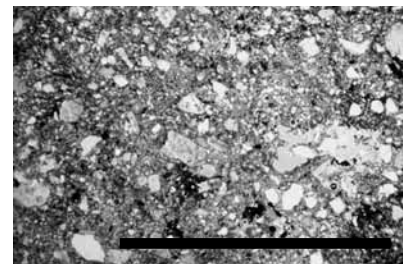


写真12 試料6 (下方ポーラ)

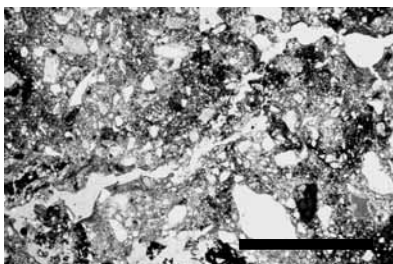


写真13 試料7 (下方ポーラ)

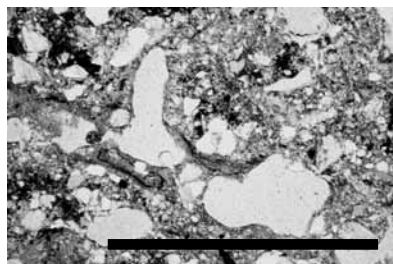


写真14 試料7 (下方ポーラ)

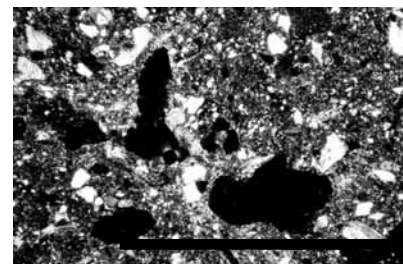


写真15 試料7 (直交ポーラ)

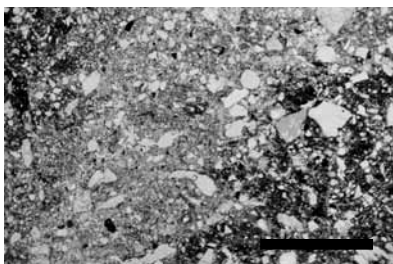


写真16 試料8 (下方ポーラ)

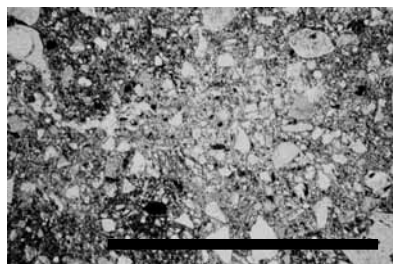


写真17 試料8 (下方ポーラ)

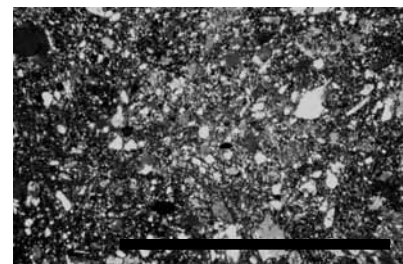


写真18 試料8 (直交ポーラ)

スケールは2mm

図 138 土壤薄片写真(部分拡大)

理が観察されるものと(層相Ⅰ-a)、淘汰不良で観察されないもの(層相Ⅰ-b)に細分される。層相Ⅱでは、堆積物の淘汰が良いもの(層相Ⅱ-a)と、極めて不良なもの(層相Ⅱ-b)に区分される。

今回薄片作製を行った試料では、層相Ⅱ-bが多く観察される。本相は、堆積時に形成される葉理などの初生の堆積構造がまったく観察されない。さらに本相では、層位的な土壌微細構造変化も存在せず一様な様相を示す。このような特徴からは、層相Ⅱ-bにおいて土壌発達にともなう漸移的な層位分化が存在しないことが認識される。層相Ⅱ-bを示す薄片が採取された層準の軟X線写真では、より広範囲の層位的な層相が観察されるが、ここでも基本的に塊状無層理をなし、均質性が極めて高い。ただし、部分的にはあるが、層相Ⅱ-b採取層準やその付近では不明瞭ながらも水平方向に断続的に連続する砂の配列などが確認される。これらは初生の構造の残存部分の可能性がある。

これらのことから、層相Ⅱ-bでは、強い攪乱を受けていることが示唆される。層相Ⅱ-bを構成する堆積物では、砂粒の淘汰が極めて不良で、わずかに細礫を含み、極細粒砂(0.0063-0.125mm)から極粗粒砂(1-2mm)までの粒径が混在する。このような特徴は、登呂遺跡の弥生時代の水田跡での土壌微細構造で報告されている(松田,2006)。この松田(2006)、さらに現世および古水田層の微細形態を検討した松田・辻(2007)にもとづく、層相Ⅱ-bは水田作土の微細堆積相を示すと判断される。層相Ⅱ-bは、08019-4区(No.2地点)の中世包含層の薄片試料4・5・6に該当する。これに対し、08019-1区(No.1地点)の古代～中世包含層の薄片試料2は、層相Ⅱ-aとなる。本試料では淘汰がかなり良いことから、人為的擾乱の影響が及んでないと認識される。このことから、試料2は水田層に挟在しないし一部残存した洪水堆積物と考えられる。

中世包含層の直下には、層相Ⅰ-bに該当する弥生～古墳時代の包含層(No.1地点15層・No.2地点9層)が存在する。これらの薄片試料3・7の孔隙は、上位の中世包含層から連続する。このことから、試料3・7の孔隙は、上位の水田耕作にともなう、イネの根痕に由来すると推定される。水田では、下層土に直線状の根による粗孔隙が形成されることが確認されており(森ほか,1992)、薄片試料3・7層準での孔隙の発達状況とも整合的である。森ほか(1992)では、造影剤法による軟X線写真による粗孔隙の観察を行っている。造影剤法では、粗孔隙だけを強調するために、他の層相が潰れてしまう。本分析では、全体的な層相を観察するために、堆積学で適用される湿潤の薄化試料で軟X線写真を撮影している。この写真でも、垂直ないし放射方向の孔隙が明瞭に観察され、イネ起源と思われる根痕の発達状況が確認される。この根痕に由来する孔隙では、粘土被覆やその周囲に明瞭な復屈折が存在する。このことは、薄片試料3・7層準において、中世包含層内の水田層から下方移動してきた物質が集積していることを示す。これらについては、本試料の採取層準やその直上で、顕著な酸化鉄の斑紋が存在することとも調和的である。このように薄片試料3・7では、上位の水田層にともない生成された土壌微細構造が顕著であり、それ以前の特徴の多くが失われている。そのため、これらの試料からは、弥生～古墳時代

の包含層の状況を推し量ることができない。No. 2 地点の薄片試料7 の下部に位置する薄片試料8 では、その影響が幾分弱まる。本試料は層相 I -a に相当し、平行葉理が観察される。ただし平行葉理は、根痕などの擾乱を激しく受けており、非常に不明瞭である。軟X 線写真観察では、包含層内に偽礫(ブロック土)が含まれず、均質な密度を示しており、整地層などの人為的擾乱層の可能性が低いと判断される。11 層下部では不明瞭ながら水平方向の砂の配列が確認される。

これらの特徴をふまえると、弥生～古墳時代の包含層は、土壌発達が進行した洪水堆積物からなると推測される。

以上の薄片観察および現時点での堆積状況をふまえると、調査区では、弥生時代後期後半以前に一時期、河川堆積作用が活発であったと推測される。この後、弥生時代後期後半頃～古墳時代にかけては、流路や洪水の影響が少なくなり、地表の埋積作用が小さくなり、土壌化が進行する。古代～中世には、再び堆積作用が活発化する。薄片でみられる粒度組成から、本時期にはシルトを多く含む浮遊砂を主体とする洪水堆積物が、調査区内へ多く流入するようになったと推察される。本時期に認められる洪水堆積作用は、遺跡周辺での流路の埋積や、上流域からの土砂生産、運搬作用の変化との関連も予測される。今回の土壌薄片から、調査区では何らかの要因で中世に洪水堆積作用が活発化し、その堆積物を母材としながら、水田が形成されたことが確認される。本遺跡で認められた中世の顕著な氾濫原の埋積作用については、当該期の植生変化や河川堆積作用復原との関連をふまえることが必要であろう。

なお、中世包含層に挟在する水田作土には、未分解の植物遺体が含まれない。このことから、水田では、植物遺体が分解・消失する好氣的土壌環境が形成されていたと考えられる。堆積層断面での斑紋および薄片観察から、水田では物質の下方移動が顕著であったと解釈される。これらの状況にもとづく、調査区内に形成された中世の水田は、排水性が良好な乾田であったと推定される。また中世包含層からは、建物跡なども検出されていることから、耕作地だけでなく、居住域も一時期形成されたことが確認される。中世に調査区では、洪水堆積物の頻度が増す不安定な氾濫原の堆積環境下において、耕作地の再構築や土地利用を変化させながら、人間活動が展開されたと考えられる。

上記した弥生時代以降の河川堆積作用は、縄文時代前半に発達し、その後に離水傾向となった沖積扇状地上での地形発達史にともなうものである(古田,1990)。今回得た知見については、池上曾根遺跡などの周辺遺跡の動態をふまえ、地域的な遺跡形成過程にもとづき、さらに検討を進めていくことが課題である。

引用文献

- 有村 玄洋・鬼鞍 豊, 1971, 有明海北部および西部沿岸地域の埴質水田土壌の二・三の物理的性質と土壌微細形態学的観察. 九州農業試験場報告, 16, 63-183.
- Courty, M.A., 2000, Microfacies Analysis assisting archaeological stratigraphy. *Earth Sciences and Archaeology*, Kluwer Academic/Plenum Publishers, 205-239.
- 久馬 一剛・八木 久義訳監修, 1989, 土壌薄片記載ハンドブック. 博友社, 176p.
- 古田 昇, 1990, 榎尾川(大津川)右岸の地形環境. 史跡池上曾根遺跡発掘調査概要, 大阪府教育委員会, 3-24.
- 松田 順一郎, 2006, 流路・氾濫原堆積物から推測される約3100～1200年前の登呂遺跡における環境変化. 特別史跡登呂遺跡再発掘調査報告書(自然科学分析・総括編). 静岡市教育委員会, 1-27.
- 松田 順一郎・辻 康男, 2007, 埋没および現世水田にみられる土壌微細形態の比較—静岡市登呂遺跡の事例を中心に—. 日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集, 日本文化財科学会, 166-167.
- 宮田雄一郎・山村恒夫・鍋谷 淳・岩田尊夫・八幡雅之・結城智也・徳橋秀一, 1990, 淡水生デルタの形成過程—琵琶湖愛知川河口部を例として—. 2. 地質構成と堆積相. 地質学雑誌, 96, 839-858.
- 森 也寸志・滋賀摂子・岩間憲治・渡辺紹裕・丸山利輔, 1992, 土地利用による土壌間隙構造の差異—軟X線による観察を中心として—. 土壌の物理性, No. 66, 19-27.
- 成岡 市, 1993, 土壌粗間隙の形態とその測定法—土壌の不均一性と物質移動の研究前線—. 日本土壌肥料科学雑誌, 64-1, 90-97.
- 佐藤幸一, 1990a, 八郎潟干拓地重粘土水田土の粗間隙の発達とその意義. 農業土木学会誌, 60, 25-30.
- 佐藤幸一, 1990b, 八郎潟干拓地における畑地と草地土壌の粗間隙の発達とその意義. 農業土木学会誌, 60, 287-292.
- 辻本 裕也・辻 康男, 2008, 生駒山北部の古墳時代以降の花粉化石群集の特徴と植生変遷. 日本花粉学会第49回大会発表要旨集, p83.

第4節 土器胎土分析(パリノ・サーヴェイ株式会社)

はじめに

今回の分析調査では、和泉寺跡、府中遺跡より出土した、弥生時代後期から庄内式併行期とされる土器を対象として、その材質の特性を明らかにすることにより、その生産や供給事情に関わる資料を作成する。特に今回の試料では、淡路型とされる土器と在地とされる土器との比較を行うとともに、淡路島に所在する下内膳遺跡出土の庄内式併行期の土器と五斗長垣内遺跡出土の弥生時代後期後半の土器さらには和泉寺跡に近接する大町遺跡出土の庄内式併行期とされる土器のそれぞれとも比較を行い、和泉寺跡、府中遺跡出土の弥生後期から庄内式併行期の土器の胎土の特性を明らかにする。

(1) 試料

試料は、大阪府和泉市に所在する和泉寺跡、府中遺跡から出土した土器片7点と兵庫県洲本市に所在する下内膳遺跡から出土した土器片3点、同県淡路市に所在する五斗長垣内遺跡から出土した土器片3点および大阪府岸和田市に所在する大町遺跡から出土した土器片1点の合計14点である。

和泉寺跡、府中遺跡は、大阪湾南東岸に大津川として流下する槇尾川の右岸に形成された段丘上に位置する。今回の試料は、No.1～No.7までの資料番号が付され、弥生時代後期から庄内式併行期とされている。器種は、甕が4点(No.1～3、No.6)、器台が2点(No.4、No.5)、鉢が1点(No.7)である。これらのうち、No.1～3の3点の甕は淡路型甕とされ、器台は2点ともに淡路型器台とされている。No.6、7の甕と鉢はいずれも在地の胎土と考えられている。

下内膳遺跡は、淡路島東部を流れる洲本川の左岸に分布する扇状地上に位置する。今回の試料は、庄内式併行期の古段階かとされた甕3点(No.1～3)である。五斗長垣内遺跡は、淡路島北西部を流れる育波川左岸に形成された段丘上に位置する。今回の試料は、弥生時代後期後半とされた甕3点(No.1～3)である。

大町遺跡は、槇尾川と合流して大津川となる松尾川の左岸に形成された段丘上に位置する。今回の試料は、庄内式併行期とされた甕1点である。

各試料の器種、部位、時期、発掘調査者による備考および分析時の土器胎土表面観察記載等を一覧にして表5に示す。なお、煩雑になるため、表5を含め以下では、和泉寺跡、府中遺跡出土試料については和泉寺跡とのみ表記する。

(2) 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法とがある。前者は粉碎による重鉱物分析や切片による薄片作製などが主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている方法である。前

表5 試料一覧

| 遺跡名 | 所在地 | 資料番号 | 器種 | 部位 | 所属時期 | 備考 | 図-番号 | 胎土肉眼観察 | |
|---------|------|-------|----|-----|------------------|--------------------------------------|---------|---|--|
| | | | | | | | | 色調(上段:表・下段:裏) | 表面の砂分の状況など |
| 和泉寺跡 | 和泉市 | No. 1 | 甕 | 頸部 | 弥生後期～庄内式併行期 | 口縁部に刻み状痕跡(タタキ)あり ・淡路型甕 | 121-848 | にぶい橙(7.5YR7/3) 同上 | 砂粒認められず |
| 和泉寺跡 | 和泉市 | No. 2 | 甕 | 体部 | 庄内式前半 | 口縁部に刻み状痕跡(タタキ)あり ・淡路型甕 | 70-563 | にぶい橙(7.5YR6/4) にぶい褐(7.5YR5/3) | 黒雲母片微量散在 |
| 和泉寺跡 | 和泉市 | No. 3 | 甕 | 体部 | 庄内式前半 | 口縁部に刻み状痕跡(タタキ)あり ・淡路型甕 | 70-561 | にぶい褐(7.5YR5/3) 同上 | 径1mmの白色岩片極めて微量、 黒雲母片極めて微量 |
| 和泉寺跡 | 和泉市 | No. 4 | 器台 | 脚部 | 庄内式併行期 | 淡路型器台 | 124-912 | 浅黄橙(7.5YR8/3) 浅黄橙(7.5YR8/3)～ にぶい橙(5YR7/3) | 径3～5mmの灰色チャート 岩片微量、径1～2mmの白 色岩片微量 |
| 和泉寺跡 | 和泉市 | No. 5 | 器台 | 頸部 | 庄内式併行期 | 淡路型器台 | 128-1 | 橙(5YR6/6) にぶい橙(7.5YR6/4) | 径約1mmの灰色チャート岩 片極めて微量、細砂径の 石英粒微量 |
| 和泉寺跡 | 和泉市 | No. 6 | 甕 | 体部 | 庄内式前半 | 在地の胎土と考えられるもの | 69-558 | にぶい橙(7.5YR7/4) にぶい橙(5YR7/4) | 径約1mmの灰色チャート岩 片微量、径約1mmの白色岩 片少量 |
| 和泉寺跡 | 和泉市 | No. 7 | 鉢 | 口縁部 | 庄内式前半 | 在地の胎土と考えられるもの | 78-653 | 浅黄橙(10YR8/4) 浅黄橙(10R8/3) | 径約1～3mmの灰色チャート 岩片少量、径約1mmの白 色岩片極めて微量 |
| 下内膳遺跡 | 洲本市 | No. 1 | 甕 | 底部 | 庄内式併行期(古 段階か) | 褐色系の胎土 | | にぶい赤褐(5YR5/4) にぶい橙(5YR6/4) | 径1～2mmの白色岩片微量 |
| 下内膳遺跡 | 洲本市 | No. 2 | 甕 | 底部 | 庄内式併行期(古 段階か) | 褐色系の胎土 | | にぶい赤褐(5YR5/3) 褐灰(5YR4/1) | 径1～2mmの白色岩片微量 |
| 下内膳遺跡 | 洲本市 | No. 3 | 甕 | 体部 | 庄内式併行期(古 段階か) | 褐色系の胎土 | | にぶい赤褐(5YR5/4) にぶい橙(7.5YR6/4) | 黒雲母片極めて微量、長 石粒極めて微量 |
| 五斗長垣内遺跡 | 淡路市 | No. 1 | 甕 | 底部 | 弥生後期後半 | 赤褐色系の胎土 | | 褐灰(7.5YR4/1) 同上 | 径1～2mmの白色岩片微量 |
| 五斗長垣内遺跡 | 淡路市 | No. 2 | 甕 | 口縁部 | 弥生後期後半 | 褐色系の胎土。口縁部に刻み 状痕跡(タタキ)あり ・淡路型甕 | | にぶい褐(7.5YR5/3) にぶい褐(7.5YR6/3) | 黒雲母片極めて微量 |
| 五斗長垣内遺跡 | 淡路市 | No. 3 | 甕 | 体部 | 弥生後期後半 | 褐色系の胎土 | | にぶい褐(7.5YR6/3) にぶい褐(7.5YR5/3) | 細砂径～極細砂径の石英 粒微量 |
| 大町遺跡 | 岸和田市 | | 甕 | 口縁部 | 庄内式併行期 | 口縁部に刻み状痕跡(タタキ) あり ・淡路型甕 | 128-2 | にぶい黄橙(10YR6/3) にぶい黄橙(10YR7/2) | 径約1～3mmの白色岩片少 量、径約2mmの黒色岩片極 めて微量 |

者の方法は、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点があり、その中でも薄片観察は、胎土中における砂粒の量はもちろんのこと、その粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報は多い。

この情報をより客観的な方法で表現したものとして、松田ほか(1999)の方法がある。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。また、当社ではこれまでに兵庫県内各地に分布する遺跡から出土した土器の胎土分析を同様の方法により多数行っているため、これらの分析結果との比較も可能となる。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製し

た。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて 0.5mm 間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により 200 個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径 0.5mm 以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の 3 次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

(3) 結果

薄片観察結果を表 6～8、図 139～145 に、胎土薄片顕微鏡写真を図 146～150 に示す。以下に、鉱物片および岩石片の種類構成、砂分全体の粒径組成、碎屑物・基質・孔隙における碎屑物の割合の順に述べる。

a) 鉱物片および岩石片の種類構成

全ての試料において石英の鉱物片が最も多く、次いで斜長石の鉱物片かまたは多結晶石英の岩石片が多く、他に微量のカリ長石や角閃石、黒雲母などの鉱物片や、チャート、頁岩などの堆積岩類、凝灰岩、流紋岩・デイサイトなどの火砕岩・火山岩類、花崗岩類や珪長岩などの深成岩類などが認められる。多結晶石英は、供伴する岩石片との比較から、ほとんどが花崗岩類に由来すると考えられる。凝灰岩はほとんどが結晶質であるが、和泉寺跡 No.4 と和泉寺跡 No.5 には、新第三紀凝灰岩由来と考えられる非晶質の凝灰岩も含まれる。また試料によっては微量の火山ガラスを含むものもある。火山ガラスは、いずれの試料のものも平板状のバブル型を呈する。ここでは、少量～微量伴う鉱物片および岩石片の種類によって以下の A～D 類までの 4 分類を設定した。

・ A 類

鉱物片では、石英と斜長石、カリ長石のほかには、微量の角閃石を含む傾向がある。岩石片では、多結晶石英の量比が比較的高く、他にチャートおよび頁岩の堆積岩類、凝灰岩および流紋岩・デイサイトの火砕岩・火山岩類、花崗岩類の 3 種類を含む傾向がある。A 類に分類される試料は、和泉寺跡 No.2 を除く、和泉寺跡出土試料 6 点と下内膳遺跡 No.1 と No.3 の 2 点および大町遺跡試料 1 点の合計 9 点である。

・ B 類

鉱物片の組成は、A 類とほぼ同様であるが、岩石片では、多結晶石英と花崗岩類は含まれるが、堆積岩類および凝灰岩が含まれず、さらに火山ガラスが他の試料より多いことを特徴とする。これに分類される試料は、和泉寺跡 No.2 の 1 点のみである。

・ C 類

鉱物片の組成は、A 類とほぼ同様であるが、微量ながらも黒雲母を含む。岩石片では、花崗岩類が比較的多く、多結晶石英を伴い、チャートも微量含まれるが、凝灰岩が含まれず、さらに珪長岩を少量伴うことを特徴とする。これに分類される試料は、下内膳遺跡 No.2 の 1 点のみである。

表6 薄片観察結果(1)

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | |
|-----------------------|------------------------------------|---------|------|-----|------|-----|-------|-----|-----|-----|-------|------|----|------|----|-----|-----------|-------|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|----------|-------|-------|
| | | 鉱物片 | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | | | | | | | | | |
| | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 単斜輝石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 緑帘石 | 白雲母 | 黒雲母 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 珪質頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | | 花崗岩類 | 珪長岩 | 脈石英 | 珪化岩 | 火山ガラス | 粘土塊 | 砂混じりシルト塊 | 酸化鉄結核 | 植物珪酸体 |
| 和泉寺跡 No.1 甕 頭部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 中粒砂 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | 5 |
| | 細粒砂 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 6 |
| | 極細粒砂 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 5 |
| | 粗粒シルト | 3 | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 8 |
| | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 409 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | |
| 備考 | 基質はほとんど雲母鉱物で埋められている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和泉寺跡 No.2 甕 体部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 極粗粒砂 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 粗粒砂 | 2 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 中粒砂 | 4 | | 5 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| | 細粒砂 | 7 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 3 | | | | | 13 |
| | 極細粒砂 | 3 | | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | 8 |
| | 粗粒シルト | 2 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 中粒シルト | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 261 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質。火山ガラスはバブルウォール型。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和泉寺跡 No.3 甕 体部 | 細礫 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 極粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 3 |
| | 粗粒砂 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 中粒砂 | 3 | 2 | 2 | | | | | | | 1 | 2 | | 1 | | 3 | 2 | | | | | | | | | | | 16 |
| | 細粒砂 | 6 | | 3 | | | | | | | | 2 | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | 14 |
| | 極細粒砂 | 7 | | 3 | | 1 | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 14 |
| | 粗粒シルト | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 358 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質。凝灰岩はやや結晶質。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和泉寺跡 No.4 器 台脚部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 粗粒砂 | 2 | 1 | | | | | | | | 1 | 2 | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | 9 |
| | 中粒砂 | 7 | | 5 | | | | | | | 2 | | | 3 | | 2 | | | | | | | | | | | | 19 |
| | 細粒砂 | 11 | 2 | 5 | 1 | | | | | | | | | 1 | | 4 | | | | | | | | | | | | 24 |
| | 極細粒砂 | 6 | 2 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| | 粗粒シルト | 2 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 382 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | |
| 備考 | 基質はセリサイト質。凝灰岩はやや結晶質だが、新第三紀由来とみられる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和泉寺跡 No.5 器 台頭部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | 7 | 3 | | | | | | | | | | 2 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 14 |
| | 中粒砂 | 5 | | 2 | | | | | | | 1 | 2 | | 2 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 14 |
| | 細粒砂 | 10 | 3 | 2 | | | | | | | | | | 3 | | 1 | | | | | | | | | | | | 19 |
| | 極細粒砂 | 6 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 10 |
| | 粗粒シルト | 8 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 426 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | |
| 備考 | 基質は雲母質。凝灰岩は結晶質なもの、非晶質なもの混在する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表7 薄片観察結果(2)

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | |
|------------------------|------------------------------|---------|------|-----|------|-----|-------|-----|-----|-----|-------|------|----|------|----|-----|-----------|-------|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|----------|-------|-------|
| | | 鉱物片 | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | | | | | | | | | |
| | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 単斜輝石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 緑帘石 | 白雲母 | 黒雲母 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 珪質頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | | 花崗岩類 | 珪長岩 | 脈石英 | 珪化岩 | 火山ガラス | 粘土塊 | 砂混じりシルト塊 | 酸化鉄結核 | 植物珪酸体 |
| 和泉寺跡 No.6 甕 体部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| | 粗粒砂 | | | 1 | | | | | | | | 2 | | | 4 | | 1 | | | | | | | | | | | 8 |
| | 中粒砂 | 7 | | 1 | | | | | | | 2 | 4 | | | 4 | | 5 | 1 | | | | 1 | | | | | | 25 |
| | 細粒砂 | 9 | | 4 | | 1 | | | | | 3 | | | | 2 | | 3 | | | | | | | | | | | 22 |
| | 極細粒砂 | 4 | 1 | 6 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 13 |
| | 粗粒シルト | 10 | | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 |
| | 中粒シルト | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 454 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 14 | |
| 備考 | 基質は雲母質。凝灰岩は結晶質。角閃石はやや酸化している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和泉寺跡 No.7 鉢 口縁部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 3 | | | | | | | | | | 8 |
| | 粗粒砂 | 8 | 1 | 1 | | | | | | | 2 | 4 | | | | | 5 | 1 | | | | | | | | | | 22 |
| | 中粒砂 | 7 | 5 | 2 | | 1 | | | | | 3 | | | 1 | 2 | | 7 | 1 | | | | | | | | | | 29 |
| | 細粒砂 | 9 | 1 | 4 | | | | | | | 2 | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 19 |
| | 極細粒砂 | 9 | 1 | 7 | | 1 | | | | | 3 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 23 |
| | 粗粒シルト | 6 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 12 | |
| | 中粒シルト | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 408 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | |
| 備考 | 基質にはセリサイトが散在する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下内膳遺 跡 No.1 甕 底部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | 3 |
| | 極粗粒砂 | 3 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | 9 |
| | 粗粒砂 | 16 | 11 | 6 | | | | | | | | 1 | | | | | 7 | 5 | | | | | | | | | | 46 |
| | 中粒砂 | 23 | 8 | 11 | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 4 | 1 | | | | | | | | | | 49 |
| | 細粒砂 | 30 | 3 | 13 | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 50 |
| | 極細粒砂 | 14 | 1 | 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28 |
| | 粗粒シルト | 7 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 14 |
| | 中粒シルト | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 625 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 18 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質。火山ガラスはバブルウォール型。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下内膳遺 跡 No.2 甕 底部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 1 | | | | | | | | | 5 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 7 | 1 | | | | | | | | | 9 |
| | 粗粒砂 | 11 | 4 | 2 | | | | | | | | | | | | | 4 | 9 | 3 | | | | 1 | | | | | 34 |
| | 中粒砂 | 17 | 12 | 12 | | | | | | | | | | | | | 2 | 5 | 2 | | | | | | | | | 51 |
| | 細粒砂 | 28 | 6 | 12 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 49 |
| | 極細粒砂 | 16 | 3 | 23 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 43 |
| | 粗粒シルト | 7 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 734 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 32 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質。バブルウォール型火山ガラスあり。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下内膳遺 跡 No.3 甕 体部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 3 |
| | 粗粒砂 | 14 | 4 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 5 | | | | | | | | | | 25 |
| | 中粒砂 | 19 | 4 | 3 | | | | | | | | 2 | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | 31 |
| | 細粒砂 | 8 | 3 | 7 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 22 |
| | 極細粒砂 | 10 | 1 | 7 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 19 |
| | 粗粒シルト | 3 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 358 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質。凝灰岩は結晶質。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表8 薄片観察結果(3)

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | |
|-------------------|-------------------------------|---------|------|-----|------|-----|-------|-----|-----|-----|-------|------|----|------|----|-----|-----------|-------|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|----------|-------|-------|
| | | 鉱物片 | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | | | | | | | | | |
| | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 単斜輝石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 緑帘石 | 白雲母 | 黒雲母 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 珪質頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | | 花崗岩類 | 珪長岩 | 脈石英 | 珪化岩 | 火山ガラス | 粘土塊 | 砂混じりシルト塊 | 酸化鉄結核 | 植物珪酸体 |
| 五斗長垣内遺跡 No.1 甕底部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | 3 | |
| | 極粗粒砂 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 12 | 2 | | | | | | | 2 | | | 18 |
| | 粗粒砂 | 15 | 2 | | | | | | | | | | | | | 14 | | | | | | | | 1 | | | 32 | |
| | 中粒砂 | 40 | 3 | 2 | | | | 1 | 3 | | | | | | | 6 | | | | | | | | | | | 55 | |
| | 細粒砂 | 38 | 4 | 8 | | | | 1 | 4 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 57 | |
| | 極細粒砂 | 17 | 1 | 9 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28 | |
| | 粗粒シルト | 2 | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | |
| | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 810 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 24 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質で、褐色を呈する。径1.5mmの炭化材あり。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 五斗長垣内遺跡 No.2 甕口縁部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 |
| | 中粒砂 | 4 | | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 7 |
| | 細粒砂 | 4 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 極細粒砂 | 2 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 粗粒シルト | 3 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 351 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 21 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質で褐色を呈する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 五斗長垣内遺跡 No.3 甕体部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | 2 |
| | 粗粒砂 | 7 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 中粒砂 | 11 | 2 | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | 19 |
| | 細粒砂 | 18 | 1 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 23 |
| | 極細粒砂 | 18 | | 4 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 23 |
| | 粗粒シルト | 3 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 406 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質で褐色を呈する。小型の酸化鉄結核が点在する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大町遺跡 甕口縁部 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | 3 |
| | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| | 中粒砂 | 7 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | | 11 |
| | 細粒砂 | 9 | 1 | 1 | | | | | | | 3 | | | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | | 17 |
| | 極細粒砂 | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| | 粗粒シルト | 11 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| | 中粒シルト | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 360 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | |
| 備考 | 基質は黒雲母質。白雲母、植物珪酸体あり。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

・D類

鉱物片の組成は、A類とほぼ同様であるが、黒雲母を含むことが特徴となる。岩石片では、多結晶石英と花崗岩類を含むが、堆積岩類および凝灰岩が含まれないことを特徴とする。これに分類される試料は、五斗長垣内遺跡 No.1 と No.3 であるが、五斗長垣内遺跡 No.2 についても同類の可能性が高いと考えられる。

b) 砂分全体の粒径組成

今回の試料は、中粒砂にモードのある組成と細粒砂にモードのある組成に概ね分かれるが(和

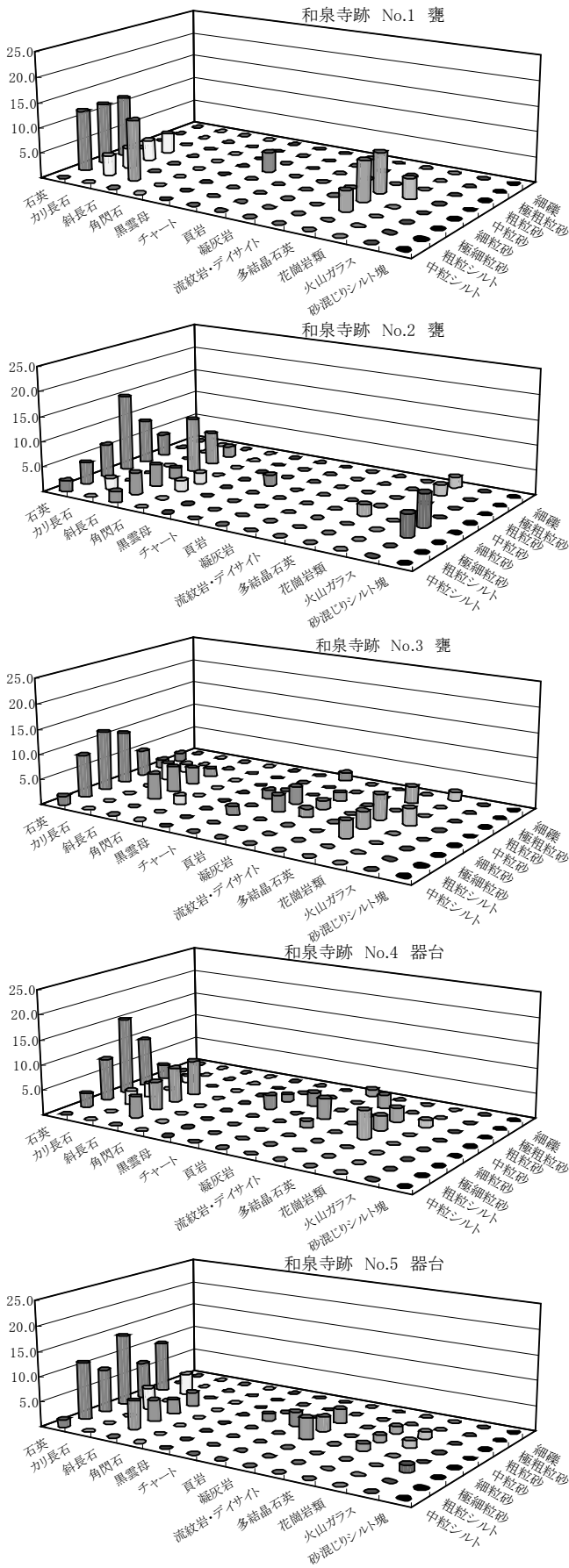


図 139 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (1)

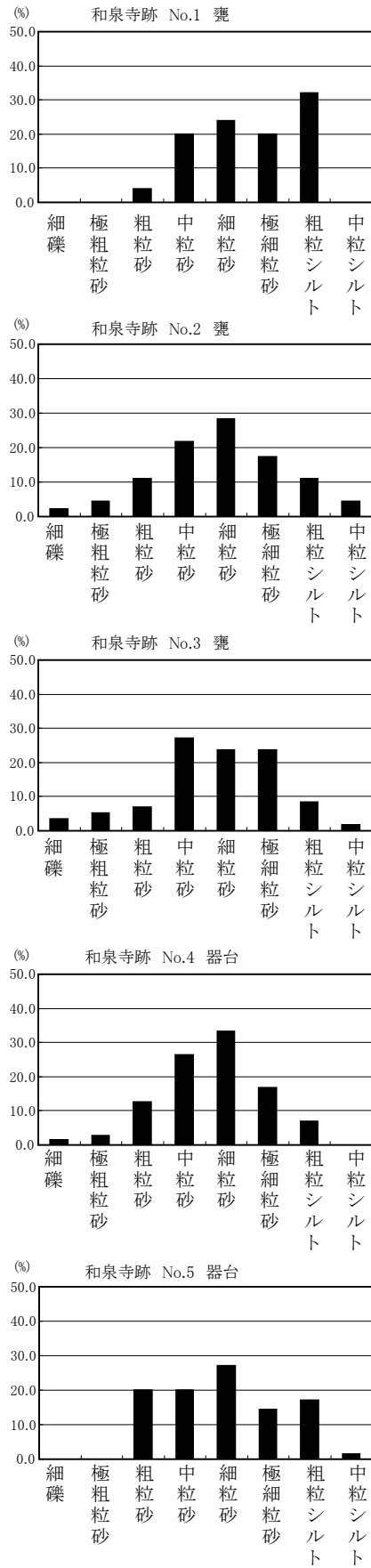


図 140 胎土中の砂の粒径組成 (1)

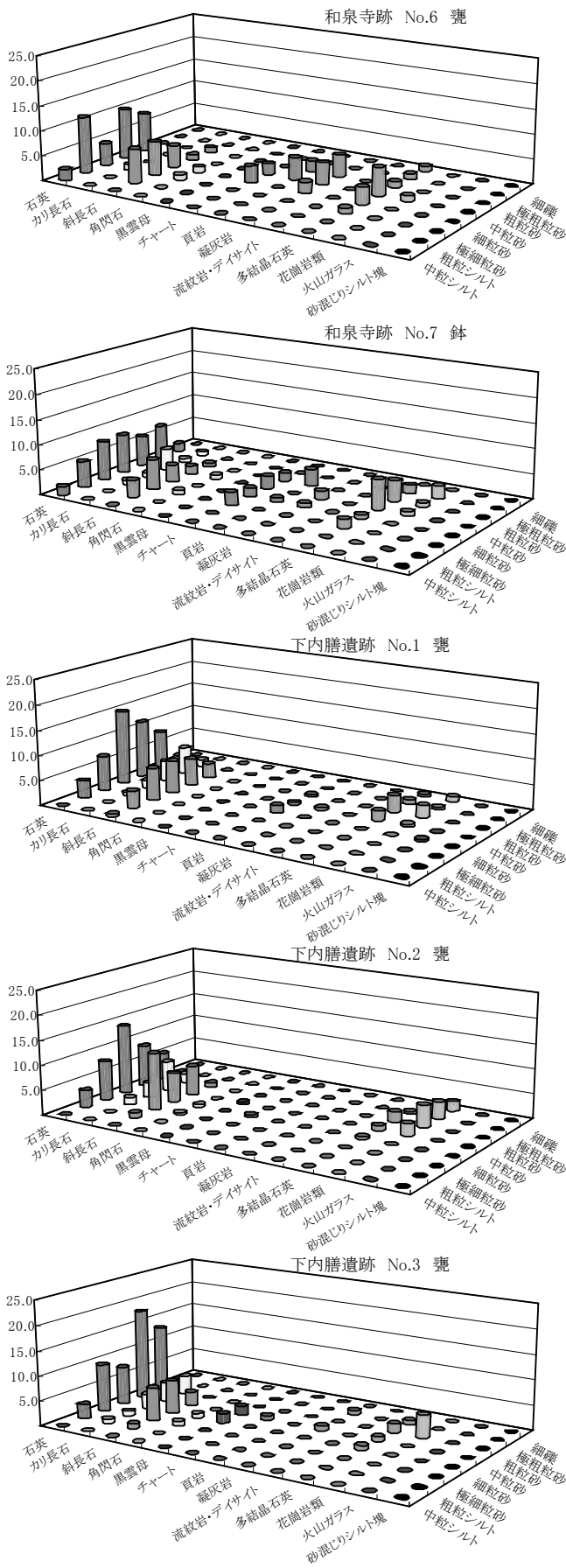


図 141 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(2)

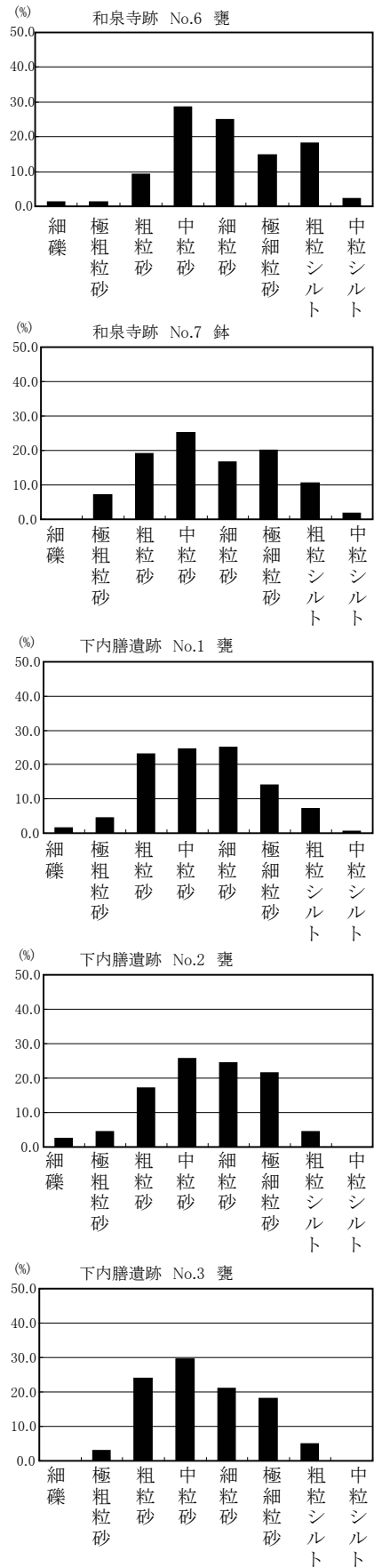


図 142 胎土中の砂の粒径組成(2)

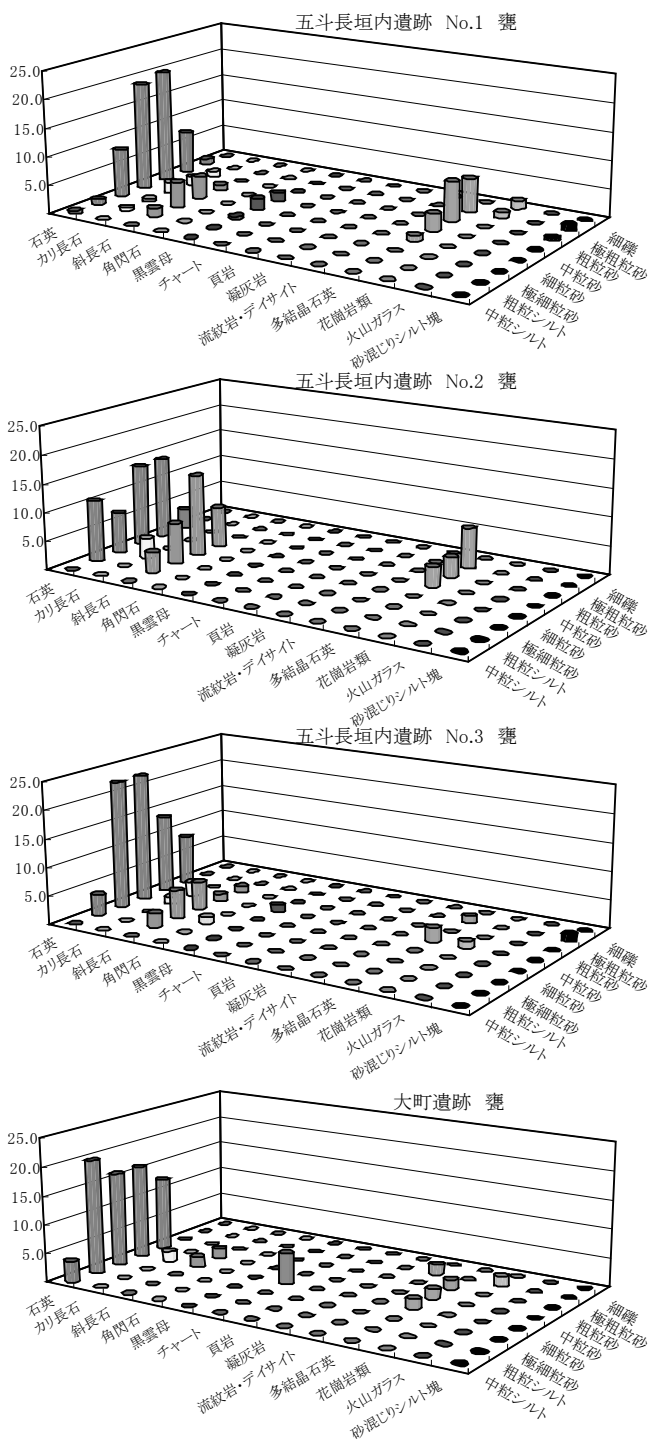


図 143 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (3)

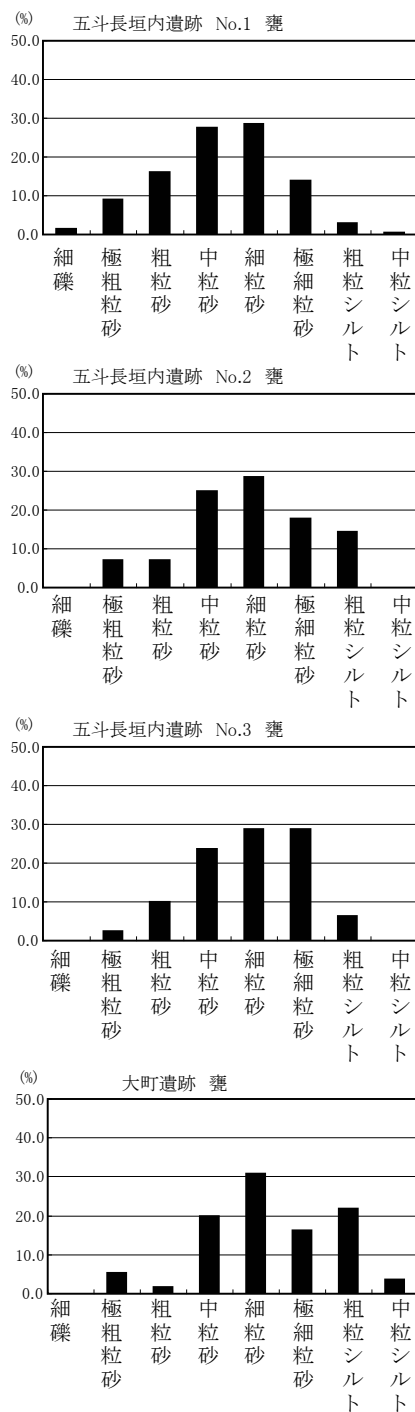


図 144 胎土中の砂の粒径組成 (4)

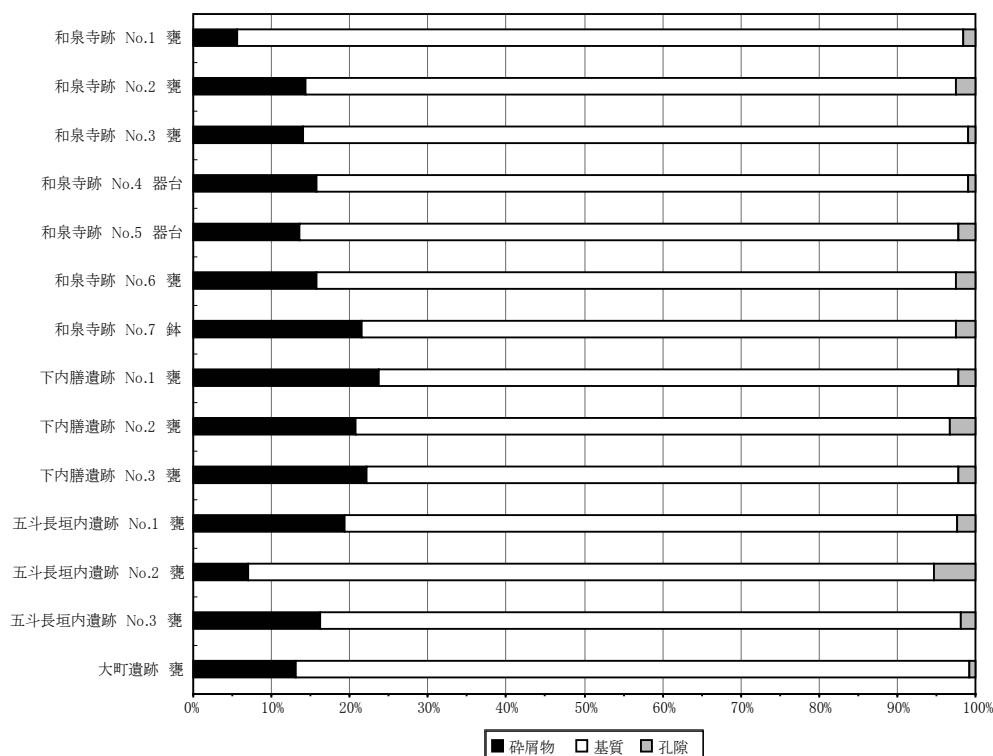


図 145 碎屑物・基質・孔隙の割合

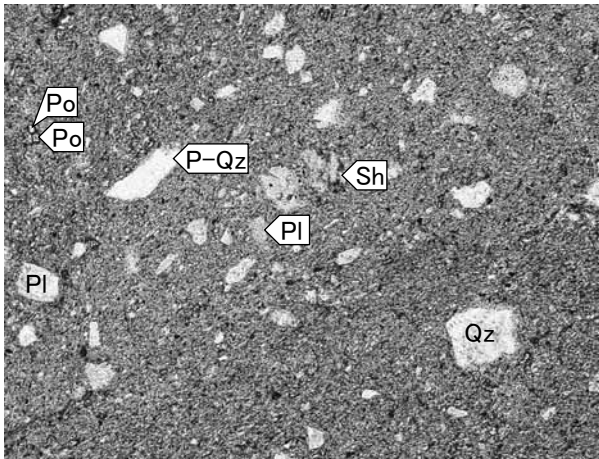
泉寺跡 No.1 は砂粒の全体量が少ないので参考としてグラフを示すのみ)、モード以外の粒径の割合によって、以下の分類を設定することができる。

- 1 類：中粒砂をモードとし、次いで粗粒砂の割合が高い。
- 2 類：粗粒砂、中粒砂、細粒砂の 3 者がともに同程度で割合が高い。
- 3 類：中粒砂をモードとし、次いで粗粒砂と極細粒砂の割合が高い。
- 4 類：中粒砂、細粒砂、極細粒砂の 3 者がともに同程度で割合が高い。
- 5 類：中粒砂をモードとし、次いで細粒砂の割合が高い。
- 6 類：細粒砂をモードとし、次いで中粒砂の割合が高い。
- 7 類：細粒砂と極細粒砂をモードとし、次いで中粒砂の割合が高い。
- 8 類：細粒砂をモードとし、次いで中粒砂と粗粒シルトの割合が高い。

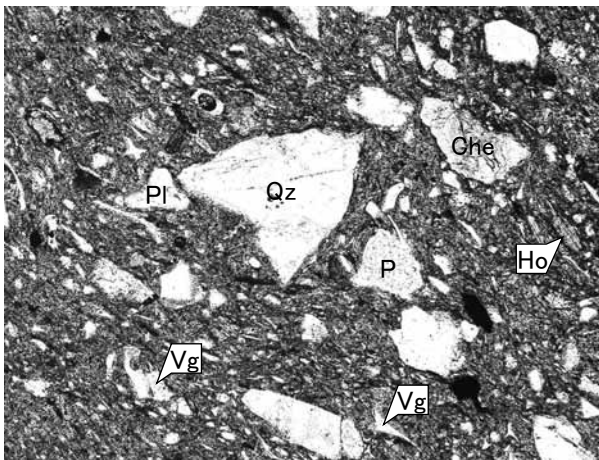
分類としては、1 類から 8 類に向かって粒径組成の細粒傾向が強くなるようにした。各試料の分類は以下の通りである。1 類には下内膳遺跡 No.3、2 類には和泉寺跡 No.5 と下内膳遺跡 No.1、3 類には和泉寺跡 No.7、4 類には和泉寺跡 No.3 と下内膳遺跡 No.2、5 類には和泉寺跡 No.6、6 類には和泉寺跡 No.2、同 No.4、五斗長垣内遺跡 No.1、同 No.2、7 類には五斗長垣内遺跡 No.3、8 類には大町遺跡試料がそれぞれ分類される。

c) 碎屑物・基質・孔隙における碎屑物の割合

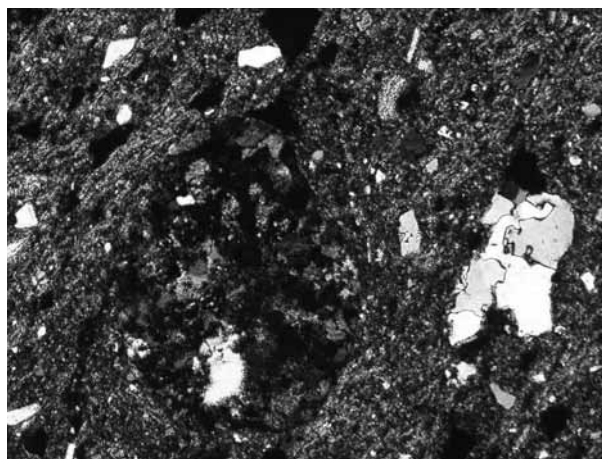
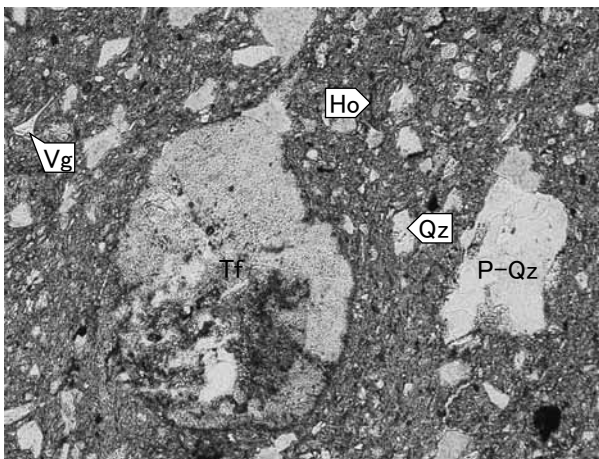
碎屑物の割合が、20%を超える I 類と 10～20%の II 類、10%未満の III 類に分類することができる。I 類は、和泉寺跡 No.7 と下内膳遺跡試料 3 点の計 4 点、III 類は和泉寺跡 No.1 と五斗長垣内遺跡 No.2 の計 2 点であり、これら以外の試料はいずれも II 類に分類される。



1.和泉寺跡 和泉市 No.1 甕 頸部



2.和泉寺跡 和泉市 No.2 甕 体部

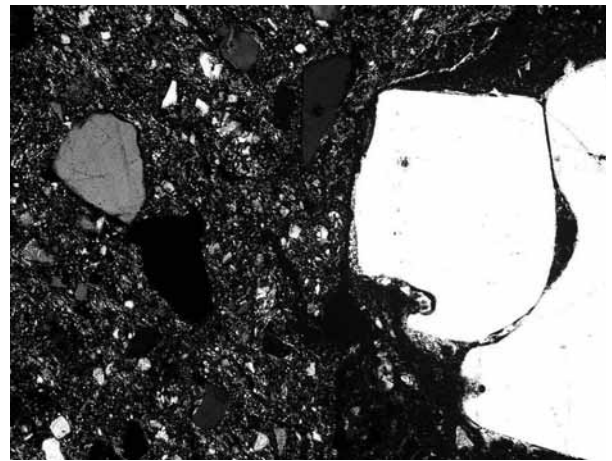
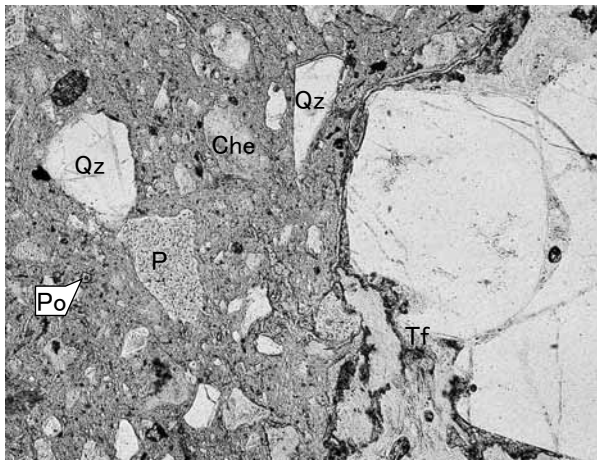


3.和泉寺跡 和泉市 No.3 甕 体部

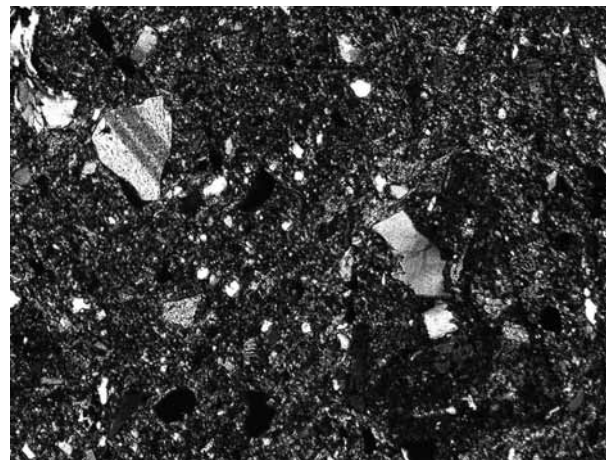
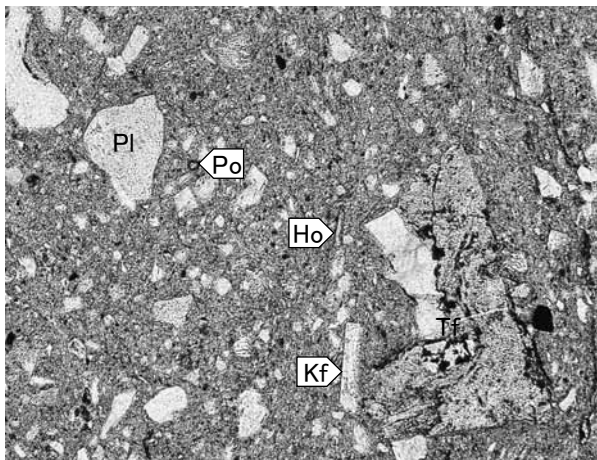
0.5mm

Qz:石英. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Che:チャート. Sh:頁岩. Tf:凝灰岩.
 P-Qz:多結晶石英. Vg:火山ガラス. Po:植物珪酸体. P:孔隙.
 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

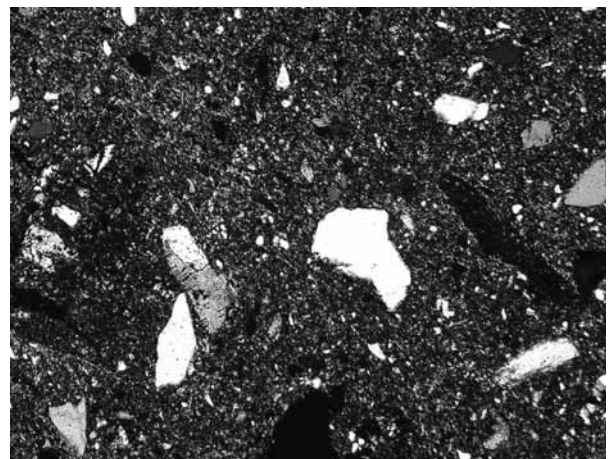
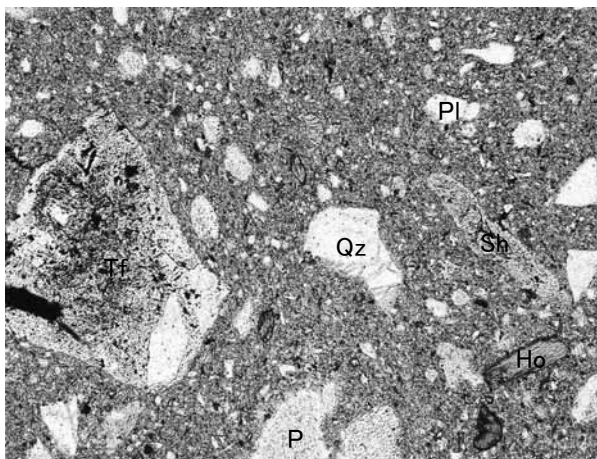
図 146 胎土薄片顕微鏡写真(1)



4.和泉寺跡 和泉市 No.4 器台 脚部



5.和泉寺跡 和泉市 No.5 器台 頸部



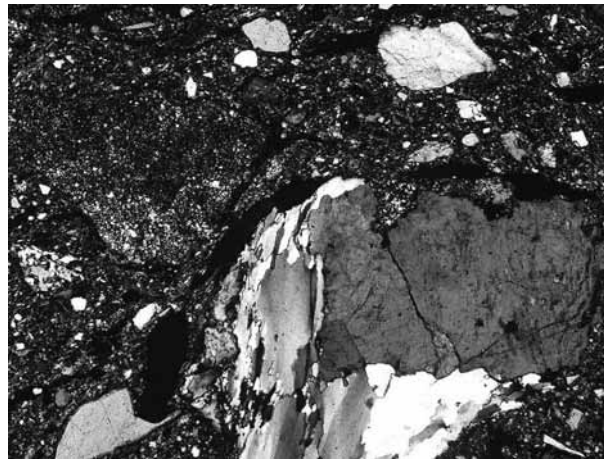
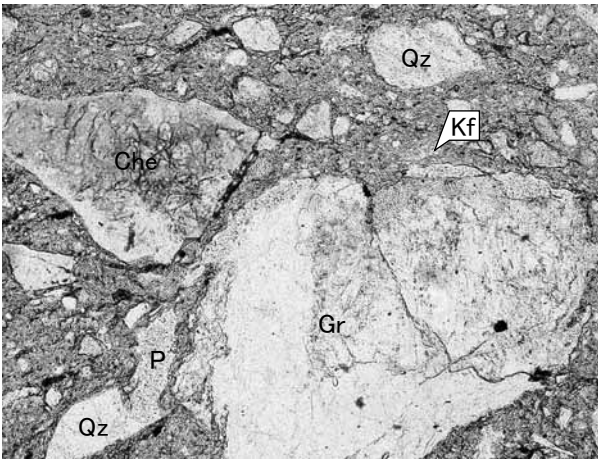
6.和泉寺跡 和泉市 No.6 甕 体部

0.5mm

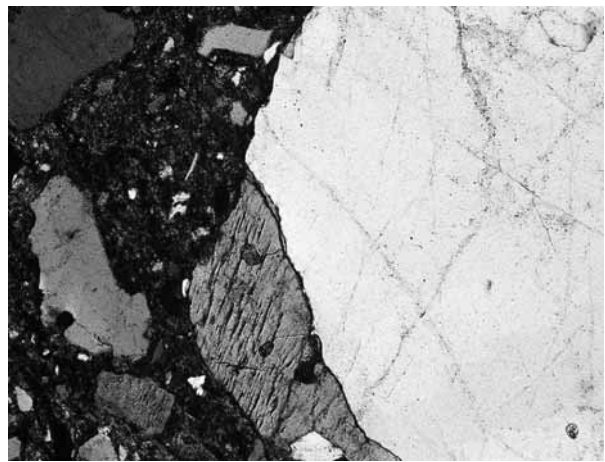
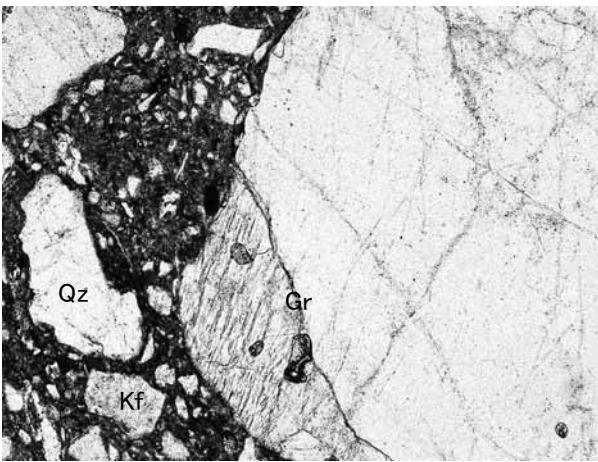
Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Che:チャート. Sh:頁岩. Tf:凝灰岩.
Po:植物珪酸体. P:孔隙.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

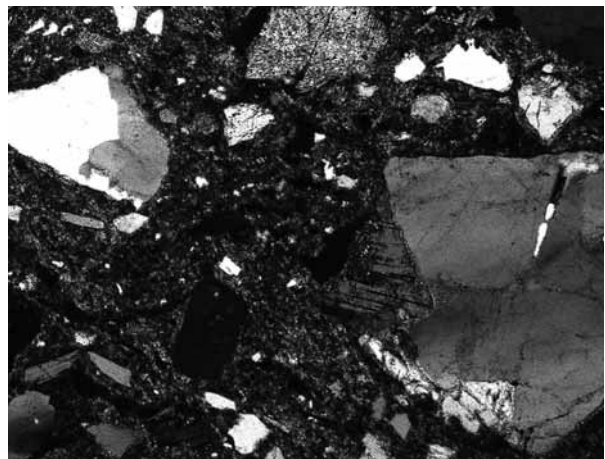
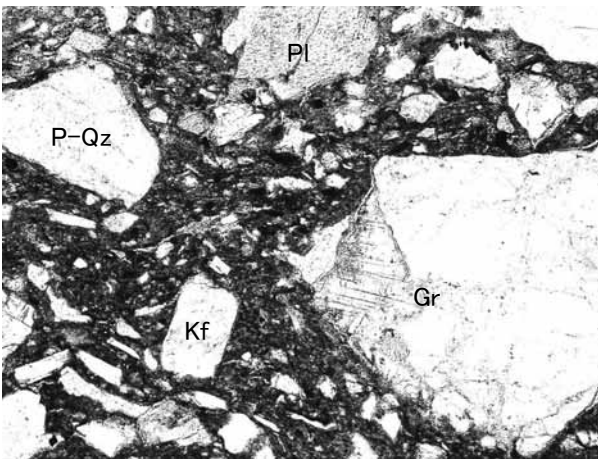
図 147 胎土薄片顕微鏡写真(2)



7.和泉寺跡 和泉市 No.7 鉢 口縁部



8.下内膳遺跡 洲本市 No.1 甕 底部



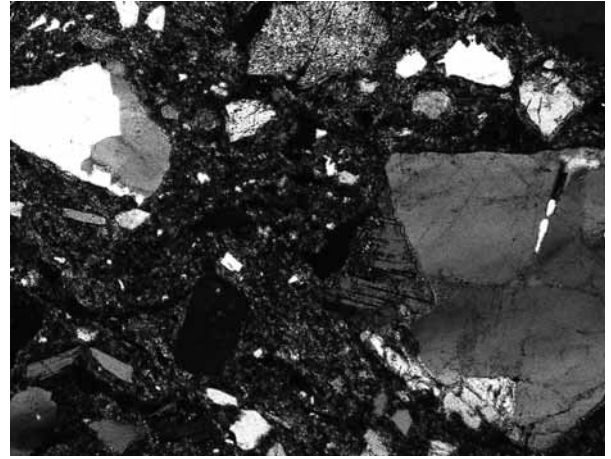
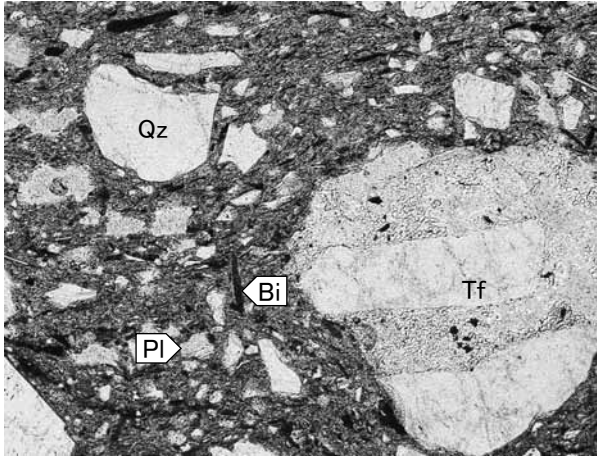
9.下内膳遺跡 洲本市 No.2 甕 底部

0.5mm

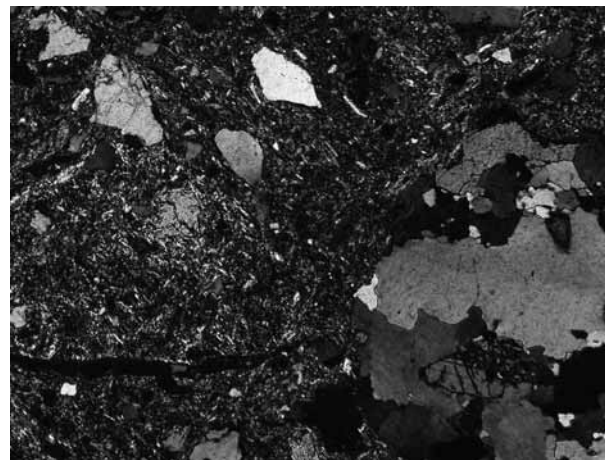
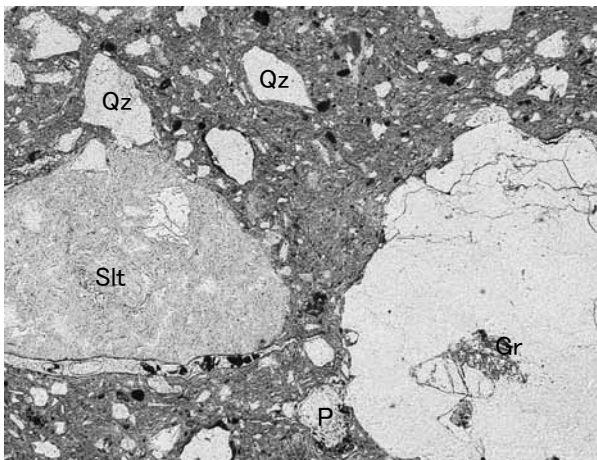
Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Che:チャート. P-Qz:多結晶石英. Gr:花崗岩.
P:孔隙.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

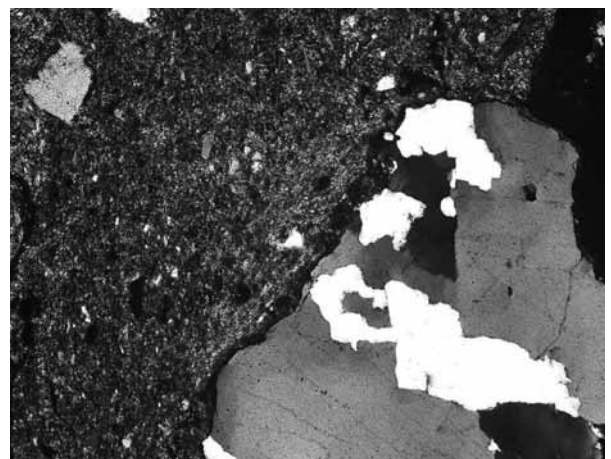
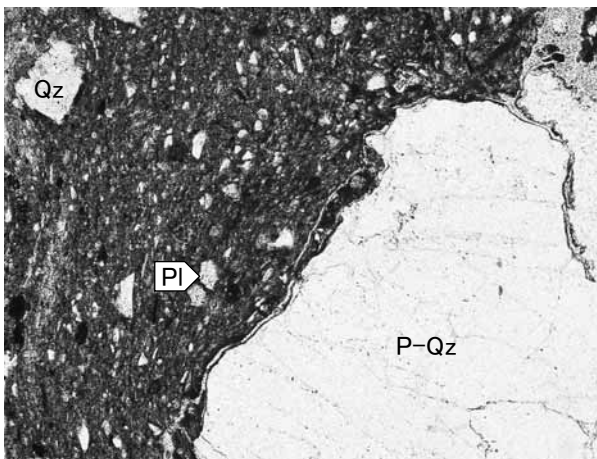
図 148 胎土薄片顕微鏡写真(3)



10.下内膳遺跡 洲本市 No.3 甕 体部



11.五斗長垣内遺跡 淡路市 No.1 甕 底部



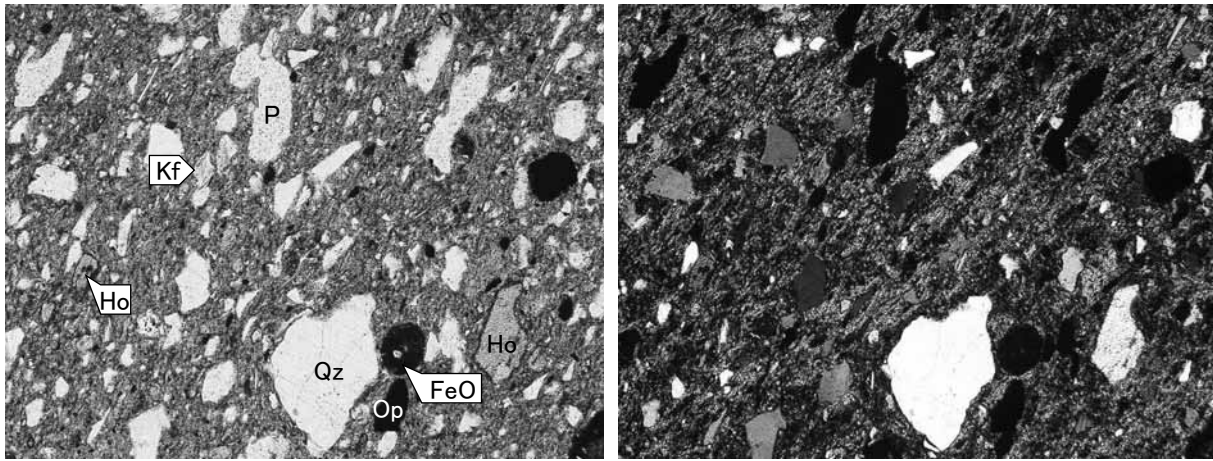
12.五斗長垣内遺跡 淡路市 No.2 甕 口縁部

0.5mm

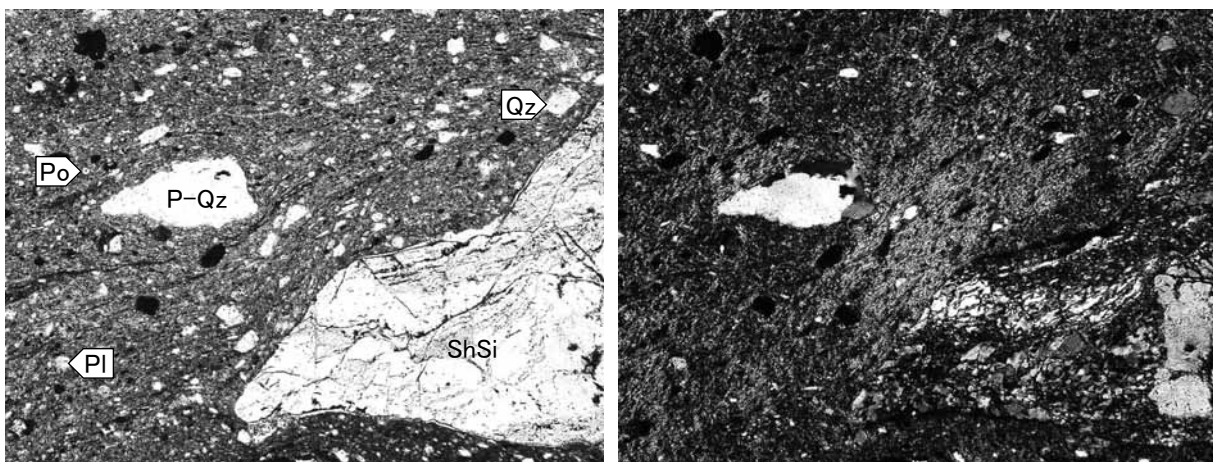
Qz:石英. Pl:斜長石. Bi:黒雲母. Tf:凝灰岩. P-Qz:多結晶石英. Gr:花崗岩.
Slit:砂混じりシルト塊. P:孔隙.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図 149 胎土薄片顕微鏡写真(4)



13.五斗長垣内遺跡 淡路市 No.3 甕 体部



14.大町遺跡 岸和田市 甕 口縁部

0.5mm

Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Op:不透明鉱物. ShSi:珪質頁岩.

P-Qz:多結晶石英. FeO:酸化鉄結核. Po:植物珪酸体. P:孔隙.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図 150 胎土薄片顕微鏡写真(5)

なお、上述した a) ~ c) における分類結果を一覧にして表9 に示す。

(4) 考察

土器胎土における鉱物片・岩石片の組成は、土器の原材料となった土(粘土や砂など)の採取地の地質学的背景を反映していると考えられる。和泉寺跡および大町遺跡の位置する段丘を構成している碎屑物は、槇尾川および松尾川の上流域の丘陵を構成している新第三紀鮮新世～第四紀更新世中期の大阪層群に由来し、その大阪層群を構成する碎屑物は、丘陵背後に広がる和泉山脈東部を構成する地質に由来する。和泉山脈東部を構成する地質は、北縁部には中生代白亜紀後期の領家帯花崗岩類が分布し、その南側には中生代白亜紀後期の凝灰岩や流紋岩からなる泉南流紋岩類が分布し、さらに南側には山脈の主体をなす中生代白亜紀後期の堆積岩類からなる和泉層群が分布する(市原ほか,1986;栗本ほか,1998)。また、下内膳遺跡の位置する洲本川左岸の扇状地

うに B 類の胎土は淡路島北部の地質学的背景と整合することから、淡路島からの搬入品である可能性があると考えられる。しかし、A 類の胎土は和泉寺跡の地質学的背景とも淡路島の下内膳遺跡周辺の地質学的背景とも整合することから、淡路島からの搬入品か在地の土器かを判別することができない。そこで粒径組成をみると、下内膳遺跡試料のうち A 類の 2 点は 2 類と 1 類に分類され C 類の 1 点は 4 類に分類されている。和泉寺跡試料の A 類では淡路型甕とされた No.3 が 4 類、淡路型器台とされた No.5 が 2 類に分類されていることから、これらについては、淡路島からの搬入品の可能性があると考えられる。在地とされた No.6 と No.7 はそれぞれ 5 類と 3 類に分類されており、現時点では下内膳試料との粒径組成の違いが指摘され、これらが在地であることを支持する結果であると言える。粒径組成不明の淡路型甕 No.1 と 6 類に分類された淡路型器台の No.4 については、現時点では淡路島からの搬入品であるか否かの推定はできない。

五斗長垣内遺跡試料の弥生土器 3 点は、上述したように、いずれも遺跡周辺の地質学的背景と整合する胎土であることから淡路島北部の在地の土器であると推定される。

大町遺跡試料は、A 類であることから、在地と淡路島からの搬入の両方の可能性があると考えられる。さらに、粒径組成では、和泉寺跡試料にも下内膳遺跡試料にも認められない 8 類である。

この粒径組成は、時期の違いに起因する可能性もあることから、今後、試料の分析例を蓄積した上で検討する必要があると考えられる。

今回の胎土分析では、地理的に離れていても地質学的背景が同様である地域間の場合には、鉱物組成や岩石組成のみから在地や搬入を推定することの難しさが示された。粒径組成を併用することにより、試料間の比較を行ったが、今後は、より多くの分析例を得ることにより、粒径組成による地域の特性をより確実に把握する必要があると考えられる。

引用文献

- 市原 実・市川浩一郎・山田直利,1986,岸和田地域の地質.地域地質研究報告(5万分の1図幅),地質調査所,148p.
- 栗本史雄・牧本 博・吉田史郎・高橋裕平・駒沢正夫,1998,20万分の1地質図幅「和歌山」,地質調査所.
- 牧本 博・利光誠一・高橋 浩・水野清秀・駒澤正夫・志和龍一,1995,20万分の1地質図幅「徳島」,地質調査所.
- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高,1999,瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察—岩石学的・堆積学的による—.日本文化財科学会第16回大会発表要旨集,120-121.
- 水野清秀・服部 仁・寒川 旭・高橋 浩,1990,明石地域の地質.地域地質研究報告(5万分の1図幅),地質調査所,90p.
- 高橋 浩・寒川 旭・水野清秀・服部 仁,1992,洲本地域の地質.地域地質研究報告(5万分の1図幅),地質調査所,107p.

第9章 総括

第1節 遺構の変遷

ここでは、地区間の各遺構検出面の関係を検討し、遺構の変遷を明らかにする。また、1988年度の大阪府埋蔵文化財協会による調査区（以下「協会調査区」と呼称）は10001-3区に隣接するため、この調査区もあわせて検討を進めていく。

基本層序の対応 はじめに、各調査区の基本層序柱状図および協会調査区の模式図より基本層序を比較し、対応関係を検討する（図151、協会調査区は財団法人大阪府埋蔵文化財協会1988第4図を加筆し再トレース）。

まず、本書で報告した08019-1～08019-4・10001-3区についてみていく。08019-1～08019-4区では、08019-1区の第3・4層に対応する中世以降の水田作土と床土を確認し、08019-1・08019-4区では、いずれも床土である第4層直上で耕作溝を検出した。調査区が狭小である08019-2・08019-3区では遺構を検出できなかったが、一連の遺構検出面であると考えられる。時期は13世紀以降で、近世まで下る可能性がある。08019-1・08019-4区では、それぞれ基本層序第5層および第6層の直上で中世遺構検出面を確認した。両調査区でベース層を連続して確認することはできず、また、08019-1区南部では遺構を確認していないが、出土遺物から12世紀または12～13世紀と考えられる遺構群である。08019-1区では第7層上面で古代の遺構検出面を確認したが、他の調査区では対応する遺構検出面を確認できなかった。また、08019-1～08019-4・10001-3区のすべてで、08019-1区の第9層に対応する砂礫層を確認した。08019-1・08019-4・10001-3区では、上面で自然流路の痕跡を検出したが、調査区が狭小である08019-2・08019-3区では自然流路による洪水堆積層の有無は確定的でない。08019-4区と10001-3区では、08019-4区第10層、10001-3区第8層が一連の自然流路内堆積と考えられる。しかし、10001-3区では、08019-4区に近接する調査区北東壁面で、近世包含層（第4層）の直下が古墳時代包含層（第8層）であり、近世以降に大きく削平されている。そのため、層序から中世の遺構検出面の関係を明らかにすることはできないが、出土遺物からは、08019-4区耕作溝検出面と10001-3区中世上層遺構検出面、08019-4区中世遺構検出面と10001-3区中世下層遺構検出面が、同時期に所属する可能性がある。

次に、10001-3区と協会調査区の関係についてみていく。協会調査区では、現代の盛土下の現代作土以下を9層に大別している。ここでは細別および土層名の詳細は省略し、大別土層と検出された遺構のみを記述する。遺構検出面は第Ⅱ～Ⅷ面の7面に分けられ、第Ⅱ遺構検出面は第2層下面、第Ⅲ遺構検出面は第5層中位、第Ⅴ遺構検出面は第5層下面と第7層下面、第Ⅵ～Ⅷ遺構検出面は第7層下面で検出された。第Ⅱ遺構検出面では、埋土に少量の18世紀以降の遺物を含む南北方向の小溝が検出された。第Ⅲ遺構検出面では埋土に少量の奈良時代の遺物を含む南北方向の小溝が検出された。第Ⅳ遺構検出面では壁面でピット状遺構および土坑状遺構が検出された。埋土の違いにより第Ⅲ遺構検出面と分けられているが、第Ⅲ遺構検出面に伴う可能性もある

とされている。第Ⅴ遺構検出面では埋土に少量の飛鳥～奈良時代の遺物を含む落ち込みが検出された。第Ⅵ遺構検出面では少量の6世紀後半の遺物を含む土坑が検出された。第Ⅶ遺構検出面では、弥生時代から古墳時代後期の遺物を含む土坑、ピット、溝が検出された。第Ⅷ遺構検出面では、弥生時代中期後半の遺物を含む自然流路が検出された。

以上の遺構の内容と時期、検出面の層位から、第Ⅱ面は10001-3区耕作溝検出面と、第Ⅲ・Ⅳ面は中世上層遺構検出面と、第Ⅴ面は中世下層遺構検出面と、第Ⅷ面は10001-3区第10層上面の自然流路痕跡と対応するものと判断できる。協会調査区第Ⅲ～Ⅴ遺構検出面は奈良～平安時代と考えられているが、時期比定の根拠となっている出土遺物は少量である。今回の調査でも中世の遺構埋土からベース層以下由来等の混入遺物が多数出土したことから、これらについても混入と考え、本報告で推定した時期を優先する。第Ⅵ・Ⅶ遺構検出面との対応は不明であるが、これらの遺構検出面で検出された遺構は協会調査区の南東部に偏っていることから、10001-3区外南東部へ広がる遺構検出面である可能性が考えられる。また、協会調査区では矢板を用いずに調査を行っているため、調査区壁面の勾配が大きく、実際に平面的に調査された区域は10001-3区で遺構検出を行った範囲と直接はつながらない。このため、第Ⅷ面で検出された自然流路の底面は、10001-3区南東隅で確認できた部分よりかなり下がっているが、南東へ向かって徐々に傾斜していくものと推定できる。

遺構の変遷 以上の地区間の層序、遺構検出面の関係をふまえ、遺構の変遷を示す(図152)。協会調査区については、先の検討から10001-3区での遺構検出面との対応を判断できる遺構のみを表示する。また、遺構を検出できなかった08019-2・3区は省略する。

弥生時代後期～古墳時代後期においては、すべての地区で自然流路の痕跡を検出した。調査区周辺の地形から判断して、すべて南東から北西または東から西方向への流れと推定できる。自然流路内堆積物出土遺物の時期幅は弥生時代後期～古墳時代後期であり、この時期に調査区周辺が自然流路や洪水により堆積物が流入する環境であったものと考えられる。また、これらの自然流路の底面となる層は大礫を含む粗砂層で、調査区全域に堆積している。したがって、弥生時代後期以前においては、より活発な河川堆積作用を受けていたのが、弥生時代後期～古墳時代後期にかけては、それ以前より埋積作用が小さくなることがわかる。古墳時代後期以前においては明確な人為的遺構は確認できていないが、庄内式前半の自然流路内土器溜まりは、人為的に置かれたものである可能性が高い。現在のところ確認できていないものの、庄内式前半には周囲に居住域があったものと推定できる。また、遺物が多く出土している弥生時代後期および布留式後半についても、周囲に居住域があった可能性が高い。なお、自然流路内堆積物出土遺物の時期幅はいずれも弥生時代後期～古墳時代後期であるが、次節で検討するように、出土遺物は出土位置や堆積層により所属時期の比率に差異がみとめられる。時期による居住域の相違を反映しているものと考えられる。

古代の遺構検出面は08019-1区南部のみで検出した。耕作に関わる遺構と推定したが、遺構の

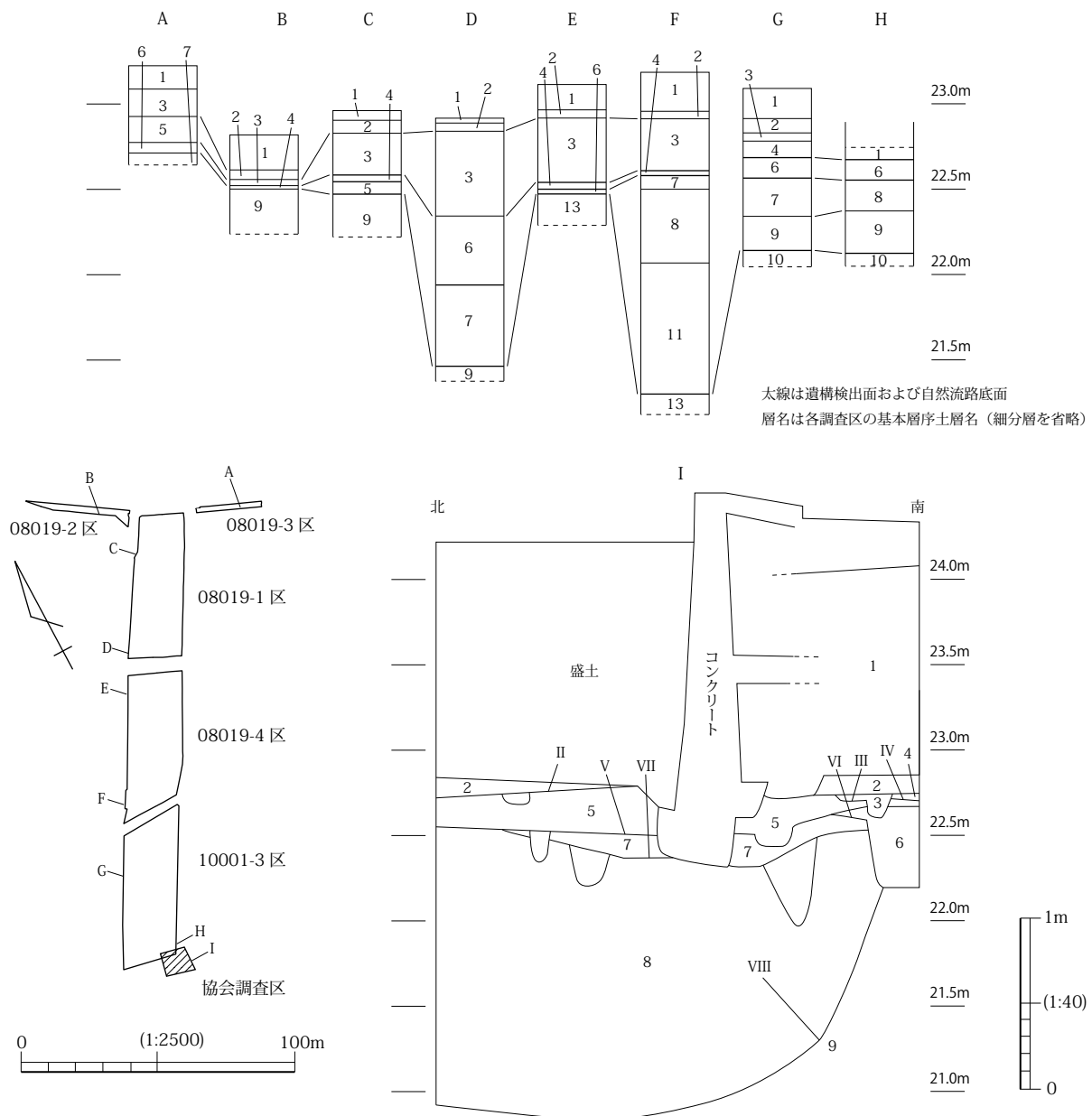


図 151 層序柱状図・模式図

性格は明らかではなく、また、時期についても上下層の形成時期からから古代と推定したものの、確実ではない。ただし、08019-1区では奈良時代の遺物が比較的まとまって出土したのに対し、その他の調査区では古代に限定できる遺物の出土が非常に少ないことから、古代に調査区近辺において何らかの人間活動が行われたとすれば、08019-1区周辺であると推測できる。ただし、08019-1区の古代遺構検出面は洪水堆積物に覆われており、古代以降も洪水堆積物の流入する安定しない環境であったものと考えられる。

12～13世紀には、建物等明確な居住域を確認することができる。建物は特に08019-1・4区のいずれも北側に集中している。自然化学分析の成果より08019-1区南側の空閑地では水田耕作が行われていたものと推定でき、08019-4区南側についてもその可能性がある。10001-3区でも柱穴を確認しているが、明確な建物の構成は明らかでない。貯水溝の可能性のある溝を検出した

ことから、主な居住域は 08019-1・4 区の北側で、10001-3 区等南側は水田耕作等を行う生産域であったものと推定できる。

15～16 世紀には、それまで遺構が希薄であった 10001-3 区に建物が集中するようになる。建物の構成を明らかにし得たものはいずれも狭小であるが、おそらく居住に使用され得る規模の建物も存在したものと考えられる。08019-1・4 区の水田耕作に伴う溝群は、先述の建物の廃絶後である 13 世紀以降としか判断できないが、作土出土遺物や層序より、近世まで水田耕作が営まれたものと想定して図示した。詳細な時期は明らかにし得ないが、15～16 世紀頃には、13 世紀以前と異なり、08019-4 区以北が生産域、10001-3 区が居住域と、土地利用のあり方が変化したものと考えられる。

近世には全域で耕作溝が検出されるようになる。17 世紀に所属する明確な遺物の出土がなかったため 18～19 世紀としたが、おそらく 17 世紀にも連綿と耕作が行われていたのであろう。協会調査区でも南北方向の小溝群が検出されている。報告書では写真掲載のみのため図示できないが、10001-3 区から連続するものと推定できる。

以上のように、本書で報告する調査区内の土地利用は、弥生時代後期～古墳時代後期の自然流路、古代の耕作、中世の居住域と生産域、近世の生産域という変遷をたどる。

周辺地割の形成時期について 次に、こうした遺構変遷の中で、和泉寺跡の推定寺域の根拠ともされてきた地割がいつ形成されたのかを検討する。

各地区の報告において、08019-1・4 区では耕作溝検出面と中世遺構検出面の各 2 面、10001-3 区では耕作溝検出面、中世上層遺構検出面、中世下層遺構検出面の 3 面の遺構主軸方向分布を示した(図 15・40・108)。その結果、10001-3 区中世上層遺構検出面の建物群の主軸方向を除き、地区ごとに一定の方向性がみとめられたため、ここでは、これら 10001-3 区の建物群を除き、検出面に関わらず地区ごとの遺構主軸分布をまとめて提示する(図 153)。内側から順に、08019-1 区、08019-4 区、10001-3 区を示す。

各地区の遺構主軸分布を比較すると、08019-1 区および 08019-4 区では、北東方向では N—26°—46°—E の間に集中しており、北西方向はややばらつきがあるものの、概ね北東方向に直交する範囲内に分布する。一方、10001-3 区の主軸方向は座標北から東西 5°以内に集中しており、この南北方向よりはばらつきがあるものの、直交する座標東西付近にも分布がみられる。したがって、08019-1・4 区と 10001-3 区との間で主軸方向の分布が大きく異なることが指摘できる。ここで、現在より地割がよく残存する 1961 年度撮影空中写真によって、推定される和泉国府および和泉寺跡周辺の地割と調査によって明らかになった近世以前の地割を比較する(図 154、図版 1—1)。図には方 5 町と推定した際の推定国府跡と和泉寺跡の推定寺域、遺構主軸分布を検討した 3 つの調査区の位置を示した。これを見ると、推定国府域と周囲の広い範囲において、和泉郡域の条里制に則った、海岸線に平行する方向、N—46°—E の傾きをもつ地割が確認される。08019-1・4 区調査で確認された地割も概ねこの方向に則っていると言えよう。これらと異なる方向の地割



図 152 遺構変遷図

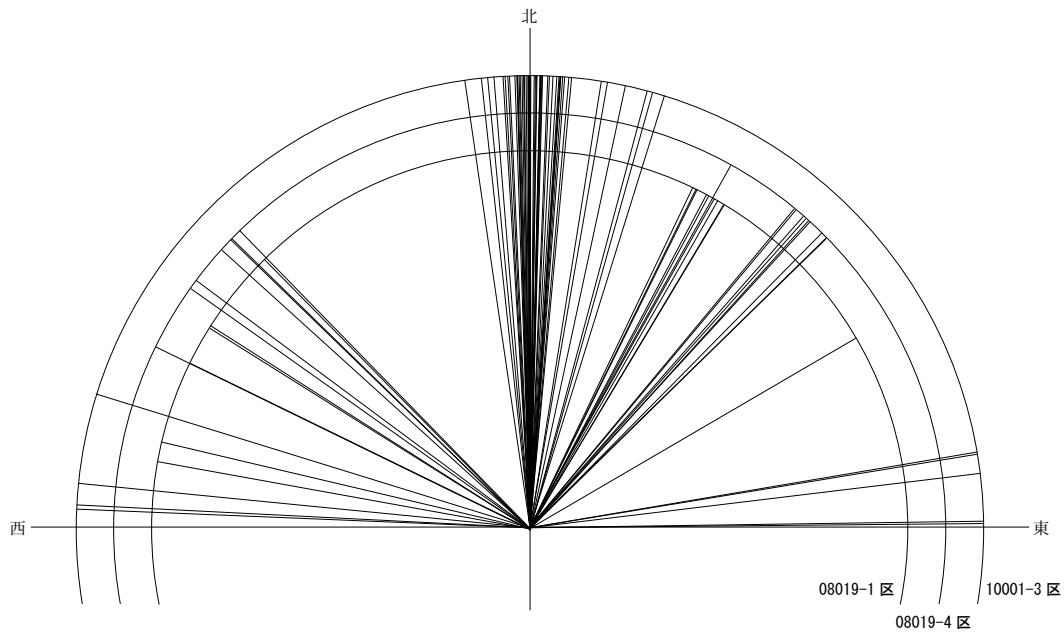
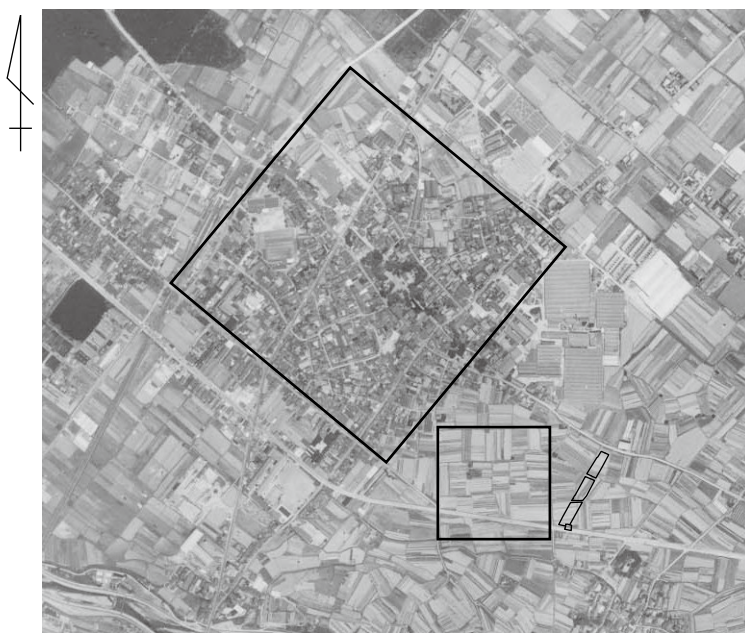


図 153 遺構主軸方向分布比較図



左：和泉国府推定域 右：和泉寺跡推定寺域

図 154 和泉寺跡推定寺域・和泉国府推定域
(昭和 36 年度大阪府撮影空中写真に加筆)

がみとめられるのが、和泉寺跡の推定寺域とその周辺、および南方を流れる槇尾川の周囲である。槇尾川の周囲では、両岸にわたって一定の方向性のみとめられない地割が確認でき、槇尾川の氾濫の影響を受けたものと考えられる。和泉寺跡の推定寺域とその周辺では、ほぼ正方位の地割がみとめられ、推定寺域外となる 10001-3 区でも同じ方向に則っている。したがって、和泉寺跡推定寺域の根拠となる正方位の地割は、今回の調査で確認できた 12～13 世紀まで遡ってみとめられるということがわか

る。一方で、古代以前については、08019-1 区で遺構を確認したものの主軸方向を検討できるものではなく、全体として古代の遺物自体が非常に少量であった。また、遺構を確認した 08019-1 区でも、古代以降に洪水堆積物の流入を受けていることから、自然流路を確認した弥生時代後期から古墳時代後期のみでなく、古代に至っても安定した環境にはなかったものと推定できる。この 08019-1 区自然流路は湾曲せずに流れていたとすれば推定寺域北東部にかかることになり、推定寺域内も安定した環境ではなかった可能性も示唆する。こうした状況を考慮すると、和泉寺跡

推定寺域の根拠となる地割がそのまま古代に遡るものであるとは現時点では言い難い。平成20年度の和泉市教育委員会による推定寺域内西部の調査で奈良時代の東西方向の溝が確認されていることから、和泉寺跡が正方位であったという推定は妥当であり、和泉寺跡周囲のみに残る正方位の地割は寺院の方位に由来するものではあろう。しかし、和泉寺跡推定寺域外の東側、調査区10001-3区全域まで正方位地割がみとめられることから、古代寺院の廃絶後に正方位の地割が寺域外東方へ拡大された可能性も考慮する必要がある。今回の調査結果からは、少なくとも12～13世紀までは現在の地割が遡ることが確認できたが、現在に残る正方位地割の範囲がそのまま古代寺院跡の寺域であるとする根拠は得られず、今回の調査から和泉寺跡の寺域範囲を確定することはできないと考える。平成24年度報告予定の調査区もあわせ、あらためて地割形成時期を検討すること、また、検出できた古代の遺構からのみでなく、古代の遺物の出土地点や出土量の検討からも、古代の土地利用を探っていくことが今後の課題である。

第2節 弥生時代から古墳時代遺物の様相

08019-1区、08019-4区、10001-3区では、弥生時代後期～古墳時代後期の自然流路を検出し、自然流路内堆積物から土器等が多く出土した。先述のように該期の人為的遺構は明確でないが、周囲に居住域が存在したものと推定できる。ここでは、特に多量に出土した弥生時代～布留式後半の遺物を中心に出土土器の種別組成、器種組成についてまとめたうえで、特徴的な遺物について検討する。なお、08019-1区では古代以降にも引き続き洪水堆積物の流入がみとめられるが、他の調査区では古代の遺物の出土はないため、ここでは、08019-1区については古墳時代以前の基本層序第7層以下を対象とする。

土器の種別・器種組成 まず、出土土器の種別および器種組成を検討する。種別や器種等の組成の比較を行うには本来出土したすべての遺物を対象とするべきであるが、時間的な制約と報告者の限界によりすべてを対象とはできなかった。ここでは、実測図を掲載していない遺物も含め、種別または器種を限定できる遺物のうち、口縁部15%以上あるいは底部50%以上が残存する資料を各1点と数える。本来同一固体である口縁部と底部を重複して数えている危険性はあるが、種別や器種に関わらず同条件と考える。体部片は接合関係の明らかでない場合は同一固体か否かの判断が難しく、また、器種により特定の難易度に差異があることから対象とはしない。特に高杯は杯部片や脚柱部のみでも器種の特定が容易なため、杯部は底部のみではなく口縁部が残存するもの、脚部は脚柱部のみでなく裾部まで残存するもののみを数えることとする。文様や形態の特徴的なものは残存度が低くても実測図を掲載しているため、掲載遺物でも1点として数えられないものもある。

以上の基準により各自然流路出土遺物を須恵器、土師器、弥生土器の種別ごとに点数を示した(表10)。以下では、08019-4区については自然流路031土器溜まり出土遺物を「土器溜まり」出土、それを除いたものを「08019-4区自然流路」出土として扱う。須恵器は中期後半～後期のもの、

土師器は中期以前のもの、弥生土器は後期～庄内式併行期のものがある。いずれの自然流路でも須恵器は非常に少ない。また、08019-4区自然流路と土器溜まりを比較すると、土器溜まりの点数の方が多いこと、自然流路では土師器が6割を占めるが、土器溜まりでは弥生土器のみが出土することがわかる。また、10001-3区北側自然流路と南側自然流路では、北側自然流路の方が出土遺物が多い。南側自然流路は全体を調査していないものの、全体を掘削していない基本層序第8・9B層は小片を少量含むのみであるため実態を反映しているものと考えられる。また、北側自然流路では弥生土器が土師器より多く出土している。10001-3区北側自然流路は08019-4区から続く一連のものであるが、出土層位により主体となる時期が異なっていることがわかる。

次に、各自然流路の器種組成をみていく（表11～13）。各表とも括弧内の数字は生駒西麓産のものを示す。以下、土師器、弥生土器の組成については、自然流路ではないが、和泉地域の溝出土遺物の組成を比較した市村（2009b）を参考に、組成の傾向を検討する。須恵器は非常に少なく統計的な検討は不可能である。土師器は、08019-4区で一定量が出土している。最も多いのが甕である点は該期に一般的な傾向であるが、小型丸底壺が甕に次いで多く壺を上回る点、高杯が比較的多く壺とほぼ同量出土している点が特徴的である。弥生土器は、08019-4区の自然流路、土器溜まり、10001-3区北側自然流路で一定量が出土している。いずれも弥生時代後期後葉～庄内式併行期の土器を主体とするが、10001-3区の方が後期後葉の土器をより多く含み、時期幅もやや広い。08019-4区自然流路、10001-3区北側自然流路では類似した組成を示しており、これは、和泉地域溝出土遺物の庄内初頭頃の一般的組成に類似する。一方、08019-4区土器溜まりでは、甕が際立って多い点の特徴的である。土器溜まりでは完形に近い甕が集中して出土した箇所がみとめられたことから、この組成の差異は、土器溜まりが廃棄ではなく人為的に置かれたものとする推定を裏付けるものと考えられる。

土師器高杯の接合技法 土師器高杯は、上述の基準からは外れるものも含め器種判別の可能なものが多数出土している。特に高杯の接合方法の判別できるものが多くあるため、杯部底部の残存するすべての資料を対象として接合方法についてまとめておく。各地区の出土遺物報告と同様、中野（2010）を参考に分類し、細分については判断できるもののみ示した（表14）。合計点数は杯部底部の残存する資料点数で、不明としたものは欠損部がなく接合方法を観察できないものや摩滅等により接合方法を判断できないものである。これより、杯部底部に棒状工具による刺突痕跡の残る接合法Cが全体で7割以上を占めることがわかる。杯部側から粘土を充填する接合法Dは1割未満である。刺突痕跡のあるものは杯部底部のみの残存でも判別しやすいという点は考慮すべきであるが、不明のものがすべてC以外の接合法であったとしても、Cが多数を占めることに変わりはない。自然流路出土土師器は、有稜高杯もあるが、杯部形態の分かるものでは外反高杯が大半であり、また、これらの土師器は小型丸底壺等から布留式後半を主体とする資料と判断できる。したがって、自然流路出土土師器では布留式後半の外反高杯の多くが接合法Cを用いているものと推測できる。

表 10 自然流路出土土器種別組成

| | 08019-1 区 | 08019-4 区自然流路 | | 10001-3 区自然流路 8・9 層 | |
|------|------------|---------------|-------|---------------------|----|
| | 自然流路 7・8 層 | 8～11 層 | 土器溜まり | 北側 | 南側 |
| 須恵器 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 土師器 | 2 | 58 | 0 | 7 | 4 |
| 弥生土器 | 0 | 35 | 138 | 52 | 7 |

表 11 自然流路出土須恵器器種組成

| | 杯蓋 | 高杯 | 甗 | 計 |
|-----------------------|----|----|---|---|
| 08019-4 区自然流路 8～11 層 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 10001-3 区北側自然流路 8・9 層 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 10001-3 区南側自然流路 8・9 層 | 1 | 1 | 0 | 2 |

表 12 自然流路出土土師器器種組成

| | | 小丸 | 壺 | 甗 | 高杯 | 鉢 | 計 |
|-----------------------|--------|------|------|------|------|-----|----|
| 08019-1 区自然流路 7・8 層 | 点数 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | 割合 (%) | 50.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 08019-4 区自然流路 8～11 層 | 点数 | 15 | 11 | 22 | 9 | 1 | 58 |
| | 割合 (%) | 25.9 | 19.0 | 37.9 | 15.5 | 1.7 | |
| 10001-3 区北側自然流路 8・9 層 | 点数 | 2 | 0 | 3 | 2 | 0 | 7 |
| | 割合 (%) | 28.6 | 0.0 | 42.9 | 28.6 | 0.0 | |
| 10001-3 区南側自然流路 8・9 層 | 点数 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 4 |
| | 割合 (%) | 25.0 | 0.0 | 25.0 | 50.0 | 0.0 | |

表 13 自然流路出土弥生土器器種組成

| | | 壺 | 甗 | 高杯 | 鉢 | 器台 | 製塩 | 計 |
|-----------------------|--------|-------|-------|------|-----|-----|-----|--------|
| 08019-4 区自然流路 8～11 層 | 点数 | 9 | 13(2) | 6 | 3 | 1 | 3 | 35(2) |
| | 割合 (%) | 25.7 | 37.1 | 17.1 | 8.6 | 2.9 | 8.6 | |
| 08019-4 区自然流路土器溜まり | 点数 | 13 | 90(1) | 17 | 12 | 2 | 4 | 138(1) |
| | 割合 (%) | 9.4 | 65.2 | 12.3 | 8.7 | 1.4 | 2.9 | |
| 10001-3 区北側自然流路 8・9 層 | 点数 | 16(1) | 21 | 9 | 4 | 0 | 2 | 52(1) |
| | 割合 (%) | 30.8 | 40.4 | 17.3 | 7.7 | 0.0 | 3.8 | |
| 10001-3 区南側自然流路 8・9 層 | 点数 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 割合 (%) | 57.1 | 42.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |

表 14 自然流路出土土師器高杯の接合技法

| | | C | Ci | D | D1 | D2a | D2b | 不明 | 計 |
|-----------------------|--------|------|------|-----|-----|-----|------|------|-----|
| 08019-1 区自然流路 7・8 層 | 点数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 割合 (%) | 50.0 | 50.0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 08019-4 区自然流路 8～11 層 | 点数 | 69 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 17 | 88 |
| | 割合 (%) | 78.4 | 1.1 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 19.3 | |
| 10001-3 区北側自然流路 8・9 層 | 点数 | 6 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 12 |
| | 割合 (%) | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 8.3 | 8.3 | 0.0 | 33.3 | |
| 10001-3 区南側自然流路 8・9 層 | 点数 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 8 |
| | 割合 (%) | 62.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 25.0 | |
| 総計 | 点数 | 81 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 23 | 110 |
| | 割合 (%) | 73.6 | 1.8 | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 20.9 | |

弥生形甕の特徴 弥生時代後期から庄内式併行期の甕は多く出土したが、大半が弥生形甕である。ここでは口縁部形態や技法状の特徴についてまとめておく。

口縁部形態は、丸くおさめるもの、鈍い端面をもつものが比較的多くみられる。出土遺物報告では個々を記述したが、ここでは、西村（1996）を参考に、前者を「h」、後者を「g」とし、後者の中で特に端部にタタキを施すことにより鈍い端面をもつものを「g'」とする。端部がわずかに上方に拡張するもの、複合口縁状のもの等もみられるが、固体差が大きいため、その他としてまとめる。以上の分類に基づき口縁部形態の点数と割合を示す（表 15）。同一固体を重複して数えることを避けるため、先の基準に従い口縁部が 15%以上残存するもののみを対象としている。括弧内は生駒西麓産のものを示す。なお、10001-3 区南側自然流路は口縁部の残存度の低いもののみで対象資料はない。

口縁部形態についてみると、08019-4 区では、自然流路、土器溜まりとも端部を丸くおさめる「h」が 7 割以上を占め、「g」あるいは「g'」がそれに続く。一方、10001-3 区北側自然流路では「g」および「h」が主体であるが、「g」がやや多い。その他の形態のものも少数みとめられるが、生駒西麓産のものがその他に含まれることから、在地のものは概ね「h」「g」「g'」であると言える。また、10001-3 区北側自然流路は資料数が十分ではないものの、08019-4 区との間で割合に差異がみとめられ、10001-3 区の資料の方が後期後葉の土器をより多く含むという時期差を反映している可能性がある。また、こうした口縁部形態と関連すると考えられる特徴として、頸部までタタキの痕跡が残るものや口縁部途中で粘土接合痕が残るといった特徴をもつ甕の存在が挙げられる。こうした特徴をもつものは、08019-4 区自然流路、土器溜まり、10001-3 区北側自然流路でそれぞれ 3 点、23 点、3 点みとめられる。口縁部につまみ上げや強いヨコナデを施すことがほとんどないために、こうした成形時の痕跡を顕著に残すものと考えられる。

次に、体部外面のタタキの向きについて検討する。タタキは体部の上部、中央部、下部で異な

表 15 自然流路出土弥生形甕の口縁部形態

| | | g | g' | h | その他 | 計 |
|-----------------------|--------|------|-----|------|------|-------|
| 08019-4 区自然流路 8～11 層 | 点数 | 2 | 0 | 7(1) | 1(1) | 10(2) |
| | 割合 (%) | 20.0 | 0.0 | 70.0 | 10.0 | |
| 08019-4 区自然流路土器溜まり | 点数 | 9 | 4 | 44 | 3(1) | 60(1) |
| | 割合 (%) | 15.0 | 6.7 | 73.3 | 5.0 | |
| 10001-3 区北側自然流路 8・9 層 | 点数 | 6 | 0 | 4 | 1 | 11 |
| | 割合 (%) | 54.5 | 0.0 | 36.4 | 9.1 | |

表 16 自然流路出土弥生形甕の外面タタキ

| | | 右上がり | 左上がり | 横位 | 計 |
|-----------------------|--------|-------|------|------|-------|
| 08019-4 区自然流路 8～11 層 | 点数 | 8(1) | 0 | 2 | 10(1) |
| | 割合 (%) | 80.0 | 0.0 | 20.0 | |
| 08019-4 区自然流路土器溜まり | 点数 | 50(1) | 1 | 11 | 62(1) |
| | 割合 (%) | 80.6 | 1.6 | 17.7 | |
| 10001-3 区北側自然流路 8・9 層 | 点数 | 7 | 1 | 2 | 10 |
| | 割合 (%) | 70.0 | 10.0 | 20.0 | |

るものも多いが、こうしたものは上部が右上がり、中央部が横位、下部が左上がりとなっており、大形のものが多い（594・598 他）。片手で土器を支え片手でタタキ板を持つ際に、大形のものでは口縁部側と底部側でタタキ板が逆方向を向くことによるものと考えられる。したがって、口縁部側すなわち体部上部の向きが本来の志向を反映するものと捉え、体部上部のタタキの向きについて点数を示す（表 16）。口縁部形態の検討と同様、口縁部が 15%以上残存するもののみを対象としている。なお、10001-3 区南側自然流路は口縁部の残存度の低いもののみで対象資料はない。表 16 より、いずれも 7～8 割が右上がりであることが指摘できる。

以上より、自然流路から出土した弥生時代後期から庄内式併行期の弥生形甕について、口縁端部をまるくおさめ、外面に右上がりタタキを施すものが主流であるとまとめられる。また、口縁部形態では鈍い端面をもつものを一定量含んでおり、後期後葉段階ではこの形態も主流であった可能性があるが、庄内式併行期には口縁端部をまるくおさめるものが大半である。

淡路型甕・淡路型器台について 器種組成の提示では生駒西麓産のもの点数も示したが、弥生土器（表 13）で 232 点中 4 点、1.7%と少ない。これら以外で搬入品の可能性のあるものとして、08019-4 区土器溜まりから北近畿からの搬入品の可能性のある甕 1 点(550)が出土している。また、東海や播磨、吉備の影響を受けた可能性のある土器もみられるものの、胎土からは在地産と考えられるものが大半で、搬入品と断定できるものはない。このように、他地域からの搬入品や他地域の影響を直接的に受けたことを示す土器が少ない中で、口縁部にタタキによる刻目状痕跡をもつ甕 7 点（453・561・563・572・599・848・855）、口縁部にタタキによる刻目状痕跡をもつ鉢 1 点（655）、複合口縁状の器台 5 点（496・661・662・723・912）と、淡路島の影響を受けたとされるものが比較的多く出土していることは特徴的である。胎土分析の成果も参考に、これらの淡路型の土器について検討する。

口縁部にタタキによる刻目状痕跡をもつ淡路型甕は、北淡路において弥生時代後期後半に出現し、庄内式併行期にかけて、淡路島中部～南部、紀伊、和泉、摂津へと広がるとされる（森岡 2003）。また、淡路島以外で出土する淡路型甕は、淡路島産の搬入品と在地産に分けられることも指摘されている。本書で報告した甕 7 点、鉢 1 点のうち、肉眼観察で胎土が在地と異なると思われたものは甕 3 点（561・563・848）である。特にこのうち 2 点（561・563）は、黒雲母を含み褐色を呈する胎土が淡路島北部または中部の土器に類似すると思われ、口縁部内面に工具による調整痕がみとめられる点も、淡路型甕の特徴と一致していた。また、1 点（848）については、淡路島出土土器との胎土の類似性は顕著でないものの、口縁部が内湾する点が他の土器とは異なって特徴的であり、こうした形態は淡路島に類例がみとめられるものであることから、淡路島との関連性があるものと考えた。以上より、甕 3 点（561・563・848）の胎土分析を行った。

淡路型器台は、庄内式併行期に淡路島に多く出土するものとして提唱され、精製タイプ、粗製タイプの 2 種がある。淡路島内では特に北部に多く、東播磨でも出土がみられ、和泉、中河内、大和にも広がるとされる（池田 2003、森岡 2003）。和泉寺跡、府中遺跡では、本書で報告する地

区において計5点(496・661・662・723・912)が出土し、分析試料とした平成24年度報告予定の09017-2区から出土したもの(図128—1)もある。いずれも複合口縁をもつ精製タイプとされるものである。これらのうち4点(496・661・662・128-1)は橙色系、2点(723・912)は白色系を呈するが、後者は表面が剥離しており、肉眼観察では鉱物組成は類似し、いずれも在地の胎土と思われた。このうち2点(912、128-1)の胎土分析を行った。

以上に加え、形態や製作技法から在地産と考えられる甕、鉢各1点、淡路島北部の淡路市五斗長垣内遺跡出土甕3点、淡路島中部の洲本市下内膳遺跡出土甕3点、岸和田市大町遺跡出土の庄内式併行期の淡路型甕1点(図128—2)を分析対象とし、計14点の分析を行った。

胎土分析の結果、まず、淡路型甕1点(563)については五斗長垣内遺跡試料と類似し、搬入品の可能性が指摘された。その他の和泉寺跡・府中遺跡試料、下内膳遺跡試料、大町遺跡試料は、鉱物・岩石組成では一致し、また、3遺跡の地質学的背景が一致すると判断された。この結果からは個々の土器が在地産か搬入品かは判断できないことになるが、淡路市五斗長垣内遺跡試料は鉱物・岩石組成が異なっていることから、淡路型甕1点(563)以外は淡路島北部地域からの搬入品の可能性は低いと言える。また、粒径組成からは、淡路型甕1点(561)と器台1点(図128—1)に洲本市下内膳遺跡との共通性が確認され、搬入品の可能性があるとされたが、断定するには至らなかった。したがって、現状では、淡路型甕1点は淡路島北部からの搬入品である可能性が、また、淡路型甕と淡路型器台の一部に淡路島中部からの搬入品である可能性があるということになる。淡路型器台のうち脚部の残る3点(661・662・912)はいずれも三角形透かしをもつが、現状では三角形透かしをもつ淡路型器台の類例は洲本市内出土資料のみである。このことから、器台については淡路島の中でも洲本市域等中部との関係が強かったものと考えられるが、淡路型甕、器台とも搬入品、在地産との両方の可能性を残す結果となった。

淡路型甕は先述のように淡路島以外では淡路島産の搬入品と在地産の両者があることが指摘されており、和泉寺跡、府中遺跡で出土したものにも両者が混在している可能性は十分にある。紀伊でも和歌山市太田・黒田遺跡等各地で在地産の淡路型甕が出土しており、淡路島に限定できるものではないことが指摘されている(田中2010)。和泉寺跡、府中遺跡出土資料についても、周辺遺跡も含めて淡路型甕の出土事例を集成し、胎土や製作技法の詳細な比較検討から搬入品と在地産を判別していくことが今後の課題である。

淡路型器台はこれまで50例ほどしか確認されておらず、精製タイプに限定するならその半分ほどになるようである(池田2003)。また、これまでの事例ではまとまって多く発見されることはなく、1遺跡からの淡路型器台の出土は3個体程度であること、精製タイプと粗製タイプがセットで出土する事例があること等から、「通常の器種(器台)とは異なった特殊な用途」が想定されており、特に精製の淡路型器台は砂粒の少ない精製土を用いる点でも特殊であると指摘されている(池田2003、110頁)。和泉寺跡、府中遺跡で出土した精製の淡路型器台のうち2点(661・662)は、08019-4区土器溜まり内の近接した位置で出土しており、並べて置かれたものである

可能性が高い。また、土器溜まり出土土器の中に、小形壺等器台に置いて使用されたと考えられる土器がないことから、上部に物を置く「器台」としては使われなかった可能性も指摘できる。精製タイプ2点であり、粗製タイプとのセットではないが、特殊な用途での使用を示唆する出土状況と言えよう。

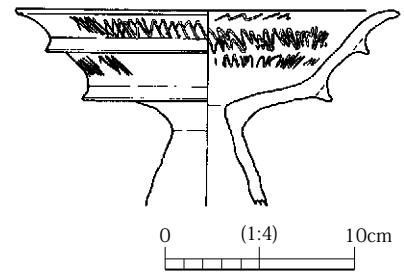


図 155 池上曾根遺跡出土器台

一方、出土点数に着目すると、和泉寺跡、府中遺跡では、精製タイプの淡路型器台が現状で計6点出土していることになるが、これは1遺跡出土点数としては最多のものとなる。また、6点はいずれも胎土に5mm程度の砂粒を含んでいて精製土を用いたものではなく、胎土の粗密では在地産と考えられる甕等と相違がない。こうした点は、和泉寺跡、府中遺跡で出土した6点の淡路型器台が搬入品ではなく在地産である可能性を高めるものと考えられる。08019-4区土器溜まり出土の2例は庄内式前半に位置づけられるものでもあり、50例ほどと事例の少ない中で和泉寺跡、府中遺跡から在地産の可能性のある6点が出土していることは、淡路型器台の発祥地についても再考を求めるものであろう。特に、淡路型器台の精製タイプは、口縁部のみが出土した場合、壺との区別が困難である。本報告にあたり、和泉市池上曾根遺跡でも出土していることを確認した(図155、大阪府教育委員会1999第57図—58)。奈良時代の自然河川NR100出土であるが、河川内からは弥生時代～古墳時代の遺物も出土している。高杯として報告されていたものであるが、実見により器台と判断した。淡路型器台は、出土例が少なくあまり目にする機会がないため、この事例のように口縁部のみが出土した際等は、類例の少ない淡路型器台としてではなく、壺あるいは高杯等別の器種として認識されることが起こり得る。和泉寺跡、府中遺跡での出土事例を契機として、これまでの調査事例の中でそれと認識されていない淡路型器台が含まれていないかを再検討することが必要であろう。そのうえであらためて淡路型器台の詳細な時期や分布範囲を明らかにし、弥生時代後期の様相とあわせて成立過程について検討することが今後の課題である。

08019-4区出土の鉄鋌について 08019-4区からは2点の鉄鋌が出土した。第6章で述べたように、布留式後半のものと考えられる。鉄鋌(677)は自然流路031出土であるが、鉄鋌は古墳あるいは祭祀遺構からの出土が多いことから、本来は古墳や祭祀遺構に伴うものであった可能性が考えられる。現状では、調査地近辺において古墳の分布はないことから、祭祀遺構由来である可能性について検討したい。

祭祀遺構出土の鉄鋌については、4世紀後半から6世紀にかけて、海浜地域の祭祀遺跡において、鏡、鉄製の武器や農耕具、滑石製品と共に出土することが指摘されている(野島2009)。また、東日本の事例であるが、4世紀後半から5世紀前半に水陸交通の要地の祭祀遺跡において、鉄製の武器や農耕具、滑石製品と共に出土するという指摘もあり、土師器小型丸底壺や高杯が伴う事例も挙げられている(笹生2010)。こうした事例と比較し、本遺跡出土の鉄鋌に伴う可能性のある遺物について検討すると、自然流路031から出土した布留式後半の遺物には土師器があり、滑

石製品についても中期前半以前と推定される。土師器には壺、甕、高杯等があるが、先述の組成の検討から、特に小型丸底壺が多く出土していること、高杯の出土が比較的多いことが指摘できる。また、調査地は、海浜地域ではないが、街道に接する交通の要地である。鉄鋌、小型丸底壺、高杯、滑石製品の出土と遺跡立地より、周辺に布留式後半の祭祀遺構が存在した可能性が考えられる。

小結 以上のように、弥生時代から古墳時代において、建物等明確な人為的遺構は確認できなかったものの、淡路型甕、淡路型器台を含む多量の弥生土器、小型丸底壺等の土師器、滑石製品、鉄鋌と、特徴的な遺物が多く出土している。これらの多くは自然流路からの出土であるが、周辺に居住域や祭祀遺構があったことを示唆する成果である。また、平成24年度報告予定の調査区でも自然流路が検出されており、弥生時代から古墳時代の土器が多く出土している。これらの調査成果を総合し、調査区周辺の弥生時代から古墳時代の土地利用について検討を進めることが今後の課題である。

遺物整理および本書作成にあたっては、下記の方々からご教示を賜りました。記して感謝いたします。(五十音順・敬称略)

古代寺院史研究会、古墳出現期土器研究会、摂河泉古代寺院研究会

池田毅、伊藤宏幸、市村慎太郎、市本芳三、上原真人、魚津知克、浦上雅史、大賀克彦、大脇潔、恩田知美、金田匡史、近藤康司、栄原永遠男、篠宮正、高野陽子、田中元浩、中井淳史、中池佐和子、森岡秀人、森村健一

参考文献

- 東潮 1987「鉄鋌の基礎的研究」『橿原考古学研究所紀要 考古学論考』第12冊 橿原考古学研究所 70-179
- 池田毅 2003「揺籃期の象徴『淡路型器台』」『水野正好先生古稀記念論文集 続文化財学論集』文化財学論集刊行会 105-114
- 池峯龍彦 2006「和泉北部地域における弥生時代集落の動向」『みずほ』第40号 大和弥生文化の会 100-118
- 市村慎太郎 2009a「土器・土製品・瓦（1）弥生時代～古墳時代」『下池田遺跡—大阪府宮岸和田下池田住宅民活プロジェクトに伴う埋蔵文化財調査報告—』（財）大阪府文化財センター調査報告書第190集（財）大阪府文化財センター 47-185
- 市村慎太郎 2009b「64 溝出土土器の計量的分析と検討」『下池田遺跡—大阪府宮岸和田下池田住宅民活プロジェクトに伴う埋蔵文化財調査報告—』（財）大阪府文化財センター調査報告書第190集（財）大阪府文化財センター 216-232
- 市本芳三 1993「摂河泉における古代末・中世瓦の様相—堺市日置荘遺跡出土瓦を中心に—」『研究紀要』Vol 1（財）大阪文化財センター 44-68
- 大脇潔 1991「丸瓦の製作技術」『研究論集IX』奈良国立文化財研究所学報第49冊 奈良国立文化財研究所 1-56
- 宮内庁書陵部陵墓課編 2009『考古資料の修復・複製・保存処理』学生社
- 古代の土器研究会編 1992『古代の土器1 都城の土器集成』古代の土器研究会
- 笹生衛 2010「『常陸国風土記』と古代の祭祀—考古資料から見た鹿島神宮と浮島の祭祀—」『日本考古学協会2010年度兵庫大会研究発表資料集』日本考古学協会2010年度兵庫大会実行委員会 43-54
- 佐原真 1972「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌』第58巻第2号 日本考古学会 30-72
- 積山洋 2004「大阪湾沿岸の古墳時代土器製塩」『畿内の巨大古墳とその時代』季刊考古学・別冊14 雄山閣 109-120
- 田中元浩 2010「古墳出現期の太田・黒田遺跡—紀伊における古墳出現期集落の様相—」『紀伊考古学研究』第13号 紀伊考古学研究会 11-29
- 田辺昭三 1966『陶邑古窯址群I』平安学園
- 地村邦夫 1999「和泉地域第Ⅲ・Ⅳ様式の編年—97年度調査出土土器の検討—」『池上曾根遺跡—拠点集落東方の墓域の調査—』大阪府埋蔵文化財調査報告1998-1 大阪府教育委員会 88-110
- 中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 辻美紀 1999「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学—大阪大学考

- 古学研究室 10 周年記念論集一』大阪大学考古学研究室 351-365
- 中野咲 2010 「古墳時代中・後期における奈良盆地の土師器編年とその特質」『橿原考古学研究所紀要 考古学論考』第 33 冊 橿原考古学研究所 43-75
- 西村歩 1996 「和泉北部の古式土師器と地域社会」『下田遺跡—都市計画道路常磐浜寺線建設に伴う発掘調査報告書—』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第 18 集 (財)大阪府文化財調査研究センター 523-660
- 西村歩・池峯龍彦 2006 「古式土師器編年集成 和泉地域」『古式土師器の年代学』(財)大阪府文化財センター 145-175
- 野島永 2009 「祭祀遺跡において消費される鉄—鉄の価値をめぐって—」『初期国家形成過程の鉄器文化』雄山閣 160-178
- 樋口吉文 1990 「和泉地域」『弥生土器の様式と編年—近畿編Ⅱ—』木耳社 3-76
- 三木弘 2007 『大町遺跡—府営久米田第二住宅建て替えに伴う発掘調査—』大阪府埋蔵文化財調査報告 2006-2 大阪府教育委員会
- 宮地聡一郎 2000 「脚台式製塩土器について」『小島北磯遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第 54 集 (財)大阪府文化財調査研究センター 75-80
- 森岡秀人 2003 「「淡路型叩き甕」の提唱と摂津—環大阪湾をめぐり交流の一要素—」『初期古墳と大和の考古学』学生社 211-221
- 若林邦彦 1999 「土器」『大阪府和泉市観音寺山遺跡発掘調査報告書』同志社大学歴史資料館調査報告書第 2 冊 同志社大学歴史資料館 86-136

【報告書類】

- 和泉市教育委員会 1980 『府中遺跡発掘調査概要・Ⅲ—和泉市府中町所在—』
- 和泉市教育委員会 1980 『府中遺跡発掘調査概要・Ⅳ—和泉市府中町所在—』
- 和泉市教育委員会 1983 『府中遺跡群発掘調査概要Ⅲ』
- 和泉市教育委員会 1984 『和泉市の文化財』
- 和泉市教育委員会 1993 『和泉市の文化財』
- 和泉市教育委員会 2009 『和泉市埋蔵文化財発掘調査概報 19』
- 大阪府教育委員会 1999 『池上曾根遺跡—拠点集落東方の墓域の調査—』大阪府埋蔵文化財調査報告 1998-1
- 大阪府教育委員会 2012 『大町遺跡Ⅲ—府営岸和田大町住宅建て替え工事に伴う発掘調査—』大阪府埋蔵文化財調査報告 2011-2
- 財団法人大阪府埋蔵文化財協会 1988 『和泉寺跡—発掘調査報告書—』(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第 29 輯

土器観察表

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|------------|------------|------------|-----------------|--------------------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|------------|-------------------|
| 17 | 1 | | 土師器 | 小皿 | (9.9) | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR8/2 灰白 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | 溝001 | 「て」の字状口縁 |
| 17 | 2 | | 土師器 | 小皿 | (8.8) | | 1.6 | 不明 | 不明 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10YR8/1 灰白 | 密 | 良 | 10 | 08019-1 | 溝060 | |
| 17 | 3 | | 土師器 | 大皿 | (16.0) | | (2.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-1 | 溝001 | |
| 18 | 4 | 18 | 土師器 | 小皿 | 9.6 | | 2.3 | ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 95 | 08019-1 | ピット040 | ほぼ完形、外面に粘土紐巻き上げ痕 |
| 18 | 5 | 18 | 瓦器 | 椀 | | (6.4) | (1.6) | ナデ | ヨコナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 密 | やや軟 | (30) | 08019-1 | ピット040 | 焼成あまい、外面に粘土紐巻き上げ痕 |
| 19 | 6 | | 土製品 | 不明土製品 | 径5.4 | | | 両面:ナデ?、側面:ナデ | | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 密 | やや良 | | 08019-1 | 試掘トレンチ06-2 | 厚さ1.7cm、90%残存 |
| 19 | 7 | | 土師器 | 高杯 | | | (4.7) | 杯部:不明、脚部:ケズリ | ハケ | 5YR6/6 橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | やや密 | 良 | | 08019-1 | 試掘トレンチ06-2 | 杯部底部に円形刺突痕 |
| 19 | 8 | | 瓦質土器 | 搦鉢 | | (12.0) | (4.4) | 工具ナデ | 工具ナデ・工具ケズリ | 7.5Y8/1 灰白 | 7.5Y8/1 灰白 | 密 | 良 | (20) | 08019-1 | NE2区4-5層 | |
| 19 | 9 | | 土師器 | 小皿 | (8.6) | | 1.6 | 口縁部:ナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR8/3 淡橙 | 10YR7/6 明黄褐 | 密 | 良 | 15 | 08019-1 | NE4区3-4層 | |
| 19 | 10 | | 土師器 | 小皿 | (8.7) | | (1.7) | ナデ | ユビオサエ・ナデ | 5Y6/6 橙 | 5Y7/6 橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | NE5-6区4・6層 | |
| 19 | 11 | | 土師器 | 小皿 | (11.0) | | (1.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y8/2 灰白 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | NW2区5層 | 「て」の字状口縁 |
| 19 | 12 | | 土師器 | 大皿 | (16.0) | | (3.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | NW2区5層 | |
| 19 | 13 | | 土師器 | 大皿 | (16.0) | | (4.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR6/6 橙 | 5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | NW2区5層 | |
| 19 | 14 | | 黒色土器 | 椀 | (14.9) | | (2.3) | 不明 | ミガキ(磨滅) | N3/ 暗灰 | N3/ 暗灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-1 | NE5-6区4・6層 | B類 |
| 19 | 15 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 2.5Y2/1 黒 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 密 | 良 | 15 | 08019-1 | NW2区5層 | |
| 19 | 16 | | 瓦器 | 椀 | (18.0) | | (3.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 2.5Y3/1 黒褐 | 2.5Y5/1 黄灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | NW1区5層 | |
| 19 | 17 | | 瓦器 | 椀 | (17.0) | | (2.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 2.5Y7/3 浅黄 | 密 | やや軟 | 15 | 08019-1 | NW2区5層 | |
| 19 | 18 | | 瓦器 | 椀 | (14.8) | | (5.0) | ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ヘラケズリ? →ナデ・ミガキ(磨滅) | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | NE5-6区4・6層 | |
| 19 | 19 | | 瓦器 | 椀 | (17.0) | | (5.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 5Y4/1 灰 | 5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | NW2区5層 | 口縁内端部に段 |
| 19 | 20 | 18 | 瓦器 | 椀 | (16.8) | | (3.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | NW2区5層 | 口縁内端部に段? |
| 19 | 21 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (3.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR2/1 黒 | 10YR2/1 黒 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | NW1区5層 | |
| 19 | 22 | | 瓦器 | 椀 | (18.0) | | (5.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 5Y3/2 オリーブ黒 | 5Y3/2 オリーブ黒 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | NW2区5層 | |
| 19 | 23 | | 瓦器 | 椀 | (18.0) | | (5.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 7.5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-1 | NW2区5層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|------------|------------|------------|---------------------|------------------------|--------------|--------------|-----|-----|---------------|---------|---------------|------------|
| 19 | 24 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | | 5.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・ミガキ(磨滅) | 7.5YR2/1黒 | 10YR4/2灰黄褐 | 密 | やや軟 | 20 | 08019-1 | NW2区5層 | 焼成あまい |
| 19 | 25 | | 瓦器 | 椀 | | (6.6) | (1.9) | ミガキ(磨滅) | ナデ | N4/灰 | N4/灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-1 | NE5-6区4・6層 | |
| 19 | 26 | | 瓦器 | 椀 | | (7.0) | (1.4) | ナデ | ナデ | N4/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | (20) | 08019-1 | NW2区4-5層 | |
| 19 | 27 | | 瓦器 | 椀 | | (6.6) | (2.0) | ナデ | ナデ | N3/暗灰 | N3/暗灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-1 | NW1区5層 | |
| 19 | 28 | 18 | 瓦器 | 小皿 | (11.0) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ→ミガキ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ→ミガキ、体部:ミガキ | N4/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | NW2区5層 | 内外面ミガキ密 |
| 19 | 29 | | 須恵器 | 壺 | | (10.4) | (4.4) | ナデ | ヘラケズリ | N7/灰白 | N7/灰白 | 密 | 良 | (70) | 08019-1 | NE5区4・6層 | 貼り付け高台 |
| 19 | 30 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (12.0) | | (4.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 不明 | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR8/4浅黄橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-1 | NW2区4-5層 | |
| 19 | 31 | | 土師器 | 複合口縁壺 | (14.7) | | (4.2) | ナデ | ナデ | 10YR5/2灰黄褐 | 10YR7/3にぶい黄橙 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | NE5区4・6層 | 体部外面黒斑 |
| 19 | 32 | | 土師器 | 高杯 | | | (6.2) | ケズリ | ナデ | 5YR7/8橙 | 5YR7/8橙 | やや密 | 良 | | 08019-1 | NE1区4-5層 | 杯部側から粘土充填 |
| 19 | 33 | | 弥生土器 | 器台 | | 裾部径(20.0) | (7.1) | 不明 | 不明 | 10YR6/3にぶい黄橙 | 10YR6/3にぶい黄橙 | 密 | 良 | (10) | 08019-1 | NW1区5・8層 | |
| 19 | 34 | | 弥生土器 | 底部 | | (7.2) | (5.2) | ナデ | ナデ | 5YR7/6橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | (40) | 08019-1 | NW1区5・8層 | |
| 20 | 35 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 2.5Y3/1黒褐 | 2.5Y3/1黒褐 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | 自然流路NW4区6層 | 口縁内端部に段 |
| 20 | 36 | | 瓦器 | 椀 | | (4.9) | (2.3) | 不明 | 不明 | N4/灰 | N4/灰 | 密 | 良 | (10) | 08019-1 | 自然流路NW5-6区6層 | |
| 20 | 37 | 18 | 黒色土器 | 椀 | | (6.6) | (2.0) | ミガキ | ナデ・ヨコナデ | 10YR4/2灰黄褐 | 10YR7/4にぶい黄橙 | 密 | 良 | (50) | 08019-1 | 自然流路NW4区6層 | A類、高台に切り込み |
| 20 | 38 | | 黒色土器 | 椀 | | (7.0) | (1.2) | ミガキ | ナデ | 5YR1.7/1黒 | 5YR6/6橙 | 密 | 良 | (15) | 08019-1 | 自然流路NW5区6層 | A類 |
| 20 | 39 | 18 | 土師器 | 杯 | 10.6 | | 2.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・ユビオサエ | 7.5YR8/3浅黄橙 | 7.5YR8/4浅黄橙 | やや密 | 良 | 90 | 08019-1 | 自然流路NW5区6A層 | ほぼ完形 |
| 20 | 40 | | 土師器 | 杯 | (12.0) | | (3.3) | ヨコナデ | ヨコナデ | 10YR8/3浅黄橙 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-1 | 自然流路NW5区6層以下 | |
| 20 | 41 | | 土師器 | 杯 | (12.2) | | (2.8) | 不明 | 不明 | 5YR7/6橙 | 5YR6/6橙 | 密 | やや軟 | 15 | 08019-1 | 自然流路NW5区6層以下 | |
| 20 | 42 | | 土師器 | 杯 | (13.0) | | (3.3) | ヨコナデ | ヨコナデ | 5YR6/6橙 | 5YR6/6橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-1 | 自然流路NW5-6区6層 | |
| 20 | 43 | | 土師器 | 甗 | (15.4) | | (4.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 5YR7/4にぶい橙 | 5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良 | 5 | 08019-1 | 自然流路NE5-6区6A層 | |
| 20 | 44 | | 土師器 | 甗 | (16.1) | | (4.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR6/6橙 | 2.5Y8/3淡黄 | やや密 | 良 | 10 | 08019-1 | 自然流路NE5-6区6A層 | |
| 20 | 45 | 18 | 須恵器 | 杯身 | 12.0 | | 3.7 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | 2.5Y7/1灰白 | N7/灰白 | 密 | 良 | 65 | 08019-1 | 自然流路NW6区6A層 | |
| 20 | 46 | | 須恵器 | 壺 | | | (6.7) | 回転ナデ | 回転ナデ・ケズリ | N6/灰 | N6/灰 | 密 | 良 | | 08019-1 | 自然流路NW5-6区6層 | 47と同一固体? |
| 20 | 47 | | 須恵器 | 壺 | (12.4) | | (4.9) | ケズリ→回転ナデ | 回転ヘラケズリ・回転ナデ | N6/灰 | N6/灰 | 密 | 良 | (15) | 08019-1 | 自然流路NW5-6区6層 | 46と同一固体? |
| 20 | 48 | | 須恵器 | 壺 | (10.4) | | (1.9) | 回転ナデ | 回転ナデ・ナデ | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-1 | 自然流路NW5区6層 | 貼り付け高台 |
| 20 | 49 | | 須恵器 | 杯 | | 8.8 | (3.5) | 回転ナデ | 回転ナデ | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | (80) | 08019-1 | 自然流路NW6区6A層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|------------|------------|------------|----------------------|-------------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|------------------|----------------------------|
| 20 | 50 | | 須恵器 | 甕 | (16.2) | | (5.3) | 口縁部:回転ナデ、体部:同心円当て具痕 | 口縁部:回転ナデ、体部:タタキ | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y8/2 灰白 | やや密 | やや軟 | 5 | 08019-1 | 自然流路 NW5-6 区 6層 | |
| 20 | 51 | 18 | 須恵器 | 甕 | (21.0) | | (3.9) | 口縁部:ヨコナデ?、体部:同心円当て具痕 | 口縁部:ヨコナデ?、体部:タタキ | N7/ 灰白 | 2.5Y7/1 灰白 | 密 | 良 | 15 | 08019-1 | 自然流路 NW5-6 区 6層 | 口縁部外面にヘラ記号、内外面とも自然釉 |
| 20 | 52 | | 須恵器 | 甕 | (24.0) | | (3.7) | 不明 | 不明 | N8/ 灰白 | N8/ 灰白 | 密 | やや軟 | 25 | 08019-1 | 自然流路 NW5 区 6層 | |
| 20 | 53 | | 須恵器 | 甕 | (24.4) | | (8.2) | 口縁部:回転ナデ、体部:同心円当て具痕 | 口縁部:回転ナデ、体部:タタキ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | やや粗 | 良 | 30 | 08019-1 | 自然流路 NE5-6 区 6層 | |
| 20 | 54 | 18 | 須恵器 | 甕 | (23.0) | | 38.4 | 口縁部:回転ナデ、体部:同心円当て具痕 | 口縁部:回転ナデ、体部:平行タタキ→上半カキメ | 7.5Y7/1 灰白 | 7.5Y6/1 灰 | やや粗 | 良 | 50 | 08019-1 | 自然流路 NW5 区 6-7層 | 図上復元 |
| 20 | 55 | | 土師器 | 小形壺 | (6.2) | | (4.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ナデ | 10YR5/6 黄褐 | 10YR5/6 黄褐 | やや密 | 良 | 40 | 08019-1 | 自然流路 NW5 区 6層 | |
| 20 | 56 | | 土師器 | 小形壺 | 4.8 | | 4.4 | ヨコナデ・指頭圧痕 | ヨコナデ・指頭圧痕・ナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | やや軟 | 65 | 08019-1 | 自然流路 NW5 区 6A層 | 底部外面黒斑 |
| 20 | 57 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.0) | シボリ目 | ナデ? | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | 密 | 良 | | 08019-1 | 自然流路 NW5 区 6層 | |
| 20 | 58 | | 土師器 | 壺 | (14.0) | | (5.5) | ケズリ | 指頭圧痕・ナデ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-1 | 自然流路 NW4 区 6A層 | |
| 20 | 59 | | 土師器 | 複合口縁壺 | (18.0) | | (4.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-1 | 自然流路 NW6 区 6-7層 | |
| 20 | 60 | | 弥生土器 | 甕 | (20.6) | | (4.7) | 不明 | 口縁部:不明、体部:タタキ? | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 5 | 08019-1 | 自然流路 NW5 区 6層 | |
| 20 | 61 | | 弥生土器 | 甕 | (15.0) | | (6.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 10YR6/2 灰黄褐 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 5 | 08019-1 | 自然流路 NE5-6 区 6層 | |
| 20 | 62 | | 弥生土器 | 器台 | | 裾部径(20.0) | (6.4) | 体部:ナデ、裾部:ヨコナデ | 体部:ナデ、裾部:ヨコナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | (10) | 08019-1 | 自然流路 NW4 区 6A層 | |
| 20 | 63 | | 弥生土器 | 底部 | | (3.8) | (2.1) | 不明 | タタキ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | (80) | 08019-1 | 自然流路 NE5-6 区 6A層 | 底部1孔、有孔跡? |
| 21 | 64 | | 土師器 | 小型丸底壺 | 6.4 | | (4.3) | 口縁部:ナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ナデ、体部:ナデ? | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | やや密 | 良 | 75 | 08019-1 | 自然流路 NW6 区 7層 | 口縁部外面黒斑 |
| 21 | 65 | | 土師器 | 布留形甕 | (16.9) | | (7.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ(磨滅) | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 35 | 08019-1 | 自然流路 NW5 区 7-8層 | |
| 21 | 66 | | 土師器 | 外反高杯 | (16.0) | | (6.1) | 不明 | 不明 | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 5未満 | 08019-1 | 自然流路 NW4 区 7-8層 | 杯部底部に円形刺突痕(Ci) |
| 21 | 67 | | 土師器 | 高杯 | | | (8.5) | シボリ目 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | やや軟 | | 08019-1 | 自然流路 NW4 区 7層 | 脚部外面スス、杯部底部に円形刺突痕?(磨滅、Ci?) |
| 21 | 68 | | 弥生土器 | 中形鉢 | (28.0) | | (5.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 5YR6/6 橙 | 10YR5/1 褐灰 | やや密 | 良 | 5 | 08019-1 | 自然流路 NE1 区 8層 | |
| 26 | 71 | | 緑釉陶器 | 椀 | (6.0) | | (2.4) | 回転ナデ | 回転ヘラケズリ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 10GY5/1 緑灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-3 | 南区 1-4層 | |
| 47 | 75 | | 土師器 | 小皿 | (7.8) | | (1.6) | ナデ | ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴087 掘方 | |
| 47 | 76 | | 土師器 | 小皿 | (7.2) | | 1.8 | ナデ | ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 建物1 柱穴119 掘方 | |
| 47 | 77 | | 土師器 | 小皿 | (7.6) | | (1.1) | ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR7/6 橙 | 2.5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 建物1 柱穴119 掘方 | |

| 図 番 号 | 遺物 番 号 | 図版 番 号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-------------|--------------|--------------|-----|----|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------------|------------------|------------------|-----|-----|---------------------------|---------|-----------------------------|-----------------|
| 47 | 78 | 19 | 土師器 | 小皿 | 8.8 | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや密 | 良 | 95 | 08019-4 | 建物1 柱穴014 柱痕跡 | 口縁部ひずむ、「て」の字状口縁 |
| 47 | 79 | | 土師器 | 小皿 | (9.0) | | (1.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 建物1 柱穴117 検出中 | 「て」の字状口縁 |
| 47 | 80 | | 土師器 | 小皿 | (9.0) | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 20 | 08019-4 | 建物1 柱穴013 柱痕跡 | |
| 47 | 81 | 19 | 土師器 | 小皿 | 8.7 | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 70 | 08019-4 | 建物1 柱穴010 検出中 / 掘方 | |
| 47 | 82 | | 土師器 | 小皿 | (9.0) | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 建物1 柱穴015 検出中 | |
| 47 | 83 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | (1.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 建物1 柱穴017 検出中 | |
| 47 | 84 | 19 | 土師器 | 大皿 | (14.6) | | (2.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 40 | 08019-4 | 建物1 柱穴014 掘方 | 底部外面変色・スス? |
| 47 | 85 | 19 | 土師器 | 大皿 | (14.8) | | 3.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 建物1 柱穴014 柱痕跡 | 底部外面変色・スス? |
| 47 | 86 | | 土師器 | 大皿 | (16.0) | | (3.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 建物1 柱穴013 柱痕跡 | 内面スス? |
| 47 | 87 | | 土師器 | 大皿 | (18.0) | | (3.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 建物1 柱穴011 掘方 | |
| 47 | 88 | | 土師器 | 大皿 | | | (2.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR5/2 灰褐 | 7.5YR5/2 灰褐 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴091 掘方 | |
| 47 | 89 | | 土師器 | 鉢 | (20.0) | | (4.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR5/3 にぶい褐 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 建物1 柱穴009 柱痕跡 / 掘方 | |
| 47 | 90 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | | (4.2) | ナデ | ユビオサエ・ナデ | 10YR7/6 明黄褐 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 密 | やや軟 | 15 | 08019-4 | 建物1 柱穴117 柱痕跡 | 焼成あまい |
| 47 | 91 | 19 | 瓦器 | 椀 | (14.4) | 5.6 | 5.7 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/8 橙 | 密 | やや軟 | 30 (100) | 08019-4 | 建物1 柱穴132 掘方 | 焼成あまい |
| 47 | 92 | | 瓦器 | 椀 | | (6.0) | (3.1) | ナデ | ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | やや軟 | (25) | 08019-4 | 建物1 柱穴006 柱痕跡 | 焼成あまい |
| 47 | 93 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | | (4.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | N4/ 灰 | 7.5Y7/1 灰白 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 建物1 柱穴017 柱痕跡 | 内外面ミガキ密 |
| 47 | 94 | 19 | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | N4/ 灰 | 7.5Y7/1 灰白 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 建物1 柱穴013 柱痕跡 | |
| 47 | 95 | 19 | 瓦器 | 椀 | (15.8) | | (5.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 建物1 柱穴085 掘方 | |
| 47 | 96 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | | (4.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | 密 | やや良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴014 柱痕跡 | |
| 47 | 97 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | | (5.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ヘラケズリ? | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | やや良 | 25 | 08019-4 | 建物1 柱穴014 掘方 | |
| 47 | 98 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 2.5Y3/2 黒褐 | 2.5Y4/1 黄灰 | 密 | やや軟 | 20 | 08019-4 | 建物1 柱穴015 掘方 | |
| 47 | 99 | | 瓦器 | 椀 | (14.8) | | (2.1) | ミガキ(磨滅) | ヨコナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴087 検出中 | |
| 47 | 100 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | | (2.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 建物1 柱穴012 掘方 | |
| 47 | 101 | | 瓦器 | 椀 | (17.0) | | (4.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ→ミガキ | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 建物1 柱穴006 掘方 | |

| 図 番 号 | 遺 物 番 号 | 図 版 番 号 | 種 別 | 器 種 | 口 径 (推 定) (cm) | 底 径 (推 定) (cm) | 器 高 (残 存) (cm) | 調 整 (内 面) | 調 整 (外 面) | 色 調 (内 面) | 色 調 (外 面) | 胎 土 | 焼 成 | 口 縁 部 (底 部) 残 存 率 (%) | 調 査 区 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|-------------|------------------|------------------|---------------|--------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------|----------------------|--------------------|--------------------|--------|--------|---|-------------|---------------------|------------------|
| 47 | 102 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | (6.6) | 5.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 2.5Y5/1黄灰 | 2.5Y5/1黄灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴006 柱痕跡 | |
| 47 | 103 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (3.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5Y5/1灰 | 5Y4/1灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴010 検出中 | |
| 47 | 104 | | 瓦器 | 椀 | | (6.0) | (3.4) | ミガキ(磨滅) | ユビオサエ・ナデ→ミガキ(磨滅) | N6/灰 | N6/灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 建物1 柱穴091 柱痕跡 | |
| 47 | 105 | 19 | 瓦器 | 椀 | (15.6) | (5.4) | 5.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | N4/灰 | N4/灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴091 掘方 | |
| 47 | 106 | 19 | 瓦器 | 椀 | | (5.0) | (3.1) | ナデ | 不明 | 5Y4/1灰 | 5Y4/1灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 建物1 柱穴019 掘方 | |
| 47 | 107 | | 瓦器 | 椀 | | (5.4) | (1.5) | ミガキ(磨滅) | 不明 | 10Y6/1灰 | 10Y6/1灰 | 密 | 良 | (10) | 08019-4 | 建物1 柱穴098 掘方 | |
| 47 | 108 | | 瓦器 | 椀 | | (5.6) | (1.1) | ミガキ(磨滅) | 不明 | N5/灰 | N4/灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 建物1 柱穴089 検出中 | |
| 47 | 109 | | 瓦器 | 椀 | | (5.4) | (1.5) | 不明 | 不明 | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 建物1 柱穴088 柱痕跡 | |
| 47 | 110 | | 瓦器 | 椀 | | | (2.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | N4/灰 | N4/灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴093 掘方 | 口縁内端部に 段? |
| 47 | 111 | | 瓦器 | 椀 | | | (2.2) | ミガキ | ミガキ | 2.5Y5/2暗灰黄 | 2.5Y7/1灰白 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴118 掘方 | 内外面ミガキ 密 |
| 47 | 112 | | 瓦器 | 椀 | | | (3.2) | 不明 | 不明 | 10Y4/1灰 | 10Y4/1灰 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 建物1 柱穴087 掘方 | |
| 47 | 113 | | 瓦器 | 椀 | | | (2.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴091 柱痕跡 | |
| 47 | 114 | | 瓦器 | 椀 | | | (2.0) | ミガキ | ミガキ | 2.5Y6/1黄灰 | 2.5Y5/1黄灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴091 柱痕跡 | |
| 47 | 115 | | 瓦器 | 椀 | | | (1.9) | ミガキ | ミガキ | N6/灰 | N6/灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 建物1 柱穴091 掘方 | |
| 47 | 116 | | 瓦器 | 椀 | | | (5.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 5B5/1青灰 | 5B5/1青灰 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 建物1 柱穴093 掘方 | |
| 47 | 117 | | 瓦器 | 小皿 | (8.8) | | (2.0) | ミガキ(磨滅) | 不明 | 10Y4/1灰 | 10Y4/1灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 建物1 柱穴098 掘方 | |
| 47 | 118 | | 磁器 | 椀 | | 6.2 | (4.7) | 白磁釉 | 白磁釉、底部:ケズリ | 2.5Y7/3浅黄 | 2.5Y7/3浅黄 | 密 | 良 | (50) | 08019-4 | 建物1 柱穴013 掘方 | 閩南沿海窯 系、V類 |
| 47 | 119 | | 土師 質 土器 | 羽釜 | | | (4.9) | 口縁部:ヨコナデ、体部:工具ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR4/2灰褐 | 7.5YR4/1灰褐 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 建物1 柱穴019 掘方 | 口縁部内外面 スス |
| 47 | 120 | 19 | 土師 質 土器 | 羽釜 | (21.0) | | (6.9) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y5/2暗灰黄 | 5YR7/6橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 建物1 柱穴011 柱痕跡 | 外面スス |
| 47 | 121 | | 土師 器 | 小皿 | (8.0) | | (1.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 建物2 柱穴083 掘方 | |
| 47 | 122 | 19 | 土師 器 | 小皿 | (9.8) | | 1.8 | 口縁部:ナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 口縁部:ナデ、底部:糸切り | 10YR8/3浅黄橙 | 10YR8/3浅黄橙 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 建物2 柱穴083 掘方 | 底部糸切り 痕、轆轤成形 |
| 47 | 123 | | 土師 器 | 小皿 | | | (2.0) | 不明 | 不明 | 10YR8/2灰白 | 10YR8/2灰白 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 建物2 柱穴080 検出中 | |
| 47 | 124 | | 瓦器 | 椀 | | | (3.5) | ミガキ | 不明 | N4/灰 | 10Y4/1灰 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 柱穴122 柱痕跡 | |
| 47 | 125 | | 瓦器 | 椀 | | | (1.3) | 不明 | ナデ | N3/暗灰 | N3/暗灰 | 密 | 良 | | 08019-4 | 柱穴123 掘方 | |
| 47 | 126 | 19 | 瓦器 | 椀 | 15.4 | 6.0 | 6.2 | ミガキ | ユビオサエ・ヘラケズリ→ミガキ | N5/灰 | N4/灰 | 密 | 良 | 50 (100) | 08019-4 | 柱穴106 掘方 | 内外面ミガキ 密、内面コゲ |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|----|------------|------------|------------|------------------|----------------------|--------------|--------------|-----|-----|---------------|---------|--------------|------------------|
| 47 | 127 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (5.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 2.5Y5/1黄灰 | 5Y5/1灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 土坑 025 | |
| 47 | 128 | | 瓦器 | 椀 | | (6.0) | (0.9) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5Y4/1灰 | 2.5Y4/2暗灰黄 | 密 | やや軟 | (5未満) | 08019-4 | 土坑 026 | |
| 48 | 129 | | 土師器 | 小皿 | (8.0) | | 1.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/6橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 130 | | 土師器 | 小皿 | (9.0) | | (1.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝 007 検出中 | |
| 48 | 131 | | 土師器 | 小皿 | (8.8) | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 10YR7/4にぶい黄橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 132 | | 土師器 | 小皿 | 9.2 | | 1.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | 60 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 133 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 10YR7/4にぶい黄橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 134 | 20 | 土師器 | 小皿 | 8.5 | | 1.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良 | 90 | 08019-4 | 溝 007 検出中 | 口縁部端面取り |
| 48 | 135 | 20 | 土師器 | 小皿 | 9.4 | | 1.2 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/3にぶい橙 | やや密 | 良 | 70 | 08019-4 | 溝 007 検出中 | 口縁部端面取り、「て」の字状口縁 |
| 48 | 136 | | 土師器 | 小皿 | (9.0) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 10YR7/4にぶい黄橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 007 | 底部外面スス |
| 48 | 137 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | 1.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR6/3にぶい黄橙 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 138 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | 1.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/4浅黄橙 | 10YR8/4浅黄橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 007 | 「て」の字状口縁 |
| 48 | 139 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | 1.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR7/3にぶい黄橙 | 10YR7/3にぶい黄橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝 007 | 「て」の字状口縁 |
| 48 | 140 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | 1.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR6/4にぶい橙 | 7.5YR6/4にぶい橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 141 | | 土師器 | 小皿 | (10.6) | | 1.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR6/4にぶい黄橙 | 10YR6/4にぶい黄橙 | 密 | 良 | 45 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 142 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | 1.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 143 | | 土師器 | 小皿 | (11.0) | | 1.6 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ヨコナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 007 | 「て」の字状口縁 |
| 48 | 144 | | 土師器 | 大皿 | (14.0) | | 4.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6橙 | 5YR7/4にぶい橙 | 密 | やや軟 | 5 | 08019-4 | 溝 007 検出中 | |
| 48 | 145 | 20 | 瓦器 | 小皿 | (10.0) | (5.2) | 2.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR6/4にぶい橙 | 7.5YR6/4にぶい橙 | 密 | やや軟 | 25(30) | 08019-4 | 溝 007 | 焼成あまい、高台あり、六器 |
| 48 | 146 | 20 | 瓦器 | 小皿 | (8.0) | (5.0) | 2.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y3/1黒褐 | 2.5Y3/1黒褐 | 密 | やや軟 | 5(30) | 08019-4 | 溝 007 | 高台あり、六器 |
| 48 | 147 | | 瓦器 | 椀 | (14.0) | | (3.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 10YR7/4にぶい黄橙 | 密 | やや軟 | 15 | 08019-4 | 溝 007 | 焼成あまい |
| 48 | 148 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5Y5/1灰 | 5Y5/1灰 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 149 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y6/3にぶい黄 | 2.5Y3/2黒褐 | 密 | やや軟 | 5 | 08019-4 | 溝 007 | |
| 48 | 150 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (3.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・ミガキ | 2.5Y4/1黄灰 | 2.5Y3/1黒褐 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 溝 007 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|----|------------|------------|------------|-------------------|----------------------|--------------|--------------|-----|-----|---------------|---------|-------------|-------------|
| 48 | 151 | 21 | 瓦器 | 椀 | (15.6) | 7.2 | 6.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 2.5Y4/1黄灰 | 2.5Y4/1黄灰 | 密 | 良 | 5未満(100) | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 152 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | | (3.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5Y4/1灰 | 7.5Y4/1灰 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 153 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (3.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5Y4/1灰 | 7.5Y4/1灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝007 検出中 | |
| 48 | 154 | | 瓦器 | 椀 | | (6.4) | (1.2) | ナデ | ナデ | 2.5Y4/1黄灰 | 2.5Y7/3浅黄 | 密 | やや軟 | (50) | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 155 | | 瓦器 | 椀 | | (6.2) | (1.0) | ナデ | ナデ | 2.5Y4/1黄灰 | 5Y4/1灰 | 密 | やや軟 | (50) | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 156 | 21 | 瓦器 | 椀 | | (6.4) | (2.2) | ミガキ(磨滅) | ユビオサエ | 2.5Y6/1黄灰 | 2.5Y6/1黄灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 157 | | 瓦器 | 椀 | | (6.4) | (2.0) | ミガキ(磨滅) | ユビオサエ・ナデ | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 158 | | 瓦器 | 椀 | | (6.6) | (1.5) | ミガキ(磨滅) | ナデ | N5/灰 | N6/灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 159 | | 瓦器 | 小皿 | (8.0) | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5Y4/1灰 | 5Y4/1灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 160 | | 瓦器 | 小皿 | (10.0) | | (2.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5Y6/1灰 | 7.5Y6/1灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 161 | | 瓦器 | 小皿 | (10.0) | | 1.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 2.5Y4/1黄灰 | 2.5Y4/1黄灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝007 検出中 | |
| 48 | 162 | | 瓦器 | 小皿 | (10.0) | | (1.9) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 溝007 | |
| 48 | 163 | 21 | 瓦器 | 小皿 | (10.4) | | 2.2 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 5Y5/1灰 | N5/灰 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝007 | |
| 49 | 164 | | 土師器 | 小皿 | (8.6) | | 1.6 | 口縁部:ナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/6橙 | 密 | 良 | 40 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 165 | | 土師器 | 小皿 | (8.7) | | 1.6 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5YR5/6明赤褐 | 2.5YR6/6橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 166 | | 土師器 | 小皿 | (8.8) | | 1.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:工具?ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 10YR8/4浅黄橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 167 | | 土師器 | 小皿 | (8.8) | | 1.7 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR7/6橙 | 5YR7/6橙 | やや密 | 良 | 35 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 168 | | 土師器 | 小皿 | (9.0) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/8黄橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 169 | | 土師器 | 小皿 | (8.8) | | 1.6 | ナデ | ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/6橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 170 | | 土師器 | 小皿 | 9.0 | | 1.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ヨコナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや密 | 良 | 50 | 08019-4 | 溝027 | 外面に粘土紐巻き上げ痕 |
| 49 | 171 | | 土師器 | 小皿 | (9.1) | | (2.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR6/4にぶい黄橙 | 10YR6/2灰黄褐 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝027 | 外面に粘土紐巻き上げ痕 |
| 49 | 172 | | 土師器 | 小皿 | (9.8) | | 1.9 | 口縁部:ナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/4浅黄橙 | 7.5YR8/3浅黄橙 | やや密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 173 | 20 | 土師器 | 小皿 | 9.8 | | 1.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR8/4浅黄橙 | 10YR7/2にぶい黄橙 | 密 | 良 | 100 | 08019-4 | 溝027 | 外面に粘土紐巻き上げ痕 |
| 49 | 174 | | 土師器 | 小皿 | (9.8) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝027 | |
| 49 | 175 | | 土師器 | 小皿 | (9.7) | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR8/6浅黄橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝027 | |

| 図 番 号 | 遺物 番 号 | 図版 番 号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-------------|--------------|--------------|-----|----|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------|----------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------------------|---------|-------|----------------------------|
| 49 | 176 | | 土師器 | 小皿 | (9.6) | | 1.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 027 | 「て」の字状口縁 |
| 49 | 177 | | 土師器 | 小皿 | (10.8) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y7/4 浅黄 | 2.5Y7/6 明黄褐 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 178 | | 土師器 | 小皿 | (9.6) | | (1.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/1 灰白 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝 027 | 口縁部ひずむ |
| 49 | 179 | | 土師器 | 小皿 | (9.8) | | (1.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 180 | 20 | 土師器 | 小皿 | (10.8) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 027 | 「て」の字状口縁、薄手 |
| 49 | 181 | | 土師器 | 小皿 | (9.6) | | (1.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR7/6 橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 027 | 「て」の字状口縁 |
| 49 | 182 | | 土師器 | 小皿 | 10.6 | | 2.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | 密 | 良 | 40 | 08019-4 | 溝 027 | 底部外面黒斑 |
| 49 | 183 | | 土師器 | 小皿 | (10.8) | | 2.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 184 | | 土師器 | 小皿 | (11.4) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 2.5Y7/4 浅黄 | やや密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 185 | | 土師器 | 小皿 | (11.0) | | 2.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 密 | 良 | 5 未満 | 08019-4 | 溝 027 | 口縁部内外面黒斑 |
| 49 | 186 | | 土師器 | 小皿 | (10.7) | | 2.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 187 | 20 | 土師器 | 小皿 | (11.8) | | 2.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | やや軟 | 20 | 08019-4 | 溝 027 | 「て」の字状口縁、口縁部ひずむ |
| 49 | 188 | | 土師器 | 大皿 | (13.8) | | (2.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y8/3 淡黄 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 189 | | 土師器 | 大皿 | (13.6) | | (2.2) | 口縁部:ヨコナデ?、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ?、体部:不明 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | やや軟 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 190 | | 土師器 | 大皿 | (16.2) | | (3.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝 027 | 外面に粘土紐巻き上げ痕残存 |
| 49 | 191 | 20 | 土師器 | 大皿 | (13.4) | | 2.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝 027 | 口縁部ひずむ |
| 49 | 192 | 20 | 土師器 | 大皿 | (13.8) | | (3.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 7.5YR5/2 灰褐 | 7.5YR5/2 灰褐 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 193 | | 土師器 | 大皿 | (14.8) | | 3.8 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 194 | | 瓦器? | 椀 | (12.8) | | (3.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | やや軟 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | 口縁~体部内外面黒斑、焼成あまい瓦器椀? 土師器皿? |
| 49 | 195 | | 瓦器 | 椀 | (13.8) | | (4.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 2.5Y5/1 黄灰 | 5Y5/1 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 196 | | 瓦器 | 椀 | (14.0) | | (3.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 10YR4/1 褐灰 | 10YR4/1 褐灰 | 密 | やや軟 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 197 | | 瓦器 | 椀 | (15.7) | | (3.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|----|----|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|--------------------------|-----------------|------------------|----|-----|---------------------------|---------|-------|----------------|
| 49 | 198 | | 瓦器 | 椀 | (13.6) | | (4.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ→ミガキ | N5/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 199 | | 瓦器 | 椀 | (13.7) | | (3.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 2.5Y5/1 黄灰 | 2.5Y5/1 黄灰 | 密 | やや軟 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 200 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | | (4.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 10YR4/1 褐灰 | 10YR4/1 褐灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 201 | | 瓦器 | 椀 | (13.8) | | (4.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | N4/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 202 | | 瓦器 | 椀 | (13.8) | | (3.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | N3/ 暗灰 | N3/ 暗灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 203 | 21 | 瓦器 | 椀 | (17.6) | | (3.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 204 | | 瓦器 | 椀 | (13.6) | | (4.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 205 | | 瓦器 | 椀 | (13.8) | | (4.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 206 | | 瓦器 | 椀 | (17.8) | | (4.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 2.5Y8/4 淡黄 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 207 | 21 | 瓦器 | 椀 | (13.8) | 6.5 | 6.6 | ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 20 (100) | 08019-4 | 溝 027 | 口縁部ひずむ、内外面ミガキ密 |
| 49 | 208 | | 瓦器 | 椀 | 15.4 | (5.0) | (5.7) | ミガキ | ユビオサエ→ミガキ | N3/ 暗灰 | N3/ 暗灰 | 密 | やや軟 | 50 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 209 | | 瓦器 | 椀 | | (7.6) | (3.3) | ミガキ | ミガキ | 5PB5/1 青灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | (5) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 210 | | 瓦器 | 椀 | | (7.0) | (1.9) | ユビオサエ・ナデ | ユビオサエ・ナデ | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y6/1 灰 | 密 | やや軟 | (25) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 211 | | 瓦器 | 椀 | | (6.0) | (2.6) | 不明 | 不明 | 7.5Y4/1 灰 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 密 | 良 | (50) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 212 | 21 | 瓦器 | 椀 | | (6.4) | (3.3) | ミガキ | ユビオサエ→ミガキ | N6/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | (15) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 213 | | 瓦器 | 椀 | | (5.8) | (2.1) | ミガキ | ユビオサエ・ナデ | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 214 | | 瓦器 | 椀 | | (7.0) | (1.2) | 不明 | 不明 | 5Y4/1 灰 | 5Y4/1 灰 | 密 | 良 | (50) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 215 | | 瓦器 | 椀 | | (5.8) | (1.3) | ミガキ | ユビオサエ・ナデ | 5Y5/1 灰 | 5Y5/1 灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 216 | | 瓦器 | 椀 | | (6.1) | (1.3) | ミガキ(磨滅) | ナデ | N5/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | (40) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 217 | | 瓦器 | 椀 | | (5.8) | (1.1) | ミガキ(磨滅) | ナデ | 10Y6/1 灰 | 10Y6/1 灰 | 密 | 良 | (50) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 218 | | 瓦器 | 椀 | | 5.8 | (1.2) | 不明 | 不明 | N4/ 灰 | N3/ 暗灰 | 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 219 | | 瓦器 | 椀 | | (7.2) | (0.7) | ミガキ | ユビオサエ・ナデ | 10YR4/1 褐灰 | 2.5Y4/1 黄灰 | 密 | 良 | (20) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 220 | | 瓦器 | 椀 | | (5.4) | (1.0) | 不明 | ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | やや軟 | (30) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 221 | | 瓦器 | 椀 | | (5.8) | (2.1) | ミガキ(磨滅) | ナデ | N5/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 222 | | 瓦器 | 椀 | | (7.2) | (1.7) | ミガキ | ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 223 | | 瓦器 | 椀 | | (5.6) | (1.6) | 不明 | ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 224 | | 瓦器 | 椀 | | (5.8) | (1.1) | ミガキ | ナデ | 2.5Y4/1 黄灰 | 2.5Y8/2 灰白 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 225 | | 瓦器 | 椀 | | (6.2) | (2.1) | ミガキ | ユビオサエ | 5Y3/1 オ リーブ黒 | 10YR8/3 浅黄橙 | 密 | やや軟 | (15) | 08019-4 | 溝 027 | 焼成あまい |
| 49 | 226 | | 瓦器 | 小皿 | (8.8) | | (1.4) | 口縁部:ナデ、体部:ナデ | 口縁部:ナデ、体部:ナデ | N4/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 227 | 21 | 瓦器 | 小皿 | (9.8) | | 2.2 | 口縁部:ミガキ、体部:ミガキ | 口縁部:ミガキ、体部:ミガキ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 50 | 08019-4 | 溝 027 | 内外面ミガキ密 |
| 49 | 228 | | 瓦器 | 小皿 | (8.8) | | (1.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5Y4/1 灰 | 7.5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 49 | 229 | | 瓦器 | 小皿 | (9.8) | | 2.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | N6/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 溝 027 | 内外面ミガキ密 |

| 図 番 号 | 遺物 番 号 | 図版 番 号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-------------|--------------|--------------|---------------|----|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------------------|-----------------------------------|----------------------|----------------------|---------|---------|---------------------------|---------|----------------|----------------------------|
| 50 | 230 | | 土師 質 土器 | 羽釜 | (21.8) | | (4.5) | ナデ | ナデ? | 5YR6/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 50 | 231 | 21 | 土師 質 土器 | 羽釜 | (27.0) | | (5.2) | ナデ | ナデ? | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや 粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 50 | 232 | 21 | 土師 質 土器 | 羽釜 | (28.2) | | (6.2) | ナデ | 不明 | 2.5Y7/3 浅黄 | 2.5Y7/3 浅黄 | やや 粗 | 良 | 10 | 08019-4 | 溝 027 | |
| 51 | 233 | 20 | 土師 器 | 小皿 | 8.8 | | 1.7 | ナデ? | ナデ? | 5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 70 | 08019-4 | 溝 079 | |
| 51 | 234 | | 瓦器 | 椀 | (14.8) | | (3.6) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 5Y5/1 灰 | 5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 溝 079 | |
| 51 | 235 | 20 | 土師 器 | 小皿 | 8.4 | | 1.7 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | やや 密 | やや 軟 | 75 | 08019-4 | 溝 099 | |
| 51 | 236 | 20 | 土師 器 | 小皿 | 8.8 | | 1.8 | 口縁部:ナデ、 体部:ナデ | 口縁部:ナデ、 体部:ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 2.5Y8/1 灰白 | 密 | やや 軟 | 75 | 08019-4 | 溝 099 | 底部外面に糸 切り痕、轆轤 成形 |
| 51 | 237 | | 土師 器 | 小皿 | (9.8) | | 1.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ナデ、 体部:ナデ | 5YR7/4 にぶい橙 | 10YR8/1 灰白 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | 溝 099 | 底部糸切りま たはへら切り 痕、轆轤成形 |
| 51 | 238 | | 瓦器 | 椀 | (14.8) | | (3.8) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y7/3 浅黄 | 密 | やや 軟 | 10 | 08019-4 | 溝 099 | 焼成あまい |
| 51 | 239 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | (7.0) | 5.2 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ | N5/ 灰 | 2.5Y6/1 黄灰 | 密 | 良 | 20 (25) | 08019-4 | 溝 099 | |
| 51 | 240 | 20 | 瓦器 | 椀 | (14.6) | (5.2) | 5.3 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ミガキ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 50 (60) | 08019-4 | 溝 099 | |
| 51 | 241 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | | (5.2) | 不明 | 不明 | 10YR6/6 明黄褐 | 5YR7/6 橙 | 密 | やや 軟 | 15 | 08019-4 | 溝 099 | 焼成あまい |
| 51 | 242 | | 瓦器 | 椀 | | (6.4) | (2.2) | ミガキ | ミガキ(磨滅) | N7/ 灰白 | N5/ 灰 | 密 | 良 | (20) | 08019-4 | 溝 099 | |
| 51 | 243 | 21 | 瓦器 | 椀 | | (5.8) | (1.7) | ミガキ | 不明 | 7.5Y3/1 オリーブ 黒 | 7.5Y3/1 オリーブ 黒 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 溝 099 | 見込み平行線 状ミガキ |
| 51 | 244 | | 瓦器 | 椀 | | (6.5) | (1.5) | ミガキ(磨滅) | ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 溝 099 | |
| 51 | 245 | | 瓦器 | 椀 | | (5.8) | (2.5) | 不明 | ナデ | N4/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | (10) | 08019-4 | 溝 099 | |
| 51 | 246 | | 瓦器 | 小皿 | (10.8) | | 2.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ミガキ | N4/ 灰 | 5Y5/1 灰 | やや 密 | やや 良 | 30 | 08019-4 | 溝 099 | |
| 52 | 247 | | 土師 器 | 小皿 | (9.0) | | 1.6 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ナデ | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 試掘調査 06-5 | 口縁部外面ス ス |
| 52 | 248 | | 土師 器 | 小皿 | (9.4) | | 2.1 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ナデ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/6 明黄褐 | やや 密 | 良 | 60 | 08019-4 | SE2 区 4・6 層 | |
| 52 | 249 | | 土師 器 | 小皿 | (9.0) | | 1.7 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | SW1 区 3 層以下 | |
| 52 | 250 | | 土師 器 | 大皿 | (14.8) | | (3.0) | 不明 | 不明 | 10YR8/2 灰白 | 10YR8/2 灰白 | 密 | やや 軟 | 30 | 08019-4 | SE2 区 4・6 層 | |
| 52 | 251 | | 瓦器 | 小皿 | (7.8) | | (2.0) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 不明 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | SE3 区 3-4 層 | |
| 52 | 252 | | 瓦器 | 小皿 | (9.8) | | (1.9) | ミガキ | ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | SE3 区 4-5 層 | |
| 52 | 253 | | 瓦器 | 小皿 | (10.0) | | 2.2 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SW1 区 3 層以下 | |
| 52 | 254 | | 瓦器 | 椀 | | 7.6 | (1.3) | ミガキ | ナデ | 2.5Y3/1 黒褐 | 10YR7/3 にぶい黄 橙 | 密 | やや 軟 | (15) | 08019-4 | SE5・6 区 3 層 | 焼成あまい |
| 52 | 255 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | | (3.6) | ナデ | ユビオサエ・ ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 5Y5/1 灰 | 密 | やや 軟 | 10 | 08019-4 | SE3 区 3-4 層 | |
| 52 | 256 | | 瓦器 | 椀 | (11.8) | | (2.4) | ミガキ | ナデ | 7.5Y4/1 灰 | 10Y6/1 灰 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | SE4 区 3-4 層 | |
| 52 | 257 | | 瓦器 | 椀 | | (5.4) | (2.8) | 不明 | 不明 | 2.5Y7/1 灰白 | 2.5Y3/1 黒褐 | 密 | やや 軟 | (30) | 08019-4 | SE2 区 4・6 層 | |
| 52 | 258 | | 瓦器 | 椀 | | (5.4) | (2.8) | ミガキ | ユビオサエ・ ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | 密 | 良 | (15) | 08019-4 | SE3 区 4-5 層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|---------------|---------------|------------|------------|------------|-------------------------|----------------------------------|----------------------|----------------------|---------|---------|---------------|---------|----------------|-----------------------|
| 52 | 259 | | 瓦器 | 椀 | | (7.8) | (3.0) | ミガキ | ナデ | N3/ 暗灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | SE2区 4・6層 | |
| 52 | 260 | | 瓦器 | 椀 | (17.0) | | (4.6) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | N6/ 灰 | 5Y6/1 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SW2区 3層以下 | 内外面ミガキ 密 |
| 52 | 261 | | 瓦器 | 椀 | (16.8) | | (3.4) | ミガキ(磨滅) | ユビオサエ・ ナデ | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SE3区 4-5層 | |
| 52 | 262 | | 瓦器 | 椀 | (16.8) | | (4.2) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SE3区 4-5層 | |
| 52 | 263 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | (4.8) | 4.9 | 不明 | 不明 | 5Y5/1 灰 | 5Y5/1 灰 | やや 密 | 良 | 10 (25) | 08019-4 | SE3区 4-5層 | |
| 52 | 264 | | 瓦質 土器 | 羽釜 | (22.0) | | (3.7) | ヨコナデ・ハ ケ | ヨコナデ・ケ ズリ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | SW5-6区 3層以下 | |
| 52 | 265 | | 土師 質 土器 | 羽釜 | | | (10.2) | ナデ | ケズリ | 5YR6/6 橙 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | やや 密 | 良 | | 08019-4 | SW2区 3層以下 | |
| 52 | 266 | | 須恵 器 | 蓋 | (17.4) | | (1.8) | ナデ | 回転ナデ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SE4区 5・7A層 | |
| 52 | 267 | | 土師 器 | 皿 | (13.6) | | (2.4) | 不明 | 不明 | 10YR7/6 明黄褐 | 10YR7/6 明黄褐 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SE5区 5・7A層 | |
| 52 | 268 | | 土師 器 | 小型 丸底 壺 | (11.0) | | (6.5) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 2.5YR5/6 明赤褐 | 2.5YR5/6 明赤褐 | 密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | SW1区 3層以下 | |
| 53 | 269 | | 土師 器 | 小皿 | (8.0) | | 1.4 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 270 | | 土師 器 | 小皿 | (8.8) | | (1.5) | ナデ? | ナデ? | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SE2区 6層 | 「て」の字状 口縁 |
| 53 | 271 | | 土師 器 | 小皿 | (9.0) | | 1.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 40 | 08019-4 | SW1区 6層 | 「て」の字状 口縁 |
| 53 | 272 | | 土師 器 | 小皿 | (9.0) | | (1.8) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 273 | | 土師 器 | 小皿 | (9.0) | | 1.9 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 274 | | 土師 器 | 小皿 | 9.2 | | 1.9 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 95 | 08019-4 | SW1区 6層 | ほぼ完成、外 面に粘土接合 痕 |
| 53 | 275 | 22 | 土師 器 | 小皿 | 9.0 | | 2.1 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 95 | 08019-4 | SW1区 6層 | ほぼ完成、外 面に粘土接合 痕 |
| 53 | 276 | | 土師 器 | 小皿 | (9.0) | | 2.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 7.5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 277 | | 土師 器 | 小皿 | 8.9 | | 1.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ・ユビオ サエ | 5YR6/4 にぶい橙 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 密 | やや 軟 | 65 | 08019-4 | SE2区 6層 | |
| 53 | 278 | | 土師 器 | 小皿 | (10.4) | | 2.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 279 | | 土師 器 | 小皿 | (10.0) | | (2.1) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 280 | | 土師 器 | 小皿 | (11.0) | | (2.2) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SW1区 6層 | 口縁部ひずむ |
| 53 | 281 | | 土師 器 | 大皿 | (14.0) | | (4.7) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 282 | | 土師 器 | 大皿 | (16.0) | | (3.0) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ナデ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SW1区 6層 | |
| 53 | 283 | | 瓦器 | 椀 | (14.0) | | (4.4) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 2.5Y3/1 黒褐 | 2.5Y3/1 黒褐 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SW1区 6層 | 口縁下部内外 面に沈線状痕 跡 |
| 53 | 284 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.1) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 5Y4/1 灰 | 5Y4/1 灰 | 密 | やや 軟 | 10 | 08019-4 | SW1区 6層 | 口縁部内面端 部付近に沈線 |
| 53 | 285 | | 瓦器 | 椀 | (16.4) | (7.4) | 5.8 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | 密 | 軟 | 5 (55) | 08019-4 | SW1区 6層 | 焼成あまい |

| 図 番 号 | 遺物 番 号 | 図版 番 号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-------------|--------------|--------------|----|----|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------------------|---------------------------------------|----------------------|-----------------------|---------|---------|---------------------------|---------|--------------|----------------|
| 53 | 286 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | | (4.8) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 5Y6/1 灰 | 5Y6/1 灰 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 287 | | 瓦器 | 椀 | (16.8) | | (5.6) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 10YR7/6 明黄褐 | 10YR7/6 明黄褐 | 密 | やや 軟 | 10 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 288 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.0) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 10YR6/3 にぶい黄 橙 | 10YR4/1 褐灰 | やや 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 289 | | 瓦器 | 椀 | (15.4) | | (4.4) | ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ(磨滅) | 7.5Y4/1 灰 | 7.5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SE2 区 6 層 | |
| 53 | 290 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.0) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 2.5Y4/1 黄灰 | 2.5Y4/1 黄灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 291 | 22 | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (3.7) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ | 10YR6/4 にぶい黄 橙 | 10YR6/3 にぶい黄 橙 | 密 | やや 軟 | 15 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 292 | 22 | 瓦器 | 椀 | (15.0) | 6.4 | 5.3 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ヘラケズリ→ ミガキ | 2.5Y6/1 黄灰 | 2.5Y6/1 黄灰 | 密 | 良 | 15 (100) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 293 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (5.1) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ヘラケズリ | 2.5Y3/1 黒褐 | 2.5Y3/1 黒褐 | やや 密 | やや 軟 | 20 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 294 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (4.9) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ | 10YR7/3 にぶい黄 橙 | 7.5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 30 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 295 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | (7.6) | 5.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ・ ナデ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | 焼成あまい |
| 53 | 296 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | (5.7) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ→ ミガキ | 5Y4/1 灰 | 2.5Y8/2 灰白 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 297 | | 瓦器 | 椀 | (17.0) | | (4.2) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ヘラケズリ | 2.5Y5/1 黄灰 | 2.5Y4/2 暗灰黄 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 298 | | 瓦器 | 椀 | (15.0) | (6.8) | 5.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ヘラケズリ? →ミガキ | 2.5Y4/1 黄灰 | 2.5Y4/1 黄灰 | 密 | 良 | 35 (45) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 299 | | 瓦器 | 椀 | (16.4) | | (4.8) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ヘラケズリ→ ミガキ(磨滅) | 2.5Y6/1 黄灰 | 2.5Y6/1 黄灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 300 | | 瓦器 | 椀 | (17.0) | 6.6 | 5.2 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 7.5YR7/6 橙 | 10YR4/1 褐灰 | 密 | 良 | 5 (90) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | 口縁内端部に 段 |
| 53 | 301 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | | 5.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 2.5Y4/1 黄灰 | 2.5Y3/1 黒褐 | やや 密 | やや 軟 | 5 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 302 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | (6.8) | 6.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 5Y5/1 灰 | 5Y5/1 灰 | 密 | 良 | 25 (15) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | 図上復元 |
| 53 | 303 | | 瓦器 | 椀 | (16.6) | (7.2) | 5.6 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 5Y3/1 オ リープ黒 | 5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 25 (35) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 304 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | (7.0) | 6.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 10YR6/3 にぶい黄 橙 | 7.5YR6/4 にぶい黄 橙 | やや 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | 図上復元、焼 成あまい |
| 53 | 305 | | 瓦器 | 椀 | (16.0) | (5.4) | 5.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ヘラケズリ | 2.5Y4/1 黄灰 | 2.5Y7/3 浅黄 | やや 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 306 | | 瓦器 | 椀 | (16.6) | 7.2 | 5.4 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ユビオサエ→ ミガキ | 2.5Y4/1 黄灰 | 2.5Y7/2 灰黄 | 密 | 良 | 25 (75) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 307 | | 瓦器 | 椀 | | 6.4 | (1.5) | ナデ | ナデ | N3/ 暗灰 | N3/ 暗灰 | 密 | 良 | (100) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 308 | | 瓦器 | 椀 | | 6.4 | (1.5) | ミガキ | ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | (100) | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 53 | 309 | | 瓦器 | 小皿 | 10.0 | | 2.7 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ・ユビ オサエ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 40 | 08019-4 | SE2 区 6 層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|----|------------|------------|------------|---------------------|---------------------------|---------------|---------------|-----|----|---------------|---------|---------------------|---------------|
| 54 | 310 | 22 | 土師器 | 小皿 | (8.6) | | 1.7 | ナデ | ユビオサエ・ナデ | 10YR5/2 灰黄褐 | 10YR5/2 灰黄褐 | 密 | 良 | 35 | 08019-4 | SE2-3区7層 | 底部外面に粘土紐巻き上げ痕 |
| 54 | 311 | | 土師器 | 小皿 | (9.8) | | 1.6 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10Y8/1 灰白 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 312 | | 土師器 | 小皿 | (10.0) | | (2.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SW1区7A層 | |
| 54 | 313 | | 土師器 | 大皿 | 15.0 | | 2.7 | ナデ? | ナデ | 10YR8/2 灰白 | 10YR8/3 浅黄橙 | 密 | 良 | 70 | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 314 | | 瓦器 | 小皿 | (9.0) | | (1.8) | ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SW3区7層 | |
| 54 | 315 | | 瓦器 | 小皿 | 9.7 | | 2.2 | ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ミガキ(磨滅) | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 70 | 08019-4 | SE3区7層 | |
| 54 | 316 | | 瓦器 | 小皿 | 9.6 | | 2.4 | ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 95 | 08019-4 | SE3区7層 | |
| 54 | 317 | | 瓦器 | 小皿 | (9.8) | | (2.4) | 不明 | 不明 | 10Y4/1 灰 | 10Y4/1 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 318 | | 瓦器 | 小皿 | 10.4 | | 2.7 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ(磨滅) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | N5/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 55 | 08019-4 | SE3区7層 | |
| 54 | 319 | | 瓦器 | 椀 | (14.0) | | (4.5) | 不明 | 不明 | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y4/1 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 320 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | | (4.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ナデ | 5Y4/1 灰 | 5Y5/1 灰 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 321 | | 瓦器 | 椀 | (14.7) | | (3.7) | ミガキ(磨滅) | ユビオサエ | 10Y4/1 灰 | 10Y4/1 灰 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 322 | | 瓦器 | 椀 | (15.8) | | (4.7) | ミガキ | 口縁部:ミガキ(磨滅)、体部:ユビオサエ・ナデ | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SE3区7層 | |
| 54 | 323 | | 瓦器 | 椀 | (14.8) | | (2.3) | 不明 | 不明 | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | SE3区7層 | |
| 54 | 324 | | 瓦器 | 椀 | | (6.8) | (1.3) | ミガキ(磨滅) | 不明 | 7.5Y5/1 灰 | 2.5Y8/1 灰白 | 密 | 良 | (50) | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 325 | | 瓦器 | 椀 | | 5.6 | (1.4) | ミガキ(磨滅) | ナデ | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | 密 | 良 | (100) | 08019-4 | SE2-3区7層 | |
| 54 | 326 | | 瓦器 | 椀 | | (4.6) | (1.2) | 不明 | 不明 | N4/ 灰 | N4/ 灰 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | SE3区7層 | |
| 54 | 327 | | 須恵器 | 掃鉢 | | (9.8) | (2.9) | 工具ナデ | 工具ナデ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | (20) | 08019-4 | SE5-6区7A層 | |
| 54 | 328 | | 須恵器 | 杯 | | (9.0) | (1.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | (20) | 08019-4 | SW3区7A層 | |
| 54 | 329 | 22 | 弥生土器 | 手焙 | | | (8.1) | ナデ | 不明 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | SE3区7層 | 覆い部下端に刻目 |
| 54 | 330 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.4 | (2.1) | ナデ | ユビオサエ | 7.5YR7/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | SW2区7A層 | |
| 54 | 331 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.2 | (2.7) | ナデ | ユビオサエ | 7.5YR7/6 橙 | 10YR5/2 灰黄褐 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | SW2区12層 | 底部外面赤変? |
| 55 | 332 | | 須恵器 | 杯蓋 | (11.8) | | (4.4) | 回転ナデ | 回転ヘラケズリ・回転ナデ | N6/ 灰 | N5/ 灰 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SE4-5区7B-7D・10層 | |
| 55 | 333 | | 須恵器 | 杯身 | (11.2) | | (5.1) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | やや密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 自然流路SW6区9・11A層 | |
| 55 | 334 | | 須恵器 | 甕 | (17.0) | | (6.4) | 口縁部:回転ナデ、体部:回転ナデ | 口縁部:回転ナデ、体部:カキメ | 7.5Y6/1 灰 | 7.5Y6/1 灰 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SW6区9・11A層 | |
| 55 | 335 | | 須恵器 | 甕 | (11.8) | | (6.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/ 灰 | 5B6/1 青灰 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SE5-6区7B-7D・10層 | 内面自然釉 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|-------|------------|------------|------------|-----------------------------|-----------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|-----------------------|-------------|
| 56 | 336 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | (7.7) | | 7.3 | 口縁部:ユビオサエ→ヨコナデ、体部:指頭圧痕→ユビナデ | 口縁部:ユビオサエ→ヨコナデ、体部:ケズリ | 10YR4/1 褐灰 | 5YR5/6 明赤褐 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 SE6 区 10 層 | |
| 56 | 337 | | 土師器 | 小型丸底壺 | | | (4.8) | 口縁部:ナデ、体部:ケズリ? | 口縁部:ナデ、体部:ハケ(磨滅) | 10YR7/6 明黄褐 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5 区 7B-7D・10 層 | |
| 56 | 338 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | 7.8 | | (5.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 90 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 9 層 | |
| 56 | 339 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | (6.7) | | 7.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ→ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ?・ナデ | 10YR5/1 褐灰 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 密 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路 SE5 区 10 層 | 底部外面黒斑 |
| 56 | 340 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | (9.0) | | 8.6 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 5 未満 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 9 層以下 | 口縁~体部上半外面黒斑 |
| 56 | 341 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | (8.6) | | 9.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | やや良 | 20 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 11B 層 | |
| 56 | 342 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | (9.0) | | 8.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SE5 区 10 層 | 生駒西麓産? |
| 56 | 343 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (10.4) | | (6.6) | 口縁部:ナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 5 未満 | 08019-4 | 自然流路 SW5 区 9 層 | |
| 56 | 344 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (9.0) | | (4.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 不明 | 7.5YR8/2 灰白 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路 SW5 区 9 層以下 | |
| 56 | 345 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (8.8) | | (5.1) | 口縁部:ハケ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SE5 区 10 層 | |
| 56 | 346 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | 8.2 | | 9.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・ケズリ・指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 60 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 11B 層 | |
| 56 | 347 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (8.4) | | 10.0 | 口縁部:ハケ、体部:ケズリ→一部ナデ | 口縁部:ハケ、体部:ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | やや密 | 良 | 5 未満 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 9 層以下 | 図上復元 |
| 56 | 348 | 23 | 土師器 | 小型丸底壺 | (6.4) | | 10.1 | 不明 | 口縁部:不明、体部:ハケ(磨滅) | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや密 | やや良 | 30 | 08019-4 | 自然流路(試掘調査 06-5) | 体部外面黒斑 |
| 56 | 349 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (9.0) | | (6.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 9 層以下 | |
| 56 | 350 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (8.8) | | (5.2) | 口縁部:ナデ、体部:指頭圧痕・ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 SE5 区 7B-7D・10 層 | |
| 56 | 351 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (10.5) | | 12.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ・指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 11B 層 | |
| 56 | 352 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (10.8) | | 推定 9.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 SW4-5 区 11A 層以下 | 図上復元 |
| 56 | 353 | 24 | 土師器 | 小型丸底壺 | 9.2 | | 10.2 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕→ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10R6/8 赤橙 | 密 | 良 | 60 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 9 層 | 体~底部外面黒斑 |
| 56 | 354 | 24 | 土師器 | 小型丸底壺 | | | (9.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5Y3/1 黒褐 | 10YR8/2 灰白 | やや密 | やや良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 SE5-6 区 10 層 | |
| 56 | 355 | 24 | 土師器 | 小型丸底壺 | (5.6) | | 9.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 5YR5/6 明赤褐 | 5YR5/6 明赤褐 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 SE5-6 区 7・10 層 | |
| 56 | 356 | 24 | 土師器 | 小形直口壺 | 11.1 | | 15.9 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 2.5YR6/6 橙 | 2.5YR6/6 橙 | やや密 | やや良 | 50 | 08019-4 | 自然流路 SW4 区 9 層以下 | 体部下外面スス |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|-------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------------|---------------------------|------------------|------------------|-----|-----|---------------------------|---------|---------------------|--------------|
| 56 | 357 | 24 | 土師器 | 小形直口壺 | 12.9 | | 14.5 | 口縁部:横ハケ→ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ナデ | 口縁部:縦ハケ→ヨコナデ、体部:上半ナデ・下半ハケ | 5YR6/1 褐灰 | 2.5YR7/8 橙 | やや密 | 良 | 70 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | 体部中央に焼成後穿孔 |
| 56 | 358 | | 土師器 | 小形直口壺 | | | (13.9) | 口縁部:工具ナデ、体部:指頭圧痕→ナデ? | 口縁部:ナデ、体部:ナデ | 5YR6/4 にぶい橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路SE5-6区7B-7D・10層 | 図上復元、口縁部外面黒斑 |
| 56 | 359 | 24 | 土師器 | 壺 | 11.2 | | 15.5 | ケズリ? | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路SW4区9層以下 | |
| 56 | 360 | 24 | 土師器 | 壺 | (10.6) | | (11.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ? | 2.5Y4/2 暗灰黄 | 5YR5/6 明赤褐 | やや密 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |
| 56 | 361 | | 土師器 | 壺 | (12.0) | | (4.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 35 | 08019-4 | 自然流路SW4区11A-11B層 | |
| 57 | 362 | 25 | 土師器 | 大形直口壺 | 13.6 | | (22.5) | 口縁部:不明、体部:ケズリ? | 口縁部:不明、体部:ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 75 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | 口縁~肩部外面黒斑 |
| 57 | 363 | 25 | 土師器 | 大形直口壺 | 16.8 | | (11.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕?・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR5/1 褐灰 | 5YR6/6 橙 | やや密 | やや良 | 50 | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | 口縁部ややひずむ |
| 57 | 364 | | 土師器 | 複合口縁壺 | | | (16.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 2.5YR6/6 橙 | 2.5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | 肩部外面黒斑 |
| 57 | 365 | 25 | 土師器 | 複合口縁壺 | (19.2) | | 35.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ・指頭圧痕→ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR8/2 灰白 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 30 | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | 体部外面黒斑 |
| 57 | 366 | 25 | 土師器 | 複合口縁壺 | (19.6) | 5.1 | 45.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 40 (100) | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | 体部外面黒斑 |
| 57 | 367 | | 土師器 | 複合口縁壺 | (19.0) | | (5.6) | ヨコナデ | ヨコナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SW4区9層以下 | |
| 57 | 368 | | 土師器 | 複合口縁壺 | (20.0) | | (6.7) | ヨコナデ | ヨコナデ | 7.5YR7/6 橙 | 10YR7/6 明黄褐 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SE5-6区10層 | |
| 58 | 369 | | 土師器 | 小形甗 | | | (13.1) | 体部:指頭圧痕・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5YR5/6 明褐 | 7.5YR4/6 褐 | やや粗 | 良 | (90) | 08019-4 | 自然流路SE5区7B-7D・10層 | 体部下半外面スス |
| 58 | 370 | 25 | 土師器 | 小形甗 | (13.0) | | 15.7 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ? | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |
| 58 | 371 | | 土師器 | 甗 | (11.8) | | (3.0) | 不明 | 不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | |
| 58 | 372 | 25 | 土師器 | 甗 | 13.4 | | (5.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 60 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |
| 58 | 373 | | 土師器 | 甗 | (13.2) | | (5.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 40 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |
| 58 | 374 | | 土師器 | 布留形甗 | (14.2) | | (5.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 45 | 08019-4 | 自然流路SW5区9・11B層 | |
| 58 | 375 | | 土師器 | 布留形甗 | (15.8) | | (4.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR8/2 灰白 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層以下 | |
| 58 | 376 | | 土師器 | 布留形甗 | (16.5) | | (5.6) | 口縁部:不明、体部:ケズリ | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 40 | 08019-4 | 自然流路SW4区9層以下 | |
| 58 | 377 | | 土師器 | 布留形甗 | (18.0) | | (7.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路SE5区7B-7D・10層 | |
| 58 | 378 | | 土師器 | 布留形甗 | (12.8) | | (8.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | やや良 | 45 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|------|------------|------------|------------|-----------------------|----------------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|---------------------|---------------|
| 58 | 379 | | 土師器 | 布留形甗 | (15.0) | | (5.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:不明、体部:ハケ | 5YR6/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路SW4区9層 | 体部外面黒斑 |
| 58 | 380 | | 土師器 | 布留形甗 | (15.4) | | (6.9) | 口縁部:不明、体部:ケズリ? | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 自然流路SW4区9層以下 | |
| 58 | 381 | 25 | 土師器 | 布留形甗 | 12.4 | | (10.9) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | やや粗 | やや良 | 100 | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | |
| 58 | 382 | | 土師器 | 布留形甗 | (14.0) | | (9.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 5Y4/1 灰 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SW4区9・11B層 | |
| 58 | 383 | 26 | 土師器 | 布留形甗 | 14.0 | | (18.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | やや良 | 100 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | 体部下半外面スス |
| 58 | 384 | 26 | 土師器 | 布留形甗 | (14.8) | | 22.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ・指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | 体部下半外面スス |
| 58 | 385 | | 土師器 | 布留形甗 | (15.6) | | (14.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SW4-5区11B層 | 口縁～肩部外面黒斑 |
| 58 | 386 | | 土師器 | 布留形甗 | (14.4) | | (13.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路SE5区7B-7D・10層 | 体部外面スス |
| 59 | 387 | | 土師器 | 布留形甗 | (16.6) | | (10.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕?・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR6/2 灰黄褐 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |
| 59 | 388 | | 土師器 | 布留形甗 | (16.0) | | (8.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SE5-6区7B-7D・10層 | 口縁部外面黒斑 |
| 59 | 389 | | 土師器 | 布留形甗 | 16.8 | | (10.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:縦ハケ→横ハケ | 2.5YR7/4 淡赤橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや密 | やや良 | 100 | 08019-4 | 自然流路SW4区9層 | |
| 59 | 390 | | 土師器 | 布留形甗 | 16.8 | | (9.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕?・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 40 | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | 体部外面スス |
| 59 | 391 | | 土師器 | 布留形甗 | (20.0) | | (12.9) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/8 橙 | 7.5YR6/8 橙 | やや粗 | 軟 | 35 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | 図上復元 |
| 59 | 392 | 26 | 土師器 | 布留形甗 | 18.0 | | (16.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ? | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 40 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |
| 59 | 393 | | 土師器 | 布留形甗 | (16.7) | | (19.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路(試掘調査06-5) | |
| 59 | 394 | | 土師器 | 布留形甗 | (13.0) | | (10.3) | 口縁部:不明、体部:指頭圧痕 | 口縁部:不明、体部:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 40 | 08019-4 | 自然流路SW4区9層 | 口縁部内外面・体部外面黒斑 |
| 59 | 395 | 26 | 土師器 | 甗 | 12.5 | | (24.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ?・指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:上半横ハケ・下半縦ハケ→ナデ | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 10R6/8 赤橙 | やや粗 | やや良 | 25 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | |
| 59 | 396 | | 土師器 | 甗 | | | (19.2) | 口縁部:不明、体部:ケズリ? | 口縁部:ヨコナデ?、体部:ハケ? | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | やや良 | | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | 体部外面スス |
| 59 | 397 | | 土師器 | 甗 | | | (24.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | (20) | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | 体部上半外面スス |
| 60 | 398 | | 土師器 | 外反高杯 | (17.2) | | (6.0) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | 口縁部ひずむ |
| 60 | 399 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.8) | | (6.1) | 不明 | 不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | 杯部底部に円形刺突痕 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------------------|-----------------------------|------------------|------------------|-----|-----|---------------------------|---------|--------------------------|--|
| 60 | 400 | | 土師器 | 外反高杯 | (15.6) | | (4.4) | ハケ | ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 11A層以下 | |
| 60 | 401 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.8) | | (5.4) | 不明 | 不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 35 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕、口縁部 ひずむ |
| 60 | 402 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.4) | | (5.3) | 不明 | 不明 | 2.5YR5/6 明赤褐 | 2.5YR5/6 明赤褐 | やや密 | 良 | 30 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 (Ci?) |
| 60 | 403 | 26 | 土師器 | 外反高杯 | (15.3) | | (15.4) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 |
| 60 | 404 | | 土師器 | 外反高杯 | (19.8) | | (5.5) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕、口縁部 ひずむ |
| 60 | 405 | | 土師器 | 外反高杯 | (19.6) | | (5.0) | 不明 | 不明 | 7.5YR5/3 にぶい褐 | 7.5YR5/3 にぶい褐 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | |
| 60 | 406 | 26 | 土師器 | 外反高杯 | 16.8 | | (8.7) | 杯部：不明、 脚部：ナデ | 杯部：ハケ？、 脚部：不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 90 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11層 | 杯部底部に刺 突痕 (Ci?) |
| 60 | 407 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.4) | | (10.4) | 不明 | 不明 | 5YR6/8 橙 | 5YR6/8 橙 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 |
| 60 | 408 | | 土師器 | 外反高杯 | (20.8) | | (11.0) | 杯部：不明、 脚部：ケズリ？ | 杯部：不明、 脚部：不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 |
| 60 | 409 | | 土師器 | 外反高杯 | 推定 16.6 | | (9.2) | 不明 | 不明 | 5YR5/8 明赤褐 | 5YR5/8 明赤褐 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW5区 10-11B層 | |
| 60 | 410 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.4) | | (8.2) | 不明 | 不明 | 5YR7/8 橙 | 5YR7/8 橙 | やや粗 | やや軟 | 40 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 (Ci?) |
| 60 | 411 | | 土師器 | 外反高杯 | (17.8) | | (10.9) | 杯部：不明、 脚部：ケズリ | 杯部：不明、 脚部：ヘラナ デ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 (Ci?) |
| 60 | 412 | | 土師器 | 外反高杯 | | | (6.5) | 杯部：不明、 脚部：ケズリ？ | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 (試掘調 査06-5) | 杯部底部に刺 突痕 |
| 60 | 413 | 26 | 土師器 | 外反高杯 | 18.8 | | 推定 11.5 | 杯部：不明、 脚部：ケズリ・ ユビオサエ | 不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 45 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 図上復元、杯 部底部に刺突 痕 |
| 60 | 414 | 27 | 土師器 | 外反高杯 | (16.8) | | 11.3 | 杯部：不明、 脚部：ケズリ・ ナデ | 杯部：不明、 脚部：不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 脚部円形透か し3、杯部底 部に刺突痕 |
| 60 | 415 | | 土師器 | 外反高杯 | | | (9.3) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 |
| 60 | 416 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.4) | | 13.9 | 杯部：不明、 脚部：ケズリ？ | 杯部：不明、 脚部：不明 | 5YR6/8 橙 | 5YR6/8 橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕、口縁部 ひずむ |
| 60 | 417 | 27 | 土師器 | 外反高杯 | (19.2) | | 13.0 | 杯部：ヨコナ デ・ハケ、脚 部：ケズリ・ ハケ | 杯部：ヨコナ デ・ハケ、脚 部：ヘラナデ？ | 2.5YR5/6 明赤褐 | 2.5YR5/6 明赤褐 | やや密 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部内面黒 斑、脚部円形 透かし3、杯 部底部に刺突 痕 |
| 60 | 418 | | 土師器 | 外反高杯 | | | (9.9) | 脚部：工具痕 (ケズリ？) | 脚部：ハケ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 (試掘調 査06-5) | 杯部底部に刺 突痕 |
| 61 | 419 | 27 | 土師器 | 有稜高杯 | 21.8 | | (6.5) | 不明 | ヨコナデ | 2.5YR6/8 橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや密 | やや軟 | 100 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 (Ci?) |
| 61 | 420 | | 土師器 | 有稜高杯 | (21.8) | | (7.2) | ナデ | ハケ | 2.5Y7/1 灰白 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 9層以下 | 口縁部内外面 黒斑、杯部底 部に刺突痕 (Ci?) |
| 61 | 421 | | 土師器 | 高杯 | | | (5.5) | シボリ目？ | ユビオサエ？ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 11A層以下 | |
| 61 | 422 | | 土師器 | 高杯 | | | (8.0) | ケズリ | ハケ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------------|------------|------------|------------|-----------------------------------|-------------------------|----------------------|----------------------|-----|-----|---------------|---------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 61 | 423 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.4) | 杯部:ナデ? 脚部:シボリ 目→ケズリ | 杯部:ハケ、 脚部:ハケ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5-6区 7B-7D・ 10層 | 杯部底部に刺 突痕 |
| 61 | 424 | | 土師器 | 高杯 | | | (10.3) | ケズリ? | ミガキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層 | |
| 61 | 425 | | 土師器 | 高杯 | | | (8.8) | 杯部:ナデ、 脚部:ケズリ? | 杯部:不明、 脚部:ヘラナ デ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 図上復元、杯 部底部に刺突 痕 |
| 61 | 426 | | 土師器 | 高杯 | | | (6.0) | 不明 | 不明 | 7.5YR5/6 明褐 | 7.5YR5/6 明褐 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW4区 9層以下 | |
| 61 | 427 | 27 | 土師器 | 高杯 | | | (9.0) | 不明 | 不明 | 2.5YR6/6 橙 | 2.5YR6/6 橙 | やや密 | やや良 | | 08019-4 | 自然流路 SW4区 11B層以 下 | 杯部底部に刺 突痕 |
| 61 | 428 | | 土師器 | 高杯 | | | (9.4) | ケズリ・ナデ | ヘラナデ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 杯部底部に刺 突痕 (Ci) |
| 61 | 429 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.0) | 脚部:工具ナ デ?・ハケ | 不明 | 7.5RY7/4 にぶい橙 | 7.5RY7/3 にぶい橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 裾部ひずむ |
| 61 | 430 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.7) | 工具ナデ・ナ デ | ヘラナデ? | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 2.5YR6/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 11A層以 下 | |
| 61 | 431 | 27 | 土師器 | 鉢 | | | (5.0) | ナデ | 指頭圧痕・ナ デ | 10YR7/2 にぶい黄 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW5区 9層以下 | 外面黒斑 |
| 61 | 432 | 27 | 土師器 | 鉢 | (9.8) | | 5.5 | ナデ | ナデ・ケズリ | 2.5Y4/1 黄灰 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SW4区 11B層 | |
| 62 | 433 | | 弥生土器 | 広口壺 | (16.0) | | (3.4) | ヨコナデ | ヨコナデ | 5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SW6区 9層以下 | 口縁部に刻目 |
| 62 | 434 | 27 | 弥生土器 | 広口壺 | (20.4) | | (8.0) | 不明 | 不明 | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層以 下 | |
| 62 | 435 | 27 | 弥生土器 | 広口壺 | 14.2 | | (14.8) | 口縁部:ミガ キ、体部:ミ ガキ | 口縁部:ミガ キ、体部:ミ ガキ | 10YR7/6 明黄褐 | 2.5YR5/6 明赤褐 | やや粗 | 良 | 100 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層以 下 | |
| 62 | 436 | | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (22.8) | | (3.2) | ヨコナデ・ミ ガキ? | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや密 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 9層以下 | 口縁部に籐状 文・竹管円形 浮文、頸部に 波状文 |
| 62 | 437 | | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (17.8) | | (2.3) | ナデ | ナデ | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 9層以下 | 口縁部に沈線 |
| 62 | 438 | | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (18.0) | | (1.9) | 不明 | ヨコナデ | 10YR4/1 褐灰 | 10YR8/3 浅黄橙 | 密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SE5-6区 10層 | 口縁部に沈 線、円形浮文 剥離? |
| 62 | 439 | | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (18.6) | | (4.9) | ナデ? | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路 SW5-6区 8層以下 | 口縁部に沈 線・竹管円形 浮文 |
| 62 | 440 | | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (24.0) | | (2.2) | 不明 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 SW6区 9層以下 | 口縁部に沈線 |
| 62 | 441 | 28 | 弥生土器 | 直口壺 | 15.9 | | (9.5) | 口縁部:ヨコ ナデ・工具ナ デ、体部:指 頭圧痕 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 5YR4/3 にぶい赤 褐 | 5YR4/3 にぶい赤 褐 | やや密 | 良 | 100 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層 | 口縁部内面黒 斑、生駒西麓 産 |
| 62 | 442 | | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | | | (3.0) | 不明 | 不明 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW5区 9層以下 | 口縁部に竹管 文 |
| 62 | 443 | | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | | | (5.9) | ナデ | ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層以 下 | 口縁部に波状 文・竹管円形 浮文 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|------------|------------|------------|-----------------------|--------------------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|---------------------|------------------------------|
| 62 | 444 | | 弥生土器 | 壺 | | 4.7 | (7.9) | 工具痕 | ミガキ?・ユビオサエ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SE5区10層 | 体部外面黒斑 |
| 62 | 445 | | 弥生土器 | 壺 | | 3.1 | (11.9) | 体部:不明、底部:板ナデ? | 不明 | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y7/3 浅黄 | 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW4区11B層 | 図上復元 |
| 62 | 446 | | 弥生土器 | 壺 | | 5.5 | (11.0) | 板ナデ・ナデ | ミガキ、底部:ナデ | 2.5Y3/1 黒褐 | 10YR6/8 赤橙 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | |
| 62 | 447 | | 弥生土器 | 壺 | | (4.6) | (5.0) | ナデ? | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | (25) | 08019-4 | 自然流路SW4区9層以下 | |
| 62 | 448 | | 弥生土器 | 口縁部? | (19.2) | | (7.1) | ヨコナデ・ハケ | ヨコナデ・ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SE5-6区7B-7D・10層 | 壺または大形器台? |
| 62 | 449 | | 弥生土器 | 底部 | | 2.9 | (4.9) | ユビオサエ? | ユビオサエ | 5Y3/1 オリーブ黒 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SE5-6区10層 | 底部外面黒斑、鉢または壺? |
| 62 | 450 | | 弥生土器 | 小形壺? | | (4.0) | (4.2) | ユビナデ | ナデ? | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 自然流路SW5区9層以下 | 外面黒斑 |
| 63 | 451 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (12.0) | | (4.7) | 不明 | 口縁部:不明、体部:タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SW4-5区11A層以下 | |
| 63 | 452 | | 弥生土器 | 甗 | (16.0) | | (3.0) | ヨコナデ | ヨコナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや密 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | |
| 63 | 453 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (14.4) | | (5.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ナデ、体部:タタキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SW5区9層以下 | 口縁部にタタキによる刻目状痕跡 |
| 63 | 454 | | 弥生土器 | 甗 | (17.4) | | (4.2) | 口縁部:不明、体部:ケズリ | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | やや粗 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路SE5区7B-7D・10層 | 生駒西麓産 |
| 63 | 455 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (16.0) | | 12.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | |
| 63 | 456 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (17.0) | | (11.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | やや粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層以下 | 図上復元、生駒西麓産、体部下外面スス |
| 63 | 457 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (18.0) | | (6.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:工具痕(板ナデ?) | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR6/4 にぶい橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層以下 | |
| 63 | 458 | 28 | 弥生土器 | 弥生形甗 | (19.2) | | (16.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:板?ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR5/1 褐灰 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層以下 | 体部下外面スス |
| 63 | 459 | 28 | 弥生土器 | 弥生形甗 | 16.2 | 3.8 | 23.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→下半一部ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 55 (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | 体部中央部外面リング状にスス、下半内面コゲ、口縁部ひずむ |
| 63 | 460 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (19.6) | | (23.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ | 口縁部:タタキ→ヨコナデ、体部:タタキ | 2.5YR7/6 橙 | 2.5YR7/6 橙 | やや粗 | やや良 | 25 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | |
| 63 | 461 | 28 | 弥生土器 | 弥生形甗 | 18.0 | 4.9 | (22.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→下半縦位ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | 25 (100) | 08019-4 | 自然流路SW6区11B層以下 | 図上復元、体部中央部外面スス(リング状?) |
| 63 | 462 | 28 | 弥生土器 | 弥生形甗 | (18.8) | 4.7 | 29.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→中央部~下半板状工具縦位ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | 5 (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層 | 底部外面黒斑、体部下外面スス |
| 64 | 463 | | 弥生土器 | 壺? 底部 | | | (2.7) | ナデ? | ナデ? | 2.5Y7/3 浅黄 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | (80) | 08019-4 | 自然流路SW5区9層以下 | |
| 64 | 464 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.8 | 2.1 | ナデ? | ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区9層以下 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|--------|------------|------------|------------|------------------|---------------|--------------|--------------|-----|-----|---------------|---------|-------------------|-----------------------------|
| 64 | 465 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.5 | (2.1) | 不明 | 不明 | 10YR8/6黄橙 | 10YR8/6黄橙 | やや粗 | やや軟 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層以下 | |
| 64 | 466 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.0 | (2.7) | 工具痕 | タタキ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR6/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層以下 | 甕または鉢 |
| 64 | 467 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 3.5 | (2.3) | 工具痕 | タタキ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 10YR4/1褐灰 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11B層以下 | 外面スス |
| 64 | 468 | | 弥生土器 | 甕底部 | | (6.0) | (3.6) | ナデ? | タタキ | 10YR5/2灰黄褐 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | (30) | 08019-4 | 自然流路SE5-6区10層 | |
| 64 | 469 | | 弥生土器 | 甕底部 | | (5.2) | (3.0) | ナデ | タタキ | 10YR5/6黄褐 | 5YR6/8橙 | やや粗 | 良 | (40) | 08019-4 | 自然流路SW6区9・11A層 | 内面コゲ |
| 64 | 470 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.7 | (3.3) | ハケ | タタキ | 5YR7/6橙 | 5YR7/6橙 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11A層 | 甕または鉢 |
| 64 | 471 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.0 | 2.9 | 工具痕 | タタキ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW3区9層 | 甕または鉢 |
| 64 | 472 | | 弥生土器 | 底部 | | (4.4) | (3.5) | 不明 | タタキ | 7.5YR7/8黄橙 | 7.5YR7/8黄橙 | やや粗 | 良 | (40) | 08019-4 | 自然流路SW5-6区8層以下 | 甕または鉢 |
| 64 | 473 | | 弥生土器 | 有孔鉢?底部 | | 4.6 | (3.8) | ハケ | タタキ | 5YR6/6橙 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (95) | 08019-4 | 自然流路SW5-6区8層以下 | 底部1孔、底部木の葉文 |
| 64 | 474 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.4 | (3.2) | 板?ナデ | タタキ | 5YR7/6橙 | 5YR7/6橙 | やや粗 | 良 | (95) | 08019-4 | 自然流路SW6区11B層以下 | 甕または鉢 |
| 64 | 475 | | 弥生土器 | 壺?底部 | | 4.3 | (3.1) | 板ナデ? | タタキ→ナデ | 5YR7/6橙 | 10YR7/4にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW6区9層以下 | 外面黒斑 |
| 64 | 476 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.6 | (4.3) | ハケ | タタキ→ナデ | 5YR6/6橙 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11層 | 甕または鉢 |
| 64 | 477 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 3.8 | (5.1) | 体部:板?ナデ、底部:ユビオサエ | タタキ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11D層 | 外面スス、内面コゲ |
| 64 | 478 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 3.8 | (5.2) | 不明 | タタキ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/8黄橙 | やや粗 | やや軟 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW4-5区11A層以下 | |
| 64 | 479 | | 弥生土器 | 底部 | | (5.2) | (5.8) | ナデ? | ナデ? | 5YR6/8橙 | 7.5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路SW4-5区11A層以下 | |
| 64 | 480 | | 弥生土器 | 底部 | | 5.4 | (4.2) | 不明 | ナデ? | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路SW5区11D層 | |
| 65 | 481 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | (19.6) | | (5.6) | 不明 | 不明 | 10YR8/6黄橙 | 10YR8/6黄橙 | やや粗 | やや良 | 10 | 08019-4 | 自然流路SE5区7B-7D・10層 | |
| 65 | 482 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | (20.6) | | (4.2) | 不明 | ナデ? | 7.5YR8/4浅黄橙 | 10YR8/2灰白 | やや粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路SW5-6区8層以下 | |
| 65 | 483 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | | | (8.2) | 不明 | 不明 | 2.5YR7/6橙 | 2.5YR7/6橙 | やや粗 | やや良 | | 08019-4 | 自然流路SW6区11B層以下 | 図上復元、脚柱部半中実、円形透かし3、杯部底部に刺突痕 |
| 65 | 484 | | 弥生土器 | 椀形高杯 | | | (5.4) | 杯部:ミガキ、脚部:ナデ? | 杯部:不明、脚部:ミガキ | 10R6/6赤橙 | 10R6/6赤橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路SW5区11A層以下 | 脚柱部短く中実、円形透かし |
| 65 | 485 | 29 | 弥生土器 | 椀形高杯 | 14.1 | | (8.2) | 杯部:ミガキ?、脚部:不明 | 杯部:ミガキ、脚部:ミガキ | 7.5YR6/6橙 | 5YR6/8橙 | やや粗 | 良 | 100 | 08019-4 | 自然流路SW5区11B-11D層 | 脚柱部中実、円形透かし4層 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-----------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------------|---------------------------------|-----------------------|----------------------|---------|---------|---------------------------|---------|--------------------------------|--|
| 65 | 486 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (5.1) | 工具ナデ | ケズリ | 7.5YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | 脚柱部中実、 円形透かし |
| 65 | 487 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (4.4) | ナデ? | 不明 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | やや 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SE6区 10層 | 脚柱部中実、 円形透かし3 |
| 65 | 488 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (10.5) | 不明 | ミガキ | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | やや 粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW6区 9・11A 層 | 脚柱部中実、 円形透かし |
| 65 | 489 | 29 | 弥生土器 | 高杯 | | | (5.7) | ナデ? | 不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 粗 | やや 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW5区 9層以下 | 脚柱部半中 実、円形透か し3 |
| 65 | 490 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (4.5) | シボリ目→ケ ズリ・工具ナ デ | ミガキ | 5YR6/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11A-11B 層 | 脚柱部中空、 円形透かし2 段、付加法 |
| 65 | 491 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (8.0) | 不明 | 不明 | 5YR6/8 橙 | 5YR6/8 橙 | やや 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW4区 11A層 | 脚柱部半中実 |
| 65 | 492 | 29 | 弥生土器 | 小形鉢 | 17.4 | (5.0) | (9.0) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | 45 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11A-11B 層 | |
| 65 | 493 | | 弥生土器 | 小形鉢 | (14.0) | | (7.2) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ケズリ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ?ナ デ? | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | 密 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路 SE5区 10層 | |
| 65 | 494 | 22 | 弥生土器 | 鉢 | (25.0) | | (7.7) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 10YR8/6 黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや 粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層以 下 | 片口 |
| 65 | 495 | | 弥生土器 | 鉢 | | | (4.1) | ヨコナデ | ヨコナデ | 10YR6/3 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや 粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層以 下 | 片口 |
| 65 | 496 | 29 | 弥生土器 | 淡路 型器台 | 15.8 | | (5.6) | ヨコナデ・ミ ガキ | 不明 | 2.5YR6/8 橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや 粗 | やや 良 | 70 | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 11A-11B 層 | 口縁部に沈 線・刻目・波 状文・竹管円 形浮文 |
| 65 | 497 | 29 | 弥生土器 | 製塩 土器 | | 4.8 | (4.8) | 不明 | タタキ・ナ デ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 11A層以 下 | 裾部折り返 し、脚部外 面一部赤~黒 変、体部内面 赤変 |
| 65 | 498 | 29 | 弥生土器 | 製塩 土器 | | 5.2 | (4.4) | ユビナデ | タタキ | 7.5YR6/6 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11A層以 下 | 裾部折り返 し、脚部外 面一部黒変、 体部内面赤 変 |
| 65 | 499 | | 弥生土器 | 製塩 土器 | | (5.8) | (4.6) | 不明 | タタキ | 5YR6/8 橙 | 7.5YR6/8 橙 | やや 粗 | 良 | (45) | 08019-4 | 自然流路 SW5区 11B層 | 裾部折り返 し、脚部内 面赤変 |
| 65 | 500 | 29 | 弥生土器 | 製塩 土器 | | 5.2 | (4.4) | ユビナデ | タタキ | 5YR6/8 橙 | 5YR6/8 橙 | やや 粗 | 良 | (70) | 08019-4 | 自然流路 SW5-6区 8層以下 | 裾部折り返 し、脚部内 面赤変 |
| 65 | 501 | 29 | 弥生土器 | 製塩 土器 | | (8.1) | (4.4) | 不明 | タタキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | (45) | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 11A層以 下 | 裾部黒変 |
| 65 | 502 | | 弥生土器 | 製塩 土器 | | (5.0) | (5.2) | 不明 | タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 粗 | やや 軟 | (30) | 08019-4 | 自然流路 SE5-6区 10層 | |
| 65 | 503 | | 弥生土器 | 製塩 土器 | | (6.0) | (4.6) | 不明 | タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | (25) | 08019-4 | 自然流路 SW5区 9層以下 | 脚部内外面 赤変 |
| 65 | 504 | | 弥生土器 | 製塩 土器 | | (6.0) | (3.7) | ナデ | タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | (35) | 08019-4 | 自然流路 SW5-6区 11A-11B 層 | 体部内面・脚 部外面赤変 |
| 65 | 505 | 22 | 縄文土器 | 深鉢 | | | (4.7) | ナデ? | 不明 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 2.5Y4/1 黄灰 | やや 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 SW4-5区 11A層以 下 | |
| 65 | 506 | | 縄文土器 | 浅鉢 ?底部 | | (7.0) | (3.0) | 工具痕? | ケズリ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 2.5Y2/1 黒 | 密 | 良 | (30) | 08019-4 | 自然流路 SW6区 9層以下 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|---------|------------|------------|------------|------------------------------|--------------------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|------------------------|--|
| 66 | 507 | 31 | 弥生土器 | 広口壺 | 15.7 | | (8.5) | 口縁部:ヨコナデ、頸部:ナデ・指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、頸部:ミガキ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 2.5YR7/8 橙 | やや粗 | やや軟 | 70 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |
| 66 | 508 | 30 | 弥生土器 | 広口壺 | 16.3 | | (14.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ナデ? | 口縁部:ヨコナデ→ミガキ、体部:タタキ→ミガキ | 2.5YR7/8 橙 | 2.5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | 45 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | |
| 66 | 509 | | 弥生土器 | 広口壺 | 18.0 | | (7.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕?・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 5YR6/6 橙 | 7.5YR5/2 灰褐 | やや粗 | 良 | 85 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11D層 | 頸部外面刺突文 |
| 66 | 510 | 30 | 弥生土器 | 広口壺 | 15.6 | | (19.2) | 口縁部:不明、体部:ハケ? | 不明 | N4/ 灰 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | 45 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11D層 | |
| 66 | 511 | 30 | 弥生土器 | 垂下口縁広口壺 | (18.4) | | (19.8) | 口縁部:ミガキ、体部:指頭圧痕・ナデ | 口縁部:ミガキ、体部:ミガキ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層以下 | 口縁部に沈線・竹管円形浮文・刻目 |
| 66 | 512 | | 弥生土器 | 複合口縁壺 | | | (3.8) | 不明 | 不明 | 10YR5/2 灰黄褐 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | 口縁部に波状文・竹管円形浮文 |
| 66 | 513 | 30 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | 19.6 | | (8.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕 | 口縁部:ミガキ、体部:ミガキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | やや良 | 95 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 口縁部・頸部に竹管文 |
| 66 | 514 | 30 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | (20.0) | 5.1 | 24.3 | 口縁部:ヨコナデ、頸部:ミガキ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、頸部:ハケ、体部:ミガキ・工具(板?)ナデ | 10YR3/1 黒褐 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 45(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 口縁部に刻目・波状文・竹管円形浮文・簾状文、肩部に簾状文、受部2孔、体部外面黒斑、体部下外面スス |
| 66 | 515 | 31 | 弥生土器 | 壺 | 15.0 | | (27.6) | 口縁部:ヨコナデ→ミガキ、体部:指頭圧痕→粗ミガキ・ハケ | 口縁部:ヨコナデ→ミガキ、体部:ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | やや良 | 75 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面黒斑 |
| 67 | 516 | 31 | 弥生土器 | 壺 | | | (9.4) | 体部:ケズリ? | 体部:ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11A-11B層 | 複合口縁壺? |
| 67 | 517 | 30 | 弥生土器 | 壺 | | | (3.0) | ヨコナデ・指頭圧痕? | ヨコナデ・ミガキ? | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 2.5Y4/2 暗灰黄 | やや粗 | やや良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | 頸部突帯上に刻目・刺突文、外面スス、複合口縁壺?、讀岐産? |
| 67 | 518 | 31 | 弥生土器 | 壺 | | 5.8 | (20.4) | ハケ | ハケ・工具痕 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 7.5YR6/6 橙 | 粗 | 良 | (80) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 底部外面黒斑、底部側のみ胎土精良、広口壺? |
| 67 | 519 | 31 | 弥生土器 | 壺 | | | (14.1) | ハケ? | ナデ? | 2.5Y4/1 黄灰 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | やや良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 体部外面黒斑、肩部波状文 |
| 67 | 520 | | 弥生土器 | 壺 | | 2.2 | (12.0) | ハケ | ミガキ | N4/ 灰 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | |
| 67 | 521 | | 弥生土器 | 壺 | | 2.2 | (13.6) | 不明 | ミガキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | やや軟 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 底部付近外面黒斑 |
| 67 | 522 | 31 | 弥生土器 | 壺 | | 1.5 | (11.1) | 板ナデ?・ナデ | ミガキ | 10R5/8 赤 | 2.5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 細頸直口壺? |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|----------|----------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------------|--|----------------------|----------------------|---------|---------|---------------------------|---------|--|------------------------------------|
| 67 | 523 | 31 | 弥生 土器 | 壺 | | 5.4 | (19.1) | ハケ? | タタキ→中央 部ミガキ・下 半一部ハケ | 10YR8/2 灰白 | 5YR5/6 明赤褐 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり (試掘調 査 06-5) | |
| 67 | 524 | | 弥生 土器 | 壺 | | 5.7 | (9.9) | ナデ | ミガキ | 5YR6/4 にぶい橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | やや 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり (試掘調 査 06-5) | |
| 67 | 525 | | 弥生 土器 | 壺 底部 | | 1.6 | (2.6) | ナデ | ミガキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/2 にぶい黄 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 細頸直口壺? |
| 67 | 526 | | 弥生 土器 | 壺 底部 | | 3.6 | (3.6) | 工具痕 | ケズリ? | 2.5Y6/3 にぶい黄 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | 外面黒斑 |
| 67 | 527 | | 弥生 土器 | 壺 底部 | | 5.1 | (2.9) | ハケ | ミガキ | 10YR5/2 灰黄褐 | 10YR5/2 灰黄褐 | やや 粗 | 良 | (70) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | |
| 67 | 528 | | 弥生 土器 | 壺 底部 | | 5.6 | (5.0) | 不明 | ナデ? | 2.5Y5/1 黄灰 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B-11C 層 | |
| 67 | 529 | 32 | 弥生 土器 | 小形 壺 | 7.6 | 1.6 | 7.9 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ミガキ | 10YR6/4 にぶい黄 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | 60 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり (試掘調 査 06-5) | 体部外面黒斑 |
| 67 | 530 | 32 | 弥生 土器 | 小形 壺 | (5.1) | 3.3 | 6.6 | ナデ | ナデ? | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや 密 | 良 | 50 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 外面黒斑、頸 部刺突文 |
| 68 | 531 | 32 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (12.7) | 2.7 | 11.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 板ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10YR5/2 灰黄褐 | やや 密 | 良 | 40 (80) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり (試掘調 査 06-5) | |
| 68 | 532 | 32 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 13.0 | 4.0 | 11.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 板ナデ・ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ→中央 部ナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや 粗 | 良 | 100 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体部外面スス |
| 68 | 533 | | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (13.0) | 4.0 | 推定 11.7 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや 粗 | 良 | 5 (90) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 図上復元 |
| 68 | 534 | 32 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 12.6 | (3.8) | 12.9 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ? | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 5YR6/8 橙 | やや 粗 | 良 | 70 (50) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 口縁部ひず む、体部中央 部~底部外面 スス |
| 68 | 535 | 32 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 11.4 | 3.5 | 13.3 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 板ナデ? | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ→中央 部~下半板状 工具縦位ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | 90 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体部外面黒 斑、体部下半 外面スス、底 部木の葉文 |
| 68 | 536 | 32 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (12.5) | | (13.1) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ナデ? | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 5YR7/8 橙 | やや 粗 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体部下半外面 スス |
| 68 | 537 | 33 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (13.9) | 4.1 | (12.1) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ハケ? | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 5YR6/8 橙 | やや 粗 | 良 | 40 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | 図上復元、体 部下半外面ス ス |
| 68 | 538 | 33 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (12.8) | (3.3) | 14.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 板ナデ? | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ、底部: ユビオサエ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい褐 | やや 密 | 良 | 60 (30) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体~底部外面 黒斑、体部外 面スス |
| 68 | 539 | | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (14.0) | | (8.2) | 不明 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | やや 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体部外面黒 斑、体部外面 スス |
| 68 | 540 | 33 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 11.8 | | (10.4) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 板ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 5YR7/8 橙 | 5YR7/8 橙 | やや 粗 | 良 | 80 | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|--------|------|------|------------|------------|------------|------------------------|---------------------------------|----------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|------------------------|------------------------|
| 68 | 541 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.0) | | (10.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR7/6 明黄褐 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |
| 68 | 542 | 33 | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.4 | (13.3) | ハケ? | タタキ | 7.5YR8/8 黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | 体部下外面黒斑 |
| 68 | 543 | 33 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 13.6 | 2.8 | 14.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→中央部下半ナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR7/8 黄橙 | 粗 | 良 | 100(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 口縁一部・体部下外面スス、体部中央部内面コゲ |
| 68 | 544 | 33 | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 3.6 | (14.1) | 工具ナデ | タタキ→一部ナデ | 7.5YR6/4 にぶい黄橙 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 体部外面スス |
| 68 | 545 | 34 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 14.4 | 4.3 | 18.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:縦ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→一部ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや密 | 良 | 45(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部下外面スス、底部内面コゲ |
| 68 | 546 | 34 | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.2) | 4.7 | 18.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→一部ナデ? | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | 粗 | やや良 | 40(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 底部付近外面黒斑 |
| 68 | 547 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 5.6 | (16.7) | 口縁部:不明、体部:ナデ? | 口縁部:不明、体部:タタキ→下半縦方向工具ナデ | 10YR8/2 灰白 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |
| 69 | 548 | 34 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 12.8 | | (15.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→中央部板状工具痕(板ナデ?) | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10R5/6 赤 | やや粗 | やや良 | 100 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 口縁～体部外面黒斑、体部下外面スス |
| 69 | 549 | 34 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 14.8 | 4.5 | 20.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ・ユビオサエ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 2.5YR7/6 橙 | 2.5YR7/4 淡赤橙 | やや粗 | 良 | 70(80) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面黒斑 |
| 69 | 550 | 34/巻頭4 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 15.6 | 2.8 | 18.3 | 口縁部:ヨコナデ、体部:工具ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→ハケ | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 5YR5/6 明赤褐 | やや粗 | 良 | 55(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 体部外面スス、北近畿産? |
| 69 | 551 | 34 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 16.6 | (4.8) | 20.2 | 口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 55(40) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部下外面スス |
| 69 | 552 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.0) | 4.4 | 推定21.0 | 不明 | 口縁部:不明、体部:タタキ、底部:工具ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 15(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 図上復元、底部周辺外面黒斑 |
| 69 | 553 | 35 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 16.4 | | (18.9) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/6 黄橙 | やや粗 | やや良 | 100 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面黒斑、体部外面スス |
| 69 | 554 | 35 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 15.6 | 3.0 | 20.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ナデ・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 7.5YR6/2 灰褐 | 2.5YR7/8 橙 | やや密 | 良 | 95(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | 体部下外面スス、体部下内面コゲ、口縁部ひずむ |
| 69 | 555 | 35 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 15.1 | 4.2 | 20.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→下半縦位ナデ | 7.5YR7/2 明褐灰 | 2.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 65(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | 体部外面スス、生駒西麓産 |
| 69 | 556 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.4) | | (21.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ユビオサエ?→ヨコナデ、体部:タタキ、頸部ミガキ状調整 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 30 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11D層 | |
| 69 | 557 | 35 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 16.0 | 4.5 | 21.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:板?ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 2.5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | 80(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部内面黒斑、体部下外面スス、底部に木の葉文 |
| 69 | 558 | 35 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 16.7 | 4.5 | 23.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビナデ・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 2.5YR7/6 橙 | 2.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 80(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部下外面スス、胎土分析 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------------|------|------|------------|------------|------------|---------------------|-----------------------|---------------|---------------|-----|----|---------------|---------|------------------------|---|
| 69 | 559 | 35 | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.9 | (17.7) | 板ナデ | タタキ | 5YR7/6 橙 | 10YR6/8 赤橙 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部下外面スス |
| 70 | 560 | 36 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 14.8 | | (12.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面スス |
| 70 | 561 | 36 | 弥生土器 | 弥生形甕 | (16.8) | | (13.5) | 口縁部:工具ナデ、体部:板ナデ | 口縁部:ナデ、体部:タタキ→一部ナデ | 10YR4/2 灰黄褐 | 10YR4/2 灰黄褐 | やや粗 | 良 | 60 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | 体部下外面スス、口縁部やいびつ、口縁端部にタタキによる刻目状痕跡、胎土分析 |
| 70 | 562 | 36 | 弥生土器 | 弥生形甕 | (14.8) | | (14.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 40 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 口縁部ひずむ |
| 70 | 563 | 36/ 巻頭4 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 15.7 | 4.6 | 20.2 | 口縁部:工具ナデ、体部:板ナデ | 口縁部:ヨコナデ(板ナデ?)、体部:タタキ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | 95 (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面黒斑、体部下外面スス、口縁部いびつ、口縁端部にタタキによる刻目状痕跡、胎土分析 |
| 70 | 564 | 36 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 16.0 | | (15.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 2.5YR7/8 橙 | 2.5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部中央部外面スス |
| 70 | 565 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (21.0) | | (14.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→一部ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 体部中央部外面スス |
| 71 | 566 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (14.0) | | (3.5) | 不明 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 35 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 口縁部ひずむ |
| 71 | 567 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.0) | | (5.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:工具ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 30 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |
| 71 | 568 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (14.0) | | (6.2) | 不明 | 口縁部:不明、体部:タタキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 10 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | |
| 71 | 569 | 22 | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.2) | | (6.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→一部ナデ? | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | |
| 71 | 570 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (18.8) | | (4.3) | 口縁部:ヨコナデ?、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ?、体部:不明 | 10YR7/6 明黄褐 | 7.5YR7/8 黄橙 | やや密 | 良 | 30 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 口縁部内外面スス |
| 71 | 571 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (17.8) | | (5.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | |
| 71 | 572 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (18.0) | | (7.4) | 口縁部:ハケ状痕跡、体部:板ナデ? | 口縁部:ハケ状痕跡、体部:タタキ→一部ナデ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 口縁端部にタタキによる刻目状痕跡、口縁部いびつ |
| 71 | 573 | 36 | 弥生土器 | 弥生形甕 | (16.8) | | (11.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデまたはハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→一部ナデ | 5YR6/8 橙 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 口縁部ひずむ |
| 71 | 574 | 37 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 17.3 | | (14.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:工具ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 80 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|------|------------|------------|------------|----------------------|-------------------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|------------------------|------------------------|
| 71 | 575 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (16.8) | | (13.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR6/6 橙 | 5YR5/4 にぶい赤褐 | やや粗 | 良 | 5 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | |
| 71 | 576 | 37 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 17.2 | | (13.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR7/6 橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | 90 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面スス |
| 71 | 577 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.0) | | (7.3) | 口縁部:ヨコナデ?、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ?、体部:タタキ→一部ナデ? | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 20 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | |
| 71 | 578 | 37 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 17.8 | | (18.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→ナデ | 2.5YR7/6 橙 | 2.5YR7/8 橙 | やや粗 | やや良 | 50 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面スス |
| 71 | 579 | 37 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 16.8 | | (15.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→中央部付近一部ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 60 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | |
| 72 | 580 | 37 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 19.1 | | (17.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→ナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | やや良 | 100 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 図上復元、体部外面スス |
| 72 | 581 | 37 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 17.8 | | (17.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 2.5YR6/8 橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや粗 | やや良 | 80 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面黒斑、体部中央部外面スス |
| 72 | 582 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | 17.4 | | (10.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・板ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10R4/8 赤 | 10R5/8 赤 | やや粗 | やや良 | 45 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | |
| 72 | 583 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (16.0) | | (9.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→一部ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 体部外面スス、口縁部いびつ |
| 72 | 584 | 38 | 弥生土器 | 弥生形甕 | (16.4) | | (22.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→一部ナデ | 5YR5/6 明赤褐 | 5YR5/6 明赤褐 | やや粗 | やや良 | 20 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面スス |
| 72 | 585 | 38 | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.4 | (19.7) | ナデ・工具痕 | タタキ | 5YR7/6 橙 | 10YR6/2 灰黄褐 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 体部下半外面スス、底部付近内面コゲ |
| 72 | 586 | 38 | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 6.6 | (18.8) | ハケ | タタキ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部中央部外面スス、体部下半内面コゲ |
| 72 | 587 | 39 | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.7 | (14.5) | ハケ | タタキ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 2.5YR5/6 明赤褐 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部中央部外面スス、体部下半内面コゲ |
| 73 | 588 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (15.8) | 4.7 | 推定25.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR8/6 黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 50(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 図上復元、体部上半外面黒斑、体部下半外面スス |
| 73 | 589 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (18.6) | | (22.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR6/8 橙 | 5YR6/8 橙 | 粗 | 良 | 25 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | 図上復元 |
| 73 | 590 | 38 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 18.2 | | (21.1) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→中央部一部板状工具縦位ナデ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 80 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部上半外面黒斑、体部中央部外面スス |
| 73 | 591 | 38 | 弥生土器 | 弥生形甕 | 17.3 | | (21.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:指頭圧痕・ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR6/8 橙 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | やや良 | 80 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部中央部外面スス |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----------------|----------|----------|------------|------------|------------|---------------------------------|---|----------------------|----------------------|---------|---------|---------------|---------|---|--|
| 73 | 592 | 39/ 巻頭 4 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (18.8) | 3.9 | 31.2 | 口縁部:ヨコ ナデ?、体部: ハケ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 5YR7/6 橙 | やや 粗 | やや 良 | 85 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | 体部中央部外 面スス、底部 内面コゲ、全 体にひずみ大 きく口縁部い びつ |
| 73 | 593 | 39 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 17.0 | 5.0 | 30.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 指頭圧痕・ハ ケ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 2.5YR7/8 橙 | 2.5YR7/8 橙 | 粗 | 良 | 100 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | 体部下半外面 リング状にス ス、体部内面 コゲ |
| 74 | 594 | 38 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 18.2 | (4.2) | 28.4 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ハケ? | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ→一部 ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | 70 (45) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体部中央部外 面スス、体部 下半内面コ ゲ、口縁部い びつ |
| 74 | 595 | 39 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 18.0 | 4.5 | 29.8 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 指頭圧痕・ハ ケ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 粗 | やや 良 | 80 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 頸部外面スス |
| 74 | 596 | 39 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 19.0 | 5.1 | 28.4 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 板ナデ? | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ、底部: ユビオサエ | 2.5YR6/6 橙 | 2.5YR6/6 橙 | やや 粗 | やや 良 | 45 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体部外面黒 斑、体部下 外面スス |
| 74 | 597 | 40 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | (16.8) | 4.6 | 29.9 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ハケ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | 20 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 体部中央部外 面スス、底部 付近内面コゲ |
| 74 | 598 | 40 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 20.6 | 4.8 | 31.0 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 指頭圧痕・ハ ケ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ→ナ デ・下半縦位 板ナデ | 10R6/8 赤橙 | 10R6/8 赤橙 | やや 粗 | 良 | 50 (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B-11D 層 | 体部中央部外 面リング状に スス、体部内 面コゲ |
| 74 | 599 | 40 | 弥生 土器 | 弥生 形甕 | 19.8 | | (23.4) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 板ナデ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ→一部 ナデ、頸部付 近一部に縦ミ ガキ状調整 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 粗 | 良 | 50 | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 口縁端部にタ タキによる刻 目状痕跡、体 部下半外面ス ス |
| 75 | 600 | | 弥生 土器 | 底部 | | 4.7 | (3.9) | 板?ナデ | タタキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | 外面黒斑、底 部に木の葉 文、甕または 鉢 |
| 75 | 601 | | 弥生 土器 | 底部 | | 2.6 | (3.2) | 板?ナデ | タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | 甕または鉢 |
| 75 | 602 | | 弥生 土器 | 底部 | | 3.8 | (2.2) | 工具痕 | 不明 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり (試掘調 査06-5) | 甕または鉢 |
| 75 | 603 | | 弥生 土器 | 底部 | | (3.6) | (2.7) | 工具ナデ? | タタキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや 粗 | 良 | (70) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11 層 | 甕または鉢 |
| 75 | 604 | | 弥生 土器 | 甕 底部 | | 4.6 | (3.2) | ナデ | タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり (試掘調 査06-5) | 外面スス、内 面コゲ |
| 75 | 605 | | 弥生 土器 | 甕 底部 | | 4.5 | (2.0) | ナデ | タタキ | 10YR5/3 にぶい黄 褐 | 7.5YR5/6 明褐 | やや 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 外面スス |
| 75 | 606 | | 弥生 土器 | 甕 底部 | | 3.2 | (2.3) | ナデ | タタキ | 2.5Y5/3 黄褐 | 10YR6/6 明黄褐 | やや 粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11C 層 | 外面スス |
| 75 | 607 | | 弥生 土器 | 甕 底部 | | 4.6 | (3.4) | ハケ・工具痕 | タタキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/8 橙 | やや 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり 11B 層 | 内面コゲ |
| 75 | 608 | | 弥生 土器 | 底部 | | 3.4 | (4.1) | 工具痕 | タタキ | 5YR7/8 橙 | 5YR7/6 橙 | やや 密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路 031 土器 溜まり (試掘調 査06-5) | 甕または鉢 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|------|------------|------------|------------|------------|---------------|--------------|-------------------|-----|-----|---------------|---------|------------------------|-----------------------|
| 75 | 609 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 3.6 | (4.1) | ナデ | タタキ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 10YR4/2灰黄褐(スス付着部) | やや密 | 良 | (90) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 外面スス |
| 75 | 610 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 3.8 | (3.6) | 不明 | タタキ | 10YR6/3にぶい橙 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 外面スス、内面コゲ |
| 75 | 611 | | 弥生土器 | 甕底部 | | (4.8) | (4.3) | 工具痕? | タタキ→ナデ? | 7.5YR5/4にぶい褐 | 7.5YR5/4にぶい褐 | やや粗 | 良 | (50) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 外面スス |
| 75 | 612 | | 弥生土器 | 底部 | | 5.8 | (4.0) | 工具ナデ? | タタキ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 甕または鉢 |
| 75 | 613 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 4.4 | (3.4) | 不明 | タタキ | 7.5YR5/4にぶい褐 | 7.5YR5/4にぶい褐 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | |
| 75 | 614 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 5.2 | (3.4) | 工具痕 | タタキ→縦方向タタキ | 2.5Y7/3浅黄 | 7.5YR7/6橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 外面スス、内面コゲ |
| 75 | 615 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 4.1 | (4.2) | ハケ | タタキ | 10YR7/4にぶい黄橙 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |
| 75 | 616 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 5.4 | (3.4) | 不明 | タタキ | 10YR7/6明黄褐 | 7.5YR6/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 外面スス |
| 75 | 617 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.8 | (4.1) | 工具ナデ? | タタキ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや密 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 外面黒斑、甕または鉢 |
| 75 | 618 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 4.4 | (6.4) | 不明 | タタキ | 10YR7/3にぶい黄橙 | 5YR7/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 外面スス |
| 75 | 619 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 5.0 | (6.0) | 板?ナデ・ユビオサエ | タタキ→一部ナデ? | 7.5YR7/4にぶい橙 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11D層 | 底部外面被熱により赤~黒変、底部に木の葉文 |
| 75 | 620 | | 弥生土器 | 底部 | | (5.0) | (5.3) | ナデ | タタキ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | (30) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 外面黒斑、甕または鉢 |
| 75 | 621 | | 弥生土器 | 甕底部 | | 5.0 | (7.5) | 不明 | タタキ→縦方向タタキ? | 10YR8/3浅黄橙 | 10YR6/3にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11層 | |
| 75 | 622 | | 弥生土器 | 甕底部 | | (5.2) | (8.4) | ナデ | タタキ | 7.5YR5/4にぶい褐 | 7.5YR5/4にぶい褐 | やや粗 | 良 | (20) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面スス |
| 75 | 623 | | 弥生土器 | 壺底部 | | 5.6 | (4.0) | ハケ? | ミガキ | 2.5Y8/2灰白 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |
| 76 | 624 | 40 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 13.9 | | 8.2 | 不明 | 杯部:ミガキ、脚部:ミガキ | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/6橙 | やや粗 | 良 | 80 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 脚柱部中空、円形透かし3 |
| 76 | 625 | 40 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 17.4 | | 10.9 | 不明 | 不明 | 10YR8/4浅黄橙 | 10YR8/4浅黄橙 | やや粗 | やや軟 | 100 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 脚柱部中実 |
| 76 | 626 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | 20.8 | | (6.1) | 不明 | 不明 | 2.5YR6/8橙 | 2.5YR6/8橙 | やや密 | やや軟 | 40 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|------|------------|------------|------------|---|----------------------------|----------------------|----------------------|-----|-----|---------------|---------|--|-----------------------------|
| 76 | 627 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | (21.8) | | (3.5) | 不明 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11C層 | |
| 76 | 628 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | (21.0) | | (6.1) | ナデ | ミガキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | |
| 76 | 629 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | (21.4) | | (11.2) | 不明 | 不明 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 5YR7/8 橙 | やや粗 | やや良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 図上復元、脚 柱部中実 |
| 76 | 630 | 40 | 弥生土器 | 有稜高杯 | (22.3) | | (11.9) | 杯部:ミガキ、 脚部:不明 | 杯部:ミガキ、 脚部:ミガキ | 2.5YR6/8 橙 | 2.5YR6/8 橙 | 粗 | やや良 | 85 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中空、 口縁部ひずむ |
| 76 | 631 | 41 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 22.6 | | (12.7) | 杯部:ミガキ、 脚部:ナデ・ シボリ目 | 杯部:ミガキ・ ナデ、脚部: ミガキ | 10R6/8 赤橙 | 10R6/8 赤橙 | やや粗 | 良 | 100 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11C層 | 脚柱部中空、 円形透かし4 |
| 76 | 632 | 41 | 弥生土器 | 有稜高杯 | (21.8) | | (13.6) | 不明 | 杯部:ミガキ、 脚部:不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | やや良 | 30 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中実、 円形透かし4、 口縁部ひずむ |
| 76 | 633 | 41 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 22.7 | | 14.6 | 杯部:ヨコナ デ・ユビナデ、 脚部:棒状工 具ナデ・ヨコ ナデ | 杯部:ヨコナ デ・ミガキ、 脚部:ミガキ | 2.5YR6/8 橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや粗 | やや軟 | 50 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中空、 円形透かし4 |
| 76 | 634 | 41 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 25.6 | | 15.7 | 杯部:指頭圧 痕?、脚部: 不明 | 杯部:ナデ?、 脚部:不明 | 10YR8/6 黄橙 | 10R6/8 赤橙 | やや粗 | やや軟 | 90 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中空、 円形透かし4 |
| 76 | 635 | 41 | 弥生土器 | 有稜高杯 | (23.8) | | 16.2 | 不明 | 不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 粗 | やや良 | 5 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11C層 | 脚柱部中実、 円形透かし4、 口縁部ひずむ |
| 76 | 636 | 41 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 26.6 | | 16.4 | 杯部:ヨコナ デ・ミガキ、 脚部:シボリ 目・ナデ? | 杯部:ミガキ、 脚部:ミガキ | 2.5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | やや良 | 85 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中空、 円形透かし4 |
| 77 | 637 | 42 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 17.7 | | 10.5 | 杯部:ナデ?、 脚部:不明 | 杯部:不明、 脚部:ミガキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 85 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中実、 円形透かし4 |
| 77 | 638 | 42 | 弥生土器 | 有稜高杯 | 20.1 | | (11.7) | 不明 | 杯部:ミガキ、 脚部:ミガキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや粗 | やや良 | 90 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中実、 円形透かし |
| 77 | 639 | 42 | 弥生土器 | 椀形高杯 | 10.9 | | (4.7) | 不明 | ミガキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 粗 | やや良 | 90 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | |
| 77 | 640 | 42 | 弥生土器 | 椀形高杯 | 12.6 | | (4.9) | ヨコナデ・ミ ガキ | ヨコナデ・ミ ガキ | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 粗 | 良 | 70 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | |
| 77 | 641 | 42 | 弥生土器 | 椀形高杯 | (12.2) | | 10.7 | 杯部:ヨコナ デ、脚部:ヘ ラナデ | 杯部:ヨコナ デ、脚部:ミ ガキ | 2.5YR6/8 橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや密 | やや良 | 30 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | 脚柱部中実、 円形透かし4 |
| 77 | 642 | 41 | 弥生土器 | 椀形高杯 | (8.4) | | (4.1) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 5未満 | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11B層 | |
| 77 | 643 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (4.6) | 工具痕 | ミガキ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり (試掘調 査06-5) | 脚柱部中実、 円形透かし、 椀形高杯? |
| 77 | 644 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (4.9) | 工具痕? | ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路 031土器 溜まり 11C層 | 脚柱部中空、 円形透かし3 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|--------|------|-------|------------|------------|------------|-----------------|--------------------------|--------------|--------------|-----|-----|---------------|---------|------------------------|---------------------------|
| 77 | 645 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (6.5) | 杯部:ミガキ、脚部:ハケ | 杯部:ミガキ、脚部:ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 脚柱部中空、円形透かし4、充填法 |
| 77 | 646 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (6.8) | 杯部:ナデ?、脚部:ナデ? | 杯部:不明、脚部:工具痕 | 5YR7/8 橙 | 5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 脚柱部中実、円形透かし |
| 77 | 647 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (6.0) | シボリ目 | ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 脚柱部中空、円形透かし3、付加法 |
| 77 | 648 | 41 | 弥生土器 | 高杯 | | | (6.6) | ミガキ | ミガキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 脚柱部中実、円形透かし4 |
| 78 | 649 | 44 | 弥生土器 | 小形鉢 | (10.3) | 2.4 | 6.7 | 不明 | 不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | やや良 | 20(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 体部外面黒斑 |
| 78 | 650 | | 弥生土器 | 小形鉢 | | 4.0 | (3.2) | ナデ? | タタキ・ユビオサエ? | 7.5YR7/4にぶい橙 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 外面黒斑 |
| 78 | 651 | 43 | 弥生土器 | 小形鉢 | 16.0 | 3.6 | 7.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:工具痕・ユビオサエ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | 60(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | |
| 78 | 652 | 43 | 弥生土器 | 小形鉢 | 19.3 | 4.4 | 11.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:強いヨコナデ、体部:タタキ→下半一部ナデ | 2.5YR5/6 明赤褐 | 2.5YR5/6 明赤褐 | やや粗 | 良 | 45(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | |
| 78 | 653 | 43 | 弥生土器 | 小形鉢 | 15.2 | 4.5 | 9.3 | 不明 | 不明 | 10YR7/6 明黄褐 | 10YR7/6 明黄褐 | 粗 | 良 | 40(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | 体部下半~底部外面黒斑、底部に木の葉文、分析試料 |
| 78 | 654 | 43 | 弥生土器 | 小形鉢 | 16.7 | 4.8 | 8.1 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 80(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 底部に木の葉文 |
| 78 | 655 | 43 | 弥生土器 | 中形鉢 | (28.6) | | (14.5) | 口縁部:ハケ?、体部:板ナデ? | 口縁部:タタキ、体部:タタキ | 10YR7/3にぶい黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 体部外面黒斑、口縁端部にタタキによる刻目状痕跡 |
| 78 | 656 | | 弥生土器 | 中形鉢? | (29.0) | | (5.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ? | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 15 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | 甕? |
| 78 | 657 | 42 | 弥生土器 | 大形鉢 | (33.6) | | (12.4) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ→ナデ? | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 35 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11A-11C層 | |
| 78 | 658 | 42 | 弥生土器 | 有孔鉢 | (14.9) | 4.1 | 8.9 | 口縁部:不明、体部:指頭圧痕 | 不明 | 10YR5/1 褐灰 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 25(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | |
| 78 | 659 | 42 | 弥生土器 | 有孔鉢 | | 2.2 | (12.4) | 板ナデ | 体部:タタキ、底部:ユビオサエ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | やや良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | |
| 78 | 660 | | 弥生土器 | 有孔鉢 | (18.4) | 2.4 | 推定17.2 | 口縁部:ヨコナデ?、体部:不明 | タタキ | 5YR7/4にぶい橙 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 55(100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 図上復元 |
| 79 | 661 | 44/巻頭4 | 弥生土器 | 淡路型器台 | 15.1 | | 19.9 | 口縁部:ヨコナデ、脚部:ナデ? | 口縁部:不明、脚部:工具痕・ミガキ | 2.5YR6/6 橙 | 2.5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 100 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 三角形透かし3、幅部一部黒斑、口縁部に刻目・波状文 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|--------|-------|-------|------------|------------|------------|-----------------|------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|------------------------|----------------------------------|
| 79 | 662 | 44/巻頭4 | 弥生土器 | 淡路型器台 | 15.7 | | 18.6 | 口縁部:不明、脚部:ナデ | 不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 75 | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり(試掘調査06-5) | 三角形透かし3、裾部一部黒斑、口縁部に刻目・波状文・竹管円形浮文 |
| 79 | 663 | 44 | 弥生土器 | 製塩土器 | | 6.2 | (5.8) | 不明 | タタキ | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | (70) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11C層 | 脚部内面赤変 |
| 79 | 664 | | 弥生土器 | 製塩土器 | | | (6.3) | シボリ目 | タタキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや密 | 良 | | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11D層 | 付加法 |
| 79 | 665 | 44 | 弥生土器 | 製塩土器 | | (4.8) | (4.4) | 体部:ナデ?、脚部:ユビオサエ | 体部:タタキ、脚部:ユビオサエ? | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | やや粗 | 良 | (10) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B層 | 脚部・体部とも外面~内面一部灰褐変 |
| 79 | 666 | 44 | 弥生土器 | 製塩土器 | | 6.0 | (3.9) | 不明 | 体部:タタキ、脚部:不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | やや良 | (100) | 08019-4 | 自然流路031土器溜まり11B-11C層 | 外面一部赤~黒変 |
| 111 | 680 | | 瓦器 | 小皿 | (9.4) | | (1.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | N4/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 15 | 10001-3 | 溝029 | |
| 111 | 681 | | 磁器 | 椀 | | (4.1) | (2.4) | 施釉 | 施釉 | 10Y8/1 灰白 | 10Y7/1 灰白 | 密 | 良 | (20) | 10001-3 | 溝038 | 波佐見窯染付椀、見込み蛇の目釉剥ぎ・離れ砂 |
| 111 | 682 | | 須恵器 | 搦鉢 | | | (3.7) | 回転ナデ | 回転ナデ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 溝024 | |
| 111 | 683 | | 土製品 | 土鍾 | 全長3.7 | | | 不明 | ナデ? | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | | 10001-3 | 溝034 | 径1.0cm、孔径0.4cm |
| 112 | 684 | | 瓦器 | 椀 | | | (1.8) | ヨコナデ・ミガキ | ヨコナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 柱穴238 | |
| 112 | 685 | 45 | 瓦器 | 椀 | | | (2.1) | ミガキ | ヨコナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 10001-3 | 溝335 | |
| 112 | 686 | 45 | 瓦器 | 椀 | | | (1.5) | ミガキ(磨滅) | ユビオサエ | N4/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | (5未満) | 10001-3 | 柱穴327 | |
| 112 | 687 | 45 | 須恵器 | 搦鉢 | | | (3.0) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 柱穴232 | |
| 112 | 688 | 45 | 須恵器 | 搦鉢 | | | (2.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 柱穴250 | |
| 112 | 689 | 45 | 土師質土器 | 羽釜 | | | (1.3) | ヨコナデ | ヨコナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 柱穴205 | |
| 112 | 690 | 45 | 瓦質土器 | 羽釜 | | | (2.6) | ヨコナデ | ヨコナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | やや密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 建物7柱穴231 | |
| 112 | 691 | | 土師質土器 | 甌 | | (9.6) | (1.5) | ナデ | ナデ | 5YR7/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | (15) | 10001-3 | 柱穴177 | |
| 112 | 692 | | 須恵器 | 杯蓋 | (15.0) | | (4.6) | 回転ナデ | 回転ヘラケズリ・回転ナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | やや粗 | 良 | 5 | 10001-3 | 柱穴216 | |
| 112 | 693 | | 須恵器 | 杯蓋 | (14.8) | | (4.7) | 回転ナデ | 回転ヘラケズリ・回転ナデ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 建物7柱穴231 | |
| 112 | 694 | | 須恵器 | 杯蓋 | (12.0) | | (3.5) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 40 | 10001-3 | 建物5柱穴247 | 口縁部ひずむ |
| 112 | 695 | | 須恵器 | 杯蓋 | (14.8) | | (2.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | やや密 | 良 | 15 | 10001-3 | E4-I区柱穴 | |
| 112 | 696 | | 須恵器 | 杯身 | (11.0) | | (3.8) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | 5R5/1 赤灰 | N6/ 灰 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | 柱穴217・218 | ヘラ記号 |
| 112 | 697 | | 須恵器 | 杯身 | (12.6) | | (5.1) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N5/ 灰 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | 5 | 10001-3 | 柱穴217・218 | 底部外面に融着痕 |
| 112 | 698 | | 須恵器 | 杯身 | (13.1) | | (3.5) | 回転ナデ | 回転ナデ | N7/ 灰白 | N4/ 灰 | 密 | 良 | 25 | 10001-3 | 柱穴227 | 口縁部外面に融着痕 |
| 112 | 699 | | 須恵器 | 杯身 | (12.4) | | 4.2 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | やや密 | 良 | 50 | 10001-3 | 柱穴278 | |
| 112 | 700 | | 須恵器 | 甌 | | | (7.8) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N5/ 灰 | N4/ 灰 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 柱穴051 | |
| 112 | 701 | | 須恵器 | 甕 | (15.0) | | (5.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/ 灰 | N7/ 灰白 | やや密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 柱穴239 | 口縁部内外面に自然釉 |
| 112 | 702 | | 須恵器 | 甕 | (19.0) | | (5.5) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/ 灰 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | 20 | 10001-3 | 柱穴060 | |
| 112 | 703 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (10.0) | | (6.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ? | 10YR4/1 褐灰 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | 柱穴383 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|--------|------------|------------|------------|-----------------|-----------------|----------------|---------------|-----|----|---------------|---------|-------------|--------------------------|
| 112 | 704 | | 土師器 | 小型丸底壺 | (11.0) | | (6.5) | 口縁部:ハケ?、体部:ケズリ | 口縁部:ハケ?、体部:ケズリ? | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | 土坑 178 | |
| 112 | 705 | | 土師器 | 布留形甕 | (15.0) | | (3.8) | ヨコナデ | ヨコナデ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/8 橙 | やや密 | 良 | 20 | 10001-3 | 土坑 178 | |
| 112 | 706 | | 土師器 | 布留形甕 | (17.8) | | (4.3) | ヨコナデ? | ヨコナデ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 20 | 10001-3 | 柱穴 076 | |
| 112 | 707 | | 土師器 | 甕 | (16.0) | | (4.2) | ヨコナデ | ヨコナデ | 7.5YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 25 | 10001-3 | 柱穴 383 | |
| 112 | 708 | | 土師器 | 外反高杯 | | | (4.3) | 不明 | 不明 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 土坑 178 | |
| 112 | 709 | | 土師器 | 高杯 | | | (8.0) | 不明 | ナデ? | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 柱穴 051 | |
| 112 | 710 | | 土師器 | 高杯 | | | (5.1) | 不明 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 2.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 柱穴 086 | |
| 112 | 711 | | 弥生土器 | 複合口縁壺 | 17.0 | | (6.2) | 口縁部:ヨコナデ、頸部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、頸部:ミガキ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 60 | 10001-3 | 柱穴 075 | 口縁部に竹管円形浮文 |
| 112 | 712 | 45 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | | | (2.6) | 不明 | 不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | E3-Ⅲ区 柱穴 | 口縁部に波状文・竹管円形浮文 |
| 112 | 713 | 45 | 弥生土器 | 複合口縁壺? | | | (4.7) | 不明 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 2.5YR6/8 橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 柱穴 060 | 口縁部に沈線・波状文・竹管円形浮文、淡路型器台? |
| 112 | 714 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (16.8) | | (5.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 20 | 10001-3 | 柱穴 328 | |
| 112 | 715 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.9 | (2.2) | 不明 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 柱穴 061 | |
| 112 | 716 | | 弥生土器 | 底部 | | 2.8 | (2.6) | 不明 | 不明 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 2.5Y6/2 灰黄 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 柱穴 392 | |
| 112 | 717 | | 弥生土器 | 底部 | | (3.6) | (2.5) | 板ナデ? | タタキ | 2.5Y6/2 灰黄 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | (20) | 10001-3 | 柱穴 059 | 甕または鉢 |
| 112 | 718 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.3 | (2.5) | 不明 | タタキ | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 柱穴 056 | 甕または鉢 |
| 112 | 719 | | 弥生土器 | 底部 | | (4.2) | (4.0) | 不明 | タタキ | 5Y3/1 オリーブ黒 | 2.5YR6/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | (15) | 10001-3 | 柱穴 091 | 甕または鉢 |
| 112 | 720 | | 弥生土器 | 底部 | | (4.8) | (4.0) | ハケ・ユピオサエ | ナデ・ユピオサエ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | (50) | 10001-3 | 柱穴 092 | 鉢または壺 |
| 112 | 721 | | 弥生土器 | 有稜高杯 | | | (4.3) | 不明 | ミガキ | 2.5Y8/1 灰白 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 柱穴 085 | |
| 112 | 722 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (7.3) | 杯部:ミガキ、脚部:シボリ目? | 杯部:ミガキ、脚部:ミガキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 柱穴 066 | 脚柱部半中実、円形透かし |
| 112 | 723 | 45 | 弥生土器 | 淡路型器台 | (17.0) | | (4.5) | 不明 | 不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | 5 | 10001-3 | 柱穴 374 | 口縁部に沈線・線刻文 |
| 112 | 724 | | 弥生土器 | 製塩土器 | (7.0) | | (5.7) | ユピナデ | タタキ | 5YR7/3 にぶい橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | (30) | 10001-3 | 柱穴 393 | 脚部断面一部橙変 |
| 113 | 725 | 45 | 瓦器 | 椀 | (4.1) | | (1.1) | ミガキ | 不明 | N4/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | (20) | 10001-3 | 土坑 400 | 見込み圏線状ミガキ |
| 113 | 726 | | 須恵器 | 甕 | (26.0) | | (3.7) | 回転ナデ | 回転ナデ | N7/ 灰白 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 10 | 10001-3 | 溝 399 1-3 層 | |
| 113 | 727 | | 須恵器 | 底部 | | | (2.3) | 当て具痕、回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N7/ 灰白 | 7.5Y5/1 灰 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 溝 399 1-3 層 | 壺? |
| 113 | 728 | | 土師器 | 高杯 | | | (5.5) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | 密 | 良 | | 10001-3 | 溝 399 1-3 層 | |
| 113 | 729 | | 土師器 | 高杯 | | | (5.5) | 不明 | ハケ | 10YR8/2 灰白 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | | 10001-3 | 溝 399 9 層 | |
| 113 | 730 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (6.3) | 不明 | 不明 | 5YR6/6 橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 溝 399 1-3 層 | 脚柱部中空 |
| 113 | 731 | | 弥生土器 | 複合口縁壺 | | | (8.2) | ナデ | 不明 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 溝 399 1-3 層 | 頸部突帯に刻目、突帯下肩部に刺突文 |
| 113 | 732 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | (19.0) | 2.9 | (7.2) | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | 35 (100) | 10001-3 | 溝 399 1-8 層 | |
| 113 | 733 | | 弥生土器 | 底部 | | 5.0 | (2.0) | 不明 | 不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 溝 399 1-3 層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-------|------|------------|------------|------------|------------------------|-------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------|---------|----------------|---------------------------|
| 113 | 734 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.9 | (2.5) | 不明 | タタキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 溝 399 4-8 層 | 甕または鉢 |
| 113 | 735 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 5.1 | (5.3) | 不明 | タタキ | 2.5Y7/1 灰白 | 5YR6/8 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 溝 399 1-3 層 | 焼成時の重ね焼き痕?、底部外面黒斑 |
| 113 | 736 | 45 | 須恵器 | 掃鉢 | (30.0) | | (5.3) | 回転ナデ、ナデ | 回転ナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 10001-3 | 落ち込み 408A | |
| 113 | 737 | | 瓦質土器 | 甕 | | | (3.0) | 不明 | 不明 | N6/ 灰 | 2.5Y8/2 灰白 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 落ち込み 408A | |
| 113 | 738 | 45 | 磁器 | 椀 | | (5.1) | (2.6) | 青磁釉 | 青磁釉、底部:ケズリ | 7.5Y6/2 灰オリーブ | 7.5Y5/2 灰オリーブ | 密 | 良 | (20) | 10001-3 | 落ち込み 408B | 龍泉窯系青磁 椀 I2a 類または同安窯系 I 類 |
| 113 | 739 | | 須恵器 | 杯蓋 | (13.0) | | (4.3) | 回転ナデ | 回転ヘラケズリ・回転ナデ | N6/ 灰 | N5/ 灰 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | 落ち込み 408B | |
| 113 | 740 | | 須恵器 | 杯身 | (10.0) | | (3.7) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N6/ 灰 | N5/ 灰 | 密 | 良 | 5 | 10001-3 | 落ち込み 408B | |
| 113 | 741 | | 須恵器 | 杯身 | (12.0) | | (4.2) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N6/ 灰 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | 15 | 10001-3 | 落ち込み 408B | |
| 113 | 742 | | 須恵器 | 杯身 | (13.0) | | (4.2) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | 5Y7/1 灰白 | 5Y6/1 灰 | やや密 | やや軟 | 10 | 10001-3 | 落ち込み 408A | |
| 113 | 743 | | 須恵器 | 杯身 | (13.2) | | (4.0) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | 5Y8/1 灰白 | 5Y7/1 灰白 | やや粗 | やや軟 | 15 | 10001-3 | 落ち込み 408B | |
| 113 | 744 | 45 | 土師器 | 製塩土器 | (14.4) | | 推定 24.0 | 口縁部:不明、体部:ハケ? | 口縁部:不明、体部:ハケ | 10YR8/2 灰白 | 10YR8/2 灰白 | やや密 | やや良 | 20 | 10001-3 | 落ち込み 408A | 図上復元、内外面桃変、外面スス |
| 114 | 745 | | 弥生土器 | 製塩土器 | | | (3.3) | 不明 | タタキ | 5Y6/2 灰オリーブ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | E3 区 攪乱 | 脚部断面一部赤変 |
| 114 | 746 | 46 | 磁器 | 椀 | | | (4.0) | 施釉 | 施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 7.5Y7/1 灰白 | 密 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | E4 区 4 層 | 波佐見窯系染付椀 |
| 114 | 747 | 46 | 磁器 | 椀 | | | (4.4) | 施釉 | 施釉 | 10Y7/1 灰白 | 10Y6/1 灰 | 密 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | W3 区 4 層 | 波佐見窯系染付椀 |
| 114 | 748 | | 磁器 | 椀 | | (4.0) | (2.7) | 施釉 | 施釉 | 10YR8/1 灰白 | 2.5Y8/1 灰白 | 密 | 良 | (25) | 10001-3 | W3- II 区 4 層 | 波佐見窯系白磁椀、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 114 | 749 | | 磁器 | 椀 | | (4.0) | (1.6) | 施釉 | 施釉 | 5G6/1 緑灰 | 5G6/1 緑灰 | 密 | 良 | (25) | 10001-3 | W3- II 区 4 層 | 信楽系緑釉椀、見込み蛇の目釉剥ぎ |
| 114 | 750 | | 土師質土器 | 火舎 | (28.0) | | (6.5) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ・ヨコナデ | ナデ? | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 2.5Y7/3 浅黄 | やや粗 | 良 | 5 | 10001-3 | W3- III 区 4 層 | |
| 114 | 751 | | 陶器 | 掃鉢 | (21.4) | | 8.5 | 回転ナデ | 回転ナデ | 10R5/3 赤褐 | 10R5/4 赤褐 | やや粗 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | W3 区 4 層 | 堺掃鉢 |
| 114 | 752 | | 須恵器 | 杯 | | (10.8) | (2.0) | 回転ナデ→ナデ | 回転ナデ | 7.5Y7/1 灰白 | 7.5Y6/1 灰 | 密 | 良 | (20) | 10001-3 | W3-I 区 4 層 | |
| 114 | 753 | | 土師器 | 布留形甕 | (16.8) | | (6.8) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10R6/4 にぶい赤橙 | 10R6/4 にぶい赤橙 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | W0- IV 区 4 層以下 | 図上復元 |
| 114 | 754 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.8) | | (11.0) | 不明 | 不明 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 30 | 10001-3 | E4- IV 区 4 層 | 図上復元、杯部底部に刺突痕 |
| 114 | 755 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.5) | シボリ目 | 不明 | 10R6/6 赤橙 | 10R6/6 赤橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | W0- IV 区 4 層以下 | 脚部内外面スス |
| 115 | 756 | | 磁器 | 椀 | (11.0) | | (3.2) | 施釉 | 施釉 | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 密 | 良 | 15 | 10001-3 | E1- IV 区 6 層 | 波佐見窯椀 |
| 115 | 757 | | 瓦器 | 小皿 | (9.0) | | 1.5 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 7.5Y7/1 灰白 | 7.5Y7/1 灰白 | 密 | 良 | 20 | 10001-3 | W-1-I 区 6 層 | 口縁部ひずむ |
| 115 | 758 | | 土師器 | 小皿 | | | (1.4) | ユビオサエ | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 密 | 良 | (15) | 10001-3 | E0-I 区 6 層 | |
| 115 | 759 | 46 | 須恵器 | 掃鉢 | (30.0) | | (2.6) | ナデ | ナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | W0- IV 区 6 層 | 片口 |
| 115 | 760 | | 瓦質土器 | 甕 | (20.2) | | (4.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、体部:タタキ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10YR5/1 褐灰 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | W-1-I 区 6 層 | |
| 115 | 761 | | 土師質土器 | 羽釜 | (30.0) | | (6.3) | ナデ? | 不明 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | W-1-I 区 6 層 | |
| 116 | 762 | | 土師器 | 小皿 | (7.4) | | (1.3) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 2.5YR7/4 淡赤橙 | 2.5YR7/4 淡赤橙 | やや密 | 良 | 25 | 10001-3 | W-1 区・W0 区 7 層 | |
| 116 | 763 | | 土師器 | 小皿 | (8.0) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ナデ | 10YR8/2 灰白 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 密 | 良 | 30 | 10001-3 | W1- III 区 7 層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|---------|------------|------------|------------|------------------|-------------------|--------------|--------------|-----|-----|---------------|---------|---------------------|-------------------------|
| 116 | 764 | | 瓦器 | 椀 | (14.0) | | (3.4) | ミガキ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | 5 | 10001-3 | W-1・W0区7層 | |
| 116 | 765 | | 瓦器 | 小皿 | (8.0) | | (1.5) | 口縁部:ヨコナデ | 口縁部:ヨコナデ | 5Y7/1灰白 | 5Y7/1灰白 | 密 | 良 | 20 | 10001-3 | W-1・W0区7層 | |
| 116 | 766 | 46 | 瓦器 | 小皿 | (8.8) | | 2.0 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ミガキ? | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | N5/灰 | N5/灰 | 密 | 良 | 20 | 10001-3 | W0-IV区7層 | |
| 116 | 767 | 46 | 磁器 | 口縁部 | (15.4) | | (3.5) | 施釉 | 施釉 | 10Y6/2オリーブ灰 | 10Y6/2オリーブ灰 | 密 | 良 | 5 | 10001-3 | W-1・W0区7層 | 龍泉窯系青磁、丸椀または香炉?、破面に黒漆付着 |
| 116 | 768 | | 須恵器 | 蓋 | (15.0) | | (1.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | 5Y7/1灰白 | 5Y7/1灰白 | 密 | 良 | 5 | 10001-3 | W-1・W0区7層 | |
| 116 | 769 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.0 | (1.9) | 不明 | タタキ | 5YR6/6橙 | 5YR6/6橙 | やや粗 | 良 | (90) | 10001-3 | W-1・W0区7層 | 甕または鉢 |
| 117 | 770 | | 須恵器 | 杯蓋 | | | (3.1) | 回転ナデ | 回転ヘラケズリ・回転ナデ | 7.5YR7/4にぶい橙 | 2.5Y6/1黄灰 | やや密 | やや軟 | | 10001-3 | 南側自然流路E1区8層 | |
| 117 | 771 | | 須恵器 | 杯蓋 | (14.4) | | (3.0) | 回転ナデ | 回転ナデ | 5Y7/1灰白 | 5Y7/1灰白 | やや密 | やや良 | 25 | 10001-3 | 南側自然流路E0-I区8層以下 | |
| 117 | 772 | | 須恵器 | 杯身 | (12.4) | | (4.6) | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N7/灰白 | N6/灰 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | 南側自然流路E1-II区8層 | |
| 117 | 773 | | 須恵器 | 高杯 | | | (13.9) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/灰 | N6/灰 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 南側自然流路E0-III区7層以下 | |
| 117 | 774 | 46 | 土師器 | 小型丸底壺 | 7.8 | | 7.3 | 不明 | 不明 | 10YR6/6明黄褐 | 10YR6/6明黄褐 | やや粗 | 良 | 75 | 10001-3 | 南側自然流路W2-II区6-9A層 | |
| 117 | 775 | | 土師器 | 複合口縁壺 | (16.6) | | (5.4) | 不明 | 不明 | 7.5YR8/6浅黄橙 | 7.5YR8/4浅黄橙 | やや密 | 良 | 30 | 10001-3 | 南側自然流路W2-II区7-9層 | |
| 117 | 776 | | 土師器 | 布留形甕 | (17.6) | | (8.9) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR6/2灰黄褐 | 5YR6/6橙 | 密 | 良 | 25 | 10001-3 | 南側自然流路E2-III区6-9A層 | |
| 117 | 777 | | 土師器 | 外反高杯 | (17.6) | | (6.2) | 不明 | ハケ? | 10YR6/4にぶい黄橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや密 | 良 | 5未満 | 10001-3 | 南側自然流路E2-III区6-9A層 | 杯部底部に刺突痕 |
| 117 | 778 | | 土師器 | 外反高杯 | | | (6.1) | 不明 | ヨコナデ・ハケ | 10YR6/2灰黄褐 | 5YR6/6橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 南側自然流路W2区8層 | 杯部底部に刺突痕 |
| 117 | 779 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.8) | ケズリ?・ナデ | ナデ? | 10YR8/2灰白 | 5YR6/4にぶい橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 南側自然流路E2-IV区6-9A層 | 杯部側から粘土充填(D2b) |
| 117 | 780 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.0) | ケズリ | 不明 | 2.5YR8/2灰白 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 南側自然流路E2-IV区6-9A層 | 杯部側から粘土充填? |
| 117 | 781 | | 土師器 | 高杯 | | | (8.7) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 南側自然流路E2-IV区8B層 | 図上復元、杯部底部に刺突痕 |
| 117 | 782 | 46 | 土師器 | 蛸壺 | (4.8) | | 10.2 | ユビオサエ・ナデ | ナデ | 7.5YR8/2灰白 | 5YR8/4淡橙 | やや密 | 良 | 35 | 10001-3 | 南側自然流路E1-III区8B-9B層 | 頂部に一孔、釣鐘型 |
| 117 | 783 | | 弥生土器 | 広口壺 | (15.0) | | (5.8) | ハケ? | ミガキ | 10YR8/3浅黄橙 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや密 | 良 | 30 | 10001-3 | 南側自然流路W1-I区8B層 | 口縁部に沈線 |
| 117 | 784 | | 弥生土器 | 垂下口縁広口壺 | 12.6 | | (4.7) | 不明 | 不明 | 2.5YR6/6橙 | 5YR7/8橙 | やや粗 | やや良 | 100 | 10001-3 | 南側自然流路E3-I区6-9A層 | 口縁部に円形浮文 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径 (推定) (cm) | 底径 (推定) (cm) | 器高 (残存) (cm) | 調整 (内面) | 調整 (外面) | 色調 (内面) | 色調 (外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部 (底部) 残存率 (%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|------------------|---------------|---------------|-----|-----|---------------------------|---------|---|----------------------|
| 117 | 785 | 46 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | (32.0) | | (6.9) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | 5 | 10001-3 | 南側自然流路 W3-I 区・E3- III 区 6-9A 層 | 口縁部に線刻文・竹管円形浮文、受部に穿孔 |
| 117 | 786 | 46 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | | | (10.7) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | やや軟 | | 10001-3 | 南側自然流路 E3-I 区 6-9A 層 | 頸部突帯上下に刻目 |
| 117 | 787 | | 弥生土器 | 複合口縁壺 | | | (18.4) | 口縁部：ハケ、体部：不明 | 口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ | 5Y4/1 灰 | 5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 南側自然流路 E2- II 区・E2- IV 区・W2- III 区 6-9A 層 | 図上復元 |
| 117 | 788 | | 弥生土器 | 壺 | | | (1.4) | 不明 | 不明 | 10YR8/2 灰白 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | 南側自然流路 E0-I 区 8 層以下 | 口縁部に竹管文 |
| 117 | 789 | | 弥生土器 | 口縁部 | | | (1.8) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | 南側自然流路 E1- II 区 8 層以下 | 口縁部に刻目、壺または器台？ |
| 117 | 790 | | 弥生土器 | 甗 | (19.2) | | (3.3) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | 南側自然流路 E1-I 区 9A 層 | |
| 117 | 791 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (15.5) | | (5.0) | 不明 | 口縁部：不明、体部：タタキ | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 2.5YR6/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 南側自然流路 E0-I 区 8 層以下 | 口縁部外面スス |
| 117 | 792 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (16.8) | | (13.7) | 口縁部：ヨコナデ？、体部：ハケ？ | 口縁部：ヨコナデ？、体部：タタキ | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR8/4 淡橙 | やや粗 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | 南側自然流路 E2-I 区 8-9 層 | 図上復元、体部上半外面スス |
| 117 | 793 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | | 4.1 | (2.3) | 工具痕 | タタキ | 10YR7/6 明黄褐 | 10YR7/6 明黄褐 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 南側自然流路 E2-II 区 8B 層以下 | 外面スス |
| 117 | 794 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | | 4.7 | (3.2) | 工具痕 | タタキ、底部：ナデ | 10YR8/1 灰白 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 南側自然流路 E2-II 区 8B 層以下 | 外面スス、内面コゲ |
| 117 | 795 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.1 | (4.7) | ハケ | タタキ | 5YR6/8 橙 | 5YR7/8 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 南側自然流路 E0-I 区 8 層以下 | 甗または鉢 |
| 117 | 796 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.4 | (2.4) | 不明 | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 南側自然流路 E2-I 区 8B 層以下 | |
| 117 | 797 | 46 | 弥生土器 | 底部 | | 4.3 | (3.2) | 不明 | 不明 | 5YR7/8 橙 | 7.5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 南側自然流路 E1-IV 区 8 層 | 底部に 1 孔、有孔鉢？ |
| 117 | 798 | 46 | 弥生土器 | 底部 | | 3.4 | (2.2) | ナデ？ | ナデ？ | 10YR8/3 浅黄橙 | 2.5Y8/2 灰白 | やや密 | 良 | (90) | 10001-3 | 南側自然流路 W2-IV 区 8 層 | 底部に 5 孔、甗？ |
| 117 | 799 | | 弥生土器 | 製塩土器？ | | | (3.9) | 工具痕 | タタキ | 2.5Y5/1 黄灰 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 南側自然流路 E2-II 区 9A 層 | |
| 117 | 800 | | 弥生土器 | 脚台 | | 5.7 | (2.4) | 不明 | ナデ？ | N4/ 灰 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 南側自然流路 E2-II 区 8-9A 層 | |
| 117 | 801 | | 弥生土器 | 脚台 | | 7.2 | (4.9) | 不明 | 不明 | 2.5Y8/4 淡黄 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | (80) | 10001-3 | 南側自然流路 E2-I 区 8B 層以下 | |
| 117 | 802 | | 弥生土器 | 底部 | | | (6.3) | ハケ？ | タタキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 2.5Y8/1 灰白 | やや粗 | やや良 | | 10001-3 | 下層確認トレンチ 2 内 W-1 ~ W1 区 10 層 | 甗または鉢 |
| 118 | 803 | | 須恵器 | 杯蓋 | (12.2) | | 4.9 | 回転ナデ | 回転ヘラケズリ・回転ナデ | N5/ 灰 | N6/ 灰 | やや密 | 良 | 25 | 10001-3 | 北側自然流路 E5 区 8 層 | 全体にひずむ |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|------------|------------|------------|------------------------|-------------------|--------------|--------------|-----|----|---------------|---------|----------------------|---------------------------|
| 118 | 804 | | 須恵器 | 杯蓋 | (14.0) | | (3.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/灰 | N7/灰白 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-III区 8-9A層 | |
| 118 | 805 | | 須恵器 | 杯身 | (13.0) | | 推定4.1 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転ヘラケズリ | N6/灰 | N7/灰白 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8層 | 図上復元 |
| 118 | 806 | | 須恵器 | 口縁部 | (30.0) | | (3.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | N6/灰 | N5/灰 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-IV区 8層 | 口縁部に波状文、壺? |
| 118 | 807 | 47 | 土師器 | 小型丸底壺 | (8.2) | | 8.4 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ・指頭圧痕 | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR8/2灰白 | 10YR8/3浅黄橙 | やや粗 | 良 | 25 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | 体部外面黒斑 |
| 118 | 808 | 47 | 土師器 | 小型丸底壺 | 8.4 | | 8.9 | 口縁部:ヨコナデ?、体部:ケズリ | 口縁部:ハケ、体部:ハケ | 5YR5/8明赤褐 | 5YR5/8明赤褐 | やや密 | 良 | 55 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 8-9A層 | |
| 118 | 809 | | 土師器 | 複合口縁壺 | (19.6) | | (9.5) | ヨコナデ | ヨコナデ・ハケ | 10YR8/2灰白 | 7.5YR7/4にぶい橙 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | |
| 118 | 810 | | 土師器 | 布留形甕 | (14.5) | | (6.6) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 5YR6/6橙 | 10YR8/4浅黄橙 | やや密 | 良 | 20 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | |
| 118 | 811 | | 土師器 | 布留形甕 | (19.0) | | (6.0) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ユビオサエ | 口縁部:ヨコナデ、体部:不明 | 10YR7/4にぶい黄橙 | 2.5Y7/1灰白 | やや密 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-III区 8-9A層 | 口縁~頸部外面黒斑 |
| 118 | 812 | | 土師器 | 布留形甕 | (16.0) | | (9.7) | 口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ | 口縁部:ヨコナデ、体部:ハケ | 10YR8/4浅黄橙 | 10YR7/2にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | |
| 118 | 813 | | 土師器 | 有稜高杯 | (21.7) | | (6.5) | ヨコナデ | 口縁部:ヨコナデ、杯部:ハケ | 5YR7/6橙 | 5YR7/6橙 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV区 8-9層 | |
| 118 | 814 | | 土師器 | 直口高杯 | (17.0) | | (6.1) | ハケ | 不明 | 7.5YR7/6橙 | 7.5YR8/3浅黄橙 | やや密 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | |
| 118 | 815 | | 土師器 | 外反高杯 | (18.4) | | (10.2) | 杯部:不明、脚部:シボリ目? | 不明 | 7.5YR8/6浅黄橙 | 7.5YR8/6浅黄橙 | やや粗 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | 杯部底部に刺突痕、口縁部ひずむ |
| 118 | 816 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.9) | 杯部:不明、脚部:ナデ? | 杯部:ハケ、脚部:ハケ? | 5YR7/6橙 | 5YR7/6橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | 図上復元、円形透かし、杯部底部に刺突痕、外反高杯? |
| 118 | 817 | | 土師器 | 高杯 | | | (7.2) | 粘土巻き上げ痕・シボリ目 | 不明 | 5YR7/8橙 | 7.5YR7/6橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 E4-I・II区 8-9層 | 粘土充填? |
| 118 | 818 | | 土師器 | 高杯 | | | (11.6) | シボリ目? | ハケ? | 10YR5/3にぶい黄褐 | 10YR6/3にぶい黄橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | |
| 118 | 819 | | 土師器 | 高杯 | | | (5.0) | 指頭圧痕 | ナデ | 5YR6/6橙 | 2.5YR6/6橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | 杯部側から粘土充填 |
| 118 | 820 | | 土師器 | 高杯 | | | (5.2) | 粘土巻き上げ痕・シボリ目 | ナデ? | 5YR7/6橙 | 10YR8/3浅黄橙 | 密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区 8-9A層 | 粘土巻き上げ痕顕著、杯部側から粘土充填(D2a) |
| 119 | 821 | | 弥生土器 | 壺 | (17.8) | | (6.2) | 口縁部:ヨコナデ | 口縁部:ヨコナデ、頸部:ミガキ? | 10YR7/3にぶい黄橙 | 10YR7/3にぶい黄橙 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV区 9A-9B層 | |
| 119 | 822 | 50 | 弥生土器 | 細頸壺 | (8.8) | | (7.0) | 口縁部:ヨコナデ、頸部:シボリ目、体部:ハケ | 口縁部:ヨコナデ、頸~体部:ミガキ | N4/灰 | 10YR7/3にぶい黄橙 | 密 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------------|------------|------------|------------|---------------------|--------------------------|------------------|------------------|-----|-----|---------------|---------|---|-----------------------------|
| 119 | 823 | | 弥生土器 | 広口壺 | (17.0) | | (7.0) | 不明 | 不明 | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 30 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | |
| 119 | 824 | | 弥生土器 | 広口壺 | (16.3) | | (5.6) | ミガキ? | 不明 | 2.5Y6/2 灰黄 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-II区 9A-9B層 | |
| 119 | 825 | | 弥生土器 | 広口壺 | 16.1 | | (7.4) | 口縁部:不明、 体部:ユビオサエ | 口縁部:ミガキ? 、体部: ミガキ? | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 95 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | |
| 119 | 826 | 47 | 弥生土器 | 広口壺 | (19.2) | | (6.2) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 30 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-III区 9A-9B層 | 口縁部に綾杉文 |
| 119 | 827 | | 弥生土器 | 広口壺 | (19.4) | | (5.7) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-II区 8-9A層 | |
| 119 | 828 | | 弥生土器 | 壺 | (32.0) | | (3.7) | ヨコナデ | ヨコナデ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 7.5YR5/6 明褐 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-I-II区 8-9B層 | 生駒西麓産? |
| 119 | 829 | | 弥生土器 | 広口壺 | (24.0) | | (4.4) | 不明 | 口縁部:ヨコナデ、 頸部: ハケ | 7.5YR7/6 橙 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 20 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-III-IV区 9A-9B層 | 口縁部に沈線・竹管文 |
| 119 | 830 | 50 | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (26.2) | | (1.8) | 不明 | 不明 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-III区・ E4-III区 9A-9B層 | 口縁部に波状文・竹管円形浮文 |
| 119 | 831 | | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (17.0) | | (3.6) | 不明 | 頸部:ミガキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV区 9A-9B層 | 口縁部に沈線・円形浮文 |
| 119 | 832 | 50 | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (21.0) | | (4.7) | 不明 | 不明 | 10YR8/6 黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 60 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-II区 8-9A層 | 口縁部に沈線・竹管円形浮文 |
| 119 | 833 | | 弥生土器 | 垂下口縁 広口壺 | (20.0) | | (5.2) | 不明 | 不明 | 10YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 20 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-II区 8-9A層 | 口縁部に沈線・線刻文・竹管円形浮文 |
| 119 | 834 | | 弥生土器 | 口縁部 | (23.8) | | (4.0) | 不明 | 頸部:ハケ | 5YR7/6 橙 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 5 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-III区 9A-9B層 | 口縁部に沈線、壺または器台 |
| 120 | 835 | 48 | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | 22.9 | | (17.7) | ユビオサエ | ミガキ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 2.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 60 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I-IV区 9B層 | 頸部突帯に刻目 |
| 120 | 836 | 50 | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | 推定 22.0 | | (5.8) | 不明 | 頸部:ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 W3-II区・ E4-II区 8-9A層 | 口縁部に刻目・竹管文・刺突のある竹管円形浮文 |
| 120 | 837 | | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | (17.0) | | (6.3) | 不明 | 不明 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | やや粗 | 良 | 30 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV区 9A層 | 口縁部に沈線・竹管円形浮文 |
| 120 | 838 | | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | (19.0) | | (5.2) | 不明 | 不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | やや良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | |
| 120 | 839 | | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | | | (5.7) | ナデ? | ハケ | N4/ 灰 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 E5・ W4区 8層 | 頸部下端に竹管文、突帯上部に刻目 |
| 120 | 840 | 48 | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | | 4.1 | (28.2) | 体部:ナデ? 、底部:板ナデ? | 体部:ミガキ、 底部:ナデ? | 7.5YR4/4 褐 | 7.5YR4/4 褐 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | 図上復元、頸部突帯上下に刻目、肩部に刺突文、生駒西麓産 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|------------|------------|------------|--------------------------|------------------------------------|------------------|------------------|-----|----|---------------|---------|--------------------------|-----------------------------------|
| 120 | 841 | | 弥生土器 | 口縁部 | | | (2.5) | ヨコナデ? | 不明 | 10YR8/2 灰白 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | 北側自然流路 W4- II 区 8-9A 層 | 口縁部に波状文、壺または器台 |
| 120 | 842 | | 弥生土器 | 複合口縁壺 | | | (5.8) | 不明 | 不明 | 5YR7/8 橙 | 5YR7/8 橙 | やや粗 | 良 | 5 未満 | 10001-3 | 北側自然流路 E4- I・II 区 8-9A 層 | 口縁部に波状文・竹管円形浮文 |
| 120 | 843 | | 弥生土器 | 壺 | | 7.7 | (11.1) | 不明 | ハケ? | 2.5Y6/2 灰黄 | 5YR8/4 淡橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W4- II 区 8-9A 層 | |
| 120 | 844 | 47 | 弥生土器 | 小形壺 | (11.9) | 2.9 | 16.3 | 口縁部:不明、 体部:ハケ | 口縁部:不明、 体部:ミガキ | 10YR5/2 灰黄褐 | 7.5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 45 (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | |
| 120 | 845 | | 弥生土器 | 小形台付壺 | | (4.8) | (8.5) | ナデ? | ナデ? | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 密 | 良 | (25) | 10001-3 | 北側自然流路 W4- II 区 8-9A 層 | |
| 121 | 846 | | 弥生土器 | 甗 | (15.0) | | (8.8) | 不明 | 不明 | 10YR4/6 褐 | 7.5YR4/3 褐 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 生駒西麓産 |
| 121 | 847 | | 弥生土器 | 甗 | (21.0) | | (3.2) | ヨコナデ | ヨコナデ | 10YR8/4 浅黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 W3 区 9B 層 | |
| 121 | 848 | 50 | 弥生土器 | 弥生形甗 | (21.6) | | (5.4) | 口縁部:ナデ、 体部:ハケ | 口縁部:タタキ、 体部:タタキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 密 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 口縁端部にタタキによる刻目状痕跡、胎土分析 |
| 121 | 849 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (17.0) | | (7.4) | 不明 | 口縁部:不明、 体部:タタキ | 5YR7/8 橙 | 2.5Y5/2 暗灰黄 | やや粗 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV 区 9A-9B 層 | 口縁部ひずむ |
| 121 | 850 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (16.6) | | (5.8) | 不明 | 口縁部:不明、 体部:タタキ | 5YR7/6 橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | やや粗 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-I 区 8 層 | |
| 121 | 851 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (15.8) | | (6.4) | 不明 | 口縁部:不明、 体部:タタキ | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 10YR4/3 にぶい黄褐 | やや粗 | 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-I 区 9B 層 | |
| 121 | 852 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (16.0) | | (9.5) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | 25 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 図上復元 |
| 121 | 853 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (17.0) | | (4.3) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: 不明 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 20 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-I 区 9A-9B 層 | |
| 121 | 854 | 48 | 弥生土器 | 弥生形甗 | (14.9) | | (18.8) | 口縁部:ヨコ ナデ?、体部: ハケ? | 口縁部:ヨコ ナデ?、体部: タタキ | 2.5Y6/1 黄灰 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 60 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 体部中央部～ 下半外面スス |
| 121 | 855 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (21.4) | | (12.2) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ハケ? | 口縁部:ナデ、 体部:タタキ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | 5 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 図上復元、口 縁端部にタタ キによる刻目 状痕跡 |
| 121 | 856 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (25.0) | | (7.2) | 口縁部:ヨコ ナデ?、体部: ナデ? | 口縁部:ヨコ ナデ?、体部: タタキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 35 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-I 区 9B 層 | 口縁部ひず む、中形鉢? |
| 121 | 857 | | 弥生土器 | 弥生形甗 | (19.0) | 5.2 | (23.7) | 口縁部:不明、 体部:ハケ? | 口縁部:不明、 体部:タタキ →中央部縦方 向ナデ | 5YR6/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | 5 (50) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 図上復元、口 縁部ひずむ、 体部中央部外 面スス |
| 121 | 858 | 48 | 弥生土器 | 弥生形甗 | 15.0 | (4.2) | (18.0) | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ハケ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ→縦方 向ナデ | 5YR5/4 にぶい赤褐 | 5YR5/4 にぶい赤褐 | やや粗 | 良 | 90 (20) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 図上復元、口 縁部ひずむ、 口縁～体部外 面スス |
| 121 | 859 | 48 | 弥生土器 | 弥生形甗 | 14.9 | 4.0 | 18.5 | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: ハケ | 口縁部:ヨコ ナデ、体部: タタキ | 10YR7/2 にぶい黄褐 | 10YR7/2 にぶい黄褐 | やや密 | 良 | 55 (50) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 体部下外面 スス、底部内 面コゲ |
| 122 | 860 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.4 | (2.8) | 板ナデ? | タタキ | 5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9A-9B 層 | 甗または鉢 |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------------|------------------|-----|----|---------------|---------|-------------------------|------------|
| 122 | 861 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.1 | (2.4) | ハケ | タタキ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | (95) | 10001-3 | 北側自然流路 E3-I 区 9A-9B 層 | 外面黒斑、甕または鉢 |
| 122 | 862 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.8 | (2.2) | 不明 | タタキ | 7.5YR7/8 黄橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E3-III 区 9B 層 | 甕または鉢 |
| 122 | 863 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.5 | (1.8) | 不明 | タタキ | 7.5YR8/1 灰白 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 甕または鉢 |
| 122 | 864 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.3 | (1.7) | 工具痕 | タタキ・ユビオサエ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV 区 9A-9B 層 | 甕または鉢 |
| 122 | 865 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.8 | (2.6) | ハケ | タタキ | 10YR6/2 灰黄褐 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E3-III 区 9A-9B 層 | 甕または鉢 |
| 122 | 866 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | (4.4) | (2.4) | 工具痕(ハケ?) | タタキ | 2.5Y6/1 黄灰 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | (55) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 外面スス |
| 122 | 867 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.7 | (4.6) | 不明 | タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | (95) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 外面スス |
| 122 | 868 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.9 | (4.8) | ハケ | タタキ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 内面コゲ |
| 122 | 869 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.8 | (4.8) | ハケ | タタキ | 2.5Y5/1 黄灰 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 外面スス |
| 122 | 870 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 3.9 | (4.0) | 工具痕(板ナデ?) | タタキ | 10YR5/3 にぶい黄褐 | 10YR5/2 灰黄褐 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E3-I 区 9B 層 | 内面コゲ |
| 122 | 871 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.5 | (4.4) | ハケ | タタキ | 10YR5/3 にぶい黄褐 | 10YR7/6 明黄褐 | やや粗 | 良 | (95) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-II 区 8-9A 層 | 底部内面コゲ |
| 122 | 872 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | (5.8) | (5.0) | ハケ | タタキ | 2.5Y4/1 黄灰 | 7.5YR6/3 にぶい褐 | やや粗 | 良 | (50) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV 区 9A-9B 層 | 体部外面スス |
| 122 | 873 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 4.2 | (8.5) | 板ナデ | タタキ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-II 区 8-9A 層 | 体部外面スス |
| 122 | 874 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 5.3 | (2.0) | 不明 | タタキ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | 外面スス |
| 122 | 875 | | 弥生土器 | 弥生形甕 | | 5.0 | (2.6) | 不明 | タタキ | 10YR8/2 灰白 | 5YR6/8 橙 | やや粗 | 良 | (90) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-I・II 区 9B 層 | 外面スス |
| 122 | 876 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.8 | (2.6) | 工具痕 | タタキ、ユビオサエ | 10YR5/2 灰黄褐 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | |
| 122 | 877 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.8 | (2.9) | 板ナデ | ユビオサエ | 10YR5/2 灰黄褐 | 10YR5/3 にぶい黄褐 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-I・II 区 9B 層 | |
| 122 | 878 | | 弥生土器 | 底部 | | 4.7 | (2.1) | 不明 | ユビオサエ | 2.5Y6/2 灰黄 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-II 区 8 層 | |
| 122 | 879 | | 弥生土器 | 底部 | | 3.6 | (3.8) | ハケ | ユビオサエ | 10YR8/3 浅黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I 区 9B 層 | |

| 図 番 号 | 遺 物 番 号 | 図 版 番 号 | 種 別 | 器 種 | 口 径 (推 定) (cm) | 底 径 (推 定) (cm) | 器 高 (残 存) (cm) | 調 整 (内 面) | 調 整 (外 面) | 色 調 (内 面) | 色 調 (外 面) | 胎 土 | 焼 成 | 口 縁 部 (底 部) 残 存 率 (%) | 調 査 区 | 出 土 位 置 | 備 考 |
|-------------|------------------|------------------|----------|----------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|--------------------|----------------------|----------------------|---------|---------|---|-------------|----------------------------------|---|
| 122 | 880 | | 弥生 土器 | 底部 | | 4.8 | (4.1) | 不明 | ハケ? | 5YR7/6 橙 | 5YR7/8 橙 | やや 密 | 良 | (80) | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | |
| 122 | 881 | | 弥生 土器 | 底部 | | (4.0) | (2.0) | ハケ | タタキ・ユビ オサエ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | 良 | (50) | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | 鉢? |
| 122 | 882 | | 弥生 土器 | 底部 | | 5.3 | (2.5) | 不明 | ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然 流路 E4- II区 8層 | 壺? |
| 122 | 883 | | 弥生 土器 | 底部 | | 4.3 | (3.3) | 不明 | 不明 | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR7/3 にぶい黄 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然 流路 E4- III区 9A-9B層 | |
| 122 | 884 | | 弥生 土器 | 底部 | | 4.1 | (2.2) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/8 橙 | 7.5YR5/8 明褐 | やや 粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然 流路 E4- IV区 9A-9B層 | |
| 122 | 885 | | 弥生 土器 | 底部 | | 4.3 | (3.9) | 工具痕 | 不明 | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | やや 密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然 流路 E4- IV区 9A-9B層 | |
| 122 | 886 | | 弥生 土器 | 底部 | | 3.8 | (3.7) | 不明 | 不明 | 5YR6/8 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや 密 | やや 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | |
| 122 | 887 | | 弥生 土器 | 底部 | | 4.7 | (4.4) | 工具痕 | ナデ? | 10YR8/3 浅黄橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや 密 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然 流路 E3- III区 9A-9B層 | |
| 122 | 888 | | 弥生 土器 | 底部 | | 4.7 | (3.5) | ナデ | 不明 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 5YR6/6 橙 | やや 粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然 流路 E3- III区 9B層 | |
| 123 | 889 | 49 | 弥生 土器 | 椀形 高杯 | 16.6 | | (10.9) | 杯部:ミガキ、 脚部:シボリ 目・ハケ | 杯部:ミガキ、 脚部:ミガキ | 5YR5/6 明赤褐 | 5YR5/6 明赤褐 | やや 粗 | 良 | 40 | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | 脚柱部中空、 円形透かし |
| 123 | 890 | 49 | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | (18.6) | | 推定 13.0 | 杯部:不明、 脚部:シボリ 目 | 不明 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや 密 | 良 | 5 | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | 図上復元、脚 柱部中空、円 形透かし2段 |
| 123 | 891 | | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | (19.8) | | 15.0 | 杯部:ミガキ、 脚部:シボリ 目 | 杯部:不明、 脚部:ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | 密 | やや 軟 | 10 | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | 脚柱部中空、 円形透かし4 |
| 123 | 892 | | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | (25.8) | | (7.4) | 不明 | ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや 密 | 良 | 35 | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | |
| 123 | 893 | | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | (24.0) | | (5.7) | 不明 | 不明 | 5YR6/6 橙 | 5YR7/8 橙 | やや 密 | やや 良 | 5 | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | |
| 123 | 894 | | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | (29.8) | | (3.8) | 不明 | 不明 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | 10YR7/4 にぶい黄 橙 | やや 粗 | やや 良 | 15 | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | |
| 123 | 895 | | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | | | (4.4) | ミガキ? | 不明 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 5YR7/6 橙 | やや 粗 | 良 | | 10001-3 | 北側自然 流路 W3- II区 8層以下 | |
| 123 | 896 | | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | (24.8) | | (8.1) | 杯部:不明、 脚部:シボリ 目 | 杯部:不明、 脚部:ミガキ | 5YR6/6 橙 | 5YR6/8 橙 | やや 密 | やや 軟 | 5未満 | 10001-3 | 北側自然 流路 E3- III区 9A-9B層 | 脚柱部中空 |
| 123 | 897 | 49 | 弥生 土器 | 有稜 高杯 | 27.6 | | (18.2) | 杯部:ミガキ、 脚部:シボリ 目 | 杯部:ミガキ、 脚部:ミガキ | 7.5YR7/6 橙 | 5YR5/6 明赤褐 | やや 密 | 良 | 80 | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | 図上復元、口 縁部ひずむ、 脚柱部中空、 円形透かし2 段 |
| 123 | 898 | 49 | 弥生 土器 | 高杯 | | | (13.4) | 杯部:ミガキ、 脚部:シボリ 目・ナデ | 杯部:ミガキ、 脚部:ミガキ | 5YR6/4 にぶい橙 | 5YR6/4 にぶい橙 | やや 粗 | 良 | | 10001-3 | 北側自然 流路 W3-I区 9B層 | 脚柱部中空、 円形透かし2 段、有稜高杯? |

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 口径(推定)(cm) | 底径(推定)(cm) | 器高(残存)(cm) | 調整(内面) | 調整(外面) | 色調(内面) | 色調(外面) | 胎土 | 焼成 | 口縁部(底部)残存率(%) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------|-------|------------|------------|------------|-------------------------|------------------|----------------|---------------|-----|----|---------------|---------|------------------------------|---------------------------------|
| 123 | 899 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (3.3) | シボリ目 | ミガキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや粗 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 E5-IV区 8層 | 脚柱部中空、円形透かし |
| 123 | 900 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (3.9) | 不明 | ミガキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 E3- III区 9A-9B層 | 脚柱部中空、円形透かし |
| 123 | 901 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (3.8) | 不明 | 不明 | 7.5YR6/6 橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 E4-I区 9A-9B層 | 脚柱部中空、円形透かし |
| 123 | 902 | | 弥生土器 | 高杯 | | | (3.7) | シボリ目 | ミガキ | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 E4- IV区 9A-9B層 | 脚柱部中空、円形透かし 4 |
| 123 | 903 | 49 | 弥生土器 | 高杯 | | | (6.4) | 杯部：不明、脚部：シボリ目 | 杯部：ミガキ、脚部：ミガキ | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | 脚柱部中空、円形透かし 3、粘土充填 |
| 124 | 904 | | 弥生土器 | 鉢 | (23.6) | | (6.5) | 口縁部：ヨコナデ？、体部：不明 | 口縁部：ヨコナデ、体部：ミガキ | 2.5Y7/1 灰白 | 2.5Y8/1 灰白 | 密 | 良 | 10 | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区・E4-II・IV区 8-9層 | 胎土精良 |
| 124 | 905 | 47 | 弥生土器 | 有孔鉢 | | 2.5 | (9.2) | ハケ？ | タタキ | 10YR5/2 灰黄褐 | 5YR6/6 橙 | やや粗 | 良 | (100) | 10001-3 | 北側自然流路 E4-IV区 9A-9B層 | |
| 124 | 906 | 47 | 弥生土器 | 小形鉢 | (12.9) | 4.2 | 8.1 | ハケ？ | 体部：タタキ、底部：ユビオサエ？ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/6 橙 | やや密 | 良 | 20 (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | |
| 124 | 907 | 47 | 弥生土器 | 小形鉢 | (13.5) | 3.8 | 7.9 | ナデ | 体部：タタキ、底部：ユビオサエ？ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 5YR6/6 橙 | やや密 | 良 | 5 (100) | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | |
| 124 | 908 | 47 | 弥生土器 | 小形鉢 | 20.3 | (5.6) | 11.1 | ハケ | ハケ | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | やや粗 | 良 | 60 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-I区 9B層 | 口縁～体部外面スス |
| 124 | 909 | | 弥生土器 | 大形鉢 | (36.8) | | (8.6) | 口縁部：ミガキ、体部：ミガキ | 口縁部：ヨコナデ？、体部：不明 | 5YR7/6 橙 | 5YR8/4 淡橙 | やや粗 | 良 | 5 | 10001-3 | 北側自然流路 E3-I区 9B層 | |
| 124 | 910 | 48 | 弥生土器 | 製塩土器？ | (13.8) | | (10.5) | ナデ？ | ユビオサエ・ナデ？ | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y8/4 淡黄 | やや粗 | 軟 | 35 | 10001-3 | 北側自然流路 W3-I区 9B層 | 図上復元、内面灰～黒変 |
| 124 | 911 | 50 | 弥生土器 | 手焙 | | | (6.8) | ハケ・ナデ | 不明 | 7.5YR6/4 にぶい黄橙 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 W4-II区・E4-II区 8-9A層 | 覆い部に刺突文・竹管文・刻目 |
| 124 | 912 | 49 | 弥生土器 | 淡路型器台 | (17.6) | | (13.6) | 口縁部：ヨコナデ？、脚部：シボリ目・ユビオサエ | 口縁部：不明、脚部：ミガキ | 10YR8/4 浅黄橙 | 10YR7/6 明黄褐 | やや粗 | 良 | 5 | 10001-3 | 北側自然流路 E4-I区 8B-9A層 | 図上復元、脚部に三角形透かし 4、口縁部刻目・線刻文、胎土分析 |
| 124 | 913 | | 弥生土器 | 製塩土器 | | (6.0) | (5.1) | ユビナデ | 不明 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 10YR8/3 浅黄橙 | やや密 | 良 | (25) | 10001-3 | 北側自然流路 E3- III区 9A-9B層 | 裾部折り返し、裾部外面桃変 |
| 124 | 914 | | 弥生土器 | 製塩土器 | | (5.8) | (5.3) | ユビナデ | タタキ | 7.5YR7/6 橙 | 7.5YR7/8 黄橙 | やや粗 | 良 | (25) | 10001-3 | 北側自然流路 E5-IV区 8層 | 裾部折り返し、裾部外面桃変 |
| 124 | 915 | | 弥生土器 | 製塩土器 | | | (4.9) | ユビナデ？ | タタキ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 10YR6/6 明黄褐 | やや密 | 良 | | 10001-3 | 北側自然流路 E3- III区 8-9A層 | 裾部一部桃変 |

瓦観察表

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 全長 (残存長) (cm) | 幅 (最大幅) (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 調整 (凹面) | 調整 (凸面) | 色調 (凹面) | 色調 (凸面) | 胎土 | 焼成 | 残存部 | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|---------------------|--------------------|------------|-----------|---------|----------|---------------|------------|-----|-----|-----------|---------|----------------|---------------|
| 22 | 69 | 51 | 丸瓦 | (31.8) | (13.8) | 1.5 | 714 | 布目 | 縄叩き→ナデ | N3/ 暗灰 | N3/ 暗灰 | やや粗 | やや軟 | 狭端面・両側面 | 08019-1 | NE5-6区 6A層 | 行基式、凹面に布重ね目 |
| 27 | 72 | 51 | 軒平瓦 | (14.8) | (23.7) | 2.4-4.3 | 884 | 一部離れ砂 | ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | やや密 | やや軟 | 両側面・瓦当面 | 08019-3 | 北区 旧水路攪乱 | 連珠文 |
| 27 | 73 | 51 | 丸瓦 | (26.1) | (14.0) | 1.7 | 1107 | 布目 | 縄叩き→ナデ | N4/ 灰 | N4/ 灰 | やや粗 | やや軟 | 両側面・狭端面 | 08019-3 | 北区 旧水路攪乱 | 行基式、凹面に布重ね目 |
| 80 | 667 | | 軒平瓦 | (3.2) | (5.7) | 5.3 | 84 | ケズリ | ケズリ | 10Y6/1 灰 | 10Y6/1 灰 | 密 | 良 | | 08019-4 | SW6区 7A層 | 唐草文 |
| 80 | 668 | | 平瓦 | (6.3) | (5.0) | 1.7 | 102 | 布目 | ケズリ→一部ナデ | 7.5Y7/1 灰白 | 7.5Y7/1 灰白 | やや密 | 良 | 狭端面・1側面付近 | 08019-4 | SW6区 7B層以下 | |
| 80 | 669 | | 平瓦 | (11.5) | (8.7) | 1.9 | 173 | 布目 | 縄叩き | 10YR8/3 浅黄橙 | 2.5Y6/1 黄灰 | やや密 | 軟 | 1側面 | 08019-4 | 土坑 024 | |
| 125 | 916 | 51 | 軒平瓦 | (9.0) | (11.8) | 2.5 | 268 | 布目 | ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 2.5Y7/1 灰白 | やや密 | やや良 | | 10001-3 | W3- IV区 4層 | 瓦当面・顎に重弧文、桶巻き |
| 125 | 917 | 51 | 軒平瓦 | (8.2) | (12.4) | 5.7 | 569 | 不明 | 不明 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 5Y5/1 灰 | やや密 | やや軟 | 瓦当中央部 | 10001-3 | 溝 399 1-3層 | 均等唐草文 |
| 125 | 918 | | 軒丸瓦 | (6.6) | (9.0) | 1.6 | 71 | ナデ | ナデ | N4/ 灰白 | 5Y8/1 灰白 | やや密 | やや軟 | | 10001-3 | E4- III区 4層 | 巴文・珠文帯 |
| 125 | 919 | | 道具瓦 | (9.8) | (7.0) | 2.0-2.9 | 151 | 布目 | ナデ・一部離れ砂 | N5/ 灰白 | N5/ 灰白 | やや密 | やや軟 | | 10001-3 | E0区 攪乱 | 雁振瓦? |
| 125 | 920 | | 丸瓦 | (6.8) | (5.5) | 2.3 | 106 | 離れ砂・ケズリ | 縄叩き→ナデ | N6/ 灰 | N6/ 灰 | 密 | 良 | 狭端面・1側面 | 10001-3 | 落ち込み 408B | 須恵質 |
| 125 | 921 | | 平瓦 | (11.1) | (10.6) | 2.2 | 346 | 布目 | 糸切り痕、縄叩き | N6/ 灰 | N6/ 灰 | やや粗 | やや軟 | 1側面 | 10001-3 | 落ち込み 408B | |

石器・石製品観察表

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 器種 | 全長 (残存長) (cm) | 幅 (最大幅) (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 石材 | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|------------|---------------------|--------------------|------------|-----------|-----------------|---------|--------------------------|--|
| 81 | 670 | 巻頭 4 | 白玉 | 径 0.42 | | 0.18 | 1.0g 未満 | 滑石 (濃緑色) | 08019-4 | 自然流路 031 SE5-6 区 10 層 | 完形、片面穿孔、孔径: 上面 2.1mm/ 下面 1.8mm |
| 81 | 671 | 巻頭 4 | 白玉 | 径 0.40 | | 0.28 | 1.0g 未満 | 滑石 (淡緑色) | 08019-4 | 自然流路 031 SE5 区 10 層 | 片面穿孔、孔径: 上面 2.0mm/ 下面 1.8mm |
| 81 | 672 | 巻頭 4 | 有孔円板 | 径 1.6 | | 0.35 | 1.4 | 滑石 (緑色) | 08019-4 | 自然流路 031 SE5 区 10 層 | 単孔、片面穿孔、孔径: 上面 1.8mm/ 下面 1.5mm |
| 81 | 673 | 巻頭 4 | 有孔円板 | 径 2.8 | | 0.35 | 5.9 | 滑石 (緑色) | 08019-4 | 自然流路 031 SE5 区 10 層 | 双孔、片面穿孔、孔径左: 上面 4.2mm/ 下面 2.8mm、孔径右: 上 面 3.5mm/ 下面 3.2mm |
| 81 | 674 | 巻頭 4 | 有孔円板 | 径 2.4-2.5 | | 0.40 | 4.5 | 滑石 (暗緑色) | 08019-4 | 土坑 024 | 完形、単孔、片面穿孔、孔径: 上 面 2.8mm/ 下面 2.7mm、加重器? |
| 81 | 675 | 巻頭 4 | 有孔円板 | 径 2.3-2.4 | | 0.35 | 2.7 | 滑石 (淡緑色) | 08019-4 | 溝 023 | 単孔、片面穿孔、孔径: 上面 1.8mm/ 下面 1.5mm |
| 126 | 922 | 52 | ナイフ形 石器 | (5.3) | 1.7 | 0.9 | 11 | 頁岩または サヌカイト? | 10001-3 | W2- I 区 6 層 | 風化顕著 |
| 126 | 923 | | 叩石 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 75 | 砂岩? | 10001-3 | W2- III 区 8 層 | 完形 |
| 126 | 924 | 52 | 硯 | (6.2) | (2.8) | 1.0 | 24 | 頁岩または 泥岩? | 10001-3 | E2- II 区 6 層 | |

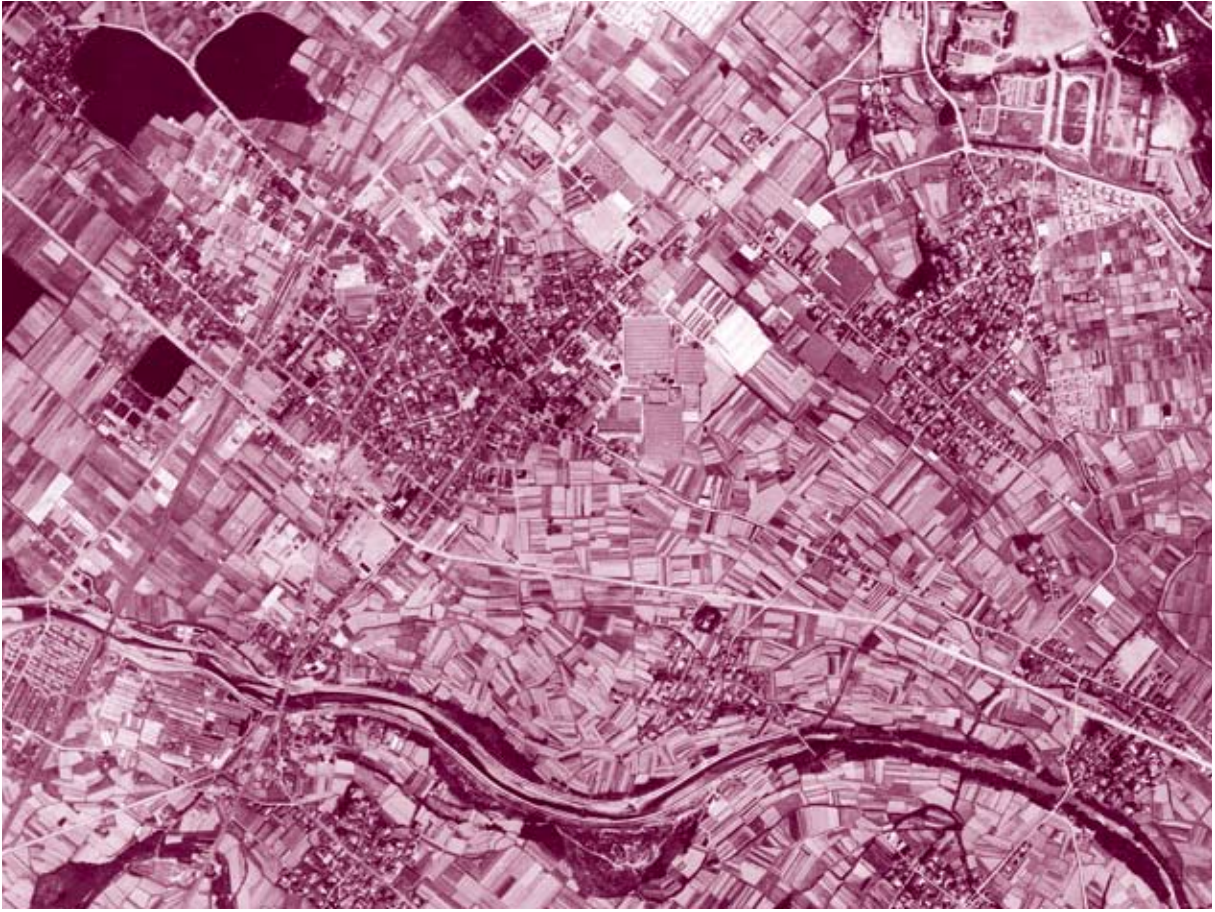
金属製品観察表

| 図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器種 | 全長 (残存長) (cm) | 幅 (最大幅) (cm) | 厚さ (cm) | 調査区 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|-----|-------|---------------------|--------------------|------------|---------|-------------------------|------------------------|
| 23 | 70 | | 銅製品 | 棒状不明品 | (7.4) | 0.7 | 0.7 | 08019-1 | NE5-6 区 6A 層 | |
| 28 | 74 | 52 | 銅製品 | 古銭 | 2.4 | 2.4 | 0.1 | 08019-3 | 北区 1-5 層 | 完形、元祐通寶 (初铸 1086)、2.1g |
| 82 | 676 | 52 | 鉄製品 | 鉄鋌 | (5.8) | 5.3 | 0.5-0.6 | 08019-4 | SE2 区 4・6 層 | 保存処理 |
| 82 | 677 | 52 | 鉄製品 | 鉄鋌 | (4.1) | 3.5 | 0.2-0.3 | 08019-4 | 自然流路 031 SW4 区 11A 層 | 保存処理、片面に木質付着 |
| 82 | 678 | | 鉄製品 | 釘または鋳 | (6.4) | 0.8 | 0.7 | 08019-4 | SW1 区 6 層 | |
| 82 | 679 | | 鉄製品 | 釘? | (2.8) | 0.8 | 0.8 | 08019-4 | 建物 1 柱穴 013 柱痕跡 | 保存処理 |
| 127 | 925 | | 鉄製品 | 釘 | (5.0) | 0.6 | 0.5 | 10001-3 | 溝 031 | |
| 127 | 926 | | 鉄製品 | 釘 | (4.6) | 0.8 | 0.8 | 10001-3 | W4- II 区 6 層 | |

図 版



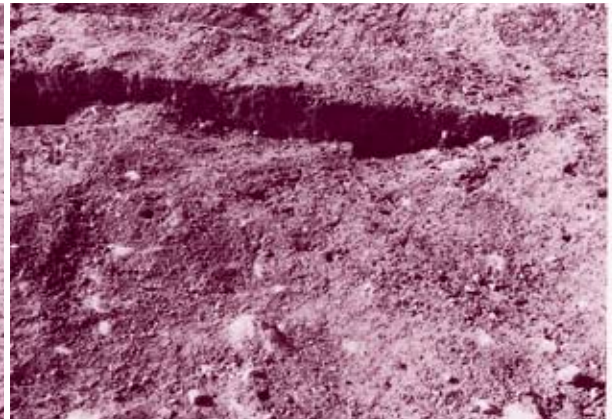
調査地遠景（南東から）



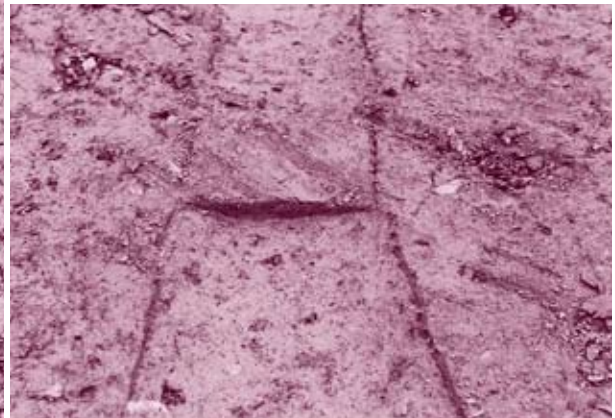
1 和泉寺跡・府中遺跡空中写真(昭和36年度大阪府撮影)



2 耕作溝検出面南東部(北から)



3 溝001土層断面(南東から)



4 溝068土層断面(北東から)



1 中世遺構検出面北西部(南東から)



2 中世遺構検出面北東部(北西から)



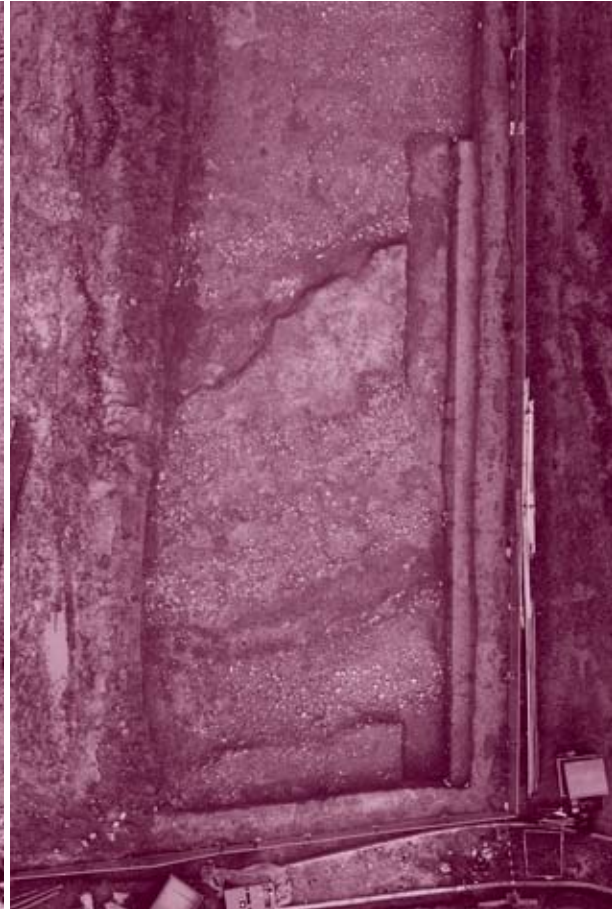
1 古代遺構検出面南西部(東から)



2 古代遺構検出面南部(北西から)



1 自然流路南西部(垂直)



2 自然流路南東部(垂直)



3 自然流路南東部(北東から)



4 自然流路南西部(北東から)



5 調査区壁面土層断面(南から)



6 調査区壁面土層断面(北から)



1 08019-2区完掘状況(北区 南東から)



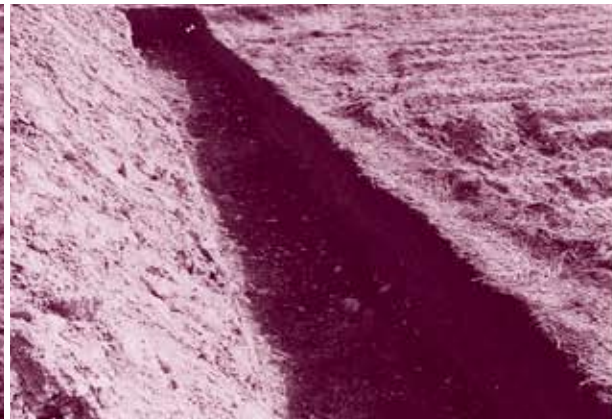
2 08019-2区完掘状況(南区 東から)



3 08019-2区調査区壁面土層断面(北から)



4 08019-3区完掘状況(北区 北西から)



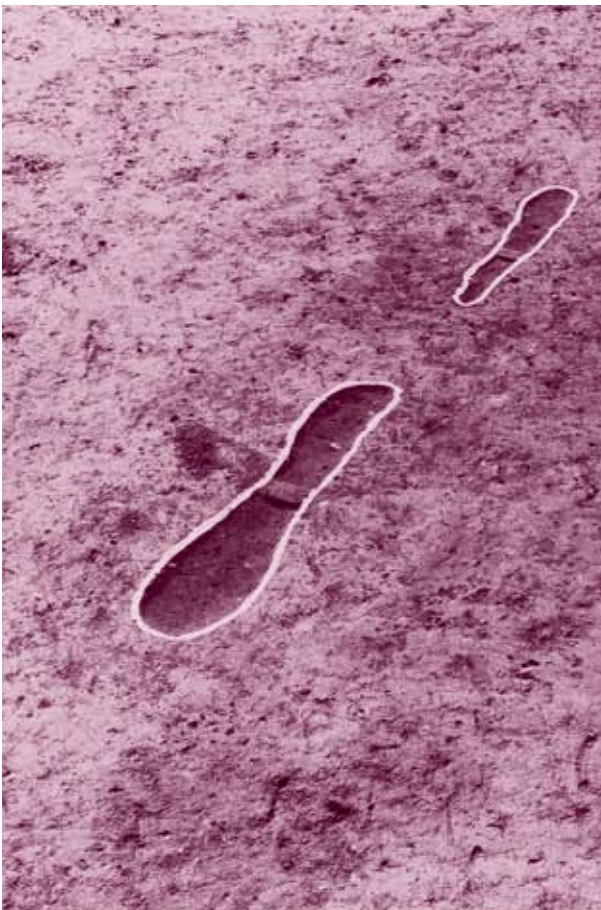
5 08019-3区完掘状況(南区 北西から)



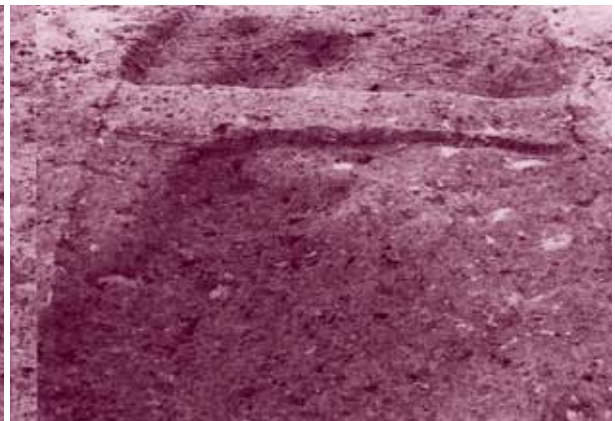
6 08019-3区調査区壁面土層断面(北西から)



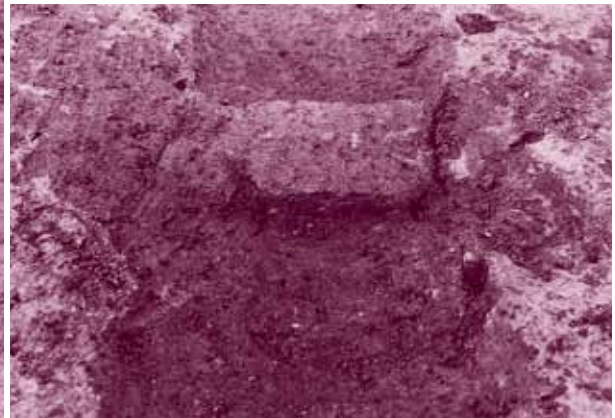
1 耕作溝検出面南東部(北東から)



2 溝 075・076(北東から)



3 溝 070 土層断面(北東から)



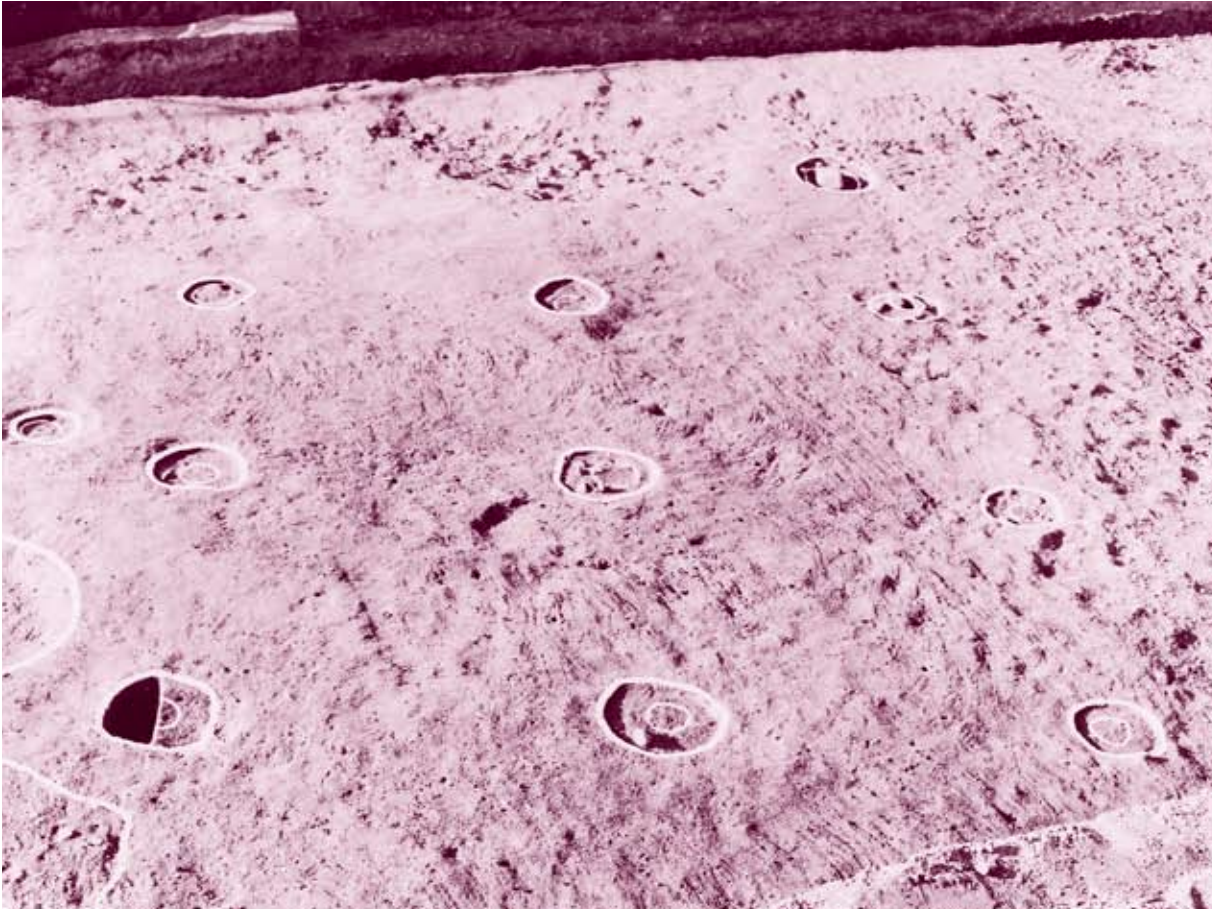
4 溝 076 土層断面(北東から)



1 中世遺構検出面北西部(南東から)



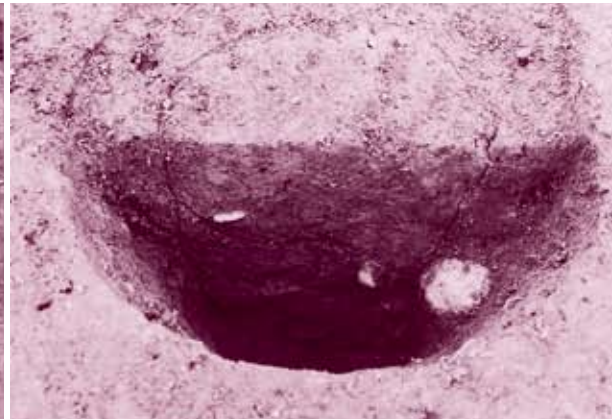
2 中世遺構検出面東部(北から)



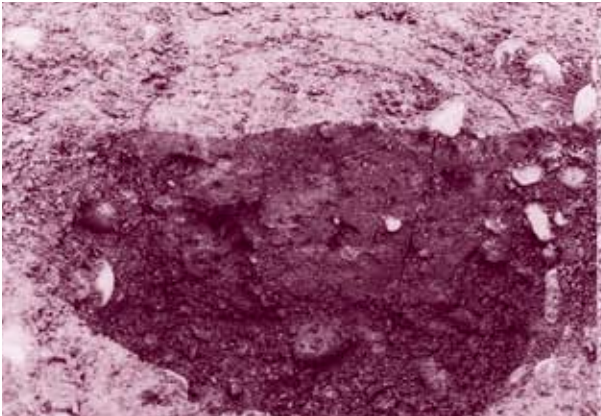
1 建物1南西部(南東から)



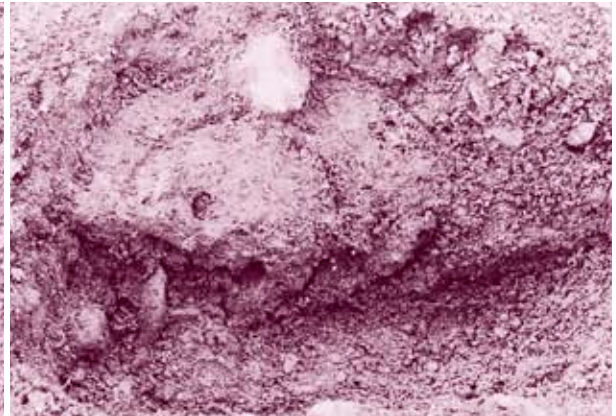
2 建物1東部(西から)



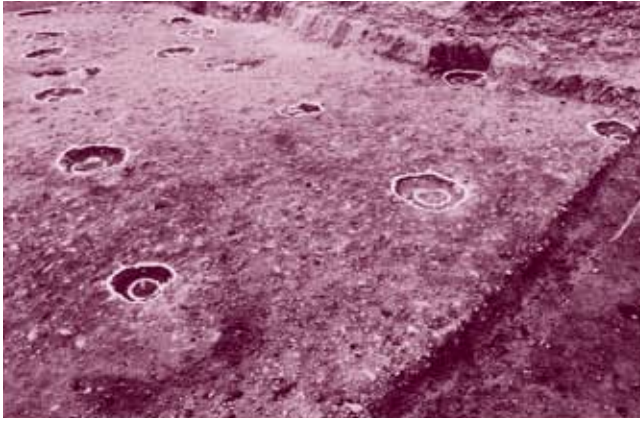
3 建物1柱穴008土層断面(南西から)



4 建物1柱穴010土層断面(南西から)



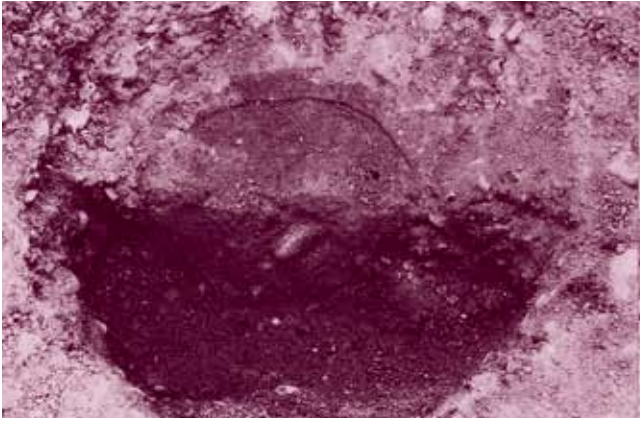
5 建物1柱穴094土層断面(南東から)



1 建物2 (北東から)



3 建物3 (西から)



2 建物2柱穴130土層断面(南東から)



4 柵1 (南西から)



5 土坑020～022・024、溝023 (南東から)



1 自然流路南西部(北東から)



2 自然流路南東部(北東から)



3 自然流路 031 北部土器出土状況(北西から)



4 自然流路 031 中央部土器出土状況(北から)



5 自然流路 031 西部土器出土状況(西から)



1 自然流路 031 土器溜まり (北東から)



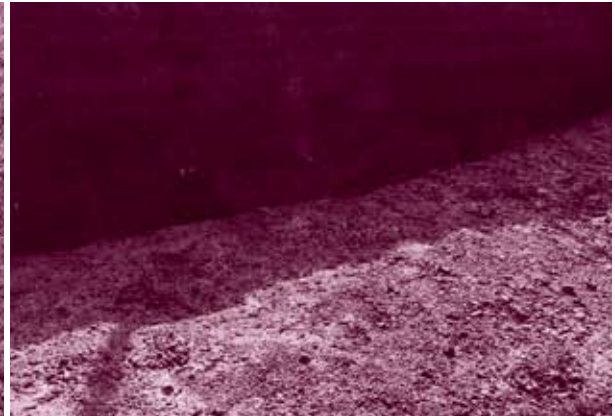
2 自然流路 031 土器溜まり中央部 (北東から)



3 自然流路 031 土器溜まり北東部 (西から)



4 調査区壁面土層断面 (北東から)



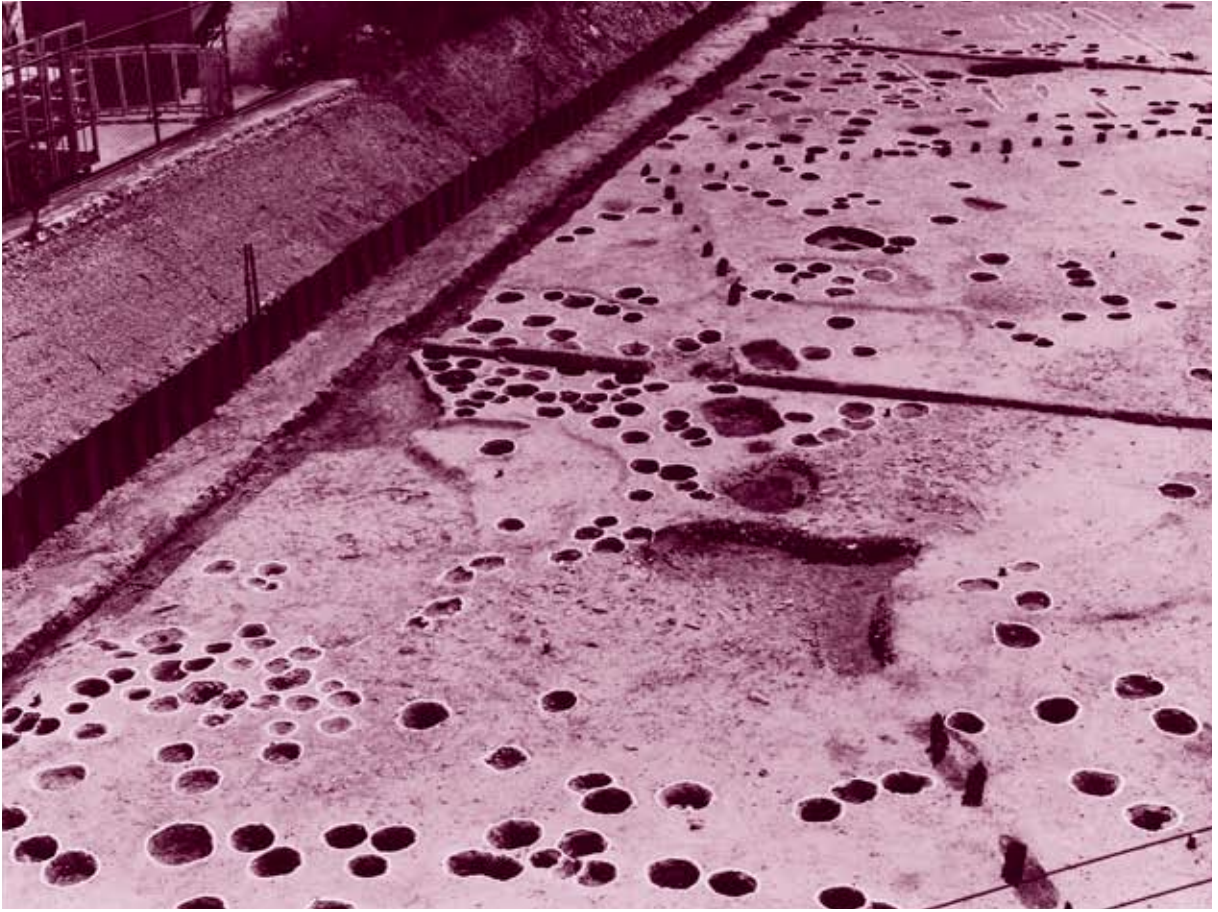
5 調査区壁面土層断面 (北西から)



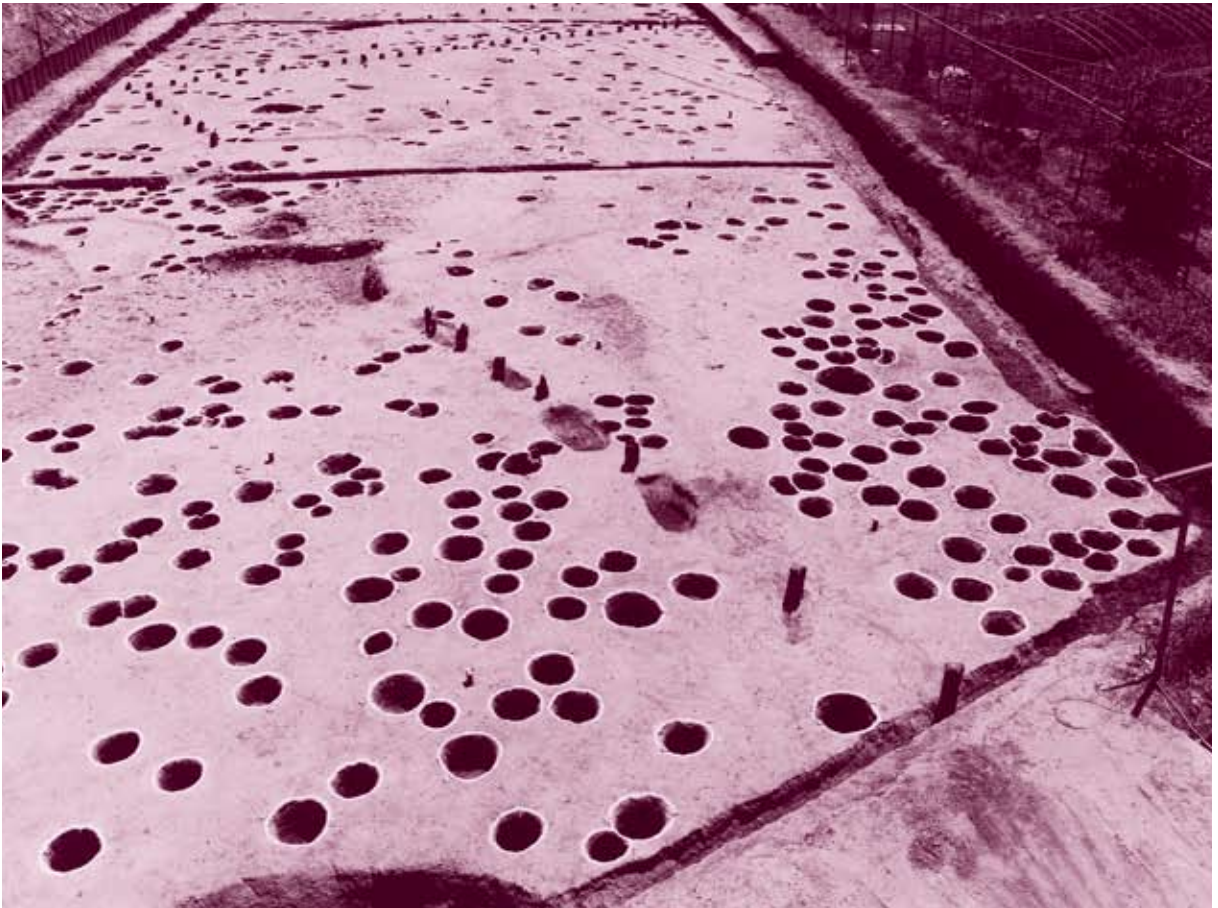
1 耕作溝検出面南部（北東から）



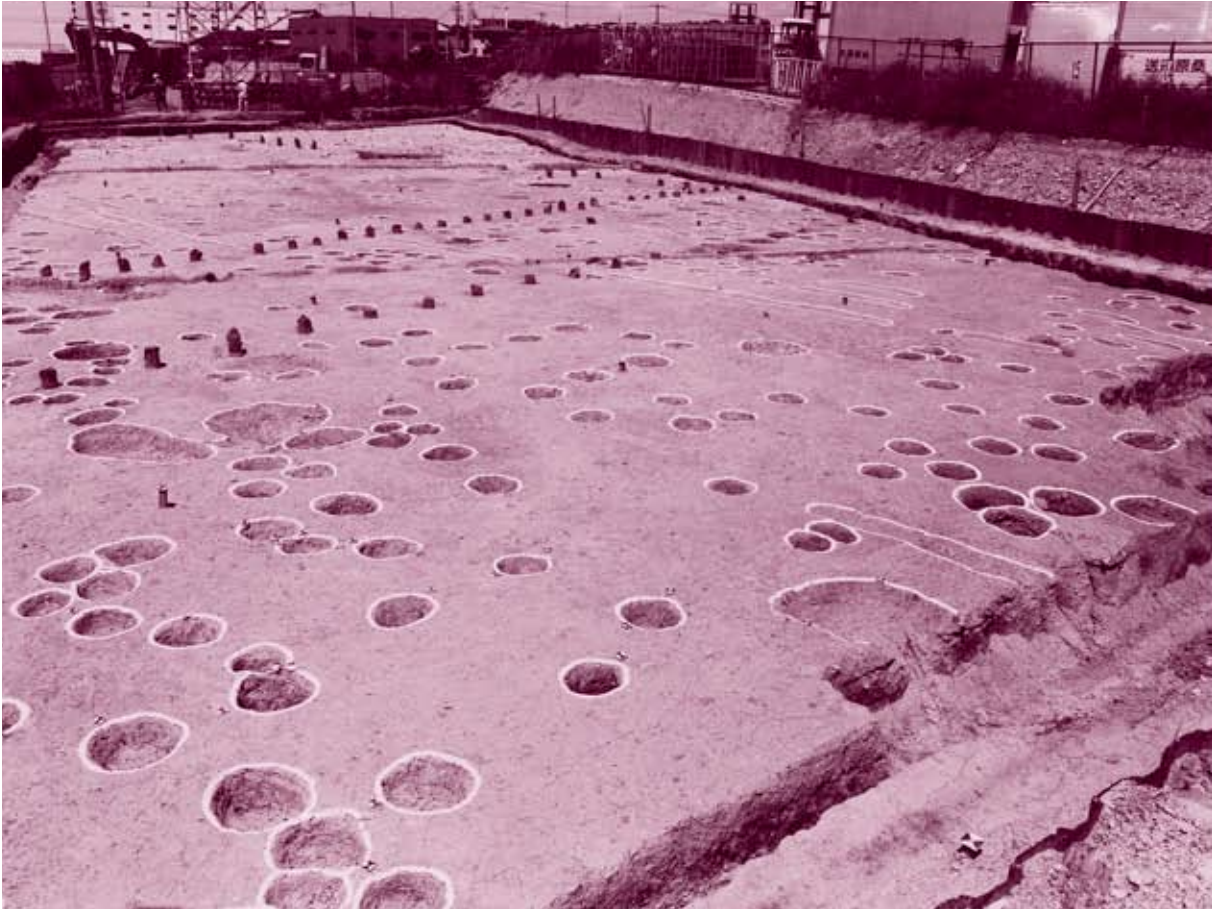
2 中世上層遺構検出面南部（北東から）



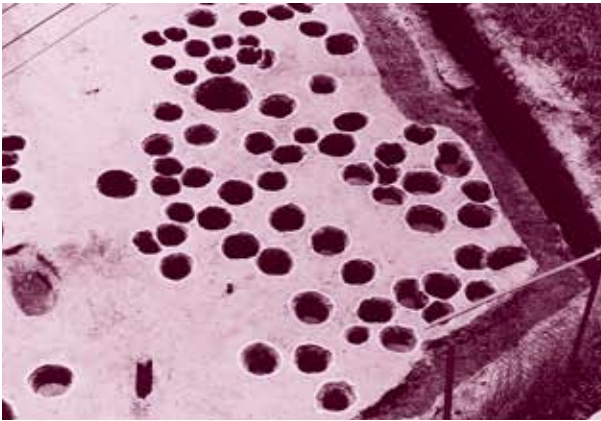
1 中世上層遺構検出面東部(北から)



2 中世上層遺構検出面北西部(北東から)



1 中世上層遺構検出面南西部(南西から)



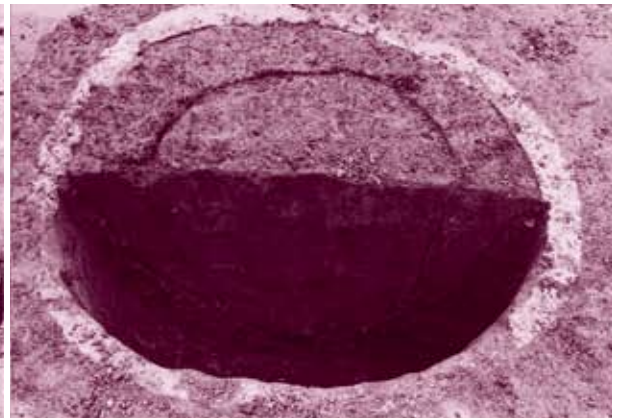
2 建物1(北東から)



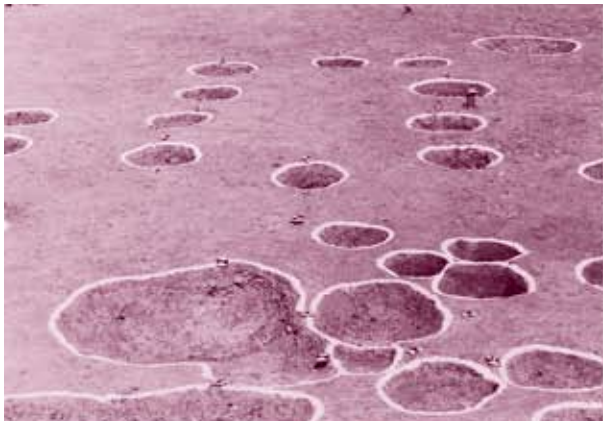
3 建物2(南から)



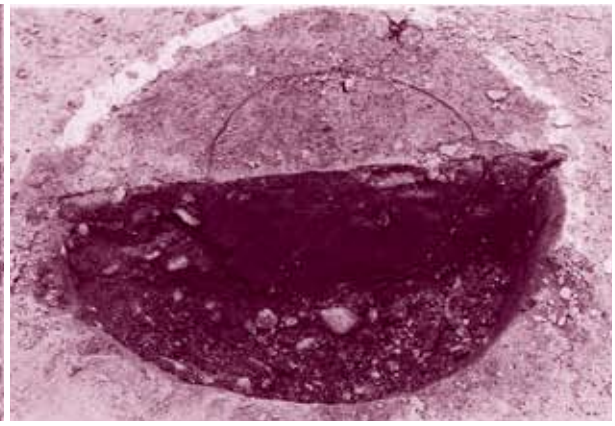
4 建物4(南東から)



5 建物4柱穴203土層断面(南から)



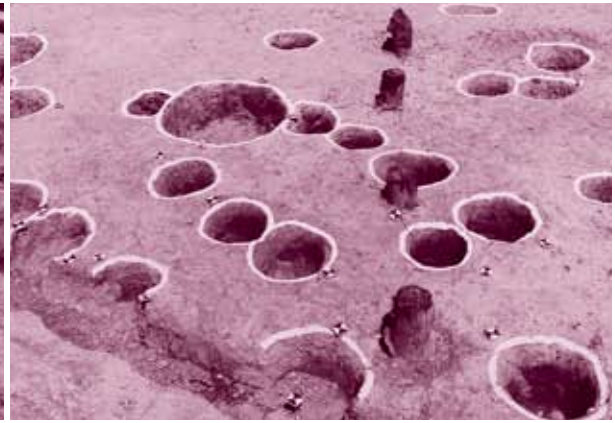
1 建物5 (西から)



2 建物5柱穴 249 土層断面 (南から)



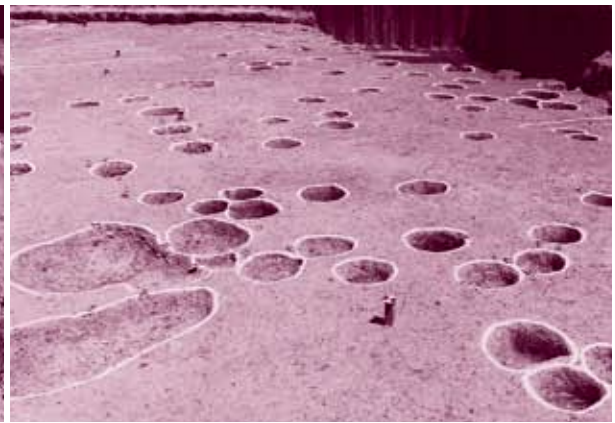
3 建物6 (南西から)



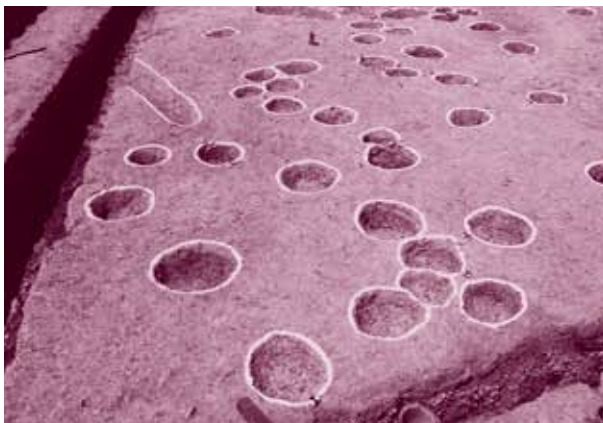
4 建物8 (西から)



5 建物9～11 (北西から)



6 建物9 (北西から)



7 建物11 (南西から)



8 建物11柱穴 309 土層断面 (東から)



1 中世下層遺構検出面北部(北東から)



2 中世下層遺構検出面南部(北東から)



3 土坑 400・410 土層断面(東から)



4 溝 399 土層断面
(上:北東から 下:東から)



1 北側自然流路（北東から）



2 北側自然流路土器出土状況（南から）



3 北側自然流路土器出土状況（北から）



4 調査区壁面土層断面（北東から）

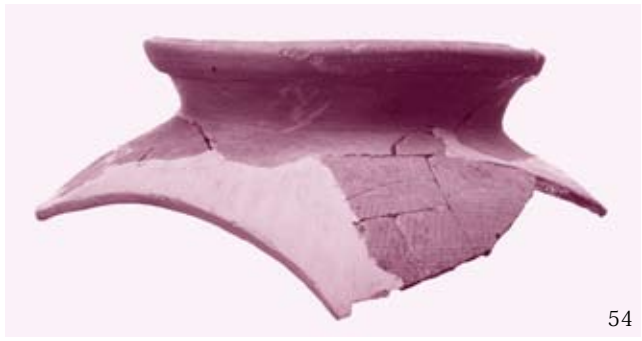


5 調査区壁面土層断面（南西から）



4

1 ピット 040 出土土器



54



39

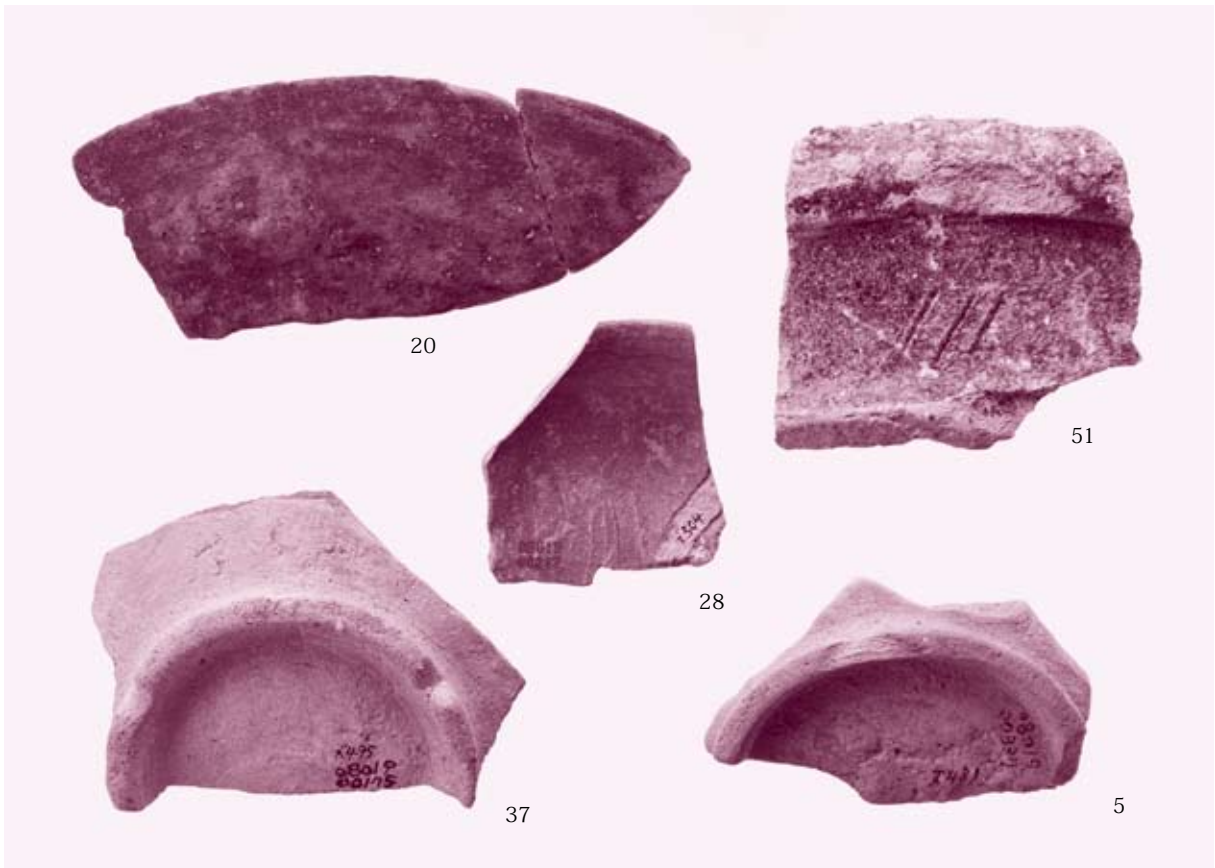


45



54

2 包含層・自然流路出土土器



20

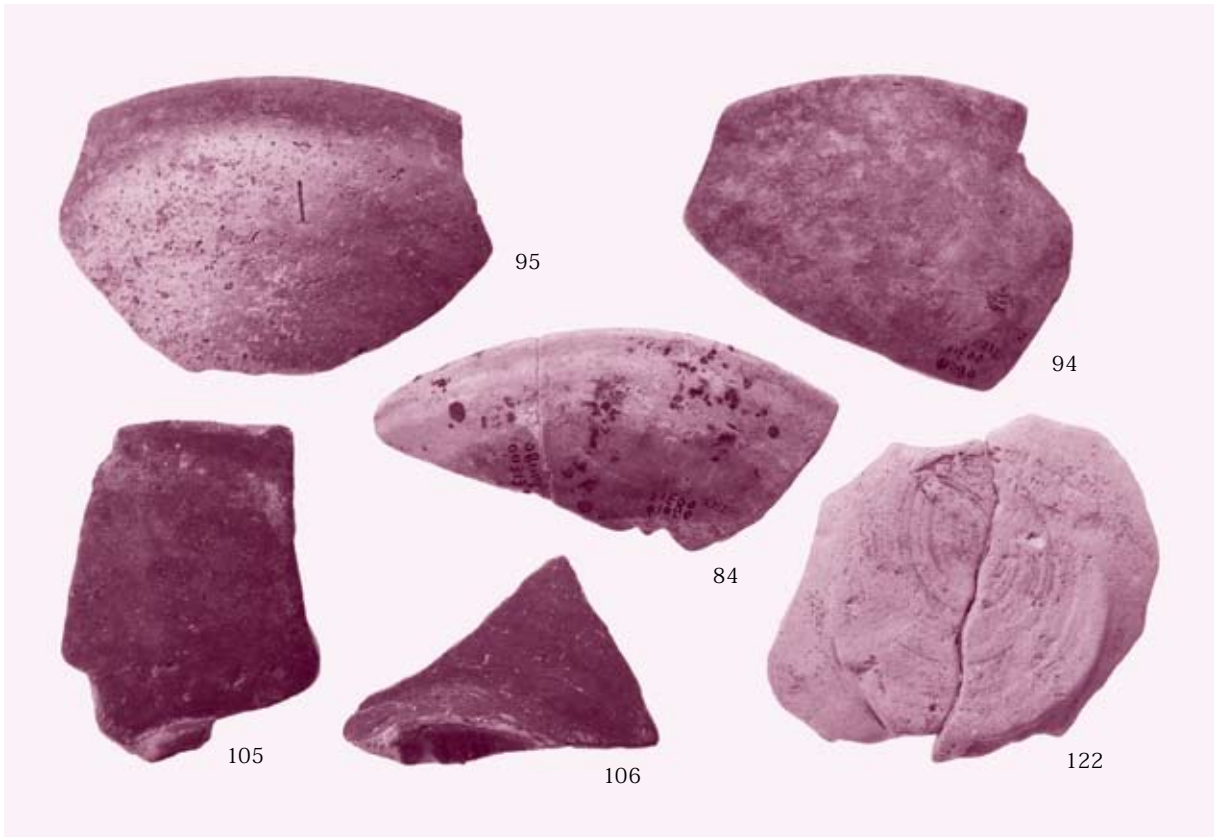
51

28

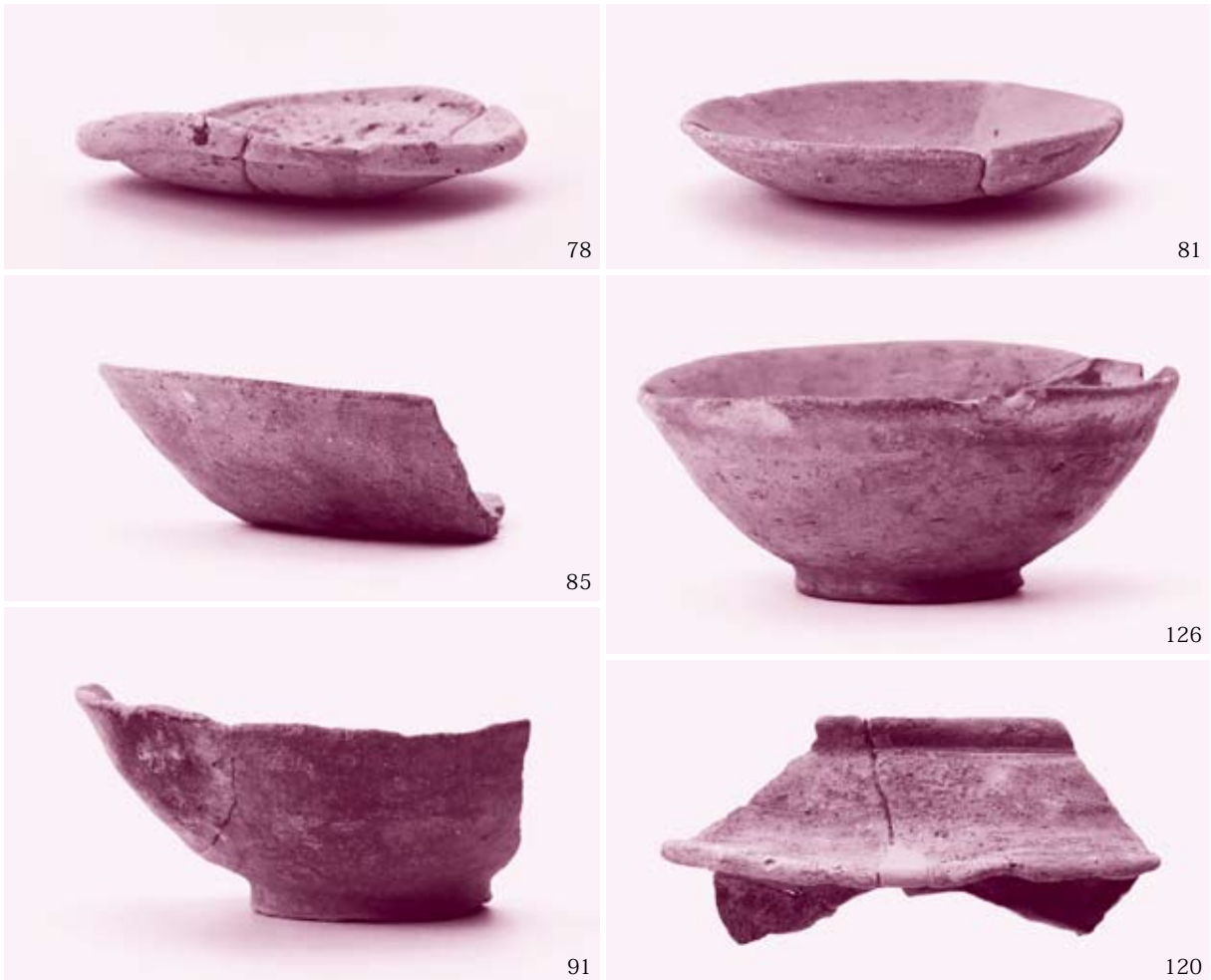
37

5

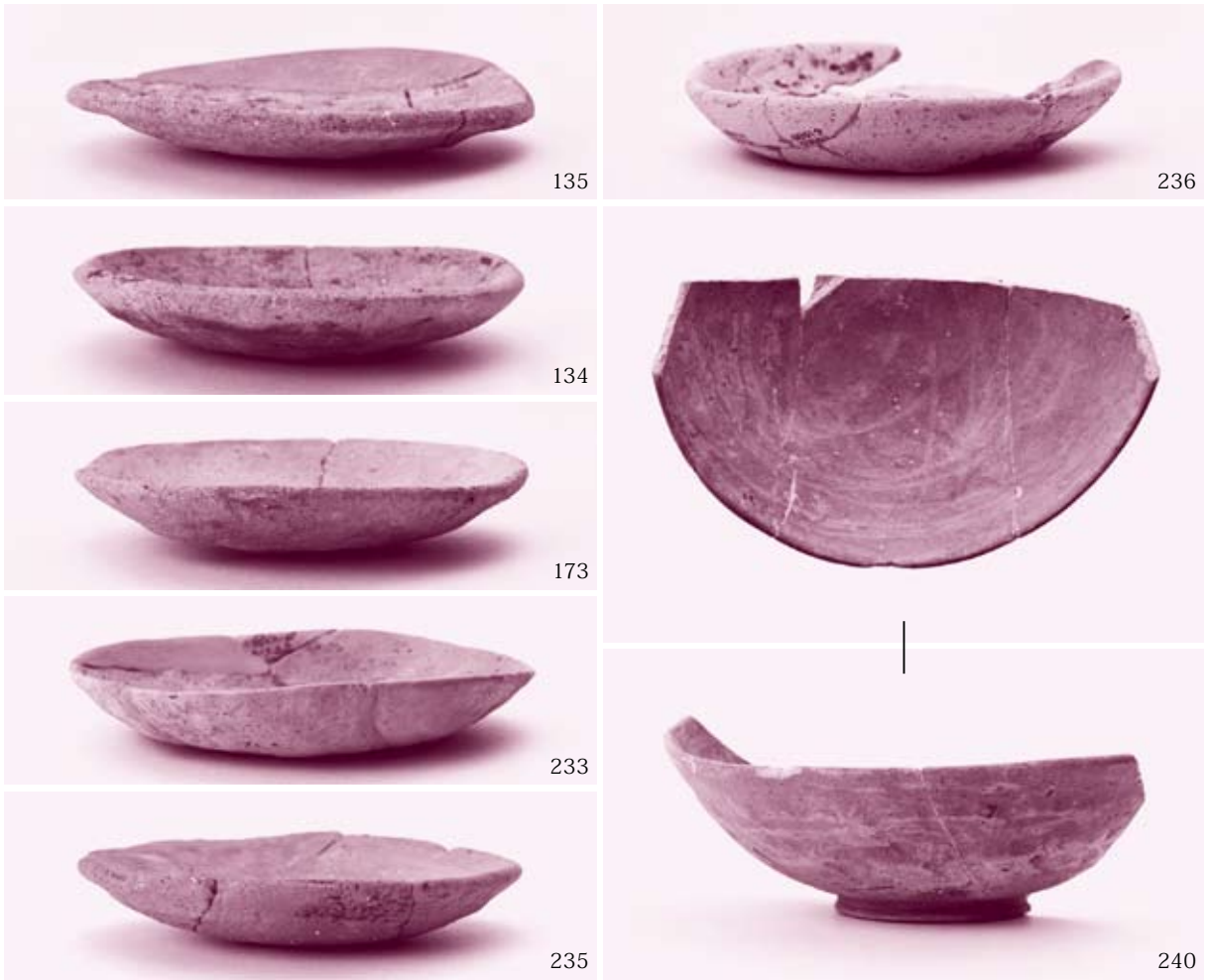
3 ピット 040・包含層・自然流路出土土器



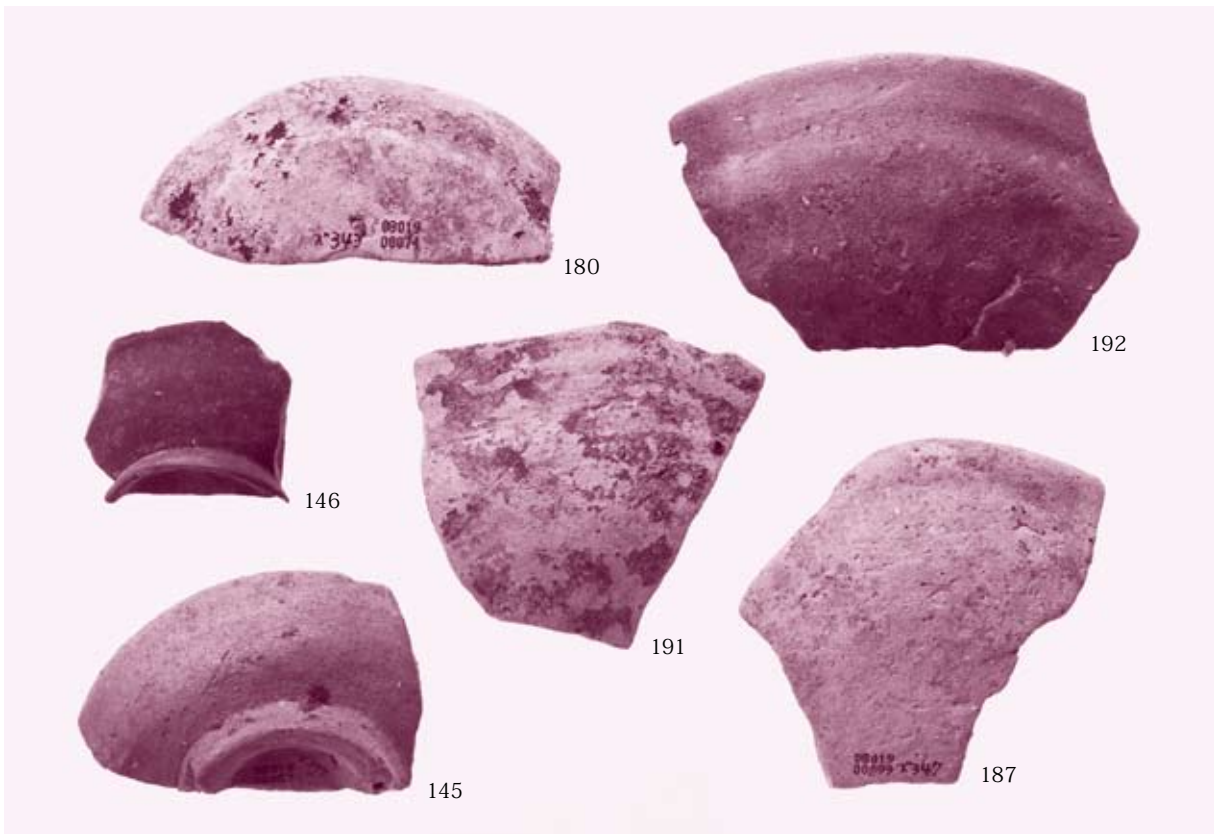
1 建物1・2出土土器



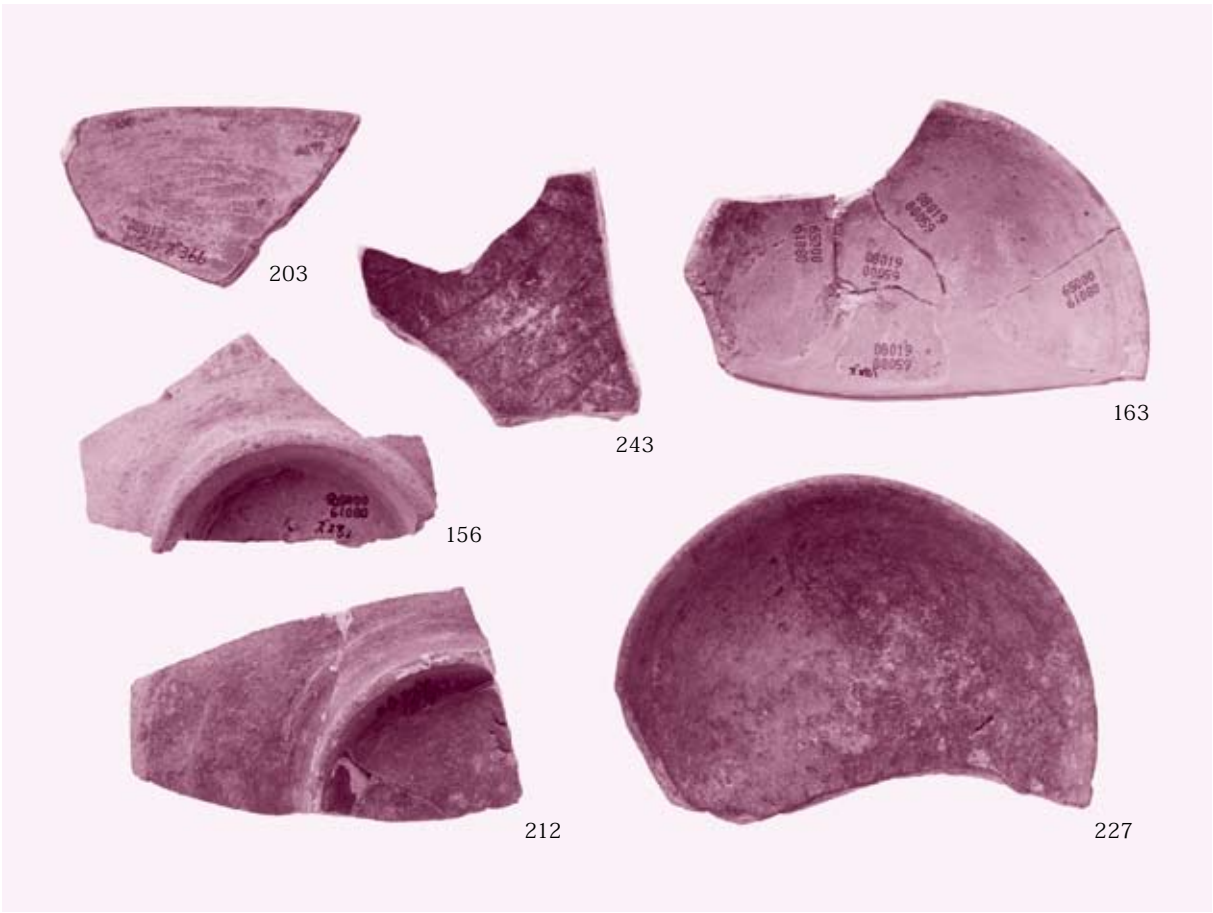
2 建物1・柱穴106出土土器



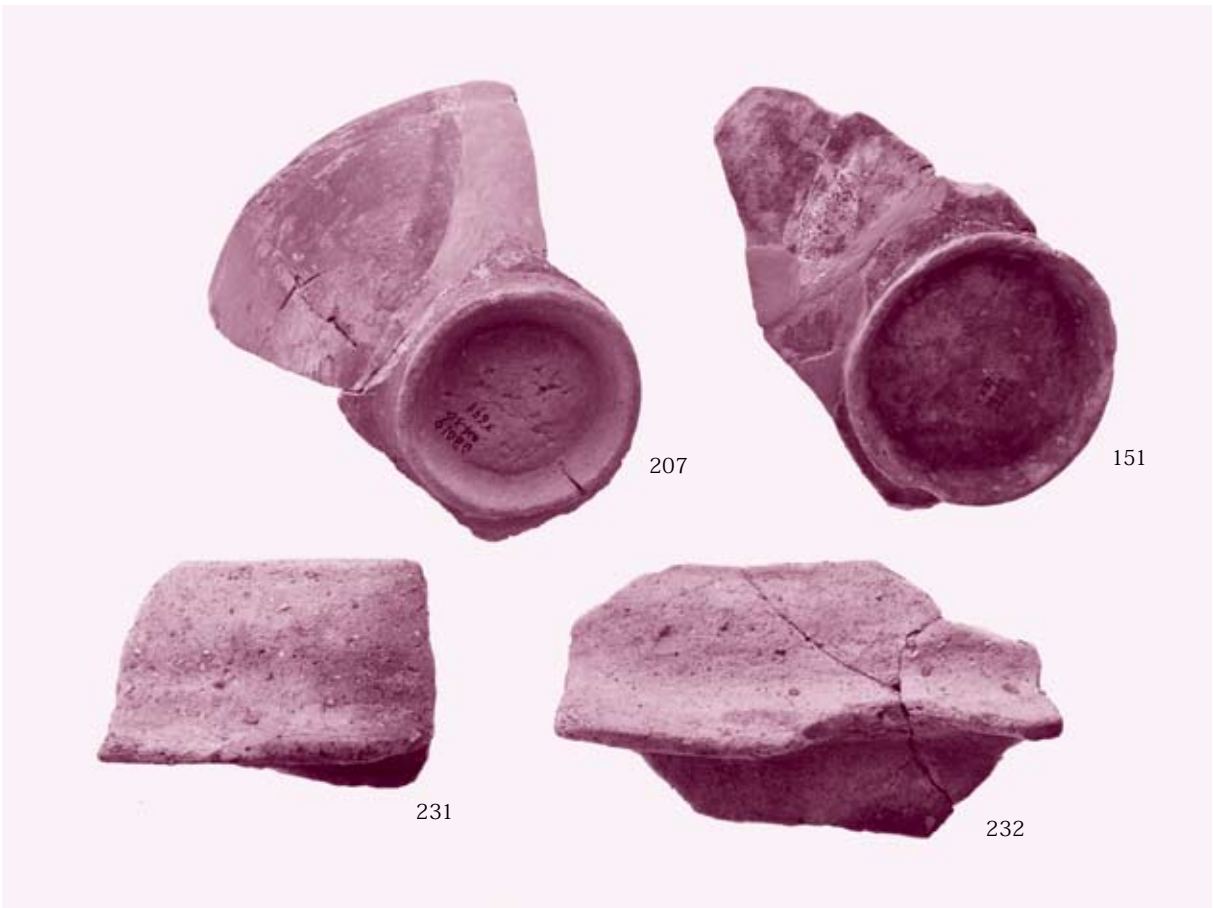
1 溝 007・027・079・099 出土土器



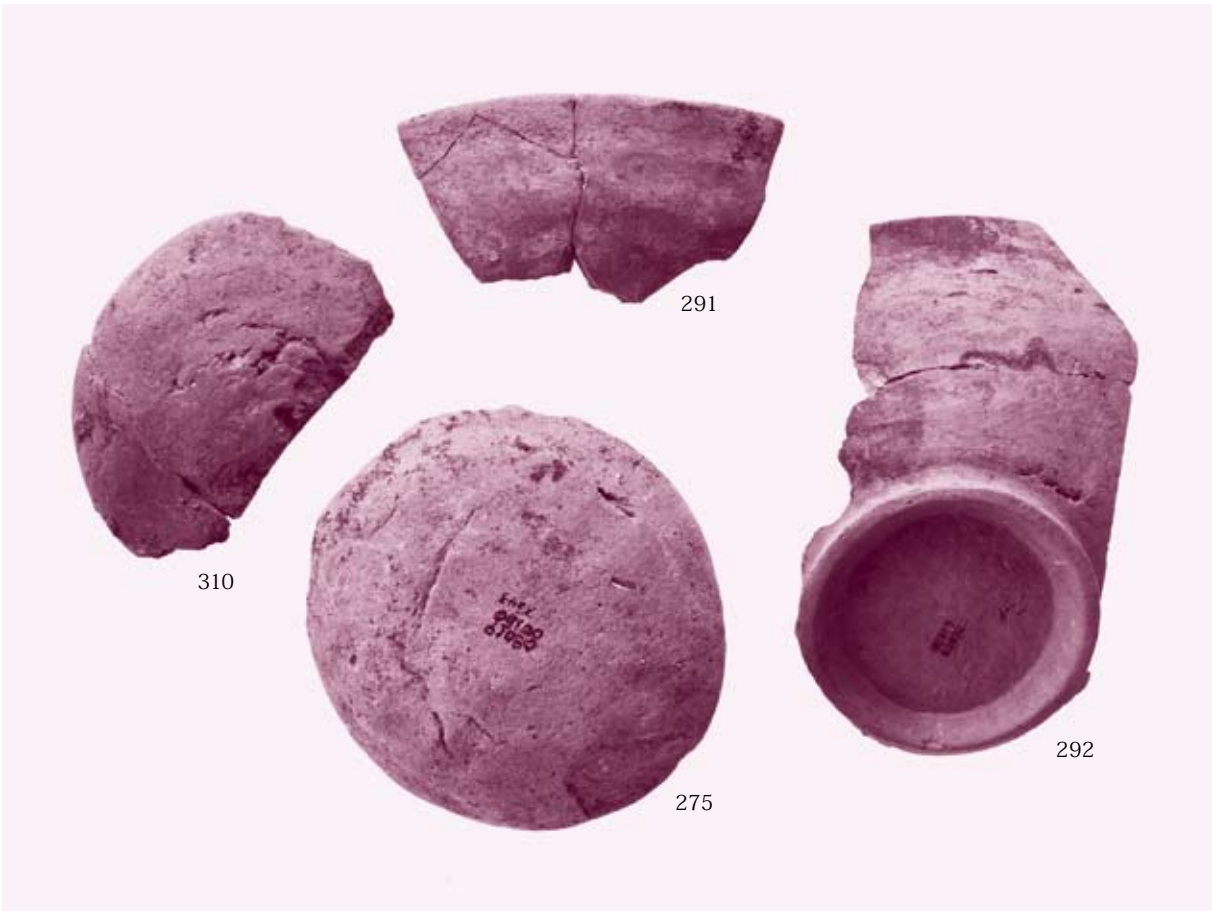
2 溝 007・027 出土土器



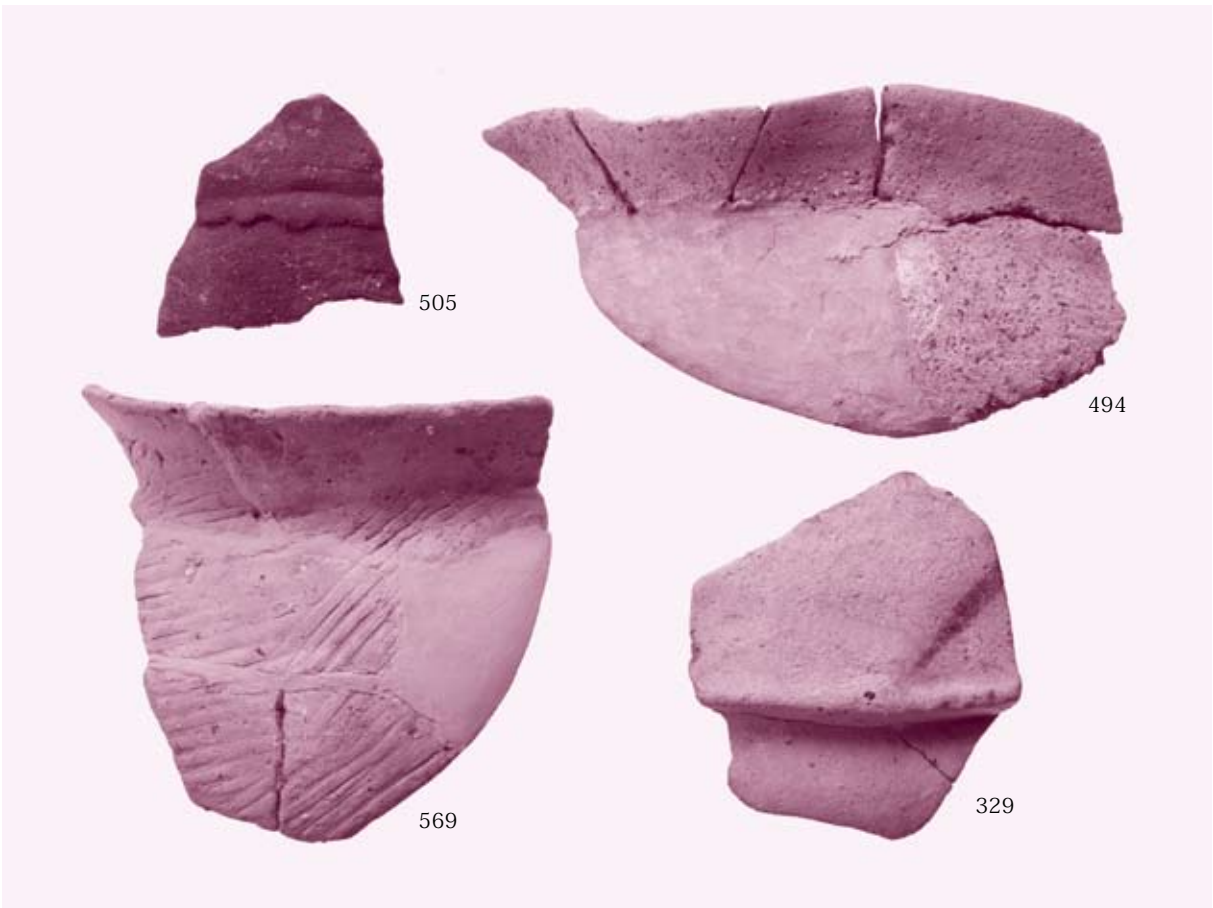
1 溝 007・027・099 出土土器



2 溝 007・027 出土土器



1 包含層出土土器



2 包含層・自然流路出土土器



336



341



338



342



339



346



340



348

自然流路出土土器

图版二四 〇八〇一九—四区出土土器



自然流路出土土器

图版三五 〇八〇一九—四区出土土器



362



363



365



370



366



372



381

自然流路出土土器

图版二六 〇八〇一九—四区出土土器



自然流路出土土器



431



432



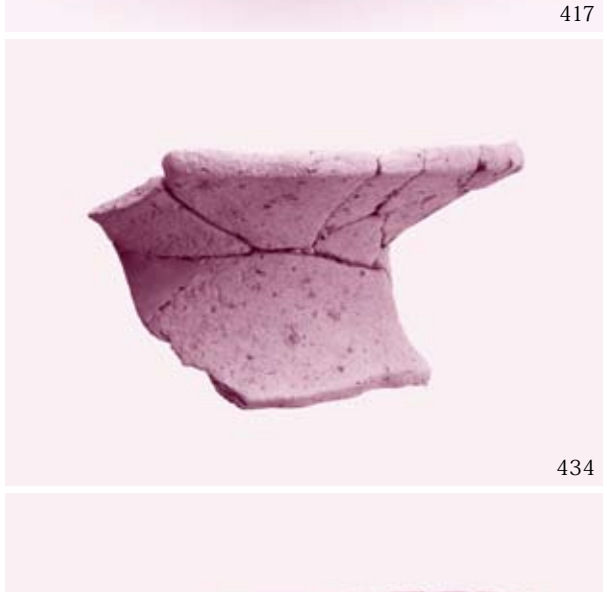
419



417



414



434



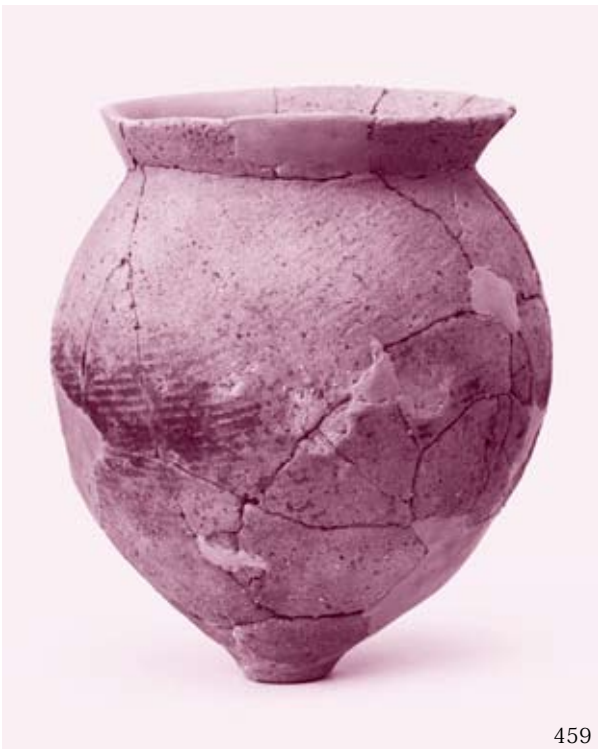
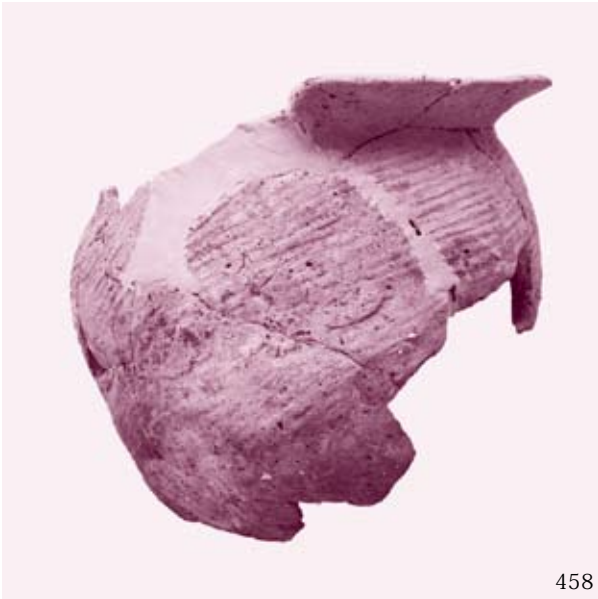
427



435

自然流路出土土器

图版二八 〇八〇一九—四区出土土器



自然流路出土土器

图版二九 〇八〇一九—四区出土土器



自然流路出土土器



508



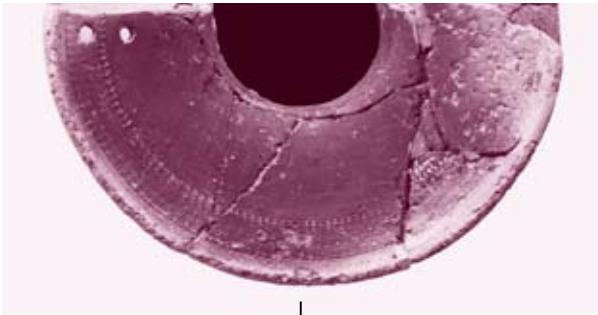
517



513



510



514



511



515



507



516



519



518



523



522

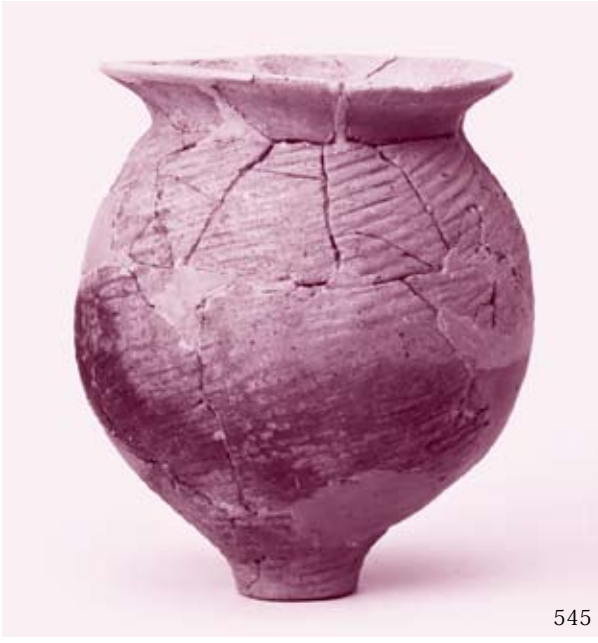
図版三一 〇八〇一九―四区出土土器



自然流路 031 土器溜まり出土土器



図版三四 〇八〇一九—四区出土土器



自然流路 031 土器溜まり出土土器





561



573



560



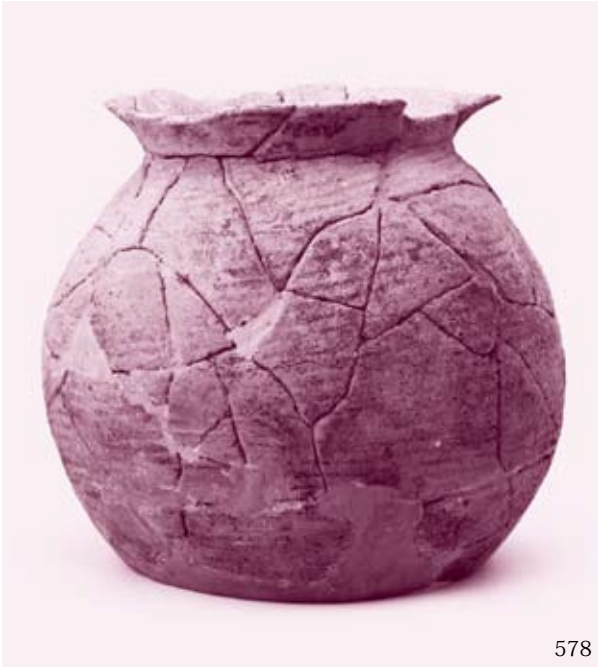
562



563



564



図版三八 〇八〇一九―四区出土土器



自然流路 031 土器溜まり出土土器







642



631



632



633



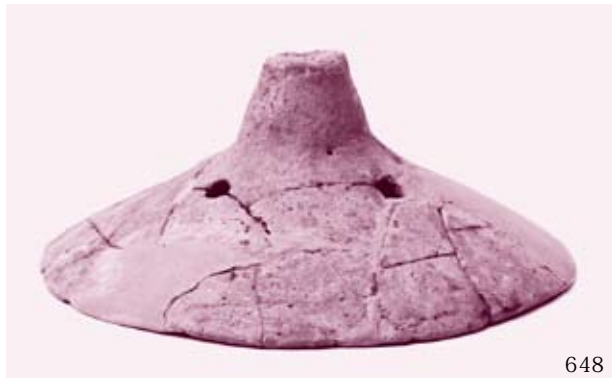
634



635



636



648



638



639



637



640



657



641



658



659

自然流路 031 土器溜まり出土土器



655



652



653



651



654



663



649



665



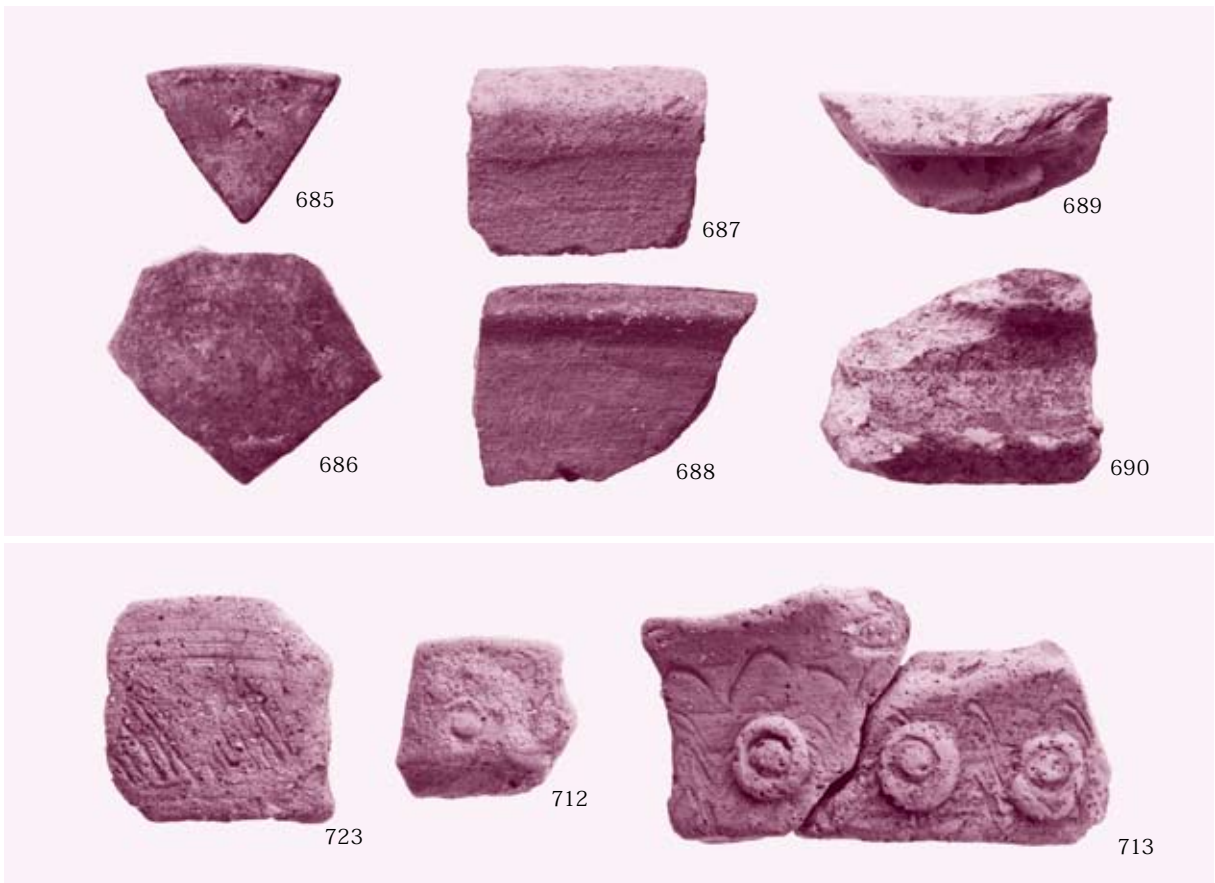
666



661



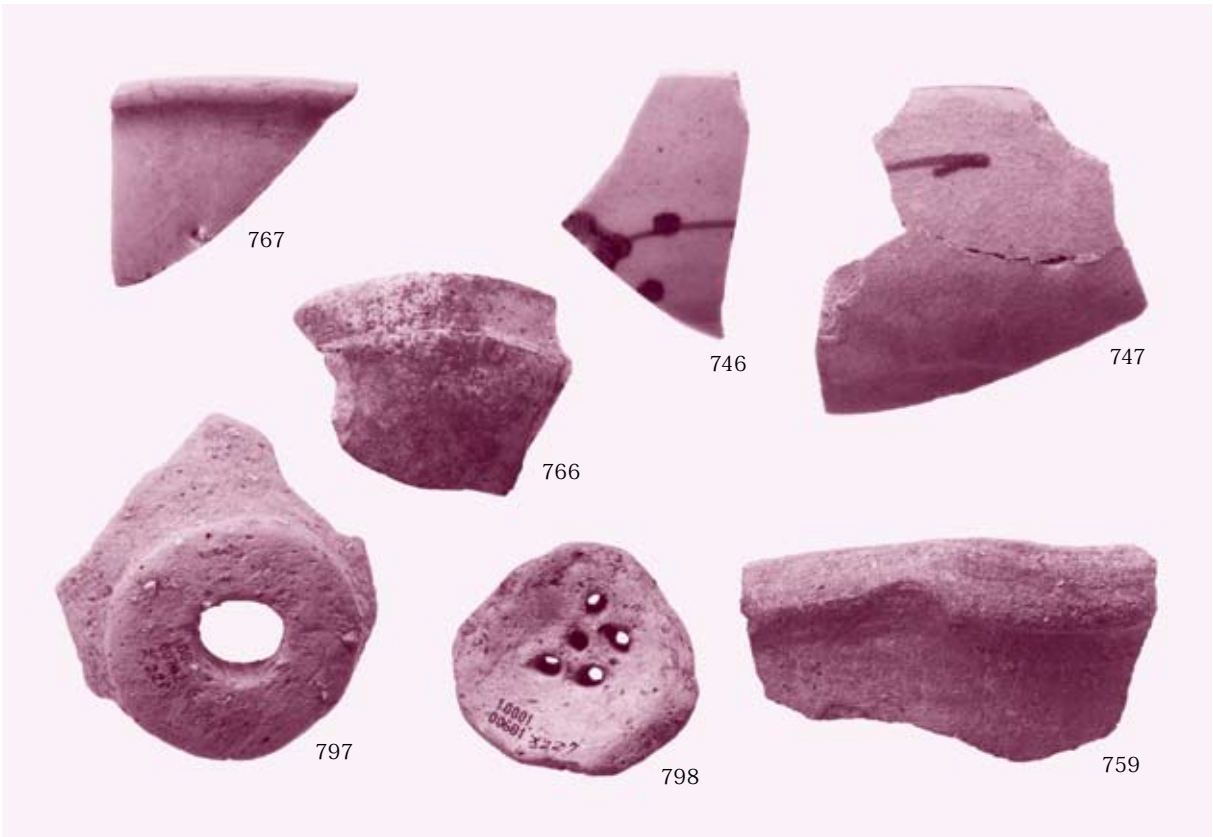
662



1 中世上層遺構檢出面遺構出土土器



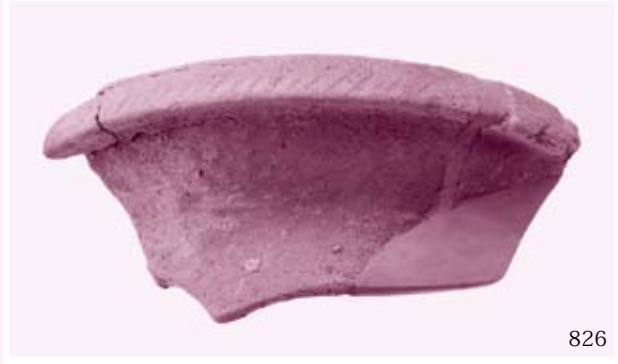
2 中世下層遺構檢出面遺構出土土器



1 包含層・南側自然流路出土土器



2 南側自然流路出土土器



北側自然流路出土土器



835



858



840



854



910

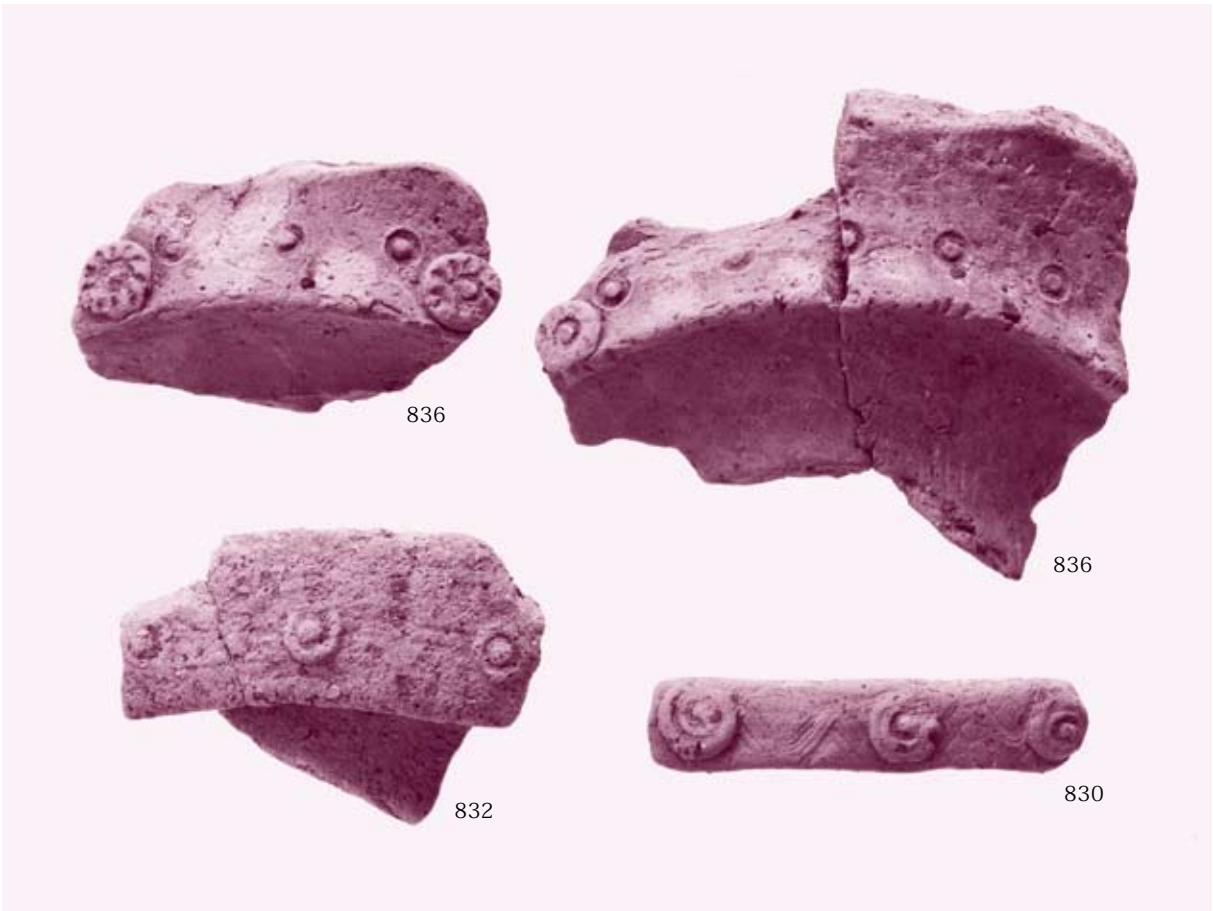


859

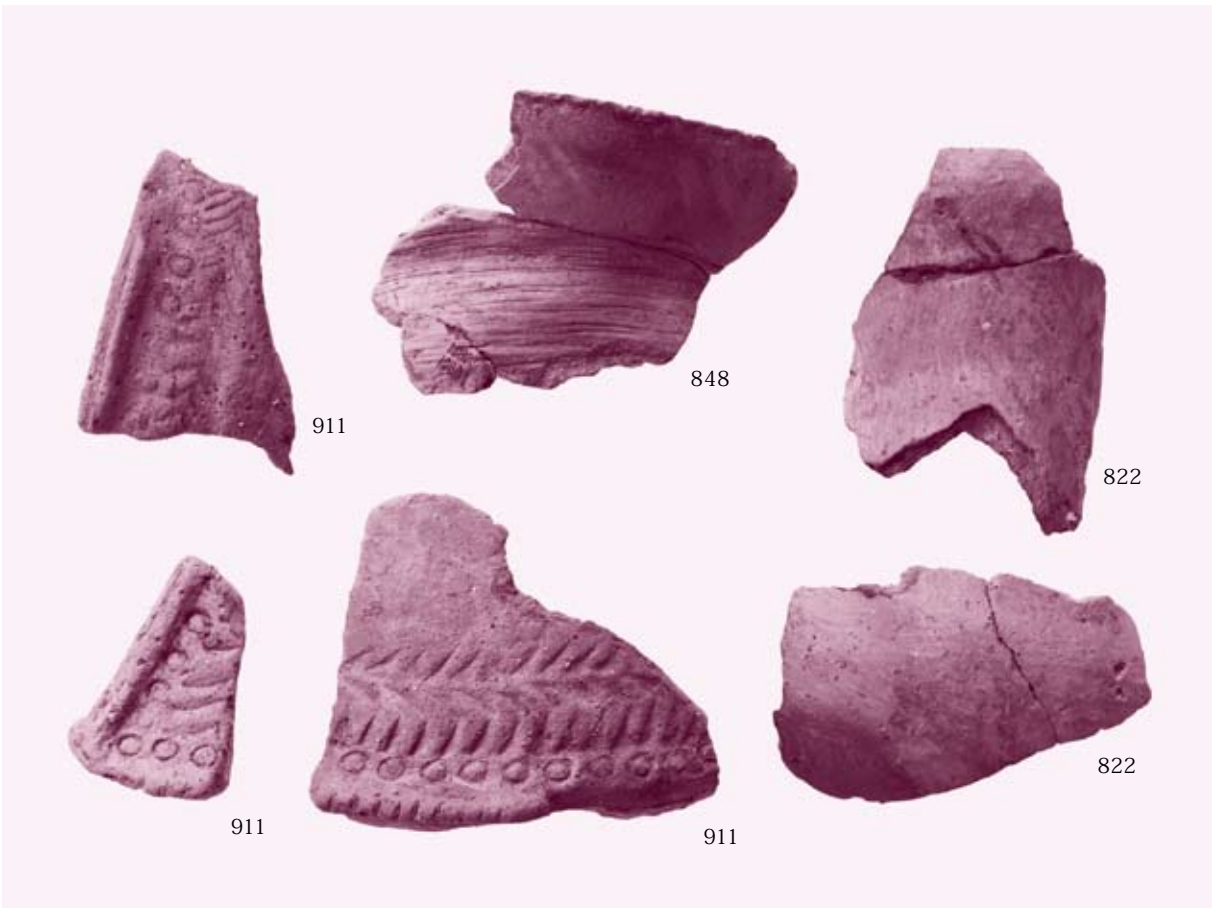
北側自然流路出土土器



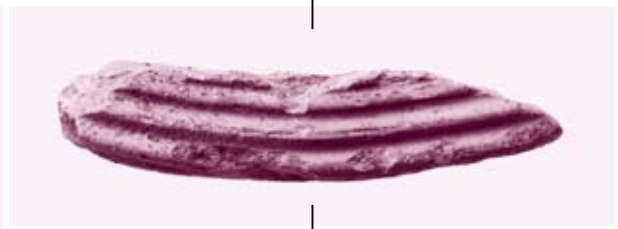
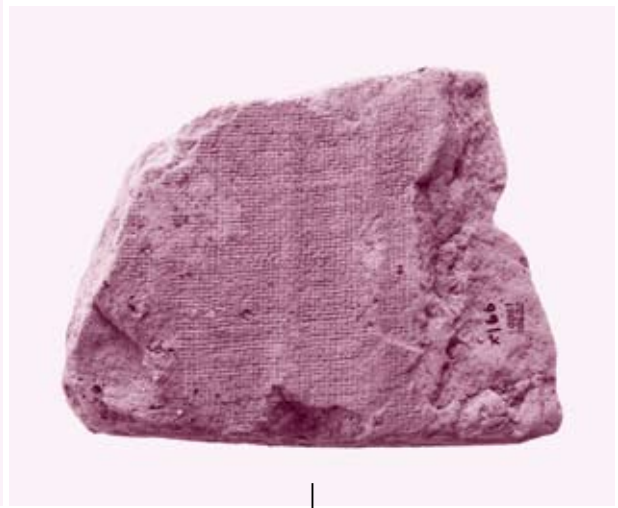
北側自然流路出土土器



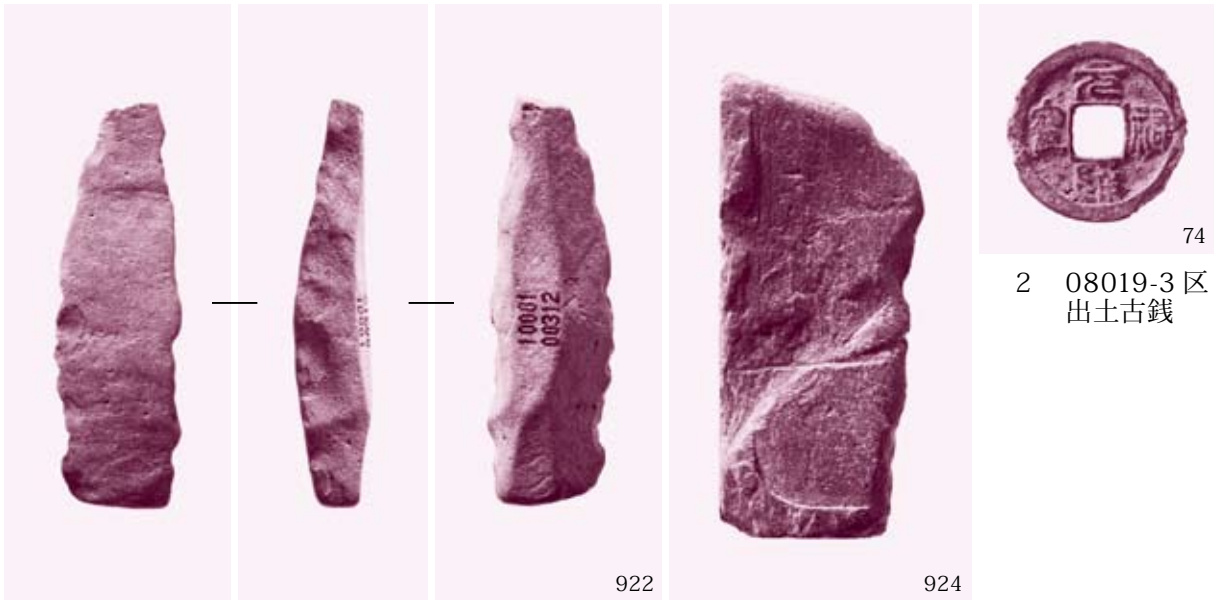
1 北側自然流路出土土器



2 北側自然流路出土土器

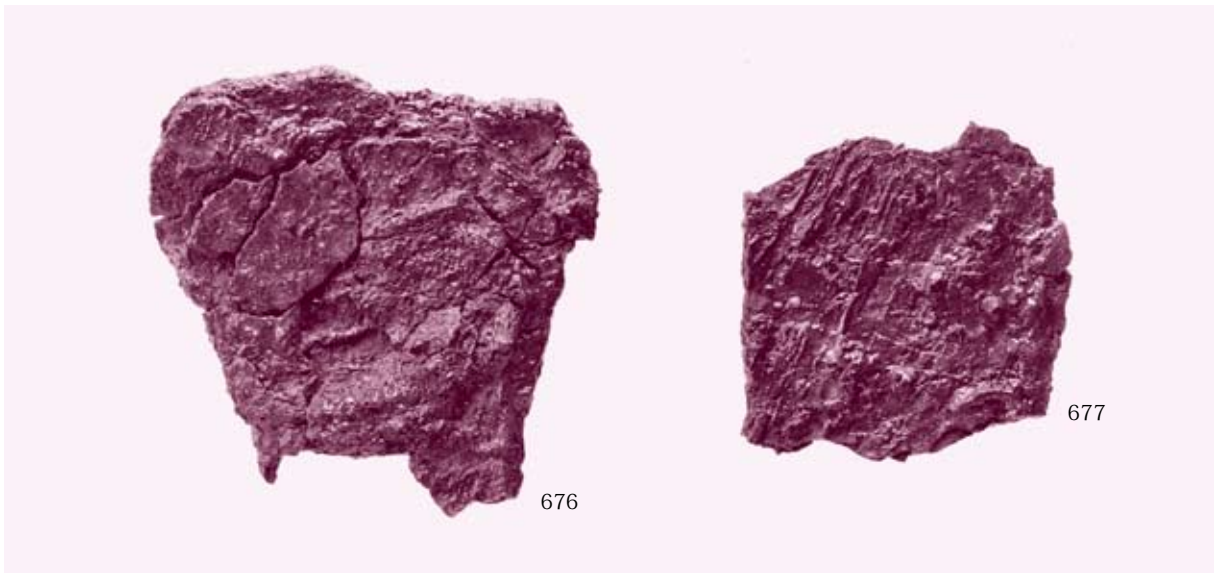


08019-1区·08019-3区·10001-3区出土瓦



74
2 08019-3区
出土古銭

922 924
1 10001-3区出土石器・石製品



676 677

3 08019-4区出土鉄鋌



4 08019-4区出土鉄鋌 X線透過写真

報告書抄録

| | |
|--------|--|
| ふりがな | いずみでらあと・ふちゅういせき |
| 書名 | 和泉寺跡・府中遺跡 |
| 副書名 | 都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業に伴う発掘調査 |
| シリーズ名 | 大阪府埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 2011-3 |
| 編著者名 | 土屋みづほ |
| 編集機関 | 大阪府教育委員会 |
| 所在地 | 〒540-8571 大阪府大阪府中央区大手前二丁目 TEL 06-6941-0351(代) |
| 発行年月日 | 2012年3月30日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 面積 (㎡) | 調査原因 |
|------------------------------------|--|-------|----------|-------------------|--------------------|--|--------------------------|----------------|
| | | 市町村 | 遺跡 番号 | | | | | |
| いずみでらあと 和泉寺跡 ふちゅういせき 府中遺跡 | いずみし 和泉市 ふちゅうちようよんちようめ 府中町四丁目 | 27219 | 35 | 34° 29′ 00″ | 135° 25′ 54″ | 20081117 ～ 20090310 20100401 ～ 20100906 | 2200 1040 | 記録 保存 調査 |
| | | | 34 | | | | | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------|-----|---------------|---------------------------------|------------------------------------|--|
| 和泉寺跡 | 社寺跡 | 奈良時代 | | 土師器、須恵器、瓦 | 自然流路から弥生時代から古墳時代の土器が多数出土し、特に庄内式併行器の土器溜まりからは、完形に近い土器が多数見つかった。 |
| 府中遺跡 | 集落跡 | 弥生時代 ～古墳時代 | 自然流路、 土器溜まり 1 | 弥生土器、土師器、 石製品、鉄製品 | |
| | | 中世 | 掘立柱建物 15、 柵 2、土坑 23、 溝 29 | 磁器、瓦質土器、 土師質土器、瓦器、 須恵器、土師器、瓦 | |

| | |
|----|--|
| 要約 | <p>和泉寺跡は、瓦の出土や周辺の地割から古代寺院跡と推定されてきた遺跡であるが、これまで調査はあまりなされておらず、詳細は不明である。今回の調査地点は推定寺域外であり、寺院に関わる遺構の検出はなかったものの、瓦の出土から、寺院の存在を裏付けることができた。</p> <p>府中遺跡は広範囲にわたる遺跡で、これまで多数の調査が行われ、縄文時代から近世にわたる遺構、遺物が確認されてきた。今回の調査地点は遺跡範囲の東端にあたり、既往調査事例の少ない箇所である。中世の掘立柱建物や耕作溝を検出し、調査地全域が居住域や生産域として利用されていたこと、時期により土地利用のあり方が変化することが明らかとなった。また、自然流路から多数の弥生時代から古墳時代の土器が出土したことから、住居跡等の検出はないものの、周辺に居住域の存在を推定できることとなった。</p> |
|----|--|

大阪府埋蔵文化財調査報告 2011-3

和泉寺跡・府中遺跡

—都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業に伴う発掘調査—

発行 大阪府教育委員会
〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目
TEL 06 - 6941 - 0351 (代表)

発行日 平成24年3月30日

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号